收容書目

- 賀島兵介言上書
- 桂川答問書
- 蘆野東山上書
- 大山重遠筆記
- 經濟放言
- 燓理談
- 談五行
- 志學問答
- 廣惠編像解
- 東潛夫論
- 西藩田租考
- 眞壁義倉條約
- 經濟五策
- 濟販略記
- 井田說
- 食貨辨

日本經濟叢書

卷二十六

日本經濟叢書刊行會

日本經濟叢書卷二十六目次

目次終

解題

言上書

本書は著者が、其の國君、對州侯へ上りたる意見書にして、同藩の財政經濟に關する事を、最も詳かに批評し、就中時の執政が、忠義を名とし、お爲めごかしに、種々惡辣なる政治を施し、却て國君の損毛を招き、兼又一般臣民の爲めにも尠なからざる迷惑を、仕出來かしたる實例を列擧して、少しも忌諱する所なく論述したるは頗る痛快の極なりと云ふべし、例へば海水に浸りたる朝鮮米の、所謂「ぬれ米」なるものを、商人に押し賣りして、彼等に非常の迷惑をかけ、支那の漂流船にある貨物を、漂流人の弱みに乘じて、無理に安買し、遂に彼等の怨聲の爲めに、國君の大耻辱を招き、城内に野菜を作りて、之を收獲し、又一般に之を作らして地子金を徵集し、國君自ら漁獵に赴

桂川答問書

本書も亦前記賀島恕軒の言上書と同じく、對州藩の政治經濟問題、十六箇條を、問答體に論評し、別に又拾選として、有司同僚などに與へたる書翰十數通を蒐集したるものなり、書中對州に於ては、寛文年間百姓の私田を悉皆官へ取上げ、更らに各戸へ平均に分配したる事を記し、「以前ハ御國モ他國ノゴトク、田地ハ百姓ノ物ニテ、富民ハ幾人分ノ地モ買併セ、貧民ハ富民ニ役セラレ候テ、貧民多ク成行ニ付、不レ殘民ノ地ヲ上ニ被レ成ニ御取揚一下民ニ平等ニ被レ成ニ分給一候ヨリ、以來只今ノ如ク、地ハ上ノ地ト成、民ハ上ノ地ヲ請持作リ候形ニテ、周禮ノ井田同樣、他國ニ並ビ無レ之良法ニ御座候」云々と記したるが如きは、最も注目すべき所なり、編者の聞く所に依れば、漢儒の所謂井田法又は唐代幷に我が王朝時代に行はれたる班田法の如きものを、德川時代に實行を試みたる者は、水戸の國祖源賴房を始め、備前の新太郎少將など最

も著明にして、其外勢州又は肥前など諸方に於て、頻りに實行したる事ありしも、概ね皆狡猾なる姦民の乘ずる所となりて、非常の大害を招きたる由なれども、特り對州に在りては、寛文以來、整然として、分田の實を擧げ、百姓は各、田畝五反步、山林三町宛を分借するの制にして、此の良法は、明治の初年に至るまで、其の大體に於て仕法を紊さず維持し來りたるは、大に注目に値ひする事實なるべし、恕軒の言上書には、大浦權太夫を以て功利を事とする小人として、大に非斥しあるが如くなるも、此の分田の事を計畫したる大人物は即ち權太夫其人なれば、經濟史を研究する者は、素より此邊の事に大に考量を要する所ならん、本書はそれより又植林の事、民戸の事、貧民救濟の事等に論及し、最後に朝鮮に對する交易及び防備の事を論述して、答問書の本篇を終り、拾選の書翰に於ては、尙ほ詳かに政治經濟上の意見を縷述し、書中大に見るべきものなきにあらざるなり

著者松浦暢守、初めの名は守保、平藏と稱せり、後ち國君より名を暢守と賜

ひ、彈正と稱し、桂川と號す、藩の文學雨森芳洲の次子、龍岡の子なり、寶曆四年、從兄雨森涓庵に從て、江戸に遊學し、幾もなく辭して京師に來り、嵯峨天龍寺に入りて、五山文學に學ぶ、居ること數年、業成りて對馬に歸り、涓庵の後を嗣ぎ、雨森平藏と稱して、始めて仕途に就く、明和二年、朝鮮釜山港に赴き、通信貿易事務を董督す、同三年松浦家を再興し、二百石を賜はり、越えて五年遂に藩老となり、國政に與る、後ち藩主の叔父義蕃の旨に忤ひて、獄中に繫がるゝこと、殆んど二十年に及び、僅に五山以酊菴長老の懇請に依つて、一死を免かれ、仁田鄉の山中に放たる、幕府暢守の忠節と、其の有爲の才幹を嘉みし、內命を對馬に傳へて、復職せしめんとす、暢守謫所に在つて、竊かに之を聞き、曰く、萬一此事あらば、我更らに身を棄て、家を顧みずして、其の事に當るべしと、復職の命未だ到らずして、不幸病歿す、憐むべき哉、時に寬政四年十月なり、年五十六、暢守曾て嵯峨に在る時、常に桂川の淸流に臨み、自ら云つて曰く、此の水、我が心膓の汚濁を洗滌するに

足ると、依つて自ら號して桂川と云ふ、著す所は本書の外「楚江雨」「學則辨」其の他數種あり

上書

本書は農は國の本なれば、大に之を奬勵し、荒地を起し、開墾を盛にすべき事より、漆木及桑樹の仕立方等を論述し、又米價調節の必要を說き、國產を振興せざる可からざる事を主張し、借金の害、義倉の利益などを、詳かに陳述して、仙臺侯へ上りたるものゝ如し

著者蘆野東山は仙臺藩の大儒にして、名は德林、字は茂仲、東山は其の號なり、少くして藩の老儒田邊整齋に就きて、洛閩の學を修め、年二十一、京師に出でて、三宅尙齋の門に入り、益研鑽して經學の深奧を極め、且つ刑律の學に長ぜり、安永五年歲八十一にして歿す、著す所は本書及有名なる「無刑錄」十八卷（德川時代に於ける、法律書の主要なるものにて、明治十年元老院

に於て、之を出板せり）の外「玩易齋日記」六卷及門人の編纂せる「東山實記」等あり

（注意）本書は蘆野東山の上書として傳寫せられ、現に編者收藏の原本は、同人の二女娓・姝（長女娓は第十一卷に收容せる貨殖論の著者、畑中太仲の妻なり）が、父東山の幽閉を許されん事を乞へる歎願書と、與に一册に綴り込みあれども、本上書の末文には、草野之外臣云々の言あり、聊か疑はしき廉なきにあらざるも、東山の先は、武藏の岩淵に出でたるを以て、舊岩淵氏を稱し、後ち奧州の葛西氏に仕へ、其後又野州蘆野に居住したるを以て、蘆野氏を稱したるなり、東山が仙臺に至りたるは、十五歳の時にて、それより僅か五六年を經て、又京都へ遊學したる等の事あれば、此の上書を上りたる時は、未だ仙臺の臣籍には無かりしものなる乎、暫らく記して、再調を待つ

大山重憲筆記

本書は四民の本分を說き、諸士は其の知行所に土着するの必要を述べ、又同時に兵制などを論じたるものにして、其の大體は國家の先務として、武備頽敗、田法廢亂、法令弛解、財用不足の四箇條を擧げて、之を詳論したり、書中嶄新奇警の說なしと雖も、田法の廢亂を述ぶるの條に於て、富民の田は、賦斂輕く、貧民の田は賦斂重き所以を、圖に據つて說明したるなど、一讀の價値なきにあらず

著者大山重憲は、其の傳を詳にせざれども、書中の記事に因て、之を推測すれば、仙臺藩の人にあらざるかと思はる、而して本書は當局へ差出したる、意見書の稿本なるが如し

經濟放言

本書は「賚說」と「經濟總論」の二篇より成れるものにして、「賚說」は先づ初めに家屋・道路・橋梁などの築造は、西洋に倣ひて、石材又は鐵材を用ゐ、諸

器物も、亦金銀銅を用ゐるの利益なる事を說き、それより新井白石の說を丸抜きにして、金銀銅の外國に入りし額の、夥だしきを慨嘆し、(原本數字には所々誤謬あり)次ぎて西洋の地理・國狀の大要を記して、彼等の富裕なるは、全く海外交易を最第一の國務とするが爲めなりと喝破し、進んで我國に於ても、士農工商の別なく、盛に島さがしに出掛け、蝦夷諸島は勿論、カムサスカの大陸まで、撫育交易して、悉皆日本の屬地と爲すべしと論じ、最後に復た自國を、豐饒の富國となさんには、外國より金銀銅を取込むの外に道なきも、之を爲すには他國と交易を爲すの外に道なし、交易には、自然產物を以て交易すると、人巧產物を以て交易するの、區別ある事に論及し、自然產物の交易には、左まで利益なく、專ら主として、人巧產物の交易を爲すの必要を主張したるは、今日の言語を以て解釋すれば、未製品の輸出よりは、製造品の輸出を、盛大にすべしと云ふの主意に外ならずして、著者の着眼高く、一頭地を抜けること、實に此の點に在りと云はざる可らず、「經濟總論」は熊

澤蕃山・荻生徂徠二人の說に、不備缺點ある事を指摘し、此の二人が、海外經營の意見を有せざりしは、國家を末增(永久に)に富强にするの道を知らず、首尾貫通せざる經濟說なりと、斷じたるものにして、書中「日本の土地限りの遣り繰り經濟は、大抵似た歟寄た歟迄には、仕附あれば、今更日本の土地限りの遣り繰り經濟は、迚も埒明くべきにあらず」と云つて、「賛說」の主意を繰り返へしたるものに過ぎざるも、其の中「利益に走るは、凡情の常にて、則國力を扶る密策に協ふ」と云ひ、又「古國と親染ば損失あり、新國と親染ば利益あり」と云ふが如きは、最も適切の警語にして、海外發展に志す者の、常に服膺すべき所ならん、但著者が古國と云ひ新國と云ふは、彼我國交の新舊を指したるにあらず、開けて進んだる國と、幼稚未開の國とを指したるものにして、其の所謂新國なるものは、後者を云へるものに外ならずと心得ざる可らず、我國維新以來對外貿易の損失は、全く國民が此の警語に背きたるの過ちにあらざる歟

(注意)本書は著者自ら如上の二篇を合し、一つの成書となして、「經濟放言」と題名し居たるものなるか、將又後人が勝手に之を合して、斯る題名を附して傳寫したるものなるか、其邊は明白ならず、著者本多利明の研究者として、有名なる法學士本庄榮治郎氏が、「經濟論叢第一卷第四號に掲げられたる「本多利明ノ著書ニ就テ」と題する、頗る精細なる報告に據れば、原本二卷なりしを、合して一本としたるは、明かに後人の所爲なるが如くなるも、原本は、一書二卷に分ちありしか、又は全然別書なりしものなるか分明ならず、兎に角本書は、本庄氏の發見せられたる大藏省本を底本としたるものなれば、原寫本のまゝ「經濟放言」の題名を存したるなり

著者本多利明の略傳は、本叢書第十二卷「經世祕策」の下にあり

燮理談

本書は宰相の職、陰陽を燮理するに在りと云ふ言に基きて、執政有司の心得

べきことを、平易に講述したるものなり、著者は冒頭に於て「此篇ヲ燮理談ト命ルモ、宰相執政ナドニ、心得ニナルベキコトヲ、書聚タル故ニ名ヅケタルニ非ズ、……左レドモ長キ議論ノ中ノコトナレバ、宰相執政ナドノ、萬分ノ一モ、心得ノ助ニナルコトヲ、云當タルコトアルカモ知レヌ」云々と、半ば忌避し、半ば謙退して、斷わりを述べ居れども、其の主意の在る所は、專ら主として、國政を論評するに外ならざるは、問はずして明白なり、さて本書は著者の「經濟談」の他の諸篇と同じく、著者獨得の論法を以て、滔々と時弊を指摘し、讀み來り讀み去りて、頗ぶる痛快を覺ゆ、殊に書中引證の事實は、皆奇警にして、而かも適切なるもの多く、一たび卷を開けば、其の讀了の速なるを恐るゝの感なくんばあらざるなり、例へば當時德川政府及諸侯の役人等が、規則先例などに拘泥して、何事も悉く杓子定木を守り、少しくも融通のきかざりし大馬鹿者なりし事を指摘し、其の例證として、左の珍事を記したり

櫻田邊ノ大諸侯辰ノ年ノ大火事ニ四方ヨリ火來テ風向至テ危シ、女中ヲバ百五六十人表長屋ノ物

見ヘ移ス、其内ニ又々火勢猛烈ニテ、物見モ危キ故女中ヲバ殘ラズ御下屋敷へ遣シタシト云、家老祐筆ヲ呼デ、夜中ニ女中ヲ御門外へ出シタル例アリヤト云、祐筆火事裝束ニテ、丁寧ニトマヒヲ打タル藏ヲ開キ、帳面ヲ出シテ探ル、其内ニ火勢甚烈ニテ、既ニ物見へ移ラントスル、奥家老ハ家老ニ催促櫛ノ齒ヲ引如シ、家老ハ祐筆ヲ大ニ叱ル、祐筆トチメケドモ、帳面多キコト故探リ出ズ、其内ニ祐筆ニ才物アリテ、左樣ニコサ〳〵探リテハ手間取コトナリ、此方樣ノ燒タル年ノ帳ヲ探ルベシト云、祐筆大ニ喜ビ、燒タル帳ヲサガセドモ、此諸侯遂ニ燒タルコトナキ屋敷ナリ、彼才子家老ノ前ニ出デ云ヨフ、此方樣ニハ燒サセラレタル御例ナシ、今ハ新例ノコトニ候へバ、何樣ニ仰付ラルヽトモ、例ノナキコト故苦シカルマジト云、家老新例ハ國ノ同役ニ相談セネバナラヌト云、祐筆云、是ハ急火ノコト故ヒラニト云、家老ニ差圖ヲスルハ、上ヲ恐レヌ過言ナリ、過言ノ者ハ逼塞仰付ラルヽコト御家ノ例ナリトテ、逼塞申付ル、彼是スル内ニ物見燒落、皆々燒死セントス、女中クルシガリテ、物見ノ窓ヲ破ントスレドモ、窓ヲ破ハ罪人ナリトテ、警固ノ者女中ノ手足ヲクヽル、女中首バカリ窓ヨリ出シテ、死スルモノ數ヲ知ラズ、此節奥方上﨟方ノ燒死多アリシト承ル云々

誠に造り事らしき話なれども、當時の役人は大概みなコンナものなりしなら

ん、又役人は右の如く杓子定木の者ばかりで一向に時勢の移行くを知らざれども世の中は段々怜悧になつて、町人などには政令少しくも行はれず、役人は只だ威張るばかりで、全く彼等に馬鹿にされつゝあつた實例として

豆腐屋豆腐ヲ高價ニウルトテ、町奉行ノ役所ヘ呼付大ニ叱レリ、江戸中ノ豆腐屋ナレバ、萬人モ二萬人モツドヒ來レリ、左レドモ豆腐屋ハ大カタ豆腐ノ直ヲ下ゲマセイト云フコトナルベシト知リ居ル故、一向ニサワギモセズ、腰掛ニテ酒ナド呑デ遊ビ居ル、扨呼出シ申渡スハ、近年豆腐直段殊ノ外高直、昔シ一チヤウニツキ二十文ニ賣タル豆腐ヲ、イカニ錢相場ヤスキトテ、五十文ヅツニ賣ハ、甚過分ノコトナリ、以來三十八文ニウリマスヨフニト申付ル、役人モ定テ豆腐屋大ゼイニテ種々ニ理屈ヲイヒ、イヤ豆ガ高イノ、薪ガ高イノト論ズルコトニアラント、隨分用心シテ申付ル、豆腐屋一統チキニ畏リ奉ルヨシ、卽豆腐一チヤウ三十八文ト申直段書ヲ家ノ前ニ張置テ賣可申ト言上ス、其翌日ヨリ豆腐一チヤウ三十八文ニ賣ダリ、此ワケハ豆腐兼テ斯アラント思ヒテ、豆腐ヲ作ル箱ヲ寸法ヲ大ニチヾメタルヲ、一ト通リヅツ所持シテ居リシナリ、翌日ヨリハ今マデノ箱ヲ止メ新箱ニテ作ル、一向サワガヌナリ、江戸ノ町ハ凡ソ一商賣ニ仲間ヲ立、時々寄合テ流行ヲ談ジ、流行ニ後レヌヨフニ相談シテ、此様ナル箱モトクニ調ヒ置タルナリ云々、其後ニ酒

屋モ呼バレタリ、酒屋ヲ呼デ書付ヲ見セラル、此書付ハ、伊丹・池田ヨリ取寄セタル樽酒ノ本直段ナリ、扨酒ハ四斗入ニテ二十樽ヲ一本トシタルモノナリ、一本ト云ハ仕込桶一ツト云コト見ユ、仕込桶一ツハ大テイ三千石ナルモノト覺ユ、四斗入二十ハ仕込桶一本ニテハナケレドモ、コレハ名ト見ユルナリ、扨ドウ云フコトカ知ラネドモ、伊丹・池田ノ酒ニ一本二十兩ト云酒ナシ、コレハ古ヨリ公儀ノ御定直段トデモイフモノアリテ、極リテ居ルト見ユルナリ、ドノ印モマタ一本ニ付十九兩十何匁何分ト云モノナリ、左スレバ四斗ニテ六匁ト云酒ハナシ、ソノ酒ヲ江戸ニテハ劍菱・男山・陶山・山々・滿願寺杯ト云銘酒等級何階モアリテ、上品ハ一樽ニテ二兩三歩、三兩ナド、商フ故ニ、役人大ニ怒テ如レ此ノ本直段ナルニ、ナゼニ高價ニ賣タルゾ、以來ハ樽ノ代五匁ヲ一升ニカケテ、一樽ニ付五匁ヅヽノ利分ヲ以、船運賃イカホド取テ商フベシト云、是モ酒屋ハ受マヒ……早速ニ畏リ奉ル、翌日ヨリ右ノ割ヲ以テ賣ル、印ハイカニモ其印ナレドモ、酒ハ水半分ホド入テアルナリ、買手コヾトヲイヒテモ、此酒ナラデハゴザラヌト云ヲ、尤仲間一統其以前ヨリ申合テ置タレバ、ドコヘ取ニヤリテモ水酒バカリナリ、好酒ヲ飲ツケタル男大ニ困シミ、自身ニ酒屋ヘ行極内々賴ミ、以前ノ酒ヲ内々ニテ賣テモロフ、酒屋モフシヤウ〳〵ニコヾトヲ云ナガラウルナリ、買手ハ手ヲツキ恭敬シテ願ヒ、漸々カフ、酒ノ直ハ内證モノ故、前ヨリハタント高シ、ヤスケレバ賣ヌ故何トモイハレズ、大ニ高ク買取ナリ云々

現今尚ほ往々、斯くの如き事實の乏しからざるに想到すれば、竊に噴飯に禁へざるなり

本書は本叢書第十八卷に記したるが如く、海保青陵「經濟談」中の一篇にして、曩に第十八卷發行の際には、百方之を搜索したるも、遂に何くにも存在する事を聞かざりしかば、編者は遺憾ながら、既に亡佚して、人間に傳はらざるものと思惟し居たるに、何ぞ圖らん、曩日本會員宮崎幸麿氏が、偶然之を發見せられて、此に收容する機會を得たるは、編者の大に滿足する所なり、此にその由を附記して、宮崎氏に謝す

談五行

本書は一編の漢文にして、支那經濟說の根本思想なる、五行の事を論述するものなり、今日吾人の所謂經濟學說には、殆んど沒交涉の文字なる如しと雖

も、其實漢儒の經濟思想は、皆この五行に基かずんばあらず、故に序を以て此に之を收容せり、蓋し本書は著者の「經濟談」の一部分を形成するものに非ざるべきも、前きに收容せる「洪範談」と併せ見て、多少裨益する所なきに非らず

志學問答

本書は専ら學問を爲す者の、心得方を說示したるものなれども、其の冒頭に於て、文武忠孝政教之基、稼穡蠶桑經濟之要と題し、學者は文武を勵み忠孝を志し、稼穡を務め蠶桑を事とせざる可らざることを述べ、或は詩經尙書洪範周官等の文字を引用し、或は我國古今の歷史に徵し、神祖幷に歷代の聖主が、稼穡を勸められたる事例を擧げて、政教經濟の要道を、問答體に詳論したるものなり

著者遠藤泰通、字は士同、通稱は勝助、古愚・鶴州・義齋・白鶴齋等の號あり、其の先泰春は三河の人なり、紀州德川氏の祖、南龍公に仕へて、世々南藩の世臣

たり(大日本教育史資料に豐岡藩士とあるは誤なるべし)泰通は儒學を善くし、兼て武技に達し、田宮流の劍道に長ぜり、平生文武兼備の要を說き、平山行藏・高野長英・渡邊華山等、みな莫逆の友たり、藤田東湖壯年の時、亦泰通の家塾にあり、客の取次、酒のかんの番役を勤めたる事あり、當時泰通の名、遠近に震ひ、諸侯之を聘して、經世談を聞ける者多しと云ふ、嘉永四年江戶に歿す、年六十三、著す所は、本書及下記廣惠編像解の外、救荒便覽・先憂秘策・乞言私記・昭代美事・忠姦圖說・文武兼濟錄、其他數種あり

廣惠編像解

本書の原本は、淸の朱軾(可亭と號す)と云へる人が、康熙六十年、晋の地方大饑饉にて、未曾有の慘狀を極めたる時、政府の命に依り、賑濟官となり、往きて晋民を救濟するに當り、古への志士仁人が、民を愛し人を救へる、善

行を記したる文章、又は此等救濟問題に關する、先賢の論說等を、蒐集編纂して、「廣惠編」と題し、之を各地方の富豪に配布して、賑恤の必要を說き、義捐を促したるに、有志の人々、大に之に感じ、先を爭つて莫大の金粟を提供し、之が爲め三晋二百餘萬人の飢民、其の餓死を免かれたる事ありしより、著者は此の「廣惠編」を以て、饑歲勸糶の一助となし、其の本文に一々通俗的の和解を加へ、且つ處々に圖畫を挿入して、本文の意を補充したるものなり、著者が其の序文に於て本文を批評し、悲愴慷慨、實に人をして聳動感激せしむ云々と云へるは、決して誣言にあらず、殊に顧咸正の「賑荒問答」の如きは、最も痛切を極むるもの、之を讀んで心を動かさゞる者は、眞に人に非ざるなり

本書は天保四年に出板發行したるものなり、著者遠藤泰通の傳は、上記「志學問答」の下に出せり

東潜夫論

本書は王室第一、覇府第二、同第三、同第四、同第五、及諸侯第六の六編に分ちて、時事を論評したるものなれども、書中經濟問題に渉ること鮮なしと爲さず、即ち幕府の公領が、諸侯の領内に、犬牙錯雜して、入り込みあるは、民政の行届かざる原因なりとて、之が整理を主張し、新田開設を名として、徒らに諸侯の海濱を埋立つるは、徳川氏の爲めに、怨の碑を立つるに同じと云つて之を非難し、一部地方の利害の爲めに、天下の利便を思はざるは、經濟の道にあらざる事を論じ、(島田金谷兩驛の愁訴に由て大井川の架橋を差止めたるの類) 金銀幣の位を惡くするは、詐を搆へて、下民の利を奪取るものに外ならざることを述べ、田地の賣買を强て嚴禁するは、却て良田を荒地に變ずる惡結果を來すべしと主張するが如きは、皆新奇卓拔の說にあらざるも、一讀の價値あるものなり、而して著者の南洋經略策は、本多利明の北方經略策と、其の軌轍を同くするものにして、吾人の最も注目を要する所ならん、著者は北方魯西亞に對する、警備の必要は勿論之を唱道し居るも、先づそれ

よりも、南洋諸島略取の策を說き「西諸侯の師六七万を遣ハシテ、是ヲ(呂宋を指す)攻ムレバ、立ドコロニ攻トルベシ、南「シンタナヲ」マデモ併セタラバ、日本ヨリモ廣ク、南北ニテ產物豐饒ナレバ、其上ニテ四五ノ諸侯ヲ遷シテ、是ヲ守ラシメ、日本ノ罪人ナド、數万人ヲ遷シテ、新日本トシ、永ク本邦ノ援國トスベシ、是レ覇王ノ業ト云フベシ、豐國公ノ朝鮮ヲ攻メ玉ヒシ如ク拙キコトニ非ズ、朝鮮ハ地續キニテ(大陸と地續きの謂ならん)縱ヒ攻取リテモ、二十万ノ兵ヲ置ズシテハ守リ難シ、呂宋ハ五六萬人モ置カバ、誰モ手ザス人ハアルマジキナリ」と云へるは、當時に在りては、至極尤の意見なりとす、著者の記する所に依れば、肥前の寺澤侯(志摩守と稱す、其の先祖は、豐太閤の朝鮮征伐に與りて、偉功ありし人なり)、曾て自力を以て、呂宋征伐の事を幕府へ出願したるも、聞屆けざりし由、今日之を思へば寔に遺憾の極みなりと云ふべし

著者帆足萬里、字は鵬卿、豐後日出の人なり、少くして脇愚山に就て儒學を

修め、後京都に遊學して、卓然一家を爲し、鄉に歸りて藩校の教授となる、居ること幾もなく、遂に擢られて大夫と爲り、國政に參與す、水戶景山公萬里の名を聞き、之を聘用せんとしたるも、其の蹉跌に依つて之を果さず、嘉永五年病を獲て家に歿す、年七十五、萬里天性穎敏、博識强記、遍く群籍に通じ、文を屬すること日に數百万言、精力少しくも衰へず、尤も經學に深くして、兼て經濟の術に長じ、三浦梅園・廣瀨淡窓の二人を併せ、九州三偉人の稱あるは、固より偶然にあらざるなり、內藤耻叟氏著者を評し、「其人西洋ノ書ヲヨンデ、西洋ノ政治經濟ノ術ヲモ、粗講究シ」云々と云はれたるも、今本書に就て之を見れば、其の政治經濟思想の根本は、勿論支那の儒道にして、西洋學、卽ち蘭學に於ては、他の多くの蘭學者流と同じく、天文・地理・醫藥、及器械など唯々形而下學をのみ取りたるに過ざるが如し、著者が政治經濟の思想を蘭學に藉らずとするも、何ぞ彼が價値を軒輊するに足らんや

西藩田租考

西藩とは鹿兒島藩の事にて、本書は井田より制用に至る、四十三目に分類して、薩摩•大隅兩國幷琉球の田租及田制に關する事項を六つかしき漢文にて、詳論したるものなり。農書參考書解題の記する所に依れば、本書は天保八年の著作なりと云ふ、著者伊地知季安は、薩藩の士なれども、其の傳詳ならず

眞壁義倉條約

本書は著者が常州眞壁郡の人、塚本某外一人の請に依り、同郡に設立せる義倉の規約として、執筆したるものなり。漢文なれども、名文にして最も簡明に義倉の精神要領を說き盡くしあるを以て、此に收容せり、著者畠山立は、湖南山樵と號し、水府の儒官なり、其の生歿年は詳ならざれども、本書は序文に記する如く、天保十年の作なるべし

經濟五策

第一の仁政策に於ては、諸國に大抵貧民救助の手當あるも、其れは名のみにて、實なきゆゑに、眞に功績の出來る樣、完全の救助ありたきを述べ、第二の善教策は、教化を盛にし、風俗を敦厚ならしむべきを說き、第三の厚悉策は嚴に節儉法を設けて、上下共に之を行ひ、且つ屋敷周圍の空地に、有利の樹木を植付け、荒地を起して、地力を盡すの必要、其の他義倉の設立を奬勵し、第四の利用策は、先づ金五万兩の積立金をなし、之を準備として、若干の銀札を發行し、以つて下等勞働者及小商人を救濟して、職業に有付かしむるの方法を論じ、第五郎ち最終の安富策は、以上の四策を確實に實行し、且領內に於ける富豪を說諭して、仁政の助力を爲さしむべきを簡單に說きたるものなれども「經濟五策」なゞと、大層に命名せる程の大議論にあらず

著者大塚昌伯名は弘、字は士毅、號を雲窩と云ひ、勢州雲津の儒者にして、

大阪に寓居し、又藝備の間に遊び、後江州彦根に居住せりと云、然れども其の歿年詳かならず

本書は大阪天滿菅廟文庫本を以て底本となしたるなり

濟厥略記

濟厥は貧民及飢民を救濟する爲めに、籾米を貯蓄し置く所なり、著者は從來多くの儒者達が、輙もすれば義倉・社倉などの必要を說き、之を以て此の上もなき良法と心得居るも、此の法は、日本の如く諸侯の臣下・神官・僧侶其他遊民など許多あり、皆喰潰にして、全く平素は農民に養はれ居る者ばかりなれば、農民の負擔は之が爲め、既に重大なるに、此の上又貯蓄米を爲さしむる事は、民情に反するのみならず、到底實行出來難きを以て、義倉・社倉でなく、諸藩の君主自ら儉約をなして、濟厥、卽ち救濟米を貯藏する米庫を建設し、又各〻其の家中の士分にも、應分の救助米を出さしめて其の目的を達せんと

の策を述べたるものにして、其の方法の大要は左の如し

萬石につき年に五十石を除け置くべし、これ儲備の本なり、また銘々二百分一を出し君を助べし、萬石につき君臣合して大凡百石程と定め、これを一年の儲備となす、五年をつみて五百石あり、十萬石の高にてつめば五千石、三十萬石なれば一萬五千石、五十萬石なれば二万五千石なり、この米をかりたくと願ふ村々へは、初年よりかしあたふべし、尤夏の頃夫食乏しき時にかし、秋成に至りて返納せしむ、其添へ米のわり一石につき五合づゝをさめしむ、籾にても麥にても、麥ならば其數を倍す、かくのごとくする事五年にして基本となすべし、基本既に立たる後は、非常の備を重となし、儲米の三分一の過米數までは借すべし、殘らずかすべからず、尤これは常年の定めにして、凶飢の時は元より其數に拘はらず、小歉なれば添米を取らず、大歉なれば全く與ふべし、これらの時の備なればなり、扨五年の間飢歉の年なくして、六年に至れば家中惣高よりの加入を免ずべし、これより後は入の儲米と、民のそへ米とにて積むべけれども、民の方をかならずとすべからず、かくのごとくして五年を經て、都合十年に至れば、餘程の儲米となり、大抵の凶飢は救ふべし、これを小成となすなり、又十年を經れば過分の儲米崇みて、いかなる凶飢にても、決して一人の餓莩するものあるまじきなれば、二十年を以て大成といふべきなり、二十年後三十年の内外にて、萬一凶荒に逢たる時は、年來の倉廩を傾けて賑恤し、餘す所あるべからず、これ人君本

意のあるところなればなり、其後に及びては、再び初發の法をあげ行ふべし、幸ひに凶飢もなき時は、もとの姿にて增益するのみ、もし又年數を待ずして凶飢あらば、その備へたる丈けを以て救ひ與へ、其翌年より初度の法に返すべきなり

著者佐藤一齋、名は坦、字は大道、一齋は其の號、別に愛日樓又老吾軒等の號あり、有名なる幕府の儒官なり、其の曾祖周軒始めて儒を以て岩村侯に仕へ、國老となる、世々皆職を襲ぎて、國政に與かる、一齋少くして學を好み、井上四明・鷹見星皐等の門に出入して、大に研究し、次いで大阪に遊び、中井竹山に從學して、業益進み、寬政五年江戶に歸り、林家の門に入り、後其の邸內に寓して、儒を業とし、名聲漸く揚る、天保十二年、出でゝ幕府の儒員となり、特旨を以て易を殿中に講ぜしめらる、其れより一齋力を竭して、後進を誘掖し、士庶の門籍に上る者三千人に及べりと云ふ、嘉永三年、布衣班に進み、安政六年昌平校の官舍に病歿す、年八十八、著す所、詩文全集・言志錄・四書五經の訓點、及欄外書等數百卷あり

井田說

本書は經史を引きて、井田の制を詳說したるものにして、其の大體は、先儒の說と、格別の差異あること無し、唯簡明にして、其の要を得たるのみ

著者東條一堂は上總の人なり、名は弘、字は子毅、通稱は文藏、世々上總夷隅郡八幡原村の豪農たり。一堂年十三にして、獨志を立て、京師に出で、諸名家の門を叩き、刻苦勉學、數年にして業大に進み、蔚として一家を爲せり二十二歲の時江戶に歸り、當時の大家、朝川善庵・羽倉簡堂・龜田綾瀨・佐藤一齋及尾藤二洲等と來往親交して、名聲遠近に聞ゆ、福山侯阿部正弘、贄を執り、聘して賓師となし、常に輿を以て之を送迎す、其他盛岡侯・庄內侯・沼津敦賀・長島等の諸侯、皆爭つて之に師事せり、水府老侯・一橋侯等、亦之を招聘せんとしたるも、禮遇其の意に滿たずして、皆之を辭す、福山侯嘗て問て曰く、先生望む所ありやと、一堂答へて曰く、天下の爲め一二望む所なき能

はず、第一儒學は善政の源なり、然るに今日學風の頽廢せること、寔に其の極に達す、願くは幕府を始め、諸藩儒者の氣風を純良にして、學問を正に歸せしめん事を、且つ天下昇平の久しき、諸制度皆な舊弊に染み、政治悉く因循に流る、今日の急務は、更革を斷行し、門閥に拘らず、賢を擧げ、能を使ふの擧なかる可らず、且又江戶に諸侯牧伯を會して、一大會議を開き、以て斷乎と國是を定め、一意勤王の心を固うせしむべし、今閣下其の職に在り、幸に早く之を斷行せられよ、余の望む所、斯くの如きのみと、嘉永六年、米國の使節、浦賀に來る、一堂福山侯に謂つて曰く、是より外夷陸續として渡來すべし、而して今日の夷は、亦た前日の夷にあらず、我國力內に充實するにあらざれは、猥に彼を輕侮すべからず、火器の精鋭、航海の熟達、遠く我れの及ばざる所なり、卒爾戰端を開き、生靈をして慘禍に苦ましむること勿れと、其の先見卓識、概ね斯くの如し、安政四年、病んで家に歿す、年八十、著す所の書は、一堂筆記・道德辨・天人辨・有無辨・性命辨・易經解・詩經解・書經解・

春秋解・國語解・四書知言・論語字義・古文孝經辨僞・孝經兩造簡字等、數十種あり、多くは寫本を以て傳はる、編者曾て一堂の遺子、永孚氏の家に藏する遺書、數百種を獲たり、其の中殊に驚きたるはペルリ渡來前後に於ける、我國の學者志士等の、外交に關する著書・意見書・建言、其他あらゆる記錄等を、蒐集網羅して、一纏めとなし、其の會心若くは反對の所には、一々自ら筆を下して、精細に論評し、滿紙殆んど寸毫の餘白を存せざりしを見る、一堂の精力識見の非凡なること、尋常俗儒の及ぶ所にあらざるなり
本書は著者の講義を、門人渡邊乙藏なる人が、筆授せしものなりと云ふ、蓋し完備したる正本にはあらざるべし

食貨辨

本書は初めに「量ㇾ入爲ㇾ出」の要を縷述して、次ぎに義倉の良法なることを說きたるものなり、書名は「食貨辨」としてあるも、一般に食貨の事を記したるに

あらず、主として義倉の必要を論じたるに過ぎず、而して書中の文意は、普通の人々が說ける義倉の主意と、其の貸出の方法など少しく相違する所あるかの樣に思はるれども、兎に角此の問題を說明すること詳かなれば、此に之を收容することゝせり、著者は何人なるや不明なれども、矢張漢學派の儒流なるべし

大正五年七月　　瀧本誠一

解題終

賀島兵介言上書

言上書

賀島兵介著

當度私儀大目付役被ニ仰付一、過分之仕合辱奉レ存候、然共元來愚に有レ之、近來病者に罷成、甚物忘仕候故、固く致ニ辭退一候得共難レ叶候而、御受申上候、其上大目付役之誓旨前書に、御爲に惡敷儀挾ニ心底一者有レ之は、雖ニ親類入魂之者一、速に可レ遂ニ案內一、御家老諸役人非道之族有レ之而、諸人及ニ難儀一候仕置有レ之は、尖に可レ致ニ言上一、御家中之侍、其外不レ依ニ何者一、忠義を盡す者見及候はゞ申上候へ、大目付役勤候而、忘ニ正道一隨ニ邪慾一、御家老御近習之者へ諂ひ、御爲を致ニ忘却一儀不レ可レ有レ之との御事に御座候へば、此趣不才不德の私に、猶以不レ當役儀と奉レ存候故、八月廿八日以ニ書付一頻に辭退之訴訟仕候得共、先月十三日御年寄共私役近き頃被ニ仰付一候故、辭退之訴訟取次不ニ罷成一候と申付候故、不レ及レ力奉レ畏候、就レ夫是非は不レ辨候へ共、見及聞及候趣、愚意之通書付指上候

一 殿樣御智惠明かに被レ成ニ御座一、是非之御吟味被レ遊候時は、御年寄共も不レ及、御仁心深く被レ成ニ御座一、人民御憐み被レ遊、誠に人君たる御德性に被レ成ニ御座一候へ共、御勇氣今少し御不足に被レ成ニ御座一候か、御病者に被レ成ニ御座一候故か、御政務の御志薄く、人之賢否を能御知不レ被レ遊、御仁惠普く御

施し不レ被レ成、御國法不レ立、專ら利を御求被レ成、道理に不レ當事多く、諸役人依怙贔屓之私不レ少、唯今程に御仕置惡敷、古來稀に御座候と諸人歎申候、只今之御國政、悉く孫左衞門に御任せ被レ成、是非善惡皆孫左衞門一決に歸し、餘之御年寄共は孫左衞門意を窺ひ申勢に成居候故、孫左衞門さへ良臣にて御座候はゞ、御年寄中も良臣と成、御國中も化し申筈に而御座候、然共只今之御國政不レ宜候へば、孫左衞門所爲にて御座候、又殿樣ゟ孫左衞門を能御見知不レ被レ成所有レ之、御國政惡敷成居候事も、定而委敷は御知被レ成間敷候、尤御勞煩には可レ被ニ思召上一候へ共、彌御政道に御心を御用被レ遊、先孫左衞門及御年寄共德性を能御知被レ成、其外諸役人皆共器に當り候樣に御用被レ遊、御仕置を御年寄共計に御任せ不レ被レ成、是非邪正委敷御僉議被レ成、無ニ依怙贔屓之私一、御政事正敷被ニ仰付一候へかしと、下々奉レ願候御事

一　先年御勝手御續き難レ被レ成由にて、兩度迄江戸御參勤不レ被レ遊、御簡略と被ニ仰出一候事も折々有レ之、其後天和二年之冬、御年寄共其外諸役之頭人へ御書付にて、元來貳萬石之御身上には、御遣過分に被レ遊、近年は御商賣不利に罷成、御勝手御續き難レ被レ成候故、公儀之御勤、御家中に被レ下御扶持等も、今迄之樣には相續申間敷と思召候、向後御身體相應之格に御直し可レ被レ遊候間、御商賣之手立、御簡略之被レ成樣、面々無ニ隔意一遂ニ僉議一、何とぞ御身體御續き被レ成候樣に仕候へ之由被ニ仰付一、御年寄共諸役之頭各致ニ僉議一、萬之費を除き、御簡略之被レ成樣、御分限相應之積委細申上、それより

以來御簡略被ㇾ成、甚利を御求被ㇾ成候、右之通に被㆓仰付㆒、年寄共諸役之頭各遂㆓僉議㆒候はゞ、先殿樣御逼迫被ㇾ成候根源を致㆓穿鑿㆒候而、其所を改め易へ、諸之費を除き、何にても可ㇾ省物を省き、其上にても御不足に候はゞ、面々致㆓拜領㆒候大分之知行を減じ候而指上、殿樣御遣を如何程に成共、入來分に合候程に省き奉り、少も無㆓道理㆒利を不ㇾ求、御國政正敷仕候而、安危存亡天命に任せ申こそ、家老頭人之職分たるべし、殿樣御逼迫被ㇾ遊事と、御商賣之利潤多少有事とは、天和二年に至而知れ申候哉、上天子より下庶人に至迄、入るを量て出す事を爲すは、生計之大本、商賣之利不利不定は、交易之常理なる事、下々之愚人も知たる事に御座候、況や殿樣先年より御逼迫被ㇾ成候由、公儀へ御理被㆓仰上㆒、江戶御參勤不ㇾ被ㇾ遊事度々有ㇾ之、御簡略と被㆓仰出㆒候事も折々有ㇾ之候へば、御逼迫被ㇾ遊儀、十五年以前より知れたる事に御座候故、斂く入るを量り出す事を爲すの御仕置に仕候はゞ、何とて只今之樣に御逼迫に及び可ㇾ被ㇾ成候哉、國主を逼迫に及せ申事は、皆家老頭人之所爲にて御座候、只今とても及㆓御逼迫㆒候所を改め易へ、諸の費を除き、可ㇾ省物を省き、御分限相應にさへ仕候へば、何之憂も無ㇾ之候を、此所を專に不ㇾ勤、御逼迫被ㇾ成候を、面々職分之耻とも不ㇾ思、御簡略之始に御先祖樣之御齋料銀を引、我々は知行之加增を取、少宛被ㇾ下御扶持人之御扶持は離し、御簡略とてみこ・山伏とりあげ婆に遣す銀の分量迄法式を立、御奧廻りの障子は反古ばりにし、古き御道具味噌之類迄、御臺所にて賣拂ひ、諸人痛に成候諸運上等を增し、不當道理色々之利を求候儀、無㆓勿體㆒希代之御簡略

にて御座候、天和二年之冬より只今迄、御年寄共御勘定役之者共、知行之加増其外折々拜領仕候物と、御先祖樣御齋料銀少宛被レ下御扶持を被ニ召上一候分と、多少いづれに御座候哉、御障子を反古ばりにし、古き御道具味噌迄賣拂、諸人痛に成諸運上を增し、無ニ道理一利を集め取候分と、殿樣御遣不レ被レ遊候而も不レ苦所に御遣被レ成候分と、多少いづれに御座候哉、御積らせ御聞可レ被レ遊候、面々が玄關へ朔日節句に出し候帳面は、反古を裏返しとぢて出し簡略と唱へ、內々は琴・三味線・躍等之遊のみ仕候、誠に上も下も名計りの簡略にて、實は花麗にて御座候、如レ此御仕置を善政と被ニ思召上一候へば、大なる御思召違にて可レ有ニ御座一候、殿樣元來御分限より餘りある御身上にて、御逼迫被レ成候樣可レ被レ遊、共御あやまりを無ニ御悟一、御分限相應を御勤不レ被レ成、只今之御仕置を御改不レ被レ遊儀、御智慧暗く、御義勇不レ足、又天和二年之冬、公儀之御勤御家中に被レ下御扶持等も、續かね候はんと思召候間、御身體相應之格に御直し可レ被レ成と被ニ仰出一候御事も、御眞實少き樣に被レ成ニ御座一候、本より殿樣御小身に被レ成ニ御座一候而、本邦と朝鮮と御通行之御取次役被レ遊に付、公儀之御勤諸事之御遣方迄も、御分限より大に御過被レ成候故、御勝手御續き不レ被レ成勢に被レ成ニ御座一候得共、朝鮮御商賣之利と、御國基肆・養父之御物成とを入れ、毎年貳千五百貫目程宛有レ之候へば、凡十貳萬石程の御所務に當り候故、御逼迫被レ成筈無ニ御座一候、然處に先年御下屋敷御作被レ成候事を始とし、諸事萬物丁寧に被レ遊、御在國にても、御在江戶にても、每歲金銀莫大に御遣被レ成、甚御奢被レ遊、御家中にも大分之御知行、

御藏前にて被二成下一、其上過分之金銀拜領拜借被二仰付一、侍共家作衣食迄心のまゝに仕、奢候樣に罷成候故、大分御所持被レ成候御納戶銀も減少仕、只今及二御逼迫一、御家中町方迄困窮仕候、既に光雲院樣御代には、御國基肄・養父之御物成、朝鮮御商賣之利、只今之三分之二も無二御座一候得共、公儀專らに被レ遊、御簡略も不レ被レ成、御扶持人など御減じ被レ成候事は猶以無二御座一、萬民心服いたし、御一代無二何事一、御貧窮之分にて御過し被レ遊候、殿樣は光雲院樣より甚御富被レ成、度々御簡略之御仕置被二仰付一、折々御扶持人御減じ被レ成、色々之利を御求被レ遊候、是偏に殿樣御奢被レ遊故と、御仕置惡敷故にて御座候、世間に壹萬石貳萬石之小身にて、しかも其知行惡敷、其高程之物成無レ之候而も、其分限相應に被レ成候へば、少も困窮不レ被レ成候、又二十萬石三十萬石之大身にて、しかも其知行能、其高より物成多く御座候而も、其分限不相應に被レ成候へば、甚困窮被レ成候、殿樣も此所を御悟り不レ被レ成、只今之樣に御過分に御遣被レ遊候はゞ、假百萬石之御身上に御成被レ成候而も、天下を御たもち被レ成候而も、御逼迫被レ遊筈に御座候、今より後は追日御出方增申筈に御座候故、只今急度御改不レ被レ遊候はば、漸々と御逼迫重く罷成、御國中も困窮極り、萬惡是より起り、必御大事に及び可レ申候間、向後は殿樣御利之御遣を御減じ被レ成、只今入來御所務之四分之一を御殘し被レ遊、四分之三程にて如何樣に成共御仕廻被レ遊、道理に當らざる利を御求不レ被レ成、御仕置正敷被二仰付一候はゞ、千萬年之後迄御貧窮之憂なく、御國中も不レ及二困窮一、萬事宜敷可レ有二御座一候、如レ此四分の一御殘し被レ成、四分之三を以

て御仕廻被レ遊候とても、高九萬石程之御身上之遣とひとしく御座候へば、餘り御不自由成儀無レ之筈に御座候御事

一　唯今之御仕置御簡略之時節とて、專ら功利を御求被レ成、御年寄共御勘定役之者共を始め、諸役人何事にも御爲々々と計申し、後日御爲に不レ成事も、御難に成る事も、人之憂痛に成事も不レ顧、少の利をも集め取候樣に仕、何ぞ僉議に及候時、義と利と等分成る事あれば、多くは義を捨てゝ利を取り、義は捨りたるやうに罷成、何ぞ殿樣に利有事をさへ仕上候者は、義不義之御吟味なく、忠節忠功に罷成候故、諸奉公人皆我を利する心のみ深く罷成、不義無道も不レ辨、何とぞ少にても利有る事を仕、忠功に申立、少之御恩賞も可レ蒙と心掛候、是皆我が立身の求めより出で、聊御爲にては無二御座一候、眞實に御爲を思ふ忠義之心にて御座候はゞ、殿樣之御利害を、己れが利害之樣に奉レ思、當時無レ利事も、後日御爲に成る事は、人之知らぬかげにても仕、他人之仕たる事にても、御爲に宜敷事有レ之ば悅び申筈に御座候へ共、ヶ樣之者一人も見及聞及不レ申候、後日御爲に成事にても、當時我が功に不レ成事は不レ仕、人之目に立つあらはなる御損益は專に勤、人之知らぬかげの御損益は何とも不レ思、他人が御爲に成事仕候へば、還而其人を惡み、今御年寄共か、御近習之者共か、利を得候事御座候而、みすみす殿樣御損に成候とても、急度指止申者は、御勘定役之內にも聞及不レ申、如レ此不實成心根之者共を、御爲を歎き申などゝ被二思召上一候事、大成思召違にて可レ有二御座一候、大浦權太夫其外古來不忠之者共

を以て御覽可レ被レ遊候、古より功利を忠節に仕、立身を求候者に、一人も眞の忠義ある者無二御座一候、利を專に被レ成義は捨りたるやうに罷成候事、始め御爲に成候と申事之後日御爲に不レ成事、御難に成候事、人之憂痛に成候事、諸人我れを利する心のみ深く成、不義無道も不レ辨事、即あらまし書付申上候

一　光雲院様・養玉院様御靈屋廻りの掃除は、御靈屋番之者勤候へ共、中段より百鴈木の下迄は御簡略に付、常に掃除不レ仕候故、木の葉ちり、あくた積り、見苦敷體可二申上一様無二御座一候、先月四日に御參詣被レ遊候時は、掃除仕候而見苦からぬ分にて御座候、又萬松院・國分寺・長壽院等へ、以前より御先祖様御齋料銀被レ遣候處に、天和二年之冬より御引被レ成候、誠に下々之者さへ先祖之墓掃除は仕、毎月先祖之忌日には、檀那寺へほいたうとて、米を少宛分限相應に遣し申候、殿様何程御逼迫被レ遊とて、御國を御讓り被レ成候御先祖様に、如レ此御疎略被レ遊、御先祖様之御尊靈何と可二思召上一候哉、御不孝なる御事にて可レ有二御座一候、是利を專に被レ成、義を御捨被レ成候御仕置之第一にて可レ有二御座一候

一　近年以來御造使方にて、白米之鼠切俵・はしり俵をつぶし、本俵に仕直し候時、壹俵に五斗宛入、五斗參升俵にして賣申候故、面々が奉公だてに不義成事を仕候と、町方にてしかり申候、近き頃も御勘定役小田孫六御造使掛之者に、朝鮮米之ぬれ米を賣候へと申付候節、ぬれ米と申候而は、下直に買

可レ申候間ほてじめりと名を付賣候へと申付候、如何程御爲に罷成候とても、實のぬれ米をほてじめりと虛名を付け賣申候而は、則殿樣より商人をぬき被レ成に罷成候、如レ此いつわりは、商人にても人らしき者は不レ申候、假左樣に虛名を付候とても、商人買申時は、ぬれの輕重を能く見候而買申事に御座候故、中々ぬかれ申ものにて無ニ御座一候、御勘定役たる者は諸役之私曲邪慾をもたゞす役に御座候へば、何程利ある事にても、如レ此一言かりそめにも申出す筈にて無ニ御座一候、諸役人此風俗に習候はば、御爲には成不レ申候間、殿樣を掠め申か、下々之者をぬき申樣にて罷成候、御勘定役之者共只今之勤方、諸事萬端皆右之類にて御座候故、諸人之批判には、聚歛之臣盜臣とを相兼候と申候、是當時御爲之樣に見へ、後御爲に不レ成第一にて御座候

一　先頃御作事方先掛之者、御普請精を出し相勤め、諸事無レ費御爲に罷成候とて、交代仕候節御褒美被ニ仰付一候、尤無ニ懈怠一精を出し相勤、大工日用密敷使、竹木大石迄無レ費樣に仕たるにて可レ有ニ御座一候へ共、可ニ修理一破損も修理不レ仕、新規之御普請にて候、修理普請にても、多くは後日之よわみ・つよみ不レ思、當時之入目少きやうにと計り仕候故、新規之御普請は無レ程修理に及び、修理普請は仕廻候あとより破損いたし候、如レ此仕候故、當時御普請之入目少く御座候へ共、畢竟は御損成御事に御座候、諸事御勘定役之者より指圖を受仕事に御座候へば、あやまりにても御座有間布候、御作事掛之者にかぎらず、唯今諸役之勤方いづれも如何樣に仕候而成共、御銀の出方さへ少く候へば、忠功に立候

と心得、面々が奉公ぶりを專に仕、眞實之御爲は少く御座候、是亦當時御爲に成候樣に見へ、後日御爲に不ㇾ成事に御座候

一　去年之春内院浦に漂着仕候唐船、御當地にて調候物之代銀白糸にて被㆓召上㆒候、其節端物は此方よりあまり下直に申掛候故、彼方より白糸にて指上候、調物之品々何も常之直段より大分高直に申掛、白糸もはかり目强く取候故、唐人共甚致㆓腹立㆒、折々惡口仕、夷崎使者屋にて梯源七あまり無理を申に付、唐人怒に堪かね、庭に出天に指をさして見せ、天鑑をおそれよとの體に見へ候由に御座候、其後右之唐船長崎へ參着仕、彼地にて爰許にての被ㇾ成樣を散々嘲り候故、江戸・京・大阪之商人迄承り、江戸にては殿樣漂着之唐船と商賣被ㇾ遊候樣に沙汰仕、既に公儀之御首尾惡敷可ㇾ成樣に有ㇾ之たる由に御座候、就ㇾ夫下々之說に、長崎・京・大阪・江戸は不ㇾ及ㇾ申、唐迄御耻辱に及び、公儀之御首尾御心遣被ㇾ成樣に仕候而は、誰にても死罪に被㆓仰付㆒より外有ㇾ之間敷候處に、御腹立にも不ㇾ及、御勘定役之者共以前に不ㇾ替御用被ㇾ成候は、不審成事に候と何れも申候、皆是御爲々々と申し、還而御難に罷成候

一　御城之内に野菜を作らせ地錢を取、去年分之地錢は參拾匁餘納り候、因ㇾ之御城内に野菜買として觸賣仕、旅人迄不斷出入仕候、又阿須に網引を被㆓召抱置㆒、御慰に網を御引せ、御臺所へ肴御入用之時も引せ、御用に餘り候魚は、商人に賣拂候故、是亦御臺所に肴買之商人入込申たる事も御座候、誠に如ㇾ此なる利を取候事は、百石貳百石取小身侍も、志ある者は不ㇾ仕事に御座候、然るに殿樣如何程御

困窮被レ遊候とても、御城内には野菜を作らせ、地銭を御取被レ遊、網引に網を御引かせ被レ成候而は、餘り魚を御賣被レ成事、言語道斷之御仕置にて御座候、是小利の爲に御外聞不レ宜、御難に罷成事に御座候

一　近年は御米藏役之者勤能御座候而、御米之出目大分有レ之、甚御爲に成り候由にて、先掛之者には度々御褒美御加扶持被二仰付一候、諸事宜敷相勤、あき俵・はづし繩之代銀多く、日用賃少く、足もと米・庭米等迄無レ費樣に仕たる由に御座候へ共、出目米は多く御座候程、御家中之扶持切米請取方不足仕由に御座候、然るに去年も白米參拾八石五斗餘、黑米百貳拾九石八斗餘之出目御座候、此米如何仕出目に成事に御座候へば、白米は御米藏懸之者、御遣使掛より何程にても俵數にて請取り、手前にて心のまゝに一斗入之大升にはかり、一俵の入何程と極め、御勘定所之御印判を受置き、御扶持切米に渡候時は、一升入之小升にて、升取之者手柄次第少くはかりくれ候、又田代より來候黑米は、壹俵に三斗三升之内外有レ之米を、是亦手前にて心まゝにはかり、三斗四升餘宛にはかり立、切米に渡候時は、右之廻し三斗四升餘にして渡し、扶持方に渡し候時は俵をつぶし、成程升に少く入候樣にはかりくれ候故、白米は手前にてはかり候より多く成、黑米は田代請取より多く成、必定出目米大分に成申筈に御座候、因レ之御家中之御扶持取共批判に、貳人扶持之米大之月は貳斗七升餘、小之月は貳斗七升程ならで無レ之候、御家中之扶持切米をけづり取、面々が忠功に仕候儀、不義之至に御座候、米を賣候商人

さへ米のはかり少き者は不直の名を得、米買もうとみ候に、御藏より請取候米壹斗は九升有、貳斗は壹斗八升有レ之、諸人歎き候を御改めなく、還而出目米大分有しとて、其役人忠功に罷成事、如何樣之御僉議にて候やと普く申候、御米藏掛之者は米のはかり樣隨分廉直にはかり候へと、米はかり共に堅く申付、少も邪なる儀無レ之候以前は、御米不足に成候へ共、只今は我々仕樣宜敷候而出目米多く候故、忠功に成候と申候、尤前々之御米藏掛共仕樣惡敷候而、御米不足仕候と申候段は、左樣有レ之事もあるべく候へ共、元來米は日を經月を經候ほどへりは仕候共、まし申事は絕而無二御座一候、然る處に每年出目米大分御座候へば、扶持切米はかり樣少き儀、論ずるに不レ及、無レ疑事に御座候、是我立身の爲に御爲を歎き、諸人之憂痛に罷成候

一　天和二年以來御勘定役之者、御爲とて專ら諸運上を求め候故、町方うけないと申事を企て、誰にても心まヽに仕來候、家職商賣物も五人七人宛申合運上銀を差上、其與合之者計り仕、豆腐・綿打等迄うけないに致し、何色にてもうけない物は、脇より一人もすぎわいに仕事不二罷成一候、尤うけないに仕候內、人之害に不レ成物も御座候へ共、多くは諸人之害に罷成候、其故は始めの一貫目之利を得候物に、五百目之運上を指上仕候へば、其賣物之直段を始めより高くして、壹貫五百目之利有樣に賣、五百目は運上に上げ、壹貫目は各得候、勿論運上を上脇之者に不レ爲レ仕、其與之者計り仕事に候得ば、直段之儀は申合候而、如何程高直に可レ賣も自由成事に御座候、左樣御座候へば、右之運上銀は其物を

買候諸人之手前より出申積りに御座候、其上うけないに成候へば、すぎはひに仕度と願ふ者も仕事不レ成候、誠に此うけない仕者偏に我を利し、人之憂を不レ顧、人のすぎはひを奪ひ候へば、古人の云へる人之利を網すると申類の罪人にて御座候、況や如レ此利を被ニ召上一、御仕置之不レ宜儀可ニ申上一様無ニ御座一候、當世之運上は何方も上一人利を得被レ成、下萬民之不利に成事のみ多く御座候、中にも只今之請ないは一與宛人數定りて仕り、脇より仕事不ニ罷成一かたつまり候故、猶以諸人之憂痛に罷成候

一　天和三年町人共訴狀を以て、濱出御運上掛り候物隱し候而、出し候荷物御座候故、御運上銀多く不レ被ニ召上一樣に見及候間、濱御運上を取候儀、我々に被ニ仰付一候はゞ、未・申・酉・戌・亥五ヶ年分之御運上銀ならしにして、一ヶ年分に每歲三貫目宛增し候而指上、其餘りは得分に可レ仕と願上候處に、願之通に被ニ仰付一、每歲拾壹貫目程宛指上、貞享元年より同三年迄仕候、然る處に又去年御步行之者共より、濱御運上町人共うけないに仕り、大分利を得候樣に承及候間、我々に被ニ仰付一可レ被レ下候、左樣御座候はゞ、只今迄町人共指上候通り、每年拾壹貫宛指上、其餘は御步行中に拜領可レ仕候と申上、願之通に被ニ仰付一、今年より御步行之者五人にて勤申候、誠に國天下に年貢運上ある事は國用の爲にして、なくて不レ叶政事にて御座候、御船改役も以前より出入之船を改め申、次でに運上物をも改め來り候處に、町人共望上候とて、三貫目の利之爲に荷改をうけないに被ニ仰付一候故、御國法も利さへ有レ之候へば、賣り買ひに被レ遊樣に罷成、町人共さへ不レ漏樣に取候御運上銀を、御船改役之者共取不レ申候は、荷改

踈略に仕候か、見遁し仕候か、私慾仕たるかにて有レ之より外無ニ御座一候、又御歩行之者共御爲御家中之爲と申立、町人共商ひに仕候事を申請利を取候儀、偏に我れを利する心ばかりにて、義理を不レ辨候、因レ之下々の惡口に、御家老役も誰々才智ある者、今之御家老中の知行を三分之二被レ下候はゞ、三分之壹を指上、今之御仕置より能可レ仕と可ニ願上一事などゝ申し、又御家中に被レ下知行扶持方、諸事之御遣迄うけないに可レ仕と何方へか書付指出候へ共、内見仕甚しかり指返し候由沙汰仕候、此一事にても近來甚利を御求めに成候に付、御國政も商賣之樣に成行、利心深く罷成、不義無道も不レ辨事相見へ申候

右之類何程も御座候へ共、悉不レ及ニ申上一候、是皆利を御求被レ成候所より出て、利を御求被レ成事は、御勝手御不足の所より出て、御勝手御不足に御成被レ成候事は、入來分を無ニ御考一御遣被レ遊候より出候、誠に上利を御好み被レ成候へば、下も利を好み、上義を御好み被レ成候へば、下も義を好む必然之道理に御座候故、只今之樣に專利を御好み、御爲に成事のみ御求被レ遊候はゞ、諸人も我を利する心深く成、御爲に成者は無ニ御座一、還而殿樣に害を爲し奉る事も可レ有ニ御座一候、御政道仁義をさへ專に被レ遊候はゞ、下々も亦仁心義心起り可レ申候、仁義之心起り候而は、殿樣をかりにも踈略に奉レ存者御座有間敷候、殿樣を眞實に愛敬し奉る心罷成候はゞ、御爲に罷成候者を御求不レ被レ遊候共、士は不レ及ニ申上一、百姓・職人・商人迄皆忠人と成大利を御得被レ成候事無レ疑奉レ存候、向後は絶而功利を御求不レ被レ遊、公

儀之御勤は御物入な事にても如二先規一被レ遊、少にても御費に罷成事と、下より掠め取候事とは密敷御禁じ被レ成、道理に不レ當物は國天下をも御受不レ被レ遊、御分限を堅く御守、仁義を御行ひ、御政道正敷被レ遊候はゞ、御子孫様御繁榮被レ遊、永く御國を御たもち、御財寶も充滿いたすべき御事

一　以前より被二仰付一候御法度格式、一度被二仰出一候而後、奉レ守候樣に重而御教被レ成儀無二御座一、下より犯し背き候ても、御制し被レ成事も無レ之、其なりにて破れ捨り候事多く、或は善き法式を御立置被レ成候而も、背き候者御座候へば、其法式之惡敷樣に罷成、其法式を御改被レ成候事も有レ之、或は始め御不僉議にて被二仰出一、此程御改め易へ被レ成事も御座候故、御法度格式定りかね立かね、諸人御法式を不レ知樣に成行、御國法みだりに罷成候、其上町郡中田代等迄、平生町人・百姓守り行ふ御壁書御出置被レ遊候へ共、御家中には常に守り行ひ候御法度之御書付今迄無二御座一候、是亦御家法不レ備御事に御座候、御法度格式不レ立趣あらまし即書付申上候

一　先年御年寄共中間緣與御制禁と被二仰出一候處に、釆女一郎兵衛子供緣與仕候、其以來何も緣與仕御制法破れ候、又先年公儀より家三間はりより廣く不レ立樣に被二仰出一、其上天和二年之御書付にも、檜木・杉丸太・塗障子・彫物等御制禁と被二仰出一候得共、左衛門家作右之御法度に相背き候、又同年之御書付に振廻御制禁と被二仰出一候、然處に孫左衛門・與左衛門・直右衛門は御家中町方へ折々振廻に參り候、町人共振廻仕り家不レ持者は、其客人之家へ持はこび振廻仕候、是を下々の惡口に入佛事と申

候、此頃は振廻別て長く候故、諸人何角と嘲り申候、中にも佐野屋六左衛門と申す問屋、平田所左衛門下屋敷にて、七月廿二日左衛門夫婦・孫左衛門夫婦・親類迄振廻、同月二十五日直右衛門夫婦・所左衛門夫婦・親類振廻、料理・酒・肴・菓子之丁寧は不レ及ニ申上一、ごぜ・座頭・じやう留り語迄集め馳走仕候、因レ之町方之沙汰には、佐野より來居候者いわし網之浦運上銀、いわし濱出運上銀之訴訟仕候に付、彼六左衛門此まいないに振廻仕、振廻之入目は佐野之者中にわり付出させ候と專ら沙汰仕候、此沙汰は必定虛說にて可レ有ニ御座一候へ共、御家老たる者如レ此虛說を請候樣に行跡罷成候而は、御國中之思入、他國之外聞不レ及ニ是非一次第に御座候、將又左衛門・與左衛門・直右衛門近來專ら楊弓を好み候に付、御家中も楊弓時行、御年寄共機嫌取に射申者も多く、方々にて楊弓の會有レ之振廻仕候、就レ夫何某が立身は楊弓にて射取、何某が幸は楊弓にて射當て候などゝ嘲申候、誠に家老たる者は御屋敷に出候而は、政事を無レ私樣に勤め、私宅に退き候而は、政事之是非を思ひ、殿樣之御爲、御國之爲に日夜心を盡し、萬人之憂に先立て憂ひ、萬人之樂に後れて樂み申こそ、職分之當然にて可レ有ニ御座一に、老人か少年かの慰物に仕る小弓と小矢とを翫び、楊弓の會か振廻に參る日に當りては、少々之御用は不レ聞して、御屋敷を退き候事も有レ之、其志執政に專ならず候故、賴もしからぬ御年寄共に御座候と申候、伊織儀は曾而振廻に不レ參、楊弓も射不レ申候故、奇特成志にて候、振廻に參り楊弓も射候はゞ、知行之加增も左衛門・孫左衛門並には可レ被レ下物をと、何れも批判仕候、如レ此御法度を皆御年寄共より背き、

其御とがめも無ニ御座一候へば、御法度格式可レ立樣無ニ御座一候、此外以前より被ニ仰出一候御法度格式破れ廢り候事、際限無ニ御座一候故、悉難ニ申上一候

一　以前は御家中に被レ下知行之內七分宛、最合とて常には不レ被レ下、旅に被ニ召使一候時七分之物成被ニ成下一候故、別而御合力に成、勝手能御座候處に、下より何角と申上候へば、天和元年之正月知行之高に御加へ被レ下、御家中之知行物成三ッと御定之事も、今は二ッ三分に罷成候、又先年二百石以上は手前より馬を飼候樣に被ニ仰付一、二百石以下には馬之飼料被ニ成下一候へ共、御簡略に付右之飼料被ニ召上一、二百石以上計り飼居候處に、下より何角と申候へば、又大身小身共に馬飼候儀心次第に仕候へと被ニ仰付一候、如レ此善法を御立置被レ遊候而も、下より犯し候へば法之惡敷樣に罷成、御改被レ成候、以前より御免にて朝鮮へ渡し候物、朝鮮より渡り候物、往來仕者共御法度を背き候へば、御改め被レ成候事幾たびと申限無ニ御座一、其外如レ此類何程も御座候

一　先年御勘定役と申役を御立被レ成、其後御步行頭を御立被レ成候得共、兩役ともに廢りて今は無ニ御座一、又御商賣掛を町より御撰び、十人に被ニ仰付一、世皆十人御代官と申居候處に、頃日橋邊半五郞辭退仕候へば御免被レ成、其代りに御步行之侍二人被ニ仰付一、今は十一人に罷成候、天和二年之冬、侍共鎧こしらへ候はゞ、代銀五百目に不レ可レ過、御馬廻之侍正月計り鎧爲レ持候へと被ニ仰出一、貞享二年之秋、鎧之代銀心次第に可レ調、鎧正月計に不レ限、盂蘭盆・祇園會にも爲レ持候へと被ニ仰付一候、此等之類始

之御僉議如何程道理に當り被二仰付一候而も、如レ此皆御變改被レ遊候へば、御不僉議にて被二仰付一たる樣に罷成候、此外宗門改之仕樣六七度程變り、朝鮮・佐須奈に横目之御給分、以前と唯今と不レ替候而、以前は奉公に立、只今は御扶助に成、朝鮮御代官町人多き時も有、侍多き時も有、博多御藏本番・風本御茶屋番・知行取被レ遣事も有、大小姓被レ遣事も有、御歩行之侍・御茶湯坊主被レ遣候事も有レ之、其外二人掛り候役三人に成、三人掛候役二人に成、一年代之役三年代に成、三年代之役一年代に成候事も御座候、尤御僉議之是非は不レ辨候へ共、御變改被レ遊候事何程と申際限無二御座一候故、悉難二申上一候如レ此御座候故、新規に御法度被二仰出一事御座候へば、下々之者是も對馬法度にて、半年か一年にて廢り候はんと嘲り、御國法あさましく罷成候、尤被二仰出一候御法度とても、時去り勢變り、指つかへ申事有レ之時は、御改被レ遊筈に候得共、あまりたやすく折々御改被レ成候故、始の御僉議不足之樣に聞へ申候、其上一度被二仰出一候御法度下々背き候へば、其なりにすたり候儀、猶以無下成事に御座候、惣而天下國家之法式は、天下國家をたもたれ候始か、又は代替りの始にか法式を被レ立、其後は度々法度格式被二仰出一筈にて無二御座一候へ共、始め被二仰出一候御法式、或は破れすたり、或は御改め易へ被レ成候により、おのづから御法度格式之仰出繁く罷成と見へ申候、向後は御家中其外諸方に以前より被二仰出一候御法度格式之是非善惡御撰被レ成、不レ被二仰付一候而不レ叶御法式計り、幾ケ條に成共御定被レ遊、毎年春秋兩度宛か、毎春一度宛か、御家中は與頭、町は町奉行、郡は郡掛より讀聞せ、不二相背一

やうに被二仰付一、若相背者於レ有レ之は無二御免一、急度刑罪に被二仰付一候はゞ、何も御法度格式能心得、犯し背き候者なく御國法立、萬人風俗正敷罷成、一切之惡事滅じ、御國政も自然と事少に可二罷成一候事
一　御年寄共を始め諸役人依怙贔屓之私仕、我親類緣者は我に諂ひ求る者有レ之候へば、諸事宜申成し、御恩賞を得させ、又何ぞ願之訴訟仕候へば難レ叶事も相叶候樣に、仕くれ、罪ありても其の罰輕く罷成候、諸役人を親類緣者に不レ持、諂ひ求る事も不レ仕者は、少々忠功有レ之候而も、御恩賞を蒙る事まれにして、罪あれば其罪密敷被二仰付一候、尤無二依怙贔屓一功と賞と相當に被二仰付一者も御座候得共、是も諸役人之親類緣者にあらず、諂求も不レ仕者にはまれにして、又忠が不忠と成事も御座候、見及聞及候依怙贔屓之私、あらまし書付申上候
一　去年之副特送使荷押物に中島半右衞門被二仰付置一候處に、半右衞門於二江戶一死去仕候に付、去夏半右衞門代に被二仰付一者僉議有レ之時、御與頭方より江戶二度三度宛勤候者五六人書付指出、御勘定役之者共よりは、江戶一度勤候畑島四兵衞を書付指出候、其節御年寄共彼四兵衞に申付候、就レ夫御與頭共腹立仕、近來は奉公帳仕立、奉公之輕重多少無レ私僉議仕候へと被二仰付一候故、江戶二度三度宛勤、御送使に可レ被二仰付一者を撰び、書付指出候處に、我々申上候儀は御用ひなく、御勘定役方より申上候江戶只一度勤候四兵衞に被二仰付一候而は、奉公帳もすたり候と、道理を盡し申候へ共、終に四兵衞に申付候、御與頭役は御家中諸侍を司る士頭にて、御勘定役は出入之損益を司る役にて御座候處に、御

與頭申上有二道理一事は立不レ申、御勘定役申上無二道理一事立候故、御與頭共は不レ及二申上一、諸侍何れも無二是非一奉レ存候、此一事に不レ限、近來御勘定方に勤候者は、何の功も無二御座一候得共、頭役を始め度々御褒美被二仰付一、五年三年勤候へば何れも立身仕、小使仕居候者迄大小姓に罷成、御歩行之侍旅役勤罷歸候時も、御勘定方より申付遣候者は、別而歸國之御目見被二仰付一、御與頭方より申付遣候者は、歸國之御目見とて別而は不レ被二仰付一候、或は役代或は御褒美等も、御勘定方より申付、御與頭は不レ知事のみ多く御座候、如レ此御與頭方と御勘定方と兩輪之樣に罷成、御勘定役之者共は、御目見も御近習並に奥御番所にて被二仰付一、知行之加増、折々御褒美被レ成下一、御與頭共は幾年勤候而も、苦勞仕とも不二仰付一候故、御勘定役之者共勢はまし、御與頭共勢はおとり候、因レ茲御勘定役之者に諂ひ從ざる者は、私を始とし口惜がらぬ者無二御座一候、誠に國天下之存亡も、人民之背と不レ背とに有レ之事に御座候へば、只今のごとく諸侍憤り御座候ては、御大事にて御座候間、今日にも急度御改め被レ遊可レ然奉レ存候、左樣無二御座一候はゞ、諸侍之鬱憤とけ申間敷候、是依怙贔屓之第一にて御座候

一　先頃樋口太郎兵衛儀、京都小島孫兵衛代りに被二仰付一候、然處に孫左衛門御勘定役之者内寄合之節、俵四郎左衛門・孫左衛門へ申候は、孫兵衛儀只今之御あてがいにては、京都之勤難レ成候と我々方へも被二申越一候間、今度太郎兵衛月切御増被レ成可レ然と申候、孫左衛門左候はゞ増し可レ申哉と申、其分にて止り候、其後久四郎左衛門申候は、太郎兵衛御あてがいは、とかく只今迄之樣に、一月に參拾

匁宛にては堪忍成かね可レ申候間、一月に銀貳枚宛に被二仰付一可レ然と申候、孫左衛門左様候はゞ、其通にも可レ仕と申候、其後未だ御披露も無二御座一、太郎兵衛に申付も無レ之候處、七月五日御勘定方より御送使方へ、太郎兵衛月切五ヶ月分銀十枚被レ渡候へと指紙にて申付候故、即日御送使方より太郎兵衛に右之銀十枚渡候へば、太郎兵衛より御送使方一算用違にて候哉、銀子大分餘り候と申遣候、御送使掛より其方へは未レ被二仰付一候哉、壹ヶ月に貳枚宛にて候と返答仕候、其時太郎兵衛心得、俄に御年寄中へ禮に廻り候、御年寄共方より御前へは、同月廿三日に太郎兵衛月切壹ヶ月に貳枚宛被二仰付一可レ然と申上相濟候、其後京都おふち様へ志賀甚五左衛門被レ遣候時、甚五左衛門儀上下六人に申付候、甚五左衛門訴訟仕候は、京都にて他方へ罷出候時、若黨壹人、留守に召置候へば、若黨只壹人召連申候、以前京都に罷在方々相勤人にも被二見知一候處に、今度之上下以前におとり無二面目一存候間、若黨壹人御増し、上下七人に被二仰付一被レ下候へと度々願候、右同時吉田藤右衛門・重田四右衛門儀も兩人中に內者壹人と申付候故、藤右衛門・四右衛門訴訟仕候は、今度京都にては只我々兩人計り相詰候故、江戸長屋とは違ひ、壹人之內之者を藤右衛門にても、四右衛門にても召連罷出候而は、あとに殘居候者、自身飯こしらへも仕より外無二御座一候間、上下宛に被二仰付一被レ下候へと度々願候得共、先例無レ之候故、不二能成一由にて、三人共に訴訟叶不レ申候、太郎兵衛月切參拾匁宛にて堪忍難レ成儀を知候はゞ、前以孫兵衛訴訟仕候時、何とて貳枚に不二申付一候哉、甚五左衛門・藤右衛門上下を增候事は先例無レ之、太

郎兵衛月切貳枚に申付候事は先例有レ之候哉、此段言上有レ之而、如何樣に可レ被二仰出一も未レ知處に、先右之給分十枚之銀を御送使掛より渡させ、十八日以後に言上有レ之相濟候段、孫左衛門・四郎左衛門偏に我まゝ成仕樣にて御座候、御家中之者如何樣に可レ存候哉、此一事にて我親類縁者我に諂ふ者に私仕候儀、御推量可レ被レ遊候、此類何程も御座候へ共、不レ及二申上一候、向後若し御勘定役は御損に成候事も、御年寄共爲に能樣に仕、御年寄共は御勘定役之者御爲を歎候などゝ取成、互に助合候樣に成行候はゞ、殿樣誰を御賴可レ被レ成候哉、兼而御心入可レ有二御座一御事に御座候、又當度俵近左衛門座敷之石垣崩れ候に付、爲二修理一白米三俵被二成下一候、其節圓山之岸崩れ、犬東伊左衛門家打つぶし、借宅仕居候へ共、何之御見合も無二御座一候、光清寺石垣崩候に付、爲二修理一御銀參百目被二成下一候、是皆最屓之取成より被レ下候と諸人嘲申候

一　町人松岡伊左衛門爲二人參賣一江戶へ被二召置一候處に、天和元年之冬、御銀並に江戶町人之銀大分取込候由、左衛門聞屆穿鑿仕候へば、御銀九拾貫目餘、江戶町人之銀七拾貫目程取込候に相極候、就レ夫江戶町人之銀は人參賣役之者に、人參賣候代銀百貫目に付五百目宛被二成下一候口錢銀にて、年々なしくづしに被二仰付一、伊左衛門は同三年之春、爰許に御下被レ成内四拾貫目餘は、伊左衛門江戶在留之中御家中に借置候銀、江戶町人に借置候銀にて上納相調候分に成、殘四拾貫目餘は伊左衛門伯父番柳左衛門、其外親類共より銀山やきかね運上銀、伊左衛門父以來方々へ借置候銀にて上納可レ仕候間、命を御

助被ㇾ下候へと訴訟仕候に付、願之通に伊左衛門命を御助被ㇾ成、同年七月之末、阿連村へ牢居被二仰付一、其後右訴訟仕候樣に、四拾貫目餘之御銀無二相違一致二上納一、去年閏三月之始、伊左衛門牢人御赦免被ㇾ成、只今は銀山など仕居候、如ㇾ此被二仰付一候儀、御銀御損失に不ㇾ成樣にとの御事にて、死罪にも不ㇾ被二仰付一由に御座候へ共、伊左衛門手前より出し候銀は、方々へ借置候銀、家屋敷之代銀計にて、人參之口錢銀・やきかま運上銀は皆殿樣之御銀にてこそ候へ、壹分も伊左衛門手前より出したる銀にては無二御座一候、其上伊左衛門代に勤候者より只今迄人參賣役勤候者、口錢銀も不ㇾ被ㇾ下候故、江戶在留之堪忍も成かね及二難儀一候、燒かま運上出し候者も、伊左衛門取込故に、上間敷運上銀を上候樣に心得、被二召上一間敷物を被二召上一と申由御座候、以前より五貫目拾貫目之取込故に、死罪に被二仰付一候侍數人御座候へ共、百六十貫目取込候伊左衛門は、柳左衛門訴訟之通に被二仰付一、牢人も早々御免被ㇾ成候、明日にても御銀大分取込候者出來仕、其親類より柳左衛門訴訟の如くなる訴訟仕候はゞ、願之通に可ㇾ被二仰付一候哉、是程取込難き大分之御銀を取込、助かりにくき命を助り、難ㇾ叶訴訟相叶候儀、古來無ㇾ之事に御座候、如ㇾ此成行候儀、定而故有事に候はんと申候

一　去年之夏國分寺に植長老申請振廻仕候坐にて、大浦作兵衛致二醉狂一、西山寺に狼藉仕かけ候故、作兵衛脇差を西山寺奪ひ取て脇へ投すて、侍に不二似合一耻辱に及、世間皆笑物に仕候へ共、終に御僉議も無二御座一、其外此以前も難二召使一程之大耻辱に及び候者御耳に立候而も、別而宜敷被二召使一候者も

御座候、貞享元年之春、春日龜三四郎致二醉狂一、西川嘉長と口論仕候得ば、御扶持被二召上一候、是人により其罰密敷被二仰付一候

一　六年以前佐護杢左衛門御勘定役勤め、平田源五四郎御送使掛之時、御送使掛之者内入の端物賣拂候間、御勘定所之御印判請度と申候、其時杢左衛門申候は、端物之荷物ぬれ有レ之時は、何時も勘定役之者相對にて荷をとき、内入有レ之候へば、内入端物何程有レ之、内何程は大ぬれ何程は中ぬれ何程は小ぬれと三段に分け候而御印判を押し、其後賣拂候へば、直段之吟味も仕候而賣、御印判を押申候筈に候、然に荷をとき候時も不二申斷一、端物ぬれの程も見せず、賣拂候時直段之高下も吟味なく、只今内入端物何程賣拂候と被レ申候而も、それほど有レ之候も、無レ之候も、大ぬれにて候も、小ぬれにて候も、高直に賣れ候も、下直に賣れ候も、曾而不レ存候而御印判押候儀、難二心得一候と申候、其時々御支配役杉村三郎左衛門右之趣聞屆、杢左衛門を呼寄せ、御送使掛に内入端物賣拂せ候儀は、我等指圖仕候處に、不レ入僉議を仕候と甚だしかり候、杢左衛門返答には、御指圖にて御座候段は終に不レ承候、御指圖之上はとり分申筈にて無二御座一候、何事も私老耄にて御座候間、御免被レ下候へと理り申退、其後追付役儀辭退之訴訟仕候へば、早速御免被レ成候、其時分は少宛みゝぬれ仕候端物、しかとぬれざる端物も内いり〳〵と申候而、甚下直に賣拂、三郎左衛門送使掛之者を始とし何れも買取候、端物に不限、此節何程も御座候故、杢左衛門度々如レ此僉議仕候に付、無二道理一事を申樣に成、役儀も難レ勤成行

候故、辭退之訴訟仕候へば、早速被㆓指除㆒候、杢左衛門儀は殿樣御爲を專に奉㆑存候故、誰人に當り候も不㆑顧、ヶ樣之僉議も仕候處に、辭退仕にまかせられ、役儀は除被㆑成、其後何役にも不㆑被㆓召使㆒、忠が不忠と罷成候儀、殘念なる御事に御座候、一人にても如㆑此者を御捨置被㆑遊候而は、忠義之者不㆓出來㆒基にて御座候

如㆑此依怙贔屓之私多く御座候故、蒙㆓御恩賞㆒候者も、或は己が親類縁者之願、或は己が才覺之力を以求得たる樣に心得、殿樣御恩賞は疎略に奉㆑存、又無㆓依怙贔屓㆒其忠功忠義相當之賞を被㆓仰付㆒候而も、世間よりは何某は親類縁者にあらずば、何某を不㆑賴ばなどゝ疑をなし、善にすゝむ者無㆓御座㆒、又忠功忠義有て、不㆑得㆓御恩賞㆒者は恨み憤り、罪有而刑罰に被㆓仰付㆒候者は、己が科とは不㆑覺、其身無㆓贔屓之助㆒故と思ひ、諸人刑罰を恐れて身を謹み、惡にこるゝ者も無㆓御座㆒候、因㆑玆諸人皆世の中は諂ひ求めざれば身を立る事難㆑成と心得、只今之風俗老若共に諂ひ僞のみ多く成、權威有者之[illegible]を勤る時は、殿樣之御事を勤るより厚く勤候者も有㆑之、信義有て正敷者少く罷成候、誠に下より上を公儀と申も、上は私なく公なると申儀にてこそ候へ、依怙贔屓之私有ては公儀と難㆑申候、下之是非・邪正・善惡・曲直皆殿樣御一人之御明斷をこそ奉㆑賴候處に、不信不義にして諂ひ求る者は幸を得、信義にして不㆑諂不㆑求者は不幸に御座候而は、諸人信義を失ひ、忠義を盡す者も御座有間敷候間、向後賞罰・訴訟・人品々僉議等御聞被㆑遊候時は、嚴密に御穿鑿被㆑遊、少も依怙贔屓之私なく、悉く其道理に當り

候樣に被二仰付一候はゞ、御恩賞を得候者は骨髓に徹して辱く奉レ存、罰を蒙候者は己れが罪を覺りて不レ奉レ恨、一人之賞を萬人喜び、一人之罸を萬人恐れ、善にすゝみ惡にこり、諸人正敷可二罷成一候御事

一　殿樣御小身に被レ成二御座一候而、以前より御家中之侍他國へ御出し不レ被レ成、被二召抱一候故、御扶持人年々に增し、只今之御分限にて、後々に至而は悉御抱被レ成儀難レ成筈に御座候故、何とぞ御扶持を輕く被二仰付一、貳人被二召抱一候御扶持にて三人被二召抱一樣に不レ被レ遊候而は、不レ叶御事に御座候、然處に古來地方にて被二仰付置一候御家中之知行を、高に付三ッにして、各始之知行より御加增被レ成、御藏前にて被二成下一、三ッ之內常には貳ッ三分宛被レ下、殘七分は最合にして、旅に被二召使一候時計り被レ下格に被二仰付一、大小姓御步行之侍にも御加扶持被二成下一候者多く御座候、其後御馬廻中より訴訟仕候而御許を得、延寶四年朝鮮より雜穀を買寄せ商賣仕、每歲最合之分を雜穀商之利にて取、又天和元年之正月、最合之分を何れも高に御加へ、御加增に被二成下一、望次第に高百石に付三拾石宛、地方にて被レ下、地方之物成高拾石に付麥八俵宛に御定、右同時御大小姓十八人之扶持切米を知行に御直し被レ下、御馬廻に被二仰付一、御年寄共を始め、其外之御馬廻に度々御加增被二成下一、樋口靫負には知行三百石迄被レ下、近來は他國より侍數人被二召抱一、坂田城那等にも大分之御銀被レ下、檢校に被レ遊、御馬廻之家督は三百石四百石之大知行も無二相違一被二仰付一、御步行之者之家督は貳人扶持切米貳石以上なれば御減じ、貳人扶持切米貳石宛に被二仰付一候、年々御扶持人多く成候故、只今は凡知行高貳萬四千

六百石餘、此物成麥五千八百三十俵、米三千九百八拾貳石、扶持切米八千石程、御家中に被ニ成下一候、如レ此被レ遊候段、殿樣御あやまりは不レ及ニ申上一、御年寄共私なる仕樣、無仁・無義・無智・無忠諸人之嘲、御步行之者之恨、委細は是非難ニ申上一候、先年御家中之知行を御藏前に御直し被レ成候時、隼人知行は貳拾四間餘、伊織知行は十五間餘にて御座候處に、各四百五十石宛拜領被ニ仰付一、右之地方には二双倍餘、三双倍餘宛之御加增にて御座候、其後又度々御加增被レ下、最合之分も高に加り、地方に成候分は麥物成迄故、只今隼人は七百七十石、伊織は六百八十石迄拜領仕、前之地方知行には大抵四双倍、五双倍之御加增にて御座候、其外之御馬廻も、以前之地方知行に御加增にて無レ之者は、一人も無ニ御座一候、先御代には御家中之御馬廻百人に不レ足、知行高五百間に不レ過候處に、只今は御馬廻百參十人に餘り、知行高貳万四千六百石之物成は、米壹万六千九百七十俵にて御座候故、先御代には三双倍餘之增しに罷成候、御先祖樣以來貳萬石之御分限にて、殿樣御一代に御家中に被レ下知行、先御代之三双倍に罷成、知行之物成扶持切米、何れも現米にして壹万三千六百五十六石程にて御座候、此現米四ッ成之知行にして、高三萬四千石餘に當り候へば、貳萬石之御知行を不レ殘被レ下候而も、壹萬四千石餘は不足なる積にて御座候故、只今之被レ遊樣にて、末々迄無レ滯御續被レ成儀難レ成、又若殿樣御代に忠節忠功を盡し候侍に、御知行御扶持を可レ被レ下時は、何を可レ被レ下候哉、少も無ニ御考一被レ遊樣にて御座候、殿樣は光雲院樣より貳萬石之御家督を御讓受被レ遊、今日迄は一石之御加增も御拜領不レ被レ遊、以

前之御分限に被レ成二御座一候處に、隼人・伊織は如何樣之忠節を盡し候而、殿樣御分限を不レ顧、被レ下にまかせ、四双倍・五双倍之加增を心よく拜領仕候哉、只今程之分限にて無レ之候へば、御家老職勤り不レ申事に御座候哉、隼人・伊織さへ此所を不レ顧候へば、左衞門・孫左衞門・與左衞門等が輩は可二申上一樣無二御座一候、地方にて被レ下來候知行を、御藏前に御直し被レ下候時、津江兵庫は後日之成行無二覺束一と悔み申たる由に御座候、最合之儀始は旅に被二召使一候時計り被レ下御定に御座候處に、何角訴訟致し、常には不レ被レ下法之俸祿を私に商賣仕、其利潤にて各分ち取候段、士に不二似合一仕方にて御座候、ケ樣之儀御免被レ成候故、其費により、只今も町人共資出運上之利を取居候を、御步行之者共申請仕候、終には最合と申法を破り、各知行之高に加へ拜領仕候、如レ此高に加へ被レ下候とて、其分を常にたくわひ置、旅へ被二召使一候時之遣銀にも不レ仕、旅人被二召使一候へば、仕廻かね及二難儀一候、又御大小姓十八人を一度に御馬廻に被二仰付一候節、此十八人之扶持切米は七十石之物成に、あまりの多少無レ之候故、大小姓にて被二召使一候より、馬廻に被二仰付一被二召使一候方が、御爲に成候との御事の由に御座候、如レ此道理は日用取など御やとい使被レ遊時は可レ宜候へ共、侍を被二召使一候には、甚不レ當御僉議にて御座候、侍たる者は忠節・忠功・器量・才德により、それ〳〵に應じ被二召使一筈に御座候故、いかほど忠勤御座候而も、御馬廻に難レ被二召使一者も有レ之、未だ忠功無二御座一候而も、才德により御馬廻に被二仰付一者も可レ有レ之事に御座候へば、扶持切米七十石之物成に當り候故、御馬廻にして被二召使一候

が御爲とて、其忠勤器量御撰びなく、一度に十八人御馬廻に被二仰付一候而は、御恩にも不二成一、罷辱奉レ存心も輕き筈に御座候、其上七十石之物成に當り候扶持切米之大小姓に、御馬廻に不レ被二仰付一、相殘候者も御座候、惣而御家中之御仕置は、無足之輕き身體之者程諸事辛く、御馬廻之大身程勝手能被二仰付一候故、何によらず面々得候物は、知行高程多く得、手前より出し候物は、其分限程に多くは出し不レ申、小身之者も奉公之方に遣ひ申分は、大身にあまり違ひ不レ申候、其上大身之者程、知行之外に金銀も大分拜領拜借被二仰付一、手前十分に餘り候故甚奢り、衣食家財は不レ及二申上一、過分之家作仕、古來有來候丈夫なる石垣をこぼちて長屋門を立、結構を盡し候、是皆殿樣より被レ下たる物と、御國之竹木土石を費し立候へば、此修理も亦殿樣より不レ被レ下御國之竹木を不レ費候へば、不二罷成一筈に御座候故、後々迄殿樣之御物入にて御座候、誠に如レ此大過不及なる御あてがいに御座候故、御家中之貧富も大に優劣御座候、猶輙負に知行三百石被レ下候儀、定而三百石被レ下器量才德有者に御座候故、被レ下たるにて可レ有二御座一候得共、未だ少年に御座候而、御側奉公仕候へば、殿樣御一人御知被レ成、御家中之者曾て不レ存候故、只御寵愛之餘り、若輩者に大切之厚祿を被レ下、御私なる被レ遊樣と申候、今少し御待被レ成、輙負致二元服一、表向きの奉公勤、器量才德あらはれ候時に至而被二成下一候はゞ、殿樣之御私とは申間敷候、御家中之侍共嫡子之外は不レ被二召抱一、庶子・末子共流浪仕及二難儀一候故、繼間敷家を繼ぎ、成間敷養子に成、奉公に罷出候、然共未レ被二召抱一者何程も御座候而、流浪仕居候故、他國之侍被二召抱一、

御扶助にて未レ被二召出一庶子・末子被二召抱一候はゞ、其者は不レ及二申上一、其父兄・親類迄辱奉レ存、忠勤を盡すべく候、儒者・軍者・鐵つかい・能・拍子等之御用にも、御家中之侍を御仕立御用被レ遊候はゞ、猶以宜可レ有二御座一候、御國生之者總て他國之者におとり申筈無二御座一候故、御仕立被レ成樣にて何之業も可二仕得一候、先年坂田に拾五貫目御銀被レ下、檢校に被レ遊御簡略とて少宛被レ下候、扶持人之御扶持さへ被二召上一候而、去年又城那に十貳貫目之御銀被レ下、檢校に被レ遊候故、無二道理一被レ遊樣にて御座候と奉レ嘲者多く御座候、貳人扶持切米貳石被レ下、御歩行之者如何程輕き者とても、一家四人五人より少き身體無二御座一候故、父母妻子を養ひかね悉及二難儀一、奉公之隙には自身薪伐に行き、魚釣に出、御扶持之足に仕、淺間布過しを致し、奉公相勤申者多く御座候へ共、不便にも不レ被二思召上一、御年寄共は殿樣御小身に被レ成二御座一候故、御歩行侍之貳人扶持を御直し被レ成儀難レ成と申、我々は不足なき身體にてあきたらず、七百七十石・六百八十石迄拜領仕、貳人扶持之者には、今迄終に壹合之御加扶持も不二申付一候、殿樣御小身成事、貳人扶持を御直し被レ成所には見え、我に加增被レ下時は見え不レ申事、不仁とも不義とも、難レ盡二筆紙一候、其上御馬廻之家督は三百石・四百石之大知行も無二相違一被二仰付一樣に仕、御歩行之者之家督は、貳人扶持に切米貳石宛に被二仰付一候樣に仕候、大知行之家督無二相違一被二仰付一、御馬廻之侍如何樣之忠功御座候哉、小扶持之家督御減被二仰付一、御歩行之侍共如何樣之不忠仕候哉、如レ此被レ遊候故、諸人奉レ恨候事は尤至極に御座候、與々之者年久敷奉公申上候とて、

御歩行侍に被㆓仰付㆒候者度々御座候故、末々之者迄御忘不㆑被㆑遊候段、諸人辱奉㆑存候、乍㆑去當度夫小頭三五右衛門石普請仕、一左衛門御歩行侍に被㆓仰付㆒候儀、彼者共才德有者に御座候はゞ、左樣可㆑有㆓御座㆒候へ共、只能勤候との事計りに御座候へば、あまり過たる被㆓仰付㆒樣にて御座候、家によ り歩行侍を被㆓召抱㆒時、先祖を穿鑿被㆑成、侍之子孫にて無㆑之候へば、不㆑被㆓召抱㆒家も有㆑之、既に先年御家中之侍も、山伏拂者・大工鍛冶・平町人子を、養子に不㆑仕樣にと被㆓仰付置㆒候事も御座候故、夫之者體を御歩行並に被㆓仰付㆒儀無㆑之筈に御座候、此類之者を御歩行並に被㆓仰付㆒候事多御座候故、御歩行侍之列次第に下劣に罷成候と、御歩行中間何れも口惜存候、ヶ樣に與之者、夫之者體迄年久敷奉公申上候へば、立身被㆓仰付㆒候處に、御歩行之侍二代も三代も御歩行にて、若年より老年迄相勤候者、如何程も御座候得共、少之御加扶持も不㆑被㆓成下㆒、大小姓並にも不㆑被㆓仰付㆒者多く御座候故、御歩行之侍は與之者共より疎に被㆓思召㆒候樣に御座候間、御歩行之者之內數代奉公申上、若年より老年迄相勤、終に不調法不㆑仕者は、御大小姓に被㆓仰付㆒候か、少之御加扶持成共可㆑被㆑付御事に御座候、誠に御家中大身より小身之末々迄、知行扶持之御加增被㆑下、或は金銀大分拜領拜借被㆓仰付㆒、或は御歩行を御大小姓に被㆓仰付㆒、或は大小姓を御馬廻に被㆓仰付㆒、御當代に御取立被㆑遊候者、幾人と申限無㆓御座㆒、御厚恩至極に御座候へ共、忠義・器量・才德之御僉議、正敷詳に無㆓御座㆒、忠功常に不㆑勝者、才德常に不㆑異者も、たやすく加增立身被㆓仰付㆒、又贔屓之私にて、不忠・不義・不才・不德之者に、加增立

身被二仰付一候者も御座候故、今誰ぞ加增立身被二仰付一候而も、我程なき者さへ、是程の仕合は何程も有レ之などゝ思ひ、御厚恩程に辱存勇み勤候者見え不レ申、還て恨みすさむ者多く御座候、如レ此御座候、如レ此御座候故、御家中不平不和にして不レ奉二心服一候間、御手前は不足に被レ成二御座一候共、先貳人扶持切米貳石之者を、子弟たる者は御除け、三人扶持に切米參石宛に被二仰付一、最屓之私は不レ及レ申上一、御不僉議にて一人も御用ひ不レ被レ遊、忠功ある者、才德ある者は無二御捨置一、速御取被レ遊、少之御加增、少之立身も無レ故不二仰付一、一紙半錢之御惠みも、道理を御立被レ下候はゞ、拜領仕者も深く辱奉レ存、諸傍輩もうらやみ、何れも忠義を勵み可レ申候、只今被レ下被レ置候知行も、過分之大知行は何とぞ序而を以御減じ、足らざる者に御增し、貳人被二召抱一御扶持にて、三人御抱被レ成樣に被レ遊、貧き者を御惠み、賤き者を御憐み被レ成、只今之御分限にて侍共他國へ御出し不レ被レ成、御法度立候樣に被レ遊候はゞ、殿樣にも御不足なく、御家中之諸侍も普く御扶助を蒙り、子々孫々迄永く奉公可二申上一候事

一　近來御家中之侍、大身小身共に甚致二困窮一及二難儀一候、扶持取は以前に御扶持增候者多く無二御座一候得共、知行取は何れも一倍・二倍・五倍・七倍之加增致二拜領一、大に富候故、いつとなく世間物ごと丁寧に罷成、御家中大身小身我々體迄甚奢り、衣食家居結構に仕、入る分出す分之積なく遣ひ、其上御銀拜借被二仰付一候故、不足之分は拜借迄仕り遣ひ候、然處に近年以來拜借銀を被二召上一に付、知行扶持之內にて、拜借銀之多少に因り、知行扶持之分限に應じ、每年共高之壹分・二分・三分・四分程宛御引被

レ成候故、始知行扶持直に取申候時さへ、不足に御座候而致二拝借一候身上之者共、只今は各知行扶持之内、分々に應じ拝借銀引け候へば、身上不足仕間敷様無二御座一候、其外拝借銀無レ之者は、其分困窮ゆるく御座候、又御扶持取共は世間につれ身持少は分限に過たる者も可レ有二御座一候へ共、奢り候ほどの事は無二御座一候、然共貴きも賤きも、一年増に子孫多く成、家内之人數増し、拝領仕御扶持切米は、始のまゝにて増し不レ申、其上以前之様に朝鮮御代官にも不レ被二召使一、役料扶持も不レ被二成下一、御扶持切米之前がしも不レ被二仰付一、麥などゝも多く御渡不レ被レ成候故、次第に指つまり申筈に御座候、如レ此故にて何れも困窮仕、武具・衣類・家財等質に入、それにても身體不レ續、家屋敷を賣候者多く、御扶持切米請取印判を質に入候者、貳百人ほど有レ之由に御座候、御歩行之侍此頃に至ては彌困窮極り、御扶持切米之前借不レ成事を知ながら御米藏に出、御扶持切米是非御借被レ下候へと申候而、付居候者毎日幾人と申限無二御座一、又不レ寢之番に被二仰付一被レ下候へと、御與頭方迄望候者も多く御座候、如レ此望人意は、不レ寢番之者共には衣食被二仰付一候故、家之夕飯は妻子にくはせ、其身は衣食を可レ被レ下との望にて御座候、偏に乞食にもおとりたる成行に御座候、元來御家中之侍貳百石以上之身體たる者、分限相應に仕候へば、少も不レ及二困窮一筈に御座候、然るに困窮仕候は、やくかいに成者多く候か、過分に遣ひ候か、奢りた事仕候か、何ぞ困窮仕る故可レ有二御座一候、貳人扶持三人扶持被レ下候侍、一家五人七人居候而富豐に過し候は、大に御扶助を蒙りたる事有レ之候か、商賣を仕候か、邪慾を仕候か、何

ぞ富豐に成たる故可レ有ニ御座一候、此處を能御聞被レ遊候はゞ、御家中之侍共善惡曲直は、御知被レ成にて可レ有ニ御座一候、既に先年御巡見上使奥田今右衞門殿さへ、早川三郎兵衞・平田源五四郎家居を御覽被レ成、三郎兵衞・源五四郎知行之分限を御尋聞被レ成、贔屓ある家中と見へ候と被レ仰たる由に御座候得共、殿樣には此處に御心を御付不レ被レ遊と見へ申候、誰にても分限に過て富める者は、多は邪慾より得たるにて可レ有ニ御座一候、困窮不レ仕程に御扶助被ニ仰付一候者、無レ故困窮仕候は、大成不忠にて御座候、四人扶持切米四石以下之身體たる者、一家五人七人居候而、困窮仕候は尤も至極に御座候、何程輕き身體之者も、一家四人五人より少き人數之家は無ニ御座一候故、貳人扶持・三人扶持・切米貳石三石被レ下候者は、猶更飢寒之憂難レ免筈に御座候、然共無ニ異議一奉公相勤候は、奇特成事に御座候、高貳百五拾石被レ下候侍は、貳人扶持切米貳石被レ下侍に、十倍餘之御扶持にて御座候へば、御家中一統困窮と申内に、貳百石以上之侍は奢より貧敷成、三人扶持・四人扶持以下之侍は、不儉より乏敷成候故、惡むべきと、憐むべきとの差別可レ有ニ御座一候、唯今も知行取之困窮は、家屋敷之破損・衣服之見苦敷を調る事不ニ罷成一、扶持取之困窮は、父母妻子之飢寒を救事不ニ罷成一體に御座候、如レ此御座候へ共、以前よりの御仕置、何物も大身程厚く被ニ仰付一、小身程薄く被ニ仰付一、御簡略被レ遊始にさへ、御年寄共役々之者共には、何ぞ替りたる忠功無ニ御座一候得共、知行之御加增被レ下、皆溫なる者は益御あたゝめ、寒へたる者は彌こゞやかし被レ成樣に被レ遊候故、御年寄共、御勘定役其外大身なる者共家には振廻、琴・

三味線・躍・小歌の慰み不ㇾ絶、貳人扶持・三人扶持之侍は、朝夕之飯米續きかね、夏冬之着物不ㇾ足、父母妻子及ニ飢寒一、歎き悲しみ申者多く有ㇾ之、既に先頃岩井治部右衛門大不義を仕、牢人被ニ仰付一候事も、此處より出申候、とかく貳人扶持切米貳石之身體は、いつとても妻子の養ひ不ニ罷成一筈に御座候、假令飢寒之死に及び候とても、御先祖様以來御代々奉公申上候者共之子孫に御座候へば、他家之望仕者にても無ニ御座一、喜びも悲みも殿樣を可ㇾ奉ㇾ頼より外無ㇾ之者共に御座候間、偏に御慈悲を以、御加扶持被ニ仰付一、其外大身小身共に何とぞ困窮くつろぎ候樣に御救被ㇾ遊、彌簡略密敷被ニ仰付一候はゞ、何れも相續き辱可ㇾ奉ㇾ存御事

一　町中近來甚困窮仕、諸商賣無ニ御座一、炭・薪・肴・野菜・菓子等之類迄悉く下直に罷成、借家借の者迄續かね、借家賃の拂も不ニ罷成一、町中の借家も次第にあき、家屋敷を賣申者何程も御座候へ共、買手一圓無ニ御座一、家財を賣衣服を質に入、妻子を賣朝夕之飯米續かね、及ニ飢寒一者際限無ニ御座一、古來稀代之困窮にて御座候、如何樣之事にて如ㇾ此困窮仕たる事にて御座候へば、以前は町人を朝鮮御代官に、七八人十人宛程宛毎度被ニ召使一、壹人前に五十貫目・三十貫目程宛まうけ候故、其者共に付渡候者迄、共影にて分に相應の小利を得、或は札を買罷渡候者、或は御送使之僉官に付渡候者も、御代官共より御商賣之代物を買掛、又御免之商物も持渡、心安く商賣仕、面々利を得、各夫躰之者は袋米之御免有ㇾ之、又朝鮮へ不ㇾ渡者は、御家中町中を受、各似合之商賣仕過候へ共、以前御代官勤候御商賣を、御商

賣掛に被ニ仰付一、御代官に渡候者も無レ之、只今御商賣掛に付渡候者、御送使之僉官に付渡候者、其外在舘之者共御商賣之格違ひ、御商賣掛より御代官等買掛り候事も不レ成、小間物請なひ被ニ仰付一、以前御免之小間物持渡候事も不レ成、其上天和三年之夏、和舘之門に御高札御立被レ成候以後、朝鮮人昔之十分一も舘內へ出入不レ仕候故、少之商賣仕事も不ニ罷成一、袋米等之御免も止り、其外以前に悉替り候故、朝鮮へ渡候而利を得候事一切斷絶仕、町中衰微致し、御家中も困窮にて御座候故、朝鮮へ往來仕たる者も、爰許にて商賣仕たる者もなべて生業を失ひ、右申上候樣に困窮仕、今月十二日之夜、一橋近所に居候藤左衞門と申夫婦、海岸寺之下にて身を投げ死候も、飢寒に堪かね候而の事に御座候由申候、如レ此御座候而も、只今之御仕置は殿樣にさへ利あれば、下々は倒てもつぶれても御憂不レ被レ成樣に見へ申候、國天下之亡び候事も、多くは萬民之困窮より起り、又人窮すれば義を忘れ、暴惡を巧み申儀多く御座候故、朝鮮へぬけ船を仕候か、放火・盜賊之難出來仕候か、必大なる災有レ之事も可レ有ニ御座一候、左樣無ニ御座一候ても、只今之樣に御見捨置被レ遊、飢寒之死多く御座候はゞ、御救も不レ屆御難に可ニ罷成一候間、町中くつろぎ候樣に被ニ仰付一可レ然候事

一　八郡去年之秋、田畠大に風損仕候に付、百姓致ニ困窮一候、就レ夫去冬飢飯米、並に麥・粟・蕎麥・大豆・小豆等之種物拜借被ニ仰付一、御救被レ成候へ共、天和元年御巡見上使御廻被レ成、相續而翌年朝鮮より信使渡に付、郡中民力を費し、其以來去年迄田畠之出來も勝れ不レ申、其上近來は御家中町方困窮に

付、肴・菓物・薪等之賣物持登り候而も、甚下直に御座候故、萬のかせぎ不利に罷成、公役頭銀等調かね及ニ難儀一候、百姓困窮極り候はゞ、御救も成かね、公役頭銀等も調り不レ申、還而御損失に可ニ罷成一候間、以ニ御僉議一困窮不レ仕様に、兼々被ニ仰付一宜可レ有ニ御座一候、又先年より大分之御普請被レ遊、御家中迄而々結構なる家作仕候故、郡中之松・栗・椎・槻・楠等之能材木夥敷伐れ、其外以前より銀山之炭やき共不斷炭をやき、近來は他國より薪買船多く入込、炭やきも運上にて御免被レ成候故、八郡何れ之所も山林悉荒れ申たる由に御座候、如レ此御座候而は、能材木乏敷罷成、後日御事欠可レ被レ遊候間、兼而山林荒れざる様に可レ被ニ仰付一候、將又知行地方にて拜領仕候侍共之内、各知行所之百姓に無理なる仕掛致す者も有レ之由に御座候、以前より御壁書にも、私成儀不レ仕様に被ニ仰付置一候間、彌堅相守候様に被ニ仰付一候はゞ可レ然候事

一　以前は朝鮮より誠信を被レ盡、此方様よりも禮儀正敷被レ遊候故、彼方より厚く接待被レ仕、御求不レ被レ成物も被レ遣、此方様よりは御辭退被レ遊候様に御座候つる處に、いつとなく諸事正敷不レ被レ遊、御求多く成候へば、彼方よりも誠信薄く罷成、御用之事も不レ聞様に成たけ防がれ候、然共朝鮮は本邦に難レ背勢に御座候故、強而御求被レ成儀は、無ニ是非一枉而被レ從、只今は古來御約條之事にても疎略に被レ仕、少之事も御爭論に成り、諸事惡敷罷成候、此方様よりのみ被レ遊様不レ宜儀、見聞仕候趣あらまし書付申上候

一　本邦と朝鮮と御通交之御取次役被ㇾ遊、只今朝鮮へ被㆓召使㆒候役人多く御座候へ共、專ら御通交之事に懸り候役は、館守・裁判のみに御座候、此兩役に佐役を御付被ㇾ成候か、別に役を御立被ㇾ成候か、通事なども五人も七人も御仕立置、朝鮮之事を精敷御知らせ置可ㇾ被ㇾ成事に御座候處に、左樣無㆓御座㆒候、彼方には本邦之事に懸り候役人、譯官より通事・館直等に至迄數百人有ㇾ之、以前より有ㇾ之候程之事は、大となく小となく悉詳に記置、古き事を知たる人も多く居候故、何ぞ爭論之事有時は、慥成證據をひかへ被㆓申立㆒候、然共此方樣には左樣之委敷記錄、古き事覺たる者も御持不ㇾ被ㇾ遊候故、必御まけ被ㇾ成か、御勝被ㇾ成事も無理勝に成り、又先頃之告還之御使者、漂流人護送之御使者の如く、及㆓御爭論㆒間敷事も被ㇾ成樣惡敷故にて、御爭論色々御言葉を被ㇾ盡、漸く本の分に相濟候故、御あやまりか、御知謀薄きかのやうに罷成候

一　朝鮮裁判役以前は壹人宛に被㆓仰付㆒、何れも年久敷勤候處に、近來は兩人宛に被㆓仰付㆒、一渡・二渡宛にて交代被㆓仰付㆒、其上御與頭役・館守役勤候者も裁判に被㆓仰付㆒候故、朝鮮人共批判に被㆓仰付㆒も道なく、勤るも義なしと申、普く米取裁判と名を付、笑物に仕由に御座候、其上當春も譯官之者古川平兵衛に逢、其方代は平田所左衛門・唐坊忠右衛門は加城六之進にて候由承候と申たる由に御座候、其說不ㇾ逢、此頃平兵衛代に所左衛門被㆓仰付㆒候、朝鮮役之內にて、裁判は何役より大切なる役に御座候故、智慧才覺有て、本邦と朝鮮と御通交之始より以來之諸事を能知りたる者に、年久敷御勤させ被ㇾ成

候はゞ、朝鮮之事情を漸々と委敷心得、能裁判と成可ㇾ申處に、右之通に被㆓仰付㆒候儀、御爲に何之善き事御座候哉、年寄共裁判に申付度者多く御座候故、贔屓之私より出、殿樣御爲は忘れたる仕樣にて御座候と諸人嘲申候

一　天和三年之度、際木之外へ出問敷事、上せ銀仕間敷事、市入候時面々之房內へ朝鮮人呼入商賣仕間敷事、五日雜物入來候刻、朝鮮之役人等をみだりに打擲仕間敷事、兩國之間科人有ㇾ之者、於㆓舘門之外㆒可ㇾ被ㇾ行㆓罪科㆒事と五ヶ條有ㇾ之、御高札を舘門之內に御立被ㇾ成、彼方よりも大石にほり付、坂之下・番所之前に被ㇾ立候、此法度之通に被㆓仰付㆒候はゞ、只今御商賣掛之者も、御商賣に上せ銀仕候故、御商賣掛之者を始とし、舘門之外に罪科に被ㇾ行者幾人と申限御座有問敷候、就ㇾ夫舘守も御高札之御法度立候樣に申付る事も不ㇾ成、ゆるめ申事も不ㇾ成、迷惑仕居候、此高札立候に付、當時朝鮮へ渡候輩は不ㇾ及㆓申上㆒、永く御國之害に罷成候、此一事之初發何者之心より出、殿樣に宜敷樣に申上候哉、御年寄共何と心得仕候哉、今更歸らぬ事に成行、殘念至極成儀に御座候と萬人悔み申候

一　近來は御約條之外之御用度々被㆓仰掛㆒、難ㇾ成と被ㇾ申候而も、何角と被ㇾ仰、頻に御求被ㇾ成候故、朝鮮之朝廷方、殿樣は御利慾深く被ㇾ成㆓御座㆒、義理を御知不ㇾ被ㇾ成と被ㇾ申、中にも移舘を御求被ㇾ遊、御願之通に御移被ㇾ成候へ共、何ぞ見へ來候利も無ㇾ之、還而始之舘よりは便利惡敷成、朝鮮國數十萬之民力を費し、普請夫數百人相果候段、殿樣御心入御誠信薄く御座候と、甚被ㇾ恨由に御座候、就

レ夫只今は如何樣之輕き御用を被二仰掛一候而も、容易に許容不レ被レ仕、御約條之物も何とぞ可レ缺と被レ仕由に御座候

一 去年之春漂流之朝鮮人御送被レ成、和館に參着仕候節、爰許にて御渡し被レ成候鍋・小桶・置いろり・櫓・みざを・つな等、他國にて被レ下候分迄悉御代官方へ取候故、面々在所へ可レ歸と仕候而も、鍋・桶・いろりを不レ持候故、飯を炊き申事不レ成、みさを・櫓・網を不レ持候故、船を漕廻す事も不レ成、及二難儀一候に付、東萊へ此旨訴訟仕たる由に御座候、如レ此御座候而は、御誠信と可レ申樣無二御座一候

一 以前は朝鮮人御國之者共にしかられ候へば、恐れまはり色を變じ候樣に御座候つれ共、近來は御國之者朝鮮人より脇指刀を奪ひ取られ、或は打擲せられ、或は蹈れ蹴られ仕候樣に罷成候、誠に本邦と朝鮮とは和交之御事に御座候得共、本邦之御勢强く御座候而、朝鮮は萬事從ひ來候故、少々は無理非道を申掛候而も不二相背一候處に、昔と替り彼方より犯し欺れ候事多く、まる腰の長袖共に刀脇指迄被二奪取一候樣に成行候儀、御國之御耻は不レ及二申上一、本邦之御威光迄おとり、言語道斷不レ及二是非一次第に御座候

一 此前より朝鮮へ爲二御商賣一渡り候銀子、五百目に付四匁五分宛輕く掛候而指渡、於二朝鮮一御商賣之蠟・銅・丹・木・胡椒等之類、朝鮮人へ渡申には、百斤に付五斤宛輕く掛候而渡し、又御商賣に用候きんりやう二ッ御座候而、內壹ッは國渡きんりやうとて廉直に有レ之、同壹ッは請取きんりやうとてつよく

御座候、白糸・人參等請取候時、此請きんりやうにて、百斤に付三斤宛多く請取申由に御座候、如㆑此なる不直は天下之大禁にて御座候へば、下々も不㆑仕事に御座候、然るを殿樣之御商賣にヶ樣之儀御座候而は、下々之私曲邪慾を御禁じ被㆑成事も難㆑成、朝鮮國之思入可㆓申上㆒樣無㆓御座㆒候、只今右之不直を御直し被㆑成候はゞ、御商賣物之直段も違ひ可㆑申候故、御損に成候儀は御座有間敷候。たとひ御損被㆑遊候とても、右之如き不直御座候而は、朝鮮國之思入不㆑宜御事に御座候、如㆑此成行にては、後日如何樣之惡事出來可㆑仕も難㆑知儀に御座候間、向後は少も無㆓道理㆒事を不㆑被㆓仰掛㆒御約條之外之御求不㆑被㆑遊、古來御交來被㆑成候品々、無㆓斷絕㆒樣に御受被㆑遊、少之事も詳に記錄被㆓仰付㆒、館守・裁判之人品等能御撰被㆑成、何ぞ爭論御座候時は、少之事にても御負不㆑被㆑成樣に被㆑遊、禮儀正敷諸事御誠信に被㆑遊候はゞ、殿樣御威光次第に强く御成、朝鮮よりの尊仰日々に增し、御隣交之道長く衰へ申間敷御事

一　公方樣御不德に被㆑成㆓御座㆒、天下之御政道不㆑正、今迄御世繼も無㆓御座㆒候故、近年之中亂世に罷成事も可㆑有㆑之と下々申候、因㆑之其用心被㆑成國も有㆑之由承及候、亂世に成候而は、朝鮮之御通交も只今之樣には御座有間敷候、其上御國は米無㆑之御國にて御座候故、何より米穀不足可㆑仕候、然に只今之樣に御逼迫被㆑遊、侍・百姓・商人迄困窮仕居候而は、何事も調申間敷候間、何とぞ金銀御たくわへ被㆑遊、侍・百姓・商人之困窮御救被㆑成、諸人奉㆓心服㆒候樣被㆑遊、其外亂世之御用心可㆑被㆑遊候、又近

年は以前に替り、長崎へ唐船大分來候に付、唐より本邦を窺申志にて御座候と風聞仕候、此段定而虛說にて可レ有二御座一候へ共、古も其例有レ之事に御座候へば、偏に虛說とも難レ極事に御座候、其上御國は本邦より朝鮮堺にて御座候故、太平之世にも、朝鮮に對しての御武備無二御座一候而不レ叶御事に御座候間、朝鮮よりにても、唐よりにても、不圖兵船來候時、御防戰之御軍法兼而御定置被レ遊可レ然御事

右之趣定而聞違道理なき事共多く、又兼而悉御知被レ成、御吟味之上にて被レ遊、今更御聞被レ遊に不レ及事にて御座候はんも存知不レ申、又私に不二似合一儀を申上候と、御立腹被レ遊御事も御座候はんと奉レ恐候得共、大目付役を勤居候而は、御耳に可レ立事之緩急大小を考へ、其急なる事と、大なる事とより申上、人之惡は殿樣、次に御年寄共諸役人之惡より申上、少成共御政事之御爲に罷成事を申上筈に御座候、左樣無二御座一候而は、誓旨之趣にも背き、不忠不義と奉レ存、其上只今程御仕置惡敷事は、古來御座有間敷と諸人申候故、右之通書付指上候、雖レ然見及聞及候趣具に書載不レ仕得、書述も惡敷御座候而、御合點難レ被レ遊可レ有二御座一候、委細は口上にて申上度奉レ存候間、御前に被二召出一、御尋可レ被レ下候、右之趣若何者にも依怙贔屓を仕り、忠節だてを仕り、何ぞ心に少も私成事を挾み申上候はゞ、假申上所聞違なく、道理に當り候事御座候共、心根皆私慾より出、其上緩急大小を考へ候などゝ申上儀、悉妄言にて御座候、一事にても妄言を申上候へば、殿樣を欺き奉りたるにて御座候間、當時後日迄目付たる者之御見せしめに、私を如何樣之死罪にも可レ被二仰付一候、聞違又は道理

に當らぬ事、身に過たる事申上候段は、御免可レ被レ下候、乍レ去若私に過たる推參を申上候と思召御腹立被レ成、御手打に被レ遊とても、當役にては不二申上一候而不レ叶儀と奉レ存申上候故、少も不レ苦奉レ存候、萬一御政道之御心得に罷成事も御座候へば、仕合に奉レ存候、此後とても私何ぞ言上仕候事御座候はゞ、如レ此被二思召上一可レ被レ下候、以上

丁卯十月二十七日

賀島兵介印

右參拾四箇條內貳拾參箇條は附ケ條

此書村淸書は百田紙四十一枚に書調、同月晦日之朝、原熊之允を以指上

言上書終

桂川答問書

松浦暢守著

桂川答問書

松浦暢守著

第一條　論ニ增戶數一答

陶山先生旅人ヲ吟味シ戶數ヲ被レ極候一段ハ、先姑置不レ論、當今ノ急務ハ、作場ヲ廣メ民戶ヲ增候之御議論御尤至極、乍ニ慮外一基要ヲ被レ得候御所見被レ存、御國之百姓地面ヲ開キ廣メ不レ申候ハ不レ及レ云、有リ來シ原田ノ端々迄作詰不レ申、扨其作リシ所ハ至テ鹵莽ニテ作得少ク候、病因ハ百姓一人請持ノ地面、鄕里ニ依リ多少不レ齊候得共、大概一人前ノ畠ハ七八斗蒔キ計リニテ、一石蒔請持候村里ハ稀ニ可レ有レ之哉、「木庭」ハ拾モ拾五モ有レ之候村里一有レ之、荒シ置キ候テ、二十年振リニ伐候格法ニテ、貢賦ノ算法モ其通ニ候得共、山陽土多候歟、或ハ里近ク往反勞少キ場所十年內外ニテ切明シ、七八年蒔ノ畠之內、小麥・裸麥・麻ヲ作候分、引レ之カヘハ四斗程ナクテハ、麥ヲ不レ作候ニ付、凡中民ノ四俵程種ヲ蒔候ハ、皆木庭ニ於テスルニ御座候、「畠」ハ種用ト御上納ノ而已ニ當テ只力ヲ窮メ、一斗蒔ニテモ木庭ヲ餘計ニ伐開キ可レ申被ニ心得一、人ニ依リ御上納ダケモ、畠ヨリハ取入得不レ申、惣國壹段ノ畠ノ中ニハ、大抵御國一繩ノ畠ノ中ニ當リ、（御國ニテ一斗五升蒔候上、方一段ノ畠ニハ種七升程蒔ニ相見ヘ申候）陶山翁ノ書ニ、一段ノ畠ニテ上作

人ハ麥十二三俵取リ、養手入ニ惡敷下作人ハ三俵程取候ト被レ記置一候、一繩ノ畠ニテ、御國ノ上作人ハ三俵程取申候、試ニ貴家ノ後圃ニ養手入大概ニ被レ成、御作御覽候得、一坪ニテ二升取レ候時、一段ニ拾二俵ノ積リニ當リ申候、二升取レ候事ハ請合ガタク候得共、一坪ニテ一升取レ候事ハ、サノミ六ケ敷カル間敷、左候得バ一段ニテ六俵ノ所務ト相成申候、是ヲ以テ御考被レ成候得バ、御國作人ノ無ニ是非一事推テ可レ知候、諸國ハ地ヲ惜ミ力ヲ惜ミ、損得ヲ考合セ致シ、近頃或下賤ノ者九州邊ノ様子ヲ見候者申候ハ、上方ノ人ノ致シタ事ハ手戻リニ成候ハヌ様ニ致スヨシ、是レ好ク得タル申分ニ候　御國ノ農人ハ手間ノ入候ハ捨ニ致シ、町場ノイキ種セギト申習シ、幼キヨリ其氣ニ成リ、誠ニ末如ニ之何一、依テ陶山尊公ノ所見ニ、木庭作ヲ止メサセズシテハ、御國ノ農政ハ不レ興モノトテ、木庭ノ穩成所年々耕種可ニ相成一場ヲ段畠ニ拵候樣ニトテ、段畠役人ヲ仰付ラレ、御取掛リ御座候得共、其事モ遂ゲ不レ申候、右ノ風土ニ候得バ、今作場ヲ開廣イタシ候樣ニ候、空シク御下知有之候テハ、國中ノ民ヲ刑シ盡スト雖モ益ナシ、病因ヲ得テ療治ヲ施ス可キ事ニ御座候、木庭作ノ害山ヲ伐禿土ヲ動シ候故、大雨ノ節雨ヲタモチ候樹木無ク候テ、一度ニ谷川ヘ突掛、原野ニ溢レ、山ノ土ヲ流シ、川筋塞リ水逆行シテ、田畠ヲ損ズルコト不レ可ニ勝數一、依テ水損所ノ仕付ニ成候ト申事ハ無クテ、水損揚リ地ハ年々相增、原野ヲ廣メ候事ハ扨置、在來ノ畠ハ逐年ニ減ジ、貢稅モ同ジク減ジ候樣ニ成行候ハ、當今ノ勢ニ御座候、御覽モ可レ被レ成、右水災ノ事ハ陶山先生ノ諸書ニ被ニ論置一、集義外書熊澤作ノ由ニモ其論詳ニ有レ之候、然ルニ今木庭作ヲ爲レ止候事ハ、民心ヲ不レ可レ奪、其上今急ニ爲レ止候而ハ、

國民實ニ饑寒ニ及候、依レ之致ニ愚慮一候ハヾ、漆楮ヲ仕立候道ヲ始メ、其益在レ之候樣成行候ハヾ、麥ヲ作候利ハ譬ヘバ一年ニ百目ニテ、漆・楮ノ利ハ一年ニ五匁ニ致候テモ、木庭ヲ荒置候空年無レ之、同シ廻リニテ墾耕ノ勞モナク候故、政令其道ヲ被レ得、翕然從レ之ソウナモノニ候、本文ノ認樣悪敷、漆・楮ヲ先トシ、農政・開田ヲ次トスル樣可ニ相見ユ一、左ニアラズ、漆・楮ヲ爲レ植原田ヲ開クハ、何レモ農政中ノ事ニ候、而シテ農政ヲ興サレ候事ト、原田ヲ開キ候事ト並ビ行レ候テ、貴公ノ所レ謂增戸添村候モ、以ニ次序一而就可キ事ナラン、周禮之制モ十ガ一ニ始リ、以レ次有ニ輕重一、漆林之征二十而五、是四一之征也、唐ニ宜シクシテ、不レ宜ニ於日本一、宜ニ於諸國一、不レ宜ニ於對馬一申理ハ有レ之間敷候、漆・楮ノ儀ハ又追テ可ニ申述一、先閣レ之候

第二條　論ニ度田加賦一答

八郷一體ノ儀ハ不レ爲候得共、大概相察候所、只今ノ地面ハ寬文年御檢地ノ節ヨリ、却テ狹ク成居候方ニテ可レ有レ之、御書述ノゴトク、其時ノ下田只今上田ニ成候モ有レ之筈ニ候得共、其時ノ上田只今ノ下田ニ成居候モ有レ之ベク候、其譯ハ前條ニ申候通、第一ハ水災ニテ、此水災年々彌增候勢ト相見、農政之粗莽ハ則右ニ申候通故、以前ヨリハ狹キ方ニ成行候筈ト存候、成程竿延之郷里モ有レ之トハ相聞候得共、只今御檢地御取引ニ成候テハ、民ヲ騷シ候計ニテ、御實益無レ之、農政ヲ被レ興、下田ハ上田ト成、山麓モ平田ト成タル上ノ御取行ニ御座候、農事ヲ精シクシ、漆・楮ヲ植シメ候事、實ハ上之御取毛增候

樣ニトノ事ニ候ヘバ、農民共精ヲ出シ、上ノ命令ニ從ヒ候時、落着其身共ノ得分ニ成リ候事ニテハ無キ
コトト存候テハ、必定上ノ敎令ニ從ヒ間鋪、陶山先生モ此所ヲ被ニ論置一タルコトニ御座候、以前モ御國
モ他國ノゴトク、田地ハ百姓ノ物ニテ、富民ハ幾人分ノ地モ買併セ、貧民ハ富民ニ役セラレ候テ、貧
民多成行ニ付、不レ殘民ノ地ヲ上ニ被レ成ニ御取揚一、下民ニ平等ニ被レ成候分給候ヨリ以來、只今ノ如ク
地ハ上ノ地ト成、民ハ上ノ地ヲ請持作リ候形ニテ、周禮ノ井田同樣、他國ニ並ビ無レ之良法ニ御座候、
其寛文年民田ヲ被レ成ニ御取揚一候節之御心ト立テ候ハヾ、税ヲ被レ增候モ、地ヲ被レ分候モ、押テ不ニ相
成一所ハ無キ事ト存候得共、區畫措置極々極六ケ鋪、中々拙者式口吻ニ難レ及候、其節ノ御分ケ被レ成
樣、十間ノ何村ハ現民三十人御座候得バ、是レヲ民田三十ニ被レ成ニ御分一、十一間ノ何村ハ現民二十五人
御座候得バ、民田二十五ニ御分ケ被レ置候故、此村一人ノ地ハ彼村一人ノ地トハ多少不レ同候、是モ中ヲ
度リ國中ノ民田平均ニ致度モノヤト存候、左候得バ田租有レ田則有レ租ハ是迄ノ御取毛ニ不ニ相替一候得共、庸•
調有レ身則有レ庸、有レ戸則有レ調相增申候、扨又小島ニハ不似合成餘計ノ寺院ニテ、或ハ御朱印御判物、或ハ坪付御渡シ
被レ置、是ハ年貢掛不レ申、或ハ百姓一人前半地ト申、是ハ租麥計上納致申候、庸調ヲ不レ出寺多候故無住多、
檀家少候故貧寺勝ニ御座候、五軒三軒ヲ一ツニ合候得バ僧モ凌能ク、田地モ出百姓モ出來申候、給人
小知ノ輩ヘハ百姓地一人分、或ハ半人分宛付居、中ノ上ノ位ノ輩モ多ク、百姓地ヲ請込ミ居申候、夫
程餘分ノ御恩澤ヲ蒙リ居候故、嫡子ヲ府內ニモ遣シ、諸藝修行御奉公筋ニテモ爲ニ心掛一候カト申候得

バ、左ニテハ無レ之、庶子ト號次男三男ヲ愛候餘ニ、我知行ヲ分ケ別家ヲ建サセ、終ニハ杉山ヲ仕立候ヲ、鹿荒ヲ仕付候ヨト、左マデ無キ事ヲ手廻シヲ致シ、給人ニ成候モ間々有レ之候、是等モ極々之小知外ハ被レ成ニ御取上一、百姓ヲ可レ被レ成ニ御仕立一事ニ候、扨又開田ノ場所ハ給人中ハ願請開候ラヘバ、一粒モ年貢掛リ不レ申、其人ノ所務ニ成、或ハ夫ヲ以テ微勞無クシテ、次男ヲ新知ノ給人ニ致シ、少シ辨添候ラヘバ、平給人ヨリ馬廻ニ成シ、是等ハ誠ニ無レ謂寬仁過候弊政ニ御座候、是等ハ一入嚴ニ被レ成ニ御停止一度筋ニテ、素ヨリ御取毛之增候ハ□ナガラ、第一ハ墮弱成御座候、佐久間甚八江戸へ歸ツテ、御國ノ事ヲ士地ハ家中ガ銘々ニ分テ取リ、殿ノ取物ハ何モナキト申タルトノ事ニ御座候、是迄ノ御規格ハ丸デ改ルト申所ニナクテハ、御所務ハ相增シ不レ申、御仁心ヲ本トシ遊シ、法ト術トヲ以テ被レ成ニ御取引一、兼レ之年數ヲ掛不レ申候テハ相成ザル事、拙者式ノ管見ニ難レ及事計ニ候

御國ノ南北三十六里ニテハ無稽ノ説ニテ、御關所ヨリ府内マデ二十里ニ足ラズ、府内ヨリ豆酘マデ十里ニ足ラズ、二十六里ト申事ニ御座候、陶山先生ノ書ニ、御國ノ長サ二十六里ト申候得共、先年御國繪圖出來候時、船ニテ里數ヲ引クニ、南北十七里ニテ、二十六里ハ山ヲ上リ坂ヲ下リ候里數ニ候、對馬平地ノ積南北十七里、東西並シ二里半程ナルベシ、是一里角ノ坪四十二坪半也、（四角ニシテ六里三十一丁九間一合二勺）昔ヨリ有來ル田畠ハ、田二百町程、畠ハ千六百町程、合千八百町、是一里角ノ坪一坪半也、木庭ノ中ノ山田ト成リ、山畠・段畠ト成ベキハ木庭也、高ノ十一分ノ一ナラント云フナレバ、其十分ノ一ハ一里角ノ

坪四坪ナリト被二記置一候、山田・山畠・段畠トハ陶山翁ノ心、木庭作ヲ止メ、山麓ノ穩成所ヲ山田・山畠・段畠ニシテ、年々ニ作所トナサシメン事ヲ御深慮候故、如レ此被二記置一候、今ハ麓ノ穩成所モ、皆一ツニ打込木庭一篇故、今ノ木庭作ハ一里角ノ坪四坪ヨリハ少キ筈ニテ、四十二坪半ノ內、年々地ノ利ヲ得候ハ、田畠ト木庭ト合テ三坪計タルベク、三十九坪程ハ無益ニ捨リ居リ申候、豈非二可レ惜之甚者一耶、貢稅ノ高粗麥七千俵餘、田茶・椿森ノ稅ト加八千俵餘、麥ハ精麥ニシテ石ニ積リ候天下ノ法ノ由、然バ諸々ノ穀稅纔五千石內外ニテ、頭銀百二十貫目餘、是ニ二千石合テ七千石ノ實稅ト相見申候、六里三十丁角ノ國ハ、定テ拾萬石ノ地ニ當ルニテ可レ有レ之哉ト存候、此條ニ所レ記ヲ以テ御國ノ地利ヲ得候ト申置候、御較量被レ下度候

穗見ハ容易ニ被二仰付一間敷モノト、一鄉ノ內穗見ヲ好候村ハ困窮村ニテ、一村ノ內穗見ヲ願候民ハ困窮ノ民ニ御座候、上作人ト申モノヽ作ハ、皆無ニ至候ハ甚少ク、不精者ノ作ノ豐年ト申年向ハ無レ之候、既ニ今年ノ麥作ヲ以テ時能相分候、精ヲ出候作人ハ、作リ付候時節ヲ失ヒ不レ申、早ク生育致サセ候分ハ、常ノ年ヨリ出來宜シク、下作人ノ時節取後レ作リチラカシタルハ、悉ク寒ニ切レ生ジ不レ申候故、當年ハ下作人ノ爲ニハ、皆無之凶年ニ御座候、田代ハ並シ定免、御國ハ穗見免ニ御座候、前條ニ申候通、御國モ農政ヲ被レ興、人々農事無レ懈致候樣ニ成候上ニテ、並シ定免ニ被二仰付一度事ノ樣ニ存候、只今ノ作ノ形ヲ以テ並シ定免被二仰付一候ニテハ不レ宜候、穗見ハ其法ハ不レ存候得共、差而六ケ敷

事ハ有レ之間敷假令御國ノ法不レ宜候トモ、國々ニテモ取引ノ事故、其定法可レ有レ之候、併雖レ有ニ良法一ハ不レ得ニ良吏一ハ、則與レ無レ法同、御國ノ穗見モ甚正直ニハ相聞不レ申、御察之通リタルベク候

第三條　論ニ植木一答

陶山先生樫・栗樹木ヲ植立候儀、其論甚詳、其功至溥、既ニ去年ハ栗・樫共ニ好ナリタル年ニテ、仁田ハ八郷之内勝ル山深、樫・栗餘計リノ所ニ御座候、試ニ仁田ノ民一年生活ノ致シ方ヲ可レ申候、八月ノ初比ヨリ九月一盃十月ノ初比迄、家ニ押並栗ヲ朝飯・晝飯・夕飯ノ三食ニ致シ、霜月ノ末臘月ヨリ正月・閏正・二・三・四、六ヶ月ノ間新麥ニ取付候間、樫ヲ以三食ニ致シ申候、麥ハ田舍專一ニ作リ、家々勞役無限ニ候得共、五月ノ青麥ヨリ取候テ食レ之、六月ニハ喰仕廻、永ク候一ヶ月ノ命ヲ取續候得バ、上納ニ致シ候無キ樣ニ成候者十人ニ三人、蕎麥ヲ作候ダケノ飯料、盆ノ祭祀用ト迄ヲ振々取繕候者十人ニ四五人、蕎麥作ト盆ノ用トヲ假成仕舞、半俵モ新歲越年用ニ殘候者ハ十人ニ一人、强テ兩人春迄少シ宛喰續候者ハ、二十人三十人ニ一人ニ御座候、栗・樫ノ實ノリ年ニ依不同ト申共、大概ヲ擧テ申候時、一年十二ヶ月ノ內、六七ヶ月ハ木ノ實・葛根ノ類ヲ以取續、二ヶ月程ハ麥ヲ喰、三四ヶ月ハ蕎麥・孝行芋・大根・蕪ノ雜物ヲ食候、木實ヲ以テ一年ノ半ヲ致ニ生活一候ハ、其功利歷然タル事ニ候得共、鄕吏モ農民モ、樫ヲ一本栗ヲ一本仕立ルト申事ヲ存寄候者ハ無ニ御座一候、官櫧ヲ盜伐シテ旅船ノ船具ニ拂、栗ヲ伐材木ニ拂候事ノミヲ心掛申候、或ハ木庭ノ內木庭ニ切クレズ候、或ハ手寄ニテ落シ候ニ便利成所ヲ

擇、一面ニ栗ヲ植立候ハヾ、其利何如程可レ有レ之候哉、四五十年前迄ハ半里程行候得バ、松木ノ板車ハイクラモ有レ之タル由、只今ハ二里三里終日山ヲ尋廻ラズ候テハ、取出シ得不レ申、斯ノ通リニテハ三四十年ノ後ハ、山ハ禿ニ成ト相見、第一ハ水災田畠ノ損不レ輕、事ノ三四年前當所邊ノ山役ニ、樹木仕立ノ儀ヲ心付候族有レ之候付、野拙儀料管ヲ添願書等致二潤色一遣、御山ノ内ハ素リ百姓請持ノ木庭モ、八合目ヨリ上ハ伐開候事ニ不二相成一、皆官山ニ相立居申候、御山ト諸山ノ八合目以上ニ、地ニ□シ樫・杉・檜ヲ仕立可レ申候、一人ニテハ不二相成一仕事故、一村ノ内ヨリ小才覺ノ百姓一人或ハ兩人、御年貢ハ納ノ其外ノ公役銀諸公役ヲ御免被二仰付一、下役ニ被二仰付一被レ下候ハヾ、先仁田三村ヨリ試ニ掛可レ申ト料簡申出、郡奉行所ハ聞入、奉行所ヨリ郷村ノ料簡尋問ニ及候所、一人ニテモ公役人減候テハ、夫レダケノ公役一統ニ掛リ、百姓ノ難儀ニ成候迚、ツイ其儘其策不レ行、是等ヲ以テ田舍ノ様子ハ推察可レ被レ成候、樹木ヲ伐盡候病因ハ、田舍ニ給人百姓共一體家屋大キ過候故、其制ヲ可レ被レ定、扨板材木ノ銀拵トテ人々是ヲ働、或依レ願板木積候旅船ノ村津入被レ成二御免一候得共、是等ハ不レ宜事ニ候、右類ノ拵ハ漸一日ノ當リ九錢一匁計ノ事ニテ、農民一日一匁ノ事ト致シ居テ相濟候モノニ御座ナク、夫モ農隙ノ遊候代ニ致候事ハ、隨分宜敷候得共、左ニテハ無レ之、貧民當時ノ急ヲ補候爲ニ、肝要ノ農事ヲ捨置夫ヲ致シ申候、是モ農政興候得バ、右類杣取ノ事ハ止ミ可レ申候、夫ヲ被レ制候テ、農政ハ可レ興候、海漁ハ少シ板木ノ拵トハ違候得共、緊シテ言レ之バ同ジ意味ニ御座候、杉・檜ヲ仕立候得バ御法

有レ之、三分ノ一ハ植タルモノニ所務仰付ラレ、或仕立進上イタシタル者ハ大成功ニ立、新規又ハ立身ニ相成候所、上ト植分ケニ致候モノハ、少ク植立ニテ立身ノ端ニ致候者多ク、是ハ其方ガ利強ク候故、自然ノ勢ニ候、然共大成ル申立ニ致シ、仕立候山モ結構成山ニ成立候ハ少カルベク、漸何千萬トカ苗ヲ植揃、少シ成長致候樣ニ候得バ、最早御用ノ材木ニモ成候樣ニ申立、手廻シ願ニテ自己ノ望ヲ達候ハ、八鄕惣テノ習ニテ、是ハ上ハ夢ニ被レ成ニ御座一、雖レ有ニ良法一、無ニ良吏一則與レ無同、增テ御法ノ通リ、其山一廉ノ御山ニ仕立候ニ致セ、樹木ヲ植候勞ヲ閥閲ノ功ト同格ニ且（カ）存候御法ハ、甚ダ無レ謂事ニシテ、前條ニ申候開所ヲ拵候得バ、新規ニ士ノ家ヲ御與被レ下モ皆同一意味、頹廢ノ御法ニ御座候、法有テ上ヲ欺候種ト罷成候

第四條　論下以ニ國米一廩給上答

御議論ノ通リ乾度現米ヲ被レ成ニ御取立一度候、惣國銀納ト申事ハ有ル儀ニ御座候得共、於ニ御國一ハ稗麥ノ買納銀上納ハ、御止メ被レ成候テ宜存候、頭銀モ大豆・小豆ヲ納候樣ニ被ニ仰付一御家中ニ米ノ代リ積合ヲ以テ被レ成ニ御渡一、大豆・小豆ノ直段ヲ二三匁ヅヽ高直ニ御立被レ成候得バ、農民錢ヲ納候ヨリハ、大豆・小豆ヲ納ヲ勝手ト存ベク、御家中ヘハ二三匁高直成品ニテ被レ成ニ御渡一候テモ、纔ノ儀ニテ難儀ニ成不レ申候、ケ樣ニ致シ候ハヾ、民心モ定リ、農業ヲ精出シ候基可ニ成行一、是等ノ儀前ニ術ト法トテ申候、與ニ農政一候術ノ中ノ事ニ御座候、御國之米地方ノ米ノ樣ニハ無レ之候得共、誰被レ成ニ御渡一候迚、

何ノ支可レ有ニ御座一候哉、御家中上士ハ既ニ麥ヲ食シテ、是ハ粗惡タリトモ米ニ而御座候、大夫ヲ初メ諸役、其外御役料ニ存候、御宛ヲ置相當ノ樣ニ候、上方ノ米ハ苗ヲ蒔候ヲ始メ、人糞・干鰯ノ養ヲ致シ、御國ノ米ハ鹵莽ニ地ヲ耕、苗ヲ種、荒ニ芸計ニテ、少シモ養ヲ致不レ申候、養無ク候故、米ノ性惡敷候而ハ無キ哉ト、常ニ心ニ掛リ居申候

第五條　論レ敎ニ育人材一答

至切至要ノ御議論、國ノ元氣命脈ハ人材ニ在ルニ御座候、近村ノ流入波田野傳右衛門常ニ申候ハ、田舍ノ隨分相應成上等ノ人材ト申候ハ、府內ノ人ノ下等ノ材分ヨリハマダ下ニ當候ト申候、是確論ニ御座候、府內ニテ郡奉行役ヲ被ニ召仕一候、非ニ爲レ官擇一レ人、乃爲レ人擇レ官也、此人ヲ諸役ニ被ニ仰付一度ト最候時、才幹ニモ相聞候得バ、御勘定奉行ニ被ニ仰付一、文字少シ有レ之候得バ、朝鮮方ニ被ニ仰付一、外ニ被ニ召仕一樣ノ無キ人物ハ、郡奉行ニ被ニ仰付一候形ニテ、或ハ當時足休メニ郡役ニ被ニ仰付置一候人ハ、頓テ御勘定等ニ轉役被ニ仰付一候故、殘留リ候郡役ハ可ニ從而知一、是ハ譏訕ニ涉候無禮ノ放言ナレ共、先左樣ナルモノニ候、其郡役田舍ノ奉役ヲ初、諸士諸民一同ニ孔子ハ釋迦ノ樣ニ心得申候ナレバ、田舍人材ノ所ニ成就一不レ待ニ言說一候、府內ニ申候時格別替候事ハ有レ之間敷候得共、給人ノ嫡子生立候比ハ、府內ニ登セ置候樣御法ヲ被レ設度モノニテ、百姓ノ內暫ク府內ニ出居タルモノハ、ムクノ田舍生立ノ者トハイチジロシク格段相見申候、田舍ニ給人足輕年々相增候得共、以レ愚見レ之緩急ニ御用ニハ相立問

敷、武術コソ不修練タリトモ、山ニ上リ坂ヲ下リ、饑寒野宿ノ勞ニ耐候故、手詰ノ勝負ハ府內ノ士、禦逐ノ働ハ田舍ノ士ト申論モ在レ之、一通リ右樣トモ相見候得共、先年江戸御屋敷御類燒ノ節、是ハ江戸一面火燄故、中ニ防ギ留メ所ノ所作働ニ至リ不レ申候得共、其節兼テハ何ゾ達者事ノ時、一際相働可ト思居候組中ハ、少々働キモ無レ之、日比小理屈ヲモ申タガリ候程ノ士ニテ、平生ハ尻ヲカケ徒跣ニ成タル事モ何年モナキ士ヤ、茶坊主之內ニハ、水之手ヲモ心掛働タル人モ見請シ、緩急之大變モ此通故、宍勝身之壯健、藝之修錬ニモ不ニ相拘一働軍功ハ其人之一心ヲ本トスルナレ、倫理ヲ御教被レ成候ヲ本トシ、以ニ武藝一是ヲ輔成スルニ御座候、親ニ孝行ヲ致セ、間違虛言ヲ申スナ、盜ミヲ致ナト申事ヲ常ニ被レ成ニ御教一ニテ、從レ之以ニ勸懲一スベキニ候、田舍平等候風俗、年罷寄候親死候時ノ口上ニ、最早年ニ不足ハ無ニ御座一、祝之事ニ候ト申シ、盜ヲ致候ハ家々人々、曾テ身之疵ニモ恥ニモ我モ不レ思、人モ致シ不レ申、手付銀ヲ渡シ物ヲ調候テ、約束致シ置候テモ、又夫ヨリ高直ニ調候者有レ之候得者、其方ヘ相渡シ預リ置候手付サヘ、前約之方ヘ返候得バ、理ニ當リ候ト心得居申候、是ヲ以テ御推察被レ成候ヘ、百姓モ給人モ皆同ジ事ニ御座候、熊澤次郎左衞門ヲ備前松平新太郎樣御用被レ成候節ハ、輕キ町人モ每月何度迚講釋聞ニ罷出、課役ニ成頭數ヲト改候故、日雇ヲ取リ候者、米突カブカ、講釋聞フカト杵ヲカタゲ、呼ツテ廻リタル由、先ハ日本ニテ珍敷御政教ニ御座候、田舍ヘモ春冬農隙之時ヲ以講師ヲ被ニ差下一、一鄉之內三四五所ニ三五日宛逗留致シ、朝ト夕ト日ニ兩度宛講釋ヲイタシ、給人百姓老少集ツテ

聞レ之、其書ハ大學ニ致シ置、其文字ニ不レ拘、孝悌忠信愚民之易(ヤスキ)レ曉(サトリ)様、別ニ講釋之文言ヲ拵、年々夫計講ジ聞セ可レ申、同ジク鎗ト太刀トノ師匠ヲ差下、給人ヘ手馴ラセラレ度候、寶藏院一刀流、是古キ流儀ニテ惣國ニ廣リ、高上ニナキ流儀故、是ガ宜シク御座候、奉役・下知役・山役・川役等之類有レ之候テモ、皆其掛合候人ハ田舍切ニテ、稀ニ上府イタシ候テモ役方切ニテ、殊ニ郡奉行ヨリ世ニ應ズル所ハ致モラヒ、愚成子之挨拶ヲ親ガ引取リテ致候様之形ニテ、子之愚ハ愈愚ニ成申候、只今之式ハ奉役ヘ手頭ニ支配衆一面而已ニ御座候間、年始之内禮ハ給人一人モ不レ殘可レ致ニ上府一、中元ニハ半分モ可ニ罷登一、寒氣・暑氣ニハ爲ニ御伺一、鄕中ヨリ拾人計可ニ罷登一、其外大抵之御吉凶・御祭祀ニモ被ニ召登一、御支・配直掛合之節目ヲ多クシ、給人之勤方ヲ是迄ヨリハヤット相增、給人之内ヨリ御目付等之役名ヲ被レ設、直言上・直文通之事ヲモ被レ始、アソコヘハ行當リ、爰ヘハ行詰、是デハ成ラヌワイノト申事ヲ、八鄕一統存候ハヾ、奉役ヲ始魂ガ身ノ內ニ入候様ニ成、自然ト人才モ只今之ゴトク、魍魎(モウリヤウ)山鬼而已ニテハ不ニ相濟一、是人才ヲ生ズル道ニモアルベキカ、奉役ハ素之事ナガラ、下知役程大切成モノハ無ニ御座一、下知役之賢愚ニ依リ、村之盛衰ハ御座候、然共一度其役ヲ蒙候ヘバ、何カ府內ニ對シ、餘リタル不調法無レ之候ヘバ、御役ハ不レ致ニ交代一候、下知役之賢愚善惡ハ、何ヨリ知リヤスク見ヤスク、譬ヘバ役儀四五年モ勤、村少シニテモ富貴之形成候ハヾ、下知方之宜キニテ、年增ニ及ニ難儀一借銀等增候ハ、下知方惡故ニ候、然ルヲ年向惡敷ク、民戶致ニ困窮一候事ヲ、村之役人ハ口癖之樣申候、昔モ天ヨ

リ米麥ヲ降ラシ、地ヨリハ金錢ヲ生候ト申年モ無レ之、今モ六月ニ霜降、山頂ニ海潮込入タルト申年モ無レ之、皆其作略工面次第ニ御座候

第六條　論ニ逐テレ年民戸零少スルヲ一答

人數二萬八千人程ト被ニ仰聞一候ヘ共、夫ハ國中ノ惣高ニテ無ニ御座一候哉、陶山公之鐵炮格式ニト記置候ハ、郡中大改之人高三十年以來、少キ年ハ一萬五千人餘、多キ年ハ一萬六千人餘、今程ハ一萬七千人餘ナルベシ、鄕內之家三千四百軒、內二千五百軒ハ百姓之家ニ御座候、民戸之段々零少イタシ候譯ハ、困窮次第ニ追重リ、租麥上納ヲ始、頭銀其外之出銀モ致シ得不レ申、借錢ハ上納イタシ得不レ申樣ニ過分ニ及（出銀等致シ得不レ申時ハ、役人ノ世話ヲ以テ、役人ノ押印惣村中ト申モノニテカネヲ借與ヘ、身代及子孫モナク成候ヘバ、村一統ヨリ是ヲ償申候、是ヲ村借銀ト申候）候ヘバ、官給之地面ヲ取上ゲ、村ニ配分シテ此地ヲ作リ租ヲ納メ、公役銀鄕ニ預リ候、公役ハ鄕之ユリ廻ニテ鄕ニカブリ、村切之公役ハ村切ニシテ、村ニテカブリ申候、困窮之村ハ段々潰百姓多ク相成申候、三根鄕峯村抔ハ五十人計之竈減ニテ三拾程ニ成居、今以隨分困窮イタシ、河內染□引切峯村之支配ト申事ニテ、色々心勞モ可レ有レ之候ヘ共、大ニ相替候事迹モ未見ヘ不レ申候哉、御取立百姓ニ被ニ成下一ハ御定有レ之、其用ニ御取替被レ成候ハ、其出口相極居ハ鄕替無レ之樣子ニ候、瀨同村ナドハ公役ヲ揚候者有レ之候ヘバ、直ニ其地面ヲ請持候者有レ之候得共、所ニ寄公役ヲ揚候者有レ之候テモ、其跡ヲ請持候者無レ之候ヨリ、潰竈ト申ニ成、其後ニ至リ竈ヲ立候ヘバ、御取立百姓ト申ニ成申候、跡ヲ請持候ニハ、少シ之御出方モ無レ之、御取立

ト申セバ、御定ニ被ニ成下一有レ之候、兩樣共ニ實ハ同ジ意味ニテ、勢ニ違有レ之ト申モノ哉ト存申候、併委敷所ハ不レ致ニ研究一候故難レ及ニ明答一候、伊奈郷ナドハ地面ノ掛ケハスシ心安ク、佐護ハ一度百姓株ヲ離レ候ヘバ、再ビ百姓ニ難レ成、士之世業同然ニ相立居、（是甚尤至極、何レ郷モ斯コソ有レ之マホシキ也）潰候者ハ御中ヨリ取立候ト承及、其餘七郷モ潰候者ハ郷中ヨリ救候御法ニ候ヘ共、一體ガ佐護トハ難レ比シ、竈ヲ增候ハ左ノミ六ケ敷事トモ不レ存、能吏之心一ツニ御座候ト

第七條　論ニ變レ舊者民不ニ悅從一答

陶山先生之新令ニ、民不レ悅候ト申候ハ、或ハ木庭ハ大ニ明ケ申間敷、或ハ山畠・段畠ヲ拵候樣ニト御座候付、狃ニ于舊事一者、新政之耳目ニ驚候ハ愚民之習ニテ、既ニ猪ヲモ取切候時モ、猪無ク成リ平ロ多ク成、百姓山之働モ難レ成ト申、又ハ雉子多成候テ麥苗ヲ損ジ、作物取レ不レ申ナド申タル由、佐治モ農業之怠惰ヲ督シ、糞養ノ差圖ヲ被レ致候得バ、ヌシノ裏ノ小バタケ、セ、ク樣ニ成モノカト申、朝モ早ク農所ニ可レ參由モ督候ヘバ、人之カラダガソノ樣ニ續クモノカト申候、是其人ヲ惡ムト申程之事ニモ至不レ申、砂糖ヲ吃セヨト申人ハ、子供ガ是ヲ心安ク存、藥ヲ呑メト申人ハ、子供是ヲイヤガルニ御座候、況ヤ舊令ヲ變更シテ、官入ヲ增添セント欲候ハ六ケ敷事ニテ、御仁心ヲ本ト遊シ、法ト術トヲ以□□□□兼レ之以ニ年數一、□□□□管見ニ難レ及ト申候ハ此所ニ御座候、廉吏ヲ被レ擇、民苦ヲ救候實情ダニ貫キ候ハヾ、役人ハ忌可レ申ナレ共、民ハ子之ゴトク懷キ可レ申ト御書載ニ候得共、左樣

ニハ容易ニ參問舗、成程小仁ニハ懷キ、難儀之者ニハ、拜借等ヲ申付彼是之類大仁ニハ不レ懷、主法ヲ改、農政ヲ興スノ類商鞅ガ秦ヲ治メ候節ハ不レ及レ申、管仲ガ齊之法ヲ立タル時モ、衆口囂々致タルニテ可レ有レ之候、郡役之鄉村ヘ下リ候節、民之勞費ヲ省キテト之御書述御尤至極、則是前ニ所レ謂術之事ニテ、實ハ御仁心ニ御座候、郡奉行而已ニ無レ之、奉役・下知役・肝入・血判頭百姓ニ付テ、飲食課役之民勞夥舗事ニテ、頭銀ト申ハ銀五拾目計之モノニテ、諸鄉村切之雜費銀六七十匁モ有レ之候樣子ニテ、凡民一年之出銀九錢七八十匁ト申事ニ候、佐護ハ甚正キ樣子ニテ、佐護長右衞門ハ田舍之人、世間之禮儀ヲ不レ諳、不才無術、窒而不レ通事モ有レ之樣子ニ候ヘ共、一體志有ル廉正人、世之所レ稀ト存、識面ハ不レ致候ヘ共、拙者モ常ニ心中ニ致ニ尊崇一候、依レ之存候ハ、此人ヲ被レ賞、郡奉行ニシテ八郡吟味役ナド之役名ヲ被レ下、八鄉右類民之勞費ヲ減候樣御取計ハセ遊候ハヾ、鄉之役々有レ所ニ勸懲一、彼是ニ御實益可レ有レ之事ト

第八條　論ニ祿田一答

全ク愚見口舌ニ難レ及、雖レ然得ニ才智明敏之士一、區ニ畫之一、則別有ニ術策一乎、先一寸眼下之處ヲ以申候時、僕之謫村瀨田村十四間程之所ニテ、是大村被ニ相立一、郡中是程之村七十餘村之內、二十村迄ハ有レ之間敷、民戶四十ニ少シ不レ足候所、城士之祿ニシテ二百石少餘ニ當申候、是ニ二百石之士ヲ被ニ割込一、其邑內入ニ食マシメラレ候ハバ、成程二百石之士一人モ、一人半采邑トモ可ニ相成一候ヘ共、二百石ニ士五人モ被ニ割込一候時ハ、邑之租・庸・調ニテハ、一家之食モ足リ不レ申候故、有來候百姓ヲ一人モ不

レ殘追除ケ、當今之給人之ゴトク采地ヲ自作致サズシテ不ニ相成一、其通ニイタシ候時、漸城府馬廻之十分之三四五モ歩ドマリ可レ申哉、左候テハ國中之百姓之ヤリ所無ニ御座一候、十四間之村ヲ二百石一人ニト宛行、五間之村戸數十二三ケ村也ニ七十石ヲ一人被レ成ニ御割込致一候時、馬廻之十分之一二ナラデ歩ドマリ不レ申、扨亦一介二介三介上納麥ハ某家ニ納メ、五右衞門・六右衞門・七右衞門麥ハ某家ニ納候時、百石之麥ハ凡二拾俵、是百姓七人之租ニ御座候處、仁田邊上納取立候樣子ヲ以申候時、全ク上納ヲハカリ出候者ハ、拾人ニ四五人ニテ、半分或ハ三分二現色ヲ收、其アトハ追々之買納、又ハ極月皆濟ニ至候間、最早一寸ノガレニ致候事不ニ相成一候故、至テ悲痛成事ヲ致シ、秋石相場ニ二割銀ト申モノヲ添、夏石ノ上納ヲ濟メ申候、甚キハ現麥一斗モ出得不レ申、全數極月皆濟之時迄ノガレ候者モ、二三十人ニハ一人モ二人モ有レ之候、村役人之支配ニシテ、誰々之出石ト申ニ不レ拘、瀨同村之上納百俵之內二十俵ハ城士何某殿、六十俵ハ何某殿之方ト、役人之手ヨリ相納ル儀ニ候ハヾ、現石上納之分ハ、割合ヲ以盆前ニ納候テ、不納ハ極月ニ可レ納候ヘ共、夫ニテハ地頭被官之ゴトクニ成、土着之基ヲ植込候ト申所遠ク候、五右衞門・六右衞門・七右衞門ヨリ、其祿主ニ且ニ納候形ニ候ハヾ、貧民之分ハ祿主ノ手取ニ成兼可レ申、祿主貧窮ニテ、其納メ候百姓富實ニ候ハヾ、先キ借先キ納ト申事出來、拾□之麥ハ五□ニモ當リ候取毛ニ可ニ相成一候、尤前條ニ申候通農政被レ與、夏石ハ屹度盆前ニ納レ之、銀納買納ト申事モ被レ停候程ニ候ハヾ、貧民不納之害モ無レ之、先キ借先キ納ヲモ、嚴法ヲ以被レ制候ハヾ、夫モ苦間敷候ヘ共、

實益之所如何可レ有レ之哉、田舍御割込之一事ハ、先愚見ニ難レ及、八郷ヘ御割込モ、田代ヘ御割込モ、右外ニモ當今之勢ニ於テ、掣肘色々可レ有レ之候樣被レ存申候、御國之田代ハ平戶之於二壹岐島一トハ難二比較一、御國之田代ハ偏ニ治世之間之御領分ニ御座候、壹岐島ニ平戶之士餘程居住ニ御座候

平畠ヲ田ト成候事ハ、陶山公モ隨分被二仰置一候、田ト畠トノ利ヲ申候時、田ヲ一トシ畠次レ之候ハ、畢竟田ト麥ト一年之收穫兩樣之御故タルベク之所、御國之田ハ全ク水之掛引無レ之候故、天旱則乾キ、雨多則淹沒シ、他國ノ如ク兩作之利無レ之候故、田ハ畠ヨリ大ニ利少ク、畠ハ麥ト秋物ト兩作イタシ、多葉粉・藍之類ハ秋作之前ニ致シ取リ、三作ト成シ、且御國之田之ゴトク、水之掛引不二相成一候テハ、凶年ハ多ク豐年ハ少ク御座候、是等モ農政ヲ被二興一候至要ト相見申候、前條ニ申候通、山木ヲ伐ル事ヲ被レ禁候ヘバ、溪谷之間水絕ヘ不レ申、畠ヲ田ト成スニ便アラン、雨降候ヘバ水平原ニ溢レ、雨晴レバ溪谷ニ水絕申候、素ヨリ上流短ク候故、他國之事之御國ニ可レ望ニモ無二御座一候ヘ共、碓ヲ仕掛候程之川ハ、八郷ニ不二相聞一候、田水之掛引ノミニ無レ之、上方之作ハ斯ク致置候ヘバ旱之害ヲ防ギ、斯ク致置候ヘバ風之痛少ク、寒ニ耐ヘ雨ヲ凌候ト申事數々有レ之、人力ヲ以天工ヲ奪ト相見候ヘ共、御國ニテハ左樣之事ハ全ク存知不レ申、誠ニ天道任セト相聞候

第拾條　論二貧民私二賣官田一答

私ニ賣官田一ハ御法度事ニテ、三四拾年モ前之事カ、豐崎ハ買取候者ヨリ御取上被レ成、不レ殘本主ヘ御

還被レ下、其代銀ハ並之借銭之手形ニシテ、買主へ渡タル由、豊崎邊ハ先年迄ハ、其所□リ居タルニテ可レ有レ之候へ共、近年ハチト始リ候歟、然シ伊奈郷之様ニハ有レ之間敷、仁田ハ公然ト致タル事ニテ、地面ヲ多少之間賣居不レ申モノハ少ク、肝入ナド之買候ハマダシモニテ、下知役カ我領村之官田ヲ買申候、左様之輩ハ御吟味之上、地行ヲモ被レ成ニ御取上一候程ニ嚴峻之御法ヲ不レ被レ設候テハ、御防相成間鋪、宜鋪御取計様可レ有レ之事ト常ニ存候事ニ御座候、給人中之地行所ヲ賣候ハ、百姓之官田ヲ賣候トハ違候へ共、是以一切嚴ニ被ニ制度一、御米藏ニテ石米石麥之先キ借リヲ被レ制候同様ニ而、愚昧成人之産業ヲ失候端ト相成申候、賣ト申候時五年拾年年ヲ切、是ヲ賣候事ニテ賣候モノハ貧民ニテ、拾年ト切置候テモ、其明年ニモ公役ヲ揚ゲ、百姓株ヲハスレ候へバ、買手之丸損ト相成、其所御座候故、甚下直ムゴキモノニ御座候、賣候時ハ皆濟ニ差臨□□□一貫目之物ヲ一匁ニテモ賣不レ申候テハ、不ニ相濟一事ニ及候、前條ニモ申候通、租麥銀上納買納等之儀ヲモ被レ禁、公役銀モ大豆・小豆ニテ上納被ニ仰付一度事、田舎ニテハ取分一寸延ブレバ尋ノブルト申、眼前□難ヲ免タルヲ喜ビ候ハ愚痴之習、左ニテハ無レ之、一寸延レバ尋縮ルニ候、郡司・郡吏之心ヲ可レ用所也

第拾一條　論レ均ニ民資産一答

御城下ニ而モ、八百石七百石ニ而モ、家内三人難儀候人モ有レ之、二三人扶持ニ而、家内五六人取續候人モ有レ之、人之才愚不レ均モノニ候へバ、資産ヲ均クスル事ハ雖ニ堯舜一不レ能、只ソノ甚シキモノナキ

ノミニ候、佐護郷ハ內納等候節日數掛リ、無理ニ取立候而ハ、無益ニ農事ヲ妨候故、富民ニ貧民之分モ爲ニ出置一候テ、皆濟之節ニハ、彼最前人之分迄出シ置候富民寄合、彼是ト空シクヒキヅリ不レ申、早ク暇ヲ遣、貧民ヨリ最前ニ出シモラヒ置候分モ辨ヘ候事之由、前後之差引ノミニテ、詰所貧民之出シ前省ト申事ハ不ニ承及一候、是ニ不レ限、佐護ハ有付モ宜シク、法モキシト相立、尤成仕形多相聞ヘ、ハリ合セナド申事有レ之、內納モナキ前方ニ、銘々ニ力次第錢財ヲ出シ、我一ト博奕之ハリ之ゴトク致候風儀ニテ、少ニテモ人ニ不レ知候樣致シ置候テ、內納等之期ヲ待居候由ニ候、貧民之分モ當時富民ヨリ出シ置候事、佐護ハ大貧大窮之百姓無レ之候故、右之法便利ニ候ヘ共、瀨(同カ)田村等之如キ村ニ、右之法ヲ行候時ハ、諺ニ所レ謂人蔘飮デ首クヽルニ成行、倍潰之本ニ御座候

第拾二條　論ニ農政措置先後綱領一答

農政ヲ被レ與候措置綱條明細ニ至テハ、僕式之淺見薄識ニ難レ及、又其是ハト存申候所モ、一言ニシテ難レ盡御座候、陶山先生農業全書ヲ御覽ニテ、御國之作之其筋ヲ失候所ヲ御料簡ニテ、全書十卷餘之內ヨリ、簡要ニシテ愚凡之合點成好キ樣ニトテ、農業全書約言ト申四十枚計之書一冊、態々板行セラレ、八郷七十餘村下知役ヘ被ニ渡置一、常ニ百姓ヘ讀聞セ候樣ニト之御事、(誰モ讀キカセ候人無ニ御座一候)其全書ハ奉役ヘ八部被ニ渡置一候由承及候、農政之先務大意ハ右ニ出不レ申、只能吏才官之是ヲ誘ク事如何ント云ニ在ルノミ、坐而論レ道、謂ニ之三公一、走而執レ事、謂ニ之有司一ニハ御座候得共、禹之治水ハ手足胼胝、稷之敎

稼ハ身立ニ吷畝一ニ候ヘバ、郡支配モ郡奉行モ、府內之疊之上ヨリ下知有ベキ迚ハ參間鋪歟、新ニ農政ヲ可レ被レ興候ハヾ、田舍給人百姓之內、妙選ニ其人才一、敏成ヲ得テ得ト興ニ農政一之利害ヲ御呑込セラレ候テ、一ケ年餘九州上方ヘ被レ遣、惣國之作之仕樣ヲ御シラセ被レ成候テ、夫ヲ以農政指揮司之小吏ニ被ニ仰付一、田代ヨリ農事精詳之庄屋之類ヲ被ニ召呼一、其小吏ニ被ニ差加一、或ハ田代之百姓ヲ御國ニ被レ移、郡奉行モ暫ク田舍ニ居込、御國之作之樣子ヲ知候テ、田代役ニ被ニ召遣一、鄉々及九州邊鄰國作之樣子、見聞罷歸候樣被ニ仰付一、郡方手代モ其通、郡御支配モ禹之治水、稷之敎稼ノゴトク、親ニ其勞一之心シテ、坐シテ道ヲ論ズルノミナル事ナカレニ御座候、御國之農政ト申候ハ、養手入ヲ精シテ、無益之勞ヲ省キ、作得多キ樣ニイタサセ候ト申ガ骨柱ニテ、布措之條目ハ急御返答難レ致候、ザット心得候ヘバ、惡敷仕方ヲ好キ道ニ替サセ、少シ作得セシメ候ヲ、タント取候樣ニ敎候儀故、勞苦モナク成就可レ致ナド、モ可レ申哉ニ候ヘ共、一尺廻程ニ生育過ギタル松之木ヲ引切、是ニ竹ヲ接ギ、本來之性ヲ替ヘサセ候ニ似テ、至テ難キ事ニ存申候、陶山先生之猪ヲ被レ殲候ヲ以、先生之才識ヲ論候ハ、大ニ先生ヲ知ラザルニテ、先生一生之精神見識ハ、農政ヲ被レ興候所ニ有レ之候ヘ共、御志ヲ展得ラレズ、猪ヲ被レ殲候ハ農政之前段ニ御座候、先生後著書之終リトモ相見候册之結語ニ、農政ヲ被レ興候機ヲ見テ相果度ト被ニ記置一候、眞足レ使ニ人淚滿一レ襟也

杜子美謁ニ諸葛武侯廟一詩結句曰、出師未レ捷身先死、長使ニ英雄淚滿一レ襟、宋岳飛臨レ刑誦ニ此句一云々、可

レ謂ニ千歳之遺憾一矣

第拾三條　論ニ防吏之姦、幷租調欠滯一答

吏之姦之全ク無カラン事ヲ欲候テハ不レ可レ得候、去共甚者近クハ佐護奉役ヨリ下タ之事ハ長右衛門ヲ以師トスベシ、御郡中之事ハ百事定敎定式有レ之候故、勘定方等之出入繁雜ナル樣ニ有レ之間鋪哉ト存申候、併如何可レ有レ之哉

田代之貳千貫目之借銀ヨリハ、八郡之七百貫目之欠滯ハ難ニ取立一有レ之ベキ歟、五ケ年・拾ケ年・二拾年之年賦ニ成居候品、一村ニハ四口モ五口モ其餘モ有レ之ト相見、租調之滯計ニテハ無レ之、拜借モ又加リ居候故、當年拾年前之拾ケ年賦濟候ヘバ、來年ヨリ又今年拜借之五ケ年賦始リ候ト申樣ニテ、更ニ無ニ盡期一候、或ハ二十年前ニ百姓五人致ニ拜借一候牛馬代モ、其内ニハ其者モ成リタオレ、子孫モ無レ之、地面ハ其後二人モ三人モ公役人移替候ト申樣成モ有レ之、田舍方ハ慥成帳面等モ稀ニ候故、村々ニテ我村ノ年賦之數ヲ知タルハ無レ之、只皆濟候節郡方ヨリ何之年之何ケ年賦何拾匁、何之年之何ケ年賦何匁ト申下シ有レ之ヲ以、其通ニ村方ニ取立候時、多ク一統之頭ニ割掛ケ候故、我ガ拜借未收ヲ、我上納致候ノニテハ無キ樣子ニ御座候故、知ニ與之爲ト取政之寶也、農政ヲ被レ興、御取毛ヲ被レ增候ニ至候ハバ、御仁心之能ク徹候被レ成形ヲ以、滯欠之分ハ不レ殘八郷ヘ被ニ成下一、以來拜借當時之御用捨抔申候儀ハ、堅ク御停止ナサレ、大凶年・水災・饑寒等之御救不レ被ニ下候テ不レ叶儀ハ、其時々之被ニ成下一捨リニ

シ、夫トモ拜借不レ被ニ仰付一候テ不レ叶儀ハ、二三年之間ニ被ニ仰付一度事ニ候、拜借ヨ上納ヨ年賦ヨト申ニハ、役人之姦ヲ啓キ可レ申樣ニ被レ察候

第九條・十四條・十五條　論ニ朝鮮交易一答

公貿易ハ朝鮮ヨリ對州ニ賂遺シテ自免レ候品ニテ、宋之時之歲幣ト號シ、金遼ニ絹茶ヲ送タル心ニ御座候ヘ共、朝鮮ソノ名ヲ恥ヂ、貿易ト申候ヘバ、一匁之物ト百匁之品ト替ヘ候テモ、夫ハ國々之有無故、不レ苦ト申形ニシテ、和交ニ付有無ヲ通ジ候トマケヌ貟ヲ致シ居候、濫觴ハ朝鮮ヨリ創設之名トモ不ニ相聞一、古ハ九州中國ヨリ賊船往犯候節、朝鮮之品ヲ只取ルト申テハ、侵掠之手掛無レ之處ヨリ、纔計之品ヲ持行、是ヲ何品ニ替ヘ呉候ヘト申、不レ許則寇抄イタシ、夫ヨリシテ畠山送使・京極送使・國王殿使ノ何カノ申候使船有レ之、大ニ迷惑ニ存申候ヨリ、御國ヘ圖書ヲ鑄送シ、對州之文引無キ船ハ受ケ不レ申樣ニト致シ候、是對州ヨリ朝鮮ヲ擾候ニ付、和睦順從之爲ニ送候公貿易之物件ニテハ無レ之、朝鮮之外禦ヲ對州ヘ托候爲故、是ハ朝鮮ヨリ容易ニ止メハ致間鋪、對州モ御辭退被レ成候ニモ左ノミ及間敷、太閤朝鮮征伐始リ候ト相見ニ付、義智樣態々兩度被レ成ニ御渡海一、利害ヲ被レ成ニ御諭一、御當家和交ニ付又々御渡海被レ成候、是等ヲ御交誼トモ可レ申、外禦之託ヲ空シク不レ被レ遊トモ可レ申ニテ、公貿易ハ被レ成ニ御辭退一候ニ及間敷、御子孫御永世、右義智樣之御心持、御士臺ハ常ニ御忘失被レ遊間敷儀ニ存申候、陶山先生ノ議論ニ、公貿易ヲ御止メ不レ被レ成候テハ、誠信之交トハ難レ申候ト被レ仰タルト

モ承申候、夫ハ又五等モ七等モ上之議論、一言モナキ所ニ候ヘ共、其所ハ姑置不レ論候、併公貿易ヲ以國賦之ゴトク心得、國ヲ立ル之基トスルハ、申迄モ無キ不詰之事故、譬ヘバ御參覲御用御酊席之入目ナド申類、太平無事之節ニ屬シ候ハ、入目ニ當テ候樣成主法ニ致シ度モノニ御座候、私貿易ハ糸・段物衰ヘテ纔之人蔘ト成、人蔘既衰、此上何之御商買可レ有レ之樣モ無ク、假令黄芩・五味子之類有レ之ニ致セ、丁度只今銀山之砂ヲセヽキニ同前ニテ、賦民ニテ申セバ、草履・鼻紙・袖口之代ニモ當ラヌ事、入ラザル左樣之所ニ目ヲ被レ付、御取扱ヲ被レ成候テ、對州內ニ實ハ朝鮮之商買・今以斷絕ハ不レ致ラシ、無益有害之評判ヲ得ラレ候ヨリ、御止メ被レ成候テ、別ニ御料簡ヲ被レ廻度、年來之存念今以猶更ニ御座候、每歲拾萬斤之銅御拜借、何ニ成候モノニ御座候哉、隔年之御參覲ヲ三年ニ被レ成ニ御願請一、拾萬斤之銅御拜借、拙者式之愚意ニテハ、大成御作壞被レ存申候、朝鮮筋ニ付御利益ニ相成候筋モ可レ有レ之哉ト、存寄預ニ御尋問一候ヘ共、少シモ所見無ニ御座一候、只々兼テモ得ニ貴慮一候哉ト相覺申候、千七百東餘公木之內、四百東換米ト成居申候、今又壹萬俵程公作米ヲ被レ成被レ添候ハヾ、極テ米之御差繰相□可レ申、其跡五百東之內、二百東カ强テ三百東ナラデ、現木之取入ハ相成申間鋪候、作錢ト申各邑ヨリ公木ヲ錢ニテ官府ニ納メ申候、糸・段物・人蔘ニ公木ヲ被レ成ニ御引替一候ハ、此差繰ニ御座候、朝鮮役々之御宛行ハ、素ヨリ上之魚鳥ヲ御調被レ成候ニモ、米ヲ被レ成ニ御拂一候故、在館人々飯料之外ハ、諸事公木ヲ作錢ヲ以御取入被レ成、御手當猶其餘木モ御座候ハヾ、夫コソ黄芩成共、山茱萸成共、時ニ臨テ隨便之御施行

モ可レ有レ之歟、陸米共ニ二萬俵計之高之內、御國ニハ一萬四五千ナラデ積渡シ不レ申、五六千ハ在館人宛行、上之諸費ニ成候、前ニ申候通致ニ首尾ニ候ヘバ、毎歲三萬俵之御入來被レ成、只今之一增倍ニ御座候、公作米御增添之儀ハ、朝鮮方在勤之節料簡書ヲ差上、大殿樣御事故、隨分尤ニ御聞入遊候得共、其比ハ人蔘御商買ヲ御止不レ被ニ爲得ニ御時勢ニテ、御商買ハアナタ樣之御數寄ユヘ、其御取行ニ至不申、俵才兵衞ヘ節刀御免ニテ、右換米御用被ニ仰付ニタル位之所迄ニテ相止ミ申候

レ

第十六條　論ニ陳ニ乞東武事宜ニ答

壹萬二千兩之御手宛ハ、御省顧之半作ニ至ルカ不レ至ニ御座候得者、被レ安ニ于小成ニ間鋪事ニ候ヘ共、不ニ容易ニ筋ト申、イツモ同樣之辨ニテハ又參リ兼候譯モ可レ有レ之歟、去年覲面之節モ荒々申述候通、朝鮮備禦之御役ト申儀ヲ御願事コトニ被ニ仰上ニ候ヘ共、何之御備ヲ差テ備禦ト被ニ仰上ニ儀ニ候哉、佐久間甚八對州ニテ、備禦々々ト申事ヲ被レ申候ヘ共、浦々之樣子左樣之儀不ニ相見ニト申タル由承及申候、抑日本ニテ對州ヲ以、朝鮮一國之御防ト思召候ハ御料簡違ニテ、朝鮮ハ素リ唐ヲ初、諸戎諸狄日本外國之禦ハ、皆對州ニ有レ之候、日本之中華ト路ヲ通ジ候ハ唐ニ始リ、宋ニ至リテ浮屠之渡唐頻リニ候ヘ共、左迄日本之國體中華ニ通間鋪之所、其後世ニ及日本之銀・銅夥敷唐ヘ渡、唐紅毛船毎歲來商致、只今ハ日本ヲ以無類之富國ト存候ハ、其筈之儀ニ御座候、秦始皇・漢武帝・唐太宗ハ外國ヲ征シ候英雄ニ候ヘ共、皆日本通路以前ニ御座候、遙々唐ヨリ日本ヲネラヒ候モノカト可レ申候ヘ共、日本之秀

吉ハ中華ヲ得テ隱居所ニセマク思召、英雄之心ハ固非ニ庸人之所一レ知、南洋ヨリ航ニ于日本一候ハ海路七百里、中間ニ泊船之處ナク、兵ヲ進ル之路ニ非ズ、假令百萬之師トイヘドモ、無源之水之ゴトク、七百里之海ニ乘外國ヲ伐候ハ、英雄之所レ不レ爲也、太閤之伐ニ中華一、假ニ道朝鮮一候へバ、我之去路、即彼之來路也、其上中華ノミニ無レ之、周之玁狁。漢之匈奴。唐之突厥。吐番。晉之羌胡。宋之金。遼。元、當今之淸、皆々北狄ニテ、其人悍健ニシテ耐ニ勞苦一、南蠻之孱弱ナルニ比セズ、其國中國之北、朝鮮之西ニ在テ、日本之所レ可ニ備禦一ニテ、增テ當時淸之都燕京ニテ、唐土之北邊ニ御座候、然バ日本外國之備ニ對州一ト長崎口トハ、天地之懸隔候へ共、御國之人モ是ヲ不レ存、公義モ御心付キ無ニ御座一候ハ、氣毒ニ御座候、甚八又申候ハ、朝鮮ヲ對州之手ヲ以押候樣被レ申候へ共、事有ル節ニ臨ミ、對州之一手ニテ防留候事、相成モノニハナキト申タル由承及申候、大ニ愚成論ニ候、中華。北狄。朝鮮百萬之衆トイヘ共、對州ヲ越へ直ニ九州中國ニ乘掛候ハ、長崎口ニ攻掛候ニ似テ、恐ルヽニ不レ足候へ共、先ヅ對州ヲ乘リ取リ、巢穴之地ト成シ、而後壹岐島ヲ攻、而シテ進兵候ハヾ、其患至大ニ□ナレバ、對州備禦之不レ可レ緩ハ、歷々可レ見ニ候、對州南北二十里餘、眞田左衛門之大坂冬陣ニ、所レ謂場所廣ケレバ守ラレヌト申モノ故、取縮メテ守ルト申道可レ有レ之歟、去秋藤氏之覺書ヲ借見候所、似下與ニ予心一合上候ハ、王代對州之武備、上ミ四縣之兵賦ヲ定、太宰府ヨリ被ニ遣置一候守邊之防人半分此手ニ屬シ、佐須奈。大内ノ里ヨリ佐護伊口嶽之間迄ニ砦城ヲ設、是ヲ上縣副將軍之西防共、又ハ上津軍團共、又ハ加城

之關所共云、下縣ハ國司之大將ニテ、下四縣之兵賦ニ防人之半分此手ニ屬、黑瀨城山之南面大隅之濱ヨリ、三郎原之間ニ營ヲ設、是ヲ下縣大將軍ノ一手共、又ハ本防共、東營共云ト有レ之候、愚意ニ存候ハ、下モハ府內ヲ本城トシ、上ハ伊奈鄉之南邊三根鄉之內ニカ、地形之要害ニ隨ヒ、新ニ一城ヲ築キ、對州城士ヲ四ツニ分チ、一ツハ府內之防人トシ、一ツハ上ミノ新城ノ防人トシ、一ツハ遊擊之兵ニ當、常ニ府內ニ居テ、事有時之急所之援兵ニ成シ、一ツハ江戶ヲ始、諸所旅動之人ニ被レ宛、府城ヨリ黑瀨之邊ニ、別ニ小屯營ヲ設、府內防人之內四分之一ヲ二三ケ月代リニシテ差下置、新城ヨリ佐須奈之邊ニ小屯營ヲ設、同ジク防人四分之一ヲ以二三ケ月代リニ差替置、扨其本防人ハ一年カ半年カヅヽ之交代ニ極可レ申、對州之地南北二十里餘、場廣シト申セ共、岩險阻ニテ船付碇掛之所ハ少キ由故、石垣ヲ築所ハ、左迄モ有レ之間敷哉、二十里餘之間、西偏之海邊、極北之東偏、三四里之間トニ不レ殘、所ニ依リ石垣ヲ築キ、所ニ依樹木ヲ稠敷植立、厚サ二三町モ植候程ニ候ヘバ、石垣・亂杙・逆茂木ニ大ニ增ルベシ 浦津船附等之所ニハ、城門馬出シ之ゴトク高石垣ヲ築、所ニ依又溝ヲ掘ベシ、當今之形ニテハ、府內ニ如何程之堅甲利兵ヲ被二召置一候共、府內ヨリノ往還四日モ掛候故、賊既ニ國之半ヲ占テ巢窟トシ、不レ可レ動ニ候、況無二堅甲利兵一乎、右ハ凡賊船之乘掛タルヲ防之道ヲ申候、「秦圍二閼與一、趙王召二群臣一問レ之、廉頗・樂乘皆曰、道遠險陿難レ救、趙奢曰、道遠險陿、如三兩鼠鬭二于穴中一、將勇者勝」、御國ハ東西路狹候故、大軍ノ働キガデケヌニ候、少軍ヲ以大軍ヲ防ニ利アリ、猶又村里之道ヲ守防ニ便アル樣ニ付直シ、所ニヨリ樹木ヲ以道

ヲ遮ラバ、猶以防戰ニ便アルベシ、是ハ凡陸ニ上リ、攻上リ攻下ル賊ヲ防之道ヲ云、新城ヲ以上下縣之間之關トスルニ御座候、苟如㆑此則對州外國之防禦共可㆑申事ニテ、是ハ對州之爲ニ非ラズ、日本天下後世之爲トモ可㆑申ニ候間、是ヲ以公儀へ御願之御主意トシ、備禦之御手當ヲ被㆓仰上㆒度儀ト存申候、素ケ樣之□重之儀容易ニ可㆑被㆓仰上㆒事ニ無㆓御座㆒候ハ相知タル事ナガラ、容易成御願ニテハ、御益ハ無㆑之候、先日拜面之節申述候哉ト覺申候、尋常之御□中々御聞請無㆑之事ニ候へ共、又大ニ御聞入之御方モ可㆑有㆑之モ難㆑測、公邊之儀ハ中々御國ニテ相察シ候トハ違候事モ有㆑之樣ニ覺申候、二人扶持ニ五兩取候侍モ、五拾兩之刀ニ三拾兩之脇差ヲ横へ、刀モ脇差モ今日無㆓入用㆒モノニ候へ共、左樣致シ候ヲ嗜好キ武士ト申、日本外國之備禦ニ付申候へバ、千貫目之身體ニテ、雨戸一枚新ニ入レ候程之事ニ候、新ニ城ヲ築、海邊ニ便防之所ヲ被㆑設候事、先ヅハ過分之御入目ニ候へ共、夫ハ公儀之御出方ニモ不㆑及、御大名御手傳之心ニテ、一侯ニ出金被㆓仰付㆒候歟、又ハ西國之諸侯ニ割合セ被㆓仰付㆒候カ、五七萬兩之間拾萬兩迄ハ入申間鋪、又ハ錢鑄ナドヲ被㆑成㆓御願㆒候モ一策ニ御座候、是ハ常ニ愚意ヲ寄セ候事ニテ委鋪述候迪ハ事長ク、委敷述候程ニモ料簡不㆓行屆㆒、大要ノミヲ致㆓書載㆒候、御問答可㆑被㆑下候ハヾ、猶幾度モ可㆑致㆓御文通㆒候

右ハ御書達之條々ヲ逐ヒ御返答致シ、綱領ト節目ト相分兼可㆑申存申候、農政之一件ト守備之一件ハ得ト愚慮候、暇ヲ得候ハヾ、小冊ヲ拵度モノト乍㆓愚意㆒存申候程ニ御座候、日ヲ掛候ハヾ、此御

答モ今少詳ニ認樣モ可レ有レ之候ヘ共、大意之通シ候迄ヲ存、只筆ニ任書起シ候迄之草稿ニテ差上候、御一覽之後ハ御返シ置可レ被レ下候

拾遺

錢鑄之事ハ、御國モ廿四五年前大炊殿詰番之節、大坂御家代船越ヤ新七致二出府一候テ、御願書被二差出一候ヘ共相叶不レ申、其時拙子江戸ヘ居候テ、薄々其咄ヲ覺居ニ付、先年勤府之節記錄致、吟味候ヘ共不二相叶一、御願書故控モ無レ之ニ付、新七ヘ尋遣シ仔細ヲ承申候、間モナク蒙二御叱一、是ハ又御國ニ入リ候事モ可レ有レ之候ト存、新七書面宮川平左衞門ヘ付託イタシ候、ヨクキコヘタル節之樣ニ其時ハ存申候ヘ共、只今ハ覺不レ申、平左衞門ハ定テ粗末ニハ致居間敷候

御側御用人ハ、城主ニ無二御座一候テハ不レ被二仰付一候故、御取替等有レ之候節、城有所ヘ御移被レ成候ヘ共、城無キ御在所ヨリ城有所ヘハ、移替之事甚御繰替セ出來兼候趣、城ナキ御大名ヲ御側御用人ニ被二仰付一候ヘバ、新ニ城ヲ被レ成二御築一候、田沼樣御昇進之上、不レ被レ得レ止新城ヲ被レ成二御築一候、如何程之御入目共不二存申一候ヘ共、二三萬兩ニテ出來タルヤト被レ察候、御國ニテ新城ヲ築要害ヲ被レ設候ニ、五萬兩計モ入可レ申哉、兵器等之御用意迄七萬兩モ入可レ申哉、誠ニ當所モナキ積ニ御座候、若年寄水野出羽守樣之衆之咄シニ、御側御用人望ニ候ヘ共居城無レ之、城有レ之所ヘ振替被レ申事モ容易ニ出來不レ申、新ニ築候トテハ、田沼之勢ニテサヘ出來兼候故、コマヽ居候ト被レ咄候、近來水野樣御側御用人ニ

御成リ被レ成候由、城有ル所ヘ被レ成ニ御移一候ヤ、新ニ御築ニ候ヤ

上方ニテハ肥タル地ニハ種ヲ少ク蒔キ、（ヨクフトリカブフヱ候故也）瘠タル地ニハ種ヲ多ク蒔申候、（カブフトリ不レ申候故、苗數ニテ所務ヲ得申候）是其筈至當之理ニ候、田舍之作ハ肥タル地糞ヲ入候時ハ、種ヲ多ク蒔キ、瘠地糞ヲ不レ入所ニハ、種ヲ少ク蒔候ト申候故、夫ハト尋候ヘバ、肥土ニ糞ヲ入候ヘバフトリ候ユヘ、拾本ハ拾本共ニ實ノリ候ヘ共、瘠地糞ヲ不レ入所ヘ種多蒔候ヘバ、セリ合フトリ不レ申ト答申候、是ハ伊奈郷而已ニ無レ之、豊崎三根郷モ共通ニ心得居候ト相聞候故、定テ八郷共通ニ相心得居可レ申、是ハ養キ入ハセヌモノニ立テ、地面之費ヘ候事ハ、捨テニ致シタ料簡ヨリ起リ候儀ニ御座候、是等ヲ以御考被レ成候ヘバ、御國之作之鹵莽成ルト木庭作作所廣キ之害相分申候

漆・楮御仕立之儀、先才幹之人ヲ九州中國ニ被レ遣其方ヲ精敷習ヒ、其好キ種ヲ取來候樣ニ可レ被レ成候、楮ハ國々ニテ其品不レ同、拙子之叔父雨森玄徹、肥後之人吉二萬石餘之所ヘ有附居候、御内檢拾二萬石、深山多境界廣ク相聞申候、此所之百姓共凶年ニ候ヘバ、山ヨリ紙ヲスキ候品ヲ多ク取出スキ候故、年向宜シク候ヘバ紙高ク候ト申候、然レバ此所ハ山ニ自然生之物ヲ以スキ候ト相聞申候、半紙ヨリハ性强ク、地ハダ粗ク御座候、是等ヲ被レ成ニ御吟味一度モノニ候、右ハ纔ニ耳目之所レ及ニテ、其外ケ樣之類モ天下少カル間鋪候、人吉ハ公儀ヘ被ニ差上一候料紙モ、御國スキニテ濟候由、杉原モ和州邊ノ杉原之ゴトクヤワラカニハ無ニ御座一候テ、性カタク御國之間似合紙之アンバイニ御座候、長門・周防之半

紙ハカウゾト申候テ、一年切ニ田ニ作リ候由、御國之御仕形ハ始メヲ詳ニセズシテ容易ニ取掛故、不レ致二連續一候、先年以來漆ヲ御植サセ、カシカワヲ御植サセ被レ成候ヘ共、一ツモ不レ致二連續一候
亂世ト成日本之通路モ絕、朝鮮之米モ參不レ申候日ニ及候ハヾ、城下之士商皆々田舍ヘセリ込、寸地尺田ヲ爭耕種ヲ業ト致可レ申、其時コソ人々養手入ヲ精シク、少シ場所ヨリ多ク取不レ申テハ行足不レ申候付、農業全書等上方之作ヲ學ビ、上之督責敎諭ヲ待タズ、自ラ本之農事ニ成可レ申ト常ニ存申候、前條ニ書載之通、御國之田ハ二百町、畠ハ千六百町、合千八百町反ニシテ壹萬八千反也、壹反ニ上方上作人之ゴトク拾貳俵出來ニシテ、千八百町之麥出來高廿一萬六千俵也、一人壹年之食麥六俵ヅヽニ當テ候ナレバ、三萬六千人之食物也、麥ヲ以食トシ、秋作ヲ以鹽・噌・衣服ニ當テ、又夫ニ倍々スル木庭作、幷木庭外之草根・木實御座候事故、戰爭之世ニ及候テモ、一島之食ハ一島ニテ相濟候ト見ヘ申候、千八百町ハ一里角之坪・壹坪ト陶山先生被二記置一候、一里角ハ町ニシテ千五百五十五町二反ト相見、然レバ千八百町ハ一里角之坪一坪半ニ大ニ及不レ申候、是野摑積之町段之法違可レ申候、併大要是ヲ以御較量可レ被レ成候

對州守備之一件ハ、當今之御用ニ可二相立一トハ不レ存候ヘ共、此議論ヲ創爲レ置候ハヾ、後世國家之微益、日本之益ニモ可二相成一共存申候、以前御商買繁昌之節、祖父東五郎土地御願之儀ヲ存寄申上候テ、同門之新井筑後守殿ヲ目當ニ致二出府一（筑後殿御側役ニテハキキ申候）候ヘ共其詮無レ之、其後御家老平田直右衛門殿拾ケ

年逗留トシテ出府被二仰付一、右御用被二仰付一、東五郎モ直右衞門殿ヘ被レ成二御添一候、其節モ出來不レ申候ヘ共、只今ニ至東五郎創置候料簡、國家之御益ニ相成申候、僕之不肖豈敢自比二於祖父一ニハ御座候ヘ共

一　以前公木ヲ上方ヘ登セ、被レ成二御拂一候ヘ共、賣捌ケ不レ申、殊下直ニ御座候、依レ之現木ヲ被レ成二御取入一候テハ、日本ニテハケ不レ申候品ニ候ト申事、勘定所之申傳ヘニ成居候、酢屋孫四郎事先年崇信聽之人多看品封進物、調達之御用ニ付掛合、孫四郎申候ハ、惣テ何品ニテモ出口々々之極有レ之、木綿モ着物之表ニハ何國之木綿、風呂敷ニハ何國之木綿、暖簾・前掛・手拭・足袋皆々出口ニ依リ、地合之厚簿幅長ケ之廣狹・長短極リ御座候、公木ハ差物ニ可レ致存申候時、幅廣ク差當何ニゾ用ヒ所無レ之候故、容易ニ望手無レ之、直段モ出不レ申候ヘ共、結構成木綿故、毎歳定シク被二差登一候ト申ニ成候ヘバ、用ヒ所極リ候樣成リ、急度其品ダケ之直段ハ出申候ト申聞、是甚有理之咄ニテ、公木而已ニ不レ限、萬事ニ入用ニ御座候、上方之町人ハ拾歳計之比ヨリ、朝暮其商買筋ニ馴功ヲ積申候、御國ナドノ町人トハ雲泥之違ニ御座候、松山七左衞門・孫四郎事ヲスヽド過タル者迚、甚キラヒ申候、其筈ハ御國ニ參居候テ十日（仙臺ノ相場六日振ニ下關ヘ聞候由）之内ニ仙臺之米相場ヲ知申候、諸事此通ニテ、皆筋々有レ之事ニ御座候

一　朝鮮之備禦ヲ論候事、前哲之說不レ承及一候、陶山先生之食兵宗旨ハ、日本ヨリ對州ヲネラヒ候節之爲、日本之防ギニ御座候、鐵炮格式等ニ賊徒追拂候ト被レ記置一候ハ、日本・朝鮮兩賊共ニ之事ニテ、主ト

スル所朝鮮ニ在トハ相見候へ共、僅ニ守禦之一二ノミニ御座候、戸田仙助之イヘル御軍役ハ法ヲ以人ヲ割候、他國御出馬之軍配タルベク、御國之先務ニアラズ、予ハ人ヲ以法ヲ立可レ申儀ト存申候、藤氏ガ陣場奉行之料簡書ヲ見ルニ、仙助ヲ取ラザル之意相見、甚尤成事ト被レ存申候

一　鹿之稼ヲ害スル事、猪ヨリ甚敷ト云ナレド、イヅレカ甚鋪トハ不レ存候得共、五十功之木□ヲ切レバ、垣ヲ致候ニ五十功モ六十功モ掛リ、又時々木□見舞トテ、往テ垣ヲ補ヒソウロヲ掛候へ共、兎角多カ少キカ、垣之隙ヨリ込入、其作ヲ害セザル迚ハ無ニ御座一候故、彼是ヲ以積候へバ、五十功之木□ニハ百功宛ハ、鹿之爲ニ功ヲ費ト申モノニ候、是モ取切之方可レ宜事之様ニ被レ存候、三郷大催獵ト申モノ、二三十年前ヨリ始リ候テ、年々大造成事ニ候、最初比之年ハ垣モ丈夫ニ有レ之タルト之事ニ候へ共、近年之垣ハ鹿之致ニ往還一候様之荒々成事故、鹿之取レ方少ク、胎孕之鹿子迄數ニ入、漸六七十百ニハ至不レ申摸様ニ候、人功ヲ費候所ハ伊奈・豊崎・佐護之出夫七八百計之者、臘月ニ垣拵ニ拾三四日モ掛リ、春ニ成獵之節又十日モ掛、都合壹萬五千人計ニテ、鹿ヲ取ル事（鹿子ヲ引候へバ）五六十・壹八一日ヲ壹匁ト當候時、鹿壹疋二百匁餘ニ當申候、是等モ民力ヲ被レ勞候之ムゴキト可レ申事ニ候得バ、宜敷御取行可レ有レ之事ニ候、ザット申候時、郷々一村一組切ニ、毎朝一クラ二クラヅヽ獵候様ニ被ニ仰付一候テモ、五十ヤ七十之鹿ハ減可レ申、壹萬五千人之夫ヲ以開田ニテモ遊候ハヾ、當然之利ト申モノニ候、獵川普請ハ郷中之大造事ニ相立、公役人幷拾六歳以上之嫡男次弟、幷名子迄モ罷出候所、獵ハ右之通ニテ、

川普請ハ猶又如何成事歟モ不ニ存申一候ヘ共。人夫ヲ被レ費候程之益ハ有レ之間敷哉ト存申候、先譎所之様
子ヲ見候時、一體川幅上方ト比シ見候時セバク、堤薄低ト相見申候
垣之時ハ現人夫罷出候ト相聞候ヘ共、獵之節ハ郡奉行罷下、三郷奉役ト初役ニ相詰候、□□□申候テ
賄方ヲ設、郡役ハ不レ及レ申、役人之飲食ハ入リ次第、田舍ダケ之酒池肉林ニ候、其入目ト申候ハ、獵
士獵民ニ御渡被レ下候八合飯米ヲ、升ヘリ鼠喰ト號、六合位ヨリ多ク渡不レ申、獵夫ヲ差繰ニイタシ、
□□□錢ヲ出シ、課役ヲ免候モ有レ之、或獵夫ヲ獵ニハ不レ召仕一候テ、山芋ヲ掘ラセ、魚菜ヲ取ラセ候
モ有レ之、依レ之獵ニハ現夫之半分モ、出ルカ出ヌカノヨシ、左申モノ故、府內ヨリ下リタル役々之宮
笥用之山芋掘ナド日々之事之由、川普請モヤハリ其意ニ御座候ト申事ニ候、併虛實ハ不レ存候

一 助國樣御代、盛明樣御代蒙古之賊高麗之兵ト來テ侵ニ對州一、是前ニ所レ謂北狄來リ侵ニ御座候、賴茂
樣御代、高麗之兵來寇シ、貞茂樣御代、朝鮮之兵來寇ス、イツ之事ニ候哉、深山ニ隱候所、子共之啼
聲ヲ聞キ跡ヲ付ケ來リ候故、子ヲ殺シテ隱伏致タル由、陶山翁之書ニ被ニ記置一候

一 異ニ農致一ト論ニ守備一ト、方角ハ違申間鋪、西ヘ可レ行道ヲ東ヘ行不レ申候トハ存候ヘ共、其事重大
ニ共條目多候ヘ共、私式見通シニテ、次第ヲ逐ヒ綱ト紀トヲ分チ、明白ニ其法ヲ結構イタシ候事難ニ相
成一、殘念奉レ存申候

文言ギク〳〵致、御請難レ被レ成候事可レ有ニ御座一候ヘ共、御勘忍被レ下、以レ意解レ意可レ被レ下候、何角

ニ付乍レ恐大顯院樣ヲ御シタワシク奉ニ存上一候事日々相增、神以時々淚ヲ落申候、以上

七月二十八夜

一　一昨年歟御主法御取行ト申ニテ、第一ニ御家中御滅少可レ有レ之、頓テ御新令相始、國家永建之御規格相立候ト、衆口囂々ニ相聞候比、去方へ愚意書裁密ニ致ニ文通一タル儀有レ之、其大下書去年小川主計方へ遣置申候、甚書散シ御讀被レ成間ジク哉ニ候得共、御取寄御一覽被レ下、御覽後此方へ直ニ御返却可レ被レ下候、其大要ハ是迄之御鑄形ヲ或ハ被レ休、或ハ被レ減候テ、國家御永續之御主法可レ有レ之歟ハ不レ存候へ共、抑東國・西國・遠國之諸侯ハ、京都・武城近所之侯伯ト違、過分之御內檢有レ之儀ニ候、左無レ之候テハ、遠國邊境ヨリ之御勤不ニ相成一モノト承及申候、平戶侯ハ六萬石之高ニテ、壹岐之諸稅計モ十萬石ニテ、家中ニ出居候高十八萬石ト申候ヘバ、是ヲ以相察候ニ、全體之御內檢餘程ノ儀タルベク之處、至極之御逼迫、肥後之相良侯ハ二萬石之高ニテ、十二萬石之御內檢、夫故アナタハ御身代宜候得共、夫共ニ勤ナシ之吉川左京之咄トハ雲泥ニ候、大家ニテハ細川・毛利之御內檢ハ不レ及レ申、有馬ハ御內檢ナキ御國ト申セ共、四十五六萬石ハ有レ之由、御家ハ先十萬石之御勤並之處、八郷・田代・朝鮮之御所務五萬石餘ナラデハ無レ之候、然バ假令如何程之御妙策有レ之、御省略之御主法有レ之候迚、凡諸侯之規格ハ大カ小ニテ候ヘバ、愚意ニハ御主法計ニテハ、國家御立行ト申儀ハ出來間敷儀ト存居申候、譬ヘバ器ニ水ヲ貯ガ如ク、元來此器大ニシテ而モヒスキ、且ツ水少ク候故、常ニ致ニ渴水一候間、一ツ

ニハ器ヲ成タケホソメ、一ツニハ能漏リヲ留メ、一ツニハ水ヲ汲添申候、此一ツ一ヲ廢シテハ不ニ相成一儀哉ト存候、是迄時々水ヲ被レ添候事モ候ヘ共、其度ゴトニ器大ニ成リ、扨大ヒスキザヽヌケ故、其度ゴトニ益無クシテ損甚シク候間、御主法ニテ水之器一盃ニト申事ハ、乍レ恐迚モ出來申間鋪候故、能漏リ之留リ候樣ニ相成候テ、猶又水ヲ被レ添候道ヲ御工夫被レ成度事之樣ニ存候、水ヲ汲添候ハ難クシテ却テ易ク、漏ヲ留候ハ易クシテ却テ難キ儀ト相見申候、委細ハ前ニ申候小川ヘ遣置候書面ヲ以御覽可レ被レ下、下手長成候故略レ之候

又一ツ之寢言有レ之候、野拙諸役ニ相成、公事ニ携リ之砌ヨリ、三ツ之所見有レ之、一ニ曰、御宿願、二ニ曰、公作米ヲ今一萬俵程致レ添候事、三ニ曰、御國之地理可レ得事、御宿願ハ今不ニ贅説一、公作米ヲ仕添候事ハ、前年書附ヲ以大殿樣ヘ存寄申上、至極尤ニ御聞通被レ遊候得共、故有テ共御取行ニ至不レ申候、是モ利害巨細一筆ニ難ニ相顯一、先略レ之候、得ニ地利一ト申ハ、抑御國南北三十六里、絕長補短凡十萬石之壤地タルベク之處、土地之稅纔荒麥七千俵、其他田茶類之稅稱レ之、漸十五六分之一カ、或ハ二十分之一ヲ被レ得候ニテ、其餘之地利ハ全棄リ居申候、御國之山ハ嶮峻ニシテ石計リ故、何ニモ生殖不レ致ト諸人申候得ドモ、見事其山ニハ皆々草木生ジ居申候、是偏ニ其道ヲ不レ被レ得故之儀トゾツコン存込、或ハ其職之人ニ此理ヲ少々疑難致見候テモ、地利ヲ被レ増候筋ハ決テ無キ事ト抓拂申聞候故、心中ニ挾候而已ニ打過候處、不レ存寄一七年前中原村ニ被レ嫁、猶亦不思議ニ四年前仁田ヘ再謫被ニ仰付一、仁

田ハ分內廣ク、見聞モ夫ニ應候處、先鄕村之樣子、御國山多シテ平地少ク、平地之分ハ致ニ耕稼一候得共、山ハ上ニ御立山トテ、樹木御仕立被ㇾ置候場所ハ至テ狹小ニテ、全體之山百姓共梨・栗・杉・檜ヲ仕立候ト申儀モ差テ無ㇾ之、天生之草木ヲ以山ヲ荒シ置、其內之稍穩成所ヲ、十年ニ一遍程中ヲ少シエグリ、木庭ヲ伐リ作ヲ致候計ニテ、此分凡百分之一カ、七八十分之一程之儀ニテ、其餘之地利ハ丸ルト捨リ居申候、是非トモ五穀類ナラデハ、農作ト申サヌ事ハ有ㇾ之間敷、漆・楮ヲ初梅干・搗栗・串柿ニ至迄、皆土地ヨリ產候寶ト申モノニ候、松平周防守樣三州岡崎ニ被ㇾ成ニ御座一候處、岡崎ハ上田□□□御役以來、御本領ト申ニテ石州濱田ヘ御所替被ㇾ成候、彼御家中之咄シニ、岡崎ハ地面ハ宜敷候得共、見渡ス程ノ場所、濱田ハ石山計之國ニテ、國中ヲ養候程之米穀生ジ不ㇾ申所ニ御座候ヘ共、場所手廣、專漆・紙ヲ以年貢ハ百姓共他方ヨリ調納候トノ物語ニ御座候、元來石多キ國故、石州トハ名付候由、三才圖會ナドニモ有ㇾ之歟ト相覺、日本西北之隅ニ當、朝鮮ヲ距ル事海上二三十里ニ不ㇾ過、對州ト風土似寄タル國哉ト被ㇾ察候、日本六十餘州紙ヲ漉不ㇾ申國ハ少キモノニテ、所ニ依其紙ニ致候品違有ㇾ之、天然其土ニ應ジ候モノ有ㇾ之事、天理之自然ニ候、仁田モ紙ヲスキ、カゴト申草ノ如ク成木ニテ御座候、夫ヲ仕立候ト申事ハ無ㇾ之、天生之物ヲ用候ニ、成程先年漆穀（カシ）□植候樣御差圖有ㇾ之由ニ候ヘ共、少計一度植捨ニ致シタル而已ニテ、其後絕テ音沙汰モ無ㇾ之候、或人之咄ニ、御時勢宜敷比、去ル勘定所帳本之家ニ扶持方叺ヲ持來候得バ、ノレ糊米ハ片付置ケト申タル由、上モ其如ク以前朝鮮御商買繁榮之節、御

國之土地ハ糊米ト被ニ相心得一、地利等之事ハ誰回顧スル者モナク、其風□□只今ニテハ地利ハ斯ク致タルモノト覺込、井底之蛙達ニ世間ニ之樣子ハ不レ存、依レ之今有リ來候耕稼之農政モ、后稷之樹藝ヲ被レ教タル時之儘之樣ナルヤリハナシ、迂遠之仕形之樣ニ存候、世間ニハ年々便利之農具、作得之方工夫仕覺モ有レ之事之由ニ候、總テ我々連之者ハ一遍致シ、出來不レ申候ヘバ夫切ニ相止メ、御國之風俗ハ猶亦左樣ニ有レ之候、畢竟事之成不レ申ハ、我ガ淺智短才故ニテ、大智英才之人之事ヲ成サザルハ無レ之候、陶山翁ノ猪ヲ被レ殲候方略ハ七度被ニ仕替一、生屬（イコツキ）ガ鯨ヲ捕候モ十何年トヤラ工夫之由、後來英才之人有レ之候ハバ、御國地利ヲ被レ得候謀必從ニ吾言一、大要之目當ハ斯之通ニ候得共、施設方略之詳ニ至テハ、野拙式淺才短智之及ブ所ニアラズ、其上馬鹿ラシク事長候故、書述得不レ申候、大要ヲ御體察可レ被レ下候、此議論ハ御國ニ以前ヨリ無キ論ニテ有レ之歟モ不レ存候得共承及不レ申、百年之後ハ又國家之御微益ニ可ニ相成一哉共存候故、誠ニ愚夫之狂言ナガラ、左アルベキ人ヘハ相咄見度存候故、書載掛ニ御目一候、是モ亦前ニ申候國家之水ヲ汲ミ添候一端ニ御座候

一　去冬陶山翁著述之食兵宗旨ヲ初テ致ニ拜見一、誠ニ感入候、貴君ニハ被レ成ニ御覽一候哉、若不レ被レ成ニ御覽一候ハバ、被レ成ニ御覽一度候、陶山翁之議論ハ有レ事時之備繰ニテ、野拙之論ハ平時之手當、先賢ト相比候ハ近頃憚恐多候得共、並行而不ニ相悖一筋共ニハ無レ之歟共存候

秋熱困苦、草々裁是、縷レ之、不備

此書ハ不佞ガ町奉行被ニ仰付一而後、贈賜有レ之候也

七月念一

其所之工商之多少ハ、其士農之多少ニ隨候ハ相知タル儀ニテ、他國十萬石・拾五萬石位之御城下之町家ハ、御國之町家ヨリ拔群少ク、神戸左越邊ハ皆船持之商人故、人家モ多富庶之體ニ相見候得共、既下ノ關ハ日本西北南通用之大都會、成程有附モ好ト聞ヘ、家屋舖ハ京・大坂之要街ヨリモ高直ニ候得共、夫ニ應ジテハ人家ハ大ニ少ク被レ存候、御國以前御家中相增候ニ隨町家モ相增、士農ニ引當之積、外ニ三歩之一モ其餘モ朝鮮ヲ以經營致シ來、今以有レ增無レ減候處、朝鮮之商買ハ無ク成、御家中ハ致ニ困窮一、町家ハ相增、商買不レ行ト申モノニ行詰タルニ、近來之米價高騰ニ付促ニ其弊一タルベク、此後格別ニ米價下直ニ成、□□□經營出來候樣ニ成候共、連々ニ町家ヲ被レ減候樣ニ無レ之候テハ、往々不ニ相濟一、此處町家ヲ取立候大本共ニテハ有レ之間敷候哉、今商買行レ候樣之御取計ハ、差當諸請負ヲ被レ成ニ御止一候類、朝鮮密柑、久年母サヘ勝手ニ持渡候事成リ不レ申トハ、餘リ致シタルニテ、是隨分左アルベキ事ニ候ヘ共、其位之事ニテハ往々追付申間敷、士農ニ應ジテ工商之高ハ、上方問ヤ何軒、田舍問ヤ何軒、酒屋・醬油ヤ・質屋何軒、大工・桶ヤ・鍛冶屋幾人ト積リ候時、過分之事ニハ有レ之間敷、商買行ハレ候ダケニ積リ合セ、今急ニ相成候筋ニ無レ之候テモ、其ノ所ニ眼ヲ付、法ヲ被ニ立置一度事哉ト被レ存候

一　旅人吟味後、只今旅人之入來ハ有レ之間敷候ヘ共、田舍者府內ニ有付候者多、中以下之町人ハ、亭

主カ女房カ、田舎出之者ニ無キハ無レ之、組之者之子供ハ皆商買人ト成、多家中賴奉公之者ニテ、立テ替之跡ヲ致ニ相續一、此形故府内町家ハ有レ增無レ減、田舍ハ逐年戸數致ニ減少一、田舍ハ人ダニ有レバ、喰ハレヌト申事モ、作リ所ナキト申事モ無レ之、只今形ニテハ、府内モ田舍モ不爲ニ御座候故、一體田舍者ノ府内出ヲ被レ止候カ、又ハ積合ニ付法ヲ以被レ減候歟、府内之者ハ何竈ト申ヨリ以下之子共、三年カ五年カハ家中ヘ致ニ奉公一、田舍之者モ次男次女以下ハ、是モ三年トカ五年トカ府内ヘ差出シ、出切ニハ不ニ相成一樣ニシテ、零落潰タル竈ハ夫切ニシテ、再御增不レ被レ成候ハヾ、自然ト相減、士農ニ釣合候工商ニ可ニ相成一事ニ被レ存候

一　御國ハ海中ニ居テ、船ヲ乘リ不レ申船持ニ成候時ヾ、國内ヨリ積出候荷物無レ之候故、其筈之事共可レ申候ヘ共、自國之品ヲ不ニ積出一候共、他國之品轉移シテ、船商買致候モ有ト聞候得共、御國之人之致シ習ハザル事故、容易ニハ相成間敷、陶山先生之漁戸民戸ト申事ヲ懇ニ被ニ仰置一日外呈候書面ニ、農人耕作之法ヲ存不レ申ト申所ヲ推シ極テ、海漁モ其利遺失致シ居可レ申ト申遣タル樣ニ覺申候、何卒府内遊民之内ヲ漁戸ニ導候仕形ナドモ有レ之候テ、海漁ヲ精詳スル所可レ有レ之事ト存候得共、一體不レ存事故、難レ及ニ愚見一候

一　御國之商買ハ御國内切之商買故、宜キ町人モ百貫目、强テ百五十貫目ニ足ラヌ身體ニテ、其以下ハ猶又程之知タル事ニ候ヘ共、一體ニ奢侈强ク、近來ハ猶又放惰之風押移、田舍ヘ入來候者共之風體

甚浮躁ニテ、上方遊所之者之樣ニ相見商賈方モ其姿之ゴトク、是等ハ殿ニ風俗改度事ニ候

右謄寫之分ハ本書松浦家ニ有レ之

□□□□□□□□□□□□□□□可レ被レ下、然ル處今般之御昇轉、實ニ大慶存候、當今之時體人々急ニ於進取一、其風ニト推移候ハ自然之儀ニ候ヘ共、當時之風ニ被レ叶候樣ニ御勤ニテ、當時之勢ハヨク候テモ、修身之勢ハ夫程ニ無キ事モ可レ有レ之、當時之風ニハ不レ被レ叶候テモ、修身之道ヲ不レ被レ曲事モ可レ有レ之、人之風・世之風ニ我ガ合セ候ヨリハ、我ガ風ニ人ガ合ス樣ニ無レ之候テハ、二ニ三其德一ト申モノニテ、人ニ引キズラレ候、是等ハ慮外之儀、殊ニ遼東ノ豕不レ珍可ニ思召一候ヘ共、實義之寸志不レ惡御聞可レ被レ下候

一 町市ヲ繁榮スルハ、何ニヲ先ンズベキヤ之儀蒙ニ下問一、庸愚之身分御返答ニ恥入候、其上今度蒙ニ御尋一候肝要ハ、救急之良策ト察候處、救急即效之療治ハ、猶又難レ及ニ愚存一候、抑其所工商之多少ハ、其所士農之多少ニ隨可レ申段勿論之所、他邦拾萬石拾五萬石御城下之町家ハ、御國之町家トハ拔群少ク、既ニ下關ハ日本西南北之大都會、成程有付モ能ク家屋敷ハ京・大阪之要町ヨリ高直成地錢ニ候得共、夫ニ致ニ比較一候テハ、大ニ少ク御座候、御時體宜候ヘバ、御家中相增候ニ隨ヒ町家モ增シ、今以有レ增無レ減事ト被レ察候ニ、朝鮮御家中之不景氣ニ、米穀諸色高直ニ付、促ニ其弊一候ハ當然之儀ニ候、素リ當時救急之御下知モ御座候テ可ニ相濟一候ヘ共、町家商賣行ハレ候基本ハ州中之士農ニ鈞合候樣ニ不レ被

レ滅候テハ、慮レ遠之道ニアラズ、是モ今直ニトテハ相成候事ニ無レ之、法ヲ以被レ滅候ハバ、自然ト滅ジ可レ申、其法ハ不ニ一而足一候ヘ共、府城之中竈以下組之者子共、三年カ五年カ人毎ニ奉公ニ可ニ差出一、田舎者モ次男次女以下之類、是又五三年ハ府内ニ致ニ奉公一、府内出ト申事ハ不ニ相成一ニシテ、此法之心肥前之平戸侯ニ有レ之由、減商之御取計色々可レ有レ之内、是大要タルベク、田舎ハ府内出ヲ致候故農戸減少シ、作所空棄之基ニ御座候ト存候、將又御國之商人ハ商賈筋甚下手ニテ、上方之商人ハ七八歳之時ヨリ其商買ニ携、其筋ヲ好呑込、商買ニモ皆稽古修行有レ之事ニ候ヘ共、御國之町人ハ農民之農政ヲ不レ請ガゴトク、商買筋大不功ニ御座候、是ハ其筈ニテ、家中ニ賴込奉公ヲ致シ、年長ニテ店ヲ出シ候モ有レ之、町家モ士ニ成タガリ、商買筋ヲ習候ヨリ士養子ヲ心掛候ニテ、人々守業之志無レ之候故、自然ト風ヲ成シ、商買大樣ニ成行申候、商人而已ニ無レ之、家業人モ鼓ヲ好ク打候ヨリ世ニ媚候テ、勘定手代ニ入立身致候ヘバ、鼓ハ入ラヌモノ、大成損益之違ト目之付所違ヒ、甚シクシテハ矢人而恥レ爲レ矢、弓人而恥レ爲レ弓候樣成行、夫故何之家業モ上手名人ト申モノ出來不レ申、擢才ト申モノト、守業ト申モノハ、別々之道筋ニ候ヘ共相混候故、邯鄲之步ト成申候、町家モ其心ト存申候、勿論町人ヲ商買上手之風ニ移シ候ハ、中々不ニ容易一儀ニ候ヘ共、此所ニ御心ヲ被レ寄被レ成ニ御覽一度、兎角町人ハ町人、大工ハ大工、鼓打ハ鼓打、能太夫ハ能太夫ガ宜御座候、前之酢ヤ孫四郎ヲ、松山七左衛門スヽドキ町人ト申、大ニ嫌申候、嫌申候ハ其筈ニテ、十日ニ不レ滿シテ奥州之米相場ヲ對馬ニ取寄ル樣成儀ニテ、七

左衞門抔鈍ナル商買之風トハ丸ルト違申候

一　御國ニ銀札御取行被レ成度儀ト存、愚意之書述有レ之、去年或人ヘ見セ候得共、夫ハ夫切ニテ、當春平田淺御勘定役入ニ付、公作米添作之儀預レ尋候故、銀札之書述ヲ見セ申候、銀札ハ御國之人共鹽梅存知無レ之事故、迚モ呑込有レ之間敷被レ察候、大下書ニ候ヘ共、掛二御目一候主意ハ分リ可レ申候、御覽可レ被レ下、御覽後御返却可レ被レ下候

一　今般御農政御興起ト申御文言ニテ、被二仰出一候御書面致二拜見一、御役人新加彼是之摸樣荒々承及申候、抑政ノ字之義ハ、或ハ賞シ或ハ罰シ、或ハ勸メ或ハ懲シ、其善ヲ養ヒ其惡ヲ制シ、國天下之人民ヲシテ、惡キ者ヲ化シテ皆善キ人ニ成候樣被二取行一候ヲ、一國之政一天下之政ト申候、夫モ賞勸其道ヲ失候ヘバ、人不レ服二其惠一、罰懲其道ヲ失候ヘバ人不レ畏二其威一、是ヲ賞賞ニアラズ、罰罰ニアラズ、政非二其政一ト申候、農政ト申候ハ、農人之百穀ニ於ケル、人生之民庶ニ於ルガゴトク、或ハ培或ハ耘リ、斯スレバ水旱ニ耐ヘ、斯クスレバ實多粃少ト申候類、一々其法制有レ之、穀物ヲシテ能ク長ジ能實ノラセ候樣ニ取行候ヲ、是ヲ農政ト申候、斯ク麴ヲ拵、斯ク造リ込、斯ク添ヒヲ掛候ト其法制有レ之、好ク酒ヲ釀候ヲ酒政ト可レ申、斯ク苗ヲ拵ヘ、斯ク苗直シヲ致、斯ク植ヘ、斯ク養ヒ、其木ヲ好ク生育致サセ候ヲ樹政ト可レ申、陶山翁之御國之耕作ハ、耕作ト申モノニ無レ之、老後著述之末語ニ、農政之興ル機シヲ見候テ相果度ト被二記置一候ハ、此所之儀ニテ、御國之農ハ一段之畠ニテ漸麥ヲ三俵取、上方之農

ハ拾二俵取候ハ、農政之有ト無キト之違故ニ候、此處陶山翁之見識ニ出來增ト被ニ申及一乍レ不レ及拙者モ盡ニ地利一ト申所之事ニ御座候、夫故農政ト申字ニ、御ノ字之入候事ニハ無レ之候ヘ共、畢竟政ノ字之義不ニ相分一候テ、國家之御差圖ト申儀トモ心得、御農政ト被レ誤候儀ト存候、上ヨリ農人之耕稼之法ニ御字付可レ申樣無レ之、四時之寒暖冷濕、是ヲ時令ト云、氷解・木花・果熟・葉落・虫鳴・鳥飛候ヲ、是ヲ月令ト申、此令ノ字主君ノ號令ト申事ニ無レ之、時ノ令・月ノ令ニテ、國家之命令ト同ジ事故、月令・時令ト申候、農政ノ政ノ字ト同ジ義ニ御坐候、今般被ニ仰出一等之趣ハ、汰ニ冗官一救ニ流弊一ハンレ、農民遂生奉公之御指圖ト相聞、農政之御指南ハ未一事モ相見不レ申、定テ追々農政之起候御取行可レ有レ之ト存候得共、農政ト申事丸ルト土臺違居候ト相見、至テ氣毒成事ニ候、陶山翁ハ上方御國耕稼之樣子委敷存知之上、多ク試被レ見候事勝ニテ、其上御役之歲月モ久シク、一國之土風・人情能存知ナガラ、料簡一盃ヲ行ヒ不レ被レ得候ハ甚其謂有レ之、一生之大遺憾、依レ之農政之起ル機ヲ見テ相果度ト被ニ記置一、陶山翁サヘ右之通ニ候ヘバ、愚拙式之所見ニハ中々以大難事ト存候、聞レ一知レ十ト申樣成大賢大才之人ハ、耕作之事ヲ全ク是迄不レ被レ存候トモ、夫ニ心ヲ被レ寄候ハヾ、バラリト領解可レ有レ之候ヘ共、左樣ニハ參リ兼ルモノ故、第一ニハ農政ヲ指授スル人ガ有マイトモ存申候、長右衞門・阿吉御呼出被レ成候テモ、是ハ御國之粗拵成農事ノミ存知居、則長右衞門・阿吉之耕作ハ、耕作ト申モノニ無レ之候ト、陶山翁被ニ仰置一タルニ候ヘバ、彼兩人ハ農政興起之用ニハ難ニ相立一候、斯申セバ上ヲ非議スル樣ニテ恐入候ヘ共、全ク左樣

ニテハ無レ之、農政ト申文義御分リ無キト相聞、御笑止存候、段々申セバ盡ヌ儀ニテ、書餘ハ御推察可レ被レ下、尤是等之儀御口外堅ク御留申候、誰與語ニテ斯ク書ツラネ申候

右貴答旁荒々如レ此御坐候、猶期二後音一候、不備

三月初九　　　　桂川拜

景山君　玉床下

尙々國老出府ハ何ト申事ヤラ、極テ寒心至極ナド、申事タルベク被レ察候、御繁雜中ナガラ御再言可レ被レ下希候、已上

尙々先日姉方ヘ被レ遣候御傳書之內ニ、白木綿御到來次第、御世話可レ被レ下趣相見申候、可二相成一ハ御賴申候、其代物ニ紙ヲ調可二差上一候、迚使紬之御有合有レ之、一疋御世話被レ下間敷哉、是又紙ニテモ、或ハ大豆・小豆類御望モ御坐候ハヾ、思召次第可二取計一候、紬ハ一疋、木綿ハ何疋ニテモ、相成タケ御賴申度候、出來次第直ニ多田迄御遣置可レ被レ下、防寒之手當ニ彼方ヘ賴越候使有レ之候、已上

先達八月廿四日之華翰、早速落手辱致二拜誦一候、其以來冷氣彌增之處被レ成二御揃一、彌御安寧可レ被レ成二御暮一、御役用格別御繁劇之趣追々承及、誠大慶至極難レ竭二筆紙一候、小生無事保二故態一罷在候

一御凶變幷其後段々之次第承候テ、驚嘆之外更無二他事一候、當節ハ先夫迄ニテ御落着ニ御座候ト相聞、珍重恐悅ニ御座候、最早是ニテ國家之憂ハ相止候事ニ候哉、新若樣御持病被レ成二御座一候ナド致二

流説一候、實事ニ候哉、御家之儀御代人ト申モノ御座候テ、二百諸侯之内ケ様之御變事永ク無レ之御一家之處、一人之私意ヲ以目出度御例格ヲ打崩、誠天道儼然ト申モノニ候哉、御判元見分ト申事、在國之大夫衆存知無レ之處ヨリ弊害之端ヲ生ジ、依レ之御國之大夫衆ハ愚盲之譏ヲ得、東武之人ハ賢明之譽ヲ得ラレ候趣ニ相聞候ヘ共、御國之大夫存知無レ之候ハ、其筈之事ニテ、聖人タリトモ無二是非一所ト相見申候、江戸之大夫是又存知無レ之事ト被レ存、扨々驚入候事ニ御座候、若モ存知候時ハ、御國ハ新規事之御幼主様、タベ付ケヌ料理故、急度從二江戸一其示合兼テ不レ被二致置一候テ不二相叶一、又存知ナガラ其示合ヲ不レ被二致置一モノニ候ヘバ、其罪ハ不レ被レ存ヨリハ、猶又重キ事ニ候、將又人生之生死ハ難レ測、既此節之通ニ候、然ルヲイカニ御入料之御勝手ヅクナレバ迚、御判元見分之入御身ヲ、三百里ヲ隔御在國ニ被二致置一候ハ如何之譯ニ候哉、旁以國家ヲ以玩器トスル之所爲、罪一人ニ歸候ト相見候ヘ共、定テ當節ハ又々國家大功臣ト立チ重賞ヲ蒙、自慢彌增之時體タルベク、誠ニ國ニ議論ハ無キ事ニ候哉、譬ヘバ火ヲ粗糙ニシテ、態ト事ニテ致二失火一、成程其者働候テ火ハ取消候ヘ共、其間之燒亡心遣ハ不二一通一、是ハ功ト可レ申哉、罪ト可レ申哉

一　高源院様御家督之節、表方御家中ヨリ御代人之事ヲ申立、長年之御主君之儀ヲ存寄申出候所立腹ニテ、公邊之儀ヲ不案內故、右體之儀申出、御代人ト申スハ、諸家ニ有レ之事ト被二仰出一之書付等出テ、富壽様御丈夫成御代人ニ被レ成二御立一タル形之由、然ドモ當節之ゴトク、御子様不レ被レ成二御座一候

テ、急御養子ヲ被レ成二御願一候節ハ、假令御盛長後御在府御勤ニ被レ爲レ掛候テモ、御判元見分被二仰付一候御大法ト申ニ候テハ、御代人ト申詮ハ一ツモ不二相見一、其患ハ御幼主樣ニテ、御勤前ニ二代御早世ニ候ヘバ、御滅シ及候ト之御大法ノミニ無二御座一、御國之ゴトキ遠路海上之御往還モ不二相成一筋ニ至申候、諸家ニ御國之如キ御代人ト申ハ不二承及一、御子樣之ナキ侯伯ニハ、御扣ト申モノ有レ之由、併是ハ御國之御代人トハ丸ト違候モノタルベク候

一　御手數ヲ明詳ニハ不レ存候ヘ共、惣テ殿樣御家督蒙レ仰候節、御子樣不レ被レ成二御座一候ヘバ勿論之儀、御子樣被レ成二御座一候テモ、御妾腹ハ直ニ御嫡子樣御同樣之御唱不二相成一、何レニモセヨ、御家督直ニ私萬一之儀候ハヾ、譬ヘバ弟何ト申モノ、或侄何ト申モノヘ跡式被二仰付一被レ下候樣ニト、御願受ニテ御代人相定、隔年之御參覲御下向之節モ、度ゴトニ其通之御屆ヲ被二仰上置一候樣ニ覺申候、大順院樣御代人ハ樋口縫殿ヲ被レ成二御願一、縫殿殿ハ大順院樣(中)世讓ヨリ以前ニ被二相果一候ヘ共、御代人之御願替ハ無レ之、其後御參覲大坂迄被レ遊二御越一候ヘ共、御病氣ニテ御出府之□無レ之、大坂ヘ御醫者ヲ被レ請、御快氣之御□不レ被レ成二御座一ニ付、眞常院樣ヲ御養子ニ被レ成二御願一候、其御病氣之御快復御不快腹ハ其跡デノ事、急御養子之御願ニハ相違無レ之、御醫者ハ御病氣之御引合ニテ、判元御見分トハ別段之事ニ有レ之ソウナモノニ御座候、圓鏡院樣御跡目之御願之節、私妾腹之悴何ト申者致二所持一居候ヘ共、幼年ニ御座候間、成長之間弟主水ヘ家督被二仰付置一被レ下候樣ニト被二御願置一タル事ニテ、大順院樣御願

之節ハ、直之介樣御名前ハ兼テ公儀ヘ相顯居、依レ之御直子之御願同前之譯ニ候哉モ不レ存候ヘ共、圓鏡院樣御跡目御願之節、直之介樣御名前迄ハ出居申間敷哉ト存候事御座候、大衍院樣御繼目之節ハイカヾ致タルモノニ候哉、是ハ一向ニ不レ存候得共、其節ハ繼目之御人柄不二相極一、大ニ議論有レ之タルト申儀ヲ承居候事御座候、此節東武之取計定テ好ク詰候理筋ハ、其筈之事候ヘ共、前後之折渡ヲ得ト不レ存候テハ、田舍ナリノ風說ニテハ分リ兼申候、今度ハ今度ニテ可二相濟一候ガ、以來共ニ無二御氣遣一相濟候樣ニ有レ之度、緣ノ下カラモ、牢之内カラモ、祈念仕事御座候、御繁劇中ナガラ、其内貴報可レ被二仰知一候ハヾ大幸奉レ存候

其外得二貴慮一候事山々候ヘ共、先期二後音一如レ此御座候、以上

十　月　六　日

平安御狀御返書合兩通、御料簡書共ニ一同ニ落手、委細御再答仕度之所、幽囚之身分不相應ニ諸用繁雜、不レ任二所存一、兎角無二延引一御事事致候ガ宜キト存、大意之通シ候ダケヲ申上、餘ハ御察可レ被レ下候

一　御貸付銀之賢慮誠御尤至極、先日モ救急之存寄等御返答致得不レ申、御心遣モ能々相察、常ニ心ニ掛居申候、御貸付銀之意味ヲ以存付候ハ、陶山翁之賢慮ニ、日本亂世ニ成候時之御國之幕方ニ被二申置一候ハ、府内之遊民ヲ田舍之海浦ヘ移シ、是ヲ漁戶ニ立テ、農戶ハ是迄ニ違漁事ニ不レ携、農業一遍ヲ致、漁戶

ハ漁事一遍ヲ致シ、農漁共繁多ノ時節ニハ、漁戶ハ農戶ヲヤトヒ、農戶ハ漁戶ヲ雇候樣ニト、漁戶・農戶ヲ分ツト申事異々被二申置一、漁戶ヲ被レ立候ガ府內漁民之仕付ケ先キニ御座候、然處是ハ亂世ニ至リ、府內之人民サア今餓死スルト申勢ニ被レ迫不レ申候テハ、田舍ヘ移込漁・農兩戶引分レト申事ハ出來不レ申候、併仁人之言其利溥哉ニテ、其心ヲ師トシ候時、其人ヲ田舍ヘ移サズ、其人ハ漁事ヲ以經營サセラレ候道可レ有レ之、御書付ニモ有レ之候通、御國之人ハ漁事モ漁商買モ、皆他國之者ヘ被レ奪候一事ヲ申候時、假令鰯ヲ取候船モ、他國ヨリ入込鰯ヲ買候者モ、他國ヨリ入込候テ鰯取候モ、商買致候モ、皆御國ヨリ致候ハバ、國中之生業相成筈ニ候、依レ之町奉行ハ漁奉行ト、此節ハ御心得不レ被レ成ニ御導候テハ、外ニハ御趣向有レ之間敷、一體今般府內之御料簡諸職百工ヲ以被レ導候明見ト問、一ト通御尤ニモ候ヘ共、嘗テ夫ニテハ參間敷、見所違ト存候、今諸職百工ニ被レ導候テモ、其職ヲ立候テモ、其職計ニテハクヘヌ職モ有レ之、其工一竈ナレバ成程經營出來候テモ、ハヤ二竈ト成候テハ、仕事ノナキ工モ可レ有レ之、左スレバ諸職百工ハ五人カ七人、乃至拾四五人之有付銀ニシテ、五貫目・拾貫目之間之事故、ケ樣之事ハ何之卦ニモ當リ不レ申、今三百貫目ヲ三百竈ニ、一家一貫目ヅヽナレバ、國中之救急之効大ニ相見、不レ輕事ナガラ五千兩金至テ纔之高、殘念成所ニ御座候、漁奉行ト被レ成ニ御心得ニ候時、行屆可レ申ニモ無レ之候ヘ共、是ヨリ外ハ餘リ誰ガ明智モ有レ之間敷、其區處・條理是又其人ニ有レ之ナレバ、御處置次第ナレド、先ヅ目指ス所、題ヲ極テ其詩歌ヲ思案スルニテ、詩歌ハ其人之丈ケ分ダケ、先題ガ極ラズシ

テハ不ニ相叶一事歟之様ニ存申候、猶又其賢智ニ應ジ、妙策様々タルベク候ヘ共、愚拙ニ於テハ漁事ト漁商買ヲ以導カレ候外ニハ、人ノ百ト百五十往々マトマリソウナ筋ハ存寄無レ之、并ニハ頃日申候通、府内之戸口ヲ減ゼラレ候所ニ御座候（五島之様子ヲ承候處、漁事ニテ立チ候様ニ相聞候）

一　諸職百工ト申候時、奈良之晒・河内之木綿・丹後之丹後島縮緬・越後之越後・郡内之郡内ナド之類國國之織物類、加賀之笠漆細工・長門之印籠・石州之貝細工何角ト申様之諸職百工ハ、御國之及所ニ無レ之、假令及ブニ致セ、夫ハ五十年・七十年之効驗ニハ無ニ御座一、況夫程ニ根ザシタル諸職百工之御主意ニテハ有レ之間敷也

一　是ハ至テ些少之事ナレバ、常ニ心ニ掛居候事故書ツラネ申候、鰹節之事鹿（町）見・久原・犬ケ浦其外阿連・今里モ其通之由、八月比サンマト申、又俚云トビ〱トモ申、上方ニテハ茶袋ト申候由、此魚鰹節ニ成申候、三才圖會ニモ其種類甚多、土佐ヲ名產ト致候ハ、種類多キ内土佐ハ其好キ魚ニテ拵候故、彼國之節宜御座候哉、ドレモ節ニ致セバ成ルニ候ヘ共、其好キニシカズト相聞、御國ニハ一體鰹節ニ拵様ヲ知不レ申、扨其魚ヲ取候事モ、其術大様ニ相聞申候、是ヲ御穿鑿被レ成度奉レ存候、土佐殿家内付藤六ト申者、是ハ田代出生之者ニテ、此者拵申タルハ大分宜シク御座候、元銀ニテモ御借シ被レ下、試被レ仰付一候道共ハ無レ之候哉、出來候ハヾ田舍取リ方ニ至リ、段々御心遣モ被レ成度、是程申述候ハヾ、御體察之前ト不レ能レ詳候、藤六ト申者ハ上方者之事故、發明ナル奴ニテ過モヨホド申、短氣

者博奕モ打申候、併男立テ風ニテ、餘リ間違モ致不レ申候

一　御國之產ハ椎茸之外無ニ御座ー候處、是モ纔之銀高ニ御座候、然處是ヲ採候者、小指之頭程之品ヲ、手ニ掛リ寄リニ悉クムシリ取候故、夫ハ殘シ置フトリ候テ取候樣ニ致セト申候テモ、我ガムシラネバ人ガムシルト申候テ、我一ニムシリ申候、是ヲフトラセ取候ヘバ、一石ノモノハ五石モ取リ候、百姓之暮シハ猶以之事ニテ、三斗ニテ三拾匁トリ候者、九斗ニテ九拾匁取リ候ヘバ、誠ニ大キナル違ニ御座候、只今ハ春椎茸打散リ居候時節、秋椎茸ハ八月ニ出候故、盆後ヨリ開カヌ椎茸ヲ賣候事ト、取候事ト、堅ク被レ成ニ御停止ー、賣候者ハ屹度御叱リ、何方ヨリ調候哉ト御鑿有レ之事、六ケ敷被ニ仰付ー候ハヾ此弊習相改、是モ又乍レ微國之爲、實ハ百姓之爲ニ御座候　仁田邊ノ百姓ノ爲ニハ不レ輕益ニ御座候

一　以前ヨリ椎茸之出高減候事ヲ尋問致候處、近年ハ大風吹キ不レ申候故、吹倒之腐木ナクナリ、菌木無レ之故ト申候故、左樣ナラバ木ヲ伐リフセ置タルガ宜シク、山廻役モ夫ヲ咎メ可レ申樣無レ之、夫式之事山廻役・下知役之所置ニテハ不ニ相成ー候ハバ、上へ願候テ致候ヘバ宜事ニ候ト申聞セ候ヘバ、左樣ニフセ木致置候テモ、他村他鄕之者來リ取候故、其詮無レ之ト申候故、然ラバ他鄕他村ト申談、每鄕每村フセ置候ヘバ、此鄕之フセ木ハ他鄕之者取リ、他鄕之フセ木ハ此鄕ヨリ取リ候ト申ニテ、恰好宜シク候故、他鄕他村申合ベキ事ト申候テモ、百姓モ下知役モ奉役モ、左樣之行屆タル事ハ合點致シ不レ申候、是ヲ郡役ヨリ田舍へ致ニ尋問ー、此通之申付ヲ致サセ度事ニ候

書餘期ニ後音一候、不備

五　月　二　日

朝鮮之御商買、其外御爲筋外ニ株立候事ハ有レ之間敷、送文君品封進物之期ヲ失不レ申樣被レ成ニ御取計一、封進物ヲ大ニ御手前之品ヲ御改品被レ置候テ、單蔘ヲ初諸品改品御坐候樣ニ御仕掛被レ成度、其外興廢振頽候小節目ハ、イクラモ可レ有レ之候へ共、從レ是ハ難レ測難レ申候

古者井田之制、九夫爲レ井、四井爲レ邑、四邑爲レ丘、四丘爲レ甸、甸方八里、旁加ニ一里一爲ニ一成一、其地百井、而方十里、四甸爲レ縣、四縣爲レ都、四都方八十里、旁加ニ十里一爲ニ一同一、其地萬井、而方百里溝洫之制、夫間有レ遂、遂上有レ逕、十夫有レ溝、々上有レ畛、百夫有レ洫、々上有レ涂、千夫有レ澮、々上有レ道、萬夫有レ川、川上有レ路

百井方十里トイヘルナレバ、百井ハ九十夫、日本ノ一里角ヲ九十人ニ割レバ、十五段餘ニ當リ候カ、溝・洫・澮・川・遂・逕・道・路ヲ共内ヨリ引候ハヾ、一夫十五段ニ當ル樣ノ大法ト被レ察候、モトヨリ聖代ノ制ハ當レ優而不レ當レ儉、一家八九口ヲ養候ナレバ、十五段ニテ相當タルベキカ、御國ハ鄕村ニ依リ廣狹アリト雖モ、凡品ハ五段内外タルベシ、木庭ハ又倍々タルベシ

郡トイヘルコト古ニ有レ之候カ見覺不レ申、秦始皇天下ヲ幷セ、始テ天下ヲ分ツテ三十六郡トス、郡縣ノ號ハ此ヨリ始ル、秦時ノ郡トイヘルハ、格別大ナルモノ也

右ハ有用ノ學、御入用ノ時モアルベキヤト存、書付掛二御目一候

一筆致二啓上一候、暑氣之時節御坐候得共、被レ成二御揃一彌御安康可レ被レ成二御務一欣慰之至奉レ存候、

小拙無事保二故態一候、乍二慮外一御遠念被レ下間敷候

一　御役向御城御修造御用掛蒙レ仰候由、是又早速承及、仕途之榮輝乍レ蔭大慶存候、嘸々日々御繁多可レ被レ成二御勤一、餘程御大造之御普請ト相聞、御心遣致二量察一候、御役ニ付テハチト又無用之儀ナガラ、得二貴意一度筋モ御坐候ヘ共、兼々御察知之通、只今此大ニ紛雜ニテ、其上差急候事ニモ無レ之、兎角秋來閑暇之節ヲ以可二申述一候

一　追々注文之仁田紙差登候故、無二間違一御落手可レ被レ下存候、凡半紙一〆分計ト之御事差登候ニテ、大概一〆モ其餘ニモ當可レ申哉ト存申候故、先アノマヽニテ、跡ハ猶又御望モ候ハヾ、兎モ角モニ致可レ申候、何共可レ被二仰下一候

一　年來農業全書一覽大望之所、此身ニテ不レ及レ力、愁嘆而已之所、漸當春以來手ニ入致二披見一、何事モ感服之外更無二他事一相覺候、楮木之事モ委細ニ相見、楮之字之左右ニカウゾ・カゴト兩名出居候、然ハカゴト申候モ、御國而已之唱ニテハ無レ之相聞候、兼テ防州邊之カウゾ一年立ニ植刈候樣承居、尤防州之者物語ニ、左樣ニ承居候ヘ共、其者船頭ニテ樹藝之道ニ不レ委、物語荒々ニ哉、野拙之聞違ニ候哉、刈取候事ハ年々刈取候ヘ共、年々植替候トハ不二相見一、植付之法等能ク相分リ申候、先年私差木等ニ致

見候へ共、有付不レ申候、是ハ其筈之事ニ候、當冬來春ニ掛、田舍之カシ皮トカゴトヲ植付見可レ申、然シ繋囚之身分力屆キ申間敷候、殘念存候、楮ハ其類多候故、國々之產ヲ廣御吟味被レ成度旨、折々得ニ貴意一候處、五穀ハ曾テ作ラレザル山野ノ嶮シクソバ立テ、牛馬ノスキカキモナラザル岩ノ間ノ石多ク、他之物ヲ作ルベキ樣ナキ所モ、楮ニ相應候地多クアルモノ也ト農業全書ニ記有レ之、左候ヘバ廣ク求候ニモ及不レ申、防州之ツヅリカキハ石州ニ植候モ同樣（楮之名所ニ依リ樣樣有レ之其品甚多）ト被レ察候ヘバ、防州之楮ニテ極テ御國ニモ可レ宜候、町人梯專助ト申者、楮之苗ヲ取リニ上方ヘ參タルト田舍ニテ申候、實事ニ候哉、珍重成事御座候、然處上酒之取下シ御免ヲ願候トヤラ申候、利ヲ貪候付事ヲ誤ト申儀、則農業全書ニ論有レ之、委細不レ存儀ナガラ御國之御取行ハ則全書之戒トコソ被レ存候、楮木ハ官物ニハ成ガタク、其譯ハ養手入松杉之類之ゴトク植舍テニ不ニ相成一、然バ最初ニ上ヨリ御物ヲ入ラレ、御心遣ヲ被レ下、百姓ニ植覺サセラレ、年月ヲ以其征賦ヲ被レ取候形ニテ、「知ニ與之爲レ取、政之寶也」一之義ト被レ存候、其外穀菜樹木ニ至迄、カクスレバ榮ヘズ、カクスレバ榮ヘルモ實少シト申所一々記有レ之候、御國之ハ皆其忌ム通ニイタシタル、其咎ヲ土地ニ歸スルニ御座候、日本之勘定役ハ漢之世之大司農ニ御座候、國財ハ皆農民ヨリ出ル故ニ御坐候、左候ヘバ楮・漆其外農夫樹藝之法モ、皆御役儀中之事ト御覺悟被レ成度候、今度源左衛門罷登甚多冗、荒々著中御見舞迄如レ此御座候、不備

六月廿九日

尙々遲西堂之會ヲ餘計ニ被ㇾ成ニ御所持ㇾ候由承及申候、粗末ニハ曾テ致申間布、借用奉ㇾ希候、若ヤ今便被ニ差越ㇾ被ㇾ下候ハヾ、別テ可ㇾ辱候、已上

一　陶山翁足食談、其餘書物之儀、貴諭之通寫シ見セラレ候迚、多部ニハ至不ㇾ申、一二三遍宛涉獵イタシ、其內至要之所ハ覺書ニモ致置度存念候間、此旨ヲ以朝岡ヘ御通可ㇾ被ㇾ下、此間鐵炮格式僉議條目ヲ借、致ニ披見ㇾ居申候

一　王荊公曰、方今之所ニ以窮空ㇾ不ニ獨費出之無ㇾ節、又失ㇾ所ニ以生ㇾ財之道ㇾ故也、富ニ其家ㇾ者、資ニ之國ㇾ富ニ其國ㇾ者、資ニ之天下ㇾ欲ㇾ富ニ天下ㇾ則資ニ之天地ㇾ

此言葉ヲ常ニ翫味イタシ候故、書付掛ニ御目ㇾ候、主法トハ、儉約トカ申セバ、只出ヲ減候事而已一遍ニ心ヲ寄候、出ヲ減候ハ素リ至要之專務ニ候ヘ共、夫計ニテハ參兼可ㇾ申、生財之理ヲ工夫不ㇾ致候テハ、才智トハ可ㇾ難ㇾ申候、節出ト生財トハ、才ニ長短之違可ㇾ有ㇾ之候

一　材力ト申モノ有ㇾ之、十之物ヲ五分六分之所迄ハ、目ニモ掛リ手モ屆候人ハ間々有ㇾ之候ヘ共、十分之所迄見通、十分之所迄行遂人ハ、豪傑ニアラザレバ能ハズ候、唐太宗曰、「敵犯ニ吾弱ㇾ追ㇾ奔不ㇾ過ニ數十百步ㇾ吾擊ニ敵弱ㇾ常突出、自ㇾ背反攻ㇾ之、以ㇾ是必勝」攻戰ニ不ㇾ限、ツキヌケテヒックリ返テ、後シロヨリ攻ムルトノ義、誠太宗ハ英雄ニテ、是ヲ以貞觀之政治炳然可ㇾ見、拙者常ニ此語ヲ愛候故、書付掛ニ御目ㇾ候、右之二語ヲ御得心被ㇾ下候ヘバ、拙者國家之事務ヲ論候大意ハ、御諒察モ可ㇾ被ㇾ下ト存申候、

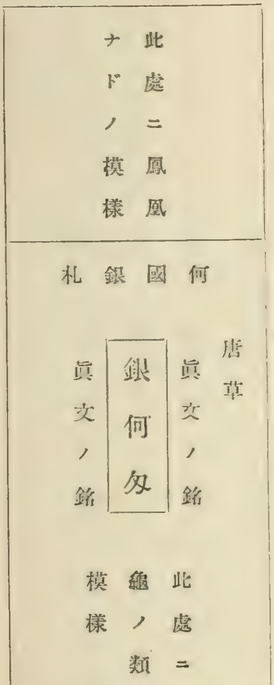
無用之長言ニ候得共、御細翰之意ニ答へ如レ是御坐候、幸ニ匆ニ以レ人棄レ言、丸餅之贈、感佩實深、不宣

正月廿七日　　　　　　　　桂川

景山公　案下

御國之儀文字銀之初比迄ハ、銀通用御坐候ト相聞候へ共、四拾年餘以來他之通用ノミニテ、銀通用一切相止ミ、金・銀・錢ハ天下之三寶、通用其一ヲモ闕ガタク、其内金ハ何兩何歩ト唱へ、錢ハ何百何文ト唱へ、何匁何分ト申候ハ銀ノ唱ヘニテ、金・錢之相場ハ銀ヨリ起ルニ御座候、江戸ハ金ヲ以致ニ通用一、一歩之端ヲ錢ニテ足シ合セ、江戸ハ諸侯集リ、國々ヨリ陸地之長途、銀之持運不手廻ニテ、殊ニ武士之差引、時ニ臨ミ猶豫成ガタキ事多、秤天平之取扱不便利、旁以江戸之金通用ハ自然之勢ト被レ存候得共、夫サヘ金ヲ銀ニ立テ致ニ通用一候故、詰ル所諸大名之御損ニテ、其利ハ上方ニ歸シ候筈ニ御座候、御國ハ朝鮮之御商買ヨリ、古銀文銀之名目相立チ居、皆錢ヲ以多寡ヲ分チ御通用有レ之、元來錢而已之通用ハ、御爲ニ悪敷筈ニ候、文字銀之初比ハ、銀壹匁之當錢四五拾文之間ニ候所、其後追々錢鑄始リ、錢段々下直ニ相成、六拾文之前後ニテ暫スワリ居、古銀ヲ九十六文ニ立テ、文銀ヲ六拾文ニ被レ立候時、五割之增減、通用釣合モ宜候故、御國之錢遣ヒ六拾文ニ定リタルニ可レ有レ之候へ共、近年ハ猶又所々ヨリ新錢ヲ鑄出、拔群下直ニ相成、御國之貳匁ハ上古之壹匁ニ當候樣成行ニ付、御國之痛一重ヤ

二重之事ニ無ニ御座一、此後モ錢下直ニハ成候トモ、高直ニハ成申間敷、然バ兎角以前之通銀通用無ニ御座一候テハ、御國ハタマリ不レ申候勢ト相見候ヘ共、只今銀通用ニ可レ被レ成トノ儀ハ、迚モ容易ニ相成間敷、然レドモ此儘ニ難レ被ニ召置一時體ニ至候ト相見申候、依レ之致ニ愚慮一候ハ、諸侯之御城下ニ銀札ト申事有レ之、拙者上方流浪之間、片桐石見守樣御在所和州小泉ヘ暫罷越居候處、小泉銀札通用ニテ、其隣城松平美濃守樣御城下郡山、是又銀札通用、其外京都近所丹後・丹波之諸侯方ハ、多ク銀札通用ニ御座候、銀札ハ楮幣又ハ鈔ト申、元來唐ニ有レ之事ニ候、日本之銀札ハ□田紙ナド拾枚計合セタル厚サニシテ、幅壹寸二三歩、長サ四寸五七歩、眞中ニ壹匁札ハ銀壹匁、五匁札ハ銀五匁ト記シ、上ヘ下ノニ鳳凰龜類、グルリニ唐草等、下タニ引替所記レ之、唐金之板ニテ兩脇ニ眞文之銘等有レ之、國々ニヨリ少ヅヽ之模樣違御座候得共、皆同ジ事ニテ



凡如レ此、三分札・五分札・壹匁札・三匁札・五匁札、所ニ依リ貳分札・貳匁札有レ之モ御座候、引替所有レ之、

一匁ニ貳厘ヅツ之落シニテ、金・銀・錢望次第御引替被レ下、其通用何厘何毛之端ハ、札ニ錢ヲ添致ニ通用一候、諸國銀札之利分ト申候ハ、ツニハ百貫目之御銀有レ之候ヘバ、百五拾貫匁モ其餘モ御通用相成、一ニハ引替ニ付壹匁ニ二厘宛之益ヲ被レ得、一ツニハ札水ニ入、火ニヤケ、大ニ古損シ通用不ニ相成一候時、銀ハ上ニ納リ、札ハ消エ失セ申候、是ハ諸國一同之利益ニテ、御國ニ於テハ夫ヨリ重キ錢通用之病ヲ被レ除候段、格別之御爲ト被レ存候、銀札存知之人ハ、中智之人ニテモ、其利害好ク分リ可レ申候ヘ共、御國之人終ニ見及聞及ナキ事故、必定不呑込ニ可レ有レ之候ヘ共、併理ト勢トヲ推シテ被レ考度事ニ候

一　御國ニ銀札御通用御座候ハヾ、御益ハ樣々ニテ、御害ハ曾テ有レ之間敷、其内害ト申候ハ只一事有レ之候、惣テ京・大阪近所□大阪商人入込候御城下ハ、其國□御自由不ニ相成一札モヨクキヽ、小泉郡山札ハ奈良迄モ致ニ通用一、其外公領・私領打込通用致候ヘ共、遠國ニテ上方商人入込不レ申所ハ、國主之御自由出テ、札ヲ御引替不レ被レ下候故、左樣之所ハ壹匁之札ヲ二拾文ニ致ニ通用一候ナド申儀有レ之、左モ可レ有レ之御國モ、此處之御處置ノミニ御座候

一　近來田舍之上納銀、六拾文之御相場ヲ可レ被レ改ト御座候テモ、鄕中難儀之譯ヲ以御斷申上候由、上方之相場ニ隨、年々御上ゲ被レ置候ヘバ、只今壹匁ニ百文餘ヲ以致ニ上納一候テモ、難儀之譯ハ無レ之候ヘ共、只今ニテハ七八十文□□□□□□難儀ニ存候、是迄何拾年トモナク、下直成錢ヲ高直ニ御請取被レ下候大成御恩ハ、下モ之目ニ見ヘ不レ申、此上錢下直ニ成候程、上之御損ハ彌增ニ相成候

一　田舍之事情ヲ申候時、仁田邊ヨリ上納銀差登ニハ皆陸持ニテ、壹人持凡錢三拾匁宛、壹貫目ハ三拾三人持、壹貫目差登セ候ニハ、貳百目餘之雜費掛リ申候、海上通用之村々ハ、壹ヶ年ニ田舍船三艘カ二艘カ不レ及ニ難船一候ハ無ニ御座一候故、五貫目・三貫目不レ致ニ入水一年ハ無レ之、申サバ是ハ輕キ事ニテ、素リ天下之舟行ハ皆其通、御國ニ限候事ニハ無ニ御座一候ヘ共、銀札ヲ被レ用候ヘバ、ケ樣之害迄モ無ニ御座一候、御國モ四拾年程以前ニ、銀札ノ沙汰ヲ致タル人有レ之タル樣ニ承居申候、只今ハ誠ニ其御時節ト被レ存候、以上

口上覺

寶曆□年間清淨院樣、爲ニ告訃使一土田□左衞門被ニ差渡一候處、御圖書違例之譯ヲ以、五ヶ年ヲ過ギ御使者接待無レ之、年數及ニ滯留一、大ニ令ニ拒滯一候砌、左之書面指ニ出之一

一　此上義理明白相分候樣、今一應委細論談被ニ仰付一、如何可レ有レ之哉ト申上候、御辨ハ□□□□□

（是ヨリ御遺書被レ遣候主意）曾祖太守在勤之節ハ、偏ニ貴國之御价抱ヲ以、萬事無レ滯相勤辱被レ存、後世子孫倍誠信之交誼致ニ增長一、不ニ相替一御懇意被レ下候樣賴入候處ヨリ、臨終苦痛之中ヨリ遺書相認、依テ輕少之遺物指贈、（是ヨリ御印ハ無レ之候得共、嚴樣御印難レ被レ成ニ御用一譯）死生之後既ニ使者差迄候期ニ至リ、不圖存付候ハ、曾祖太守圖書先年致ニ送還一、左候得バ是迄無印之書翰遣シ候儀無レ之、舊太守之印ヲ新太守用候儀ハ有レ之候故、左モ可レ致候得共、子之印ヲ父之書ニ用候テハ、一ト通リ信ハ立チ候得共、貴國禮儀文明之邦ニ對シ、禮儀ヲ不レ存

仕形ト思召ヲ愧入、是ヨリ數様御書簡ニ御遺命ヲ被二書込一候譯 遺命ヲ請候身ニ十分不足ナル儀ニ候得共、曲ゲテ此節其旨ヲ現シ、太守之書中ニ書込、遺言ヲ申達、遺物ヲ相贈候、夫サヘ生前之遺書ヲ不二相贈得一段、遺命ヲ背キ候ト重々殘念ニ存候、是ヨリ例ニ違候迚被二相拒一ハ、御難儀之次第 然處例ニ違候迚、使者御接待不レ被レ下、遺言御聞屆不レ被レ下候付、誠意不二相貫一、隣交之上重キ吉凶相告ヨリ、告訃モ五年過候テモ不二相達一、弔慰モ不レ被二仰下一候得バ、公儀ノ恐モ私ナラズ、難儀之仕合ニ候、是ヨリ例違候儀、此方モ不レ好レ之被二仰分一 例ニ違候儀ハ貴國ノミニ不レ限、此方モ甚嫌ヒ候事同様ニテ、左無レ之候テハ物毎多端ニ相成、ツド／＼ニ双方之議論、自然ト穩便ニ不二相濟一、其上中間之奸計弊端モ必定之事故、以前ヨリ約條ヲ立、諸事致二一定一置候、是ヨリ例外之儀ハ、是迄例外ニ取行來候被二仰立一 乍レ然初交ヲ通候上ハ、公私之用向莫大ニ夥敷候得バ、定例之内計ニテハ事相濟不レ申、非常之事ハ非常之例有レ之、義理分明ニシテ無レ據儀ハ、互ニ非常之例ヲ以取行來、既ニ貴國モ其所能御斟酌之前ニテ、定例之外ハ非常之例ヲ以御處置被レ下候事、是迄餘計ニ有レ之候、是迄之儀ハ御明察ニ御座候テ、此一事ニ限御曖昧ニ可レ有レ之様モ無二御座一候、增テ告訃之儀ハ前例有レ之、畢竟此節ハ不レ得レ止變通ニテ、義理明白成儀、此上ハ有レ之間敷候、是ヨリ遺書ナキ遺物ハ難レ被レ受被二申聞一候御答 遺書ナキ遺物ハ御受ケ難レ被レ成段被二仰聞一候、遺書之儀ハ既ニ生前相認置候得共、印無レ之候付、貴國ヲ重ジ候處ヨリ致二遠慮一、謹デ藏メ置候得共、不二苦思召御受取可レ被レ下候ハヾ、無二此上一大幸、曾祖太守之靈如何程カ可レ被レ致二滿足一候、是ヨリ訃音遺言計申進ジ、遺言ハ不二相斷一、御書翰ヲ改撰之儀被二申聞一候御答 將又訃音ト遺言計ヲ申進、遺物ハ不二相贈一樣ニ被二仰聞一候、凡書翰使者ヲ差越候

得バ、必儀物ヲ添候ハ、天下古今通用之大法ニテ、情隨物贈遺言ヲ達シ遺物ヲ贈候テコソ、誠意モ通ジ可レ申候、〔圖書被ニ差返一候上ハ、其職ナ不レ被レ掌候事故、不レ及ニ御遺言一ト被ニ申聞一候御答〕圖書致ニ返呈一候上ハ、交誼ヲ掌リ不レ申段勿論ニ候得共、以前其職ヲ掌候ニハ其紛無レ之、現在曾祖之事ニテ、貴國ニモ御誠信之上ヨリ、信使譯官之節ハ、既ニ音信贈答有レ之程之事故、是迄之御懇意ヲ謝シ、子孫隣交不ニ相替一樣御賴被レ申、臨終ニ至リ格別誠意ヲ被ニ申伸一候事理ノ當然ニテ、例之有無異同ヲ論候迄モ無レ之候、〔是ヨリ右ニ付御孝心相立不レ被レ成候次第〕子孫ト成候者、其治命ヲ受ケナガラ、其誠意ヲ不ニ申達得一候テハ、先祖ヘ何ト申分ケ可レ致候哉、無父之國ハ無レ之候故、身之置所モ無レ之次第ニ候、〔此儀ハ御聞分可レ被レ下ト存候次第〕貴國ハ禮儀文明之國ニテ、既ニ延享信使之節、日本大君幣物之儀、大王之御孝心ヨリ事相濟候由承レ之、誠ニ以感涙ヲ下シ申候、ケ程迄錫類御親切ヲ以致ニ量察一候テハ、兎角此方役人共之申分趣意達候歟、又々譯官申達モ有レ之御事多事故、得ト御勘辨不レ被レ下候哉、此處致ニ疑惑一候、〔是ヨリ其筋ダニ得ト被ニ仰聞一候ハヾ、其上被レ仰聞敷トノ次第〕然シ自分之事ニテハ暗キモノニ候得バ、角申候儀モ重々不道理ニ候哉、是又難レ測候、人ニ對シ不理屈ヲ申候ハ無禮ニテ、一途ニ心得候ハ不明ニ候得バ、此方申分義理ニ違、御承引難レ被レ成筋有レ之候ハヾ、其利害委細被ニ仰諭一可レ被レ下候、立チ所ニ前非ヲ改メ致ニ感服一、無禮不明之儀可レ致樣無レ之、靈前ニ詳ニ可レ致ニ演說一候、〔是ヨリ和交之衰候ヲ嘆キ候次第〕和交ヲ通ジ候以來、萬事穩便ニ得ニ御意一候事、古今ケ程睦敷儀ハ有レ之間敷之所、此節ノ如ク使者差越、五年迄事決着不レ致、互ニ張リ合居候儀、百餘年來終ニ無レ之事ニテ、和交モケ樣ニ成行候哉ト致ニ寒心一候、〔是ヨリ度々被レ及ニ啓聞一、此上ハ啓聞〕

致ス間布候由被ニ申聞一候御意是迄度々被レ及ニ御啓聞一候得共、朝廷御聞入無レ之、却テ御叱ヲ被レ蒙、譯官中モ毎度罪ニ被ニ仰付一候由、御難儀之程能々致ニ體察一、此方ニモ甚氣毒ニ候得共、凡居ニ其位一、思レ直ニ其道一候事故、無レ據御聞通被レ下候ハヾ、事相分候迄ハ幾遍モ押返シ、御啓聞可レ被レ下儀ニテ被レ成ニ御猶豫一、兩國之間致ニ壅塞一、御職分之筋ヲ被レ失候儀ハ、ヨモ有レ之間布間、隣誼ヲ被ニ思召一、尚又御啓聞被レ下、順便相成候樣御周旋偏ニ奉レ賴候ト、今一應被ニ仰達一如何可レ有レ之哉、是迄段々御手ヲ被レ盡候事、私式右體愚昧之了簡ニテ、千ニ一モ順便可ニ相濟一哉ト奉レ存候ニハ決テ無レ之候得共、返答ニ依若御處置御變通之端モ出來可レ申哉、取付所モ無レ之樣ニ相成、其場ニ至後詰被ニ御取計一樣之品モ可レ有レ之哉、然バ右申上候儀モ只後詰迄之道行之一端ニモ萬一可ニ相成一哉ト不圖存付候故、一毫之御益ニモ立不レ申樣モ無ニ御座一候得共、身分之冥加ヲ忘却仕申上候、不敬不調法之段御免被ニ成下一候ハヾ、難レ有可レ奉レ存候、以上

月　日　　雨森平藏印

大雲院樣御改諱之考

享保十乙巳六月御在府之節、御諱方誠樣ヲ義誠樣ト被レ成ニ御改一、御役人樣ヘ被レ成ニ御屆一、幷朝鮮ヘ之御知ラセ之儀モ御屆被ニ仰上一候、當年條之御僉官ハ副特送使計故、是迄ハ其通ニ被レ成、其跡告還使ヨリ御改被レ成候、時在ニ江戶一雨森東五郎了簡御聞被レ成候處、御改諱之次第被レ仰候ハヽ、可レ爲ニ無用一相尋候ハ

バ、其據所故公儀モ御聞屆被レ成二御免一、他國ヘ委細難レ申事ハ、何レ之國ニモ有レ之儀ニ候、圖書改鑄之儀申掛及二違却一候テハ、却テ不レ宜候故、最初彼方次第ト可レ被二仰掛一ト之儀、舘守ヘモ此旨ヲ以被レ及二御差圖一、松浦儀右衞門。越常右衞門モ同意ニテ、別御書契告還使致二順附一、禮曹東釜ヘ被レ成二御屆一、其書曰、茲告、不佞有二不レ得レ止之故一、頃蒙二鈞裁一、改二易今名一、謹此通二報左右一、敢請二識認一、若其圖書、原係二貴國所一レ給、仍用與レ否、惟其指揮、萬冀二崇亮一、先年講定使之例ニ準、別幅ハ不レ被レ遣、東萊返答ニ、告還使之書ヨリ御改諱ヲ御用被レ成儀ニ候ハヾ、先達御屆可レ有レ之所、告還使致二順附一候儀難レ得二其意一、都ヘ差越候テモ、可レ及二違難一候故、難二受取一由申聞候處、朝鮮之官人トテモ、朝廷之許ヲ蒙候時、其屆ニ不レ及、直ニ改候名ヲ書簡ニ致二書裁一遣候筈ニ候、此節御書簡ニ圖書改鑄之儀被二仰越一、彼方返答難レ致、一ト度圖書ハ致二鑄造一、御改諱ニ付及二改鑄一候テハ、國體輕々敷相聞、舊印御用被レ遊候様ニト申候テハ、圖書之文字ト御諱ト致二相違一、勘考ニ不二相成一、彼方處置難レ仕儀故、都表之處分ヲ相待爲ト相聞候得共、別テ曲折モ無レ之、書翰寫及二啓聞一、圖書鑄造可レ致由ニ相濟、告還使之茶禮有レ故致二延引一候ニ付、御使者之宅ニテ相渡、御返簡ニ曰、槎便遠屆、華翰隨至、承諦比間興居珍毖慰荷、倍希圖書一款、改諱之後、不レ可三仍用二舊件一、故今茲新鑄謹付二來价一、統希崇亮ト、告還使馳走譯御書翰計持來、御印ハ渡海譯可二持渡一由ニ候得共、返簡ニ來价ニ附ストレ有レ之候故、日本人持歸不レ申候テハ不レ叶ト申達候內、渡海譯御圖書持下候付、御兒名圖書相受取候格ヲ以、翌年四月十三日受取、裁判歸

國之節持歸候兩譯書吏へ之被ニ成下一、義直様御再任之節、舊圖書被レ成ニ御乞一候格ニ御祝儀被ニ成下一候

事

右二通大順院様へ指出御聞通互、追々告訃使掛合被レ及ニ御指圖一、無レ程御用順便相濟、御使者首尾能

歸國

御勝手向被レ及ニ御逼迫一、看品封進物御調達相滯、御送使之期月及ニ遲滯一ニ付、左之通

去年條封進物相滯ニ付、諸般弊害不レ輕段、御存之通不レ及ニ申伸一候、然ル處右封進物之儀貴様御同勤之節、去年八月以來、誠ニ是迄幾度歟書付ヲ以申上候儀候得共、御時勢ニ付今以不ニ相整一ニ付、乍ニ不肖一御役ニ罷在候、拙者當春以來、旦夕難レ忘致ニ憂慮一候儀ニ候得共、右御調達方之儀ハ、自分役儀ニ不ニ相預一事故、不レ及レ力儀ニ候得共、熟致ニ愚慮一候處、元來御調達筋之儀ハ、拙者之役方ニ不ニ相預一儀ナガラ、御不捌ニ成行候落着ハ、朝鮮方之取扱事ト相成候儀、身分之難儀ハ不レ及レ申、依レ之御大切之約條弊害相成候段、殘念有レ之、右封進物爲ニ御手當一參貨取入候様ニト之儀、相良太□兵衛・箕原理兵衛被ニ仰付置一候様致ニ承知一候處、理兵衛儀申極モ相極、頓テ可ニ取歸一候時、乾度其内ヨリ封進物永永之御手當ニ相成候趣モ無レ之、太□兵衛方ハ未ダ□□□不レ致ニ出來一候様傳承候、公貿易之儀ハ御約條之綱領、御家中御撫育之根本ニ候得バ、御時體アシク相成候程、御手當丈夫ニ不レ被ニ成置一候テハ不ニ相叶一、是等之儀モ不レ申迚モ、人々存知之前ニ候處、江戸・京・大坂御國何レモ諸口一同ニ相成居候

テハ、第一番ニ御貿易御元手用、御引直シ被レ成候儀不ニ相成一ハ理勢之自然ニテ、御手ヲ不レ被レ爲レ引、眼前之御急務之御取遣リニ相成、公貿易御元手之所迄ハ、御行屆被レ成候儀、イカウ可レ難レ成御事哉ト乍レ恐奉レ存候、何卒引離シ、別御手當被レ成候樣有レ之度御事ト樣々致ニ愚慮一候處、外ニ仕道トテハ無レ之ニ付、崇信廳ヨリ判事中へ致ニ相談一、每歲蔘貨貳十斤內外取入、其利潤ヲ以年々長崎御除物代ニ被レ成候道可レ有レ之、左候ハヾ大通詞俵要介儀ハ、朝鮮人モ致ニ信用一居候人物之者故、此者ヲ以判事中へ人蔘先納之儀及ニ相談一、一二爲レ替イタシ候ハヾ、御元銀モ出來可レ申、左候ハヾ盛衰ハ有內之儀ナガラ、人蔘鐵物御商買之間ハ、取續モ當分ナガラモ可ニ相成一事ニ候、誠封進物相滯候儀憂慮之餘リ、於ニ職外一不ニ相好一儀ナガラ取寄、去年八月書付ヲ以御支配迄申出置候得共、何之御沙汰モ于レ今無レ之候ハ、其筋モ有レ之儀ト存、何レ共可ニ申出一樣無レ之□□居候處、去年條封進物今以御調達不ニ相成一、頓テ明春ニ至候得バ、滯之分三年ヲ跨リ、去年條御差足之分ダニ斯被レ及ニ御難澁一候儀候得バ、當年條來年條分□□御調達之處、御差繰ヲ不レ存身分ニテハ、甚以如何哉ト被レ存候、拙者儀未收之□□爲レ被ニ差渡一候時、彼國承引可レ仕モ、仕間布モ難ニ計上一、假令乞ニ承引一候テモ、又來年同ジ事ト相成、此間之弊害無レ限儀ト存候處、先入者爲レ主ト、愚昧之偏見ニ、兎角最前申上候筋心底ニ難ニ相忘一、其上大殿樣御明斷ヲ經不レ申、存寄利害之御沙汰モ不レ奉レ承候テハ安心難レ成折節、御支配ヨリ朝鮮御仕掛之存寄被レ成ニ御尋一候付、又々其儀モ卒度申出候得共、是又善惡御沙汰ニ可ニ相成一モ難レ計儀ニ候、拙者存付候儀ハ、

或ハ米・公木ヲ引換候事致二相談一、少シモ先キ之及二迷惑一候樣之筋ニ無レ之、誠ニ双方之相談ヅクニ致シ候儀ニテ、終ニ左樣之儀判事ヘ咄合候儀モ無レ之、甚成否難レ計儀候得共、御存之通崇信廳ニオイテハ、以前ヨリ朝鮮人ヘ虚僞ヲ申タル儀無レ之候付、此方ヨリ斯クト及二相談一候ハヾ、十ニ八九ハ信用致シ可レ申哉ト被レ存候、右之仕形ニ御座候得バ、不二相成一時差支ニ可二相成一筋モ無レ之樣、自分ニハ存候得共、如何可レ有レ之哉、尤一方ニ優數賣込候得バ、一方ハ賣込方相減候抔ト申筋モ可レ有レ之候得共、畢竟商買物之儀ニ御座候ヘバ、銘々ト申組次第ニテ、他ト可二相抱一樣、又ハ就レ夫賣込方相減候時、他人之利ニ相成候事ニモ無レ之、皆國家用ニ相成候事ト申モノ哉ト存候、若ケ樣之御時節モ候得バ、何レ之道ヲ以成共、順便ニ相成候樣ニ抔ト御評議モ御坐候ハヾ、被レ成二御任一御事共ニ御座候ハヾ、相働見申度心底ニ御座候、誠ニ非分之儀ナガラ、公貿易之儀ハ御約條之綱領、士民御撫育之根本ニ付、ケ樣相滯候テハ、大切無レ限御事哉ト憂慮之餘リ、別段御引合不レ被レ置候テハ、自然御手被レ爲レ屆間布御事哉ト存候付、貴樣迄得二貴意一置候、自然御序モ有レ之、御聞被レ添被レ下候ハヾ、不埒成存付之奉レ蒙二御叱一候共、可レ爲二本望之至一候、以上

月　日　　　　松浦平藏

右書付差出置候處、明和丑寅之比、刀幹事官被二差渡置一候折節、則申出候通御用被二仰付一、致二旋力一判事中ヨリ無二御引當一人參廿斤ヅヽ、年々崇信廳ヘ賣込之儀、大通詞僕要助ヲ以申出、要助儀最兵

衞ト更名被仰付、右依勤勞大小姓ニ昇進被仰付、朝鮮方頭役中へ御用被仰付、御代物賣捌方大坂町人酢屋孫四郎へ被仰付候事

口上覺　不許他見他聞

拙者儀御當地勤番被仰付候處、身持行作不宜、遊所通繁多之段達御聞、不屆千萬被思召上候得共、此節者先被加御用捨候段被仰渡、冥加至極重疊難有仕合奉存候、就夫御聞通之□近頃如何敷、重々恐入候得共、拙者儀元來小身之身分、兩殿樣思召ヲ以不存寄重職ニ被召置、分テ大殿樣格別之御見出ヲ奉蒙、年來莫大無二之御恩寵ヲ頂戴罷在候處、御目鑑違ト相成候樣仕候段、乍恐大殿樣御身ニ被爲取、殿樣ヲ奉初、其以下ニ被爲對候テモ、嘸御難儀ニ可被成御座、品ニ依御道御差圖之御妨ニモ可相成御儀哉ト奉恐察、扨亦拙者前格之節、料簡ヶ間敷奉瀆尊聽候儀モ數度候處、勤方共詮無之、剩行作不埒之次第、欺君之罪今更難相遁、前後ヲ令熟思候テハ、假令上ヨリ御宥免被仰付候テモ、於自分此儘難罷在、且大目附白水甚左衞門・御徒士目附島村惠八、此節御尋御答之品ニ應シ、輕重之間御叱可被仰付之處、本人之拙者却テ無事罷在候段、千萬不安、其外拙者一人之不埒ヨリ、爰許諸役人幷其他之勤振ニ相障候筋モ、彼是可有之哉ト被存、勿體無クモ上ミ大殿樣ヲ奉誤、下モ多人之仇ト相成候段不輕、ヶ樣ニ成行候テハ、此上當職之權ヲ取、諸士へ令差圖候モ遠慮ニ有之、或ハ以來自己之料簡等、遮テ可申上儀有之候テモ、自然ト內端ニ可

相成ハ、右件々之次第ニ付、返々モ此儘安穩難ニ罷在一候、御用捨被ニ仰付一候バ、御憐愍之程難ニ申上盡一、第一御深慮被レ成ニ御座一候御事ト奉レ存候得者、恐入相愼候外、何事モ可ニ申上一樣無ニ御座一候得共、此後前非ヲ改、非常之事業ヲモ相立、往々御目鑑萬分之一ニ相叶、少々御恩モ奉レ酬候樣、御奉公相勤得可レ申候ハヾ、是コソ此上之本望候得共、拙者之分際ニテハ、乍ニ殘念一難レ及レ力、左候時ハ日月ヲ重ネ候ニ隨ヒ、君恩ハ彌增ニ相重、自分之罪過ハ彌增ニ深ク相成、後日ニ至彌進退行詰可レ申哉ト存候、上ヨリ御宥免被ニ仰付一候ヲ、下ヨリ刑罪ヲ奉レ願候段、上下之禮儀ヲ蔑シ不敬至極、若ハ奉レ蒙ニ御叱一候付、上ヘ楯向候樣可ニ相謂一哉ト一入恐入候得共、何卒此上之御慈悲ヲ以、御當地勤番交代被ニ仰付一候テ、自滅被ニ仰付一被レ下候ハヾ、生々世々重疊ニ難レ有可レ奉レ存候、右者異樣之料簡、豫メ申□奉レ願候段、未練ニ可ニ相聞一哉ト不本意恥入候得共、差當爰元火急之御願筋等追重居、且御內々之御差迫、最早御取續之手掛盡果、明日之異變モ難レ測、帳本渡邊小右衛門中歸國申渡置、意味委細ニハ難ニ申述一候得共、御公私ニ付賢不肖ニ不レ拘、勤番重職之人相關候テハ、彌御大切之御時體ト存候得共、一途ニ自分之譯ノミニ令ニ貪着一、其所ヲ不レ顧候テハ、不忠之上之不忠ト可ニ相成一候付、無ニ是非一先勤番交代之儀ヲ奉一願候間、此段宜被ニ仰上一被レ下、御難澁之御時體、御大造之儀猶又恐入候得共、各樣內御一人蒙レ仰、急ニ御出府可レ被レ下、夫迄ハ何分ニモ屹度相勤可ニ罷在一候、ケ樣存儀ニ候ハヾ、兼テ料簡モ可レ有レ之ト可レ思召一候得共、其所ハ今更可レ申樣モ無レ之候、必定拙者令ニ亂心一候ト御聞可レ被レ下、其段モ能々

量察罷在候得共、前々令ニ書載一候通之次第ニ付、愚痴之短慮令ニ一決一候條御憐察可レ被レ下候、萬一御愛憐ヲ以、願通御免許不レ被ニ仰付一候共、幾遍モ可レ奉レ願、品違候願故、何卒直ニ奉レ蒙ニ御免一度候、此段表立願上候儀恐入候付、御內々各樣迄願出候間、御機嫌ヲ以兩殿樣被レ添ニ御聞一被レ下、宜願ニ御執成一度、偏以願存候、以上

八月二日　　松浦彈正

多田外衛樣

俵志摩樣

俵郡左衛門樣

小野六郎右衛門樣

島雄權之介樣

桂川答問書終

蘆野東山上書

上書

蘆野東山著

乍レ憚御註進申上候事

一　農は國の本に御座候得ば、何方にても第一に御政道有ニ御座一物に候得共、川欠又は潮押入諸破損等、何方にても不斷有レ之物に御座候、春內大破の場所は、願の上御普請被ニ成下一物に御座候得者、子細無ニ御座一候得共、小破の場所は人々自力を以普請可レ仕處、了簡無ニ御座一、縱末々の事に付候ても、多分は微力に有レ之、且破損方普請に計取懸り罷在候、內外御田地耕作方時節後等に罷成候趣乍レ存、當分切に普請仕置候得ば、又々破損仕、功空相成、再三如レ斯相成候得ば、田主次第困窮仕、普請可レ仕餘力も無ニ御座一、終に荒地に罷成事に御座候、其外病氣又は類燒等、不ニ存寄一不仕合有レ之候得ば、農業存分に屆兼候方より作毛相減、內證猶更不如意に相成、後には日暮に馳廻り、連々荒地相成候事、是又無ニ陰儀一筋に御座候、乍レ去無レ據御田地相荒し候迚、其品可ニ申上一候も無ニ御座一、尤相付不レ申方より、御田地見可ニ申立一樣も無ニ御座一、御年貢計上納仕罷在候者も間々有レ之事に相聞得申候、御國には右體の儀有ニ御座一間敷候得共、下々力不レ及儀、何方にも澤山成物に御座候得ば、少々共にても所々

荒地出來候ても、御取箇隨分相減、不レ輕御儀に奉レ存候、扨又大小破損幷自然之荒地まで、逐一御普請被ニ成下一儀者、是亦不レ輕御儀に奉レ存候、依レ之愼て廻ニ愚案一候趣、左に申上候

一　荒田逐一御尋之上、持主自力を以て普請相成候分は被ニ召上一、御入料を以御普請被ニ仰付一、起返候はゞ、望次第入札を以御拂に被ニ相立一、右御拂金を以御普請被ニ仰付一候はゞ、格別之御入料にも不レ及、段々起返り可レ申、惣而御普請料は御捨りに相成候物に御座候得者、前文之通候はゞ、後々は品により殘金も相出可レ申歟、何當分少々の御入料被ニ相懸一、末々迄御普請料に相成可レ申哉に奉レ存候、尤其內には先達而起返り候は、段々御年貢も相出可レ申候

一　宿々之儀は日々之諸懸り、在々よりは格別相增候方より、御百姓別而困窮仕、荒地も多相出可レ申事に相聞得候、尤諸懸り多候得者農事計にては相續相成兼、商賣取雜、日々小遣料相出候儀を第一に仕候方より、起返地入札被ニ仰付一候而も、望人不足に可レ有レ之御座候、尤直段下直にて、御普請料には相備申間敷候、依レ之宿々市場等之儀は、其村中又は其時切に御手傳人足被ニ仰付一、御普請之上本主へ被ニ下置一候歟、又村方へ被ニ相預一候歟、又は孝弟力田之例を以、孝行成者、農業出精仕者等に被ニ下置一可レ然奉レ存候

一　闢ニ草萊一と申事、古來美政と申傳、新田再發之儀、是又諸國共に御政道有レ之物に御座候得共、下下力にては目立候程之事無レ之物に御座候、御國之儀は中國邊と相違、土地廣大に御座候得ば、御政道

次第、田地に可ニ相成一空地も澤山可レ有ニ御座一候、然ば御入料を以御開發の上御拂被ニ相定一段々其次御開發被ニ仰付一可レ然御儀に奉レ存候

一　海邊山谷開發可ニ相成一場所、少々宛は所々に有レ之物に御座候得ば、鹿猿多候得者共防無レ之候ては不ニ相成一事に御座候、尤山谷に生育仕候者共は防方相心得、縱居家より少々隔候而も、たとへば小屋等懸置防申物に御座候得共、右場にては御傳馬御用有ニ御座一、其上火之元用心等別て嚴敷、居家引放難候方より、山澤之田畑之鹿猿之害難レ免、依レ之荒地に罷成筋も有レ之相聞得候、箇樣之所は荒地新田御普請御開發之上、其村潰れ百姓又は窮民之輩、又は持高不足成御百姓之二男三男等に被ニ下置一、其澤其谷住居被ニ仰付一、其澤々其谷々無ニ相違一御田地に相成可レ申候、當分御入料相懸り候共、數年の內には御取箇相出可レ申事に御座候、其內窮民之輩に被ニ下置一候はゞ、品に寄家居も輕き御普請不レ被ニ成下一候ては、是又自力に不ニ相叶一事も可レ有ニ御座一候、但家居御普請料之儀は、輕き利足を以年賦に上納仕候樣被ニ仰付一可レ然奉レ存候、起返り幷新田之儀は、三年位作毛被ニ仰付一候はゞ、其內には上納可相成一奉レ存候、尤新田は輕き御年貢にて、諸役御免被ニ成下一儀に無ニ御座一候得ば、人々出精仕、自分開發も有レ之、土地次第闢候事も可レ有ニ御座一候

一　太平打續風俗次第に花美に罷成、每レ物追年高直に相成候故、當時は御百姓も農業計にては相續六ケ敷相見得候、商人は日々利潤在ニ御座一物に候得者、農人は春夏之間出方無ニ御座一、却て諸費而已に御

座候、秋冬に至り候ても、作毛宜候得ば、米下直に相成、作毛不宜候得ば、高直にても其甲斐無之、熟不熟共に餘分之利潤無之物に御座候、依之物ごと高直に相成候事、第一は此故にて可有御座候、當時の勢にて過行候はゞ、行末猶更農人次第に衰可申、然ば此節農人之方へ米穀之外に、別而金錢相入候樣、御政道被立下度御事に奉存候

一　米穀之外農人利潤に相成候儀可有御座候、其内蠟漆之儀は奥筋之產物にて、餘國共其政道有之事御座候、御國にては近來漆木相減候由にて、此末人々植立候上、往古より有來候木數に相滿候、餘分は下の自由可仕旨被仰付候由、乍去下々其筋不鍛練に而六ヶ敷存、又は益にも不相成物と相心得、植立出精之心も無御座樣相聞得候、然ば下々其利益を不蒙、御政道も空敷成道理、無念之次第に奉存候

一　漆植立幷苗木取方種々手段有之、實植にては生長攝取不申、殊に實なり成難、見分旁不宜物に御座候、箇樣之筋も相心得不申、且目前の利潤無之儀は勸不申事、下々之通情にて御座候得ば、兎角其筋相心得候御役人廻村之上、苗木取方幷植立、再三御政道被仰付候はゞ、其後は下々にても相心得、植立可申事に御座候、其內各別澤山に植立候者には、御褒美被成下候はゞ民心相勸、猶更出精可仕候得ば、行末の漆木計にて、諸用相辨候者相出可申候

一　漆掻方不宜歟、又は掻不申差置候得者、枯申物に御座候所、多分御掻方も不鍛練に而、緬道に

相心得、他所より參候漆掻人に爲二掻取一候へば、漆多く出候を專一に仕候故歟、御國之漆木掻跡不レ宜相見得候、是御國産相減申筋に御座候、尤漆掻人甚下直に相定、掻取不レ申故、木主共益に不二相成一由御座候、然ば是又御役人廻村指圖を以銘々爲二掻取一、御買上可レ然奉レ存候

一　木之實落方是又緬道成物に御座候得共、右同斷御役人目通にて逐一爲レ落、御買上可レ然奉レ存候、左候はゞ疎遠に不二相成一方より、出方各別而増可レ申奉レ存候

一　山里漆木之實御買上に御座候はゞ、蠟〆方も鍛練之者被二召抱一、御直箇に可レ然奉レ存候、右御買上に御座候はゞ、木役は御用捨被二成下一可レ然奉レ存候、御役人廻村之節は村賄に相成、其上有來候木よりは苗木取不レ申而は不二相成一物に御座候

一　漆木は壽命不レ長物に御座候に付、段々植立不レ申候而は、次第に相減申物に御座候、尤枯近く罷成候得ば、本必蘖多相生申物に御座候得ば、其儘にて指置候得ば、是又本木諸共大方は枯申物に御座候、依レ之老木者枯申候、不二相構一苗木取候得ば、右自然に生居候蘖の外も、苗木澤山に相出申物に御座候、扨又右苗木翌年掘移し植立候而、十四五年にては大木に罷出、尤實盛に相成物に相開得候、但實のり多少之儀は、天成苗木により申事に御座候、尤土地の乾濕に依而、生長の遲速各別之違有レ之物に御座候

一　漆木盛相過候はゞ、實のり相減申物に御座候、其掻枯しに仕候得者、漆各別多相出申物に御座候、

依レ之行末下々手馴候て、植立澤山に成木仕候はゞ、盛過て老木之分は段々掻枯し御免被ニ成下一、右漆御買上可レ然奉レ存候、前文之通掻枯しの儀は漆多相出、木數にては目立候程之金代に相成物に御座候處、右掻枯漆代一生の內には、貳參度も手に入候はゞ、下々格別之利潤に可レ有ニ御座一候、尤例年に漆並木之實御買上代、是又相應之益に可レ有ニ御座一候、左樣候はゞ人々出精仕尚更植立、段々成木可レ然候得者、掻枯し減木の跡相見得不レ申候、木數は却て相增可レ申候、扨又魚網へ相付候あそと申物、他木にては不ニ相成一、漆木にて作候へば、半沈半浮にて宜物に御座候由、右掻枯御免被ニ成下一候はゞ、海漁之族も用足可レ申候

一　當時不鍛錬の木主共、自分に取計候ては、御役上納仕候程にも成兼申候由相聞得候處、右之通御買上被ニ成下一候はゞ、御政道之利益早速相見得、御益にも相成可レ申候、若又末々下々に而鍛錬仕候節も、吟味次第下々自由に被ニ仰付一候而は、人々無ニ油斷一方より利潤取失申間敷候

一　桑・楮植立之事、是又御百姓方へ金錢相入候筋御座候、但其內楮は相障候筋も無ニ御座一、桑之儀は蠶飼不レ仕候ては其詮無ニ御座一候、蠶飼は農業最中に相懸り候而、品に寄妨にも相成物に御座候、元來蠶飼は女之業に而御座候得者、唯今も女子計之折節に仕、農業指働候男共、桑取等に日を費不レ申儀に御座候はゞ、害にも相成申間敷候得共、蠶は目立候程之金に相成申物に御座候に付、人方限り飼候得ば、自然と御田地方疎略相成、其害難レ償事に御座候、且年に寄桑へ虫付候歟、又は氣候により蠶仕廻不

レ宜候得ば、各別の痛に相成申物に御座候、且蠶は溫氣を厭候虫に御座候所、大方は梅雨之節に指懸り、澤山には取扱ひ〻六ヶ敷物に御座候、且又飼蠶は馬と同氣の物にて、蠶飼盛に相成候得ば、馬必衰候由相見候得共、此儀時々にて尋承候處、無二相違一樣に相聞候、扨又馬衰候得ば、則御百姓之衰に相成申事に御座候、箇樣之筋下々は存不レ申候、一旦之利潤を喜、蠶飼次第繁昌仕候場所は、御政道を以免二其害一候樣被二成下一度御儀奉レ存候

一　庶民宅地へ桑植立候事、聖人之御定に御座候得ば、只今も人々屋敷廻りに桑植立、女子計蠶飼仕候樣被二仰付一、御用之分絲にて御買上可レ然奉レ存候、扨又聖代には庶民も五十歲以上之者は紬着用仕、壯者は□之服にて布計有レ之由、近代は木綿相出、日本にても澤山相成、布よりは各別輕暖之氣有レ之、年寄も大方是にて寒氣防得候共、紬着用御免無二御座一候而も、凍寒之患も不二相開得一候、乍レ去老衰肌膚不充者紬着用之儀は、聖人養老之一端に而御座候ば、各別長壽之者、又は壯年より行跡宜年寄等、なほ別段の御沙汰を以、下着計紬御免被二成下一候而も可レ然奉レ存候、左候はゞ人々老を敬ひ、風俗も宜相成可レ申候、各別の年寄共下着計相用候樣分は、御用絲御買上之餘分にて足可レ申候

一　士は紬羽二重着用仕候者に御座候ば、是又妻妾の手態に蠶飼仕候はゞ、結構成儀に可レ有二御座一候、尤聖代にては夫人后妃迄も御手に懸られ候態に御座候得ば、耻程之賤業にも有二御座一間敷候、惣而庶民妻子共に至迄、相應に向々の渡世相營申物に御座候得ば、諸士は左樣の儀無二御座一、却而諸入用は

凡下式とは各別成物に御座候、然ば小身の族は紬羽二重着用仕候分計にても、內證不如意に可レ有ニ御座一候、諸士之盛衰は武備之興廢に相懸り、不レ輕儀に御座候、猶又諸士の妻妾蠶飼之儀は、手柄次第澤山に仕候而も其害無ニ御座一、猶更宜可レ有ニ御座一候、但御城下屋敷へは桑植立候儀、存分には相成間敷候、最屋敷廻り見事にも有ニ御座一候得ば、無益の輩等は勝手次第に在鄕被ニ仰付一可レ然奉レ存候、左候はゞ御城下各別諸懸り相減、旁勝手にも相成可レ申候、尤其所之〆にも相成、御政道敎の筋に可ニ相成一候

一　遠方は甲州上州、近所は伊達郡に何れも蠶飼澤山に仕、金錢相□も在レ之場所に而御座候得共、一體困窮に而多分は不ニ相續一之由、其品相尋候得ば、蠶飼に耽り候方より、農業自然々々に疎略に相成、作毛隨而相減、飯料にも相滿不レ申、且畑へ桑植立候得ば、雜穀も不足仕、畢竟蠶飼一通り之出高を以、上納諸役始年中相辨候事故、行屆兼申候由に相聞得候、是皆本を忘れ候故之害にて御座候、依レ之聖制之通桑植立之儀は、御停止被ニ仰付一可レ然奉レ存候、尤禁ニ絲蠶一も在レ之、開出之蠶を聖王之御停止に相見得候

一　本吉郡在邊に而唱承候得ば、先年は楮澤山に有レ之候處、近年に至又以楮直段宜敷相成候由相聞得候、御國中にて御用之紙も夥敷事に可レ有ニ御座一候處、人々楮植候得ば各別下直に相成候事、出地廣大に付、畑畔等之餘地も夥敷儀に可レ有ニ御座一候、扨又右餘分之地より相出候楮之儀御座候得ば、下直に

相拂候ても益に不二相成一事は在二御座一間敷候得ば、畢竟蠶飼之利潤に相泥み候方より、桑・楮見替候事に相見得候、扨又楮は茂り易き木にて、時々手入等六ヶ敷事も無二御座一候、秋冬之間手透次第刈取候得ば、農業の妨にも不二相成一、年々慥成得益在レ之物に御座候、依レ之畑之障に不二相成一場所へ、人々植立候樣被二仰付一、此末楮各別下直に相成候はゞ御買上被二成下一、江戸へ被二相出一可レ然奉レ存候、若又町人等自分に紙買集、他所へ相出申度願も御座候はゞ、是元來商人は持前に御座候得ば、相應之直段被二立下一候上にて、勝手次第被二仰付一可レ然奉レ存候、若又紙漉人不足に付、楮猶以引兼候はゞ、相定候渡世も無レ之者共之内、紙漉に被二仰付一可レ然奉レ存候、但手法相心得不レ申、漉方相出申間敷候得ば、巧者成紙漉を兩人づゝ所々に被二指置一、指南被二仰付一候はゞ、一兩年之内には手馴可レ申事に御座候、其節紙にて御役被二召上一、牒面之料等に被二仰付一候ても可レ然奉レ存候

一　盡二地力一と申事、古來善政と申傳、國を富し候第一之儀に御座候得ば、諸草木植立に不レ限、田土の□別に隨ひ考、其益候はゞ各別其利可レ有二御座一事に奉レ存候

一　御國中金銀相出候山も所々可レ有二御座一候、日本にて金始而相出候山も、御國の内に相聞得、尤山上に莚と申艸有レ之候得者、其下に金在レ之由古人申置候處、御國にも右草在レ之山も相見得候、是等は實否確と不二相分一事御座候得共、先年掘方仕、又は近年普請仕、全體慥に見屆候山等は在レ之物に御座候、但金銀之儀は大抵之力にては難二掘得一物と相聞得候處、往古と違當時諸式高直に御座候故、少々

づゝ相出候分にて日暮し普請料も相充不レ申候、直り迄に至半途にて力盡、休山に相成候處多分は相開へ、尤金銀は底深く沈み居候物に相開得候處、大方は山之半腹より掘入、次第に底へ掘入候得ば相涌出、樋にて水引上候得者猶更入料相懸り、依レ之遠く引下ヶ水抜普請仕候には、是又莫太に物入故、空敷休山に相成候事に毎度相聞得候、扨又金銀之事には人々精力相盡候物に御座候所、普請山は所々相開得候得ば、成就之山は無二御座一事、畢竟下々之力には難レ及物に相聞得候、扨重寶を土中に埋置之事、殘念成儀に御座候、ヶ樣之筋は經濟第一之儀にて、古の君子も心を被レ用候事に御座候に付、愼而右考候處、兎角堅石穿入候儀、莫太之入料懸り候共、早速には埓明申間敷候得ば、御國之内可レ然金山へは、巧者成金掘壹ヶ所へ四五人づゝも被二指置一、御助扶持被二下置一、輕き御役人被二指添一候歟、又者其所御百姓等之内才覺有レ之者に、少々之御合力を以右金掘取被二仰付一、たがね諸道具に可レ仕鐵等は、右とり人より時々相渡候樣にも被二成下一候而、無二間斷一掘候樣被二仰付一候はゞ、終には御寶山に可二相成一道理に奉レ存候、是甚迂遠成儀に奉レ存候得共、御制道を以御國彌增繁昌之上、萬民其利益をかふむり可レ申筋は、乍レ憚御先祖樣冥助、幷山川之感應も可レ有二御座一儀に奉レ存候

一　數ヶ年以前迫之邊に而一山破裂候由承及候、霖雨後山抜崩候類は昔時所々在レ之、將又山に朽壞有レ之、崩候事も古其例有レ之、崩不レ申候而裂候事は朽壞有レ之故共不二相見得一、扨又異域西羌之地に而水銀多く相出、夫故山裂候事在レ之由古人も申傳候、然ば右迫邊成山に而も御座候哉、床敷奉レ存候

一　右同邊より紺青相出候得共、土雜り仕分相成兼候由唱承候、土相雜り候程にても、鍛仕分相成候ては、下品にて用立申間敷候得共、深く掘入候はゞ、雜り無レ之上品も相出申べきか、尤品により銅山等に相成申儀も可レ有ニ御座一奉レ存候

一　登米郡之內石灰に相成候石相見得候、瑣碎之品に御座候得共、畢竟地之遺利にも御座候得ば、御政道を以燒方被ニ仰付一候はゞ、御國產之數にも相成可レ申儀に奉レ存候

一　駒嶽麓溫泉の邊より硫黃・礬石相出候由、大山の儀に御座候得者、出候程にては些少之儀に有ニ御座一間敷候得共、大造成儀は下々力及兼申物に御座候得ば、僅に渡世を仕事に可レ有ニ御座一候、左樣の場所は御役人見分の上、品により御普請被ニ仰付一候はゞ御益にも相成、其場所之賑にも可ニ相成一儀に奉レ存候、尤同山には他之石藥類共可レ有ニ御座一哉に奉レ存候、但高山之儀は其御祭被ニ相行一候事、和漢同斷に御座候、不レ及ニ申上一勿論之內之產物掘方被ニ仰付一、其上大造之普請にも御座候はゞ、所々より地脈を絕、又驚ニ山神一之事有レ之間敷儀無ニ御座一候得ば、尙更臨時の御祭の爲と筮にて吉凶相決、山神納受の上にて御普請可レ被ニ仰付一儀に奉レ存候、筮法等之儀は儒家へ相傳可レ有ニ御座一事、是又不レ及ニ申上一候

一　諸草木石藥、幷一切御國產存寄次第申上候樣、御觸御座候由唱承候、御國廣大其上高山大川も多御座候得ば、定而種々產物可レ有ニ御座一奉レ存候、是は諸本草熟讀仕候者巡見被ニ仰付一候はば、諸人不ニ

相心得ニ藥種等も相出可レ申事に御座候、尤世間賣買之藥種之內、間違之品も在レ之、又は古人相用候藥種、當時藥店に有レ之品も數多有レ之物に御座候處、巡見蒙レ作者、書籍之上にては吟味相決不レ申候藥草等、忽に相決候事も可レ有ニ御座一候、然ば是又爲ニ醫師一爲ニ病人一、其功有レ之道理に御座候、拙者儀も種々見當り候得共、餘瑣細之事共に御座候得者不ニ申上一候、其內珍敷藥種等も相見得候に付、一言其筆記仕、指置候品は御座候間、若御尋の筋御座候はば指上可レ申候

前條之內、御開發並漆木一件之儀は、種々に手法功拙も有レ之物に御座候處、兩條共先年米澤にて其役相勤候者、此度浪人にて罷在候、萬一其筋可レ被ニ仰付一儀も御座候はば、忠勤相勵可レ申候

一　穀物下直に相成候得者、工商之輩は勝手宜敷候得共、士農之不勝手に相成候事、其內農人方へは御政道を以、別段之金錢相入候共、諸士の不勝手は猶以同斷に御座候、且御田地方の得益不足に御座候得者、農人自然と本業を怠り、或羨ニ工商一、或は山野の雜物田畑に植付候樣成儀も相出申物に御座候、依レ之平準法相考、左に申上候

一　平準法之事年々豐耗を以、米直段御百姓利潤有レ之程に被ニ立下一候、若米澤山に相出、右直段より下段に可ニ相成一儀に御座候はゞ、被ニ立下一直段を以御買上被ニ成下一、若又御買上に付御國中飯料不足に相成、各別高直に相成候節は、右御買上直段を以御拂被ニ成下一候はば、四民共各別の損益無ニ御座一、難レ有御仁に可レ有ニ御座一候、但御買上無ニ御座一候而も、一體飯料不足成年柄之儀は凶年に御座候得ば、

別段之御事に御座候、扨又穀物之儀は豐年迚も下々自由不㆓相成㆒、勿論自然に他所へ相出候樣成儀は、何方に而も御制禁有㆓御座㆒物に候得共、各別利に相成候儀乍㆑存、嚴科に陷候者も相出申物に御座候處、前文の通に御座候はば、利潤無㆑之方より下々買置にも仕間敷候、尤御買上に付民間餘分之穀澤山に無㆓御座㆒候はゞ、密に他所へ運送仕候樣成奸曲之罪に落入候者も有㆓御座㆒間敷候、兎角商人共多分之穀取廻候儀者、士民之害甚敷、其不益之莫太之筋、申上候迄にも無㆓御座㆒候、但御國中飯料之分日日賣買仕候筋は、別段之儀に御座候、扨又市中相場より高直に御買上之儀、指當り御不益之筋に御座候得共、畢竟米直段宜候はゞ、士農之餘澤工商之手に落不㆑申、農人本業を安んじ可㆑申候、是則御國之本固きに而御座候得共、義を以利とすと申筋にも相叶可㆑申哉奉㆑存候、扨又米高直に候はば、工商之輩油斷に不㆓相成㆒、面々產業相勵み、游民並無用之玩物等次第に相減、風俗質扑に相成可㆑申候、然ば米穀取べり之儀は民之柄に而御座候、扨又游民相減、四民其業を怠り不㆑申、風俗質朴に相成候はば、諸色段々下直に相成可㆑申候、其節は米隨而下直に相成候而、士農之苦に相成申間敷候

一　山海并總而御國之產物不㆑寄㆑何、格別下直に相成候得ば、其筋渡世之者苦申儀御座候得者、是又相應の直段に御買上被㆑成、江戸爲㆑登又は他所商人持參仕候諸色へ、代物等に被㆓成下㆒、右諸色は御買上物之直段を以、商人共へ向々配分被㆓成下㆒可㆑然奉㆑存候、左候はゞ商人共乍㆑居其を貪候儀不㆓相叶㆒、卒度嚴しく可㆑有㆓御座㆒候、元來一割二割之利潤を遂而渡世仕候事、商人の分にて御座候、少の利に有㆓

御座ニ候而も、出精次第農工よりは得益有レ之物に御座候、子細は人々精力限り在レ之故、農工は各別之出力も無ニ御座一候得共、商人は壹人手前に而も、日々之賣買高限無ニ御座一故に而、尤當時は商賣も大抵に而は、渡世に不ニ相成一由ニ而相聞得候得共、是は當時商人甚多餘民困窮故に而御座候、若其年迚も米下直に相成不レ申候はゞ、半途成商人等は向々事業に立歸り、士農共に餘力有レ之候はゞ、商人も隨分渡世に相成可レ申候、扨又限り有レ之金錢片廻り仕候ては、其餘は困窮仕道理に御座候處、一體見得渡り候得共、諸國共に當時商人之富甚、大人之御富も欺可レ申者共難レ勝レ計候、然ば其餘之上下共に金錢不自由に可レ有ニ御座一候道理之所、前條之通米穀元ゟり始、理財之御政道相立候はゞ、右之害は段段除可レ申奉レ存候、是迄而は本を固くし、末を抑へ候之術にて、則平準法斟酌之愚案如レ斯御座候、扨又賣買體之儀申上候事憚多く奉レ存候得共、都而世間不ニ相叶一入用物之儀は、直段高下各別之違御座候得者、萬民之利害に相懸り申儀御座候處、右利害平準之法にて御座候得ば、君子理財之儀にも相叶可レ申儀と不レ顧レ憚申上候

一　山海之產物出方無レ限物は勿論、其他之御國產迚も、米穀之外は直段各別高下も無ニ御座一候はゞ、他所へ相出候儀御免被ニ成下一候はゞ、御國產之主意相立、御國之賑に相成可レ申奉レ存候、但他所へ相出候品々、御改可ニ申受一儀勿論に御座候

一　先年江戶表に罷在見聞仕候處、御國之穀船江戶着岸仕候得者、每度江戶表米直段各別下直に相成候

事、御大國之繁昌故とは乍レ申、夥儀驚目奉レ存候、此段只今にて相考候處、御屋敷御用米之外は御拂米相出不レ申候はゞ、莫大之御益に可レ有レ之奉レ存候、左候はゞ江戸米拂底に相成、各別高直に相成可レ申候、米高直に相成候はゞ、諸色は隨而下直に相成可レ申、其節に至り御屋敷御用相達候者共へ、少少づゝ御拂被ニ成下一候はゞ、其分に而も御內々御用等は相辨申樣にも、行々は相成可レ申歟、御拂米直段宜、其上御買上物下直に相成候はゞ、出入に而者各別之違に可レ有ニ御座一候得者、御表御用迚も夥敷御拂米に不レ及、大半は相辨候樣相成可レ申儀も可レ有ニ御座一奉レ存候

一　中國邊者土地狹く人多候所、京都・大坂へ相出候方より餘分之數幾許も有ニ御座一間敷候、關東邊者土地稍廣く候得者吞地夥敷、其上烟草蠶飼等繁昌仕、諸國同樣雜穀不足に御座候得ば、是又江戸へ相出候程之餘分之穀有ニ御座一間敷候、但御國替等も無ニ御座一、大國關西に有ニ御座一、右國の餘分之穀江戸へ相出候由相聞得候、乍レ去西國邊も御國又は南部等之如く、廣大成國之不ニ相聞得一共、尤在々之飯料等之半には過不レ申由、其筋心得候者相咄候事、前文之趣を以相考候得者、大數さも可レ有ニ御座一候、左候得者御國御拂米相出不レ申候て、壹兩年之內には江戸米拂底に相成可レ申奉レ存候、指當江戸表米高直に相成候はゞ、國々在府之諸士迄も勝手に相成可レ申候得者、是則御大國之餘澤海內に及候事、無レ限陰德に可レ有ニ御座一候

一　江戸御上下、並御屋敷御內外御物入を始、年々之御用金夥敷事可レ有ニ御座一、尤御拂米被ニ相出一候

はゞ、御國年々餘分之穀空敷朽候半も、無益之至に御座候得者、酒造方被㆓仰付㆒、酒にて被㆓相出㆒候儀に
も御座候はゞ、米直段には相懸り申間敷候、江戸表は末不㆑宜候故、酒造候者無㆓御座㆒、□□大坂より
參候所、右大坂酒より下直に候はゞ、いか程も引可㆑申候

一　稱貸之道は古より有㆑之事に相見得、一旦便利成筋に候所、當時は其害甚敷相見得、在々に而は
金持相出候得者其所衰微仕、潰百姓等不斷相出申物に御座候、利に利相加り、富候方へは相入、困窮者よ
りは相出申事御座候得者、是又金銀片廻りに相成、必然之理、其害右之通に御座候、但稱貸は古代迄
も利足相付候方より、其害可㆑有㆑之道理に御座候得共、民俗質朴にて人々産業相勵み、不㆓存寄㆒災難
又は不時之物入等相出候節計他借仕儀に候はゞ、達而其害相見得申間敷候得共、當時之華美の風俗增
長仕、貧民澤山に有㆑之、年中相定候諸用迄も、他借を以相辨候體に御座候得者、其害隨而相出候事に相
見得申候、當時迚も家内相續仕候外に、年々餘分之出方有㆑之、右餘分を以元利共早速返金相成候者ば、
不時の物入等にて他借仕候ても、跡々迄之草臥には不㆓相成㆒事に御座候得共、相續方に行當り、他借
を以一旦間を合せ候程にては、餘分の出方無㆑之、却而年々不足而已に有㆑之、其上利金相加り、猶更
急廻に相成、果は持高相渡候外無㆓他事㆒御座候、然ば當時他借有㆑之者共精力相盡候而も大方者屆兼
候由、無㆓餘儀㆒筋に相聞得候。尤御百姓相潰候程之儀は、御手當被㆓成下㆒候物には御座候得共、年來
之草臥大抵に而は相直り兼候物に御座候、扨又元利返金迄御上樣より被㆓成下㆒、其上末々取續の程、中

分に銘々被㆓成下㆒候儀は、際限も有㆓御座㆒間敷候事に候、扨又壹ヶ月六十分一の利足を以金借付候得者、三ヶ年に者倍金に相成候由、左候得者百兩之三十三ヶ年には、十萬兩餘に相成積に御座候處、其內元金は千分一分無㆑之、利金は千倍餘有㆑之、是皆困窮之者共より相出申事に御座候、箇程之金高配分仕候はゞ、百ヶ村の潤にも相成可㆑申候、然ば金拾兩づゝ借付候者十人有㆑之候得者、不㆑過㆓三十年㆒にて百ヶ村も衰道理に御座候、扨又壹人に而も百兩・貳百兩づゝ借付候者は所々數多有㆑之、勿論百兩貳百兩は壹ヶ村の內にも借付申物に御座候得者、壹人手前へ萬金は集不㆑申程は、壹ヶ村・貳ヶ村より數萬の金高、其定通には相出不㆑申事、畢竟人々精力有㆑限故に御座候、右精力屆兼候分は、或は持高引渡し、或者身賣等種々轉變有㆑之、其害聚斂の臣よりも猶以甚敷奉㆑存候、依㆑之稱貸盛に御座候得者、數百人の精力壹人・貳人の榮花に相成行候、是則御上之民に而は無㆑之、金持共之民に而御座候、其上榮花身に餘り候者共過分之望相出、貧苦に迫り候方は互心懸も取失ひ、其害聚斂之臣よりも甚敷候、御政敎の甲斐無㆓御座㆒道理、口惜次第に奉㆑存候、依㆑之患不㆑均と論語に相見得候事今更感心仕、義倉と古例を以愚案左に申上候

一　義倉之事、在々御倉被㆓相立㆒、人々分限之內或は十分一、或は二十分一糓にて右倉へ相納候樣被㆓仰渡㆒、其內各別困窮に付、父母妻子養育相成兼、又御百姓相續仕兼候者には、其品願之上右義倉より被㆓借下㆒、其高之多少に應じ、三年賦・五年賦、又者十年賦等に輕き利足を以相納候樣被㆓仰付㆒候はゞ、困窮

之者共産業取失へ不レ申、其上高利之他借仕間敷候得者、利足に被二追立一候事無レ之、出精次第其身を潤に相成可レ申候、尤他借は被二相禁一候而も可レ然か、子細者父子教養始、無二餘儀一筋入用之分は、義倉より借下候はゞ相應に事足可レ申所、猶又他借仕候儀は、過分之望有レ之故にて可レ有レ之御座候、然ば不レ知二身之程一に而御座候、扨又餘力有レ之者共は年々義倉へ相納、其上利足金相入不レ申候はゞ、産業相働不レ申候而は不二相叶一、奢も自然に相止可レ申、富候ても富候而奢相成兼、貧候而も飢渇之色無レ之事、盛世之民毎度如レ斯相見得、是則金銭片廻り不レ仕、民之貧富畢竟平均に而御座候得者、均れば無レ貧と申語にも相叶、御國之福可レ有二御座一奉レ存候、扨又淫逸之民は物に用立不レ申、勞苦之民は義に向申者に御座候故、聖王は勞二其民一而用レ之と國語に相見得、論語には愛レ之能勿レ勞乎と相見得候處、前文之通餘力有レ之候とも、産業油斷不二相成一事に候はゞ、是又聖人之深慮に相叶、愛民之本に而可レ有二御座一奉レ存候、兎角安逸に不レ限、總而下々に分外之榮花有レ之事は、御國之疾に而御座候、子細は風俗自然に相移、人人分外之望相出、其勢御國之衰に馳行申故に而御座候、民之多幸は國之不才也と古人被二申置一候事、是末之故に而可レ有二御座一候

但抜群之望相企候者は、才智有レ之者に御座候得者、其内は取得有レ之者も可レ有レ之候、扨又生得在レ之才智は、不レ得二止事一毎々相出申物に御座候所、民業には遠而才智も入用無レ之物に御座候得者、右才智不レ覺奇恠成方へ流行候得者、種々之害も相出申道理に御座候、是畢竟才智之禍に而御座候得

者、轉而爲レ福之手段可レ有ニ御座一候、愼而相考候處、在々にて學問等相勝候者共には、諸役御免等被ニ成下一、其內藝能之向々一生士にも被ニ成下一、御扶持は三代迄被ニ下置一可レ然奉レ存候、左候はゞ人々宜敷方へ才智馳向、作之惡事は自然と消行可レ申、易に「積家之牙・童牛之牿」と在レ之候も、此類に而可レ有ニ御座一候、尤辛苦成產業之際にも藝術等心懸候者は、奇特之者に御座候得者、管子に在レ之通に、其才賴母敷者に御座候、但游藝と申物は民間に無益之筋勿論に御座候

一 義倉之制被ニ相立一候而も、貧窮之者共は當分相納可レ申樣無レ之、却而拜借候者も數多可レ有ニ御座一候、是等は金銀片廻り相止候はゞ出精次第追々餘分出來、相納候樣可ニ相成一候、初富在レ之者若追々貧窮仕候はゞ、年數納來候分段々被ニ返下一、其上にも相續成兼候はゞ、是又子孫長久之基に可レ在ニ御座一候、總而人々盛衰今年無難に而も、明年は難レ計物に御座候得ば、前文之通御座候はゞ、縱不ニ存寄一不仕合打續、困窮は仕候而も、產業は取失不レ申、子孫無ニ相違一安堵可レ仕事に御座候、扨又段々死亡仕候而も、年寄共又者後家女子等計相揃、其家相續可レ仕血筋之者絕果候事も有レ之物に御座候、左樣之節は先祖より納來候分一宇、右之者共に被ニ返下一、生涯安堵仕候樣被ニ成下一可レ然奉レ存候

一 海邊山谷等飯料不足之所に而者、雜穀幷代納に被ニ仰付一被ニ借下一候節は半分は雜穀、半分は籾に而被ニ貸下一、扨又飯米澤山之所へは、金代に而被ニ借下一候而可レ然か、但一色之食物計相用候得ば、偏□氣增と申事醫書に相見得、病にも相成、雜穀種々食料に仕候得者右之害無レ之、宜敷事に候得共、田澤山之

所に而は畑不足候上、近年繁昌に付雜穀不足仕、高直に御座候得者、海邊山谷より相納候雜穀金代は、一字畑不足之所へ被二借下一、海邊等田不足之處へは、籾計被二借下一候而も可レ然奉レ存候

但御城下住居之儀諸懸り相增、急迫相除可レ申儀、前條申上候通に御座候

一御上様に而も年々其所切に義倉へ籾被レ爲レ納、不時之御物入之節は御借用被レ爲レ成、其分年賦を以御返納相成可レ然乍レ憚奉レ存候、扨又右義倉之儀は莫太成穀高と申、御國固めも可二相成一筋に御座候得者、其所近き歷々之御方へ御預之御方よりも火消被二相出一、臨時之下知有レ之段、被二仰出一可レ然奉レ存候、千百年之後に至義倉之穀、兵粮に被レ爲レ用候儀有レ之間敷物にも無二御座一候處、左樣之節は輕き御役人計之支配には難成兼可レ申、歷々之御方被二相鎮一候儀御座候も、武備も在レ之、何事も變在レ之候而も、諸事猥ヶ間敷儀有二御座一間敷候、尤平生迚も奸曲等有二御座一間敷候

一義倉之法被二相行一、年數相立候はゞ、納穀も次第に多相成可レ申候、其内御國中十箇年飯料程は籾に而御貯、餘は御拂金に而貯置候樣被二仰付一可レ然奉レ存候、湯王之御時七ヶ年の旱打續由、水旱に不レ限、災變之只今迚も難レ計物に御座候得者、聖制之通十年之食被二相貯一、其上餘分之籾御拂金追年相增候はば、如何樣災變有レ之候而も、御國動申間敷候、太平久敷打續候末は、每度兵亂にも移行候事、古今一轍に相見得候ば、千百年之後萬一不幸に兵亂相起候半節、御大國之靜成事如二大山一候はゞ、近隣之小國は御籏元を可二恃置一歟、左候はゞ御味方も相加り、遠國へも御武威相及、座ながら海內御鎮め、大

は湯武之仁、小は五覇之業被レ爲レ成二御座一も、只御武運の儘にて可レ有二御座一候、此段雖似所忘憚安、安居而不レ忘レ危と申古人之格言有レ之、尤御國政之節は、當分之事而已可二申上一にも無二御座一候得共、長久之事業愚案之所レ及申上候

一　當時世間の體相考候處、上下共利益有レ之、其上長久之計策、右義倉に過候事有二御座一間敷奉レ存候、乍レ去當時士民困窮御座候得者、義倉之法早速難レ施筋も可レ有二御座一候、依レ之先以盡二地力一候之術最初に申上候、尤御上様にて義倉に相納候程之儀は、御國中に空地御座候得者、新田計に而も追々相出可レ申奉レ存候

右條々拙者儀民間に罷在、諸事熟覽仕候處、下々深遠を思慮無二御座一方より、御惠之御政道にも蒙二其利益一兼候儀、毎度不レ堪二感激一依レ之愚意之所レ及少々計申上候、但御人多き御大國之儀に御座得者、拙者式存付候程之儀不レ及二申上一儀に有二御座一、其上草野之外臣奉レ犯二御大國之威嚴一候事、其罪不レ輕奉レ存候得共、不レ依二何事一存慮申上候様、民間迄御觸御座候由及レ承候、御大國執事之賢慮を以、庶民之存慮迄御斟酌之事、詢二於芻蕘一と在レ之、聖人御德之恭も非レ他奉レ存候、依レ之不レ顧レ憚申上候、其内萬一御取用之筋も御座候はゞ、本懐之至御座候、誠惶謹言

上書終

大山重憲筆記

大山重憲筆記

國に九年の蓄なきを不足といふ、六年の蓄なきを急といふ、三年の蓄なきを國その國にあらずといふは、萬代不易の聖言と承る、されど世治る事久しければ、上下ともに怠りて奢に長じ、天下一統に困窮するは和漢共に同じ、今天下の大勢を考に、慶長・元和の治より太平二百年に及、人情十分に怠り、奢は頂上とも申べし、されば天下中殘る處なく困窮して、六十餘州の諸御大名、御一家も御難澁ならざるはなしと承る、そのうちには御財用向、少々御繰合のよきもあるべけれども、それも時の手段方便を以、御繰合の纔によきと云ものにて、永久の事にはあらず、其詮は物の根元を穿鑿せずして、指あたりたる事計の取はからひゆへ、只當座の間に合せと云ものなり、手段方便には必指支る事の出來るものなれば、其術究するのみならず、害を生る事多し、然らば後代の法とは成がたし、人間四民の等あるは自然の道理にして、士・農・工・商と分れたる所是大根本也、其四民を治るものは君なり、天子・諸侯は四民を治よと天より命ぜられたる役人也、さらば其四民は天より預ケ給はるものなれば、恵みを施し憐を加ひて治べき事なり、只治ると計覺ても、其根本をたゞし、その生業を敎與ふるにあらざれば、實に治ると云ものにあらず、當時諸御大名侍をあまた抱ひ持て、專ら武藝を敎立らるゝは何のた

めぞや、治世の眼より見る時は、無用の人のみたくさんにして、莫大の知行を賜る故、藏入高不足に成、それがため困窮なさるゝ様に見ゆるなり、其無用と見ゆる侍を多人數抱置るゝ根本を穿鑿すれば、將軍家御定の軍役、一萬石に十七騎の御割なり、たとへば三十萬石の御大名なれば、軍役にあたる騎馬三百四十騎、大底七備なり、一備は騎馬五十騎、上下九人にして四百五十人、士大將上下七十人、番頭貳騎上下廿五人にして五十人、旗奉行一騎上下十五人、物頭六騎上下十一人にして六十六人、使武者四騎上下九人にして三十六人、弓鐵炮の足輕に付く與力廿五人、上下三人にして七十五人、鐵炮・弓・鑓・旗の惣足輕百九十人、其外雜人百人餘は、貝・太鼓・玉藥・矢箱等の持夫、小荷駄の口付等なり、此人數合て千に及、馬は乘馬・小荷駄合て百廿匹餘、是を七備、其內にも惣大將の旗本組は、頭立たる役人も多く、近習の人數多くして、右筆・醫者・馬醫・算法者・茶道・料理人其外大工金ほり迄入て、夥しき人數になるなり、尤道の遠近・嶮易・寒暑によつて、少の增減はあれども、大てい右の人數は今にも事あらば、將軍家の御催促次第出さるゝの人數なり、件の入用のため、常に過分の知行を賜り、養ひ置るゝ武士ならずや、然るに天下困窮して、諸御大名共家中より借上高と云事始り、數年來の事にて、家中段々困窮し、當時に至ては軍役は扱おき、その日暮らしに暇なし、借上高あるからは、軍役の心懸なしとて呵り給ふ事にもならず、なれ〱の取扱になさるゝゆへ自然に怠り、武備と云事跡方もなく、廢れ果ぬる事に成行たるは、實に嘆しく口をしき事にあらずや、昇平日久して天下一統

の困窮と云内にも、別て逼迫の御家は、數年來の借上高にて、家中殊の外困窮なり、たとへば家人千人ある內五十人は先祖より厚祿を賜、軍役の心懸もある者也、同五十人はそれ程にはなくとも、甲の一領も持ち、治世には人なみの奉公人なり、右合百人、殘る九百人は極窮人にして、治世の奉公すらろく〳〵勤めかね、漸一日ぎりの飢渴を凌ぐのみなれば、まして軍役の心懸は、やたけに思ふてもなるべき樣なし、扨借上高は數年來の事故、今賜るだけ今限の多少に應じ、それ〳〵に心懸たらば、甚しき困窮はすまじき事なるに、時の勢實に據なく、斯く迄に成行たる譯ヶ有、衣・食。住の三ツは天子より諸人に至迄、人間一日も離るべからざるものなれば、貴賤等を分ち其程々に宥べき事なるに、第一上に制度なく、世界中あるほどの物、奢の極に至らざるはなし、士民も紵布を着る事に成たるは、畢竟四民の根元をたゞし制度を立、其生業を敎へ道びくの法令なきより、斯く迄に成行たるなり、當時在鄕に大百姓と云は皆姦民なり、姦民は異國にては極刑を加ると承る、其譯は貧民へ錢を貸し、返濟滯れば持高の田地を取あげ、其田地をさんでんと名づけ、貧民共に預ヶ置、其出物を收納する、左すれば地頭の有上に又地頭有、年貢は重に上納すれば、貧窮の上に貧窮する道理なり、然らば其國の害をなすにあらずや、扨貧民は治世には晝夜耕作の勤怠らず、今にも軍を出す時は、荷ひかたげ小荷駄に付、富民よりは治亂ともに其國の用をなす良民なり、其良民塗炭の苦みに落入は、皆件の農民のする事なり、惜べきの甚しきにあらずや、違在の一富民子共の婚禮致させしに、親類の女廿人餘呼び、

其女共に無ㇾ殘白無垢を着せ、色直と云て皆々緋縮緬を着替させ、料理人は城下より呼、七日の振舞をせし其料理結構云べきやうなかりしと聞及、いかに家富とも云はゞ士民なり、如ㇾ斯傍若無人の事をするは、上に制度なきよりの流弊ならずや、御家人の內小扶持小給のもの、家普請をするに二十貫目かかると聞及、是また分限もあるものなり、此二條を以考に、衣・食・住の奢誠に頂上に至れり、士民迄も如ㇾ斯なれば、其餘は云までもなし、一統困窮するは餘儀なき事なり、斯迄に成行たるをため直し、國を富し兵を强くせんとするに其術なきにあらず、是を行ふ人なきなり、國を富すとは、金錢財寶を多くすると云事にはあらず、尤何不足にてよきと云にはあらねども、爰に云所は米穀を多くして、軍兵を强くする事なり、兵精く粮足るは卽富國なり、米穀を多くする事は別に記し、兵を强くするの根元は、先づ四民をしつかりと分つべし、四民混ては制度を立べき樣もなし、四民のうち工商は士農によつて生活をなす事、牛馬鷄犬の人家によるが如し、然ば士農は本にして工商は末なり、依ㇾ之士農を治るが先務なり、士の役目は軍役なり、過分の知行を賜妻子を安樂に養ひ置、その君恩を報ぜん爲に、武藝を嗜み武器を貯、今にも事あらば萬死を輕じて戰功を立、或は討死して生平値遇の恩を報ずるは士たる者の役目なり、其士困窮して武藝の嗜も自然怠り、軍役の心懸もならず、世につれて奢は長じ、武備の廢れる此上もなきに至るも、士の罪にはあらず、根元士を養ふの法宜からざる故なり、士の知行處に居住せずして、城下に集居るは、甚だあしき事なり、其詮は知行處あれども、居住せずして城

下に居るは旅宿に居るごとし、日々の事一品も錢を出して買調ざるはなし、それゆへ商人以の外高ぶり、萬の物次第に高直に成、一年の所務を以取續兼るに至は餘儀なき事なり、是は武士商人に主客の勢あるなり、右の旅宿のすまひなれば、米を賣て錢にし、物を買ざればならぬゆへ、物の直段の上ゲ下ゲ、商人の心まゝなり、是商人主と成て武士客なり、武士知行所に居て、米を猥りに賣ざれば、商人は物を下直にしても米をほしがるゆへ、武士主と成て商人客也、左すれば權自ら武士に有て、物の直段武士の心儘なるべし、今のごとく城下に集居ては、錢さへ出せば何も角も自由に辨ずる故、我知らず奢と成なり、生れ落るより如ㇾ斯なるものと覺るゆへ、武士の行儀以の外あしく成行、香・茶の湯或は詩歌・連俳の風雅を知ざれば、世の交ならず抔と云、片腹いたき事共なり、畢竟奢の長じたるより如ㇾ斯に成行、武備と云事跡かたもなく忘れ果たるなり、妻女もかゝる奢の世にあれば、絹布を身にまとひ、美食を喰て身をうまし、その腹に產る子は多病柔弱にして、物の用に立がたし、是皆城下に集居るの害なり、今天下一統此風俗なるは、太閤秀吉公諸大名に處替をさせしより、其時知行所に居ては不便なりとて、皆々城下に集居たりと承る、それは其時纔に便利なるのみにて、其後知行所へ歸す事を忘れ、其儘にして置たる故、後世に至如ㇾ斯害をなせり、今は治世にして處替と云事はなき事に成ぬれば、古にかへし武士は各々知行處ニ置べき事なり、士を知行處に置德は、第一衣食住に物入なし、田舍の住ひなれば風俗自然と質素に、魚類不自由なれば、山野を走り廻り鳥獸を狩り、弓・鐵炮も上手に成、身も

自ら勇健なり、親類朋輩も五里十里隔れば、常に其道をあるきなれて、地理を知の助にも成べし、馬も心易く飼ふべければ、自ら達者に乘るべきなり、婦女は野菜を摘樹葉を拾ひ、機を織布を晒は、武家の女の本分なり、是を常とせば財を助け、身も健にして産む子も一段强健なるべく、是兵を强くするの根元なり、如レ斯奢と云事なく、物の入る事なければ、自然矢の一本ヅヽも心掛らるべきなり、此法を名付て土着と云と承る、土着とは武士を土につけて置事なり、武士の本源土を離れて居ては、物の用に立ざるものなり、士の業は皆土の中の事なり、軍は士の上の事なれば、常に合戰の式作法を習ふも士の上なり、弓を射鐵炮をうち馬を乘習ふも、皆土の中の事なり、故に土の中にそだちたる士にあらざれば、眞の强兵にあらず、今の士生れ落るより、疊の上にて衣食に奢り、柔弱にそだちたる者を俄に具足を着せ、土の中へ置たらば、戰ふ事は扨置病を生じ、立所に死すべきなれば、實に物の用に立ず、にが〳〵しき事ならずや、今の勢を以考に、國を富し兵を强くするの術、千方百計此土着の外にはあるまじきなり、それを直に手に下して行ふの法は別に記レ之、農は古は事なき時は常に耕し、事あれば即出て兵と成、是を農兵と云、中古より農兵わかれて二と成、事ある時は兵是を治、農は常に兵を養ふ、今の百姓耕作をして武士を養ふが役目なり、しかるに士は皆城下に集居て、在郷には百姓計居る故、殊の外我まゝに成行、種々の奸曲出來り、果は前段に見ゆる如くの傍若無人のふるまひも出るなり、それのみならず、件の姦民我本業の耕作はよそにして、さんでんと名付置、おのれが錢の有

まゝに商人と利を爭ふ、農商混じて、後には甚しき害を生るなり、此さんでんと云物、誠に國の大害なれば、是をやむる秘說あり、憚る所あれば今筆端に述がたし、畢竟士を知行處へ置ぬゆへ、百姓甚だ我まゝなり、武士土着せば、それらの流弊立處に直すべし、百姓の我まゝ奸曲する事ならぬ時は、在鄉は能治り、久しく居なじみたらんには、地頭百姓は相互に主從の恩信を結び、軍を出す時は片腕の力と成、是亦兵を强くするの一端なり、右土着に付て、百姓には上より制度を立る事は別に記レ之、土着は一國の內殘る所なく割渡し、其內一備出すべき程を一鄕と定、それへ大頭を付れば、卽境目の押へと成なり、其間々へ公田を交へ置事本式なり、されど年久しく城下に集居たる惡弊にて、今急に遠在へ遣らんとしては、人情のむかぬ所有て不便ならんか、今行はんとならば、兎角城下近在十里內外迄に置樣にせずば成まじきか、さすれば給分の高行足らぬ故、半分は其所にて、半分は遠在にて、今の知行所の通にして割渡さずば成まじ、但小進の者には三ヶ二、又大進は三ヶ一も其所に割渡す樣にすべし、其間々に公田なければならず、是は扶持方の者へ渡し、又は軍粮を貯るの仕法有べきためなり

○兵法に五々の矩あり、五六の矩あり、五々のかねは五々廿五、一組二組合五十騎の騎馬に、鐵炮足輕百人一倍の積なり、弓廿五人半の積なり、長柄五十人等分の積なり、旗五本十分一の積なり、是は騎馬より割出すかねなり、五六のかねは、騎馬六十騎に鐵炮足輕百廿人、弓三十人、長柄六十人、旗六本なり、是は步者より割出す矩なり、騎馬に足輕を割合るは何も同じ事なれども、此兩樣なければ

ならぬ習あり

○兵は練兵にあらざれば物の用に立ず、水火に投るとも避ずと云迄にねり入ざればならず、それ迄に練り入るゝはたやすからぬものなり、其根元は節制の法立ざれば練入事ならず、節制の根元は五人組也、此五人進むも退くも、一同にして少も違はず、畢竟五人を合て一人の身として遣ふ事なり、此五人を一伍として伍長有、伍よりくみ上ゲ五伍廿五人を一隊とし、隊長あり、二隊合て五十人、是一備也、軍將有、是よりして幾千萬の人數をも組上ゲべし、左あれば五人組と云もの根本なり、扨節制の法五人の内一人討死して、殘四人手に合ざれば、其四人死罪なり、二人深手を負、三人手に合されば其罰しな有、此法嚴ならざれば、兵を手足の如く遣ふ事成べき樣なし、孫子のこれを死地においてて、而後に生と云の大傳にして、うしろに死地有る故、敵にあたるの強きを知べし、强ければ手負討死はまれなる道理なり、故に此五人組は萬代不易の定法なり、如レ斯ものなれば、此五人常々親しく水魚の思をなすにあらざればならぬ事なり、若一人國家の禁を侵す者ある時は、殘四人も科を蒙る、輕き罪有ても四人もそれ〴〵に科を受るは、今の親類に無調法の者あれば、遠慮等被二仰付一ごとし、夫ゆへあしき者あれば異見教訓して、聞入ぬ者は取こめ、養子をしてなりとも、其家を全うする樣には、敎へずして自然となるなり、土着には五家尤並て有べし、是を一小鄕とす、此一伍の内に伍長有、五伍廿五家、或は五六三十家を一隊とし、隊長有、是を一中鄕とし、番頭有、二隊合五十家或六十家を一大

郷とし、軍將有、是は本騎馬一備の武者なり、一大郷の內是に添へて、小進の侍醫者其外足輕に至迄、一備の分は組合せて置也、組旗奉行・鑓奉行・諸物頭此本騎馬の內より出る、此番頭と云もの心持の有ものなり、度々の高名手柄有て、大將より采配を免じ被ㇾ下る丶、是は感狀所領を賜るよりも重き賞にて、規模なる事なり、是を采配御免の衆とて、其一備の武者は下知につくなり、一備に二三人も有て、其備を分けて遣ふ時には、即假りの軍將となるものなり、治世にはヶ樣の人はなき積なれば、家柄の筋目ある士の內、器量を撰て任ずるより外なし

○小進の侍も五人を一伍として、土着するは同じ事なり、五十人を一組として組頭を付、二組百人へ番頭を付る、是は軍中の使役足輕に付く、與力其外色々小役に遣ふためなり、戰國地取合に上下三人の騎馬と云ふもの有は、小進の侍を地戰の騎馬に遣ふ事なり、尤治世には色々の小役に遣ふ事、今に替る事なし

○倍騎倍卒は分限に應じ數を定べし、大進は各別、小進者別に家來と云ものを抱る事ならぬは、百姓の內人柄を撰み、米を纔五俵十俵くれて、それに苗字帶刀を免せば家來分なり、それより小進者はたとへ二俵三俵くれても家來に紛なし、是常は耕作をして百姓なり、用の有時計遠方へ使にもよきなり、暇ある時は武藝を敎置く時は、屈竟の郎等なり、大てい百石の分限にて、四五人は持たるべし、是はなくて叶ぬものなれば、土着の上には此法を嚴に立べし

○醫者は本道四人、外科二人、針醫二人、馬醫二人ほどもなくては成まじ

足輕百九十人、或二百廿八人

內鐵炮百人、或百廿人　與力廿人、或廿四人

同弓廿五人、或三十人　與力五人、或六人

同鑓五十人、或六十人

同旗十五人、或十八人　與力五人、或六人

右は五十騎、或六十騎の備元へ付所の惣足輕なり、廿五人或は三十人を一組にして、物頭七人、旗奉行一人なり

○步行是も三組にか四組に分ケ頭を付る、是は旗本の入用の物なれば、城下近く何の鄕へ成とも組入て、常は一組ヅヽ交代して勤さすべし、步行頭・中間頭抔は古の鐵騎の遺意にて、大將の床几の廻りを堅むる役ゆへ、場數武功の侍を任ずる重き役なり、治世といへども共心得有べき事なり

○軍將一人、是は一大鄕の大頭ゆへ、家筋分限武士の司と成べき器量を撰て任べし、治世には御家老職をも勤べきなり

○由緒筋目有家柄の侍七八人或十人程も、是は軍將病氣にて出陣ならぬ時か、又は幼少抔の時は、陣代を勤さする爲なり、治世には御家老職・寺社奉行・御番頭をも勤べきなり

○右あらましを記す、是をたとへば五六里、或は七八里の處へも割渡す、是一大郷なり、侍は百五六十家、或は百八九十家なり、此一郷の人々常々萬事むつまじく、嫁娶もなるたけ此内にてすべきなり、扨又其内には家に子共多くて、嫁取・婿取打續くか、凶事等に逢か、又は長煩などして困窮する事、人間世界には必有事なり、强ち覺悟のあしきと云にてもなし、左樣の物入にて困窮迷惑する時は、一郷惣惣より相互にすけ救べし、たとへば一家より錢五百文ヅヽ出せば、百五十家にて七拾五貫文なり、一時の急は救に成べし、是は分限の多少も有ものなれば、いか樣にも法を立べし、此法ある時は、右のすけ救ふの便利なるのみならず、相互睦しく成、一郷は自然と一和して、あしき者あれば異見教訓して、上の御爲を第一に存じ、御奉公を大事にする道理なるは人情の常なり、三代聖人の治と云とも、人の一和して其一郷のよく治るより外は何もなき事なり、今の如く面々こうにては、左樣の貧窮の者は訴る所なく、助救ふ者もなければ、誠の窮民と云者なり、たとへ此心ある者も、一人してはあまたの親類朋輩なれば、救たてもなるべき樣なし、然ば治道と云ものにあらず、此道理を考へて古今を斟酌し、時の宜に隨て法を立るは、即聖人の道意なり、その外にも貧窮を救ふ術、末の軍粮を貯の條下に記

○右一郷の侍百六七十人、或百八九十人の內、百人か百二三十人も、一ヶ月なり二ヶ月なり持きりの勤番なり、殘りは一郷の留守居たるべし、是は段々操合にて殘番をするなり、すべて一郷を空くして人を出す事は、治亂ともに大に嫌ふ事なり、扨右百人の內御小姓御供役抔も有べし、是にて常の番人事

足るべし、何程闕敷勤成とも、纔一二ヶ月の事なれば、たとへ日々勤たりとも不ㇾ苦事なり、一大鄕とするもの六ッか七ッあれば、勤番にてあたるは稀なり、其内に殘番もあたるゆへ、城下に勤番する内は、少々物入に成ても不ㇾ苦事なれども、兎角無用の費なき樣に成べきだけは、物のいらぬ樣にすべき事なり、小進者は今のごとく、銘々に屋舖を持ッ事は成まじければ、一騎駄輩迄は屋舖を持、夫より小進者は諸役人の役屋舖の近邊に、長屋を立借す樣にすべし、但一鄕の長屋を一ッに立るとも、其通に長屋に三ッ四ッも設くべし、是は交代の時にも取込ずによし、又事により二三鄕より人數を召て、勤番さする事あるまいものでもなければなり

○足輕も番人の數をしらべ、一日一夜か、二日二夜ヅヽの番にして、手明の者は火消になるなり、百人も百四五十人も、一二ヶ月ヅヽ持切の番にし、是も物頭の役屋舖の近所へ長屋を立借すべし、但諸方の者の外に明き長屋を設る事右に記ごとし

○一鄕の軍將を始、諸役人足輕に至迄、每一月一度ヅヽ合戰のならし有べし、冬夏に文を講じ、春秋に武を習はすと聞及、ならしとは、足輕せり合より武者の備立・進退・分合・金鼓の相圖・使武者往來の式・座備の作法・小荷駄の取廻し・陣屋の作法すべて一切の軍法兼て心得る爲なり、每一年一度ヅヽ武者は云に不ㇾ及、足輕雜兵迄甲冑を帶してのならし有べし、軍法を敎て練入ざれば、急に手に取て遣ふ事の出來べき樣なし、武侯の「卒未ㇾ習練、則百不ㇾ以當ㇾ一、習而用ㇾ之、則一以當ㇾ百」と云れたる、敎

ざる民を以戰をすつと云と有抔を以考見るべし
○江戸定府の侍と云もの、有まじき事なり、是は留守居と云役、田舍者は事になれずとて、新に抱へて其役にし給ふ事抔有てより段々殖たり、近來に至下野國住居の侍をも、江戸定府に被ㇾ成たり、甚有まじき事なり、下野國に侍を被二差置一たるは、天英公深き思召被ㇾ爲ㇾ有ての事にて、愚人の知らぬ事なり、畢竟國家の大體をも辨へぬ役人の不學より、ヶ樣迄に亂りがはしき事有、是をば公の神慮に本づき奉り、今の江戸定府の者殘らず下野國へ土着すべし、其法に倣ていか樣にも成事なり、留守居の役も常憲廟・浚明廟の頃などは、權門と云事有て、事になれざる者は不自由にも有たるべけれども、今は誰もなる役なり
大將御旗本の役人、武者奉行・旗奉行・鑓奉行、是は軍陣の重職なり、此三奉行陣中の諸事を評議し、一切の法令を出す役なり、たとへば武者奉行は治世の家老職、旗奉行・鑓奉行は町奉行・勘定奉行抔の評定に加り、政事に預るが如し、旗奉行・鑓奉行とはいへども、旗鑓計を支配するにあらず、大將の近邊に居て軍議評談に加り、諸法度を言渡し、諸人の訟をも武者奉行迄云次ぐなり、分けて武者奉行は智略武略兼備り、尤兵學に長じ、大將へも弓矢の異見申程の人の任ずる役なり、是を軍奉行とも云て重任なり、其外惣旗奉行・惣長柄奉行・小荷駄奉行、或は軍將・足輕大將より歩行頭・中間頭又は使番・検使・介添等の役々有、是を根本のふまへとして、今日の役品を立方有べき事なり、士着の法立て一郷々々

に一備づゝの人數備はる上は、軍將三奉行等重職の面々、每一年一度づゝは軍議評定有て、今にも御人數御催促あらば、少も御手支なき樣に書立を以定置るゝ事肝要なり、之が武備の根本に預る處なれば、一大事の事なり、扨治亂を斟酌して役品を定、重職は云に及ず、下役小役迄も勤役中は定府なるべし、皆々役屋舖有て居住すべし、役人は肩衣勤なるべし、羽織と云ふもの奢の端を引出し、人品柔弱に成て、以の外あしき物なれば、一切禁じたきものなれ共、雪國は寒氣を防ぐに便よければ、老人の五十歲以上の者に計綿入羽織を免すべし、是は今の杖御免と云よりも規模に成て能なり、袷羽織・單羽織は實に不用のものなり、嚴く禁ずべし、其外衣服の制禁上下の等を分け、しつかりと制度を立べし

○火消の役人なくて不叶、人數は大祿の者、幼少或は病氣にて勤番成らぬ者、我家中の者を分限に應じ城下へ詰させ、番頭奉行の內成とも兼て火消役を定、其人の下知に付て働くなり、尤大進のもの勤番中火消役を勤べし、物頭も組々を連て勤べきなり

○物頭は多人數なるものなれば、交代をして勤る樣にすべし、弓・鐵炮の稽古又は合戰のならしの時はなくて不叶、すべて表藝の稽古は雪國にては、十月より二月迄は成まじければ、交代には繰合の模樣よき樣にすべし、物頭は重役なり、合戰の時は眞先に出て爭合をするものなれば、第一身健にして尤軍理に長じ、勝負の鹽合を知て、且勇氣の强盛なる者にあらざれば、任じがたき役なり、旗奉行・鑓奉行抔

の重職皆此内より撰み出す事なれば、尋常の者は勤る事ならず、治世と云共此心得を以て取立べし、人を取立るに文武の科を立る事はあるまじ、末に記人を擧るにも伍法正しければ、其内より見出し易く、且文武科に有て教育せば、取立られぬと云事はなし、人を擧るには一伍の内を撰て伍長とし、伍長の內を撰て隊長とし、物頭とし、夫より段々器量を撰て、重職にも任ずべし、如ㇾ斯なれば人を擧るに階級有て誤る事なし、輕薄者の出頭人に取入て、立身する樣なる奸曲はならぬ事なり、一鄕の內にて隊長物頭に擧るは、强て分限に拘らず、小身者成共器量有者は擧べし、左なければ人をはげまし人才を養ふ事ならず、すべて重職を始め、役々共家筋にて勤ると云事甚だ有まじき事なり

○每一鄕に鄕校有、公庫有べし、校は孝弟忠信を敎る處、庫は扶持の方へ渡す米を納、且軍粮を貯べきためなり、城下に學校有、鄕に鄕校有は、專人才敎育のためなれば、ゆるがせにてはなるべき樣なし、法の立樣格別に有べき事なり

○兵具藏は是亦なくて不ㇾ叶、其一鄕の侍の兵具は、集めて納置べし、足輕の弓・鐵炮・長柄・矢・玉藥・火繩等一切の兵器を貯、是を預る役人を定、常々無ㇾ怠兵器を手入して、何時も差支なき樣に備ざればならぬ事なり

○禮法是は武器の制作軍禮弓禮、古來小笠原流を用來たれば、なくて不ㇾ叶一切武家の式作法・冠婚・葬祭迄備る物なれば、御取立無て不ㇾ叶事なり

○兵學侍の心懸此外なき事なり、生れ落るより我は武士なり、武士は軍の御用に立べき爲のものなれば、武藝を習熟し、見事御馬先の御用に立べしと心懸ぬものはなき筈なり、併それは武士一人前の御奉公なり、兵學に長じたる者は、千人前萬人前の御用に立つ事、古今の諸大將を見べし、楠・孔明抔は云もさらなり、一備の軍將となる器量あれば、一備は千人に及人數ゆへ、其人數を遣ふて君の御用に立所は、即千人前の御奉公なり、其人數を遣ふは兵學に長ぜずしてはなるべき樣なし、是は武科の第一なれば、敎道びくの法有べき事なり、されども兵家の機密は押出して、めつたに數るものにあらず、此取立方は深き意味有事なれば、兎角其人を得て任ずべし、憚る所あれば今筆端に述がたし

○武藝・弓馬・鐵炮・鑓・劍術、其外一切の武藝何にても勝手次第習はせべし、人により得手不得手も有もの故、一ぺんにすべからず、鑓・劍術・弓・鐵炮は是非侍の習はずしてならぬ物なり、鐵炮打と云者有、足輕あれば、覺ず共不レ苦と云者あり、大なる誤なり、籠城の防は鐵炮にしくはなし、籠城の時女に迄鐵炮うたせたる事、古は度々なり、況侍の心得ずして不レ叶事明なり

○右あらましを記といへども、武士皆在々に居住せば、よき者も隱れて知れ乘る事あるべきなり、爰にむかしをおもふに、梅津半右衞門忠宴の云し御物頭と云御役、治世には何となく外ざまめきたる役にて、人柄も知れかぬる樣なれば、兎角御家老の取立に無てはよき者も出でかねべしとて、常々親しく出入させたり、此忠宴兵學の達人にて、弓・鐵炮の事は云に及ばず、一切戰場の式作法、足輕の扱樣迄敎

られたる故、何も喜び頼もしく思て出入したり、其內器量の者を見知、重役にも段々成たり、御物頭にも限らず、誰なりとも人の來る事を殊の外喜びもてなしたる故、客のなき日は一日もなく、半右衞門は客ずきの人と世上に云れたるとなり、是は全く客ずき一通の事にはなく、左樣愛し近付て、能見知て上の御用に立んためなり、何とよき人成とも見覺もせぬ者は、噂を聞たる計にては實否を知べき樣なし、依レ之諸士勤番の內は、重職の面々は云に及ばず、諸役人の家へは常々出入する樣にすべし、今のごとく出入と云物に拘ての上でなければ、行事ならぬ樣にては、何にたよりて人を知べきや、人を知の道なき故其弊顯然たり、さらば誰なりとも勝手に出入する樣にすべし、役人の面々は善惡を撰ず人を愛し近付、常に親く出入させ、何事も用事等を賴、少々慮外の事をも賴む樣にして近付、能見知ての上にすゝめ擧る樣に心懸たらば、見知られまじきにあらず、扨人を知の階級に至ては、我器量程ならでは知得がたし、其證に古き物語を有のまゝに記、或曰、人を知るは目付横目を多くして、諸人の行儀作法常々の人となりをも見聞せて、役人にもしたるが能可レ有レ之候、答曰、知は古人も難ずる所なれば、中々容易に知らるべき事にあらず、知と云にも我器量程ならでは知れぬなり、軍に用る人は大將軍理に長じ、其長じたる程は知らるゝなり、彼は鐵炮大將の器量、是は弓大將・鑓大將、又は使番・介添抔とそれ〲に遣ふ事なり、故に名將は人を能見知て、其器にあたる樣に遣ふ故、每戰に勝ずと云事なし、愚將は是に反して、其器にあらざる者を遣ふ故、每戰に負ずと云事なし、治亂ともに如レ斯

ものなれば、中々目付の云事抔にてはならぬ事なり、目付抔の聞出すは、諸人の沙汰ならでは知られず、沙汰には依怙贔屓も有、殊に出頭人抔のよきと云は、我々の氣合の者計なり、其上輕薄者は目付出頭人の見る前にて計りよき事をする物なり、人を擧用る事は家老奉行の大任にて、異國にてはすゝめ擧たる人罪あれば、其すゝめたる人も科を蒙る、人を擧るはケ樣ほどに重き事なれば、中々目付抔の云分にてなるべき事にあらず、目付横目と云ものは能勤る者の顯はれず、惡事をする者の隱るゝかを吟味して賞罰を行ん爲、又は政道を下の取沙汰して、上に服するか否を知らん爲の物なり、すべて人を知と云は一大事の事にて、諸人我が好む事を、人の好むと聞てさへ喜ぶは人情なり、出頭人の好む所へ輕薄者の取入は、皆そこをするものなり、是別なる子細なし、其好と云は私慾なり、私慾あれば、其慾心に乘じて取入らるゝなり、是亦慾にくらむは人情なれば、其氣合の者を能人と思ひ取なして、出頭さするに至るは、皆我慾心にひかれての事なり、夫ゆゑ更に人を知、上の御用に立んとの志なれば、先づ我慾を去ての上に、君の爲國家の爲と思ひこんで、眼を付たらば知らるべき事なり、知ると云にも上中下の三段有、たやすからぬ所なり、上は我よりましたる人、中は我と同位の人、下は我より次の人なり、別して上の人は知がたけれども、實に知らんと心懸て、私慾を去て見る時は、少しは知らるべし、中の人もあしくすると見落す事有、次の人は猶以あれ位これ位の者抔と見くだす所有て、其人だけの才をも見落すなり、是皆私慾を去ての上に見ざれば見へぬ處なり、兎角人を知らんとする

には、第一人をすきにならざれば知るべき様なし、たとへば馬鷹の目利を以見べし、其事に常に心を用る者には奇妙なる事有、一圓其道を知らぬ者は、名馬・名鷹を見ても、駑馬・鳶・烏にかはる事なし、是心を用ると用ざるとの違なり、能嘶子抔にてすきをする者は、誰は名人上手と知るものなれば、人をすきになれば、人も知らるゝ道理なり、ある僧の今は世末に成下り、名僧知識出る事なしと云に答て、それは我愚なる心より左思ふ筈なり、今とても名僧知識はあれども、それを知る者なし、鄰家に達摩大師が來てあらるゝもしれぬなり、今の達摩は眼が細く柔和の面體ならば、猶以知がたからん、聖德太子は乞食の内に達摩を見知られたり、されど斯く云我等も今周公・孔子に逢たりとも、見知まじと云て笑たり、古人の人を知人を擧たるは、實に其事に心を用ひたればなり、張浚は卒伍の内より岳飛將軍をあげ、留侯は股をくゞりし男を見出されたり、天英公御代には一年には三四度づゝ大番振舞とて、大番の面々へ御料理御酒被レ下候、鮭の御料理被レ下候節は鮭振舞と申、或鴻振舞、雉子振舞抔と申候由、又御家中の者に鐵砲をうたせ御覽被レ遊、其時々に輕き御褒美被レ下候事は政景日記に見えたり、是は其頃いまだ鐵砲うつ者多くなかりし故、御取立の爲ならんと云人有、尤左も有べし、夫のみならず、斯様の事にて人を御近付、それとなしに人を御見知あらんとの御事成べし、鑑照公・德雲公の時代迄も大番振舞は有たり、其後御儉約と申事にて、斯様の事は跡かたもなく消失たり、是等は埒もなき事の様なれども、君公の御見知あらんには、かやうの事によりてならでは、御見知可レ被レ成や

うなし、鶉野・追雉子抔は大番を多人數召れられ、御野場にて御酒等被レ下候、是は疊の上にて御覽あるよりも、御見知なされやすき筋もあるべし、東照宮の山鷹野はせで叶ぬもの、夫には心持の有ものぞと仰られしも爰の事なり、今は斯樣の事すたれ果ぬるは嘆しく侍る

○軍粮を貯るの法なくて不レ叶、御家中より遠路不勤と云御割あるは、其者幼少にて出陣ならぬ故、軍役に出すものなり、それを上の費用にあつるは有間敷事なり、每一鄕に公庫を立、此軍役に出す處は籾にて納させ貯ふべし、當分は纔なる樣なれども、年を積ば溜るなり、扨土着の上は平日の事迄しつかりと制度を立、衣服・家居・飮食迄節儉を本とし、無用をはぶいて嚴重に法を立、扨分限の多少によらず、たのみ迷惑にならぬ程づゝ、每年籾にて公庫に納る、是は上へ取るにあらず、即其者々々の軍粮也、此法數年行はるゝに於ては、置處もなき程溜るなり、其時は半分も賣て金にし、是亦軍用に備べし、扨莫大に溜て後は、一鄕の內實に據なき譯有て困窮する者をば、其內を以救べし、大饑饉の年は一國を救べし、實に大功ならずや、是則治道の大本なれば、此法なかるべからず、尤上にても御藏入高の內少分づゝなりとも籾にて納させ、御貯有るべき事なり、今のごとく古籾は御拂と云物にてはならず、法の立方有べき事なり

○百姓にあい地頭と云事有間敷事の最上なり、土着の法行はるゝに及では惣地頭皆替る故、たとへば百石の地頭へ百姓十人にて其持高を右壹人の地頭へ付るなり、扨田は買賣する物なれども、右十人の

内にての買賣は勝手次第、外地頭の百姓へうる事は堅く禁べし、是をゆるせばあい地頭出るなり、今のさんてんと云物を嚴く禁べし、禁ずるの法悉く有、畢竟地頭百姓は主従なり、地頭の心懸次第、我百姓の子共の内足手强盛なる者に武藝を敎べし、あい地頭と云物なく、一人の地頭を生れ落るより、主と覺る時はその恩入も、今の地頭百姓のごとくにはなき筈なり、幼少より養育に預り、物を習て恩義骨にしむゆへ、大事に臨では一臂の力と成なり、是に苗字帯刀を免して家來分にする事、前に記す如し、如此の郎等有てこそ、一備の武者も强きと云ものなり、今時の一季奉公人を戰場へ連て出たらんは、おもへやるべし、爰に至て土着の大利を知べきなり、武田信玄は百姓の子供に武藝を敎、段々足輕にもし、其内武勇ある者をば侍に取立、在鄕近習と名づけたる强兵有しを考見べし

○百姓には急度制を立べし、此法嚴ならざれば奢を禁じ、質朴の風俗にする事ならぬなり、衣服は麻・木綿に限るべし、たとへさんとめ縞・青梅縞の類にても堅く禁べし、兎角紛敷所より法の破るゝに至ものなれば、麻・木綿に色を定て着せべし、上下・羽織・合羽等禁べし、家は書院作・玄關作・門板屛・床間付・書院・違棚・長押作・切目縁・ふすま戸・まいら戸・腰障子・折子障子・杉戸・らん間・唐紙・はり付、砂壁・天井はる事一切禁べし、器物は蒔繪・梨地・靑貝・金・銀・赤銅の金物・燭臺・挑灯・傘、其外琴・三味せん・胡弓・尺八一切遊藝の器物所持する事嚴く禁べし、吉凶に親類朋輩を振舞する事、土百姓には有間敷事なれども、久しく其風になれ來たれば、一圓にやむ事も成まじければ、料理等は最に法を立、打寄淸酒を飲事等

は堅く禁べきなり、右段々は彼等をにくむにあらず、此ごとくなる事は彼等が本分なり、今のゆるき風俗になれたる者、當分は面白からず思べけれども、奢はなく成、質素の風になる時は、後には彼等がために大によき事なり、是らの事は行ふに臨て、若うらむる者も多く有て、如何ならんと危ぶむ人も有べけれども、それは何義も仕なれぬ內は、當座迷惑なる筋の事なり、仕なれたる御城下より土着するは、當座迷惑におもふは人情左有べき事なり、併此まゝにては一統の貧窮を救べき樣なく、且土着の利萬々なれば、爰は剛斷果決、大功は細瑾を顧ざる處、豪傑にあらざればともに論じがたく、猶豫狐疑の庸輩には日を同して語るべからず

○扨土著の法すはりて、後百姓に高何石持たる者何程と定、迷惑にならぬ程纔づゝ籾にて出させ、軍粮を貯べし、百姓は兵粮を貯に及まじき事の樣なれども、左にあらず、戰國割據の時は別て境目近き處は、やゝもすれば敵に侵され、其所の百姓殊の外迷惑する故、山か沼などをかたどり、要害のあしき方へは堀をほり、土手を築柵抔をして、其内に皆集居る樣にする、是を小屋城・宿城抔と云なり、其樣なる時は思ふ樣に耕作もならざれば、食に乏しく成なり、それのみならず、前に見ゆる通籾を貯の利は萬々なれば、此法亦なかるべからず、すべて段々云處の籾を貯の事は纔づゝの物にて、何百年積で物の用に立べきとそしる者もあるべけれども、それは國家の大體にくらき者の云事なり、大器晩成すとて、ヶ程の大なるくみ立は、中々十年二十年にて其功の速に見ゆる事は有まじきなり、今の智恵者

のする所、今行て今用に立様なる事計故、當座よき様なれども、只鼻先計の間に合せなれば、指支のみ出來て、先づそれはやめて又是をすると云様なれば、畢竟は兒戯なり、天下國家の大事は百年千年の大略を考、古今の治亂盛衰を斟酌して、今日の宜に用る事即聖人の遺志なり、商人と云ふもの百里二百里の遠國より物を持來、それ〳〵の用を辨じて、至極重寳なるものなれども、やゝもすれば奢に長じ、國風を亂す端を引出して、甚にくきやつなり、是には嚴重に制度を立、國風を亂さしめざる様にすべし、家居・衣服・器物の禁一切百姓に同ふすべし、男は上下・羽織、女はうちかけ嚴く禁べし、但庄屋又は御用聞など役人分の者は、御用を勤る時計り上下を免すべし、其者共の規模に成てよきなり、其外は一圓禁べし、脇指は皮柄・籐柄・皮下ゲ緒なるべし、金銀赤銅の飾堅く禁べし、衣服麻木綿に限色を定むべし、右役人分の外は着物に紋を付る事禁べし、是衣服にも制度有て、上下の分有しめんためなり、今のごとく上下へた〳〵にては、上の御威光も薄く、錢の有者は勝手次第に衣類抔は大名も替る事なし、件の町人と木綿の着物きたる侍と立並ぶ時、町人の方に威のある様に思はるゝは、人情皆如レ斯なり、それより自然言語にも慮外の事抔出來るは、皆制度なきの弊なり、町人に迄制度あるは、畢竟國風をたゞさんためなり

右記す處は武備の廢れるを深く嘆きて、若も斯して再び振ふの一端ともならんかと、管見の拙きを顧ず記畢、全く今日の事を誹謗するにはあらざれども、議論爰に及べるは、虎に乗る勢とゞまる事あた

はず

今の時に當て、御國家危急の御先務四大難は、

武備頽敗

田法廢亂

法令弛解

財用不足

右四ヶ條は、旦夕に相迫候御急務に御座候

武備の頽敗は此上もなきに至れる其本は、御家中の究迫よりに御座候、夫故御家中の究迫は第一の御急務に御座候、其譯は天下御定の御軍役は、一萬石に十七騎なれば、二十萬石の御役騎馬三百四十騎、大體七備なり、一備の人數大積騎馬五拾騎、士大將一人、番頭二騎、旗奉行一騎、物頭六騎、使武者四騎、與力廿五人、鐵炮・弓・鑓・旗の惣足輕百九十八人、其外醫者・馬醫・右筆・倍騎・倍徒の人數、貝・太鼓・玉藥・矢箱の持夫、足輕の肩替、小荷駄の口付迄合て已に千に及、是を七備なれば七千に餘る人數なり、是は人にも御催促次第、少しも遲滯なく不ㇾ被二差出一候得ば不二相成一件の御用の爲に常に過分の知行を賜り、養ひ置るゝ御家中にて、上より專ら武藝を教導るゝも、全く此御用の爲なれば、御家中の面々は武藝を第一に可二相嗜一、武器の心懸を專要に仕候は、銘々の職分に御座候、然るに中古以來御借

上高有レ之、次第々々に困窮に相成、武器を心懸る事もならず、武藝の稽古も自然怠に至るは、究迫にて日々の取續に隙なき故に御座候、去程に右御軍役に相當御人數、萬が一も被二指出一兼候事御座候ては、實以恐入候事に御座候、左候得ば御家中の究迫それなりに御覽被レ成、被二差置一候事には萬々無レ之候、困窮御救として拜借金銀等被二成下一、御取扱の筋は雖レ有仕合に御座候得ども、夫に只當座のみの事にて、翌年よりは返上は相くるしみ、却て迷惑の事かと奉レ存候、只今の風俗侍に隊伍の法無レ之候、何その時急の御用に相立不レ申候は、弓有て弦なく、弦有れども矢なきが如くに御座候、しからば古今を斟酌し、急度御仕法定置れ不レ申候ては不二相成一御時節に御座候、御先代様よりの御法悪しきには歪く有レ之まじく候得ども、已に二百年も歷候ては種々の流弊出來、ヶ樣の差支に相來候、是をため直すには、たとへば塞れる物を取拂候へば、水の流るゝ如くにて、裁成輔相の意に御座候、右のあらまし別冊に相認申候、田法の廢亂は實以言語同斷に御座候、是は御法の悪きには無レ之、諸役の不心得より如レ斯迄に廢亂仕候由、法は根元濫江內膳被二仰付一、六部へ被二定置一候砌は、內膳直々七ヶ度廻在仕候由に御座候、ヶ樣に上たる人心得御座候ゆへ、下にて我儘姦曲可二相成一樣無レ之、其後迚も村方取扱候役人は、必荒心得有レ之筈に御座候、中古以來役人の不心得にて、自然と田法は御檢地役次第の物に相成、村方平均御竿被二入置一候節などは、姦民共の賄賂次第何ほども打減じ、減れば減きりにて、何故に減たるや、上たる人一圓合點無レ之、御國家の根元に相立候御田地、如レ斯なげやりに可レ被レ成事

には無ニ御座一候得共、中古ゆるがせの惡弊にて、なれ〱の御取扱故に御座候、田法は御檢地役次第と申事有間敷事の最上なり、當時在々富民の田は賦斂少く、貧民の田は賦斂重きは、經界の亂れよりに御座候、是は百姓共田地賣買勝手次第に致候より段々亂れ申候、孟子に「仁政必自ニ經界一始」と有レ之候、田法の第一經界より重きは無レ之候、姦民共の經界を亂るには、假令ば高拾石所持の百姓困窮して、五石を富民に賣るといふ、富民の曰、只の五石ならば五拾貫文に買はん、切添あらば百貫文に買はんといふ、貧民錢のほしきまゝに切添をして賣

其圖

五石	五石

只五石といふは是也

五石	五石

切添の五石といふは是也、實は七石五斗の地
切添して賣殘たる五石、實は貳石五斗の地

如レ斯ほしゐ儘に經界を亂り、我儘姦田をするに、田法に預るに御檢地役も知らずに居る、貧民賣り殘り件五石實は二石五斗よりなき地にて、是を作りても收納すべき樣なき故、果は逐電する、其田は作りて損のゆく田ゆへ、作るものなし、肝煎あぐんで鄕作りにする、當時在々に鄕作と云田のあるは皆是なり、仙北村は別て隱田夥く有しは、賄賂を以て御檢地役を欺き打滅らし候は、右の賣買切添にて、經界を亂りたる故に御座候、二十五俵田と唱有レ之候、夫は高一石の田地を田主より小百姓預、一石の物成小役鄕役迄皆濟の上、田主へ廿五俵渡し、其殘一家の喰料になる程出る、是隱田と申物に御座候、右田

主年々手もぬらさず、廿五俵ヅヽ取て居るは不届千萬、盜賊に等しき者に御座候、扨共二十五俵田の隣は必郷作田に御座候、是切添賣買の證據に御座候、姦民如レ斯盜賊の行ひをなし、良民塗炭の苦みを受申候、夫々民は國の本、本堅ければ國安しと相見得申候、御國家の根元に相立候御田法如レ斯迄癈亂仕候を、夫形に差置れ候は萬々無レ之儀に奉レ存候、是をため直すの御仕法は、急度有レ之事に御座候上より被二定置一候御法令は、下々惣て堅く可二相守一候事は、申迄も無レ之事に候得ども、いつとなく相弛み、自然相侵し候に至候事まゝ見聞に相及申候、先づ其一端を申候はゞ、御家中着服御制禁有レ之候へども、婦女の分は御構無レ之、何となく御制外の様に御座候、是も出て來る處御座候、屋形樣・御前樣の被二召使一候女共も、御家中同樣に御制禁可レ被二成置一事に御座候處、女は一圓御制禁無レ之、勝手次第の着服にて、女は御制外の姿に御座候、近年來は御國本に御子樣がた被レ爲レ入、御附々々の女共右の着服故、夫を見まね御家中の婦女どもの着服も、御制外の事に差心得、以の外奢侈の風俗に相成、只今にては是非共紬布着用不レ致候ては不二相成一姿に相成申候、下として相侵候は有レ之間敷事には御座候得ども、根本に紛敷所御座候ゆへ、かやうに相弛み申候、惣て御制度の事只に差當候事にて、被二差出一候御法令にては、右の通不都合の事も御座候故、根本より御取糺、御家中百姓町人の分をしつかりと被二分置一候、不易の御制度被二定置一其分を守り、等を越分を侵し候事は曾て不二相成一候樣に、ゆるがぬ地盤有増相考、別冊に相認申候、御財用向の儀は差心得不レ申候事に御座候得ども、見聞に相及候分は、先

年江戸三御屋舗御類燒、引續松前一件、去る酉戌二ヶ年の不熟、御毛引は申に及ず、兩湊沖出米一圓無レ之、左候得ば右御役銀の入不足差見得候事に御座候、右旁にて於二三都一御借財不レ少相嵩候事に內々奉二承知一、重疊奉二恐入一候事に御座候、第一江戸御仕送の儀は、御公務に相拘り候事ゆへ、前後御顧不レ被二成置一、御取續の儀は左も可レ有二御座一御事に奉レ存候、爰に主客の勢有レ之、御公務幷御平常共御入方の御金高に向、御仕送方被二成置一候は、御公務專一の故に御座候、此御時節は御公務一圓に無レ之には有二御座一間敷候得ども、御參勤御交代の御時節とは、萬事相違候事と奉レ存候、依レ之御仕法被二立置一候御主意は、御金高に向ひ御入方御算積可レ被二成置一事に御座候、如レ斯迄に崩立候御財用向、中々尋常の御儉約と申事にて、御立直可二相成一樣無レ之候、屋形樣・上々樣召料等を始、御日用の萬事に至る迄、御入方より御金積と申事には不二相成一、御金高より御入方の御差積と申事に無レ之候ては不二相成一、右御仕法は御入金年々の出方を本に被二居置一、是を五等に分チ、ひしと役人被二定置一、根本に御すへ被二成置一候、御法はゆるがぬ礎に御定不レ被レ爲レ成候ては不二相成一事に御座候、右五等に分ち候儀は、御落入高は不レ及レ申、沖出御役銀をはじめ、御分國中諸役諸運上惣御入金高有レ之候分縱ば

五萬金

內二萬五千金　江戸壹ヶ年惣御入用

同一萬金　御國元壹ヶ年惣御入用

同五千金　御借財取扱方、年々此分にて是非とも取扱候事

同五千金　御軍用幷凶年御備、此分にて年々御心掛

同五千金　御乘出御用、幷御姫様方御婚禮御用、當時より年々御心懸

右の差積は不心得の事にて、五等に分チの主意一通相認、此内増減は如何様とも可㆑被㆓定置㆒候事に御座候、先づヶ様にも根本被㆓居置㆒候上は、時に臨て斟酌は相成候事に御座候、御逼迫に付只に御倹約とのみにては、其效も見得兼候事に御座候、財の多少は御分限に應じ候ものに御座候ゆへ、根本御紀し御仕法被㆓定置㆒不㆑申候ては不㆓相成㆒事に御座候

大山重憲筆記終

經濟放言

本多利明著

贅說小引

天下の大世界を四つに分ち、名けて四大洲といふ、所謂歐羅巴・亞夫利加・亞細亞・亞墨利加なり、我日本は亞細亞の東端に所在して、一つの嶋なり、然るに金・銀・銅の寶貨を國產とする故に萬國に獨輝せり、萬國の所在は、萬國地圖に載て爰に略す、其國處を檢查せんと欲せば、經度と緯度とを用て、其國處の所在を檢查すべし、其檢查はピコ山と赤道とを用てするなり、ピコの所在は亞夫利加の西海にテネリパといふ嶋ありて、此嶋の內にピコといふ高山あり、世界第一の高山なれば、天學家天下の地圖を製作するに、ピコを用て東方赤道經度の初點と定め、緯度は赤道以南の緯度、以北の緯度をいふなり、緣て經度はテネリパの子午線より東方へ算し、緯度は赤道より以南へ算し、以北へ算して、其國其處を知る可に、地圖を檢查の定法なり、然れども國名地名は莫大にして、彼地の學者といへども、悉皆識盡事は難きに哉、遺漏も多し、其槪を書記せし沿海諸國の地名は、余所著の萬國州縣地名記に載て、爰に其全を闕く

經濟放言

本多利明著

贅說

一　撫育につきいふ事あり、唯今迄撫育の正論を見聞せし事なければ、邪正は猶更なり、然るに歐羅巴の盛隆の國々は何れも撫育を用て治るを國政の最初とするといへり、最然るべし、此故に哉萬民信服して、治る道を萬民より勉て治ざれども靜謐するといへり、威服抔は王侯の忌嫌風俗なれば、各君長に和睦し、自業を勤守る事最速なりといへり、此故に君長の大業といへども、其意の如く成就せずといふ事なし、此故に國家治道の根立て、自然と萬國より金・銀・銅・及百穀・百菓・及珍產・奇物迄も入來て、大豐饒となりたるなり、此故に都鄙の城郭及萬民の家宅に至るまで、悉皆銅・鐵・石を用て修造し、或三階・五階結構美麗を極め竭せりといへり、火災盜賊の憂ある事をしらず、實に大安堵の住居なりといへり、其實は火罪・盜罪抔にて國民を廢亡するは國家の損亡、又且制度に不屈の處ありての罪科なればなるべし、此故に歟都會の外部といふとも繁昌にして、庶民群集の土は皆然り、國中に萬民往還の道路に於て、材木を用て掛けたる橋なく、皆石橋のみなり、往還の道路は切石をした詰たれば、

如何なる大雨相續するといふとも、淤泥となる事なく、堀川溝等の兩緣底まで悉皆石垣なり、元來人巧の所設なれば左もあるべし、萬端に手戻することなく、永久不朽を謀りたる修造なり、修理破損するといふは、人力を傷る費にして、國民の疲勞に係ればなるべし、王侯大人の住居抔は中にも結構美麗、筆舌の及ぶべきにあらず、其概を論ずれば、紙を用て張たる障子なく、玻璃を用るなり、故に日光を稟達するに、廣大の家宅といふとも內室明白なり、玻璃に稟達する光照、紙面に稟達するの數倍なりといへり、又諸道具諸器財類は多く金銀を用るなり、是を儉約とするといへり、至極尤なる仕方に社あれ、金銀に製作の諸道具は、損し碎ることありといふとも元價を失はず、是等に至るまで永久の損益を謀り極めたる良制にして、感銘せんに猶餘あり、寬政八年に蝦夷の土地へヱンゲランドの小船二艘、同九年にブリタンニィの小船一艘碇宿せしことあり、松前家より有司を遣て檢査せしに、船中至て美麗にして、諸器財金銀なりといへり、有司も此體に見恐たるに哉、辟易せし故歟、有司を嘲弄せし抔の浮說あり、倩懷ふに木家作の都會抔は、大造結構なり抔いふとも、放火の爲に燒失すれば其用をなさず、諸道具・諸器財といふとも、土器は碎け、木器は腐朽る、是等に至りても又人力を傷る一端なれば則費にして國民の疲勞に係る故なるべし、渠等が趣意は、王侯大人ともあらん住所は、火を放ても困せず、水を堰ても困せず、庶人の姦計巧智の及がたき所あるが故に、威服も信服も得るにてあるべし、庶人の姦計もせんに、遂べき手扱抔はいふも更なり、況一朝一夕の類燒の爲に九族悉皆燒失

し、路途に立す抔は、王侯大人のあるべき所爲にもなし、爰を以顧ば、銅・鐵・石を用て家宅を修造するといふは其道理なれども、日本抔の時勢を以て恕らむに、中々以てなるべきとも思はれず、歐羅巴の諸國は、如何なる所爲より其規則立て、其大業成就せし哉と問む人に對て曰、萬國へ船舶を遣て、交易して金・銀・銅を求得故なるべし、肥州長崎一ヶ處より、外國へ入し金・銀・銅の員數をしらべたるあり、左の如し

一　金六百拾九萬二千八百兩餘

慶長六年より正保四年まで凡四十六年が間に、外國へ入し所の大積なりと

一　銀百拾貳萬二千六百八拾七貫目餘

慶長六年より正保四年迄凡四十六年が間に、外國へ入し所の大積なりと

一　銅二兆〇〇〇二億二千八百九十九萬七千五百斤餘

慶長六年より寶永五年迄凡六十一年が間に、外國へ入し所の大積なりと

右の外に薩州より琉球へ入り、對州より朝鮮へ入り、或バハン抔にて外國へ入し事九條あれども、其員數詳にしがたしといへり、懷ふに此九條の實に莫大の員數なるべし、前書に載たる所は官所のしらべなる可き僅の員數なれば、實に外國へ入し員數に比べたらば、十分が一にも當るまじ、既に今も二百四十萬斤宛の金含銅は、毎年々々外國へ入るなり、終に絕るの期を待て停止となるべき歟、

惜み歎くべきは此事なり

或人歎て曰、支那の寶貨古今の事を論ぜしを見るに、漢の代ほど黄金の多かりしはあらずと申傳たり、其後代々を經て次第に金銀すくなくなりしほどに、宋の世の中頃より交鈔といひて、我國の紙錢の如くなる物を用て國用を通じたりしが、元に至て專ら此交鈔ばかりを通じ用ひ、明に及て銅錢を交鈔に雜へ用て今に至れり、是漢の代より後は金・銀・銅ともに掘盡して、山より出ざる故なり、されば彼國代々の人論ぜし所は、金銀の國土に產するを人骸にたとふれば骨の如し、其餘の產物は血・肉・皮・毛の如しといへり、血・肉・皮・毛は傷れ損るとも、又生ずるものなり、骨の如きは一たび折損し、人骸を脫出すれば、二たび生ずるの理なし、金銀は國土の骨なり、是を拔採る後に二たび生ずるの理なし、漢の世迄に採盡し、其後は更に金銀生ぜずといへり、又漢の代迄左ばかり多かりし金銀の、後の代に及て失ひ果せしは、五胡・五代・遼・金・元の代々の亂に夷狄の地に取行、又は海外諸國の商賣の爲に失せたり、又は佛事興れるに緣れりと申傳へたり、是等の論に因て我國の事を考るに、此國開け始しより後千餘年が間は、金銀銅出る事もなく、それ等の世にも代は豐に治り、其後是等の寶貨我國に出しかど、其數はすくなかりし事又千年に及べり、我神祖の起給ふに至て、天地も其功を扶けさせ給ひし歟、我國の金・銀・銅の出し事、我國の事はさて置ぬ、萬國の中に斯る例しある事を聞ず、然といへども國土の骨一たび脫出、二たび生ずべからざる理なり、此後數千萬を經るとも、神祖の御時の如く金・銀・

銅の多く出る事はあるべからず、然るに神祖の御時より後百餘年が間に、外國へ流入たる數は、彼五胡・五代・遼・金・元の代々に乏き支那の金銀を、夷狄の地へ取行し數に比ぶれば猶多かるべし、斯て此後も今迄の如く、十四五萬兩宛每年每年失ひなば、十年にして百四五十萬兩を失ひ、百年にして千四五百萬兩を失ふべしといへり、神孫數世の御後には、我國にて用ひ給ふべき金・銀・銅乏くなりて、支那の如くなるべしといへり

一　オランダより西方凡百五六十里日本里法三十六町一里積にして、エンゲランドといふ國あり、都をロンドンといふ、北極高五十一度三十一分にして、日本の東蝦夷カムサスガと同じ寒國日本の氣候よりは寒國なれども、彼國抔は寒暑程能良國とせりなり、歐羅巴洲の西北の地端に所在し、彼州諸國に雄長たり、土地の輻員我國の如く島國也、地勢三ヶ所に分れ、四國九州の切々あるに似たり、然るに歐羅巴第一の大富國、且つ水軍・陸軍の火術・奇器を備て、威勢歐羅巴に獨輝せり、渠が所領の國々、及王侯大人と交易する國々、及人道未開の撫育交易する國々を合計すれば、凡九十九ヶ國あり、其近きあり、遠きあり、上國あり、下國あり、既に江戸より子丑の間に當り、渡海凡五百四五十里にしてジュルハンといふ大地あり、北極高五十四度五十分則東蝦夷エトロフ島の西北に當り、渡海凡二百餘里あり、近年縣を建て役人を置くといへり、其外日本東洋の島々、及南北亞墨利加洲の內にも、郡縣を建て役人を置、土人を撫育するといへり、北亞墨利加の內ヒヨドソンスといふ大入海あり、此入海の周回の國々產物潤澤、故に歐羅巴諸國の船舶群集交易

し、最繁昌せり、彼國の所領多ければ都を遷し、地名もロンドンといふ、則本國本都の地名なり、大學校を建置、其大導師アムステルダ(ヲランダ國)學校、パレイス(フランス國)學校、ロンドン(エンゲランド國)學校等の大學校、次第階級あつて、昇進經歷の内に、此ヒユドソンスの學校をも住職するといへり、此次第あるを觀るに、ヒユドソンスの繁昌不言にして見ゆべし、扨又すべて學校の導師等、諸生を教示するの趣意は、風雅遊藝を嚴禁し、只々國家に利益を出產するの眞法眞理を教示するの外に道あるはなしといへり、此故に諸生相倶に國家に利益を出產するの筋道に出精し、名をなし身を立むことを謀るも理なり、此故に言語不通の國々より、其覺えある者、或アムステルダン或パレエス、或ロンドン或ヒユドソンスの學校へ入て、切礎の功を積、生涯の精神を竭す故に、終に名譽奇妙の人物も間々出來て、古今未發の創業も、彼國を世界最第一の人智ある國土とするにて知るべし、斯の如く萬事萬端の道理の至所を推究、國家に利益を得るは、萬國交易の外に道なき故に、渡海の明法を建立し、天下の海洋を自在に涉渡し、其國共島に距り、隆國は王侯と交易し大利を得、又人道未開の國々島々は、人道に係る諸色百物を持渡り土人に與ゆ、撫育交易し大利を得、此故に世界の金。銀。銅及產物の種々、皆歐羅巴へ群集するなり、是大豐饒にあるべき道理なり、然ば豐饒の根本は渡海の明法にあり、渡海の明法は天文學。地理學。算數學にあり、是を司る博士あり、官名をヒロードといふ、此渡海の明法を書記せし書籍をゼエーハルトといふ、前々よりヲランダ持渡りて、我國にも間々あり、歐羅巴諸國何れも萬國交易を最第一の國務と

すれば、各國大舶の製作に丹誠を竭すといへども、此エンゲランドの大舶を最良とせり、舶縁に石火矢を二段に張て要害堅固なり、水戰の軍師あり、威勢歐羅巴に獨輝せり、國印舶幟十七品ありて、其用に縁て其幟を建る、彼國の船舶是に遇ば、海主と稱し償物を捧て拜禮するといへり、左すれば惣司のカピタン、艫艣（トモヤグラ）へ出て、床机に掛り拜禮を請、償物を一覽するといへり、此國の事は中々筆舌の及ぶべきにあらず、因て措、猶長器論に詳なり

前にいふジユルハンの土人、寛政己未年の夏、ヲランダ舶に載て肥州長崎へ渡り來り、長崎の地下人等是を視て、異人なりとて一奇とせり、然るに唯今長崎へ渡來のヲランダ舶は、其實はエンゲランドの中舶なり、近年エンゲランドとヲランダと挑合しが、終にヲランダ敗軍し、隣國より和睦を入れ、其償として東洋の交易處をエンゲランドへ附屬してより、舊睦に復せしといへり、ジユルハンの土人は、我國にいふ蝦夷の土人なれば、長崎の地下人等、蝦夷の土人を知て不審もせんと試に載來り、上陸させて長崎の評議を探り試たるべし、其評議を探索せしに、亞墨利加の人物にもあるべき抔の評議なりといへり、我國内の人物を見知ざるとは、笑止ともいふべし

一　江戸より寅卯に當り、渡海凡百八十里計にしてマルシヤといふ島あり（大島二 小島五）北極高三十八度、奥州仙臺邊の氣候と等し、土地の幅員四國九州程もあるべしといへども、蝦夷の土

人と等くいまだ人の道を得ざる土人なりといへり、此島殊に近く、我國へ屬すべき島なり、然るに我國に打捨置たる故に哉、是も亦歐羅巴の內スパンエンといふ國より渡り來り、處々に交易所を建立して、土人撫育の交易するといへり、人道未開の島なればタトへ金・銀・銅山ありといふとも掘採ざれば、渠等が欲する所ハ產物は出產すまじく、魚類・材木抔は本國へ一萬餘里を隔たれば其用をなすまじく、又萬國へ渡海交易して、大利を得るを常とする國風なれば、人物常に不足なりといへり、此故に人道未開の島々抔は深く望むべきにもあるべからず、察るに渠等が欲る所は臘虎皮、及種々の海獸皮の類を得るの外にあるまじく、懷ふに本國より北亞墨利加の諸國へ渡海の船舶、此マルシヤ島に碇宿して、薪水を求得、或は遠海渡海の休息所に設置たる家宅たるべし、於レ是我國にも沖乘渡海の明法を用ひ、彼島の所在を探索し、針路方位も慥に知れたらば、江戶より渡海僅に百八十里あつて、蝦夷に比ぶれば大きに近く、魚類殊に潤澤なれば、是を積取て大利を得むとて我勝に渡海し、大利ども得べし、北極高三十八度の土地なれば、五穀・百菓も豐熟すべし、後々は良國となるにてあるべし

スパンエンといふ國は、フランカレイキといふ國の西南に隣て、歐羅巴の西端に所在せり、朽木侯著述の大西洋輿地圖說に詳なり、此國の土人勇猛にして戰爭を好むといへり、國王諸侯好て大牛を畜置、每年春每に牛戰の大會を興行せり、材木を用ひ柵を構、東西の兩軍に分て大牛を屯させ、王諸侯は高臺に登り簾中より見覽あるといへり、於レ是牛夫狩を率て柵內を遊旋すれ

ば、東西より牛夫又牯を一匹宛牽出し、双方の牯互に見合、勇氣を振ふて段々と進寄、互に角を尖にして、一突にして一貫に突殺さん猛勢なり、於レ是牛夫柵外へ出て牯、牯の戰を只見物するのみなり、左すれば東西の牯互に一生懸命の力を竭して戰ひ、終に深手を負たる牛出來て、勝敗究るといへり、是此國の王侯勇を練るの遊樂なりといへり、此一條にて此國の風俗の大抵を知るべし

一　江戸より丑寅に當り、渡海凡四百八九十里にしてカムサスカ（韃書には、カムシカツトカといふ）といふ大地あり、昔我國に東奥蝦夷といふて、干鮭を出し魚油を出し、松前島へ持渡りて、古衣・糸・針・小刀・庖丁・鍋等と交易せしが、今はせず、リユス國より撫育交易するゆへ、事闕ぬ故なるべし、此カムサスガより東方の地續にタデイスといふ處あり、亞細亞東端の地崎なり、此兩處に近年リユス國より縣を建て、蝦夷の諸島及東洋の諸島の事を預り承るといへり、カムサスガ北極高五十四度四十八分、東偏經十七度四十五分、タデイス北極高六十二度十分、東偏經三十五度二十五分（經度は江戸の子午線より東偏赤道經度なり）リユス國は歐羅巴洲の内にてヲランダより東北に當り、極寒の土地なり、北極高七十〇度、西偏經七十八度二十分（乃前文の如し）に所在せり、此國より西方は皆々隆盛の國々なり、スヱーデン・エンゲランド・ヲランダ・フランカレイキ・ポルトカル・スパンエン等、南方はトルコ國の領分なり、此トルコは殊に剛國にして、地中海副の諸國皆々トルコに屬せり、緣て亞細亞トルコ・歐羅巴トルコ・亞夫利加トルコ抔とて、三大洲に漫りた

り、北方は他領なしといへども、大地相續して、北亞墨利加とタディス岬に距らざれば、土地の切所なし、此遠海を渉渡せんに、極寒の海洋なれば、冬季に氷海となりて渉渡なりがたし、此故北西南の三方より容易に船舶を仕出がたし、東方は北韃靼の大地にしてリユス領なれども、山嶽嶮岨にして、迂遠往還道なれば、又容易に陸地運送もなりがたかるべし、爰を以顧れば、リユス國より東蝦夷の島島の土人を撫育介抱するといふとも、左までの事もあるまじく、況カムサスガよりタディスまでの大地、及北亞墨利加の大洲に迄へ郡縣を建立して、土人を撫育介抱するといふ雜説あれども、是も又左迄の事もあるまじく、如何んといふに、莫大なる大地及島々迄へリユス國の土人を居置んに、數千萬億の土人を遣りて、本國のリユスを空國にするとも、物の數取にもたるまじく、殊に本國のリユスを發足して、北韃靼の山國を數千里の旅行し、ヲホツカの大港へ出ざれば、外に近き船着の湊なし、此遠國を陸地運送せんに、雜費莫大にして所益あるべき道理なし、然る道理を考勘すれば、リユスの撫育介抱の行屆き、はかぐ〵しき事のあるべき道理なし、此故に自今以後は我國より蝦夷の島々よりカムサスガの大地までも撫育交易して、土人を介抱せんに、後々は悉皆我國の屬島・屬國となるべし、タトへ戰爭を經るとも、土地人民を得べきは國家守護の本業なれば、國中の豪富なる者は、士・農・工・商の差別なく、勝手次第に渡海し、島々を見開きたる者へ、則其島を給はるべき旨の命令下りたらば、國忠に深志あらむ者いくらも湧出て、思ひの外なる事となり、我勝に島さがしと出かけ、日本周廻の島

島の限りは、悉皆大日本の屬島とならむは必定にて、左もあらば國家の利益も末増に增殖し、唯今ある亡處千餘地抔もいつの間に歟再開發する樣に國民も增殖すべし、國家守護の本業に協ふ故なり、今此時打捨置ば、蝦夷の島々及日本周廻の島々は、悉皆異國の所領となりて、何の所益かあるまじ贅說なれども、大業を發起せんと深く遠く謀る密策あり、サユス領にて北高海の北縁に、シベリーといふ繁昌の土地あり、其隣國なる北韃靼の西端に大湖あり、每年秋季に到り、大雨洪水して大湖の周回なる國々へ溢れ溺り、平地一面に大海の如し、萬民此水に苦む事甚し、時に女帝兼て斯ある事を聞き給ひて、不便堪がたく思召て、國中へ觸書を出して曰、彼大湖の水害を退治の眞策もあるべし、若あらば其始末を書記し、秘封して此箱へ入べしといふ高札を要地々々に建置、其箱を出し置ば、程なく惡水退治の仕方を書記して秘封し、其箱へ入る事夥く、其期到來して、諸國より都城シベリィへ持來ること夥く、於ㇾ是女帝是を自ら開封し、一々に親覽ありて後、諸官へ下だし評議をさせ、其是非善惡を聞召んとあれば、諸官評議を究、謹で斯々と言上しければ、女帝が曰、朕が所存と同意せりと大きに悅び給ひ、則其人を召べきの命下るに應じ、一老人參上せり、於ㇾ是女帝渠に對て曰、汝が水害防除の仕方至極せり、因て汝に是を任ずるなり、積歲蘊積の大業時期到來して、天より汝を朕に與ひ給ひたりとて甚嬉悅あり、天に向て再拜し、奧に入給ふ、斯て彼老人其任を奉じ、大悅九拜して退殿せり、夫より萬事に手配りを整ひ、彼大湖へ急ぎ赴き、

夥く石工を集、命じて曰、河筋となるべき通りへ石井を掘穿たしめ、道法十七里（六十町一里積）ある岩山を打越、大河の涯へ距れば、數千の石井掘揃たるを視るに、往還道に馬蹄の跡あるに似たり、假小屋を掛て雨を防ぎ、石井一穴毎に焔硝を詰込、又焔硝の莢附布を用て火道を製作し、萬事萬端調度の後、河筋となるべき近邊へ觸書を出し土人を避させ、日期は究て火指役の者駿馬に乗り、火道柱の根に距り、大火繩の端に火を放て、則馬に鞭打て迯去る事、凡五七里も馳離たる頃、放火火道に燃移ると等く、猛火となつて急に石井へ跳亘り、忽に天雷・地雷・大地震を合せたる如く鳴響き、河筋となるべき通りの岩石微塵に碎け、虛空を指て跳昇りたりといへり、焔硝の火勢は堅固なる鐵石の如く、物に當觸るれば猶剛强を增殖する物にて、其猛勢筆舌に述竭し難し、扨又其跡を視るに、幅數町、長十七里、深數町ある大造なる無水堀とはなれり、其跳昇りたる岩石夥しといへども、再び元處へ降下る事なく、何國へ歟降落たる哉、其沙汰なしといへり、爰に說あり、土地を離れ高凡五六十町も昇り距れば、旋轉の空中にして、上下もなく輕重なし、上下輕重は固より地氣に緣てあるなり、此故に跳昇りたる岩石元處へ降下ることとなし、天の旋轉するに連れ、漸々と降下りたるべし、鵠鴻の如き大禽といへども、羽を用ひずして空中に舞遊なり、是又上下輕重なき境をしればなり、又南洋の島々に風鳥といふ小鳥あり、此小鳥毎日旭の昇る時刻を待て、大群して虛空へ飛昇り、彼旋轉する境界に到り、上下もなく輕重もなければ、羽も用ひずに舞遊び、

凡午未の刻に到れば、水を飲餌を喰む爲に、大勢群りて飛下るに、山々を見て谷々のみへ飛下るを、土人知て網を設置、終に待得網に掛て是を採、食用とするといへり、其羽美なれば、土人の婦女子の髮の飾となる、賣物ともなり、段々北方の諸國へも稀に持渡事あり、既に昔我國へも持渡りたるが、殊に一奇の鳥なりとせり、風鳥といふ名目なれば風を喰ひて食用とすると心得たるは、常に渡るに肉なく皮のみなるゆへなるべし、江戸護國寺の寶物にも此風鳥ありて、人々倶に知る所なり、扨又彼新河北方の大河へ通じ、北海へ通じたるに緣て、大湖の溜水北海へ落行、河船運送の便利を得て、土地多きに繁昌するといへり、土人水害の大救を蒙たるのみにあらず、河道開け國産他國へ運送便利を得て、土地大きに繁昌となりたるは、女帝の大慈大悲に緣てなりとて、隣國迄も其大德を仰ぎ崇、尊服せしといふ、此事段々北韃靼の諸國へ響き亘り、屬國となりたき萠ありし折節、北韃靼の内に剛賊發起し、處々の豪家を亂奪する事甚し、因て支那領なれば斯と訴へ、討手を乞事頻なりといへども、延引して不埒なれば、其内に段々と增勢して、既に大軍に及べり、此國々は支那の左遷の士を遠流する土地なり、土人此災害に堪兼、彼シベリイの都城へ救を乞ふて止まず、女帝聞し召て糺明あり、國民の災害を救ふは固より侯の天職なれば、自他を論ずるにあらずとて則出陣あり、其勢僅に五千に滿たずといへり、既に亂軍の土地に距り給ひば、武具を用ひ給はず、裝束を改め、壯女なるを揃て香粉を飾り、其美麗鬼神も感納すべし

女帝を中央に守護し、亂軍の內を管絃して通り給ひば、無道の剛賊なれども、弓箭鐵炮を伏せて通したりといへり、大德の光輝ともいふべし、其處に五三ヶ月旅館に滯留ある內に、不戰にして靜謐せしとなり、盜賊といへども一人をも煞伐なしに治給ふは、全く大德の驗しなりとて、國民旅館の前后左右を取卷警固し、御救のありがたきをいひ、感服涕泣して守護せしとなり、夫より國民の願により、要地に守護の官を居、郡縣を閣て治めしむ、此時數千里四方の支那領北韃靼、一時にシベリイに服從せりといへり、是則リユス人の物語りなり、此女帝の大功數々ありて、其餘澤溢れ漫り、東蝦夷の島々凡二十二島、及カムサスガよりタディイス迄の大地を一統し、猶東方へ打越し北亞墨利加の大洲に迄及たるは、女帝の大功なり

一　江戶より寅卯に當り、渡海千四百七十五里にしてクウクセンセといふ岬あり、則北亞墨利加の土地なり、北極高六十六度三十分、江戶の子午線より東方赤道經度四十九度十分に所在せり、土人毛髮黑く瞳黑く、中脊にして我國の人物と異る事なしといへり、然れどもいまだ人の道を得ざる土人にして、則蝦夷の土人と等し、懷ふに東奧蝦夷カムサスガより、東方地續タディイスの岬より、東方へ渡海凡百九十二里計にして北亞墨利加の土地なれば、往古より蝦夷の土人漸々傳移增殖せし歟もしれず、何れ我國の人物と同種類なれば、我國より撫育介抱して、屬國となすべき土地なり、古國に親染ば國家に損失あり、新國に親染ば國家に得益あり、最初に悔悟して親疎求離を決斷すべし、扨又此土地の總體を

南アメリカ・中アメリカ・北アメリカとて三つの名目あれども、南・中・北アメリカと一帶相續せし土地なり、南アメリカの南端、南極高五十四度、北アメリカの北端、北極高九十度、其土地世界の半分程もあるなり、西縁は我國亞細亞の東方に當り、東縁は歐羅巴の西方に當るなり、海邊の土人は毛髮薄赤く、瞳茶色高脊なり、東西海邊の土人の二種ありて、種類兩端あるを觀れば、東縁海邊の土人は歐羅巴の種類、西縁海邊の土人は亞細亞の種類なるべし、東縁には金・銀・銅山抔もありて、歐羅巴の土人入込て掘採抔といへり、通用の寳貨も金・銀・銅錢抔もありて、國產の交易をするといへば、餘程繁昌の土地なるべし、然るに西縁海邊北アメリカの土人は悉皆蝦夷にて、金・銀・銅山抔の事は扨置、人の道を得ざる困苦の土人なる事を、リユスの女帝紀明し給ひ、我國明和の頃より開國の大業を企て、終に此クウクセンセに迄郡縣を闢き、土人を撫育するといへば、本國リユスより大造なる山嶽嶮岨なる北韃靼の大地を打越、蝦夷の嶋々、及カムサスカの大地、及タデイスの大地、及北アメリカ屬の千嶋、及北アメリカの大地に迄へ手を及ぼせしは、此類罕なる大業にして、古今獨步の英主なり、然れども人壽に際限ありて、近年女帝も逝去なり、惜むといふも猶餘あり、男帝嗣て治世すれども、政事不可なる哉、南隣のトルコ國より發起して、リユス領の小城と挑合といへば、既に亂世の萠なり、此故に東方北亞墨利加迄の大造なる大地、及嶋々迄の土人の撫育介抱も、思ふ儘に行屆くべきにもあるべからず、幸と我日本國は東洋に所在し、神武以來人の道開けてより二千六百餘年も經歷すれば、諸道も大抵全

備し、殊に金・銀・銅・鐵も潤澤に、百穀・百菓も豐熟の大良國なれば、此末漸々と海國に具足すべき渡海の明法も獨開け、渡海は陸地の旅行に勝れる道理を會得し、東洋の嶋々、及カムサスカよりタデイス迄の大地、及北亞墨利加の大地、及同處の嶋に迄も押渡り、撫育交易して介抱せんに、終に土人も服從し、屬國屬嶋も漸々出來すべし

爰に亦贅中の贅說あり、蝦夷の土地を寒氣強き土地にして、住居もなりがたからん抔思ふ人もあり、是度數の學に疎く、恕見の及がたき故なり、毎事眼に視足に蹈て、究竭べきにあらず、縱て極寒の土地にも繁昌の國々のあることを記て、蝦夷の土地は寒暖程善、後々は良國となるべき道理あるを論

一　前文にいふ北極高七八十度の土地にも、盛隆の良國もありといふは、グルーンランド國ノヲハセンブラ國、其外の國々を指ていへり、グルーンランドは土地の幅員、我日本國より少し小なる島國なり、所在はテネリッパ島（後に見たり）の子午線より、東方赤道經四十餘度より五十餘度の間に當り、北極高七十餘度より八十餘度の間に所在せり、斯極寒の土地なれども、此國の內へ他國の船舶入込、交易して繁昌する地名を記すこと、左の如し

一　ベエル港　北極高七十九度一十〇分　赤道經四十〇度四十二分

一　バルカム崎　北極高七十八度一十八分　赤道經三十六度三十三分

一ベエルソンド　北極高七十七度一十五分　赤道經二十九度〇七分
一ブランコ崎　北極高七十七度五十八分　赤道經三十六度三十一分
一フランデ湊　北極高七十九度五十〇分　赤道經四十二度
此處に王城あり、西洋諸國の船舶此湊へ群集して交易する故に繁昌の都會なり
一コルド崎　北極高七十九度五十〇分　赤道經二十六度二十七分
一ジイヘルス　北極高八十〇度　赤道經二十八度一十〇分
一ロヲド湊　北極高七十九度五十三分　赤道經三十〇度二十七分
右はグルーンランド一國の內、繁昌なる地名なり、國產も種々あり、一角も此國の產物なり、海魚の角にして、鼻先に生ずる一本角なるを以名とせしなるべし、北極高七八十度の極寒の土地なれども、土人も多く產物も亦多し、グルーンランドといふは薄闇島と譯し、北極高八十度前後の土地は、秋分後より春分前、凡一百八十二日程の內は、太陽の光照薄く曇天の如し、春分後より秋分前、凡一百八十二日程の內は、太陽更に地下に入ることなく、環行旋轉し、暑氣も大抵なり、凡半年は暑氣、半年は寒氣の土地なり、此土地抔より顧れば、蝦夷の土地は北極高四十度より五十度の間に所在すれば、寒暖程善、五穀・百菓豐熟すべき土地なり、度數の學にあらざれば、地理至極は得がたし

一ノヲハセンブラ國といふは、土地の幅員我日本國程ある島國なり、所在はテネルッバ島（後に見たり）の子午線より、東方赤道經六十餘度より七十餘度の間に當り、北極高七十餘度より八十餘度の間に所在せり、此國內他國の船舶群集交易して、繁昌する地名を記こと、左の如し

一メト湊　北極高七十〇度一十〇分　赤道經七十一度

一ブラキ　北極高七十一度五十二分　赤道經六十二度〇二分

一クロヲス　北極高七十二度　赤道經六十二度三十九分

一ランゲネーセ　北極高七十四度四十〇分　赤道經七十〇度〇三分

右はノヲハセンブラ一國の內地名なり、リエス領の北海に所在せり、產物種々あり、海獸皮に名產ありて、歐羅巴諸國の船舶、渡海交易するといへり

一アトミラ島　北極高七十五度五十〇分　赤道經六十九度一十七分

右はリエス國の北海に所在する島なり、產物ありて繁昌なり

一クリエス島　北極高七十一度　赤道經三百二十一度二十五分

北亞墨利加の內、ヒヨドソンスといふ入海の北浦に所在せり、ヒヨドソンスの周廻の國々は繁昌するなり、王城もあり、大都會あり、大學校あり、國產種々あり

一フレットムビュルグ　北極高七十〇度　赤道經七十七度四十七分

リユス國の都なり

一ホンセイスタッペン　北極高七十一度二十四分 赤道經三十八度二十〇分

ヒンマルケン國の都なり

一ケゴル　北極高七十〇度一十八分 赤道經五十〇度二十七分

モスコビヤ國の都なり、リユスとモスコビヤとは同領歟

一ワルドヒユイス　北極高七十〇度三十五分 赤道經四十九度一十二分

ラプランド國の都なり

一トロンソンド島　北極高七十〇度二十〇分 赤道經三十五度二十七分

右何れも極寒の地なれども各繁昌なり、扨又前に記所の赤道經度は、テネリッパ嶋のピコ山の子午線より東方赤道經度なり、其所在は亞弗利加洲の西海にある嶋なり、北極高二十八度一十三分に所在せり、此嶋の內ピコ山は世界第一の高山なれば、天學家天下の地圖を製作するに、此ピコを用て赤道經度の初點に取、萬國の所在を書記するなり、緣て此書にも赤道經度はピコ山の子午線より東方へ距る、其國其嶋の子午線迄の赤道經度なり、北極高度は赤道より其國其嶋に距る緯度なり、萬國地圖に緣て其國其嶋を探索せんと欲せば、其北極高度を以赤道より北方へ緯度を算し、其赤道經度を以ピコ山より東方へ經度を算し、經緯相遇處則其國

其嶋の所在なり

一 前に記せし如く、西洋の國々嶋々は、北極高度七十度以上の極寒の地なれども、人の道も開け、產物も潤澤にして、各繁昌するなり、我日本の東洋にも嶋々ありて、殊に北極高三十度より五十度の間に所在すれば、寒暖程善、五穀・百菓も豐熟して、各良國となり居べき土地なるに、いまだ人の道も得ざる土人のみにして、悉皆夷狄なれば、他國へ出すべき產物とてもなし、懐ふに土地の寒暖に緣て、人の道の開くると、開けざるとに道理あらば、東洋の嶋々は疾より良國となり居べき道理なり、然れば西洋諸國の富國より成べし、人の道開けてより六千餘年に及べりといへり、此故に哉金・銀・銅を外國より取込の制度を建置、每年々々取込故に富國なり、城郭及庶人の家宅に至るまで、銅・鐵・石を用て修造すれば、火災・盜賊抔の憂ある事をしらず、大安堵に住居をするといへり、爰を以て觀れば、人物に才智深き樣なれども、全く左のみにもあるまじく、人の道開け六千餘年經歷する間に道理の至る所を推究むれば、金・銀・銅を外國より取込の外に道なく、是を取込には交易の外に道なく、交易は外國と交易するの外道なく、外國と交易するは、海洋を自在に涉渡するの外に道なく、海洋を自在に涉渡するには、針路方位を明白にするの外に道なく、針路方位を明白にするには、天文學・地理學の外に道なく、是を明白にして海洋涉渡の明法を組立、國民へ敎示すれば、天下の海洋を自在に涉渡して、其國其島へ相距り、王侯大人と交易し、金・銀・銅の大利を求得て西洋諸國へ取込故なり、此故に海洋涉

渡の明法は、西洋諸國制度最一の國務とする國風なり、是自國を末增に富國にする道理を竭し究たる制度なり、東洋の諸國に於はいまだ其沙汰なし、殘念なる次第なり

一　前條にいふ自國を豐饒の富國となさんは、外國より金・銀・銅を取込の外に道なしといふ、其説至極左あるべし、然れども其金・銀・銅を取込には、自國の產物を用て外國の金・銀・銅と交易し、利潤の金・銀・銅を得るの外に道あるまじ、其產物は自國の產物と、他國の產物と互格なり、交易も互格なれば、得所の利潤にも勝劣あるまじ、然るを如何して大利を得る哉と疑心ありては、正理明白ならず、緣て其概を述ぶ、總て產物は其國より自然と出產する產物のみを用て、外國と交易すれば、自國と他國の勝劣なし、勝劣なければ互格にして、利潤も亦勝劣なし、其勝劣あるは自然產物と、人巧產物の多少に緣て勝劣出來、貧富と分れ、其兩端遙に隔るなり、人巧の產物につきいふことあり、天下萬國廣大なりといへども、歐羅巴諸國の如く人巧□しく、奇器・名產多く產出するはなし、如何なる所より然る哉といふに、勸業の制度ある故なり、其勸業の制度といふは、彼國處々に大學校を建置、才智藝能ある者を選擧し扶持する故に、言語不通の遠國よりも、其覺えある者來て學校に入、猶切磋の功を積、名をなし身を立んと、精神是が爲に竭す故に、終に名譽奇妙の能者出來、古今未發の創業を建立し、奇器・名產も出產するなり、左すれば君長其功を賞譽し永祿を與ひ、猶精微を極竭させしむ、此故に奇器・名產の出產するは、歐羅巴を天下第一とするなり、彼國の制度にて王侯大人の住居衣服は、殊に

結構美麗を極め竭せり、是外國へ威を布の策なり、緣て飲食の器財及手道具は、多く金銀を用ふるなり、損破するとも元價を失ず、則儉約となる、城郭及庶人の家宅といふとも、銅・鐵・石の修造なり、怨敵・火炎・腐朽の三費防禦にして、則儉約となるなり、斯の如く萬事萬端に損益のある大端を推極す(しか)建立せし制度なれば手戻することとなし、掟正く國民各自業を勉守り、怠慢するといふ事なし、是則自國に奇器・名産末增に出産さする仕方なり、左すれば自然と外國の金・銀・銅自國へ入來るなり、此故に出産の奇器・名産悉皆官所へ買取、官所の船舶に積載、萬國へ交易出し、金・銀・銅の大利を得て、自國を豐饒の富國とするなり、然る道理を推究れば、自國を豐饒の富國となすの根本は、人巧の奇器・名産の多く出産する制度を建立するにある事明白なり

爰にいふ事あり、君長の儉約とする所は、無益にして廢れるを助く、左なきは衆と倶に結構美麗を好、猶結構美麗の産物の出來を悦嬉するを君長の本意とせり、左すれば精に精を副、美に美を副て、終に奇器・名産も出産すべし

經濟總論

一 治平以後二百年計りの内に色々の人物出て、種々の能技に志を立て、才力の限を竭し、様々の達識も多く出たる中に、經濟に長じたりとて世の賞を得たるは、熊澤・荻生の二子の外なし、然るに二子が說所は、此方の費を省き彼方を扶け、又彼方の費を省き此方を扶れば、萬端に便利を得る故に 終に國

家に豐饒を副るといへり、同じ土地より出産する產物を用て遣取し、利益ある事をのみ色々樣々と情張て、世話する仕方の善惡を討論するまでなり、なる程其如くせば隨分宜く、惡くはあるまじく、然れども元來際限ある土地より出產する產物を用て、際限なく增殖する萬民の衣食住の用に達し、猶有餘あらしめんとするの計策の外なし、是無理なり、際限ある土地より出產する產物は、出產に際限あり、年々に出生する國民は、年々に增殖して際限なし、終に國民は國產より多く、國產は國民より少くなるべし、末遂てなしがたき仕業なるべし、然るを情張て固辭附求むとて、無理なる事をのみいふは傲り、二子が英才古今罕なれども、惜き事には算數に暗昧なる故に、其至り極る所に到れば、天文學・地理學に緣て海洋渉渡の明法を組擧、國民へ垂訓すれば、海國に具足すべき制度なる故に、追々末增に豐饒の末を遂る道理あるも、穿鑿なく妄に勘破せしは、二子が智見の疵謬なり、然るに治平二百年以來、大勢にて色々樣々と世話せし故に哉、却て一文不通の田夫野人等迄も、倶に兎哉角と心を用ひ、正邪得失を古今の事跡に引當、種々と照し比べ日本の土地限りの遣り繰り經濟は大抵似た歟寄た歟迄には仕附あれば、今更日本の土地限りの遣り繰り經濟は、迚も埒明くべきにあらず、如何なれば二百年來同じ遣り繰り經濟のみを情張つて、相互に論じ合ひ、相互に討合ひ、雌雄を決せむ事にのみ年月を費したる歟と、其據を推尋るに、治平以後大經濟に預るべき程の大智大能を全備せずしては、其至善を得る事は決てならぬ事を、無理にせんとせし故に、相互に是非を相爭ひ、論議更に約らず、大智・大能全備

するといふは、天文學・地理學に透脱するをいふ、是に暗昧にして、何一つ至り極る所を得べき様なし、日輪が毎日東より出で西に沒し、毎朝新たに出來、毎夕直に消失する歟、但し又毎朝海より昇り、毎夕海に沈む歟と觀れば、日輪は元來火玉なりといへば、海水より昇り海水に沈み、消失もせず、但し又毎朝山より出、毎夕山に入る歟と觀れば、錐も通らぬ岩石を潛り出潛り入るも、亦更らに合點の行ぬ事どもなり、扨又月星とても矢張合點まいらず、大海は水なれば、どこ迄も眞つ平らにして萬里の遠海といへども、此海と一枚なれば、何國迄も糸を張たる如く眞直ならむと觀れば、日月星の運行するに道理協はず、東海へ往き詰めミイラを取とて、又ミイラになると聞き、或地震は鯰の身震ひなりともいひ、潮汐の指引は天地の呼吸なりともいひ、雷電は陰陽の戰ひなりともいひ、虹は龍の吹氣なりともいひ、色々樣々の說には刧(オビヤカ)され、心魂動き狂ひ、中々自考いかぬ事と觀念し、夫より書籍に緣て推し究んとて博覽する内に、山海經の如きの書籍に當る毎に、化物話の樣なる妄說多く、色々見れば見る程の事がしれぬ故に、終に惘れ果て、其後は彼脊人となり、世の中の能事を憎みて、姑□奸讒佞の徒と交りを厚くし、能事の邪魔を慰とし、生涯を終る人も間々あるなり、其いふ所を聞くに、中々世の常の人物の及べきにあらず、天地の間の事物を丸呑にせし如くの能辯もありて、人々辟易するといへり、爰にいふ事あり、明の末淸の始に、西域の天學書籍多く支那に入てより、徐々正眞の天學となれり、然るに當時の時勢人情を探索するに、古書を稱美するの風俗あれば、明以前の書籍を信用し、淸以後の書

籍に美事あるを辨別せしも亦鮮し、殊に萬國倶に治國平天下の鎮法とし、取用る所の孝悌忠信の道は、堯舜の垂訓なるべけれども、いつか六千七八百年以前、亞夫利加洲の内エゲプテ國の大聖□□□□□□□□□□□□□が立經と相等し、此□□□□□出產せし土地□□□□則都會となり、アレキサンデリといふ、其郭內の縱横各行程十二日路あり、地中海へ落込大河七口の大港ありて、郭內の諸色を運送便利の土地にして、世界第一の大都なりといへり、支那の大聖帝堯出產以後、經歷二千八百餘年、□□□□□が經歷に比例すれば、遲きこと三千年なり、古國は諸道調整、新國は諸道調整せず、然れば人倫の大道といふとも左あるべし、アレキサンデリの土地北極高三十一度一十一分、ヲネリツバより東方赤道經四十六度四十九分に所在せり、我國九州の氣候にして百穀・百菓豐熟の土地なり、土地の寒暖氣候を辨別するには、其土地の所在は赤道以南の緯度歟、此北の緯度に緣、又テネリツパより東方赤道經度に緣て辨別するなり、其經緯度の學は天文學・地理學に係る、其天文學・地理學は算數に係る、其算數を透脫せんには、二十餘年の切磋にあらざれば透脫することかたし、是等の積功を蘊積して、猶支那西域の所爲をも兼備、日月交食・五星凌犯を證據に取て天度を明白にし、地度を明白にし、海洋渉渡を明白にするなり、是此海洋渉渡の道は、海國に備ひ置べき道なれば、誰が視ても明白に知易く、誰が採ても爲し安く、國字を用て書記し、印本となして書店に布き置ば、海國に其布すべき道理なれば、深志あらむ人々も出來、終に海洋の渉渡を自在にして、各大利を得る故に、蝦夷の土地は

疾より良國となり、產物も末增に出產して、金•銀•銅山抔も開發し、悉皆我國へ取込故に、末增に富國となり、其勢ひ益隆に行つれ、東洋に所在する近嶋より段々と見開き、數多ある嶋々へも押渡り、土人撫育交易より信服を得て、屬嶋ともなり、猶もカムサスカの大地、及タデイスの大地、及クウクセンセ崎より北アメリカの大地迄も、悉皆我國の國力を扶くべき土地となり、只此海洋涉渡の明法を組立、國民へ教示するの外に異儀なし、左すれば終に其旨を得て大利も得易く、忽に弘まりて、海洋涉渡は陸地の旅行に□增の道理も會得し、我勝に嶋々へ押渡り利益をも得べし、利益に走るは凡情の常にて、則國力を扶る密策に協ふなり、古國と親染ば損失あり、新國と親染ば利益あり、況人道未開の大地及嶋々なれば、我國より發起親染ば、利益又莫大なるべし、是國家を末增に豐饒の末を遂させむ仕方の大概なり、二子論ずる所の經濟は、此仕方を關たる故に首尾貫通せず、諸說も亦不レ約なり、此仕方に因緣あれば、蝦夷の產物、及東洋嶋々及カムサスカ•タデイス•クウクゼンセの大地迄の產物をも、追々取込事際限なし、故に國家も末增に豐饒となり、國民も末增に增殖する故に、終に大富國となりて、萬民迄も銅•鐵•石を用て家宅を造營し、火災盜賊の憂ある事をしらざるに至らむ、是此治國の根立たる勢ひなり、海國に美事ある次第斯の如し

經濟放言 終

燮理談

海保青陵著

燮理談

海保青陵著

此篇ヲ燮理談ト命ルモ、宰相執政ナドニ心得ニ成ルベキコトヲ書聚タル故ニ名ヅケタルニ非ズ、鶴不才モノ故ニ、此燮理談ト云字解セザリシニ、五日モ十日モカヽリテ考テ、漸々會得セシ故ニ、此字義ヨリ解出セリ、左レドモ長キ議論ノ中ノコトナレバ、宰相執政ナドノ萬分ノ一モ、心得ノ助ニナルコトヲ云當タルコトアルカモシレヌナリ、何レニモ鶴ト病ヲ同シタル不才人ヘ見スル書ナリ、世上ノ怜悧家スラリ〱ト、何ノ苦モナク書ヲ解スル人ニハ、決テ〱秘シテ見セヌ書ナリ、漢ノ丙吉宰相ニテ他出セシ時、大喧嘩アリシト見ヘテ、手負死人倒テ居タルニ逢リ、丙吉宰相ノ事ナレバ、何故ニケ樣ニ大切ノ天下ノ民ヘ疵ヲツケタルゾト問ヒソウナルモノナレドモ、是ヲバ問ハイデ行過タリ、其先ヘ牛ノ喘デ來ルヲ見テ、丙吉大ニ驚キ、早速ニ問ハセケルハ、其牛ハ何里ホド逐タルゾ、急ニ逐テ行クコトナルカト丁寧ニ問セタルニ、從者輕キ下部ノ人ナレバ、丙吉ガ意ヲ合點セズ、丙吉ニ向テ云ケルハ、相公前後ニ問ヲ失ヘリ、先キニハ民ノ死傷セルニ問玉ハズ、今牛ノ喘ヲ問ハ、重コトニ氣ヲ付カイデ、輕キコトヲ詮議シ玉フナリト云、丙吉云、都下ノ民ノ爭鬪ハ、京兆ノ尹ノ職分ニテ取扱コトナリ、宰

相ノ職ハ陰陽ヲ燮理スルコトナレバ、民ノ死傷ヲ自ラ取サバクコトニ非ズ、今マタ春ナルニ、牛喘ハ遠方ヨリ逐來タルナラバヨシ、近ク逐テケ樣ニ喘バ、天氣ノクルヒト云モノナリ、此コソ宰相ノ持マヘナリト云リ、此事モスラノ〱讀ニ讀メバドフカ別ル樣ナレドモ、左樣ナラバ如何スルノカ、陰陽ヲ燮理スルノデゴザルト云ハ、一向ニ合點ユカズ、唯日本儒者ハ別ラヌバカリデナシ、震旦儒ニモ別ラヌ樣子ナリ、其後追々諸儒ノ評ヲ見ニ、賢ヲ尊ビ民ヲ愛スレバ陰陽順ニテ、寒暑ニモ時ヲ失ハズナド、云テアリ、丙吉ガ從者ヨリモマダノ〱丙吉ノ心ヲ合點セヌナリ、其ワケハ堯ノ時ニ洪水アリ旱魃アリ、舜禹ノ時ニモアリ、殷ニハ賢聖ノ君六七起リタレドモ、數ケ所ノ都替ヒ、洪水故ナリ、凡史記ハ水旱蝗デモ害ヲナサヌハ記セズ、堯・舜・禹・湯ノ世害ヲナシタルバカリモ多クアリ、害ヲナサヌヲバ擧テ記セラレヌト見ヘタリ、一體後世ノ人ハ天ト云モノヲ何ト心得テ居ヤラ不審、賢ヲ尊ミ民ヲ愛スル君ノ國ヘハ、水ヲ出サズ旱ヲセズト思テ居テハ、大ニ量見違ナリ、天トハ地球ノ外ノ空ナル所ヲ指テ云タル名ナリ、震旦ハ地球ノ中ニテハ萬分一ノ所ナリ、天帝ガ地球萬分一ノ國ノ君ガ賢ヲ尊ビ民ヲ愛スル故、是ヲ最屓ニ思召テ、水旱ヲヤラヌト云理萬々無コトナリ、其上ニ水ハ地ヨリ蒸出スモノナリ、雨モ雲モ風モ皆地ヨリ出ルモノナリ、天帝此世話ヲ御ヤキナサルヽ理無コトナリ、聖人ノ天ヲ祭ハ、愚臣ヲ安堵サスル例ナリ、天帝ハ牛ヤ羊ヲ烹テ上テモ、遂ゾ召上リタル沙汰ナシ、禮ニ御出ナサレタル例固ヨリナシ、天ト云モ、理ト云モ、神ト云モ、佛ト云モ同コトナリ、無ト云コトナリ、サナケレバナラヌスヂ

ト云コトナリ、詐僞ニテ欺クコトノデキルハ、獸ナリ鳥ナリ、草木・金石・水火・土玉ニ至マデ、形ノ有モノハ皆ダマシテツカハルヽモノナリ、天ト理ト神ト佛ト、サナケレバナラヌ筋ト云モノハ、トントダマセヌナリ、天ヘ旨キ物ヲ喰セテ、ダマシテ水旱ノ無ヨフニスルト云コトハ、萬々此理ナシ、唯理ニ達ハヌヨフニ、國ノ世話ヲヤクコトナレドモ、動モスレバ忘ル故ニ、時ニハ齋戒シテ祭ル、是聖人ノ智ヲミガク術ナリ、民ヲ安堵サスルト云ハ、天子モ天ト云君ニ折々叱ラレ警メラルヽ、民計天子ヨリ御叱リナサルルノデハナイト云コトヲ見スル爲ナリ、日食ハ日月ノ交會ナリ、不思議ナルコトモ、變ナルコトモナシ、ソレヲ何カ事仰山天子ハ天ヨリ御叱リ御責ヲ御蒙リナサルヽトテ恐レタルコト、極々ヲカシキコトナレドモ、民ヲ叱フト思ニハヨキ術ナリ、卜筮モ此通リナリ、民共ノ疑ヲ決スルタメナリ、マダコヌ先キノ知ルヽト云コトニテハサラノ〱ナシ、如又天帝ヲ祈テ晴雨ガ自由ニナルコトナラバ、用水引・惡水拔ナドニ金銀ヲ入ルコト甚費ナリ、天ヲ祈バカリニテヨシ、卜筮ニテ善人・惡人其先キマデ知ルホドナラバ、町奉行モ郡奉行モイラヌ卜者一人ニテ賞罰朝飯前ニキマルナリ、唯々知レヌハ水旱ナリ、自由ニナラヌハ天氣ナリ、探當ラレヌハ善人・惡人ナリ、聖人ニモドフモシレズ、故ニ宰相ヲ置百官ヲ置テ、卜者ヤ祝官ヲバグツト下ニ置クナリ、御祈禱卜筮役ニ立ヌ證據ナリ、堯・舜・禹・湯ホド賢ヲ尊ビ民ヲ愛シタル君ハナケレドモ、水旱ハアリ、聖人ノ爲ニ天ノ變ゼヌ證據ナリ、後ノ人々ノ心ヲ以天ノ心ヲ推ス間違ナリ、俗儒ハ天ヲ祭テ燮理スルツモリナリ、是旨キ物ヲ天ヘ喰セテ天ノ御機嫌ヲナヲスツモリナリ、ア

ブナキ藝ナリ、大儒司馬溫公ノ如モ、善ヲ爲シテ災ヲ消スルト云コトアリ、是事ハ違ドモ、天ノ御機嫌ヲナヲサントスルハ俗儒ト同コトナリ、御祈禱デモ爲善デモ、出ル時ニハ出ネバキカヌハ水ナリ、旱ダケ旱スルハ天ナリ、爲善ヲシテ安堵スルモ、ヤハリアブナキ藝ナリ、祭禮ト燮理トハ別ナリ、尊賢愛民ト燮理トハ別ナリ、燮理ト云ハ入合スルト云コトナリ、物ヲ煮テ味入合タルナリ、故ニ調理燮味ナド、云ナリ、宰相ノ職ハ下役ヲ大勢使ヲ勤ムル役故ニ、大目ヲキカセテ、片カシギニナラヌ樣ニ入レ合セヲ差圖スルト云コトナリ、祭祀ハ祝ノ役ナリ、尊賢ハ司徒ノ役ナリ、愛民ハ縣令ノ役ナリ、宰相ハ上ニテ大目ヲキカセ、入レ合セヲスルナリ、牛ノ喘グヲ見テモ唯ハ通サレズ、丙吉思ニ、是ハマダ春ナルニ牛喘グハ、天氣ノクルヒナリ、今陽氣勝テバ、夏ニ至テ陽氣ユルム、陽ユルメバ陰勝、陰勝テバ雨多ケレバ、旱濕ノ地ハ水出ベシトカ、疫病行ルベシトカ、米穀貴カルベシトカ、種々ノ物ノ片カシギヲ考テ、下役ヘ事ヲ言付テ、堤普請ヨリ以下其用意ヲセイト世話ヲヤクナリ、下役ハ一役ヅヽ持モノ故、大目ハキカヌナリ、宰相ハ一役ト云小役ナキ故、大目ヲキカセテ入レ合セヲセネバナラヌト云コトナリ、是即陰陽ヲ增加消滅スルナリ、陰陽ヲ加減スルトハ、陰陽ヲ動スト云コトニテハ無シ、冬日ハ湯ヲ飲、夏日ハ水ヲ飲ト云コトナリ、船遊山炬燵モ同コトナリ、冬ヤ夏ヲ動スト云コトデハナシ、此方ニテ其防ギ方ヲスルト云コトナリ、鶴ハ日本ノコトハ知ラズ、況ヤ御當家以來ノコトハ猶々一向シラズ、震旦ノ後ノ宰相ヲ勤ル人ヲ見テ、燮理ヲ心掛ル人一向ナシ、晴曇・風雨・水旱・日月蝕・疫・蝗・地震・山燒ノ

類ハ、皆陰陽ノ常運搖動ナリ、無レバ濟ヌモノナリ、堯ノ時ヨリ今日ニ至マデ同樣ニ有ナリ、唯聖人ノ世ハ燮理ヲスル宰相有ユヘ、兼テ防グ用意ヲナシテ驚カヌナリ、害ヲナスコトナラヌナリ、聖人ニテモ防留ラレヌモノアリ、是ハドフモ用意ノ仕方モナキナリ、是天ノ聖人ノ贔屓ヲナサラヌ證據ナリ、凡晴曇ヨリ山燒マデハ常運ナレドモ、陰陽ノスレチガヒ、即燮理ノ目ノ付處ナリ、春牛喘グハ陰陽ノスレチガヒナリ、故ニ丙吉マヂメニナリテ驚ク、最初ニ驚ク故ニ水旱ニ驚カズ、後ノ宰相陰陽ノスレチガヒニ一向カマハヌナリ、驚カヌナリ、故ニ水旱ニ大ニ驚ク、陰陽ノスレチガヒニ驚バ國用耗ズ、萬物損ゼズ、水旱ニ驚ハ、國用耗リテ萬物損スルナリ、後ノ貧ニナルハ最千萬ナルコトニテハ無シヤ、天下ニテハ宰相、國君ハ執政大夫、一家相一身ニテハ心、心ニテハ心ノ大將、皆燮理ノ役目ナリ、燮理スル人無キハ、軍ニ大將ナキナリ、勝軍ニナルコト一生ナシト知ベシ、燮理ノ役目ハ、上ニ居テ下ヲ一ト目ニ見テ、入合セヲスルコトナレバ、萬事盡ク統兼ルコトナレドモ、其大目三ツアリ、此三ツモ下役ソレ〳〵ニ有テ、各其事ヲ司ルコトナレバ、瑣細ナルコトハ下役ニ申付テ詮議サスルコトナレドモ、其要ヲトリテ振廻スコトナリ、一ヲ天ノ時ト云、二ヲ地ノ利ト云、三ツヲ世ノ流行ト云、天ノ時ト云ハ、丙吉ノ牛ヲ問タル類ナリ、唯丙吉ガ牛ヲ問タル氣味ノミニアラズ、譬バ漢ノ比ヨリ甘露ノ降ト云コト有、鶴ナド覺テモ東府ニ甘露降タルコトアリ、御役人皆上表シテ賀シタルトヤラ云評判アリシナリ、凡書ヲ讀ハ六ケ敷ト云ハ、此樣ナルコトナルベシ、天ニ甘キ露アロフハヅナシ、甘キ露降ハ變ナリ、

宜シカラヌコトナリ、古ヨリ甘露降タル時ハ、大ハ飢饉カ水旱カ地震ナド有テ、世ノ穩カナラヌコトナリ、東府ノ執政ノ上表ニモ此コトヲ書タルノヨシ、至極ヨシ、左レドモ其上表ノ趣ハ、甘露ハ天ヨリ御褒美ナリ、降ラセテ下サルユヘ、目出度コトナレドモ、此吉瑞ニテ人君驕リ怠テ政ニタルミ有故ニ、古ヨリ往々甘露ノ年ハ飢饉ナリト云表ナリ、此表是ニテ人君ヲ諫メ、人君ノ行儀矯ルニハ至極ヨシ、人君ヲ智者ニスル爲ノ表ニハアラズ、其故ハ天ヨリ甘キ露ヲ降スルハ、何モ褒美デアロウハヅハナシ、前ニモ云シ通リ、天ハ空位ナリ、地球ヲ丸デツツミテヲルモノナリ、何シニ一里カ二里ノ處ヘ御褒美アロフハヅハナシ、天ヲ人ニシテミタル處ガ此理ナシ、況ヤ天ハ人ニハアラズ、何ゾ御褒美トイハンヤ、民歡ル心蒸レテ、上リテ甘キ露ニナルトデモイヒタラバマダモ宜シカルベシ、然ドモ民ノ歡ル心ニスレバ、又一向ニ理ニ合ハヌコトアリ、此甘露ノカヽリタル木ハ枯ルヽナリ、田圃ハシホレシナビルコトナリ、民ノ歡心ガ木ヲ枯シ、田圃イタメル道理ナシ、且飢饉ニナル祟トイフ筋アロフハヅナシ、故ニ人君ノ行儀賤キモノハ、智力出來レバ上ノ自由ニナラヌユヘ、下ヲ御スルニハ欺コトモアリ、今ノ人君ヲバ智ノ上ナヲリテモ欺クナリ、凡ソ人ヲ善ニスルニ欺クコトモアレドモ、是ハ下々ノ賤キモノヽコトナリ、下々ニモ智ニシタキモノナリ、ソレヲ欺クコト甚アシシ、昔曾子ノ妻市ニ物ヲ買ニ出ントス、其子母ノアトヲ追テ離ヌユヘ、母云ヨフハ、少シノ內ユヘニ留主ヲセイ、留主ヲトナシフシタル程ナラバ、ブタヲ殺シテ喰セント云、其子此ブタヲ樂デ內ニ留守ヲセリ、扨妻ハ用事ヲタシテ返リ、曾子ヂキニブタヲ殺サン

トス、妻曰、サキニ云シハ小兒ヲダマシスカシタルナリ、戯ナリ、ブタヲ殺玉フナト云、曾子云、小兒ヲ敎ルニ欺コト甚アシシ、此小兒ハウソツキニナレト敎ルナリ、小兒ヲオトナシクサヘアレバヨシト云ハ、愚ニ仕立ル仕方ナリ、智ニ仕立ル仕方ニアラズトテ、遂ニブタヲ殺テ喰セタリ、曾子ノ言ヲ以テミレバ、ヤハリ眞ノ言ヲイヒテキカセマスガヨキコトナリ、鶴ニコレヲ云ハスレバ曾子流ナリ、天ヨリ御褒美アロフハヅナシ、甘キ露ハ纔ナリ、ヨカラスコトナリ、水旱。地震ノ用心スベシ、何カ天ノクルヒナリ、扨古書ニ甘露降ト云ハ、露ノコトデハゴザラヌ、詩經ノ小雅甫田、老子ナドニモ治カタガヨケレバ、田圃ニヨロシキ雨ガフルト云コトヲ、甘雨トモ甘露トモ申マス、甘雨ト云時ハ誰モ甘キ雨トハイハズ、田圃ニヨロシキ雨ト解シテ、甘露トアレバ甘キ露ト解スルハ、畢竟儒者共書ヲ讀コトヲ知ヌユヘデ、何モカハリタルコトハゴザラヌ、甘キモノガ降ハ甚アシキコトデゴザル、田圃イキカヘルユヘ、カワユキ雨ユヘニ、甘雨ノ甘露トイヒタルモノデゴザルト、ケ樣ニナラデハ鶴ニハイハヌナリ、コレヲ天ノ時ト云、天ノ時ニ甘キモノ降ル時トイフ時ナシ、降ハ纔ナリト執政ノ人ハ思ハネバナラヌナリ、鶴越後ヘ下ル時ニ、上州ニ暫ク留ラレテ五六日モ遊リ、榛名山ノ下ノ三輪ト云處ニ逗留セシ時ニ、皆寄リテ書ヲ讀ム、鶴ガ北遊ヲ羨デ、是カラハ段々暑ヲ迎ル節、寒國ニ暑ヲ避ルコトハ宜カルベシト云、鶴ガ逗留セシ家ノ位牌所ニ住和尙ハ、越後ノ六日町・云處ノ人ナリ、六日町ハ魚沼郡ニ屬シテ、雪ノ至テ深キ處ナリ、此和尙大ニ笑テ云ケルハ、越後ハ至テ暑氣ノ强キ處ナリ、天ノ理ヲ推スニ、暑强クナケレバナラヌ理ナリ、四

月マデハ雪フリテ、九月末ヨリ雪フル、寒無ハ唯百日計ノ内ナリ、ヨク〳〵暑氣强クナケレバ、米ノミノリノ間ナキハヅナリ、天地ノ理ホド算用ノ合タルコト無ト云リ、鶴モ大ニ此言ニ感伏シテ膽ニ銘ゼリ、其ノ後ニ考ヘ合テミレバ、ナルホド此和尚ノ云ル如クナリ、凡ソ冬ハ寒氣甚强クテ、夏ハ暑氣甚强クナケレバ、米穀ノミノリ宜カラズ、此故ヲ聞シニ、冬寒・夏暑强クナケレバ、田ノ蟲死ナヌナリト云シ人アリ、寒暑ノユルヤカナル年ハ、蝗來年湧ト云面白キコトナリ、凡ソ來年ノ天ヲ今年考ルト云ヨフナルコトモ多シ、天ノクルヒノ顯レタルヲ見出シテ申出ルハ、天文者ノ役ナリ、其ヲ聞テ燮理スルハ、宰相ノ役ナリ、燮理ノウチニケ樣ノコトモアリ、宮ヨリ桑名ヘハ海上七里、東ヨリ西ヘ渡ルナリ、風サヘアレバ、何風ニテモ往來スルナリ、先宮ヨリ出ル船ハ、東風ニテ渡ルヲマトモト云、船ノトモト、ミヨシト眞ノ東西ニムケテ行ユヘニ云ナルベシ、東風ニ西ヘ行クコトハ、ゾウサモナキコトナレドモ、難船多ハ此マトモニアルコトナリ、故ハミヨシ眞向ユヘ、風强クナレバトモヨリ追風甚シキ故、却テミヨシヲ海ヘ衝入ルナリ、故ニマトモハ却テ用心スルコトナリ、扨南風ニハヒラキト云帆カケヨフナリ、ヒラキト云ハ帆ノ上ノ横木ノ行義ト、船ノ行義ト同樣ニスルナリ、マトモノ時ハ帆ノ横木ト船ト十文字ニナルナリ、ヒラキハ唯一文字ナリ、扨ミヨシハ西ヘ向フテ行ナリ、帆ハ横ニカヽルユヘ、船中ノ人ハ坂ニ坐シテ居ヨフナリ、氣味アシキモノナレドモ、一向ニアブナキコトナシト云リ、北風ニモ又ヒラキナリ、西風ハ逆風ナリ、ケレドモ風無キヨリハ遙ニヨキナリ、ヤハリ風上ハ船ヲヤルナ

リ、此ヲマキレト云、マキレノ仕方ハ先最初ニミヨシヲ北ヘ向テ、少シ西ヘヨセテヒラキニ懸ル故ニ、船西北ヘハシル、余ホド北ヘ行テ、又ミヨシヲキリヽト廻シテ南ヘ向ル、又船ノミヨシヲ南少シ西ヘ向テヒラキカケル、船又西南ヘハシル、如レ此何遍モ〳〵キリ〳〵ト廻シテアヤスギニ行故ニ、船風上ヘ行クナリ、是燮理ト云ハ風ニ旨キ物ヲ振舞テ直スニアラズ、御祈禱ニテ直スニモアラズ、風ハ自然ニフクモノユヘ直スベキモノニアラズ、此方ノアシラヒヨウニテ如レ此自由ニナル、此等ハ天ヲ見テ呑込ムニ至極手廻シナリ、唯船ノミニアラズ、世ノ中ノ事ニ大ニアルコトナリ、豐年ツヾキテ何事モナク、日出度コトバカリアルハ順風ナリ、サレドモ船ノ難ハコヽニ有ト知ルベシ、一ツ跲クト大ニ不意ナルコトアリ、ヤハリアチコチニ少シヅヽ氣ニカヽルコトヨキナリ、船ハカシギテ居テモカヘラスナリ、扨風ノ無カラミレバ、逆風ニテモ有ガヨシ、水旱・地震ナドハ逆風ナレドモ、制度ヲ修覆スルニ、此ホドヨキ手ガヽリハナシ、是マギレヲ東ル心モチナリ、左レバ燮理ノ職々一向ニ油斷ナラヌ役目ナリ、鵜ノ眼鷹ノ眼キロ〳〵ト見廻シ、少ニテモ役ニ立ソウナレバ、耳ヲスマシテ聽カネバナラヌナリ、以上ハ天ヲミル眼ノ付ヨフナリ、此計デハナケレドモ、此外ハ推シテ知ベシ、扨地利ト云ハ土地ニ付タルコトナリ、先第一ニ己ガ治ル國ノ風俗癖ヲ知ラネバナラヌナリ、是ハ甚シリエクキモノナリ、南人地ヨリミレバ南トナルト云リ、此心ハ南ニ居タルウチハ、唯ウカリト方角ニモ氣ガ付ズ、此ハドノヨフナル地トモ考ヘズニ居リタルガ、北ノ國ヘ行テアフリカヘリテミレバ、己ガ國ハイカフ南ヘヨリタル國ナ

リト、始テ知タルナリト云コトナリ、如レ此己ガ自國ニ居ウチハ、唯ウカリ〳〵ト居ルコトナリ、ウカリ〳〵ト居テ、何トテ自國ノ風俗癖ガシレヨフゾ、魚ハ水ニ居故ニ、水ト云モノヲ見タルコトナシ、水ヲハナレテ水ノ外ヘ出デ、始テ水ト云モノヲ見ルナリ、山中ニ生レタル子ハ、山ト云モノヲ見タルコトナシ、里ヘヲリテフリカヘリテ見テ、始テ山ト云モノヲ見、扨己ガ在所ハ山ナリト云コトヲ知ルベシ、東照神君大坂京ノ在番ヲ經タル者ニ、宰相ヲ仰付ラルコトニ極メ玉フ、此御思召ナルベシ、己ガ國ヲヨキ國ナリト思テ居ウチハ、所詮己ガ國ハ見ヘヌモノナリ、如何ト云ニ、己ガ國ノヨキコト計カゾヘテ、惡シキコトヲカゾヘヌ故ナリ、己ガ國ノヨキコトハヨキユヘニ、燮理スルニ及ズ、其アシキコトヲ燮理スルヲ燮理スルト云ナリ、故ニ己ガ國ヲヨキ國ト思テ居テ、宰相ハ勤ラヌナリ、惡キコトヲ知ラフ〳〵トセクリテ知テ、其アシキコトヲ燮理スルコト宰相ノ任ナリ、他國ヘ出テモ、他國人トナラネバ己ガ國ノ惡シキ處見ヘズ、故ニ大坂御城代。京都所司代ハ引移リナリ、土地ニ土着スルナリ、五年ニ一度御機嫌伺トシテ出府スルコト例ナリ、京人ニナリテ其後五年三度ヅヽ出府スルハ、江戸ノ惡シキコトヲ目ニ付ルヨフニ成タルモノト見エタリ、故ニ家來ニモ他國モノ折節アルモヨシ、大ニ智ノフエルコトナリ、暖國ノ人京ハ寒ト云トモ、寒國ノ人ハ京ハ暖ナリト云、左スレバ此評判ハ本源眞實ノ評判ニ非ズ、京ヨリ四方ヲ見廻シテ、評判スルガ實評ナルベシ、山國ハ材木、海國ハ魚鹽、川國ハ運漕、此ヲ一目ニ見テ土地ヲムダニセヌコト第一ナリ、六國ノ時上ニ天子ハナシ、唯富强ノ國ガ天下

ヲ掌握スル樣ニ見ヱタル故、ドノ國モ〳〵モ富國ノ術ニ委シキ人ヲ用ヒタリ、孟子此時ニ出デヽ、只今力ニテ天下ヲ取フト云ハ九分一ノ力ナリ、富テ天下ヲ取フト云ハ九分一ノ富ナリ、左スレバ富ヤ力ヲ務ルハアテニナラズ、仁政ヲ出シテ殷湯•周武流ニテ、天下ヲ丸取ニスル時節ハ今ナリト說示セドモ、富國ノ術士ハヤリテ、仁政ノ邪魔ヲスル故、土地ヲ闢キ草萊ニ任ズルモノハ頭刎ベシト云リ、何ノ世ニテモ土地ヲ闢クモノハ頭ヲ倒ベシトハイハズ、既ニ堯舜ハ后稷棄ニ命ジテ土地ヲ闢カシム、契ニ命ジテ草木ヲヤキテ草萊ニ任セリ、殷湯•周武モ誰カ一人富國ヲイヤガル人アルベキヤ、孟子ハ今ハ富國ドコロデハナシ、草萊ドコロデナイ、早ク仁政ニテ天下ヲ取ルガヨキナリト云リ、譬バ棊ヲウツヨフナルモノナリ、左ノ方ニモ十目德ノアル處アリ、中ニモ十五目德ノツク處アレドモ、右ノ方ニハ五十目モ百目モ盤中皆手ニ入ガアルニ、其旨キ手ヲ差置テ、十目ヤ十五目ノ小德ヲ骨折ト云ハヽ、殘念ナルコトナリト云コトナリ、是ハ右ノ方ニ盤中手ニ入手ノ有時ノコトナリ、盤中手ニ入手ノナキ時ハ、十目ニテモ德ノトレルコトハヨキ手ナリ、只今ノ時節ハ天下極リテアレバ、棊デ云バモハヤ棊ハスミタルナリ、唯二目三目ノ德ヲスルノミノ時節ナリ、此方ニテセネバ、敵方ニテ德ヲスルナリ、世ノ書ヲ何ノ苦モナク、スラリ〳〵ト隱居親仁ノ寢言ヲ云ヨフニ讀男共、富國ハアシキコトナリ、闢ニ土地ニハアシキコトナリト、孟子ノ口マネヲスルコト、捧腹ニタヘヌナリ、時節モ何モ見ワカラヌト云モノナリ、孟子只今出タラバ、殷湯。周武ヲイヒスヽメテ、富國ノ人ノ頭ヲ刎ンヤ、是狂人ノ叛人ナリ、故ニ只今

ノ時節ハ富國第一ノ節ナリ、薩摩ノ海上ニハ島澤山アリ、暖地故ニ暖地ニ宜シキ藥草ヲ植テ天下ヘマハス、藥草ニテ薩州ヘ金ノ入ルコト夥キコトナリ、是寒國ニテハ又寒國ニ宜シキ藥草ヲモ植ベキカ、藥草ヲ限ラズ、凡ソ國益ニナルコトナラバ、海山島ナドハムダニセヌコト第一ナリ、駿河ノ東北邊ニ龍爪山ト云名山アリ、高キ山ナレドモ禿山ナリ、故ニ民居ハ甚ワヅカ計ニテ、葛衣・稗團子ヲ喰テ、髮ヘハアブラヲツケズ、少ヨリカツラニテクヽリテ、男女ロク〳〵ニツカラズ、鶴十五年以前ニ駿府ニ百日計逗留セシニ、山人府ニ來テ古着ヲ買フ、府人鶴ニ語テ云ルハ、此五六年以前ニ、江戸ノ紙問屋角太屋某ノ老管家龍爪ヘ來リテ、三又ト云草ヲ植ルコトヲ敎リ、今世間ニ流布スル鼻紙ノ杉原ノ肌ニテ横ザケノスル紙ハモヌスキナリ、其後龍爪ニ紙スキヲ呼寄テ紙ヲスカス、唯今ハ少々スキナラヒテスキ出ス、ソレヨリシテ府ヘ來テ、古着ヲ買ヨフニナレリ、其ムカシナキコトナリト云リ、鶴又其後五六年過テ、又駿府ニ逗留セシニ、龍爪山ノ人今ハ絹ノ單物、絹ノ羽織ニテ銀ノキセル、裏付セツタニテ興津ノ驛ヘ妓ヲ買ニ來ト云リ、此三又ハ濕地ニモ燥地ニモ、日陰ニモ日向ニモカマハズ生ズルモノニテ、其上生立甚速ニテ、三年ノ實生紙ニナルト云リ、楮トカハリテ草ナレバ、生長速ナリ、凡ソ何木デモ紙ニスケバスカルヽモノナリ、柳青木カニビハ、又凡ソ上皮ト中身トノ間白皮有モノハ、皆紙ニナルナリ、唯水ニツケテ置モノナレバ、水ノ手宜キ溪流ノ邊ナドデ無レバアシヽト云フコトナリ、天下ニハ棄地ナキモノト知ルベシ、扨土地ノ尤大切ナルハ、士大夫ノ采地ナリ、周ノ世祿ト云ハ、大

府ノ世祿トハ大ニワケノチガヒタルコトナリ、凡ソ我邦ノ世祿ト云ハ、父二百石ニテクラサル丶、子家督相違ナフ二百石トル、子百石加恩有バ、孫ハ三百石相違ナフ家督スルナリ、有德院樣御弊此救ナサレテ、如レ此ニテハ賢才ノモノニ大役ヲ申付ルコト自由ナラズ、譬バ持高二百石ノモノヘハ、御目付仰付ラレテモ勤マルマイ、持高五百石ノモノヘハ、御勘定奉行仰付ラレテモ、物入多ク供立ナドモ揃マジト思召テ、御役高・御足高ト云フコトヲ御工夫ナリ、御目付千石高ナレバ、二百石ノモノハ八百石ノ御足高ヲ取、御勘定奉行三千石高ナレバ、五百石ノモノハ二千五百石御足高ヲ取リ、御役免ゼラルレバ、モトノ二百石・五百石ニナル、父病死スレバ二百石・五百石相違ナフ家督スル、此甚便利ナルコトナリ、左レドモ今五十俵ノ人五十俵五人扶持ノ御足高ニテ、支配勘定百俵五人扶持ノ御役ニナル、御目見仰付ラレテ又五人ブチノ御足高ニテ、御目見勘定百俵十人ブチノ御役ニナル、組頭ニナリテ二百五十俵ノ御足高ニテ三百俵取、吟味役ニナリテ布衣ニ仰付ラレテ、四百五十俵ノ御足高ニテ五百俵高ノ御役相勤メ、扨コレニテ死ネバ、子ハ又五十俵ニナル如シ、彌々立身シテ御勘定奉行ニナレバ、持高ニカマワズ、吟味役ノ御役高ヲ本高ニナシ下サルユヘ五百石ニナル、コレニテ死バ、子ハ家督五百石相違ナフ下サル丶例ナリ、德公ノ御政ハケ樣ナリ、是ハ御旗元御家人ニ高ノ不同有故ニ、ケ樣ニナサラネバ規模ナキユヘ、人々一階モ進ン／＼ト出精セヌ故ト見エタリ、御側ハ五千石高ナリ、持高二千石ニタラヌ人ハ、二千石ニナシ下サル、御留守居モ五千石高ナリ、五百石ニタラヌ人ハ、五百石ニ

ナシ下サル、町奉行ハ三千石高ナリ、三百石ニタラヌ人ハ、三百石ニナシ下サル、此外ハ格別ノ勤功ナケレバ御加增ナシ、先此ホドハ弊ハ直リタリ、扨追々古書ヲ讀テ理ヲ推テミルニ、世祿ハ凡皆同ジ樣ニ持高ヲトリテ居ル樣ナリ、下士ヨリ足シ高ノ樣子ナリ、中士・上士・下大夫・上大夫ト立身シテ土地ヲ受取レドモ、又子ノ代ニハ下士ニモタラヌ並高ヘ入リテ居ル樣子ナリ、其上ハ五十ニシテ爵セラレテ大夫トナルトアリ、此立身ノタビニ持高ニナリテハ、後ニハ士ノ家ナクナリテ、皆大夫ノ家ニナル理ナリ、大夫ノ子モ士ノ子モ皆並高ヘカヘサネバ、旦那ノ知行ナクナル理ナリ、故ニ唯世祿トイヒテ父ノ地行ヲ、皆子ガ家督スルトイハズ、世祿トハ世々祿ニハナレヌト云コトニテ、農工商ニナラズニ飢寒ヲ凌ガル、故、世祿ト云ナリ、故ニ世祿ハ聖人ノ法、世官ハ桀紂ノ法ナリト云、親ノ加增ヲ子ガ其儘家督スルハ、名コソカハレ、此二世官ノ氣味ナリ、既ニ御儒者・御醫師・天文・大筒・御鷹匠・支配以下ニテハ、御鳥見・御連歌師・御碁所・諸組與力ノ類ハ世官ナリ、ナルホドケ樣ニ御目見以上以下共ニ、高不同ニテハナサレニクキモノナリ、以上ニ三十俵アレバ、以下ニモ御留守居與力抔ハ五百石モ有、石出帶刀三百石、諸組與力ハ三十俵ナリ、百俵ニ足ラヌ衆ハドフモ勤メニ出ヨフナシ、近年御引下ゲト云コト始リテ、又便利ナルコト出來タリ、御引下トハ、以上ニテ以下ノ御役ヲ勤ルコトナリ、富士見御寶藏番・御天守番七八十俵、高支配・勘定・御徒士目附ハ百俵五人ブチ高ニテ、以下ノ御役ナリ、此御役ヲ請テ以上ノ人勤ルナリ、以下ノ御役ヲ勤テモ、家柄以下ニナルニ非ズ、家柄ハ以上ナレドモ、カ

リソメニ以下ノ御役ヲ勤ルユヘニ、御引下ゲト云ナリ、御家人ニハ二側アリ、御譜代席・御抱入席ナリ、御譜代席ハ二十俵ニテモ世祿ナリ、故ニ隱居家督ト云、二百三十俵ニテモ御抱席ハ出代リノ奉公人ナリ、故ニ父ハ御暇、子ハ新規御抱入ト云ナリ、御普請役五十俵・御徒七十俵五人ブチ、大御番與力ヲ始メ、諸組與力ハ二百三十俵、同心ハ三十俵二人ブチニテ、皆御抱席ナリ、御引下ハ御抱席ハ願コトナラズ、是非御譜代席ナリ、サレドモ御役名多コトナレバ、其高ニ應ジテ隨分ノ御役ヲ願フ甚便利ナリ、左レドモ周ノ世祿ホドヨキコトナシ、我邦古ハ大内裏ノ式是ナリ、位田。職田ト云コトアリ、是ハ極々便利ナルコトニテ、ケ樣ニスレバ世祿ニテ郡縣ナリ、此立カタハ、位ハ正一位ヨリ大素位ニ至ルマデ、凡何階ト類ヲ立テ、正一位ハ何百町ト云ヨフニ割ルナリ、扨此位田ハ飢寒ヲマヌカルホドナラデハナシ、ヨフ〳〵五位ハ五位ダケ、六位ハ六位ダケ儉ヲ守リテ居レバ、ドフカコフカ活テヲラルヽホドニ割附ルナリ、扨堂上ノ子ハ菅家ハ生レオチルト六位ナリ、其外ハ生レオチルト五位ナリ、生レオチカラ位田ヲトリテ、腰ガ二重ニナリテモ、一位或ハ二位ニスヽムユヘ、ソレダケノ位田ヲバ受ルナリ、是世祿ニ似タルモノナリ、扨別ニ職田ト云モノヲ立ツ、コレモ太政大臣ヨリサツクワン史生ニ至ルマデ、役ヲ勤ルモノハ其職田ヲ受ルナリ、賢智ノ人ハ位ハ卑テモヨキ職ヲ勤ル、愚不肖ノ人ハ位ハ高テモ職ハ勤ラネバ、位田バカリ受ルナリ、位ハ生レオチヨリ年ヲ重タルニ從テ高フナルナリ、職ハ年ノ多少ニヨラズ、賢智ノ淺深ニテ進ナリ、職田ハ太政大臣何百町トイフニ、位田ヨリモカサヲ多ク割ル、

兼帶ヲスレバ兩方ノ職田ヲ取、御役免ゼラルレバ職田ハ離ルナリ、是郡縣ニ似タルモノナリ、此法ヲ國ヘ施ス智アリ、是ハ書付ベキコトニアラズ、口授ヨリ外仕方ナシ、土地ノ事ハ事多コトナレバ、大體ノ處モ類多キコトナレドモ、先コノ様ナル氣味ナリト思ベシ、扨世ノ流行、是ハ又々土地ナド、違ヒテ、眞ノ活モノナレバ、第一トラヒニクヽ、扨第一ニ面白キコトナリ、書籍ハ手綱目録ナリ、掟法度ハ木馬ナリ、世ノ流行ハ生馬ナリ、書籍ハ天理ヲ説リ、天理ヲトリテ書籍ヲオスナリ、書籍ニ因リテ天理ヲ味フナリ、掟法度ハ法ヲ立ルナリ、法ヲ證據ニトリテ掟ヲ定ルナリ、掟ヲトリテ法ヘ合セテ見ルナリ、世ノ流行ニ至テハ術ナリ、心イキテキネバナラズ、書ヲ讀テ天理ヲ推サヌ人ヲ、喰ツブシ儒者ト云、猫雞ニモオトリタル鼠ノヨフナル儒者ナリ、コレハ人間ノ部ヘハ入レヌ、書ヲ讀テ天理ヲ推シ覺エテ、功者ナル人スグニ國ヲ治ム、國ヲバ丸飲ニテ、治メヌ先カラ治タル心ニテ、デキニ治ルナド云テヤリテ見ルニ、マヽ唯案ニ相違シタルコトナリ、ソコデ此男書ハ一向ニ役ニ立ヌモノジヤ、皆違フト思ヒテ、始テ流行ト云コトニ氣ガ付ナリ、手綱目録ヲヨウ〳〵會得シタル男、乘ラヌ先カラ上手ナリ、乘テ見ル一向乘レズ、此ハ目録ハ役ニ立ヌモノジヤト思ヒテ、始テ生馬ノ相心ト云コトヲ知ナリ、又手綱目六モ讀ズ、木馬ニモ乘ライデ、始カラ生馬ニ乘男アリ、勇氣モノナリ、落馬シテモ何トモ思ハズ、遂ニ乘ナラフナリ、馬行モアシヽ、旨キ所ヲバ乘ルコトナラネドモ、鞍ハ大達者ナリ、書ヲ讀ズ法ヲモ論ゼズニ、スグニ國ヲ治ル人アリ、氣モノナリ、度々シクジリアレドモ、何トモ思ハズ、

又タヤル、遂ニ流行ニ氣ガ付ナリ、治ブリモアシヽ、旨イ所モナケレドモ、經濟ハ大達者ナリ、手綱日六ヲ手ニ入レテ、生馬ニ乘テビク〳〵スル男ヨリモ、彼勇氣モノヽ方ヤットヨシ、生馬ノ合心ヲ知リテ居ル故ナリ、書ヲ讀テ抱ハル男ヨリ、彼勇氣モノヽ方ヤットヨシ、流行ヲ知テヲル故ナリ、櫻田邊ノ大諸侯辰ノ年ノ大火事ニ、四方ヨリ火來テ奥向至テ危シ、奥家老表ノ家老ニ伺テ、奥樣ハドフシタルヤラ鶴ハキカズ、女中ヲバ百五六十人表長屋ノ物見へ移ス、其内ニ又々火勢猛烈ニテ、物見モ危キ故、奥家老又家老席へ出、女中ヲバ殘ラズ御下屋敷へ遣シタシト云、家老祐筆ヲ呼デ、夜中ニ女中ヲ御門外へ出シタル例アリヤト云、祐筆火事裝束ニテ、丁寧ニトマヒヲ打タル藏ヲ開キ、帳面ヲ出シテ探ル、其内ニ火勢甚烈ニテ、既ニ物見へ移ラントスル、奥家老ハ家老ニ催促櫛ノ齒ヲ引如シ、家老ハ祐筆ヲ大ニ叱ル、祐筆トチメケドモ、帳面多キコト故探リ出ズ、其内ニ祐筆ニ才物アリテ、左樣ニコサ〳〵探リテハ手間取コトナリ、此方樣ノ燒タル年ノ帳ヲ探ルベシト云、祐筆大ニ喜ビ、燒タル帳ヲサガセドモ、此諸侯遂ニ燒タルコトナキ屋敷ナリ、彼才子家老ノ前ニ出デ云ヨフ、此方樣ニハ燒サセラレタル御例ナシ、今ハ新例ノコトニ候ヘバ、何樣ニ仰付ラルヽトモ、例ノナキコト故苦シカルマジト云、家老新例ハ國ノ同役ニ相談セネバナラヌト云、祐筆云、是ハ急火ノコト故ヒラニト云、家老ニ差圖ヲスルハ、上ヲ恐レヌ過言ナリ、過言ノ者ハ逼塞仰付ラルヽコト御家ノ例ナリトテ、逼塞申付ル、彼是スル内ニ物見燒落、皆々燒死スルナリ、女中クルシガリテ、物見ノ窓ヲ破ントスレドモ、窓

ヲ破ハ罪人ナリトテ、警固ノ者女中ノ手足ヲクヽル、女中首バカリ窓ヨリ出シテ、死スルモノ數ヲ知ラズ、此節奥方上﨟方ノ燒死多アリシト承ル、當時ハ何レノ遠國諸侯ノ大夫ニテモ、斯樣ナル手綱目六モ、合點ノユカヌト云ヨフナル大夫ハ決シテナシ、辰年ノ火災ハ鶴ガ十八歲ノ時ナレバ、三十三四年モ昔ノ事ナリ、凡世ノ中ノ變行ハ、イツ變ズルトモナク變ズルモノ故ニ、晝夜タユマズ進ミ行ク、故ニ流行ト云ナリ、平々タル世ノ事モ、ナニモナキ世ニテモ、十年ニハグワラリト違ナリ、前ノ幹ニアタリテ、十幹一遍クルリト廻ルコトユヘト見ユルナリ、扨其内何ゾ事ガ有バ十五年ダケモ二十年ダケモ一トイキニ進、辰ノ年ノ火災前ト後トハイカサマ風俗ノ輕薄ニナリテ、智ノフエタルコト三十年モ一トイキニ進タルベシ、丙午ハ浚明院樣御他界ニテ、白川侯政ヲ行ハル、是鶴ガ三十二ノ年ニテ、今ヨリ二十年前ノコトナリ、是モ大ナル大波立ニテ、又クワラリトカハリタリ、丙午前ト丙午後トハ、イカサマ風俗ノ巧儇ニナリテ、又智ノ倍々フエタルコトハ、五十年モ一トイキニ進タルベシト思ナリ、壬辰後ノ一トイキニ智ニナリタル話ト、丙午後ノ一トイキニ智ニナリタル話ヲコヽニ擧テ記スベキナリ、扨一體流行ト云モノハ、コノ後ドノ樣ナルコトガ風俗ニナルヤラ、ドノ樣ナコトガアロフカシレヌナリ、大キナルコトニテハ、小金ケ原ノ御狩、角力上覽ナドヽ云類、小ナルコトニテハ、荒捺・娘淨瑠璃ナドノ類ハ、丙午前ノ人ニ話シテ聞セテモ、決シテ信用セズ、何ゾケ樣ノコトアランヤト云ニ違ナシ、況ヤ壬辰以前ノ人イカデカ是ヲ信ゼンヤ、左スレバ是ヨリノ後ニハ、今ノ人ノ思ヒモツカヌ、一向

左様ノコトアルハヅナシト云コトナドモアロフモ知レズ、是ヲ流行ト云、此流行デ後レヌヲ、生馬ノ相心トスルナリ、其角ノ句ニ「鐘一ツ賣レヌ日モナシ江戸ノ町」ト云フ句アリ、其角ハ徂徠同時ノ人ナレバ、此句ヲ云タルモ百年ニハ下ルマジ、此通リデ流シテハ、今時分ハ一向ニ江戸ノ町ハ人ノアヘモノニナリソウナルモノナレドモ、ドコニカ曲テ流レタルト見エテ、此筋ヘ流レキタラズ、鶴ガ若キ時分ニ驕リ極リテ、皆琥珀ノ袴織セテ着ルコトナリシニ、鶴ガ父鶴ガ袴ヲ見テ驚キ話スルニハ、オレガワカキ時ニ、父鶴ガ祖父主人ヨリチヤウノ袴ヲモラハレテ、扨ソレヲ着セズ、ワレヲ呼デ賜ハリ云ル、ニハ、オレラハ僅カ五萬石ノ小諸侯ノ味噌役ナリ、コノ樣ナル品着スベキニアラズ、其方ハワカキモノノコトナレバ、立派ナル物ヲ着タガルベシ、故ニ其方ニ取ラスナリトテ賜ハレリ、父ハ一生ベニカラ島ヨリ外ニハ着セラレタルコト無リシナリ、今其方ハ小諸侯ノ儒者ニテ、左樣ノモノヲ着スルハ驕タルコトナリト云レシナリ、鶴ハ其ベニカラ島ト云モノハ却テシラズ、扨又此流レマツスグニ只今マデ流レタル程ナラバ、中間モ縮緬ヲ衣ルベケレドモ、是モ又曲リテ流レタルト見ニテ、其筋ヘモ流レ行ズ、白川侯ノ時ニ急ニ麻羽織。小クラノ袴トナリ、是ハ水ノ逆行スルヨフニテ、忽又流レ直セシナリ、御役人ハ皆唐棧留ノ上下ナリ、此時鶴中奥御番ニ瀧川某ト云人、二千石領スル人ニテ心安キ人アリ、登城ゴホンテ島ノ唐棧留ナリ、鶴ニ云ルハ、何トコノ上下ハ好キ手ギワニテハナシヤト云、鶴ソバヘヨリテ見テモ棧留ナリ、手ニテナデ、見レバ七子織ナリ、瀧川申サレシハ、御役人皆是ナリ、眞

ノ棧留ヲ着タルハ白川一人ナリト云ハレシナリ、是急ニ逆シタル木故ニ、久シク流レズト見エタリ、然バ輕薄儇巧宜シキ風故ニ見習カト云ハ、決シテ〳〵宜シキコトニアラズ、大ニ惡シキ風ナリ、大ニ惡シキ風ナレドモ、ハテ世ノ流行ナレバ仕方ナシ、此仕方ハイカヾスルト善キ風ニナルト云ヘバ、先天子デ天下ヲ丸キリ持テ居ラネバ出來ヌナリ、大府ハ似タルモノナレドモ天子ニ非ズ、丸キリ持ニ非ズ、故ニ急ニヤレバ逆行ノヨフニ行ク、ソロ〳〵ヤレバ大船ニ只一人乘テ、川上ヘ行ヨフナリ、骨ヲ折テ行トモ、川ノ勢強キユヘ船ハヤハリ下ルナリ、又各國ノ大名ハ決シテ〳〵獨守テハ居ラレズ、獨守リテ居レバ天下中カラ壑ニスルナリ、吉原ノ人歎ジテ鶴ニ話シケルハ、吉原ハ宮妓ニテ、人柄ヨキ妓ヲ抱ヒ置ク法ナリ、然ニ類燒打續テ、類燒ノタビニ借宅ニ出ルユヘ、妓自カラ郭外ノコトヲ覺テ鄙劣ニナルナリ、日ヲ知ラズ、時ヲ知ラズ、針ヲ見ズ、切ラヌ豆腐ヲ見ズ、草鞋ヲ見ズ、牛ヲ見ズ、車ヲ見ヌガ宮妓ノ面白キ高キ風韻ナリ、扨借宅ニテ洗濯物ヲ衣ルノ、ツギモノヲ衣ルノト云フコトマデ知リテ、一向ニ風韻ヲ失フ、左レドモ唯一軒古法ヲスレバ、隣家忽ニ我ヲ壑ニシ客ヲ奪ヒ、凡ソアシサマニ云ナリ、唯一人古法ヲ守レバ、他人又我ヲ壑ニスルユヘ、アシキコトナレドモ、ヤハリ流行ニ從ハネバナラヌ、宮妓ノカヒハナケレドモ、世ノ流行ナレバ、風韻ヲヒキクセネバ賣レヌナリト云リ、吉原ヲ丸ニ領シテ類燒シテモ、借宅ヘ出ネバ古風ニテ居ルナリ、一軒出ズニ居レバ、其一軒貧ニナルナリ、是王覇ノ別ナリ、故ニ此丸デ領セヌ人ハ、アシキ風ニモセヨ、賤シキコトニモセヨ、知ラネバナ

ラヌハ流行ナリ、故ニ昔ヨリ各國ニテハ御城付ト云役人ヲ置テ、此デハ一人藩外ノ人ノヨフニシテ、世ノ流行ヲ見スルナリ、第一ニ御城中ノコト第二ニ御同席ノ振合、第三ニ町方ノコト、喧嘩口論ヨリ衣類ノ仕立、髮ノ風權門家ノ物ズキ、御老中以下ノ御役人ノ年カッコフ、其流儀スキブスキヨリ、吉原堺丁ノ勢ヒ、當世ハヤリノコト、カハツタコト、何ニテモ藩外ノコトハ、皆此キヽ番キクコトナリ、故ニ役料小遣金過分ニアタヘテ、金子入ル分ハカマヒナク、世ノ流行ヲ一々見付テ、執政君公ヘ申上、其流行ニツキテ政ヲネジナヲシ、曲ゲ直クミヤリ、凡ソ權ヲトル磁石ハ、此留守居ナリト云ナリ、故ニ留守居ヲ隨分ヘチマガタフナイ、至極ヤハラカナル、通リノヨイツカイモノヲ見ルヨフナ老人ヲ使フコト法ナリ、此人ヲ定府ニスルコト法ナリ、サレドモ子々孫々其役ヲ勤メサセヌコト又法ナリ、此人老タル時ニシテ兼テ此男ニアト役ヲ見立サセテ、見習或ハ添役ナド、官名ヲ付テ、此男彌流行ノ目利出來ルヨフナラバ、定府ニイヒツケ勤サスルコト法ナリ、世官ニスレバ其子親父ノ遊處行ヤ當世風ヲ見習ヒ、此バカリ面白キコトト思ヒ、流行ニカマハズ、ワカキニ任セテ上ノ金ヲカヒホシテ家老ヲ脅シ、有モセヌコトヲコシラヘ、君侯ヲ欺ナドシテナラヌ故ニ、世官ニセヌナリ、役儀モ餘リ久シフ勤ルモアシヽ、唯諸侯貧ニナリテ金ヲ惜ム故ニ、新役ノウチ別段ニ金ノ入ヲ恐レ、フルフ勤サスルナリ、流行ヲ見爲ニハ、折々取カユルコトヲシ、三百兩ヤ五百兩ニカヘラレヌ德ノツクコトアルナリ、壬辰後ト壬辰前トチガフ處、女中ヲ燒タル大夫ト、只今申處ノ人トノ違ヒヲ見ルベシ、田沼公御加增

ノ時、同役招請スル時ニ、關良三ト云御坊主組頭相公ヲナヤシタル話ナリ、一體御老中ハ御加增有バ同役ヲ招請ナリ、表長屋ヨリ表門坐敷向皆修覆スルナリ、床ノ飾リ付献立ヲバ、表坊主組頭ヲ呼テ飾付テ見スルナリ、其時ニ良三來リテ處々ヲ見廻リ、一々ニ譽テヨク御出來ナサレタリト云テ感ズル、御老中ノ方ニテハ家老ヲ出シテ、良三ニ談合サスルナリ、相公兼テ井上伊織ニ申付、伊織良三相談ニテ飾付ル、大書院ノ床ハ三間ナリ、三間床ノ上ニ大花瓶アリ、是ハ井上別段ニ自慢ニテ、此度主殿頭申付新調ノ花瓶ナリト云、良三側ヘヨリ見レバ、無垢ノ古金ノ花瓶、高サ三間床ニ應ジタルモノニテ大キナルコトナリ、厚サナドハ至極タップリトシ、ズッシリト床一パイアル樣ナリ、上ハ皆黑ク塗ツブシテ、肩ノ處七曜ヲクルリト並ベ廻シテ塗殘シタル計ナリ、內ノ方ハインス耀々然トシテ美シキコトナリ、良三是ヲ見テ、井上ニ向ヒ申ケルハ、外ノ御飾付ニハ少キ申分ナキナリ、此花瓶バカリハ甚アシヽ、決シテ相ナラヌコトナリ、至極イヤシキコトナリ、御老中樣御同役ヲ招請ナサルヽニ、ケ樣ニイヤシキモノ床ニアリテハ、外聞ニモナルベシ、是ハ畢竟町人ノスル藝ナリ、サスガハ新シキ御家ナリ、御持傳ノ古モノナレバヨシ、是ヨリモ御藏ノ隅ニ何カ薩摩淡盛瓶カ何ゾ有ベシ、ソレヲ差置ルルコト宜シカルベシ、是ハ早々御取入レナサルベシト云、井上大ニ氣ノ毒ニ思ヒテ、良三老是ハ主殿頭久シク工夫ヲシテ、古金ヲ取集メ申付ラレテ、思ヒ込ミノ花瓶ナリ、何卒此儘用ヒタシト云、良三決シテ合點セズ、決シテ相ナラズ、關良三ガ相ナラヌト申タト仰上ラレイ、シクジレバ良三ガシクジ

リナリ、貴公様モ貴人ノ腹ヨリ出ナサラヌユヘ、良三ガ申コトハ合點マイルマヒ、何レ主殿頭様ヘ右ノ通リ仰上ラレイト云、井上モ五度モ七度モ打返シ〳〵留メタレドモ、良三聞入ヌユヘ、止ムコトヲ得ズ、此趣ヲ相公ヘ申上シナリ、相公手ヲ打テ感心ナリ、今主殿頭ガ勢ヒヲ畏レズニ、思ヒ込ミノ花瓶アシヽト云ハ良三一人ナルベシ、御役ニモ立坊主ナリ、イカニモイヤシキ工夫ナリ、古キ瓶トカユベシ、良三ヘハ三百兩褒美取スベシトテ、良三三百兩モラヒシナリ、是流行ヲ先キヘヌケ〳〵シテ、後ヘマハラヌコト、闘良三ナドハイツカ相公ノ腹中ヲシツカリト知タル男ナリ、勿論此表坊主組頭ト云モノハ、極々ノ當世流行ノ的トナル役ナリ、其後ニ御臺所人ヨリ、一日ノ中ニ二百俵高ニナリタル男アリ、黒鍬ヨリ御勘定吟味役ニナリタル人アリ、伊賀組同心ヨリ、一日ノ中ニ二百俵ニナリタル人アリ、黒鍬ノ人立身工夫ヲ考テ母ニ向テ云ニハ、何卒田沼公ノドブヘ落テ下サリマセ、扨辻番ヘ引上ラレ、介抱ニアヅカリテ下サレイト云、母此通リニドブヘ落ル、ヤレ〳〵ト云テ相公ノ辻番ヨリ出、老母ヲ引上ゲ、怪我ハナキカト問、老母云、怪我ハゴザラスガ暫ク休息イタシタシト云、即チ辻番ヘ上ゲ介抱シ、宿ヘ人ヲヤルベシ、宿ハ何レゾト云、老母倅ハ黒鍬組ニテコノ組屋敷ニマカリアルト云、辻番モ御家人ノコト故、猶々麁略ニナラズ、厚ク介抱、早速人ヲ走ラセ倅ヘシラス、扨此男大ニ驚キ、使ノ中間ニ錢ナドヲオクリ、扨早速ニ駕籠ヲヤトヒ來リ、神田橋マデカケ付、セイ〳〵ト片イキニナリテ辻番ヘ來リ、先辻番ヘ泪ヲ流シ禮ヲ述ブ、誠ニ私親ノ命ノ親ハ此御番所ナリトテ、早々ニ母ヲノセテ

歸ル、扨其後ハ日々御城ヘ出掛一度、カヘリ掛ニ一度、一日ニ二度ヅヽ辻番ヘ禮ニ來ル、扨又或ハチヨトシタル肴、或ハ菓子、或ハ煑シメ野菜ナド持テ、是非々々禮ニヨル、辻番人モ殘ラズ心易クナリテ、扨辻番ニテモ貴公樣小身ノコト、十俵バカリ御取ナサレテ、ケ樣ニ丁寧ノツケトドケ迷惑ナリト云ヘドモ、此人イヤ／＼私母ノ命ノ親、イカヨフニイタシテモ御禮可レ仕ハヅナリ、組屋敷拜領地面モ廣ケレバ、母モ芋ナド作リ、貴公樣方ヘ上テクレイト申故、畑ノモノヲ上ゲマスト云テ、兎角一日ニ二度ヅヽ來ル、辻番人モ大ニ困リ、組ノ物頭ヘ此ワケヲ云上ゲタリ、物頭モ聞ステニハナラヌユヘニ、伊織ヘ此事申通ズ、伊織ケ樣ナルコト好キナル男故ニ、早速ニ相公ヘ申上、至孝ノ男ナリト賞ス、相公ハ一向ヌガサヌ人故ニ、其翌日黑鍬頭ヘ御聲掛リアリ、相公ヂキノ御聲掛リト云モノ故、其翌日組頭ニナル、扨此男辻番ヨリ物頭井上ヘ毎日禮ナリ、トフ／＼相公御逢ト云コトニナリ、ケ樣ノ智者故、御勘定ニアリテ吟味役ニナリ、五百石高布衣ノ御役ヲ勤メタルナリ、是ハ壬辰ノ火災ヨリ五七年モ後ノコトナリ、扨此智ヲ能ウツシタル男、御臺所人デ一人アリ、凡ソ智ヲウツスト云ハ、事柄ハクルリトカワリテ、心ノ同ジヨフニユキタルコトナリ、此人ハ御臺所人ナリ、相公奥勤兼帶ナレバ、奥通リ御下リナリ、御臺所人ハ御老中御通リニハ、殘ラズ平伏ス、上坐ニ御膳奉行平伏ス、扨相公御下リノ時、大勢平伏ノ内、此人一人平伏セズ、唯手ヲツカヘテワキノ方ヲムキテ居ルナリ、甚目ニ立ツナリ、相公目ニツキ、又翌日モ見ニ、兎角一人平伏セヌ人アリ、御膳奉行モシイ／＼ト云聲ヲ聞ヤイナヤ平伏

スルユヘ、下ノ者ニ平伏セヌ人アリトハ夢ニモ知ラズ、五日モ七日モ相公氣ヲ付レドモ、イツモソノ男計平伏セズ、亂心トモ見ヘズ、隨分智モアル樣子ノ人ナレドモ、病氣トモ見ヘズ、唯平伏セヌナリ、扨一日御小納戸ノ御膳番ニイハルヽハ、御臺所人ノ内ニ一人平伏セヌ男ガアルガ、何トイフ心ニテワガ通ルニ平伏セヌカ、唯急度ナク御膳奉行ニ聞レヨトイハルヽ、御小納戸聞テソレハケシカラヌコトナリ、早々内々承屆マシヤウト云テ、御膳奉行ニ此事ヲ申渡ス、御膳奉行合點セズ、當時主殿頭殿ニ平伏セヌ人アランヤ、ソレハ決シテ無キコトナリトテ、即御臺所人ヲ呼此事ヲ申渡ス、彼男申スハ、平伏仕ラヌハ私ナリト云、奉行アキレテ、其方ハ亂心シタルヤ、如何ナルコトゾヤ、頭マデニ禍ヲ蒙ラスルト云テ、色ヲ青クシテ畏レ愁ルコトカギリナシ、彼男申ハ、私ハ御老中樣ヲ敬スル故ニ、平伏仕ラヌナリ、平伏仕ルハ御會釋申上ルナリ、私共シキノ賤シキモノ、執政ヘ御會釋申ハ失敬ナリ、私共ノハヒカヘテ居ルノナリ、頭ヲサゲルハ却テ失禮ナリ、頭ヲサゲルヨフニ立身仕タイモノナレドモ、只今ノ賤シキ御役ニテハ、御老中ヘ頭ヲサゲルコトハナリマセヌ、唯控テ御通リ相スムマデウカゴウナリト云、奉行モナルホド面白キコトナリトテ、其通リシクジル心ニナリテ、御小納戸ヘ申上ル、御小納戸其通リヲ相公ヘ申上タレバ、相公大ニ感心ナリ、御役ニモ立ベキモノナリトテ、スグニ五十俵ノ御役ヘ轉ジ、其月ノ内御膳奉行トナル、奉行ハ御小納戸支配ニテ、以上ノ御役ト覺シナリ、又此智ヲ寫シタル男アリ、此男ハ伊賀組ノ同心組頭モ仲間ニモ、同ジ組屋敷ノ中ニ居ルコト故ニ、御城ヘ

出ル時ニ同道ナリ、相互ニサソヒ合ヒテ出ルコトナリ、扨イツモ出前ニ此男計手間取シテアトニナルナリ、サソヒニ行タル人見レバ、イツモ何カ看經ノ樣ナルコトヲシテ、其後ニ出ルナリ、組頭モ毎度タイクツシテ、アノ男ハイツモ／＼出ルコトオソキガ何故ゾト云、仲間云ハ、イツモ出前ニ看經ノ樣ナルコト、神拜樣ナルコトニテ手間取ナリト云、組頭ソレハ何ヲ信仰シテ拜スルコトゾト云、仲間モシラズ、彼男ニ此事ヲ問ニ、一向ニ秘シテイハヌナリ、組頭云ニハ、イツソアノ男出タルアトヘマワリテ、拜スルモノヲ見タル程ナラバ知ベシト云、一日サソヒ出シテ一人アトヘマワリ、彼拜スル所ヲ見ルニ、全ク持佛ノ厨子ノ通ナリ、扨扉ヲアケテ見バ、神モ佛モ無シ、掛物三幅掛ケテアルナリ、中ハ田沼主殿大明神、左ハ井上伊織大明神、右ハ三浦庄司大明神ト三幅掛テオケリ、同役モ大ニ笑テ此事ヲ組頭へ申聞ス、相公ハ大信心者ニテ、目出度コト唯好キナリ、下々ノ者モ何ガナ目出度コトヲ云媚ント計ル最中ナレバ、組頭此事ヲ早速ニ頭へ言上ス、頭此事ヲ井上へ云、且云、是即此方樣并ニ御手前樣ノ御祈禱ナリト云、井上大ニ喜ビ、私フゼイノ者ヲ御家人ノ面々拜サレルト申事ハ、規模ノコトナリトテ、スグニ相公へ申上、相公大ニ喜ビ、其翌日聲カヽリテ、一月ノ中ニ二百俵高ニナレリ、如レ此智者ノ事ヲウツスハ形ハ似ヌナリ、意ガ似テヲルナリ、壬辰ニ女中ヲ燒殺シタル大夫ハ、固ク國法ヲ守ル處ハヨケレドモ、世ハ段々ニ波タチテ、一ツ所ニキヌモノユヘ、智ノ段々ニホクレテタル處ヲ見ネバナラヌナリ、智ノホクレ惡キコトナレドモ、世ノ中一統ニホクレル故、是ヲ知ラネバナラヌコト

ナリ、此上ノ人々風儀宜シキト云ニハアラズ、サレドモ壬辰後ノ風儀ケ様ナレバ、コレヲ知ラネバ流
行ニ後ルヽナリ、扨丙午後ニ至テハ、又々コノ様ナマダルキコトニテハ、儇巧ノ風ニ合ズ、儇巧ハ又
十倍モ巧ナルコトナリ、豆腐屋豆腐ヲ高價ニウルトテ、町奉行ノ役所ヘ呼付大ニ叱レリ、江戸中ノ豆
腐屋ナレバ、萬人モ二萬人モツドヒ來レリ、左レドモ豆腐屋ハ大カタ豆腐ノ直ヲ下ゲマセイト云コト
ナルベシト知リ居ル故、一向ニサワギモセズ、腰掛ニテ酒ナド呑デ遊ビ居ル、扨呼出シ申渡スハ、近
年豆腐直段殊ノ外高直、昔一チヤウニツキ二十文ニ賣タル豆腐ヲ、イカニ錢相場ヤスキトテ、五十文
ヅヽニ賣ハ、甚過分ノコトナリ、以來三十八文ニウリマスヨフニト申付ル、役人モ定テ豆腐屋大ゼイ
ニテ、種々ニ理屈ヲイヒ、イヤ豆ガ高イノ、薪ガ高イノト論ズルコトニアラント、隨分用心シテ申付
ル、豆腐屋一統ヂキニ畏リ奉ルヨシ、即豆腐一チヤウ三十八文ト申直段書ヲ家ノ前ニ張置テ賣可レ申ト
言上ス、其翌日ヨリ豆腐一チヤウ三十八文ニ賣タリ、此ワケハ豆腐屋兼テ斯アラント思ヒテ、豆腐ヲ作
ル箱ヲ寸法ヲ大ニチヾメタルヲ、一ト通リヅヽ所持シテ居リシナリ、翌日ヨリハ今マデノ箱ヲ止メ新
箱ニテ作ル、一向サワガヌナリ、江戸ノ町ハ凡ソ一商賣ニ仲間ヲ立、時々寄合テ流行ヲ談ジ、流行ニ
後レヌヨフニ相談シテ、此樣ナル箱モトクニ調ヒ置タルナリ、今豆腐屋ハ寄合ヲ付テ、流行ニ後レヌ
ヨフニスルニ、藩ニ寄リテハ執政モ寄合ヲセヌ藩アリ、是ハ世ノ中ト云モノハ、イツモ同所ニジツト
シテ居ルト考ヘタルモノト見ユルナリ、大愚ナルコトナリ、大府ニテハ一役ダニ寄合アリ、流行ヲ見

合セ云合セスルコトナリ、其後ニ酒屋モ呼バレタリ、酒屋ヲ呼デ書付ヲ見セラル、此書付ハ伊丹・池田ヨリ取寄セタル樽酒ノ本直段ナリ、扨酒ハ四斗入ニテ二十樽ヲ一本トシタルモノナリ、一本ト云ハ仕桶一ツト云コトト見ユ、仕込桶一ツハ大テイ三千石入ナルモノト覺ユ、四斗入二十ハ仕込桶一本ニテハナケレドモ、コレハ名ト見ユルナリ、扨ドウ云フコトカ知ラネドモ、伊丹・池田ノ酒ニ一本二十兩ト云酒ナシ、コレハ古ヨリ公儀ノ御定直段トデモイフモノアリテ、極リテ居ルト見ユルナリ、ドノ印モモタル一本ニ付十九兩十何匁何分ト云モノナリ、左スレバ四斗ニテ六十匁ト云酒ハナシ、ソノ酒ヲ江戸ニテハ劍菱・男山・陶山・山々・滿願寺抔ト云銘酒等級何階モアリテ、上品ハ一樽ニテ二兩三歩、三兩ナドト商フ故ニ、役人大ニ怒テ、如レ此ノ本直段ナルニ、ナゼニ高價ニ賣タルゾ、以來ハ樽ノ代五匁ヲ一升ニカケテ、一樽ニ付五匁ヅヽノ利分ヲ以、船運賃イカホド取テ商フベシト云、是モ酒屋ハ受マイ、難船ナド申立ルデアロフト思ヒノ外、早速ニ畏リ奉ル、翌日ヨリ右ノ割ヲ以ヲ賣ル、印ハイカニモ其印ナレドモ、酒ハ水半分ホド入テアルナリ、買手コヾトヲイヒテモ、此酒ナラデハゴザラヌト云ヲ、尤仲間一統其以前ヨリ申合テ置タレバ、ドコヘ取ニヤリテモ水酒バカリナリ、好酒ヲ飲ツケタル男大ニ困シミ、自身ニ酒屋ヘ行極內々賴ミ、以前ノ酒ヲ內々ニテ賣テモロフ、酒屋モフシヤウ〳〵ニコヾトヲ云ナガラウルナリ、買手ハ手ヲツキ恭敬シテ願ヒ、願テ漸々カフ、酒ノ直ハ內證モノ故、前ヨリハタント高シ、ヤスケレバ賣ヌ故何トモイハレズ、大ニ高ク買取ナリ、是ハ酒屋兼テ斯アラント豆腐ノ

時分ヨリ寄合ヲツケ、ヨク〳〵示シ合テ置タルコトナリ、流行ト云モノハオソロシキモノニテ、誰ガ始ニスルト云コトモ知レズ、唯我先ニト儇巧ニナルコトナリ、コレハ布衣以下ノ御役人ヨリ町方ノ輕キモノバカリケ様ナルニアラズ、先白川侯御役ニナラルヽ始ニ、白川ニ青樓免許随分ハデニニギヤカニセイト仰付ラレシト云コトヲ奥人云リ、參州吉田ハ既ニ鶴三四十日モ逗留シタル所ナリ、妓ヲバ勢州ヨリ呼ブ、是ヲ伊勢子ト云、當年下リタルヲ新子ト云、マイ〳〵ヨリ下リテヲルヲヒネコト云、花屋ノ寛藏ト云旅籠屋鶴ニ語リシハ、妓ヲバ随分美人ヲ呼下スベシ、金子差支ユルコトナラバ、吉田侯ヨリ無利息ニテ御借シナサルヽト云コトナリ、駿州沼津モ右ノ如ク、沼津侯ヨリ妓家ヘ計ハ借付金アリ、如レ此ノ執政モ流行先ダツコトナリト見エ、執政ノ流行ニ先ダツハ御役ノコト故世ノ中ニ詳ナルユヘ、左モアルベシ、鶴五六年前紀州和歌山ヘ下ル、和歌山ノ北端ニカケツクリト云處アリ、和歌山ノ町口ナリ、コノ新規ニ青樓免許金襖ニテ見世付ナリ、土地ノ人ノ云、惜イカナ皆ヤスオヤマナリ、和歌山ニカギラズ、一國ノ人・京大坂ヘ出デ、大夫ウロコナドヲ弄スル人ハヤハリ京・大坂ヘ金ヲハコブ、此カケツクリハ唯貧人ノ金ヲ他國ヘ取ラレヌマデノコトナリト云リ、スレバ御三家様ナドモ流行ハズレマジト、先クヾリヲ風ニスルコト、見エタリ、丙午以前ニ町奉行ノ組下同心ニ大山三十郎ト云人アリ、名高キ男ナリ、大兵ニテ其上ニカサカキニテ、鼻梁落テヒシゲテヲルナリ、扨此人多年定廻リト云役ヲ勤ルナリ、定廻リ役ハ日々ニニギヤカナル場所ヲ廻リテ、法ノ如クナラヌモノアレバ捕ユルコトナ

リ、扨此三十郎ハ第一ハデシヤナリ、大小殊ノ外太ク長シ、銀コシラヘニシテ白檀ノ蟲クヒノ鞘ナリ、羽織ト衣モノト對ナリ、八丈ノ大島堅ジマナリ、ユラリ〱ト遲クアリク、雪踏殊ノ外大キク、履聲クワラリ〱ト遠方ヘキコユルナリ、或人三十郎ニ問テ曰、貴公ノ御役ハ密々ニ惡人ヲ捕ユル役ナリ、今右ノ通リニ目ニ立ツナリニテ、ユラ〱歩行シ玉フ故、博奕大道デスルモノモ、貴公ヲ見テ早速ニ仕舞フ、通リ玉ヒバ又アトニテ始ル、凡巾着切ナドノ類モ、貴公ヲ知ラヌモノナケレバ皆迯ル故、貴公御役ニナリテ人ヲ捕ヒ得タルコトナシ、江戸惡黨タヘタルニテハナシ、貴公ニハ見付ラレヌ故ナリ、ナント目ニタヽヌナリデ、スタ〱ト歩行シ玉ハヾ、百人ヤ二百人ハ忽ニ捕得ベシト云、大山開テ大ニ笑ヒテ云、我ヲ惡黨ガ見テ迯、博徒ガワシノ通ル間ハ止メルト云カ、天下太平ノ象ナリ、ワシガ目ニカヽルハ太平ト云モノデナシ、ワシハ唯ドフゾ目ニカヽラヌヨフニト願コトナリ、先今日マデハ天下太平ノ證據ニ、ワシニハ一人モ捕ヒラレタル人ナシト云リ、奉行曲淵甲州此言ヲ聞テ、三十郎ハ定廻リヲ久シク勤ル故、役儀ガヨフワカルト云ハレシヨシナリ、丙午後ニハ一向ニ此手デハイカヌヨフスナリ、

長谷川某君盜賊方ヲ勤ラレシ時ニ、本所ヨリ巾着切ヲ捕テ來ル、長谷川是ヲ見ニ、年比十五六ニテ、面體甚才物ト見ユルナリ、長谷川云ルヽハ、此者ハ一體惡ウモ無キト見ユ、畢竟友ナドアシキ故ニ染ヌルナリトテ、親ヲ呼デ渡サル、親云、此者ハ盜才物御坐候故ニ勘當ヲ仕タルコトナリ、何トゾイカヨフニモ御刑ニ行ハレ下サルベシト云、長谷川云、左樣ノ重罪ヲ犯シタルコトモナシ、唯ヒラニ內ニ

オキテ外ヘ出スナト申渡ス、親迷惑ナガラ連歸リ、内ニオケドモ内ニ居ズ、出テ何カ惡事ヲスル樣子ナリ、長谷川ハ日々ニ共内ヘ人ヲヤリ、彼者ハイカニゾト問ハシム、親每ニ戒シメオケドモ聞カザルヨシヲ云、後ニハ親長谷川ヘ行テ入牢ヲ願フ、長谷川卽其者ヲ連參ルベシトテ屋敷ヘ呼寄セ、屋敷ノ中ニオキテ養フ、後ニ輕キ者ヘ養子ニヤリテ家中ノ者ニシテ、扨此者ヲ近習ニ取立テ、盜賊ノアリカチトサガサスニ、己ガ最初シタルコトナレバ、盜ノ情ヲ知テ働クコト神妙ナリ、長谷川ノヨキ取モノヲ大ゼイ取得タルハ、此者ノ智ナリト云、先丙午以後ハ儇巧皆此氣味ナリ、又昔ト風俗ノ違ヒ一說記スベシ、有德院樣ノ時御役人ナド放埒ノコトアリ、公ハ知リナサレテ、御小性御小納戶ヲ召サレテ御庭ヘ入ラセラル、御庭ノモノト云、至テ輕キ御家人ナリ、此者ヲ御用アリトテ召サセラル、御庭ノ者半町バカリアトニ平伏ス、公御小納戶ニ仰ラルヽハ、其方共ハコレニ扣テ居レ、庭ノ者ヲ隱密ニツカハス處アリトテ、半町バカリ只御一人御步行、扨何カ御庭ノ者ヘ内々仰付ラルヽ樣子ニテ、暫クアリテ御納戶扣居ル處ニ御歸リ、明朝又々御庭ノ者ヲ例ノ處ヘ召セラルヽ、朝夕御庭ノ者御意ヲ蒙リ、早朝ヨリ御用出トシテ、御城ヲ出夜分ニ歸ル、或ハ夜分ニモ歸ラズ、明朝歸モアリ、又御庭ニテスグニ言上ス、御老中始メ何事ヤラ、日々御庭ノ者ヲ監者ニ仰出ナサルヽト云評ニテ、御役ノ放埒ヒッシト止タリ、サレドモ誰モシクジリタルコトモナシ、デカシタコトモナシ、以前ノ通ナリ、御老中始メ上ノナサルヽコトニテモ、宜カラザルコトナリトテ、彼御庭ノ者ヲ呼責メテ白狀サスレドモ、上ノ仰付ラレ

ニテ、一向他言仕ラレズトテ白狀セズ、扨公薨御ノ後ニ、彼庭ノ者ニ御老中先達ノ事問ハレシ時、御庭ノ者始テ白狀スルハ、上ニハ朝々唯其方吉原ヘ行ケ、其方ハ深川ヘユケ、其方ハ堺町、其方ハ兩國、其方ハソレ〳〵ト十人モ十五人モ仰付ラレ、且上意ニハタトヘ役人共、酒宴或ハ遊興イタシ居テモ、其事ハ必ズ言上イタサヌヨフニ、モシ役人共ノウワサヲ申タルニ於テハ忽首ヲ刎ベシ、左レドモ此事誰カ洩ロフトモ、必ズ申マジキナリ、モシ申タルモノアラハレ、組殘ラズ首ヲ刎ベシトノ上意ナリト云リ、公ノ巧ナルコト甚シキコトナリ、公モケ樣巧ナルコトハ、宜カラヌコトナリトハ思召ツラン、ケレドモ流行ナリ、近年マデ御老中ヲ勤ラレタル松平右近將監ドノハ、公ノ御世ニ家督シタル人ナリ、雁間ナリ、雁間ノ大名ハ詰衆ト云、一體權現樣以上召サセラレタル家、帝鑑間ナリ、其以下ニ召サレタル家ハ、城主ハ雁間、無城ハ菊ノ間、御緣側詰ト云モノナリ、菊ノ間ノ本席ハ雁間大名ノ嫡子ナリ、雁間ヲ詰衆ト云ハ、雁間大名ハ御役人ノ通ヲ、月ニ六度ヅヽ登城シテ詰居ルナリ、尤三日ノ外ハ平服ニテ登城スルコトナリ、平服ニテ登城スルハ、御役人ト雁間計ナリ、扨公ハ度々右近將監ヲ召ス、何カ御ハナシ有テ御前モ長シ、御老中ハ右近將監退出セヌユヘ、退出スルコトナラズ、七ツマデモ、七ツ半マデモ引ズラレテ、御老中每度迷惑セラレシナリ、只今ヲ以見レバ、一向ニウソノヨフナルコトナリ、雁間大名ヲ召レテ御前ガ長イ故、御老中退出ナラズ、只今ヲ以見レバ、ケシカラヌ上ニモ威ヲ收メサセラレヌコトナリ、御老中モ權ノナキコトナリ、雁間大名故ニ退出セヌ、トント合點ノユカ

ヌヨフナリ、如レ此古風ヲ存シタル時ナレドモ、公ノ醫者ヲ出サレタルハ、又只今ノ人ノスルヨフナルコトナリ、公ノ流行ニ先ダチ玉ヒルコト如レ此、皆是我智ヲ我動カスコトノ出來ル故ナリ、我智ヲ我動カスコトナラヌハ、ネバリ儒者ノ病ナリ、此病ヲ取テ去ラネバ、流行ハ見エヌナリ、キレテ離レタル目ヲホシキモノナリ、キレテ離レタル目トハ、活目ト云コトナリ、死目デナキコトナリ、仁ハキツトヨキコト、聖ハキツトヨキコトヽカタク覺ルハ、誰デモ出來ルコトナリ、此ニ又仁ヲソルイコトヽ見カヘ、聖人ヲ惡人ト見カユルコトモ、聞シテミルコト術ナリ、是ドノヨフナル氣味ゾト云ニ、今博奕ズキノ青樓ズキ、乞食ニナリテ餓死スルハ常ナリ、アルベキカヽリナリ、善ヲ好ミ施シヲ好ム人、家ヲ起シ目出度榮ルハ常ナリ、アルベキカヽリナリ、博ヲ好ミ妓ヲ好テ、家ヲ起シ目出度榮ルハ變ナリ、アルマジキコトノアルナリ、善ヲ好ミ施ヲ好テ、乞食ニナリテ餓死スレバ變ナリ、アルマジキコトノアルナリ、左レドモ世ノ中ニハ常ガ半分變ガ半分アリ、粘テツケタルヨフニハイカヌナリ、コレガ世ノ有樣ナリ、昔周ノ武王殷ノ紂王ニ勝テ、紂ヲ斬殺シテ其子武庚祿父ヲ封ジ、周公ノ兄ノ管叔ト弟ノ蔡叔ニ命ジテ祿父ノ目付トセリ、祿父兵ヲ擧テ周ヲ伐、管叔蔡叔ハ祿父ノ味方トナリテ周ヲ伐リ、後世ノ評判ハ祿父ハ大惡人ノ大愚人ナリ、聖人ノ誅戮ヲ免レヌ者ナリ、管叔ハ大不忠者ナリ、大極惡人ナリ、聖人ノ誅ヲ免レヌ者ナリ、此評判世人ノ耳ヲ塗テアルユヘニ、誰ニテモケ樣ニ思フ、思ヒカヘテ見テモ思ヒカヘラレズ、祿父トイフ字ハ、顔色カラ惡人ノ名ラシキ字ナリト思ナリ、管叔

蔡叔トハ、字面カラ惡人ノ名ラシキト思ナリ、左レドモ祿ハサイハイト云字、父ハ尊稱ナリ、何モ惡人ノ名ラシキコトナシ、管モ蔡モ國ノ名ナリ、何モ惡ラシキコトナシ、既ニ康叔トイヘバ叔ノ字ヨク見ユル、管叔トイヘバ叔ノ字アシク見ユルハ何事ゾヤ、世人ノクセニナルコト如レ此、故ニ仁ノ字ハドフモヨサソウナ字ナリト、粘デヒツタリトツケテ置コト愚ノ始マリニテハナシヤ、今武王・周公ヲ極々ノ惡人ニフリカヘ、祿父・管・蔡ヲ極々ノ善人ニフリカヘテ見レバ、ドチラガ尤ナル論デアロフヤ、祿父ガ兵ヲ興シテ周ヲ伐ントスルヲ尤ノ論ニスレバ、先祿父ノ父ヲバ武王ト周公ガ殺シタルモノナラバ、祿父ガ爲ニハ父ノ敵ナリ、父ノ敵ヲ伐ントスルハ惡人ナリヤ、其レニカタキ武王周公ハ己ガ君ヲ殺シタル主殺シナリ、主殺ヲ伐ントスルハ惡人ナリヤ、祿父ハ君ナリ、武王・周公ハ臣ナリ、君トシテ臣ヲ伐ントスルハ惡人ナリヤ、如レ此ニ論ジテ見レバ、祿父ハカワユキ人ナリ、大孝子ナリ、大義人ナリ、大仁君ナリト云テモ無理ハナキヨフナリ、コフシテ見レバ、祿父ノ爲歯ガミヲシテ親ノ敵ヲウチモラシ、其上ニ亂臣ノ爲ニ弑セラレタルコトノムゴラシサヨト云テモ、無理ハナキヨフナリ、コフシテ見レバ、祿父ト云字ハ善人ノ名ラシキナリ、字面モ善人ラシキ字ニテハ無シヤ、扨管・蔡ヲ善人デ論ジテミレバ、管・蔡ハ至善ノ人デハナイカ、大逆無道臣トシテ君ヲ弑シ奉ル惡人、武王ノ弟ニアリナガラ、惡人周公ノ兄弟デアリナガラ、兄弟ノ惡心ニ染ズ、兩人共ニ心ヲ王室ニ傾ケ、何トゾ武王・周公ヲ殺シテ、我主君紂王ノ欝憤ヲハラシ奉リ、祿父ノ御孝心ヲ遂サセ奉リ、再ビ殷ノ御代ニシテ、武王・周公ヲ

バ大戰ニ合セ、後世ノ人ノ臣タル者ノ見セシメノ爲ニシテ、臣トシテ君ヲ弑シテ、志ヲ得ルコトハナキコトナリト後世ニ忠義ヲス丶メ、天ノ理ヲ明ニ見セントテ兵ヲ興サレタリト云ハ、無理ハナキヨフナリ、左レバ管・蔡ト云ハ、實方ノツキソウナル字ナリ、見カケカラ善人ラシキ字ナリ、康叔ノ叔ノ字ハ惡相ニテ、管叔・蔡叔ノ叔ノ字ハ善相ナリヌ、當時如シ祿父軍ニ打勝タルナラバ、後世ノ評判イカヾアラン、祿父ハ聖天子、至孝極仁、眞智神武、ナニトイフテモホメゴトハタルマジ、管・蔡ハ至忠ニテ亞聖ノ大賢者、伊尹・傅說ノ上席ナルベシ、漢・楚ノ戰ニ高祖負テ項氏ノ世ニナリタラバ、淮陰侯ハ古今無双ノヘマ軍師、趙括ナドノ下席ナルベシ、左スレバ字ニモ善惡ナシ人ニモ善惡ナシ、唯事業ノ成就ヌル、成就セヌト云處デ、善ノ惡ノト後世ニテ名ヅクルナリ、故ニ博デ身ヲ起シテモ、大分限トナリテハ、バクチノバノ字モ人ハ云ハヌナリ、施シ好テ身上ヲツブシテハ、仁者ノジノ字モ人ハ云ハヌナリ、武王ハ主殺ナレドモ、主殺ノシユノ字モ云ハヌナリ、祿父ハ孝子ナレドモ、コノ字モ人ハ云ハヌナリ、博デシヾシタル男博ノ罪ヨリ天理合タル功ノ多キコトナルベシ、武王ノ業ノ成タルハ、主殺ノ罪ヨリ天下ヲ濟フ功多キコトナルベシ、是之ヲ世ノ有樣ト云フナリ、有樣トハ一槩ニ見テハ見エヌ、色々ニマクラガリデキルユヘ、世ノ活モノト云コトヲ知ラネバナラヌ、活キテヰル世ニ粘デツケテオキタルヨフナ學問デハ、間違フ管ナリト云フコトナリ、武王ガアシヽト云ニモ、博ノヨシト云ニモアラズ、唯早ク評判ヲ極メルト、フチヤウノ付チガヒガアル、今ヨリ以前ノ事サヘ、フチヤウノツケ

チガヘ有バ、今ヨリ後ニフチヤウハ、ドウシテ付ラレヨウゾ、左レドモ今年ハ來年、來年ハ來々年ト、年グリニ流行ヲ先見スルコト第一ナリ、猶委クハ善中談ニテ說ベシ

燮理談終

談五行

海保青陵著

談五行

海保青陵著

海保子曰、五非二自然之數一也、未レ有レ物之前、謂二之無一也、既有レ物、謂二之一一也、既有レ一、則必有二上下一、謂二之二一也、既有二上下一、則必有レ中、謂二之三一也、三爲二自然之常數一也、五非二自然之數一也、或曰、子之說二五行一、可レ得レ聞乎、曰、可也、凡自レ高而下者、猶レ水也、自レ卑而上者、猶レ火也、在二其中一、而相假相凝者、猶レ土也、以レ所レ居而言、則水在レ上、火在レ下、以レ所レ歸而言、則水在レ下、火在レ上、迭配二最高最卑一、最高猶二天上一也、最卑猶二地下一也、其氣升其形降者爲レ土、以配二中常一、中常猶レ人也、故水火土三者、無二甚輕重一、無二甚貴賤一、齊レ儔均レ匹、可二相駢言一也、金與レ木者、固土之部屬、既言レ土、則金木從矣、故以比二三者一、則甚輕賤、如取二金木一充二其數一、則何啻金木乎、同二其位一者必多、故曰、三爲二自然之常數一也、五非二自然之數一也、曰、子之說二五色一、可レ得レ聞乎、曰、可也、凡色極濃者爲レ黑、極淡者爲レ白、其中爲レ色、猶二赤之赤、青之青一也、是各其中而已、如以二青赤黃一、與二黑白一齒列、則何啻青赤黃乎、故曰、三爲二自然之常數一也、五非二自然數一也、曰、子之說二五方一、可レ得レ聞乎、曰、可矣、己與二左右一爲レ三、己與二前後一爲レ三、極東爲レ西、極南爲レ北、且非レ如三左右之可二因レ己遷移一

也、既不屬己、又無定位、豈有所謂五方者乎、故曰三爲自然之常數也、五非自然之數也、曰、三之爲常數、取徵於何書乎、曰、質之於天地、證之於先王之禮、徵之於洪範、曰、天地人三數既聞命矣、請聞先王之禮、曰、天子立三公・九卿・二十七大夫・八十一元士、后立三夫人・九嬪・二十七世婦・八十一御妻、三年一考、三考一績之類、盡依常數也、曰、請言洪範、曰、洪範皆三數也、曰、首有五行何也、曰、洪範之言五行、與今之所謂異矣、水火土與金木、大有輕重、雨露自上而隕之類、謂之潤下也、草木自下而萌之類、謂之炎上也、人居其中、用潤下與炎上、而以種藝、謂之稼穡也、曲直從革、人之所爲也、無與稼穡異矣、鋸而爲曲、劉而爲直者皆屬木、其位剛、其性柔、不可撓、故曰剛也、可刄斷、故曰柔也、形沈而濕、吾以爲是土之屬、而受命於水也、鍛圓爲方、擊厚爲薄、不逆其性、而革其形者、皆屬金、其位柔、其性剛、可撓、故曰柔也、不可刄斷、故曰剛也、有光而乾、吾以爲是土之屬、而受命於火也、然則聖人何爲與水火齒列、曰、聖人於下五事以下、以丁寧焉、故曰有輕重、請盡言之、曰、五事、目之所見、謂之貌也、耳之所聞謂之言也、心之所營、謂之思也、視與聽亦心之所營、與思何別矣、吾以爲視是貌之屬、聽是言之屬、幷隷於思、曰、八政、食貨祀爲三數、司空司徒司寇、亦爲三數、賓是文事、師是武事、自是一埒不與上相關也、食與衣、是實位、不可無者也、猶天地也、祀是空位、即以衣食、事祖先者也、猶人也、自是一埒、司空水、司寇火、司徒居中、故屬土、即人位也、自

レ是一埒、食貨祀一位、三司一位、文武一位、亦爲二三數一、且如以レ五爲二常數一、則焉得二所レ謂八云六云
者一乎、曰五紀、三百六十日爲レ歲、三十日爲レ月、一日爲レ日、其爲レ三、甚闡白矣、星辰與二曆數一、所三
以論二定歲月日一之具而已、星猶レ上也、曆猶レ下也、日猶レ上也、火也、月猶レ下也、水也、歲猶レ中也、
土也、曰皇極、有レ猷、有レ爲、有レ守、亦三數也、猷猶レ智也、爲猶レ賢也、守不レ用二己智賢一、而守二他
人法一者也、故位二於中一矣、無レ偏無レ陂、遵二王之義一、偏與レ陂、所レ謂過不及也、義即中也、無レ有二作
好一、無レ有二作惡一、遵二王之路一、好與レ惡、過不及也、路即中也、無レ反無レ側、王道正直、反與レ側、過不及
也、正直即中也、曰三德、正直猶レ中也、土也、剛克猶レ上也、火也、柔克猶レ下也、水也、作福作威五
食、福猶レ上也、威猶レ下也、食是平常之事、猶レ中也、曰稽疑、雨霽蒙、雨猶レ水也、霽猶レ火也、蒙是
不レ雨不レ霽之名、屬レ土、即中也、是爲二三位一、驛者、今日雨、而來日亦雨、今日霽、而來日亦霽、故爲二
絡驛之義一矣、克者、今日雨、而來日霽、今日霽而來日雨、是霽克雨、々克霽也、故爲二克革之義一矣、
此二位、語二三者之形一也、貞悔者、吉凶也、此二位、語二三者之功咎一也、汝一位、卿士一位、卜筮一
位、汝猶レ上也、卿士猶レ下也、卜筮是無二定位一、故猶レ中也、曰庶徵、雨一位、暘一位、風一位、亦三
也、燠是暘之屬、寒是雨之屬、極備與二極無一、即過不及也、故曰凶也、星好レ雨好レ風、二者亦不レ得二其
中一也、言月宜二正行一、勿レ所レ倚焉、雨風與二正行一、亦三數也、五福、壽一位、富一位、考終命一位、康寧
與二攸好德一、所三以考二終命一也、康寧、壽之屬、好德、富之屬、六極凶短折即刑死也、疾自レ外來者、憂

自レ內出者、是三位也、貧即憂之輕者、惡即凶短折之輕者、弱即疾之輕者、言二人之死一三、曰刑死、曰外疾、曰內病、是亦三數也、故曰、洪範之數皆三矣、然則聖人何以不レ曰レ三、而曰レ五乎、曰、是合二經緯之數一也、雖レ然其實經自經、緯自緯、固不レ可二一齊言一也、唯是合、故曰レ五也、曰天、曰地、曰人、是各獨立、語二其正一也、故曰レ經也、曰陰、曰陽、是語レ變也、既變也、故無レ中矣、天有二陰陽一、陰陽與レ天、是爲二三數一、地有二陰陽一、々々與レ地、是爲二三數一、所レ謂天地人云者、即亦其中也、事物盡有二陰陽一、猶三色盡有二濃淡一也、故曰、合二三經二緯一、而後得レ五、在レ易則上爻中爻下爻、與二上體下體一也、非レ可二一列言一、故曰、非二自然之數一也、然則聖人何爲不レ曰二三經二緯一、而曰二五行一乎、曰、聖人唯曰二五行一、而不レ曰二五行皆同列一也、猶三天地人曰二三才一、而地貴二於人一、天貴二於地一也、三才亦合名レ之々號而已、故後之語二五行一者、獨謬矣、吾請言二其證一、大禹謨以二正德利用厚生一爲二三事一、以二水火金木土穀一爲二六府一、是以正德配二水火一、猶下所レ受二於天一、而不上レ用二作爲一者也、以二土穀一配二厚生一、猶下地之可レ使レ爲二肥瘠一、不上レ可レ使レ爲二豐耗一也、以二金木一配二利用一、是可レ長可レ短、可レ圓可レ方、從レ人而變革者也、故水火土穀、定位也、金木、空位也、定位謂二之經一、空位謂二之緯一、依レ經成レ章者緯也、依二定位一能變者空位也、故生々無レ已者、空位與二定位一相遇也、故曰、五行合二經緯一之名、後之言二五行一者獨謬矣、曰印度之四大、歐羅之四元、與二子說一異乎、曰否、無レ異矣、即老子之道、大天大地大王、亦大之說也、水火地經也、風緯也、水火土猶二水火地一也、天地人也、風猶レ氣也、道也、水火土皆有レ氣、皆有レ風、

皆有レ道、故氣風道三者空位也、依二實位一而有二此氣一者也、氣有レ兩、曰陰、曰陽、故天地人陰陽、猶二水火土氣一也、猶二地水火風一也、猶二王地天道一也、謂二之三者一、語二自然之定位一也、謂二之四一、謂二之五一者、合二經緯一之數也、聖人分レ民爲レ四、曰士、曰農、曰工、曰商、士司レ敎、猶二火之化一レ物也、農司二種藝一、猶二水之生一レ物也、工司二以レ物化一レ物、猶下土之在レ中、得二水火一造作上也、此三者、有二定位一焉、商交二易有無一、非二化レ物者一、非二生レ物者一、非二造作者一、乃空位也、猶下氣之無二定體一、以爲中功上也、言二四民一、則不レ疑焉、曰四大四元、則疑焉、何也、爲二五行所一レ拘也、故拘二五行一者、不レ知二五行一者也、就二三者一以分二經緯一、則上下爲レ經、中爲レ緯、就レ四就レ五、以分二經緯一、則三才爲レ經、氣爲レ緯、不二亦闇然昭著一乎

談五行終

志學問答

遠藤泰通著

志學問答目次

志學問答上

紀伊　遠藤泰通著

稼穡蠶桑經濟之要
文武忠孝政教之基

○問曰一家の見を張り政教を私議し、或は老・莊、或は申・韓諸子百家を主張し、或は朱子學、或は陽明古學新學と稱し候事いかゞあるべき、浮屠氏の宗門を分つに同じ、され共義にかなひ候事にや

答曰、政教は天子の御職分なり、堯は契に命じて五教を司らしめ、舜は命レ夔典レ樂教二冑子一しめ、皐陶九德を論ずる類、皆天子の事にて庶人の容易に私議すべきにあらず、詩には「樂只君子、民之父母」といひ、書には「天降二下民一、作二之君一、作二之師一」と云へり、天子は即民の父母なり、師なり、之を養ひ之を教ゆるを以て共職とし玉ふ故に、中庸には「非二天子一、不レ議レ禮、不レ制レ度、不レ考レ文」と云へり、されば禮樂制度は不レ及レ言、倫理綱常皆天子の教へ玉へる所なり、荀子に「父能生レ之、不レ能レ養レ之、母能食レ之、不レ能レ教二誨之一、君者能食レ之矣、人善教二誨之一者也」と云り、是天子の職は民を養ひ、

民を教ゆる者なるをいへるなり、唐虞の世は教法皆天子よりいでゝ、人臣のさしいろふべき事にあらず、さて其教法といふも、むつかしき事にあらず、只禮樂を以て先祖を祭り、孝道を盡して、稼穡蠶桑の重きをしらしめ、藉田蒐狩、因て文事武事の勤めをしらしめ、又庠序學校ありて文武の道を敎へ、冠婚・喪祭・鄕射・鄕飮酒皆實事實行にて、後世の大儒先生理窟がちなるむつかしき敎へとは大に異り、周にいたりて易の彖辭・周禮・儀禮など出來ぬれども、易は占筮の書にして、疑ひを決するものにし、禮樂日用のをしへには非ず、周禮・儀禮廣く禮樂・經世の道を載せ、冠婚・喪祭・鄕射・鄕飮等を以て人才を敎育するの道をいへり、さてこの二禮後儒僞作の疑ひもあれど、此に論ぜず、いづれにも禮樂によりて敎へを立られたるは、先聖後世其揆一なり、是王者の職分、處士庶人の橫議すべきにあらざるを見つべし、孟子曰、「世衰道微、邪說暴行有レ作、臣弑二其君一者有レ之、子弑二其父一者有レ之、孔子懼作二春秋一、春秋天子之事也、孔子曰、知レ我者、其唯春秋乎、罪レ我者、其惟春秋乎」、是孔子好みて書を著し、人の師とならんとには非ず、されば歎じて曰、人の患は好て人の師なるに在りと、周末幽・厲より禮樂廢して詩敎亡び、五品の道遜はざりしかば、孔子洙泗の間に退居して、先王の道の亡びん事を憂ひて、三千の子弟を敎育せられて、詩書六藝を敎への具とし、鄕飮・鄕射の禮を以て文事武事を兼講せられ、三千子弟の中、身六藝に通ずるもの七十二人、文道の道盛なりといふべし、其春秋を作れるか、僭竊の罪のがれ難を自ら知れども、世衰へ道微にして、禮樂征伐天子より出づ、諸侯放恣にして處士

横議し、戎狄侵寇し、天下殆ど被髮左衽の俗たらんとせるを深く懼れ、中國歴聖相承、尊內卑外の道を維持せんとして、先王の法に遵ひ、文武の教法を立られしなり、蓋止むことを得ざるに出たるなり、世降りては教學の事、處士の容易に議すべきことなり、さるを知らずみだりに門戸を張りて、師を稱して先生と名のり、無用不急の書を著して愚夫庸人を誑誘し、或は偏固にかゞめ、或は浮華に走らしめ、無用の詩賦、無益の雜博を勸めて、忠孝文武の實行に疎となりゆきぬ、かくてたまたま國家採用の選に充るも、經世の務に習はず、稼穡・蠶桑・田制・貢賦・山林・川澤の治法に通ぜず、儲蓄・賑救・臨機・備急之術、武具・五兵之鋭鈍をも不辨、航海・里程・磯灘・防海・艨艟・戰艦・帆檣・舳艫之理をも曉れるものなし、經濟の事如是の類甚多端なれば、一々通曉すべきには非れども、其要領大意は粗講明すべきに、さる志あるもの鮮きはいかにぞや、昔胡公經義齋治事齋を設けしは、人を教ゆる道を知れりと云べし、後世の儒者これを度外に置て問はざれば、いかでか實用の才を成就してんやは、幕府の御條目第一に、文武忠孝相勵み、禮儀を正し可申とは書せ玉へり、これ御法度の大綱領にして、天下の諸侯士大夫誰か之を知ざらん、孰か之を守らざらん、然るに大家の儒先生は武事を講ぜず、文事を論ぜず、徒に呫嗶章句を事として、訓詁の新說、詩文の奇巧を求め、勸めて人を驚し爵祿を釣り、富貴を致さんとするのみ、其心の賤劣貪欲、穿窬の盜にもまされり、穿窬の盜は姦惡其身に止る、是を刑してやむべし、大家の先生碩儒鴻才と稱せるゝ人々は、鄉國天下の模範となりて、人の瞻仰も亦殊異なるに、其

形容のみは溫和にして、其内心は實に險兇、其操行たゞ善柔佞巧を勤とし、人をして心醉せしめて其姦をさとらざらしむ、其老練可レ畏、先生曾て武藝を學ばざれば、神精遊惰にして、事に幹たる事あたはず、所レ謂腰ぬけ武士と云もの是なり、伊勢小笠原の禮も俗として學ばざれば、凡容のあつかひ方を知らず、是をさして世曰人慇懃鄙陋といへり、武器のとりあつかひをも不レ知、大小の差様もしらぬもの多し、神君武藝をしらぬ士をば、大小の預りものしたると仰られ、又武藝の心掛なき士を鉢植武士と呼せ玉ひ、又營侍などゝ御笑ひありしとなん、孔子は文事武備を一とし、詩書六藝を以て敎とせられしを、いかなれば人の師範となれる人、文字のみを知りて武をば忘れたるや、明末八股の弊盛んになりしより以降、彼西土にても儒生往々此弊あり、儒生の世用を成ざるは擧業の弊より起る、擧業本選擧の一路にして欠まじきものなり、唐虞は實選をもてし、周は造士といひ貢士といふ、漢代人を取るには賢良・方正・孝弟・力田といひて、射策對策より進て大官に至る、賢才を選擧するの法、是より善なるはなし、まことに國家才能を育するの良法なり、世降り風移りて、人情偸薄に變じ、明末に及んでは巨商豪農多金者は、皆博學屬文の學者を雇ひ、文之難易長短によりて謝金を與へ、あらかじめ對策應擧の文を作らしめ、諳誦默記して科場に及んで、其記する所を默書して其科に應じ、賄賂を以及第進仕を求むるに至る、甚しといふべし、顧炎武科業を廢して實選を復せんと云しは、確論といふべし、我皇國にて今の儒先生、多は其身もと卑賤にて、衆に秀たる記臆才能ありといへども、仕途に進むの道なけれ

ば、書を讀詩文を作りて、四書・小學・近思錄の講說可なりに出來ぬれば、侯家儒臣の缺に補入せられ、五口十口の米俸をたまはりて、童子に句讀を授け、殿中講釋等の事にて、甞て政路に用ひらるゝもの なし、是を用ゆるも亦活用少し、侯家にても固より儒者の名目を存するのみにて、此人の才學を用んと にはあらず、さて侯家の有司は多くは不學無術なれば、學問と云もの政教の本なる事を不ㇾ知、其職と し務とする所、只故例を株守するのみ、難事あれば帳面調べにて日を暮せるに、もし帳面にのせざる 新規の事出來ぬれば、泰平として、なす所をしらず、徒に手を束て心を痛るのみ、夫有司は學士を用ひず、 學士も亦みづから其卑下に安んじて不ㇾ能ㇾ有ㇾ爲、滔々天下皆此風なれば、大國の儒臣といへども、詩 文の巧拙を競ふのみ、さなければ訓詁章句に拘泥して、古聖人の立させ玉へる詩書の大意をも、群籍 緊要切實の處にも眼をとゞめず、浮靡軟弱にのみなり行なり、況や處士村學糊口を求るものをや、歎 息に堪べけんや、天下の書生多くはかくの如く卑近に安んじ、唐流のみを好みて、我皇國には正直雄 武の道ある事をしらず、其生れ得て人々具備する所の大和魂を失ひ、我皇國を夷狄とこゝろえて、自 ら其國をいやしむるに至る、歎くにも餘あり、かくて官務をば俗事と心得、武事をば度外に置くやう になりもてゆきては、何を以てか家邦天下の士を敎育せんや、天下の士をして皆今の儒者風とならし めば、軍法・農政・弓馬・鎗劍・柔術・算數等も學ぶものなきに至るべし、是大に孔門の敎へに背けり、今 の儒先生七十二弟子の列に加はり、其堂に登り其室に入らんとするもの、果して幾人かある、大家碩儒

の言を聞に、武事は學ずとも、武の大意に通ずれば可なりなど丶いへども、夫も人物高邁識量超絶なる人は格別、士大夫を教育するの常例にはあらず、和漢の人君名將卑賤より起りて天下を掌握せしは、漢の高祖、我邦の豐太閤など、かつて武藝熟練し丶事は聞ざれ共、戡靖の功を立られたり、され共文武を兼て熟練せし事なかりし故、太閤は一世にして滅び、高祖は景文に至りて漸く定れり、此二君は非常の英傑引てたとふべきに非ず、凡常人武事を學ばざれば、身體軟弱・筋骨柔脆・精神不健・氣象不厚、かくて主將頭職となるもいづくんぞ組下の士卒を指揮する事を得んや、しからば武士武人に慢侮誹笑せられて、物數とも思はれず、事に臨で敗辱をとる事必せり、されば先王の政教精究せずして、文武を分て二つとし、今日の實用に疎きは、處士横議の類にて、邪說淫辭といふべきものぞかし、かの教令禮樂天子より出で、天下道ある時に當りては、庶人の議すべき道にあらざるを、今の儒生いかにか心得て、文武並び須るの教を唱へざる、方今國家改革一新、弊政去りて美政行はれ、奢侈禁じて節儉行はれ、武文並舉て天下風靡せり、蔑稗すでに除きぬれども、嘉穀いまだ實らざるは、豈遺憾の事ならずや、され共國家德輝明章、如ニ日舒一、將下抑ニ虛文一而勵中實行上、天下之學風、雖レ不レ令將ニ自斌々一、予が此空論これを附贅懸疣に屬せんとす、果してしかあらんには、誠歡誠喜舞踏にたへざる事ならずや

○問曰、文武の道を講述し、忠孝の行を厚うすべき事、御條目の第一事に候、皇國の人は專ら皇國の教へに從ひ申べきに、學問する人多くは漢士の教へ詞章にふけり、訓詁章句等に拘泥し、或は阿蘭の

をしへ、解行窮理の書に刻苦して、政敎に於てはさせる實用なきも往々に有レ之候、是等學問の方其宜きを得たりとは申がたき者にや、いかゞ

答曰、皇國は上古より風俗自然に正直にて、何事も我意を立人情にもとれる事はあらず、東海の中に獨立して、四面皆海を環らして、漕運の利通ぜざる處なく、天地の中を得て四時氣候寒暖宜を得つれば、米穀の豐穰なる事萬國に類ひなく、衣食住の用、器械百物備りてかぐる事なし、されどもよき事は外國の道にても取用ひ玉ひて、妄に彼をいやしめ玉はず、傲慢なる事おはしまさざれば、漢土の道にもあれ、和蘭の敎にもあれ、よきは取、あしきはすてさせ玉ひて取捨宜を得、人民勇健にして禮讓あり、上下の別正しく簒奪の禍稀なり、されば寶祚永久に傳させ玉ひて、皇統一姓磐石の基を立させ玉へり、是皆人情の自然に從ひ正直を本とし、文武兼備へて規模廣大におはしますゆゑぞかし、後の世となりては、或は國學に僻し或は漢・蘭に拘泥する者出來りぬ、志あるものよく我神州の敎へを辨へ、みくにの人となるべし、さて外國の事にてもあしきを捨よきをとらば、我道の補益にあらずとは言べからず、一偏に拘泥すべき事かは

○問曰、正直なる敎へをば、古はやまとだましひと申しゝやうに承り候、いづれの書にか此稱出候にや、かつその大和魂といへる事、漢土周孔の敎とは大に違へる所も有レ之候事にや、

答曰、大和魂といへる事は、赤染衞門の集・本朝文粹・源氏物語などに見えたり、誠實にして忠直なる事

を稱する名目とみえたり、正直なる敎へは和漢の別無レ之事に候、尙書首篇に、帝舜伯夷を秩宗とし玉ふて、禮を典どらしめしに、「夙夜惟寅、直哉惟淸」せよといひ、夔に命ぜられて曲樂たらしめ冑子に敎へしに、「直而溫、寬而栗、剛而勿レ虐、簡而勿レ傲」とあり、直字を以て敎のはじめに置れたり、孔子は專ら詩書を以てをしへとせしに「詩三百、一言以蔽レ之、曰、思無レ邪」と申されき、無レ邪は即正直なるなり、又「斯民也、三代之直道」にしてと申されき、周の武王殷を亡して天下を治められし初、箕子は殷の仁人にて、上古の道を傳へ悟れる人なるにより、召出されて道を問はせらるゝに、夏禹王傳へし洪範の篇を以て武王に傳受ありき、其洪範には、すなはち王道正直と見えたり、又三德をいへる所にも、「一曰直、二曰剛克、三曰柔克」とあり、されば堯舜の敎へ「直而溫、寬而栗、高明柔克、沈潛剛克」などあると、一にして符節を合するが如し、さらば唐・虞・夏・殷のをしへ正直を先とし本としゝ事、其證明確なり、これ我皇國の大和魂といへるものにて、畢竟正直忠誠なる事をいへるなり、然らば和漢の敎へにして、別なき事をしろべし、さて直といふ事も、能學ばざれは其義を失ひぬべし、徑行直情といひて、蠻夷の俗をそしれる語もあるなる、されば孔子も「好レ直而不レ好レ學、則其蔽也絞」といはれ、「又吾黨之直者異レ之」とも申されき、よく辨へて其眞義を會得すべし

○問曰、敎法に古今の沿革ありて一樣ならず、いづれを正路といたし候や

答曰、敎の法古今の別あり、皆時王時賢の時勢を察して沿革し玉へるなり、されば其上古の敎の簡約に

はしかず、古への人を敎るは皆實用實事なり、後世の如く偏固なる敎はあらず、たとへば小兒には始て讓る事をしゆるが如き、唯倫彝の事のみにて、皆脩己治人の外に出ず、其敎の文字に各簡要の眼目は有れども、偏固に定めたる事は無りき、孔子の敎は何事もみな詩書に本かれしなれば、先論語に本きて詩書に遡り、古道を研究して其要領を求るに、允恭克讓といひ、直溫寛栗といひ、剛克柔克などいへり、恭讓は文德の本にして講學の大要なり、孔子の德を溫良恭儉讓と子貢が賛しゝも、書の恭讓直溫に本づきつるなり、又孔子の禮讓を以て國を治めば何かあらんといへるも、本ヶる所あり、蓋堯は舜に讓り、舜は禹に讓れるを初として、四岳・稷・禹・皐陶・夔・龍・殳・斨・伯與・朱虎・熊羆相與讓れるを以て雍熙の和を致しぬ、文王の朝には大夫讓爲レ卿、士讓爲二大夫一、夫は畔を讓り、行人は路を讓りしかば、諸侯周に歸するもの多くして、遂に天下の三分が二を有たれたり、大學に「一家讓、一國興レ讓」といひ、內則に「始敎二之讓一」といひ、左傳・國語に讓は德之基也と云々、又「范宣子讓、其下皆讓、晉國以平、敎二世賴下之」と記しぬ、「君子尙レ能、而讓二其下一、是以上下有レ禮、而讒慝黜遠、由レ不レ爭也、謂二之懿德一」（襄十三）ともいひ、又「讓德之主也、讓之謂二懿德一、凡有二血氣一、皆有二爭心一、故利不レ可レ强、思レ義爲レ愈」（昭十、晏子之語）といひ、又「卑讓禮之宗也」といひ、「德莫レ如レ讓」（周語以向）といひ、穀梁には「人之所二以爲下人者讓」といひ、曲禮には「君子恭敬、撙節退讓、以明レ禮」といひ、文王世子に「與二我齒讓一」といひ、「諸父諸兄守二貴室一、子弟守二下室一而讓」といひ、「揖讓而治二天下一者、禮樂之謂也」といひ、禮運

に「刑仁講讓」といひ、祭儀に「致讓」といひ、家語に「雍讓」といひ、周禮に「大司徒教讓、則民不爭」といへるの類、經典諸子讓德を演說する事甚多し、詩には「受爵不讓、至于己斯亡」角弓といひき、孔子の至德を以て稱せらるゝは、泰伯と文王のみなりき、泰伯の三たび以天下讓、文王の天下を三分して其二を有ちながら、殷に服事せらるゝは恭讓の極なるを以てなり、恭讓の德其重んずべく貴ふべき事如此、凡人の相爭ひ相鬪ふは、恭讓なきによれり、能讓德を操れば、貪戾爭鬪の事なく、諸侯背叛の患なし、是薰點の化を致す本なり、孔子の時昔節甚希なり、其祖述憲章せられしは、詩書に本づかれしにて、孔子又「禮云禮云、玉帛云乎哉、樂云樂云、鐘鼓云乎哉」、及先進後進の禮樂を論じて、我は先進に從はんと仰られ、又「不學禮無立、不學詩無言」と申され、「以禮讓治國何有、禮與其奢寧儉」と申され、「子所雅言、詩書執禮」と云へるの類、凡論語の答問多く詩書に本きて、其教へ寬厚平坦、かつて微妙の空論を說玉はず、其教を受る者人々喩り易し、周末に至り性善・性惡・白馬非馬・堅白同異の論起り、世益降り五運。五行。虛無・寂滅・生剋・配當の說行はれ、學問空理に陷り、官務儒自二道に別れ、文武兩岐、雅俗殊途となり、又後漢の時文學大夫牴牾して不相容、空理體になりて、先王實踐の學蕩然として地を掃へり、是より以後晋に淸談、唐に詩賦、宋明に理學行はれて、先王詩書之教再興る事なし、孔子の春秋內を貴び、外を卑むる意味を知れるもの少うして文人は不知武、武人不通文、或は暴戾、或は軟弱にして、詩の允文允武、書の乃武乃文といへる事

をもうはのそらに心得、堯・舜・周・孔の教、武事文事一なる事を辨へずして、書を讀み道を談ずれ共、國家の長策を不レ知、堂々華夏衣冠之邦終に羶腥の有となれり、明の亡しとき、東南の一壁には、詩を賦し文を作るのみして、一人も國家の用をなしゝ者なかりき、毛奇齡は剃髮して淸に降り、何楷は耳を馘せられ、宗室の藩王、殿閣の大臣ことごとく皆冕を裂裳を破りて、奴兒氏の臣妾となれり、偶洞曹淳耀が輩僅に知レ義といへども、書生不レ知レ兵、投レ河懸レ縊て匹夫匹婦の諒をなすのみ、彼が爲に其殘虐を煽するのみなりき、噫一詩三軍を防ぐべけんや、舟中大學を講ずるも、亦何の益あらんや、宋明の亡びたるは一軌轍に出るものにて、西土百王の聖靈もし地下に於て有レ知ば、豈啻被髮左衽の歎のみならんや、余が學流の正邪未詳に、其何れか是何れか非なるを知る事あたはざれ共、實用をすてて空理に馳するは、決て先王の道に違へるを知れり

○問曰、唐虞三代の教法政道、孰かこれを傳へ候や

答曰、古の教法政道、詩書に本きて徵を取るべし、又先秦の諸書證すべきもの亦多し、昔帝堯は欽明・文思・允恭・克讓の御德おはしまして、其道上下に格り、四方に及びたりき、欽はつゝしみて輕卒ならざるなり、明はあきらかにして見違ひなきなり、文はあやかざりなり、あやかざりあれば、物に應じ事を處するに、其接遇のあひだやはらかにしてそひやすく、且は物のあやめ分明にて、條理亂れぬ意を含めり、是即禮樂の事なり、思は慮の深きなり、恭はつゝしみうやまふ事にて、形貌にあらはるゝ

なり、譲は其身を卑下し、人と争はざるなり、是堯の徳貌を述たるなり、堯此徳ありて克顯徳を明にして九族を親しみ、之を推て遂に雍熙の化を致せり、さて其第一の政事は、羲和に命じて天文を正し、時候の違ひなからしめ、農業の時を授らる、さるは食は人民の急務、一日も其備を忽にすべからざる者なればなり、周先祖后稷、稷に后として民に稼穡を教へ、禹は司空となりて百務の揆度を總り、孔子の重んずる所食を第一とせられしも、亦此意なり、さて其善政良法は既に立ぬといへども、賢者にあらざれば之を行ふ事能はず、因て疇これにしたがはん、時に若ふ者あらば登庸せんとはからせられて、しかしてのち賢者を擇み求めて山川を治めしめ、民の生産を備しめられ、遂に舜の大孝を叡察して、其位を譲らせらるゝなり、さらば孝は人道の本、百行の始めなるを知つべし、さて舜は五倫五教を敷せられしはいふもさらなり、百揆の官にありて勤方よく行屆き、四方の諸侯も服從しゝ故に、帝位を譲り與へられき、舜豈天子の御位を望まれんや、天下群后の中にて徳高き人に譲られしかども、堯帝ゆるしなければ、止事を得ずして其位を履、其政を攝せられしなり、帝舜攝政の首政堯帝と異なる事なし、璿璣玉衡を在して、天文を正し農時を授け、徧く群神を祀り、諸侯を覲て瑞を分ち與へらる、是君臣の義を正し玉へるにて、我今の世の御朱印なり、五載に一たび巡狩して諸侯の禮に答へ、そのついでに天下諸國の山川・地理・風俗をも觀察し、之等諸侯の禮式禮器等をも定められしなり、是事は蓋書文を同うし、車軌を同うする類ひなるべし、歸りて祖先を祀らるゝは、孝道を脩めらるゝなり、

群后來朝の時は、各をしてぞんじよりのかきつけを出さしめ、其國政を試みて賞罰を正し、善を施し惡を懲しむ、山川の治方も亦夫々吟味ありて、よく行屆きしなり、其武威をいへば四凶を誅伐して、天下皆之を畏れぬ、堯崩じて舜すなはち帝位に登りしに、まづ其先祖を祭りて孝道を天下に示され、さて群賢に詢り咨ひて、食哉惟時とぞ申されき、是亦食を以て第一とせらるゝなり、先王の治食を以て第一の要務とし、事、こゝに於てしるべし、賢德を用ひ讒邪を擯け、中國を固うし蠻夷を服せしめ、又禹をして水土を平げしめ、棄をして稼穡を調しめ、饑饉凶災の備へとし、契をして五刑を明らかにせしめ、垂をして百工の事を司どらしめ、殳斨・劍戟・弓矢等の武器を制せしめ、益に命じて山林藪澤を治めて、其出す所の骨角・毛羽・皮革・爪牙等の物を采て、文武の用具を制せらる、これ後世の所謂金工・木工・土工・革工・獸工の類ひなり、朱虎・熊羆は蓋し猛獸を獵する職によりて名づくるなるべし、百工備りて祭祀の禮、備急の具欠缺なし、因て伯夷に命じて秩宗とし、三禮を典らしめられて曰「夙夜惟寅、直哉惟清」せよと、又重ぬるに欽哉を以して其職をつゝしましむ、是禮を以て天下治むるの事なり、凡在廷の臣、賢を推して德に讓り、百官相和睦して職務とゝのふらざる事なく、政敎至らざる事なし、民の父母たる道盡せりと云べし、さて又夔に命じて典レ樂しめらる、樂は和樂を主とす、人の樂しみ悅ぶ所より感動し、發明せしめて善に道くなり、古への忠臣孝子の事實　文武を兼たる篇章をば、或は歌ひ、或は舞ひて、融々和睦してその敎をいれしむるなり、書の帝典に載つる所をば、先

王の敎を、施されし始とすべし、學者大に眼力をこゝに着て、聖賢の天下を治められし深慮精苦を思ふべく、後世諸子百家蜂起しゝより、迂儒定見なくして岐途に迷ひ、無レ據不根の迂說を主張し、唐虞三代之法典詩書の蘊奥をば置て不レ論、各その家言を立つるは、所レ謂處士横議するにてぞ有ける、是余が長歎息に堪ざる所なり、所レ謂先王の敎へは禮樂の二つのみ、舜命レ夔敎ニ冑子一しに、「直而溫、寬而栗、剛而無レ虐、簡而無レ傲」といへり、されば直は敎の本なり、洪範の三德「一曰正直、二曰剛克、三曰柔克」、長發の詩に「不レ競不レ絿、不レ剛不レ柔、敷レ政優々、百祿是遒」といひ、又「赫々姜源、其德不レ回」といひ、孔子は「詩三百、一言以蔽レ之、曰、思無レ邪」と宣ひ、「斯民也、三代之所ニ以直道而行一也」といへり、是孔子も三代の道は、正直を本として事を述られしなり、直は卽ち中庸の道にて、說文に「正見也、从レ乚从レ十从レ目、十目所レ見是直也」といへり、左傳「正レ曲爲レ直」といひ、禮記「先定ニ準直一、繩墨得レ中也」といへり、然則直は中直中正の義にて、偏倚せずして中を得るの謂也、孔子「吾黨之直者異ニ於是一、父爲レ子隱、子爲レ父隱、直在ニ其中一」とあるを觀るに、直は執レ一て權なきの謂には非らず、時の宜きを權て正中を得をいへるなり、古字直心を悳とす、悳に作り德に作る、皆直なる道を德と唱へしなり、後世にいたりて德に色々の名目をつけつるを以て、却ていりほかにむつかしくなりしぞかし、さて道字も亦直字の義なり、說文ニ「鎭所レ行道也、从レ辵从レ首、一達謂ニ之道一」といひ、爾雅に「直也」といへる註に、「無レ所レ屈也」といへり、首は說文には「頭也、古文作レ百」とあり、郊特牲に

は「首者直也」といへり、其疏に「直者正也、言首爲二一體之正一」といへり、又禮記に「頭容直」といひ、或は直は古之直字也と云、然らば則道德二字、皆直之義也、上古の敎へは樂を以て第一の敎として、さて直に本きて道德に進むの目當とし、剛克柔克して正直の道に歸せしめつるものなり、孔子「擧レ直錯二諸枉一、能使二枉者直一」とあるを、子夏解して「舜有二天下一、選二於衆一擧二皐陶一、不仁者遠矣、湯有二天下一、選二於衆一擧二伊尹一、不仁者遠矣」といへるは、直きき人を擧用ありと云るなり、後世多く直字の義を失て、是非邪正の見分けもなく、己が思ひ付のまゝに剛情をたてゝ、勘辨差別もなく、うまみもなきものを正直と心得るは、大なる誤なり、竹のすぐなる如く、將棊の駒の直に行が如なるを直といふは、直道の一端にて、其義を盡せるものにあらず、其義を盡さんとならば、孔子の語を玩味すべし、皐陶伊尹も只一筋に矢を放つ如く、大筒を打如く、權衡斟酌なくば、いかでか天下の重きに任じ大功を立得んや、先王世を治むるの道も、亦禮樂の二つなり、禮樂の二つは二つにして、其實二つならず、一にして相離れざるものなり、禮は嚴正なり、樂は溫和なり、孔子「禮之用和爲レ貴、知レ和和レ之、不下以レ禮節上レ之、不二亦可一レ行也」とあるは、禮樂の一にして相離れざるをとられしなり、禮樂は剛柔文武の德を成就せしむる敎具なり、禮は讓るを始として、「居處恭、執レ事敬、手容恭、頭容直、正二衣冠一、尊二瞻視一」するの事よりはしめ、經禮三百威儀三千、冠昏・喪祭・鄕射・鄕飮・吉凶・軍賓嘉に至りて、皆今日實用の行事なり、樂は禮に寄りて行はるゝものにして、詩を歌ひ干羽を持、舞蹈蹈躍して自ら彝

倫の道に進ましむるの敎なり、詩は鄕射・鄕飮の禮に載つる如く、關雎・白華・禾黍・鹿鳴など、時代により人情にかなへて、其感じ易く悟り易き篇章を歌舞せしむべきなり、我皇國にて新に之を制せんには、菅丞相の文德、楠廷尉の忠義、其他義經辨慶などの故事、小兒の口にも膾炙して、いひならひきゝならへる事を作りて樂章に施し、朗ものをして感動せしむべし、かゝらんには天下の蒼生德敎を蒙り、雍熙の化をいたさん事、掌を反すよりも易かるべし、夫先王の敎へ、道德仁義孝悌忠信の事、戶ごとに喩し人ごとに說て、耳提面命すべきにあらねば、樂を借て之を知らしむるの外に敎ゆべき術なし、聲音の道政を通ずと云て、風を移し俗を變る事、樂より速なるはなきぞかし、是禮樂を以て政敎を正し、天下を治るの大略なり、さて納言獻替の官、亦其人をえらぶべし、昔舜は龍に命じて納言たらしめ、讒を去姦を摘け、毀譽を試み邪正を督して、正敎の害なからしめき、讒說のものすでに退けば、賢人始て其力を申る事をうべし、帝舜政敎已に調て、さて最後に二十二人の賢良に詔して曰「欽哉惟時、亮天功」とあり、さて「三載考績、三考黜陟幽明、庶績咸熙」とあり、舜の政敎如是、唐虞の世以直溫寬栗爲敎、剛克柔克して其中を得せしめつるは、即堯・舜・禹、相授受する所の允執其中といふものにて、禮樂の敎へにぞありける、「皐陶謨允迪厥德、謨明弼諧」といへる、德は卽ち悳を行ふなり、直は正なり、正とは過不及なく、不偏不倚片つりなく、程よき中すみにて即極なり、極とは前後左右上下四方ひづみなき眞中にて、極めぬきたる中分なき所をいふなり、因て極を中と訓す、舜

の兩端をとりて其中を用ひられしも、正直にて曲りたる取計ひなきを云なり、「皐陶曰、都愼二厥身一修思レ永、惇叙二九族一、庶明勵翼、邇可レ遠在レ茲」と是堯舜の欽愼を本として、一身の孝弟より推して九族に及ぼし、邇より遠きに及さんとするなり、又都在レ知レ人といへるは、卽堯の「揚二側陋一咨若時登庸一」せらるゝなり、帝其難レ之といへるは、卽ち孔子の「才難其不レ然乎」と同じ、「知レ人則哲、能官レ人安レ民則惠」といへるは、堯の欽明より說出來るなり、「巧言令色孔壬」といへるは、卽ち難レ任人なり、「皐陶曰、行有二九德一、禹曰、何、皐陶曰、寬而栗、柔而立、愿而恭、亂而敬、擾而毅、直而溫、簡而廉、剛而塞、彊而義、日宣二三德一、夙夜浚明有レ家、日嚴祗敬二六德一、亮レ采有レ邦、翕受敷施、九德咸事、俊乂在レ官、百僚師師、百工惟時、撫二于五辰一、庶績其凝」と云るは、是敎二冑子一の古訓に本き、其義を演說せるなり、さて皐陶九德の目を論じて、「無レ敎二逸欲一、有レ邦兢々業々、一日二日萬機、無レ曠二庶官一、天工人其代レ之、天叙二有典一、勅二我五典一、五惇哉、天秩二有禮一、自二我五禮一有レ庸哉、同寅協、恭和衷哉、天命二有德一、五服五章哉、天討二有罪一、五刑五用哉、政事懋哉、懋哉、天聰明、自二我民一聰明、天明畏、自二我民一明威、達二于上下一、敬哉有土」と云へり、是卽堯舜二帝の敎法に遵ひ、不レ剛不レ柔、正直中極に歸せしめ、文德武事兼備へしめて、經世の大本を立んとするものなり、敎法一定する時は、實用の人材養育しつべし、然して後に賢哲俊乂を擇びて夥々の位を授け、人の儀表たらしめ、四時の耕作を初め、庶の績それぐにみな

成就せしむるなり、衣食すでに足り、日用の生産缺る事なければ、父子・君臣・夫婦・長幼・朋友の五倫を勅さしむ、或五典といひ、或五敎といふ、其實は同じ、五禮は五倫の禮なり、後世に吉凶軍賓嘉といへるも同じ、寅といふは欽といふに同じく、恭は恭讓なり、和衷は中庸の致ニ中和一と同じ、賢德あるものに命じて位にあらしむれば、服章を別ちて尊卑の差を立てゝ顯榮す、かくの如く五典・五禮・五服のおきて立といへども、猶したがはざるものある時は、五刑を立てゝこれを懲す、是即孔子のいへる政刑德禮の事なり、經世の大本盡せりといふべし、益稷の篇に、「帝曰、來禹、汝亦昌言」せよとは、言路を開くなり、「禹拜曰都帝予何言、予思日孜々」とは、人臣は職分を怠らず勤むるにあるをいへるなり、禹又洪水を治めて、民をして稼穡を務め、衣食に不足なからしむ、「禹曰都帝愼ニ乃在位一」といひ、「安ニ汝止一」といひ、「幾康」といひ、「弼直」といへるは、人君躬行を勤め、直臣を用ひ玉へといましむるなり、「五采五色」といひ、「六律五聲八音」といひ、「五言四鄰」といひ、「侯明撻記」といひ「時颺格承」といへるは、賞罰を明かにするなり、「敷納以レ言、明庶以レ功、車服以レ庸、誰敢不レ讓、不ニ敬應一」といへるは、昌言を用ひ有功を賞し、敬讓の道を起さしむるなり、「荒度ニ土功一、弼ニ成五服一、至ニ于五千一、州十有二師、外薄ニ四海一、咸建ニ五長一、各迪ニ有功一」といへるは、是土地を度り州郡を分ち、夫々に師長を立てゝ、人民を治めしむるの法制なり、法制を立て「迪レ德厥レ叙、施レ刑明白」なる故夔は音樂を司るによりて、音樂能調ひ、群后德讓り和ぎて、鳳凰來儀し、百獸率舞ふに至れり、こゝに於いて君

臣相むつまじくして、帝も歌を下して時を愼み、物のきざしをいましめよとうたはるれば、臣も喜びて人君の御心掛大事なることを申上、事をおこすには先王の憲を愼むべきをのべたりき、元首發起して政敎をつとめ、私なく明白なれば、股肱の臣下賢良多く、庶事康く治らざる事なきに引かへ、元首叢脞なる時は、股肱の臣皆惰りて、萬事盡く墮るゝに至るとなり、君臣共に和らぎて、且歌ひ且戒しめ、雍熙の化を致しゝを見べし、さて又禹貢に禹の水を治めし手續きを審に記たるは、是經世の要務、學士の心を用ふべき所なればなり、敷レ土始とし、隨レ山刊レ木て道路を通じ、奠二高山大川一て洲境分界を正しくし、しかして又白壤・黄壤・赤埴・墳・埴・壚など、其地々々の土性を辨別し、上々・中々・下下九等を以て土壤の肥瘠を分ち、貢賦の制を蠶・桑・草木・漆・絲・魚・鹽より金・三品・瑤琨・篠簜・礪砥・砮丹・菁茅・絺紵・球琳・琅玕に至るまで、諸國の産物遺る所なく調べかたゆきとゞきぬるは、是亦政事の一端不レ可レ缺ものなればなり、是に於て九州・九山・九川・九澤、皆その治方行屆き、又甸・侯・釆・男・要・荒・流等の服を立て、地の遠近により賦税の等數を制し、總銍秸粟其宜に從て賦を納しめ、さてその末に「揆二文敎一奮二武衛一」といへり、大禹の成功によりて、文武の政敎、西は流沙に至り朔南に蒙り、四海のくまぐに至るまでも、德化の及ばぬ所なかりき、孔子禹を賛して、「禹吾無二間然一、菲二飲食一、致二孝於鬼神一、惡二衣服一、致二美於黻冕一、卑二宮室一、竭二力於溝洫一、禹吾無二間然一」と申さる、是禹の孝道を先とし禮樂を修め玉ひ、水理を導き農耕を勸め、人をして飢寒の患を免れしめ、爭闘叛逆起る事なくし

て、聲教四海に及べる所なり、夏の帝王世々此政教に依て天下を治めしに、桀王に至りて先王のおきてにそむき、稽事を舍て衆を恤まず、「時日曷喪」といふに至て、つひに天下を失ひき、殷湯の祖契は唐虞の世司徒の職に在して、五教を敷く事を司どれり、湯の起りし時己を罪すと云へり、己を罪するは即ち帝堯の允恭克讓なり、湯すでに唐虞の道を傳へしに、伊尹も亦堯舜の道を以湯を相けき、孟子に稱すらく、伊尹湯王の聘禮をうけつる時、「與レ我處ニ畎畝之中一、由レ是以樂ニ堯舜之道一、吾豈若レ使ニ是民爲ニ堯舜之民一哉」といへりと、人稱すらく、伊尹がいはく、「予天民之先覺者也、予將下以ニ斯道一覺ニ斯民上也、非ニ予覺一レ之而誰也」と、伊尹堯舜の道を傳て、其自任じゝ事如レ此、又有ニ仲虺一て助レ之、墨子非命篇、「昔三代暴王桀・紂・幽・厲」云々、「甚惡ニ恭儉一」云々、「先聖患レ之、是以書ニ之竹帛一、鏤ニ之金石一、琢ニ之盤盂一、傳ニ後世子孫一」と、是先聖王恭敬を傳ふる事、仲虺之誥曰、云々、「不レ愼ニ其德一、天命焉葆」といへるも、仲虺恭德を傳ふるなり、又詩の長發に「湯降不レ遲、聖敬日躋」云々、「不レ競不レ絿、不レ剛不レ柔、敷レ政優々、百祿是遒」といへるは、湯王恭敬にして剛柔文武の中を得、堯舜禹授受する所の允中の道にかなへるなり、又魯語に「昔正考父校ニ商之名頌十二篇於周大師一、以レ那爲レ首、其輯之亂曰、自レ古在レ昔先民有レ作、溫ニ恭朝夕一、執レ事有レ恪、先聖王之傳レ恭、猶不ニ敢專一、稱曰レ自レ古、古曰ニ在昔一、昔曰ニ先民一」とあり、恭讓は堯舜の敎なり、古へ恭讓の道を重んずる事如レ此、韓詩外傳に、孔子は聖人の中なる者也、詩曰、「不レ競不レ絿、不レ剛不レ柔、（湯之德也）中庸和通之謂也」と、是孔子殷の道を得られしを

いふなり、又太甲湯に繼いで起る、孔叢子執節篇に曰、「太甲在レ喪、不レ明二人子之道一、伊尹强二其君一以二孝道一」と、殷の本紀に「太甲修レ德、伊尹嘉レ之、迺作二太甲三篇一、褒二帝太甲一稱二大宗一」と孝德を修むるは、先王の道を傳ふるなり、詩の列祖は中宗を祀也、鄭玄曰、「中宗殷王大戊、成湯之玄孫、有二桑穀之異一、懼而修レ德、殷道復興、故表二顯之一、號爲二中宗一、又豐年穰々、來假來饗、降レ福無レ疆、顧二予烝嘗一、湯孫之將」、無逸に「周公曰、昔在殷正中宗、嚴恭寅畏、天命自度、治レ民祗懼、不三敢荒二寧肆一、中宗之享レ國七十有五年」と、是中宗賢にして先王の道を興復し、伊涉臣扈巫咸の賢を用ひて中興を致しゝなり、四世の孫を祖乙といふ、君奭に曰、「時則有二若巫賢一」して政教を助け、殷道又興れり、此より後殷道復亂れしに、「盤庚涉二河南一、治レ民行二湯之政一、然復百姓由寧、殷道復興、諸侯來朝、以三其遵二成湯之德一也」史記又孔子曰、「古之王者、臣有二大功一、死則必祀二之於廟一、所下以殊二有績一勸中忠勤上也、盤庚擧二其事一、以厲二其世臣一、故僻焉」、凡盤庚三篇中に出す所の要語を見るに、「恪二謹天命一」といひ、「汝克黜二乃心一、施二實德于民一、至二于婚友一」といひ、「汝無レ侮二老成人一、無レ弱二孤有幼一」といひ、「今予命二汝一一、無二起レ穢以自臭一、恐下人倚二乃身一迂中乃心上」と、是正直の道を守れといふなり、「各設二中于乃心一」よと云は、剛克柔克して中庸を得よとなり、「今予其敷二心腹腎腸一、歷告二爾百姓于朕志一」といふは、無造作にすぐなる心を明すなり、「式敷二民德一、永肩二一心一」と云は、德は悳なり直き心なり、イは行也、直道を行ふなり、一心といふも、亦專一にして多端ならず、直に行ふ事也、漢成帝詔曰、「夫洪範八政、以レ食爲レ首」と

云々、「善不レ云乎、服レ田力レ穡」と、是成帝の詔盤庚・洪範を傳へ、穡を勤めし由を述て農を勸めつるなり、啻は孝道を行ふの本なり、「楚孝王囂被レ疾、天子聞レ之下レ詔曰、蓋聞天地之性、人爲レ貴、人之行莫レ大二於孝一云々、善不レ云乎、用レ徳彰二厥善一」と、是盤庚孝道を本とし丶由を述て、楚王の孝を賞し丶也、又盤庚に「乃有二不吉不迪、顚越不恭、暫遇姦宄一、我乃劓殄二滅之一、無二遺育一、無レ俾レ易二種于茲新邑一」とあり、是盤庚恭敬慈愛なるのみならず、文武兼道して唐虞夏の道を傳へしなり、武丁は盤庚の孫帝辛の子道を甘盤に學び、傅說の賢を試びて虐政を改め、先王の政教を復しぬ、君奭に「在二武丁時一、則有二若甘盤一、率二惟茲一有レ陳、保二乂有殷一、故殷禮陟配レ天、多歷二年所一、天惟純佑命、則商實、百姓王人罔レ不二秉レ徳明一レ恤、又念二始終一典二于學一、厥徳修罔レ覺」と、喪服四制に、書曰、「高宗諒闇、三年不レ言、善レ之也、王者莫レ不レ行二此禮一、何以獨善レ之也、曰、高宗者武丁、武丁者殷之賢王也、繼レ世即レ位、而慈良二於喪一、當二此之時一、殷衰而復興、禮廢而復起、故善レ之善レ之、故載二之書中一高レ之、故謂二之高宗一、三年之喪君不レ言一、書云、「高宗諒闇、三年不レ言、此之謂也」と、又說苑敬愼篇曰、「至二殷王武帝之時一云々、側レ身修レ行、思二昔先王之政一、興二滅國一、繼二絕世一、舉二逸民一、明二養老之道一」と、是專ら孝道を以て敎へを成し、先王の政を復せしなり、無逸に「其在二高宗一、時舊勞二于外一、爰曁二小人一、作其即レ位、乃或亮陰三年不レ言、其惟不レ言、言乃雍、不二敢荒寧一、嘉二靖殷邦一、至二于小大一、無二時或一レ怨、肆高宗之享レ國、五十有九年」と、舊しく外に勞し小人と共にせし故、下情にも通達し、險阻艱難をも嘗めて能しり、徳

慧術智も人にすぐれし故にこそ、武事にも尤力を用ひしなれ、盤庚沒せしよりこのかた、殷道衰へ楚人叛レ之しかば、武丁三年不レ言、政事は冢宰に在りて、孝子の情を盡され、潜伏晦養して良臣興起の時を待つ、於レ是乎世革り、草澤の中英雄なきに非ざれば、雲雨を待て起るが中に、傅說を板築より擧げ、南討北伐して天下を定む、先二文德一、隱二武事一、時を察して動く、動けば則威あるといふものなり、詩に「稼穡匪レ解」といふ時は、儲蓄武備の厚きを知れり、「撻二彼殷武一、奮伐二荊楚一」といひ、易に「高宗伐二鬼方一」といへる、荊楚は南蠻なり、鬼方は北狄なり、「唐虞以上曰二淳維一、殷曰二鬼方一、周曰二獫狁一、漢曰二匈奴一」北方の强、中國を窺ふ事久し、武丁戎狄を攘け、中興の功を立つ、天子第一の職分なり、武丁之孫を祖甲といふ、無逸に「其在二祖甲一、不二義惟王一、舊爲二小人一、作其卽レ位、爰知二小人之依一、能保二惠于庶民一、不三敢侮二鰥寡一、肆祖甲之享レ國、三十有三年、自レ時厥後立レ王、生則逸、生則逸、不レ知二稼穡之艱難一、不レ聞二小人之勞一、惟耽樂之從、自レ時厥後、亦罔レ或二克壽一」して、かく殷道衰へしかども、殷は質を貴びて、周の文弱陵遲せしが如くならざりし故、湯より武丁にいたるまで、賢聖の君六七起りて祚を永せり、紂が暴惡なりしかども、微子・微中・王子比干・箕子・膠鬲などいへる賢人ありしかば、先聖の遺訓は地に墜ずして、人にありしと見ゆ、多方に「惟成湯云々、至二帝乙一罔レ不二明レ德愼一レ罰、亦克用勸」とある時は、帝乙は左までの事はなかりしかど、紂一代の暴惡により、殷士の膚敏なるも、力及ばずして殷は遂に亡にけり、紂が時に當りて、文王は五年七伐の武功を立、能文德を修め、關雎の

化をいたされ、「大夫讓爲レ卿、士讓爲二大夫一、行者讓レ路、耕者讓レ畔」りて、虞芮の君を初め、四十餘國の君共德に歸し、天下を三分して其二分を有ちたれ共、周の「先王不窋、朝夕恪勤、守以二惇篤一、奉以二忠信一、奕世載レ德、不レ忝二前人一」といへるに則り、」取て代らざりしは是讓德なり、又無逸に「周太王王季、克自抑畏、文王卑レ服、卽康功田功、徽柔懿恭、懷二保小民一、惠二鮮鰥寡一、自レ朝至二日中昃一、不レ遑二暇食一、用咸和二萬民一、文王不三敢盤二于遊田一、」又文王の詩に「世之不レ顯、厥猶翼々」といひ、「穆々文王、於緝煕敬止」といひ、大學解して、「爲二人君一止二于仁一」云々、又文王篇に「無レ念二爾祖一、聿修二其德一」是殷周共に孝道を主とするなり、又文王を賛して「無下能往二來茲一、廸彝敎中文王上、蔑三德降二于國人一」又「維此文王、小心翼々、昭事二上帝一、聿懷二多福一、厥德不レ回、以受二方國一」と、又有聲の篇に「文王受レ命、有二此武功一」云々、適に追て來孝すといへる時は、文王の孝德を貴び、恭讓に本き武功を立らるゝ事、其祖不窋太王王季泰伯が堯舜の時世より傳へ來りし敎を守られ、虢叔・閎夭・散宜生・泰顚・南宮括の徒ら心力を合せて補佐し、先王の恪勤・惇篤、抑畏・徽柔・懿恭・文武・忠孝・孚信・敬愼等之敎へを相傳へて、地に墜ちざるなり、武王も文王も敎へを奉じ、木主を載せて紂を討し、偃レ武修レ文て周家を起す、祖宗の敎へに遵ふなり、下武篇に「下レ武維周、世有一哲王二云々、世德作求、永言配レ命、成二王之孚一云々永言孝思、孝思維則、媚二茲一人一、應二侯順德一、永言孝思、昭哉嗣レ服、」又「君奭に「天難レ諶、乃其墜レ命、弗レ克下經歷嗣中前人恭明德上」と、順德といひ明德といふ、皆指二孝德一也、武王既に親く文王より古典

訓辭を傳へられ、道を求むる事厚く、又周公賢にして政敎を助け、中夜に起き坐して旦たを待ち、吐哺握髮して賢人を禮待せられて、殷の亡びし時も、箕子を召て先王彝倫の道を訪はれけるに、箕子洪範を以て武王に傳へし、一には五行民生日用生產を立るの本、二には人を擇ぶの法、三には食貨、四には祭祀・職官の事、五には天子は天下の父母なる由をいふ、皇極とて中道至極の道を立てゝ、天下人民の表準規則とす、凡庶民たるもの惡に與せずして、德を好むものには福を錫はり、才能あるものをば進め、正直なるものには祿を與へて富貴ならしむ、遂に直道を賛して曰、「無レ偏無レ陂、遵二王之義一無レ有レ作レ好、遵二王之道一無レ有レ作レ惡、遵二王之路一、無レ偏無レ黨、王道蕩々、無レ黨無レ偏、王道平々、無レ反無レ側、王道正直、會二其有極一歸二其有極一曰、皇極之敷言、是彝是訓、于レ帝其訓」とすと、又六に三德一曰正直、二曰剛克、三曰柔克、平康正直と是正直を本とし、剛柔相和し、寛猛相濟ひて中を得るの義をいふなり、卽ち書の首篇「帝曰、夔、命レ汝典レ樂、敎二冑子一、直而溫、寛而栗、剛而無レ虐、簡而無レ傲、」と、是直溫寛栗は剛柔相濟の義にして、直を以て敎の首とす、彼是相符合す、これに據て見れば、箕子傳ふる所は、唐虞の古典訓辭なる事疑ひなし、是より前周の文王は、楚の鬻熊を師とせし事、史記及び諸子に見ゆ、召穆公蕩の詩を作りて、文王曰、「咨咨女殷商、匪二上帝不一レ時、殷不レ用レ舊、雖レ無二老成人一、尙有二典刑一」といへるは文王の時先王の典刑古訓存在せし事證すべし、又楚は蠻夷にして、中國の如く兵燹の災を受し事なければ、三代の古訓を傳へしにや、國語に觀射父・左史・倚相の輩古典訓

辭に能通じたる由にて、左史・倚相は三墳五典八索九丘に通じたりといふものありしに、里革曰、前に祈招の詩を尋しに如ざりしといふに、然らば貴殿には知られたるかといひければ、里革祈招の詩を誦したる事あり、さあれば此比までは先王の古典も殘りありし事疑ひなし、楚には士亹・里革・塞叔が輩古典訓辭に能通じたる故に、其論ずる所皆先王の敎へに非ざる事なし、赫敬山も楚に賢人多き事を論せり、武王崩ずるに及んで、成王幼弱なりしかば、周公政を攝し、禮樂を起し、先王の政敎を興復せり、即ち今傳ふる所の三禮なり、全く周公の手に成ずとも、禮樂の敎存するもの甚多し、豈盡く廢すべけんや、成王も亦周公の補佐によりて、「顯々令德、穆々皐々、宜レ君宜レ王、不レ愆不レ忘、率二由舊章一」と、舊章は即舊典、先王の古典訓辭なり、又除レ喪嗣レ位て廟に朝する詩に、「於乎皇考、永世克孝、念二茲皇祖一陟二降庭一止、維予小子、夙夜敬止、於乎皇王、繼レ序思レ不レ忘」とありて、孝行を第一とせり、夙夜敬止といへるは、即ち二穆々文王、於乎緝熙敬止一すといふに則とれり、孝敬は唐虞傳へ來りし所の古訓なり、成王より康王に至るまで、刑錯こと四十年なりしかども、其子昭王は南征して復らざりき、穆王世をつぎし時王道微へ、文武の道缺たるを閔へて、「命二伯冏一仲二誡大僕國之政一作二冏命一」とあれば、位を受るの初は政を勤めしかど、車轍馬跡天下に周くして政敎亂れしかば、祭公謀父諫曰、「先王耀レ德、不レ觀レ兵、夫兵戢而時動、々則威」云々、懿德といひ修意といひ、修言・修德・修刑など、先王の古典を擧て言を盡せしかど、用ひられずして、荒服のもの至らざりき、厲王に及んで好レ利暴虐なりしか

ば、「芮良夫諫曰、夫王人者、將ニ導レ利而布ニ之上下一者也、使ニ神人百物、無下不レ得レ極、也中猶レ曰ニ怵惕懼ニ怨之來一也、故頌曰、思ニ文后稷一、克配ニ彼天一、立ニ我蒸民一、莫レ匪ニ爾極一」と、是皆先王の古典を引き切諫せしにて、道の人に存する事しりつべし、厲之亂に、召公・穆公・虢文公等宣王を輔け、文武成康の遺風を復す、詩人賛美して六月を賦す、六月は宣王北伐するの詩なり、序に「鹿鳴廢則和樂缺矣、四牡廢則君臣缺矣、皇々者華廢則忠信缺矣、棠棣廢則兄弟缺矣、伐木廢則朋友缺矣、天保廢則福祿缺矣、采薇廢則征伐缺矣、出車廢則功臣缺矣、杕杜廢則師衆缺矣、魚麗廢則法度缺矣、南陔廢則孝友缺矣、白華廢則廉耻缺矣、華黍廢則蓄積缺矣、由庚廢則陰陽失ニ其道理一矣、南有嘉魚廢則賢者不レ安、下民不レ得ニ其所一矣、崇丘廢則萬物不レ遂矣、南山有臺廢則爲レ國之基隊矣、由儀廢則萬物失ニ其道理一矣、蓼蕭廢則恩澤乖矣、湛露廢則萬國離矣、彤弓廢則諸夏衰矣、菁々者莪廢則無ニ禮儀一矣、小雅盡廢則四夷交侵中國微」と、「孔穎達曰、菁々者莪以上、小雅之正經、王者行レ之、所下以養ニ中國一而威中四夷上、今盡廢則王政衰壞、中國不レ守、厲王廢レ之微弱、宣王能擧レ之而復興、故傳而詳レ之」と能詩を解すと云べし、六月に「四牡修廣、其大有レ顒、薄伐ニ玁狁一、以奏ニ膚公一、有レ嚴有レ翼、共ニ武之服一、共ニ武之服一、以定ニ王國一」と、嚴翼の二字典謨に本づく、又曰、「文武吉甫、萬邦爲レ憲」と、中國を守り蠻狄を付くる事、文武兼ぬる人にあらざれば能はず、崧高は「尹吉甫美ニ宣王一也、天下復平、能建レ國、親ニ諸侯一、褒ニ賞申伯一、焉不レ顯、申伯王之元舅、文武是憲」云々、申伯之德、柔惠且直、揉ニ此萬邦一、聞ニ于四國一」と、烝民は「尹

吉甫美二宣王一也、任レ賢使レ能、周室中興、天生二烝民一、有レ物有レ則、民之秉レ彝、好二是懿德一、後世學問理窟に入り、己が私見を立てゝ古書を自在に解するゆへ、古書の眞面目を失へり、秉彝を天の與ふる所の良心とし、人心自然に存する所とするは、大なる謬りなり、秉は古訓執也、執はかたくまもるの意にて、執レ事敬・又秉レ德といひ、執禮・執中といひて、いづれも力を用ひて、彝倫の道を失はざるやうにとり守る事なり、詩の敎へ文武・忠孝・修身・經濟の道備らざる事なし、後世の學者詩をすてゝ、專ら此新說を守るは、孔子の學に非ず、凡詩に載する所、文武の道ならざるはなく、殊に仲山甫は中興の賢臣、古典を傳ふるものなり、一二を擧ていはんに、「仲山甫之德、柔嘉維則、令儀令色、小心翼々、古訓是式、威儀是力云々、旣明且哲、以保二其身一、夙夜不レ解、以事二一人一云々、維仲山甫、柔亦不レ茹、剛亦不レ吐、不レ侮二矜寡一、不レ畏二彊禦一云々、人亦有レ言、德輶如レ毛、鮮二克擧一レ之、我儀二圖之一、維仲山甫補レ之」と、此仲山甫先王の古訓に式り、威儀を謹み剛柔中を得、文武兼備の大將なりければ、宣王用ひて中興をなせしなり、晋語四に「陽有二夏商之嗣典一、有二周室之師旅一、樊仲之官守焉」、註に樊仲は仲山甫、食二采于樊一と言時は、夏殷の政敎訓典、周室師旅の法も陽に存在すと見へたり、是において仲山甫の文武を兼たるは、夏殷及び周の古典を傳へられしによることとしるべし、孔子も「爲二此詩一者、其知レ道乎、故有レ物必有レ則、民之秉レ彝也、故好二是懿德一」と、仲山甫嚴毅方正、智勇權略、出將之任他に讓らずといへども、柔嘉令儀、明哲文武兼備したるによりて、道を知るとは仰られたるなら

ん、孟子は斷章取義して家學固有の說に牽强傅會せしものなり、其實は典謨に仁儀禮智の字並び稱するものなく、堯典に仁の一字だに無レ之、四字並び稱する周末に起る、知道の二字烝民の詩を熟讀して自ら明白辨を待ず、常武の詩は「召穆公美二宣王一也、有二常德一以立二武事一也、赫々業々、有嚴天子、王舒保作、匪レ紹匪レ遊云々、如レ雷如レ霆云々、王旅嘽々、如レ飛如レ翰、如レ江如レ漢、如二山之苞一、如二川之流一、緜々翼々、不レ測不レ克、濯征二徐國一」といへる、文武剛柔の中を得、且兵を用ふるの法、節制の宜を得、孫子所論「其疾如レ風、其靜如レ山」などいへる、蓋本二于此一ものなり、詩の武備を兼る事如レ此、又宣王藉田の禮を廢せしにより、「虢文公諫曰、夫民之大事在レ農、上帝之粢盛於レ是乎出、民之蕃庶於レ是乎生、事之共給於レ是乎在、和協輯睦於レ是乎興、財用蕃殖於レ是乎始、敦厖純固於レ是乎成、是故稷爲二大官一」云々、三時務レ農、而一時講レ武、故征則有レ威、守則有レ則」と、是文武を兼るの政教にして、先王の遺典なり、「宣王欲レ得下國子之能導二訓諸侯一者上、樊穆仲曰（仲山甫之謚）魯侯孝王曰、何以知レ之、對曰、肅二恭明神一、而敬二事耆老一、賦レ事行レ刑、必問二於遺訓一、而咨二於故實一、不レ于レ所レ問、不レ犯レ所レ咨、王曰、然則訓二治其民一矣、乃命二魯孝公於夷宮一」と、是訓導の道は孝を以て第一とす、即ち堯の遺法なり、魯侯遺訓に問ひ、故實に咨るといふ時は、先王乃遺典猶存し、文足れる故なり、宣王の世、召公・穆公・虢文公、諸賢相共諫爭して中興を致す、厲王暴虐の後を受るといへ共、其人存すれば其政擧すといへる、此等の事をいふならし、其子幽王に及んで、「媟二近小人一、飲レ酒無レ度、天下化レ之

君臣上下、沈湎淫液、武公既入、而作㆓賓之初筵㆒㆑と、其詩に曰、「賓之初筵、溫々其恭、其未㆑醉止、威儀反々」と、武公恭德を傳ふるなり、又淇奧の詩は美㆓武公之德㆒也、其詩に切瑳琢磨は學問をいひ、瑟僩赫咺は自修の功をいふ、「寬綽重較、善戲謔兮、不㆑爲㆑虐」と、是剛柔中、適張弛得㆑宜にて、文武兼備ふることをいふ、抑の詩は武公刺㆓厲王㆒、亦以自敬也、其詩に曰、「抑々威儀、維德之隅、無㆑競維人、四方其訓㆑之、有㆓覺德行㆒、四國順㆑之、訏㆑謨定㆑命、遠猶辰告、敬愼威儀、維民之則」と是恭讓正直の道は、四國の人皆從ふゆゑんにして、皆先王の敎を傳ふるなり、又曰、「罔㆔敷㆓求先王㆒、克共㆓明刑㆒」と古人道を求るの厚き、私智を用ひずして克昔を則とし、言必先王を稱す、明刑は明法、即ち先王の古典、是以先王の古典訓辭地に墜ずして在㆑人をしるなり、君子は大なるものを記し、小人は小なるものを記すと是なり、又曰、「肆皇天弗㆑尙、如㆓彼泉流㆒、無㆓淪胥以亡㆒、夙興夜寐、洒㆓掃廷內㆒、維民之章、修㆓爾車馬、弓矢、戎兵㆒、用戒㆓戎作㆒用逷㆓蠻方㆒」と、古人盡く先王に則り、夙興夜寐といへるは、日用行事第一の勤にて、文王世子篇にも鷄初鳴而起といひ、內則篇首に鷄初鳴而起といひ、孟子に鷄初鳴而起といひ、詩書に夙興夜寐と稱するもの不㆑可㆓勝數㆒、夙興夜寐の一事によりて、其精心を用ふるの剛毅勇進なるを見る、文武の備へ至らざる事なきは、夙夜勇進するの强めに由るべし、又曰、「質㆓爾人民㆒、謹㆓爾侯度㆒、用戒㆓不虞㆒、愼㆓爾出話㆒、敬㆓爾威儀㆒、無㆑不㆓柔嘉㆒」と、此章諸侯己れが守るべき所の法度を謹み、人民を撫順し粮食を蓄へ、武器を備へ不虞の手當をなし、敎令を愼み威儀を敬む、是皆堯舜禹湯傳

ふる所の訓辭なり、又曰、「相レ在ニ爾室一、尙不レ愧ニ于屋漏一」と、是大學にいへる愼獨の事、中庸にいへる所レ不レ視所レ不レ聞に戒愼し、面從後背の心なく、表裏一致にして少しのいつはりなく、正しく直なるをいふ、又「溫々恭人、維德之基」と武公自恃み自高ぶる心なきをいへり、楚語、「左史倚相曰、昔武公年九十有五矣、猶箴ニ儆于國一曰、自レ卿以下、至ニ于師長士一、苟在レ朝者、無下謂ニ我老耄一而舍上レ我、必恭ニ恪於朝一、々夕以交戒レ我、聞ニ一二之言一、必誦志而納レ之、以訓ニ道我一、在レ輿有ニ旅賁之規一、位宁有ニ官師之典一、倚レ几有ニ誦訓之諫一、居寢有ニ暬御之箴一、臨レ事有ニ瞽史之道一、宴居有ニ師工之誦一、史不レ失レ書、矇不レ失レ誦、以訓ニ御之一、於レ是乎作ニ懿戒一以自儆也、及ニ其沒一也、謂ニ之叡聖武公一、韋弘嗣曰、懿詩大雅抑之篇也、讀爲レ抑」と、武公九十有五猶進益を求めて不レ倦、自儆めて幽王を規諫す、其言剴切懇到、恭讓自持して幽王の驕慢暴虐を抑へて、盡く先王の古訓遺敎に則るものなり、抑の末章、「聽ニ用我謀一庶無ニ大悔一」と、其鑒戒至れり、先王の典賢人守りて不レ失こと歷々明章なり、幽王昏亂用ひずして亡びしかば、武公將レ兵平王を補佐して大に有レ功、平王命ニ武公一爲レ公と、「武公學問之勤、自修之功、才德優長、文武兼通、」犬戎を攘け王室を輔く、況や年九十有五猶抑損す、人臣の忠義古今一人のみ、抑武公の傳ふる所の古訓誰か傳レ之也、「衞世家周公旦、申ニ告康叔一曰必求ニ殷之賢人君子長者一、問下其先殷所ニ以乙興所中以甲亡、而務愛レ民」せよと、「康叔之レ國、殷以ニ此命一、能和ニ集其民一」といへり、據レ是武公所レ受の古訓は、殷の賢人君子長者傳ふる所にして、偶然にあらざる事を知る、惠王の時內史過いへるこ

とあり、「國將興、其君齊明衷正、精潔惠和、其德足以昭其馨香、其惠足以同其民人、神饗而民聽」と、又襄王の時内史過曰、「民之所急、在於大事、先王知大事之必以衆濟也、故祓除其心、以和惠民、考中度中以涖之、」内史興は禮儀を論じ、富辰は三德七德を辨ず、又茂昭明德云々、又倉葛曰「臣聞、武不可覿、文不可匿、覿武無烈、匿文不昭」と、天下之諸侯は同天下之臣、相爭ひ相戰ふの義なし、文を表とし武を裏とす先王の遺敎なり、晉侯隨會を使せし時、「王召士季曰、云々、夫王公諸侯之有饫也、將以講事成章、（講事義大事）建大德昭大物、（大物或器或云典禮）云々、五聲昭德、（見其樂知其德）五義紀宜、（父義、母慈、兄友、弟恭、子孝）飲食可饗、龢同可觀、財用可嘉、則順而建德、古之善禮者、將焉用全烝、」武子遂不敢對而退、歸乃講聚三代之典禮」と、是に據て之を觀れば、晉猶三代の典禮を存するもの多し、故武子講聚する事を得るなり、是を以推すに、天下の諸侯遺典を存するもの多からん、定王の時使單襄公聘於宋、周制を證、周の秋官を引、先王の令伐を舉て、終に曰、「昔先王之敎、茂帥其德、猶恐隕越、若廢其敎而棄其制、蔑其官而犯其令、將何以守國」と、先王の敎を遵奉する事如此、又使劉康公聘於魯云々、劉康曰、「臣聞之、爲臣必臣、爲君必君、寬肅宣惠君也、敬恪恭儉臣也」と、此八字皆三代之遺訓なり、簡王時仲孫蔑說讓といひ、晉既克楚鄢の條、召公曰、「夫子性陵上者也」云々、聖人貴讓、又曰、「在禮敵必三讓、」又曰、「仁禮勇皆民之爲也」といひ、成公八年季孫行父曰、「信以行義、々以成命」といひ、范文子仁信忠敏を論じ、孟獻子「禮身之幹也、敬身之

恭也」といひ、劉子曰、「吾聞レ之、民受二天地之中一以生、所レ謂命也、是以有二動作禮儀威儀之則一、以定レ命也、能者養レ之以レ福、不能者敗以取レ禍、是故君子勤レ禮、小人盡レ力、勤レ禮莫レ如レ致レ敬、盡レ力莫レ如二敦篤一、敬在レ養レ神、篤在レ守レ業、國之大事、在二祀與一レ戎、祀有レ執レ膰、戎有レ受レ脤、神之大節也」と、天地之中は卽中直之道、孔子曰、「人生也直」と是也、「禮敬敦篤、文武兼備、是三代之遺教」なる事瞭然、明哲不レ可レ誣、孰か道を傳ふるの人なしといふや、「成十四年、衞侯饗二苦成叔一、甯惠子相、苦成叔傲、甯子曰、苦成家其亡乎、古之爲二享食一也、以觀二威儀一、省二禍福一也、故詩曰、兕觥其觩、旨酒思レ柔、彼交匪レ傲、萬福來求、今夫子傲、取レ禍之道也」と、是饗禮によりて人の威儀を觀、人物之善否を察知する事にして、乃ち鄕飲酒・鄕射禮、觀二威儀一擇レ人の遺法也、傲は恭の反なり、「十五年、子臧辭曰、前志有レ之曰、聖達レ節、次守レ節、下失レ節」、前志は卽ち古典孔子の與立與適道與權すると相似たり、達レ節するは權道なり、卽允執二其中一といふものなり、又「申叔時曰、德刑詳義禮信、戰之器也、德以施レ惠、刑以正レ邪、以事レ神、義以建レ利、禮以順レ時、信以守レ物、民生厚而德正、用利而事節、時順而物成、上下和睦、周旋不レ逆、求無レ不レ具、各知二其極一、故詩曰、立二烝民一、莫レ匪二爾極一」と是先王の中正中直の道にて、文武兼て傳へしなり、「簡王十三年、晉悼公卽二位于朝一、始命二百官一、施舍已レ責、逮二鰥寡一、振二廢滯一、匡二乏困一、救二災患一、禁二淫慝一、薄二賦斂一、宥二罪戾一、節二器用一、時用レ民、欲レ無レ犯レ時、使下魏相士魴・魏頡・趙武爲レ卿、荀家・荀會・欒黶・韓無忌爲中公族大夫上、使レ訓二鄕之子弟共恭孝弟一、使三士渥濁爲二大傅一修二

范武子之法一、右行辛爲二司空一、使レ修二士爲之法一」云々、と悼公の新政皆先王の舊典詩書のをしへなり、始
命二百官一、堯の徧衆にて、即ち文王の四者を先にするなり、振レ廢云々は側陋を擧、遠をやすんじ、迩を
よくするなり、禁二淫慝一は難二任人一なり、薄二賦斂一云々救レ民之□節二器用一は律度量衡を正すなり、時
用レ民は不レ奪二農時一なり、唐虞三代以降孔子の時に至る迄、詩書教へ廢せず、時賢の傳ふる所も少しと
せず、及び先秦の古書中に、先王の古典訓辭往々散見するもの多しといへ共、枚擧するに暇あらず、今
僅に其要語を引證する事、唐虞より魯の成・襄にいたれり、文武の道地に墜ずして人に在るが故に、孔
子も祖述憲章せられ、詩書六藝を以教を施されたり、當時詩書の外は書籍甚少し、しかる所以は堯舜以
來東周の頃に至るまでは、士大夫の學問みな實事實踐にして、後之儒者汗牛充棟の書讀盡して、兩脚
書簏の嘲あるに同じからず、詩三百を誦しぬれば、政事に達する事を得たりき、孔子豈吾を欺れんや、
政教は禮樂にありて、孝といひ直といひ、剛克柔克して中を執る事、詩書に徴して知るべし、凡天下に
父母なきの人なき時は、和漢のみならず蠻夷諸國といへども、孝を以てをしへとなさゞるはなし、さ
れば孝を至德要道と讃し、孝弟は人之本也といひ、孝は德之本、教之所二由生一也といひて、孝德の大
なる事、祭祀・禮樂・稼穡・蠶桑・文武の事、皆此一字より出るものなり、我神武帝神武を以て中國を戡
征し玉ひ、都を大和の國橿原に建させ玉ひし時、御先祖を祀らせ玉ひて、大孝を天下に申させ玉へる事
は日本紀に見へたり、其御後の帝王孝經を天下に頒ち賜はせし事もありて、皇國の御政は孝に本づかせ

玉ひ、簡易に御敎令を施させ玉へり、されば政字をまつりごとゝは訓したりき、西土は周末よりこのかた、文飾のみはなはだ多くなりゆきて、古へ夏殷の世の忠質にはおとれり、春秋の末孔子のときだに、文は質に過たりと見へて、棘子成が君子は質のみ、何ぞ文を以てせんといへる語あり、周の世亂臣十人を初として、仲山甫・尹吉甫・張仲など、何れも孝德に本かざるはなし、衞武公が宣王を助けて中興の業を建たる、齊桓・晉文・楚莊・秦穆・魯僖・衞文・越王勾踐の諸君、一長一短なきにはあらねども、不孝の行跡は聞ゆる事なし、管仲・晏子・子皮・子產・子犯・隨會・叔向・申叔時・蹇叔・里革・子西の徒ら、皆一時の賢人君子にて、其中一長一短あると雖も、皆先王の遺訓を傳へ、一世を維持しゝものなり、管仲の如きは孟子痛くこれを擯けぬれども、孔子は管仲なからましかば、我輩被髮左袵してん、其仁にしかんやと賞譽せらる、論語中に仁をゆるされしは、但管仲のみなりき、かの管仲桓公を相けて諸侯を葵丘に會しゝ時、初盟に誅ニ不孝一といへり、又齊語に載する所を見るに、「居所好レ學、慈ニ孝於父母一」とあり、又、「隱ニ武事一得ニ文德一」といへり、又管子が桓公に對へつる語に、「爲レ君不レ君、爲レ臣不レ臣、亂之本也」といへり、孔子の君々父々子々と異なる事なし、又「士莫ニ敢言ニ朝之使一、皆有ニ終歲之計一」といへるが如き、實家國の遠圖にして、譎詐巧姦之計には非ず、其禮儀廉耻を四維とし、孝弟忠信聰明質仁の者を蔽すものは罪せん、奉勇股肱の力秀ニ於衆一者を蔽して告ずんば罪せんといへる如きは、先王の治國の要を得たりといひつべし、孔子の時先王の道衰へて、賢人君子の常師となすべきはなし

といへども、文武の道はいまだ地に墜ずして、當時の士大夫往々これを傳ふるものあり、孔子周に往いて禮を老聃に問、琴を子襄に學び、天下を周遊して普く賢者を求められし事なれば、先王の道の人に存せるを學盡しゝ事必せり、鄉飮酒の禮も魯國に存しゝこと、鄉人の飮酒杖者出れば、斯に出づといへるを以て知べし、孔子の時詩書猶存しぬれば、詩書六藝を以て敎とし、文事武備を二とせず、文武の政布て在ニ方策一とは、詩書をいへるなり、孔子に溫良恭儉讓の德あり、又「溫而厲、威而不レ猛、恭而安」といひ、又「望レ之儼然、卽レ之也溫」といひ、又武事をいはゞ、達巷黨之人の孔子を評せるに、「博學無レ所レ成レ名」といひければ、孔子は「執レ御乎、執レ射乎、吾執レ御」とあり、又牢がいへるに、「子云、吾不レ試、故藝」といひ、又「遊ニ於藝一」といひ、又謀を好むといひ、戰を愼むといひ、又「齊國若伐レ魯季康子使下冉求率ニ左師一禦上レ之、冉有用レ戈、故能入焉」あり、後に康子が其武藝は誰に學べると問へるとき、「冉有曰、卽學ニ之孔子一也、夫孔子大聖無レ不レ該、文武竝用兼通、求也適聞ニ其戰法一、猶未ニ之詳一也」といひしかば、季孫悅とあり、又夾谷之會に、齊侯を挫いて侵地をかへさしめ、及び少正卯を誅するが如き、文武兼通して義あり勇あるにあらざれば、烏かよく如ニ是事をし得てんや、「見レ義不レ爲、無ニ勇也一」、又「仁者必有レ勇」といへる是なり、孔子堯舜を祖述し、文武を憲章し、乃武乃文、允文允武にして、文武兼通せざる事なし、孔子以前は詩書を以て敎としぬ、連山歸藏周易などありといへども、卜筮のみに用ひて、これを以て敎の書とはなさゞりしなり、されば始皇の時にも、敎にあづから

ぬ書なればとて燒棄ざりき、其他三墳・五典・八索・九丘など云へる上古の書ありしとはいへど、皆亡びて傳らず、堯舜の時は禮樂を以て教とし、別に教の書あるに非ず、實行のみなりき、唐虞夏の事をしるしゝは典謨禹貢僅に數篇のみ、殷の事を記しゝも後世の僞文を除ては、僅に數篇をのこせるのみ、皆當時の言行事實を記しゝのみなり、さてかの數篇の書通曉なし難きに非ず、學問を簡易にして文武兼通しやすかりき、周の時に至りても、周公禮樂を制し、詩を編述ありけれども、周公の編述せるは僅に數篇なり、されば當時は書多からぬ筈なり、詩書禮樂六藝にて教道足らざる事なし、殊に記錄は簡牘刀筆漆書等にて、今の卷册と同じからず、大造なるものなり、因て文章もなるべき丈は簡易に作て辭の達するを主として、後世の繁文浮靡なるとは大に異なり、古へは樂を以て教へとし、教戒を詩に寄する故に、孔子の時に至つて、詩章も周の初世よりは多かりしなるべし、詩書禮樂六藝の教へも幽・厲の亂にて禮樂衰へ、詩教も亡びにければ、孔子慷慨して魯の史によりて春秋を筆削し、忠姦を褒貶し、夷を賤み華を貴み、内を彊くし外を防ぎ、中國帝王萬世不拔盤石の基を固うせんとなされしにぞありける、是しる三代の教へは文武忠孝の外になく、我皇國上古の教へ、東照大祖の御法度に違ふことなし、孔子沒するに及んで、諸弟子各其得る所を以て、四方に散處し其學を傳へぬ、是より後諸儒盛に空理を說いて、詩書・六藝・禮樂實踐の教へは廢したりき、性善・性惡・白馬非馬・堅白同異・老莊虛無・申韓刑名等世に行はれて、學問之道匹夫匹婦庸常のものには、容易く分り難きやうになりゆき、

のち漢以降は五運・五行・心性配當の說起り、晉に淸談、宋に窮理・本然・氣質・良智・良能などゝ各其家說を主張し、議論細密、千言萬言を重ぬれ共、凡庸の士俄に喩るべきに非ず、其說據る所なきには非ずといへども、一偏に僻して先王詩書の敎へに純ならず、孟子曰、「由二堯舜一至二於湯一、五百有餘歲、若二禹・皐陶一、則見而知レ之、若レ湯聞而知レ之、由レ湯至二文王一、五百有餘歲、若二伊尹萊朱一、則見知レ之、若二文王一聞而知レ是、由二文王一至二於孔子一、五百有餘歲、若二大公望・散宜生一、則見而知レ之、若二孔子一則聞而知レ之、由二孔子一而來至二於今一、百有餘歲、去二聖人之世一、若レ此其未レ遠也、近二聖人居一、若レ此其甚也、然而無レ有乎爾、則亦無レ有乎爾」といへり、されども孔子の時は春秋の末戰亂の世なれども、諸書猶存して禮樂人にありき、孟子の時といへども詩書猶亡びず、古典訓辭詩書に存すれば、豈世に知るものなしといはんや、文武の政布て方策にありといひ、文武の道未レ墜して人にありといひぬれば、豈天下に道なしと云んや、凡目に見耳に聞は遺漏多く、方策に殘りし事は遺漏あらず、孟子の時孔聖を去こと近けれども、すでに世に道なければ、五百歲の後に至りても、道有事なけれといへるは、孟子の誇詞にて、唯我猶尊大に恭讓の道を失ひ、一世を睥睨蔑視するものといふべし、宋に至りて程正叔其兄明道先生の墓に題して、孟軻死して後聖人の學不レ傳云々、「生二乎千四百年之後一、得二不傳之學於遺經一」と書せり、遺經は蓋大學中庸を指にや、正叔何を以てか聖人の學不レ傳といへる、其人存しなば豈其意を解せざる事あらんや、詩書をすてゝ大中を取りしは、其私見といふべし、詩書六藝は孔子の道なり、詩書に何の不足か

ある、詩書備らざる事なし、近來學士多くは文武に兼通せず、學問は只文事のみと思ひて、僧家の談義說法にことならず、其行跡浮靡にして、狂歌師誹諧師なんどに似たり、唐虞三代神聖相繼、堂々たる中國終に夷狄に奪はれ、百代の宗社血食せず、衣冠の風變じて羶腥辮髮の窟となり、天墜ち地裂け、山崩れ海あせて、身をいるゝに地なきにいたる、苟心あらんもの、悲痛慘悽食ふべきの口なく、泣べき涕なく、頭碎け膽落ちぬべし、天地ありしよりこの方未曾有の大變、上古百代聖賢の精靈若知る事あらば、これをいかにとかいはん、嗚呼管仲一匡の功、孔子の仁を許し玉へる所以にして、管仲の學は後世理窟の敎へに勝る事、萬々なるを知べし、宋明の天子よく孔子の傳ふる所の詩書の道、先王文武忠孝の敎へを守りて、禮樂征伐天子より出、天下の諸侯學士大夫文武の二途なし、さるを知らば豈羶腥黠虜の爲に天下を奪れんや、文事に僻し浮靡無益の詩文を弄し、國家の遠謀深圖に暗く、無用之辨不急の察を事として、內を盛にし外を拒ぐの術に疎く、國亡て殉する事能はず、剃られ刵られ、或は髡鉗せられて、毛奇齡何諸の諸儒みな此刑を免れず、豈長大息せざるべけんや、孔子以後先王の禮樂征伐すたれはてゝ、學問の道空理に落し事は、我皇國文武・忠孝・正直・勇義・禮讓あるの風に比すれば大に劣れり、西土漢以下の政教は見に足もの少なし、獨り唐の太宗武文を主張し、武を以て群下を率ゐ、房・杜等が諫を納て、外を防ぎ內を强うし、天下を一匡せるは、古へに近しといふべし、趙宋宋明彼は是より勝れるものありといへども、先王詩書禮樂の敎へを古へに復する事を知らず、學士各私見

を張り、私黨を立て相爭ひ、處士横議して政教統一ならず、滿淸に至りて諸儒大に見を改るといへども、詩書禮樂の敎へは文武兼備へ、日用の急務にして今日に迂濶ならざる義を辨へず、要するに訓詁章句の拘儒のみ經世實用の學に於る、何の益かあらんや、學問の道簡にして實を得るを要とす、志學の徒我皇國簡易質直文武兼備へ玉へる敎を服膺し、唐虞三代の道を講究し、孔子の詩書六藝の敎を精研し、新奇微細の曲說に誤らるゝ事勿れ

志學問答上終

志學問答 下

○問曰、樊遲の孔子に爲ㇾ稼爲ㇾ圃とひけるに、孔子の御答に、我は老農老圃にしかずと仰られしを見て、後世の學者農圃のことは吾務には非として、講述する者希なるやうに存候、稼穡農業の事學者の傍講學すべきものにては無ㇾ之候や如何

答曰、稼穡のこと、古の人君和漢ともにこれを講明し玉へり、我皇國にては天照大神新嘗の祭を始て行はせ玉ひしより此かた、主上毎歳必この禮を闕せ玉ひしことなし、又御即位の初には、必大嘗會の禮を行ひ玉へり、垂仁天皇の御時には、高石池・茅渟池・倭狹山池・迹見池等凡八百餘の池を造らせ玉ひて、又諸國をして多く開二池溝一以ㇾ農爲ㇾ事、百姓富寛なりきと見へけり、漢土のいにしへも天子親ら耕させ玉ふ所の新穀を以て先祖を祀り玉ひ、后妃は親ら蠶織し玉ひて天子の冠を作り、祭祀の服に供し玉へり、皇國の古も西土のいにしへも、孝道をば人道第一の勸めと成玉へるゆゑ、先祖を祭るに日祭。月祀・時祭・歳享などといへる事ありて、祭祀の禮は怠り玉ふことなかりき、藉田の禮といへる事ありて、禮記・國語等に詳にこれを載せて王者の大禮とせり、天子親ら鍤をとらせ玉ひ、三たび推し玉ひて、三公九卿は九度推して、しかしてのち庶人畝を耕し終ふるといへり、是天子親ら耕し玉ひて、孝

道の重きを天下萬民に知らしめ玉ひ、且五穀は人の命のもとにして、尤重じ勤むべきことをば敎へ玉へるなりけり、堯典に堯の首政を載せつるに、先義和に命じて天文を正し、四時を定めしめて歲をなしてのちに百工を治め、庶績皆廣まるといへり、時令を順にし耕織の時を失しめざらんが爲なり、論語に、南宮适が「禹稷自稼保二天下一」といへるを、孔子「貴レ徳哉若人」と賛し玉へり、孟子には、后稷民に稼穡を敎へ、五穀を樹藝すとも見へたり、后稷は堯舜の時に在て稼穡を治ることを以て職としゝかば、その子孫周の文王・武王の御父子、祖先の業を續玉ひて、稼穡の事を御政の先務とし玉ひき、詩三百篇中七月生民等をはじめとして、稼穡の義を述たるところ枚擧するにいとまあらず、書には周公無逸の篇を作り玉ひて、「君子無レ逸、先知二稼穡之艱難一、後立王生則逸、不レ知二稼穡之艱難一、不レ聞二小人之勞一、惟耽樂之從」との玉ひき、是國家之盛衰稼穡の艱難を知と不知とにあることをいへるなり、禹貢には、禹王水土を治玉ひて土性を辨じ、貢賦を定めさせ玉ひしことをつぶさに載たりき、是また稼穡を重んずるにてぞありける、所レ謂「卑二宮室一竭二力於溝洫一」といへる是なり、孔子も「所レ重民食喪祭」、又子貢の問に答へらるゝには、「足レ食足レ兵、民信レ之」ともいひ、又管子には、「衣食足而知二禮節一」ともいへり、諸書にのせつる所を觀るに、古へ稼穡を重んじゝ事如レ此、孔子の樊遲の問ひに答へ玉ひしは、爲にする所ありてなるべし、彼も一時是も一時にて、時により人によりての御答あれば、論語中にも前後齟齬しゝ所なき事あたはず、後世の迂儒畢竟偏見にて、通融貫穿することあたはざるにより、稼穡をば

勤むべき事に非ずと思ひて心にとゞめず、徒らに詞章記誦にのみ走りゆきて、聖王第一の文德を乘るに至れるは哀むべきことなりかし、民は國の本、本固ければ則國寧といへる、前にもいへる如く、稼穡の道は祭祀の初務にて、孝道の基本なり、それ五穀をして乏しからしめば、何を以てか國を治め天下保たんや、されば管子も「本農窮而末作.富」こと、是襄亂の基なりといへり、民をして南畝に就しめ其の居を移さず之を生ずるものおほく之を食むものすくなくば、民は富しむべし、民富で衣食足ぬれば、禮儀廉恥の敎も施つべし、天下雍熙化を致さん事は、穀を尊むより先なるはなかるべし、漢書に民は翔るが如く京師に集るといへり、京師の驕盛なるは、國本の動搖するなり、後世學者實用を勤めず、稼穡を論ぜずして、徒に性理・空論・詩賦・文詞の浮華に趨れるは民の爲にて、蠹賊蠹蟲ともいひつべきものなりかし

○問曰、蠶桑の事學者多く言はず、今の諸侯・卿士・大夫の妻蠶桑織紝をなすもの稀なり、なさでもよろしかるべきにや

答曰、衣食の道は人生の急務、一日も缺まじき事なり、皇國の古へ天照大神月夜見尊に詔して、養蠶之道を司さどらさしめ玉ひ、稚産靈日神蠶を飼ふみちを敎へ、保食神絲縷業を始め玉ふ、又稚日女命齋服殿にいまして、神の御服を主どり給ふ、後世因て衣服の神とせり、猶周の始祖耕稼の道に長ずるを以て、稷の官に居たりしと同じ、舊事本紀に天殊楝命の姉市魂姫命を以て天養媛と定め、天の豐圍を

開き、桑をうゑて蠶を飼しむといへり、遺蹤今猶但馬國にあり、養父大明神是なり、此神の鎮坐し玉ふ養父崎にて、初て農器を制せり、其所を鋳屋といひて、新墾の地を土平といひ、米の出來し所を米地といひ、蠶の糸をとりつる所を糸井の郷といふといへり、雄略天皇の御時子養部を置せ玉ひ、繼體天皇の御時には、后妃親ら蠶桑し玉ふ、禮を行せ玉ふべき旨詔ありき、しかしてよりこのかた、代々此禮を行はせらる、異朝にては后妃親ら蠶桑するの禮、左氏傳・國語・内則・月令等の書に委敷記せり、夫人潔齋して親ら繰り、郊廟祭祀之服に供する事は、皆祖先に孝養を致すと、人をして蠶桑の重きをしらしめ遍く天下の婦女に婦道をしらしめんとするとの二ッに出たるなり、詩の葛覃は婦行の勤めを敎ゆる第一にして、紡織紝の辛苦なる事を知て、奢侈を戒め儉素を勤むべき由を述たるなり、後世士著の制變じて、卿士・大夫城下の住居となりしより、其妻女たるもの婦功蠶織の辛苦を知れるものなくして、衣服の奢侈法度なきにいたり、費用限なくして、遂に國家の衰弊を兆せり、不レ飢不レ寒してこそ敎へは施すべけれ、孟子は「不レ違ニ農時一、穀不レ可ニ勝食一、養レ生喪レ死無レ憾、王道之始也」と說、「五畝之宅、樹レ之以レ桑、五十者可ニ以衣一レ帛矣」と說、「百畝之田、勿レ奪ニ其時一、數口之家、可ニ以無一レ飢矣」といふ、「七十者衣レ帛食レ肉、黎民不レ飢不レ寒、然而不レ王者、未ニ之有一也」といへり、孟子の此言卽先王の古典訓辭にして、千古確言易べからざるものなり、農時・蠶桑・孝弟の政敎をのべぬること、書の典謨・及管子・論語など其旨一なり、衣食の重きを知て、而後に敎へは施すべけれ、されば經世の道、衣

食より先なるはなかるべし

(問曰、文武の道古へは一なりしに、後世文人といひ、武人といひて、文人は武に暗く、武人は文に疎くして、或は文弱に流れ、或は武猛に過て、皆その中を得ざるやうに成行しは、いかなる故にて候や

答曰、唐虞三代の古は、別に教の書といふものあることを聞ず、其古典訓辭と稱する者も、即堯・舜・禹・湯の實事行跡を記したるにてぞありける、周に至りて書の洪範、易の彖象など選述ありて、教の書漸に出來たれども、學問の道は猶實履實行にて、世々の詔誥・誓命、やがて今日の事業となりて、書籍といふもの甚乏かりつるなり、世降り風移りて、科條漸に備りぬれば、民の僞態亦繁く起りぬ、書策稠濁なるに及んで、百姓足らずといへるは、さることぞかし、孔子の時に至りては詩篇も三百にて止らざりしなるべし、されども孔子は專ら詩書・禮樂・六藝を以て教へとし玉ひ、鄉射・鄉飲酒の禮を以て孝弟の道ををしへぬれば、孔子の道は猶實履實行なる事知るべし、是より後は學者議論のみ高妙になりて、學問理窟に陷り、實用甚少し、元來學問は修身・齊家・治國・平天下の外に出ずして、王公・卿士・大夫より下庶人に至るまで、各其身分の職義日用缺べからざる事を學ぶなり、されば古人の學問は忠孝・文武の外に出ることなし、古への帝王皆文武兼備へり、荀子・戰國策等に神農伐ニ補遂一、黃帝伐ニ涿鹿一、堯伐ニ驩兜一、舜伐ニ三苗一、禹伐ニ共工一、湯伐ニ有夏一、文王伐レ崇、武王伐レ紂し事を載せり、其他齊桓・晉文・楚莊・秦穆・吳闔閭、越勾踐、皆戰を用ひざるはなかりき、唐虞の朝、舜・禹・益・稷・契・皐陶の輩、其才

皆文武を兼て、入りては相となり、出ては將となり、或は洪水を治め、或は農耕を敎へ、或は五言を出納し、或は五敎をしき、或は山林をやきて猛獸を驅り、或は五刑を明にして、民の非をなすものを禁じること、皆これ文武を兼たるなり、稼穡は文德なり、征伐は武德なり、五敎をしきしは文德なり、五刑明にしゝは武德なり、武德にあらざれば、凶暴を誅し、山林川澤を治る事あたばず、文德にあらざれば、稼穡・蠶桑を治め、敎令を施すことかたし、衰亂の世を興し、民の塗炭を救はんは、文武兼用ふるにあらざれば能はざるなり周の文王文のみにはあらず、其初祟を討じて五年に七度の合戰あり、武王武のみにはあらで、一戎衣の後偃武脩文、文王の時しばしば武を用て、凶暴を禁じゝ故に、武王の牧野大に勞を省けり、牧野一戰の後は、馬を放ち牛を反して、專ら文を脩らる、故に永く治世を保てり、古今武以戡亂、文以經國しゝと、是自然の勢にして、前賢後賢一軌轍に出ざることなし、周の興れるは文武二モに始りぬれば、其政治法制も亦文武二道を偏廢せざりしなり、故に列國侯伯より卿大夫に至るまで、文武を以て美謚とす、魯に武公文公あり、衞に武公文公あり、楚に武王文王あり、宋に武公文公あり、齊に武公文公あり、秦に文公武公あり、陳に文公武公あり、蔡・曹・鄭・燕、諸邦、及下七國の時に至りても、或文武、或は武文互にこれを稱せり、卿大夫は魯に季文子・季武子・臧文仲・臧武仲、晉に范文子・范武子・厨武子・知文子、齊に國文子・國武子・陳文子・陳武子の類、枚擧するに暇あらず、是れ歷代の美稱にして、文武並用ふるの明證なり、管仲が齊を始め覇業を助け成しゝも、兵武に

文を寄せて、「顯二文德一而匿二武事一」といへり、子產の鄭を治めたる、隨會が晉を治たる、皆文武を兼ざることなし、春秋の際に至りては、王室陵夷し綱紀廢弛しゝかども、文武の道いまだ地に墜ずして人に在しかば、孔子は徧々賢者に就いて古典遺訓を學び、終に二帝三王の道を發揮せり、所レ謂堯舜を祖述し、文武を憲章しゝはこれなり、洙泗の間に講堂を開き、文事・武備を一となし、詩書六藝を以て敎とし、其平日申されしにも、「善人治レ國七年、又可二以即一レ戎、」又「以二不レ敎民一戰、是之謂レ棄」と申されき、又子路が三軍をやらんことを問つるに、「必也好レ謀而成者也」と申され、又「子之所レ愼齊戰疾」と門人も記せり、其他「見レ義不レ爲無レ勇也」といひ「殺レ身成レ仁」と敎へられ、書にて「乃武乃文」と記し、詩には「允文允武」と歌へり、然れども人々生稟同じからずして、剛あり柔あり、詩書の敎六藝の道備らんことを、一人に求むるにはあらず、三千弟子の中にて、文質彬々として身六藝に通ずるもの、わづかに七十二人のみなりき、冉求齊と戰ひて功名したりし時、季氏の問に答へて、兵道はかねて孔子に學び置たりしといひき、冉求も初は孔子の詩書六藝多端にして、容易に學び得がたきを患ひ、「非レ不レ喜二子之道一、力不レ足也」と申しゝかども、力不レ足者中道にして廢せん、今汝は劃するなりとのいましめによりて、精力を六藝に用ひしと見たり、さる故に冉求が藝に通じゝことを孔子も數數稱譽せり、孔子の敎は詩書に本き、先王の道を祖述憲章しゝことなれば、論語を讀もの、まづ詩書に本かざれば、其微言奥旨を發明することあたはざるべきに、後世の儒者は但大學・中庸・孟子等にの

み證をとるは抑末なり、古典訓辭の諸書に散見せるが、取べきもの多しといへども、其本根は皆詩・書より出たるなり、孔子の本となしゝ所の詩・書をうはのそらにこゝろえて、其たまさか牟に宣ひし所の性命天道を常談とし、孟・荀の性善・性惡・漢儒の五行、宋儒の性理を推窮して、性命の奧義妙處を極めんとし、終年兀々として專ら精力を此に用ふるが故に、六藝を講究するに暇あらず、精神枯涸し、天機沮喪して、文武の道に兼通ずる事あたはず、試みに見よ、尙書は先聖王の事跡・命令・誓誥等を記錄しゝにて、卽唐虞三代の史記なり、詩は殷周の世の賢人君子、各その情の感じゝ所、その心の思ひし所を吟詠しゝうたひものゝ文句なり、いづれも實情にして虛僞なきもの故に、これを讀もの近くして父母に事へ、遠くして君に事へ、忠孝文武の道を學ぶ事を得たるなり、時世の治亂興廢、人情の誠僞假慝、及び鳥獸・草木・器械・衣服・飯食・宮室・輿馬・蠶桑・耕織・百物の具に至まで、人生日用之事備らざるなし、春秋の時にては孔門諸子の專らこれを學びしのみならず、列國の君及大夫士ことありて相會する時は、必皆詩を歌ふて各其意を通じ、其情を訴へて應酬しゝなり、故に「孔子誦ニ詩三百ニ授レ之、以レ政不レ達、使ニ于四方ニ不レ能ニ專對一、則雖レ多亦何以爲」と孔子もいへり、詩には禮樂・政敎・軍陣・戰鬪の事一として漏たるなし、孔子の道を學んと欲せば、詩書を捨て何の書を學べき、學者よく其基本を詩と書とにたてゝ文事・武備同一なる事を辨へ、其力によりて和漢古今の人物事蹟を推考し、切問近思して今日に行はゞ、文武兼備實用の人なる事を得べし、徒らに空理を講じて、學問は但文をのみ學ぶも

のと思ひ、但篤恭なれば垂拱無爲にして、天下は治まるものとのみおもへるは、浮屠氏の法談說法にて、人を治め世を治むることを得べしと思へるとひとしかるべし、夫詩書は皆實行にして空理ならず、鄕射、鄕飮の禮には、關雎・葛覃・四牡・鹿鳴の類を歌ひて、孝弟忠信の道ををしへ、秦風の小戎、魯頌の泮水等、其他文武の事を吟味したる篇甚多し、これを歌はしめて才幹實用の士を仕立んとするが詩の敎、しかるを只文事のみにして、武事に達することあたはず、其人智略なく、嚴威なく、義氣剛勇の志なくして、精神軟弱ならんには、いかでか獫狁を征し、蠻荊を來威せしむる事を得んや、然則孔子の道を學ぶもの、豈文武を分て二途となして可ならんや、請つら〳〵これを思へ

○問曰、先王文武の政といへるは、如何なる事を申候にや

答曰、我皇國の古へ專ら孝道を以て天下を治玉へり、孝道とは何をかいふや、先祖を祭祀し、天下の人をして孝の重きをしらしむるなり、是を政敎の本とし玉へり、天照大神新嘗の禮をなし、祖先を祀り玉ひしを初として、神武天皇橿原に都し玉ひ、先祖の神靈を祭り玉ひて、大孝を天下に示し玉へり、後世の大嘗會・新嘗會・葵まつり、神御衣の祭・神御食・神嘗等の祭是なり、先祖を祀る禮は天子のみに限りたる事には非ず、國郡にても時節の祭祀怠ることなし、今猶諸國に神田・神戶と稱するもの多し、さて先祖を祭るの田は、天子親ら耕し玉ひて、諸侯群臣も亦自ら耕し、庶人農夫其餘を耕し終るなり、是によれは孝道を行ふの本は、農務にある事を知るべし、古へ佛法の未だ東に渡らざりし以前は、

皇國にても祭祀に禽獸の肉を薦めさせ玉ひき、天親ら獵し、獲玉ふ所の肉もて祭り玉へり、扨田獵に武備を寄れ、時節に蒐閲ありけらし、蒐閲は後世の鷹野・追鳥狩・鹿狩などの如にて、多く人數を出し、武具を調へ武藝を試みらるゝなり、これ治世といへども亂を忘れず、警備を弛ざらんが爲なり、東照大祖の油斷のなきと常々戒しめ玉へるは是なり、其御條目に、文武忠孝相勵み、禮儀を正し可レ申と有レ之も、文武偏廢すべからざるを誡しめさせ玉へるなり、前條にもいへる如く、天子・諸侯・后夫人の祭祀は、文武忠孝を兼たるものなり、孝道を行はんが爲に祭祀をなす、祭祀をなさんが爲に耕織蒐狩あり、耕織は文也、蒐狩は武也、祭祀の一事孝より起りて、文武の道備はる、天下萬機政教の本是の外にあることなし、西土の古へ舜の初政格二于文祖一して、先祭祀の禮を行ひ玉へり、孔子も舜は其大孝なり、「與德爲二聖人一、尊爲二天子一、富有二四海之內一、宗廟饗レ之、子孫保レ之」といへり、祭義曰、「孝弟發二諸朝廷一、行二乎道路一、至二乎州巷一、放二乎獀狩一、脩二乎軍旅一、旅衆以義レ之、而弗二敢犯一也」とあり、是孝弟之道祭祀之禮を以て政教の始めとして、さて獀狩・軍旅に至までも、皆孝德より出たるをいへり、されば、天下を治る政敎は、みな孝德を推し及しゝ者にてぞありける、詩に「允文允武、昭假烈祖」といへるは、文武を以て先祖に事ふるなり、左傳に「聖王先成レ民、而後致二力於神一」といひ、「務二其三時一脩二其五教一、親二其九族一、以致二其禋祀一」といひ、「國之大事在二祀與一レ戎」といひ、周語に「宣王卽レ位、不レ籍二千畝一、虢文公諫曰、民之大事在レ農、上帝之粢盛、於レ是乎出、民之蕃庶、於レ是乎生、事之共給、

於レ是乎在、和協輯睦、於レ是乎興、財蕃殖、於レ是乎始、敦尨純固、於レ是乎成、是故稷爲二大官一」といへり、又いへるやう、「王事唯農是務、與レ有レ求二利於其官一、以干二農功一、三時務レ農、而一時講レ武、故征則有レ威、守則有レ財一といへる、是農を重んじて民心を和協し、武事を農に寄せて國本を固うするなり、故に古は文武兼ざる事なし、左傳に臧僖伯が隱公を諫めたるに曰、「凡物不レ足三以講二大事一、其材不下以足上レ備二器用一、則君不レ擧焉」と、しからば人君たるものは先祖の祭祀と、武事の備との爲にて、親ら田獵をして古典を守るなり、されども徒らに遊樂の爲に人民を勞する事なし　僖伯又曰、「春蒐夏苗秋獮冬狩、皆於二農隙一、以講レ事也、三年而治レ兵、入而振旅、歸而飲至、以數二軍實一、昭二文章一、明二貴賤一、辨二等列一、順二少長一、習二威儀一也、鳥獸之肉不レ登、皮革齒牙、骨角毛羽、不レ登二於器一、則不レ射、古之制也」と、又觀射父曰、「諸侯宗廟之事、必自射二其牛一、刲羊夫人必自舂二其盛一、況其下之人、其誰敢不二戰々兢々、以事二百神一、天子親舂二禘郊之盛一、王后親繰二其服一」といへり、是皆先王之制にして、見に方策に存しつるものなり、蓋祭祀は文德の本にして、文中に武事を匿するものなり、蒐狩は武事なり、武中に文を藏むるものなり、天子皇后は萬民の父母、々々親ら耕し繰りて、先祖を祭り孝道を行ひ、文武を勸め玉へば、天下の民誰かこれに從はざるものあらんや、不レ飢不レ寒王道の成るゆゑんは、みなこれによるなり、孔子曰、「我戰則克、祭則受レ福、」曾子曰、「戰陣無レ勇非レ孝也」、又曰、「夫孝置二之、塞二乎天地一、溥レ之而横二乎四海一、施二諸後世一、而無二朝夕一」といへり、孔・曾孝道の大なる事を演述す

ること如ㇾ此、文武の道も孝に本づかざれば、功を成す事あたはず、孝も文武にあらざれば、大孝とする事を得ず、文武忠孝互に相濟て、政教の本となるなり、後の學者文武を分て兩岐となし、政教の本を失へり、痛しき事ならずや

○問曰、文武に前後優劣有ㇾ之事に候や

答曰、文武の道は偏廢すべからざるものにして、古人も車の兩輪、鳥の兩翼に比しぬ、前後優劣なきに似たり、然れども天地・陰陽・剛柔・男女の道を以ていはゞ、やゝ前後あるものゝ如し、如何といふに、天は陽なり上なり、地は陰なり下なり、剛は陽なり男なり、柔は陰なり女なり、地不ㇾ先ㇾ天、女不ㇾ先ㇾ男、文武は剛柔の道なり、楚の觀射父は先王の古典訓辭を傳へし賢人なり、楚王白珩を寶とせず、觀射父左史倚相を寶とすといへり、楚書に楚國は寶玉を寶とせず、唯善人を寶とすといへる是なり、觀射父の詞に、天事は武、地事は天といへり、韋昭が註に、乾を剛健とす、故に武とせり、地の質は柔順、故に文といふ、易にて坤を爲ㇾ文といへり、天地は二ツにして一なり、文武も亦二ツにして一ツなり、男女も亦二にして一、男女心を一にして家道成、天地和順して雨澤下り百物成れり、されども天一水を生じ、地二成ㇾ之、天地に先ち、男は女に先つを見れば、武は文に先つこと、天理人事自然之道、自然之勢誣すべきものにあらず、萬古不易の常道なり、然れども文を先とすべき時あり、武を先とすべき事あり、男子は武をもつて先とし、女子は文を以て先とし、男子は剛健武勇を以て志を立、女子は

柔順聽從を以徳とす、然れ共人々欲なき事能はず、其欲を制せざれば、相爭ふて厭ことを知らず、悖逆詐僞是より生じて、禍亂從て起る、是以先王禮樂を造り先敎ふるに禮讓恭遜を以てして爭奪を止め、痛く其私欲を制せり、男子は武徳を主とすれ共、溫寛慈愛の徳なければ、人に接はり衆を懐くる事能はず、女子柔順を常とす、され共貞烈健行なければ、其節操を全うする事能はず、然らば文中に武あり、武中に文あり、男子表に恭讓溫和の容ち發し、內に剛健武勇の徳を蓄ふるは、正直中庸の道也、書曰「乃武乃文」、又曰、「剛克柔克」、詩曰、「不レ競不レ絿、不レ剛不レ柔」又曰、「宜哲維人、文武維君、」又曰、「文武吉甫、萬邦爲レ憲」、又曰、「王之元舅、文武是憲」、仲山甫、「柔亦不レ茹、剛亦不レ吐、不レ侮ニ鰥寡一、不レ畏ニ彊禦一」といへる、皆文武兼用ひて、一方に偏倚せざる也、孔子は詩書に本き玉ひ、祖ニ述憲章一の功勞を積て、「溫而厲、威而不レ猛、恭而安」の徳を成せり、又曰、「望レ之儼然、即レ之也溫、聞ニ其言一也厲」と、是剛克柔克して不レ競不レ絿、不レ剛不レ柔、文武兼通じて、正直中行、不レ偏不レ倚、無ニ過不及一之至徳にぞありける、聖賢の世を治め國を治め、家を齊へ身を修むる、此道によらざることなし、湯の夏を亡して自罪する、武王の殷にかちて遏レ劉るは、皆武を先として文を後にするなり、唯湯武のみならず、古への聖賢英雄の君、天下の濁亂を掃除して、人々先武を用て戡靖せざる事なし、武を用ふといへども、亦武のみにあらず、戰爭傷痍の中といへども、只軍を撫養し士卒を愛育するは文徳なり、武中に文ありといふは是なり、我皇國古昔は暫置、延喜・天暦の後より武備漸

衰へ、保元・平治の代戰爭相續き、元龜・天正に至りて衰亂極りぬ、豐太閤武略衆に秀で能天下を定るといへども文德足ず、一世にして亡びき、吾神君英武を以て亂を止め、文を以て世を治め玉へり、是文武並用ひて偏廢せさせ玉はざるによる所なり、文武偏廢する時は、一身・一家より治國・平天下の事にいたりて、やぶれざる事なし、かくいへば文武前後なきが如くなれども、男子は剛、女子は柔、剛者前に居り、柔かなるもの後に居、男子は武を以て志を立、文を以て和するものなり、古へ后妃懷胎ある時は、后妃弓韣を帶びて男子を生ん事を高媒に祈るの禮あり、男子既に生るれば、桑弧蓬矢もて天地四方を射るは、男子の四方に事ある事を示すなり、又懸弧とて男子生るれば、弓を門に懸る事あり、又死せんとする時、「男子不レ絕二于婦人之手一」と穀梁傳に見へたり、左傳に、「公薨、路寢レ禮也」、既に死する時は甲冑もて葬禮をなす、儀禮に、甲冑干笮猴矢朱極」など見へたる、「是男子以レ武爲レ初、以レ武爲レ終」なり、唐太宗は三代以下の賢君なり、親ら帝範を著し、「以レ鬪レ武爲レ前、以レ崇レ文爲レ後、」常に文武と稱せり、これ太宗一己の私意に出しにて非ず、「蓋帝德廣運、乃武乃文」といへるに本き、「偃レ武修レ文」に據るなり、三代の學皆文武を兼たり、序は射を敎ゆるを旨とし、庠は養老・乞言・合語するを名とせり、鄕射・鄕飮皆文武を兼ぬ、「或以レ武爲レ先、或以レ文爲レ先」といふに本きたり、殊更我皇國は古へより武を專らとしゝなり、其故いかんといふに、皇國は東海の表に獨立し、外邦の援けをうけず、神武帝神武を以て戡靖し玉ひ、日本武尊武德を以て東夷を征し玉ひ、仲哀天皇・神功皇后の御夫婦西方

の盜賊を征伐し玉ひ、仲哀崩御の後、皇后大君の意を繼て三韓を平定し、國本を固うし玉へり、帝統一姓萬世不㆑廢、君臣上下の義正しく、簒奪革命の事なし、是「神武正直、剛健勇武」を先とせさせ玉へるが故なり、世界萬國宇宙間に未我皇國の武德に比すべき國あらず、學者若皇國神武の風を忘れ、唐虞三代過㆓蠻方㆒征㆓獫狁㆒の義を知らず、孔子の春秋尊華攘夷の意に達せずして、徒らに空理に走り、無用の詩文を競ひ作り、男子の武を以て先とし、文を以て和するの意に通ぜず、只漢土後世の弊風を貴み、彼を主として我を卑み、生れ得て自備へたるやまと魂てふものを軟弱にせば、啻我先王の罪人のみならず、また堯舜宣聖の罪人なるべし、殊に我皇國は海中に孤立して、他の救援を待べきにあらざれば、海岸不虞の備防禦之術最よろしく嚴重なるべし、是武德にあらざれば、敵を威し國を守る事あたはざるなり、しからば彼は不㆑來を恃まずして、我待事あるを恃むべし、我が待ことゝは何をかいふや、武備を嚴にするのみ、西土は自ら堂々たる中國と稱しぬれども、氈裘辮髮の奴兒に膝を屈め臣妾とはなりにき、前車の轍は後車のいましめぞかし、彼は文德の美のみをしりて、武道の本意を辨ぜぬによれる、蔡虛齋は文質彬々を論じて、武七分文三分を彬々とすといへり、孔子、「先輩之於㆓禮樂㆒君子也、吾從㆓先輩㆒」といへり、「君子義以爲㆑質、禮以出㆑之」といひ、「禮與㆓其奢㆒寧儉」といひ、「忠信之人、可㆓以學㆑禮㆒」といふの類、武を本とし文をかざりとする意を見るべし、豈文事を以て先とするの理あらんや、學者其能沈潜反覆して自らこれを知べし、復多言を費すに暇あらず

○問曰、人を治むるの道、禮より急なるはなしと承り候、然るに和漢の學者禮を論じ候事は絶て承らず、但漢土の禮は我國にて用ふべからず、上古の禮今世にては行れがたく、世俗に違ひ人情に悖れるが故に、今日の實用とはすべからず、これを講明するは甚迂濶のことに覺え候は如何

答曰、禮は示に從ひ、豐に從ふ、豐は酒なり、示は祭祀なり、禮は蓋先祖を祭るより起れるなり、先王祭祀して、先祖に孝を盡して、人倫の敎を立つ、さて樂も亦禮中の一事なり、書曰、「有レ典吾三禮、咨伯夷汝作ニ秩宗一」と、是先王禮を行ふの初なり、曲禮には、「道德仁義、非レ禮不レ成、敎訓正レ俗、非レ禮不レ備」とあり、又禮は王之大經といひ、禮は國の紀也といひ、禮は國の幹也といひ、禮は人之幹也、「無レ禮無ニ以立一」といひ、「古之爲レ政禮爲レ大」といひ、又「欲レ觀ニ仁義之道一、禮其本也」といひ、又「禮者人主之所ニ以爲ニ羣臣一、寸尺尋大檢式也、人倫盡矣」といひ、又、「禮所ニ以整ト民也」といひ「民之所ニ由生一、禮爲レ大、非レ禮無ニ以レ節ニ事ニ天地之神一也、非レ禮無ニ以辨ニ君臣上下長幼之位一也、非レ禮無ニ以別ニ男女父子兄弟之親、昏姻疏數之交一也」といひ、又「民之父母乎、達ニ禮樂之原一」といひ、又「治レ國不レ以レ禮、猶ニ無レ耜而耕一也」といへるを觀れば、禮は是敎の本にして、道德仁義皆禮によりて行はるなり、左氏に、「禮也者、先王之道也、先君之例也」といひ、孔子の「非レ禮勿ニ視聽言動一也」いへるの類、禮の道といひ、法といへるが如し、「三王敎ニ世子一、必以ニ禮樂一、樂所ニ以脩ト內也、禮所ニ以脩ト外也」文王世子といへるは、禮を以て嚴正を敎へ、樂を以て溫和を敎るなり、曲禮には、「分レ爭辨レ訟、非レ禮不レ決、

君臣上下、父子兄弟、非レ禮不レ定、宦學事レ師、非レ禮不レ親、班レ朝治レ軍、涖レ官行レ法、非レ禮威儼不レ行、禱祠祭祀、供二給鬼神一、非レ禮不レ誠不レ莊、是以恭敬撙節、退讓以明レ禮」といへり、禮は萬事に渉りて貫かざる所なし、禮の初は飮食に始といへり、易には、「謙以制レ禮」といひ、左傳には、「敬禮之輿也、讓禮之主也」とあり、また「孝禮之始也」といひ、孔子も「以二禮讓一治レ國則何有」といひ、また「知及レ之、仁能守レ之、莊以涖レ之、動レ之不レ以レ禮、未レ善也」といへり、古への聖王人情に從ひ、時俗に因りて禮を制し玉ひ、恭敬遜讓を教へ、爭鬪訟訴なからしむ、是文德の本也、先王人情に從ひ禮を制するとは、いかにぞといふに、飯食は養生の初なれば、其禮を制して最これを愼めり、曰、有二酒食一先生に饌せしむ、曰、「飮食必後二長者一、始敎之讓、」人情は安からんことを欲せざることなし、故に先王宮室を造り風雨を防ぎ、穴居野處の苦を免れしめて其安きに就かしめき、されども男女雜處しなば、狎褻淫亂のこと生じなん、先王これを防がんが爲に宮室の制を定めり、「男女別レ室、不レ共二福浴一」といへるが如き是なり、目は美色を好まざるなし、故に五彩・文章・績畫・絺繡等、名尊卑に從ひて衣服之制を定め、其分を安んぜしめ、耳は音聲を好まざることなし、故に八音を制して耳を樂ましむ、祭祀・冠昏・鄕射・鄕飮酒等の禮に於て、これを用ふること是なり、口は旨きを欲せざることなし、故に五味を調和し饌供庶羞の節を制し、其性を節にして、あらかじめ其爭端を防げり、周禮には、「司徒脩二六禮一、以節二民性一」といひ、仲尼燕居には、「明二郊社之義、嘗禘之禮一、治レ國其如レ指二諸掌一而已乎」といへり、

又「居處有レ禮故長幼辨也、閨門有レ禮、故三族和也、朝廷有レ禮、故官爵序也、田獵有レ禮、故戎事閑也、軍旅有レ禮、故武功成也」といへり、されば小にしては「毋レ摶レ飯、毋レ放レ飯、毋レ流レ歠、毋レ咤レ食」といひ、大にしては「禘郊享祀、太羹玄酒、肉乾不レ食、酒盈不レ飲」といへるに至りて、經禮三百・威儀三千缺る所なく、備はらざる所なし、されば天子は民の父母なり、これを養ひこれを敎ゆるの道盡さゞる所なきなり、是所レ謂「非二天子一不レ議レ禮、不レ制レ度」といふ、故に禮樂は皆天子より出づといへるもの也、然れ共禮は共時代によりて損益する所あり、「虞夏之文、不レ勝二其質一、殷周之質、不レ勝二其文一」といひ、「殷因二於夏禮一、周因二於殷禮一」などゝも孔子はいへり、禮を以て政敎の本とし、事、和漢異なることなし、我皇國の古へ天皇みづから新嘗の禮を行はせ玉ひて、祖宗の靈を祭らせ玉ひしより、世々此禮を廢し玉ふことなく、養蠶のこと、衣服の制次第に備れるなり、抑我皇國は民俗正直を貴び、先王の民を道かせ玉へるも、之を以て本とし玉ひ、さてよき事は外國にて始れる事といへども、我邦に施して益あらんことは、皆これを用ひさせ玉へり、舜の人に取に非ることのなく、人と與に善を爲すことを樂といへるに同して、即ち書の所レ謂執中なり、中すみの正しく直なる所を取玉へるが故に、すべての禮制彼此取まじへ玉へる所多し、後漢の世に我皇國を稱して君子國といへるにても、古へより禮儀乃脩りたるを知べし、我宮室の制は質樸儉素にして、屛障隔限あり、開閉自在なり、西土の制と大に異にして、人力を省き奢侈を禁ぜり、吾は座するを以て禮とし、彼は立を以て禮とす、彼が禮は繁

にして虛飾多く、我禮は簡にしてみな誠實なり、ことばを以て事を辨じ、彼は聲音を以て物を通ず、器械織紝に至りても、彼は但美麗薄疎にして堅實ならず、我は樸素堅實にして苦窳ならず、是其異なれども、亦我男子生るれば、弓矢を操て蟇目の禮を行ふこと、彼が桑弧蓬矢を以て天地四方を射ると同じ、我男子死すれば甲冑を以て葬埋し、甲冑鎗劍を以て送葬すること、儀禮の「甲冑干笮、猴矢朱極」などいへると其禮相似たり、彼此の禮大小同異ありといへども、男子の禮は生死皆武を以てこれを終始することは、和漢異ることなし、記曰、「夫禮所㆓以整㆘民也、會以訓㆓上下之則㆒、制㆓財用之節㆒、朝以正㆓班爵之義㆒、帥㆓長幼之序㆒、征伐以討㆓其不然㆒、諸侯有㆑王、々有㆓巡守㆒」又曰、「凡人之所㆓以爲㆒㆑人者、禮儀也、禮儀之始、在㆘於正㆓容體㆒、齊㆓顏色㆒順㆗辭令㆖、容體正顏色齊辭令順、而後禮儀備、以正㆓君臣㆒、親㆓父子㆒、和㆓長幼㆒、君臣正、父子親、長幼和、而後禮儀立、」（冠義）周禮十二教曰、以㆓祀禮㆒教㆑敬、曰、以㆓陽禮㆒教㆑讓、文王世子祭有㆓十倫㆒、見㆘事㆓鬼神㆒之道㆖、又云、「隆㆑禮由㆑禮、謂㆓之有方之士㆒、」昏義曰、「大禮始㆓於冠㆒、本㆓於昏㆒、重㆓於喪祭㆒、尊㆓於朝快㆒、和㆓於鄉射㆒此禮之大體也」とあつて、禮は士大夫の第一講究すべき事なるを、此間の學者多くは訓詁章句に拘泥し、詩賦博覽に浸淫して、古典訓辭三禮等に心を留むるもの甚鮮し、昔者小笠原・伊勢・吉良の三氏、足利將軍の命を受て定めつる禮をも、俗禮と稱して講ぜず、是以進退周旋の儀に習はず、所㆑謂禮を不㆑學れば立ことなしにて、手足のあつかひ、賓客の應接、衣服を正し襞積を整ふる事をだに不㆑知、飲酒獻酬之禮、飯を喫し汁を啜るの禮だに

學ばずして、或は不恭、或は傲慢、白面少年に至りては、その朋友と交はるに多は無禮にして、狸奴畜犬の人に狎るゝに異ならず、かくて遊惰傲慢の風のみに移り行き、士大夫の肉食するものに至るまでも嗜欲無ㇾ度して、不ㇾ講ㇾ學不ㇾ習ㇾ禮、賢者を尊崇する事を知ず、老者に敬事する事を知らず、幼少より婦人女子の如くに育ちて、驕敖の性を養ひ、常に左右近侍を頤使して、君父に事ふる肅敬の禮を辨へず、己れが狎侮する所の卑賤祿任の手儒者を相手として、師と稱しながら爾汝を以て之を呼び、尊敬する心の露いさゝかもなくして、これに學ぶことをば、却て恩遇の如に思ひぬれば、其儒臣たとひ德行・才學・器量・見識衆に超過するものあるも、其指示をうけ其議論に服し、其人を畏敬する程の場に至らずして、さてその左右近侍の臣其講席に列なれるものと、平日玩弄する所のものなれば、いかさま御尤の聖慮などゝ、佞媚の言を入るゝ故に、講論切瑳も但一通りの事にて、蘊奧を叩き根底を窮ることあたはず、討論推究切至懇到の所に至らず、但門外庭中に徘徊して、堂に升り室に入ることは甚難し、是を名て大名學問といふ、學問の益甚すくなし、其正藝も亦同じ、大名藝と名けて尋常士人の腹誹する所なり、老職保傅の人忠實にして學識あらば、道德衆に超たる碩儒を招き、師禮を以これを待て、其講說を聽かしむべし、然といへども一日これをあらためて、十日これをこゞやかしては、亦これも益を得る事かたかるべし、すべて文武之業を講ずるは、夙に興夜に寢て時晷を惜み、勉強勞苦せざれば成就しがたきものなるに、勞を惡み逸を好むは亦人情の常なるを、佞媚の臣晝夜その傍にあ

りて、其遊逸玩好の事をすゝめ、其悪を逢迎せば、佞媚の言は行はれ易く、正直の言は入がたきが故に、生質英明の君といへども、これに惑されざる事あたはず、まして年少の君世上の事を多く見聞したことなきをや、されば深窓の中にて女子の手に育ちし肉食の人は、外見いかめしけれ共、鍛錬切瑳の功を積ざるゆゑに、多くは内實虚空にして、紙虎・木偶の謗を免れがたし、まして廟堂の籌・將略の算・安危存亡の機をや、みな親らこれを出す事あたはずして、時の權臣勢家に任ずるのみなり、あさましき事ならずや、故に「教二冑子一以レ樂、直溫寛栗」といひ、また「大司徒養二國子一以レ道、教二之六藝一」とありて、其一に先五禮といへり、文王世子には、「三王教二世子一、必以二禮樂一」とあり、又古へは痒序學校の設あり、庠は養なり、老人碩徳を崇敬遜讓して其齒ひを尊み、其教を請へるなり、乞言合語即是なり、養老の禮に至りては、天子といへども南面したまはず、天子先老人を拜し玉へり、しかるのみならず、學に入りては庶人と齒し讓るといへり、凡人は三に生ず、父これを生、君これを養ひ、師これを教ふ、これに事ふること一なりといへり、師は君父とならべ稱すれば、其禮待の鄭重なる事知べし、まして齒徳は三達徳の二なるをや、古の天子の其師を尊尚し玉ひし、其儒臣を先生と稱して、名を呼玉はずといふことあり、天子に在てもなほしかり、まして諸侯をや、しかるに高貴肉食の人々、權勢門閥の大臣豪家、多くは三生三德、敬レ老尊レ師の禮を知らず、位資職祿を鼻にかけて尊大に搆へ、師儒を睥睨侮慢するをば、手柄の樣に思へるもの多し、故に儒者は膽氣あるものは、之に事ることを

屑とせずして、戸を閉人と交らず、其鄙劣賤俗なる者は、道を枉て之に屈し、卑辱にのみなり、下りて緇徒の位階ありて、米金多く僕從多きに似もやらぬは、先王の禮世に行はれざるによれるにて、淺ましき事の限りにてありける、是しかしながら儒者先王の禮を講ぜざるの誤りより出たる事なり、曲禮曰、分レ爭辨レ訟、非レ禮不レ決、君臣上下、父子兄弟、非レ禮不レ定、官學事レ師、非レ禮不レ新、班レ朝治レ軍、臨レ官行レ法、非レ禮威嚴不レ行、禱祠祭祀、供ニ給鬼神一、非レ禮不レ誠不レ莊、是以恭敬撙節、退讓以明レ禮」とあり、禮の大なる事かくのごとし、今の世に先王の禮全く復する事を得ば、天下を治むるは掌を指すが如くにてぞ有べき、先王の道廢しゝより、衣食住の三つのものも奢侈にのみ流れゆきて、法度なきに至りぬ、衣服の制古へは王公大人より下庶人に至る迄、各皆その分限に應じて其制あり、所レ謂「非ニ先王之法服一不レ服」とあるは是なり、人々好みに應じてなすべきことには非ず、しかるに今は其官服のみ、位階によりて貴賤の等差有といへども、熨斗目・羽二重・紗綾・縮緬等の類に至りては、上下尊卑の別ある事なく、各その好む所に從ひて之を制せり、熨斗目は禮服なれども、其地がら色あひをわかたず、これを市肆にひさぎて、各その欲するまゝにこれを用ひぬ、まして其禮服にあらざるは、織嶋・小紋形等我儘に制造して、これを用ふるがゆゑに、士民上下の別ある事なし、金多きもの模樣綺繡の好み、思ふまゝに奢侈を極むる故に、士大夫は貧しといへども、精好美麗の品を求めざる事を得ず、しからざれば人の輕侮を受て、世に立つ事を得ずして、自ら衰微に及べり、商買は皆不耕不織にて、

易く買ひ貴く賣り、莫大の贏利を貪るが故に、天下の士大夫是が爲に窮を致せり、昔青砥左衛門尉は
素襖の洗濯せしが、未だ乾かざりしを以て、其日の出仕を止まり、阿部時秋は帷子無きを以て出仕を
辭し、賴朝卿は近臣の美服を見てその袖を剪り、神君は茶苧の袴を警め玉へるの類、明君賢臣儉を守
り奢りを戒めつる事如レ此なりき、豐太閤戰亂て天下を一定せられし功は甚高けれども、禮樂を以て天
下を治る事を知らず、奢侈度なかりしかば、創業のみにて守成を得ざりき、世の中たとひ奢侈の風に
うつり、人情輕薄になりぬとも、先王の法制に從ひて嚴くこれを禁じたらんには、豈法令の行はれざ
る理あらんや、王制に「變レ禮易レ樂者爲二不從一、革二制度衣服一者爲レ畔」とありて、不レ從者、畔者は或は流
し、或は討じたりき、從ふものを賞し、從はざるものを罰しなば、誰か從ざるものあらんや、堯舜とい
へども賞罰なきの治を施すことあたはずとこそいへれ、古へは飮食にも制ありつる事、內則及び郊特
牲等に詳也、孔子も「割不レ正不レ食、不レ得二其醬一不レ食、肉雖レ多不レ使レ勝二食氣一、沽酒市脯不レ食」などと
いひて、さて其輕重大小の數は、身に應じ事に從ひて皆隆殺あり、玄酒・明水・體薦・折俎・醯醢之美、煎
鹽之尙、蔬食菜羹瓜祭レ之類是なり、又曲禮にて「共レ飯不レ飽不レ澤レ手、毋レ摶レ飯、毋レ放レ飯、毋レ流レ歠、
毋レ咤レ食」などありて、飮食の禮廢しゝより、奇味珍膳心のまゝに制して、許多の黃金を費すことゝは
なれり、古へは都下に酒肆。飯店と稱するもののあることなし、今は酒食の肆店都下に充滿して、金銀資
財を費すこと塵芥のごとし、奢侈の制し難きは、職として禮の廢するに因なり、居室も亦先王之を定

め、各共制あり、男女室を別にして媟黷臭穢の憂ひなからしむ、足利將軍以前迄は、居室の制大槩今の民屋の如くにて、貴人の居室といへども一棟々々に立て、今の如く聯綿と建連ねたるはなかりしなり、足利將軍の時代より人々思ひ〱に居住を營みぬれば、奢侈法度なくして、種々好事の結構をなすことゝはなれり、古への明王かくの如くならんことを憂ひて、時々巡狩の事あり、天下の風俗を觀て黜陟の政をし玉へり、樂記曰、「世亂則禮慝、而樂淫」と、されば禮樂によりて政教の隆替を知りぬべし、王制曰、「命二大師一陳レ詩以觀二民風一、命レ市納レ賈以觀三民之所二好惡一、志二淫好辟一、命二典禮一考二時月一定日同律、禮樂制度衣服正レ之、」又曰、「六禮、冠昏喪祭鄕相見、七教、父子・兄弟・夫婦・君臣・長幼・朋友・賓客、八政、衣服事異別度量敬制」とありて、天下を治むるの道、禮を先とせざることなかりしぞかし、故に孔子も「道レ之以レ德、齊レ之以レ禮、有レ恥且格」と宣ひ、又「以二禮讓一治レ國何有」と說けり、後世儒者多くは訓詁のみ、章句のみ、浮華の詩賦のみにて、さなければ性命體用の理窟に陷溺して、先王孔子禮樂を以て天下を治むるの意を辨ぜず、亦悲べきにあらずや、「優々大哉、禮儀三百、威儀三千、待二其人一然後行」とは、蓋あらかじめ後世の爲に先王の法を述て、知己を千載に求られしものなるべし

○問曰、古へは樂を以て教の初としゝこと堯典に見え、孔子も樂を重んぜさせられし事諸書に見え候、然ども五倫の教こそ第一たるべし、何ぞ迂遠なる樂をしも、教の始とは致べき、殊に我皇國にては、

禮樂の敎は末事とすべし、これ無とも事缺ぬやうに覺え候は如何

答曰、禮樂は即五倫五敎にて、五倫五敎の外に別に禮樂するに非ず、尙書首篇に、「命レ夔司レ樂敎ニ冑子ニ」といへり、樂を以て敎の要とし、事明白なり、上古は質樸にて、但實用のみを勤めとし、無用の辨不紛之察は、たとへてこれをなすものなく、衣食住の三だに不足なければ、其餘は甚粗略なりき、されども人生敎なければ禽獸に近きが故に、禮樂を制して之を敎へ、人をして禽獸たることをまぬかれしむ、六樂是也、凡人情安逸を好んで困苦を惡み、奢侈を嗜んで儉素を耻、先王は能人情に通じ玉へれば、人たるもの樂みなくては治めがたきを察し、祭祀の禮を制し、樂を作りて人々を樂ましめ玉ひ、また飲酒饗食の禮を作りてこれを飲食せしめき、飲食は人命の本大欲の存する所なれば、中庸にも「旅酬下爲レ上」と云へることあり、是すなはち下和睦をいたすの道なり、凡人情怒る時は爭ひ、喜時は和らぐ、和ぐものには敎を施す事を得べし、怒するものには敎を施すことかたし、彼が喜び樂む所により、敎へをいれ善に導けば、導かるゝともしらずして自ら善に入なり、其制作する所の音樂は、作れる人の德によりて、おのづから佳惡の差別あるなり、聲音の道政と通ずといへるは是なり、古への先王の樂を制作しゝは、五聲・六律・十二管を以て音聲の高下淸濁を正し、金石・絲竹・匏土・革木を以て八風に象るといふ、八風とは四方の隅を去りて、圓形と成つるに八方の風氣を備ると云ことにて、缺ることなく偏なる事なきを云なり、さて樂の敎へは人を和樂せしむるに在、人の和樂することは、或は剛克、

或は柔克して、正直中和に歸せしむるなり、後世にては古の堯・舜・禹・湯・文・武の詩なりとて、今になほ存しゝはあらざれども、「股肱喜哉、元首起哉、百工熙哉、臣哉鄰哉」などいふの類ひ、皆唐虞の歌なり、されば古へ五倫五教を詩に作りて歌へることは、我皇國にていはゞ小兒婦女の耳に熟し、口に膾炙する所の義經・辨慶・楠などの名將勇士の故事履歷を、歌樂に作りてうたはしむると同じ、小兒の時より忠孝の善行に習ひ熟すれば、德性自然の如くにて、人を善道に導くこと、これにすぎたるはなし、故に詩の文辭に「允武允文、克忠克孝、如レ切如レ磋、如レ琢如レ磨、不レ競不レ絿、不レ剛不レ柔」などありて、直溫寬栗程よく行はれて、剛きは柔くならしめ、柔なるは剛からしめ、剛柔各その宜を得て、正直中和に歸せしむること、皆其喜ぶ所樂む所より、徐々教を入れて扞挌の憂へなからしむるなり、樂記に、「樂天地之命、中和之紀、人情之所レ不レ能レ免也」とあるは是也、文王世子には「凡三王教二世子一必以二禮樂一」といひ、又「凡學二世子一及學レ士、必時春夏學二干戈一、秋冬學二羽籥一、皆於二東序一」といへり、蓋周に至りては、禮樂のをしへ益具備しつると見ゆ、殊に學宮に序といへる名あるは、以レ射教とするなり、されば古への教は文武の藝を兼し事知べし、周禮に國子に敎へるに「樂德樂語」の目あり、萬民に教るに「三物・六德・六行・六藝」の目あり、卿大夫三年に大比して賢者能者を興すの政あり、據レ是觀レ之、周の人才を教育し、賢者を選擧しゝの方は、德行と道藝とを以てして、殊に樂をば教の要としゝこと知べし、蓋古の人を教るは、飲酒の禮に於て其歡を盡さしめ、詩章を諷詠せしめて、其

善心を興發せしめ、直温あひ濟ひ、剛柔その中に適して、士人の氣象偏倚なからしめ、文武を兼て實用の才を成たてゝ、其中に就きて最賢德のなれるものを擇び擧るになんあるかの鄕射・鄕飮酒の禮と云ことは、蓋し人々閑暇の時を見て、諸侯の鄕士、大夫の致仕して鄕中に退居せるが、賢德衆に秀たる　或は處士のうちにて、學知道藝ある人を招待して此禮をなさしむ、爾時人々入ㇾ門ことをきんぜずして、其尊ㇾ賢傚ㇾ長、和順美の禮容を縱觀せしめ、孝弟・慈愛・文武・淸美のさまを見習はしむるなり、其大略、樂工・鹿鳴・四牡・皇皇者華の篇を歌へるは、まづ鹿鳴の篇は、君與㆓臣下、及四方之賓㆒燕、講ㇾ道修ㇾ政之樂歌なれば也、旨酒を設け、嘉賓を招きぬれば、嘉賓孔昭なる德を以て我に善道を示せるを、我よくそれを則とし、見傚ひて勤め行ふべきことを敎るなり、四牡の篇は、君使ㇾ臣其勞をいたはり慰る樂歌なり、蓋使臣王事の勤勞して、父母を將(やしな)ふ事を得ざるを歎じ、早く故鄕に歸らん事を懷ひて悲傷するなるべしと、君上たる人の推恕せらるゝ趣をのべて、上下の至情を盡し、仁恕忠孝の道を敎るなり、皇々者華の篇は、君上人をして他邦へ使せしむる樂歌なり、己れ行役に勤苦すれども、行屆かざるを憂ひて、古老賢哲に諮諏し、其職役の義理を光明せんと欲る趣を述べたり、さて此三篇のうたひもの終れば、主人より樂師樂人に酒肴を賜ひ、樂師樂人に酒肴を賜ふの禮終れば、樂人笙を吹て南陔・白華・華黍を奏す、主人又笙人の長者、及び笙ふき三人に一獻の禮ありて、さてそれより代る〳〵歌㆓魚麗㆒、笙㆓由庚㆒、歌㆓南有嘉魚㆒、笙㆓崇丘㆒、歌㆓南山有臺・由儀㆒也、魚麗の篇は、世平に年豐にし

て、上下物多くして乏しからぬことをいひて、賓を優待するなり、南有嘉魚は、太平の時君子有ㇾ酒、賢者と共にこれを樂まんことを願ひ、禮を以て賢者に下れば、賢者も亦纍蔓して、多く其家に趣き來りて燕樂すと云事を云へり、南山有臺の篇は、太平の治は賢者を本とす、賢者は邦家の基・民の父母なり、能賢者を用ふれば、其身壽考にして名と德とともに長く後世に聞えんと云事をいへるなり、さて又周南・關雎・葛覃・卷耳・召南・鵲巢・采蘩・采蘋を合樂すとあり、關雎は荇菜をもて先祖を祭り、孝敬を致す事をいへり、葛覃は后妃の職をいひ、卷耳は后妃の志をいひ、鵲巢は國君夫人の德をいひ、采蘩は國君夫人不ㇾ失ㇾ職をいひ、采蘋は卿大夫の妻能修二其法度一をいふ、此六篇をうたへるは、是皆敎の原なれば、飮酒の禮に由て賢者の敎へを受まく欲する意をいふなり、大小の別はあれど、養老・乞言・合語の禮といふこと亦似寄たるものなり、鄕射禮にも周南・關雎・召南・鵲巢を歌ひ、大射禮にも肆夏・狸首を歌ひ、又無等樂とて代る〴〵頻りに歌ふなり、鄕飮酒義に、「君子之所ㇾ謂敎者、非二家至而日見一ㇾ之也、合二諸鄕射一、敎二之鄕飮酒之禮一、而孝弟之行立矣」といひ、又樂論に、「吾觀二於鄕一、而知二王道之易一」といひ、書にては、「王道平々、王道正直」といひ、史記樂書には、「天子躬於二明堂一臨觀、而萬民咸蕩二滌邪穢一、雅頌之音理民正、嗚噭之聲興而士奮、鄭衛之曲動而心淫」といへども、先王人を治るの法は、繁雜なる事かつて無し、禮樂を以て敎となし、正直を以て之を導きて、その敎は簡にして從やすし、故に家毎に至てこれを見にあらずといへり、其敎法の迫切ならずして、さて人に入ることのふかき事、

後世曲學拘儒の所言と大異なることをしるべし、詩敎感レ人の深さは、筆舌の盡すべき所には非ず、抑周の世に至りて、天下の列國詩を以て敎としゝ事、其由來はなはだ遠し、國語に、「申叔時敎ニ之詩一而爲レ之道ニ顯德一、以耀ニ明其志一」といへるを、韋昭が註には、「顯德、謂レ若ニ成湯文武周召僖公之屬一」詩の美とする者なりといへり、孔子も詩書禮樂を以て人を敎へり、其雅言しゝ所は、詩書執禮といひ、禮云々々玉帛云乎哉、樂云々々鐘鼓云乎哉と申されし類甚多し、古より詩書を並稱すれども、孔子はとりわけて詩をば專らに敎られしやうに覺ゆ、詩をまなびたるやとあつて、書を學つるとはいはれず、「詩可ニ以興一、可ニ以觀一、可ニ以羣一、可ニ以怨一、邇レ之事レ父、遠レ之事レ君、多識ニ於鳥獸草木之名一」といはれしも、蓋詩の敎によりて忠孝に本き、さて其餘力を以て廣く推して、鳥獸草木までにも至るべき事を說れしなり、凡政事の得失、人物の邪正、人情の曲折、風俗の隆汙、文事の具、武事の備、器械・百物・蟲魚之微に至るまで、詩三百篇中に於て盡く載せざる事なし、蓋字書といふことの孔子の時にはあらざりし故に、詩は即ち當時の字書を兼るものなるべし、孔子又誦ニ詩三百一授レ之、以レ政不レ達、使ニ于四方一、不レ能ニ專對一、則雖レ多亦何以」と申されき、論語中詩を引て證とせしは枚擧すべからずして、書を引し事は甚まれなり、蓋詩は固より樂章にて、其聲音の人心を感ぜしむること、他の書の及ぶ所にあらずして、之を學ぶものも記しやすく喩り易くして、其善心を起し發する事尤深きが故なり、詩樂は堯舜の敎を寄られしものなるが故に、夏・殷の世を歷て詩の敎の絕たることなし、周末に至りても、

諸侯及び卿大夫士相逢ひ相聘するに樂をなし、詩を歌ひて其情志を通じつるなり、樂書に子夏が「君子於レ是語、於レ是道レ古、脩レ身及レ家、平二均天下一、此古學之發也」といへる語を引けり、是れに據るに、古への敎學は詩樂によりたる事しるべし、嗚呼詩樂の敎は簡にして盡せり、迂に似たらば、誰かこれを迂なりと云や

○問曰、樂は先王の敎具の中、最第一なるものゝやうに承候、今の世に施して行はるべきものに候や

答曰、樂書に「王者功成作レ樂、治定制レ禮、其功大者其樂備」と云へり、されば革命の君は必樂を制して移レ風易レ俗、天下を一新して人心を鼓舞作興するなり、すべて制度法令の新規なるは、人民の耳目に慣はず心に熟せず、其初は上の德意と違背するもの多くなんある、樂敎はしからず、今之を聞て嘉び、之を見て樂むを以て、老少男女・匹夫下﨟・小童・奴婢に至るまで、いつともなく耳になれ口に唱て、優遊和樂して之におもむく者多し、されば其通知やすく、其敎行れやすく、若樂敎一たび行はれなば、孝弟忠信、不レ競不レ絿、不レ剛不レ柔、溫嚴寬猛の中を得て、允文允武の風を成して、萬民雍熈の美に至るべきも難かるまじ、是堯舜禹相うけ相授ける要語の、允執二其中一といへるものにて、中和・中直・中正・中庸・皇極・正直・平々・蕩々などいへる是なり、此德深く人身に浹洽して、人々春風和煦の中に在るが如くなるは、上下和睦して溫良慈愛の俗を成し、鰥寡孤獨も其所を得て、怨恨無聊を訟ふるものなかるべし、かくて天地を動し鬼神を感ぜしむるに至りなば、五日一雨、十日一風、時令不

レ達、厲疫不レ行して、盗賊暴疾起ることなく、衆民札瘥夭昏の患たえはつべし、しからば天下萬民塊桴、土鼓撃壤の樂みをうけて、所レ謂皡々如驩虞如俗を成すべし、蓋樂教は文德を用ひて、人の和順を鞏動するの道なり、人和既に得る時は、相互に救ひ、養ひは儲蓄餘りあり、防禦の備へ缺る事なかるべし、しからば則政化海外に及びて、四夷譯を重て至らんこと必せり、孟子の「天時地利、不レ如二人和一」といへること、樂敎を以て人和を致せば、國勢の隆盛かくのごときに至れるを以て云へるなり、孟子樂を論じて、今の樂は古の樂の如し、王の樂を好む事甚しくば、齊は其庶幾んかと云へり、孟子豈古の樂今の樂との異なるを知らざらんや、但古の樂は今の人情に通ずべからざるを以て、之を聽とも益あることなきが故に、其同じと云へるは、蓋樂を制するの意の一なるを云へるなり、學者深く先王制樂しゝ意に達せば、樂敎の必不レ可レ缺事を知らん、古の音樂周の幽厲より衰へ、桑間濮上の音起りて、雅樂は世に絶たるが如くなりき、されども古の天地は今の天地にて、今の人猶古のごとくなれば、人情豈古今の別あらんや、唯時王の政教によりて、風俗隆替あるなり、程伊川は「人不レ樂レ學、欲三且教二之歌舞一、如二古詩三百篇一、其言簡奥、今人未レ易レ曉、別欲下作二詩教中童子上、朝夕歌上レ之、似レ當レ有レ助」といへり、伊川の意甚よし、然れども伊川は樂敎をしらず、わづかに樂教の一端をいへるのみ、其實は樂はまことに教の主とする所なるに、伊川はたゞ似レ當レ有レ助といへり、豈似字を以てこれを稱すべけんや、是伊川古書を細讀せざる誤なり、東軒湯河先生曰、本邦古來所レ傳之樂、人聞レ之不レ悅焉、流俗所

レ用謠能、及歌舞妓、則人々莫レ不レ悅、而風俗好尙、言語衣服、日移月易、率皆受ニ變於此一、則其所ニ關係一大矣、若有ニ聖人作一、必因レ此參酌損益、以遵レ之耳ニとあり、是達者の言にて、拘儒の能知る所にはあらず、その參酌損益すといへるは尤味ひあり、今の歌舞妓は鄙しきがうへにもいやしきものにて、その器物。三絃。胡弓などいへるもの、何れも煩手淫聲にして、五降の後不レ可レ彈といへるものにて有ける、たとひ忠孝節義の故事を歌舞すとも、かゝる聲音・器物にては、いかでか人の正氣を感ぜしむることあらんや、音律に達するものをして斟酌せしむべきことぞかし、昔北條の幕下に佐野の天德寺といへる人あり、琵琶法師を召て平家をかたらしめて、いとかなしき段を奏せよと云つるに、源三位賴政が鵺を射し段を語りければ、天德寺素袍の袖をぬらして、猶是よりまさりて更に悲しき段やあると云ければ、佐々木四郎高綱が宇治川の先陣をなん語りける、この度は天德寺いと袂をしぼりあへず、むせびかへりてぞ泣ける、吾神君にも亦八島の合戰に、那須與市が扇子の的を射し章をうたはしめ玉ひて、御落涙あらせられしとなんいひつたふ、大久保彥左衛門嘗て人の琵琶法師の平家かたるをきゝて、落涙ししを笑ひければ、本多正信かの平家かたる法師に命じて、このたびは武勇たくましくきはめて強き事かたりて、彥左を泣かしめよと云はるれば、法師きはめてつよきことかたりつるに、彥左衛門果して泣たりと云、保元より三四百年も戰爭打續きし後なれば、神君の御時代には人々質朴にて、平家を聞ても涙を灑ぎつるにや、某も豐川勾當といへる法師が、小松內府が父淨海相國を諫めし段をかたりつるを

きゝしに、只悲愴には聞しかども、落涙催すまでにはあらざりき、但聞く耳の忠孝ならぬが故なるか、はた此平家と云ものも、今の人情には通じがたくして、人を感ぜしむることの少きによれるか知がたし、皇國の古へには神樂あり、催馬樂あり、田樂・幸若・今様・猿樂あり、其他の俗樂は白拍子の歌・阮咸・琉球・筑紫箏・淨瑠璃・義太夫あり、其他種々の淫聲起りて、愚夫愚婦の心耳に入易し、是等を斟酌して忠孝・義烈・節操・慈愛の事實を、今の世の能などのさまに作りて、其歌曲音律はいかにもいやしからぬやうに、優美にし儼威にもして、別に新樂を制して士君子の弄びとせば、風を移し俗を易ふること、是より速なるはなかるべし、近世にては此四五十年の間にても、種々新き淫樂行れて、風俗を奢侈に移らしめつること、人々のよくしれる所なり、いかにといふに、音聲の道はいと妙なるものにて、自然小人の心を感ぜしむること、響の聲に應ずるが如きぞかし、さるは人生るればやがて口を開いて聲を發し、教ずして能笑語啼哭し、或は童謠・俚諺・應唯・承諾・猿樂・今様の類耳にふるれば、やがて早く覺えて、片言ながらにうたひさえづるものなれば、人には教へざれども、音樂の道自から備れるなり、そのおのづから備れる所によりて、これを聳動鼓舞するがゆゑに、樂の教ばかりは人の心に入やすくして、これを學ぶものゝ苦心焦思の勞なくして、いつとなし習慣して、善にも移りつくべく、惡にも化しつべし、しかる故に「移レ風易レ俗、莫レ善ニ于樂一」とは孔子もいへり、さてかくの如く人の心を感ぜしむることの速なるが故に、樂の正邪雅俗によりて、人心の善惡佳慝を生ずれ、邦家の治亂も是より起

りつべし、かるがゆゑに鄭聲を放てとは孔子も戒め置れたりき、さていかなるをか鄭聲とはいへる、晉樂工師曠が桑間濮上の音をきゝて、亡國の聲と云へるは、即ち孔子の戒められし鄭聲にて、手かず多いそがはしくして、其音たとへば死に臨めるもの丶泣叫ぶに似たり、師曠が五降の後不レ可レ彈といへるは是にて、古人これを煩手頻數と注し置たるぞかし、聲音は人情につるゝもの故に、古人も其樂をきゝて其德を知るとはいへり、太平無事の世久しくして、人々自ら奢侈の風に流れゆきて、衣食。居住の制度もなく、貨財多きもののみを貴ぶやうになりて、人の心やう〳〵菲薄に成行ぬれば、自ら天の音聲も煩數、淫靡の極にいたれるなり、荀子が樂論に「亂世之徵、其服組、其容婦、其俗淫、其志利、其行雜、其聲樂險、其文章綈而采、其養レ生無レ度、其送レ死瘠墨」といへるも、かの風俗嗜好の薄惡、皆淫聲より來るものをいへるなり、余つら〳〵世の中のありさまを見るに、都鄙•遠近•東阪•西僻に至るまでも、昭平の膏腴に潤ひ、衣食の飽暖を極めぬるあまり、所レ謂鄭衛淫靡の樂の如きもの盛に行はれて、男女老少貴賤上下を論ぜず、いづれもみなかの歌舞妓の形容を見効ひて、髮かたちより衣服の染色、裁縫の制に至るまでも、これに似たらんものを好み、言葉づかひ、身のとりなしさへに、みなこれに似よらんことを欲して、さる賤きものゝするわざをば、これをうらやみ、これを學びて、露いささかも恥かしきことは思ひもよらず、かくて此風やう〳〵王公大人に及び、貴府侯家より甚しきは天宮仙室にも移れりと聞つるぞかし、まして卑賤のともがらは、商賈農工の差別なく、歌舞妓のかたは

し知ぬをば却て恥と思て、鄙しく鬧ぐるしき聲をふりたて丶、人繁き大路をもはゞからず、晝夜の差別もなく、高らかにさらひの丶しるにぞ、さるは馬丁輓夫の賤しきもののみかは、たけきもの丶ふ・物學ぶ士子・官位職役いちじるしき吏人をさへに、かのこわいろとかいふものを叫び歩くは、皆淫樂溺音の化する所ぞかし、朝夕この中に陷溺するがゆゑに、少男少女も自ら時に先ち、天癸早く通じて淫情を促しぬれば、父母媒妁の言をもまたで、穴隙を鑽するもの多なりゆき、其父母たるものも、その子女の禮を踰るものあらんことを恐れて、時を待たずして嫁娶しぬれば、其子女未だ人の父母たるの道をも知らで、早く子を抱くにより、生る丶子も筋骨氣血强壯ならずして、札瘥夭昏の患を免れず、是みな煩牛五降の亂溺感觸するによる所ぞかし、かくては一新救弊の御政令もあらでかなはぬこと丶、竊に歎じ奉りけるに、かけまくもかしこけれど、御當代明睿仁恕におはしまして、祖宗先世の遺意に遵奉せさせ玉ひ、節倹質素の命令を施させ玉ひて、才能賢哲の士を舉て各其職に任ぜしめ、百官具舉し、百廢並興り、市朝にては姦慝たえ、草野には遺賢希にして、百穀登穰し物價低下し、細民鼓服の樂をうけ、鰥寡・孤獨・癈疾のもの各其所を得せしめ玉ひて、さてかの戯場・勾欄女・閩妓・衖は皆毀除させて北廓に閑處せしめ、奇器・淫巧・狎媟・戯慢の具市に鬻がず、三絃・胡弓・淫邪・濁亂の音寂として復きこゆることなし、かくて風移り俗易りて、我皇國古よりためしまれなる御世をなさせ玉へる御聖德こそありがたけれ、是所レ謂二聲音之道與一レ政通といへるものにはあらざるか、禮と云樂と云も、玉帛と鐘鼓とに

あらんや、蓋し禮は嚴正なり、樂は和順なり、此意を斟酌して、不レ競不レ絿、不レ剛不レ柔、直而溫、寬而栗、文武兼通」中直純正にして人情に達はずんば、政化の四海に及ばんこと、何の難き事かあるべき、禮樂の道迂濶に似て、迂濶ならぬことを知べきなり

○問曰、皇國の古はもろこしの如く、敎の書と云ものなかりしやうに申ものあるは、如何に候哉

答曰、もろこしにても古へは敎の書とて、別に設けたるものはなかりしぞかし、前にも云如く、尙書は堯・舜・稷・契を初め、夏・殷・周代々の明君賢臣の善言善行を記したるものにて、詩も殷・周時代の賢人君子、其世の事實を或は賞賛し、或は誹謗し、或は諫諍し、或は憤歎し、或は怨恨し、或は警戒し、或は敎令しゝなり、古人詩書共に史なりと申候ひき、いかにとなれば、之を熟讀玩味すれば、其時の君臣の明暗・忠姦、其世の治亂・興廢・盛衰・汚隆能分るが故なり、さるを後の世となりては、此詩書をさして敎の書とはいへるにて候、されば皇國の古事記・舊事紀・日本紀御代々の記錄の書は、即ち古の敎へにて、何もろこしと異なる事なく候、唐土も周末戰爭の世に至りて、楊・墨・老・莊・孟・荀の徒出て、空理議論むつかしくなりゆき、士君子の學問すべて理窟に陷り、敎への書盛りになりて、無用不急の事のみ行はれ、唐虞三代の禮樂簡易の敎を失ひつるなり、我皇國歷世の實錄古記は即ち敎の書なり、三種神器知仁勇を表すといひ、神武天皇武を以て國を建るといひ、大和魂といひ、正直といふなんど、皆唐虞の正直執中と申たると相似て、さて殊に武勇は西土の古よりも遙にまさりたるやうに覺ゆ

るなり、教への書なしとは誰かいへるにや

○問曰、政教は天子より出候ものなれば、庶人處士の私議すべき事にあらず、孔門の教は詩書に本き、唐虞三代の典刑を吟味致までにて其れを學ぶ法則は禮樂に本き、忠孝文武の道を知覺するなり、さらば今の世にても學問と申は、詩書六藝に限候哉

答曰、孔子の道は詩書六藝に限り候へども、今の世となりては、詩書の外に又有用の書數多出來ぬれば、其本をだに忘れざらんには、餘力あるもの博く諸書に涉獵せんこと、何の子細かあるべき、論語は孔子幷孔門諸弟子の言行を記したるものにて、堯舜文武を祖述憲章しゝ意より出たるものなれば、其書は門人の記たるものながら、猶孔子の自ら作られしに同じかるべし、先論語を始として天より詩書にさかのぼりて、先王禮樂政教之本、文武忠孝之道を會得し、さて我子はかへつて性質あら〳〵しくなりゆき、ねぢけひがみて親の命をもきかぬやうに成ゆくものなり、さるゆゑにすなほに育てゝ、よからぬ事はあら〳〵しくしかりのゝしらずして、たゞにらみ置べし、古へ后妃妊娠あれば、胎教とて瞽をして忠孝・義烈・武勇等の正しき事を語り歌はしめて、胎内の子の感じあやからんを望みしぞかし、又后妃弓韣を帶びて男子をうまん事を天に祈ると云事あり、又男子生るゝ時は桑の弧・蓬の矢もて天地四方を射ることあり、これは其子の人となりたらんときよく外寇を防がんとの義を祝しつるなり、これらによれば男子はよろしく武を先とすべきこと知べし、武を以て敎の本をたて、さて又文事にも疎

からぬやうに教ゆべし、人となりてもの心付たらん時は、讓りをしゆること第一なるべし

○問曰、學問の法、詩時六藝の學び方愼で命を承り候ひぬ、さて他の書物は何をか初と致し、如何樣に學び候て可ㇾ然候や

答曰、小兒の時素讀の仕方、麁略ならぬ樣に學ばせ候こと肝要に候、先良師を選みて句讀音訓慥に讀しめ、容儀進退輕忽不恭ならざるやうに心掛さすべし、句讀師あしければ、讀方もかりそめになりて、容儀も自ら整はず、驕慢不恭の風にありやすし、先入主となりてあしく僻つきなば一生の損なり、心を用ふべき事にぞ、素讀の教へ方は朱文公の云へる三到法なん尤好、三到とは目到り、手到り、心到ると申事にて、童子讀ところの書籍の文字は目至りてよく見、手到にてその文字をよくつき、心慥に其文字に到りて、忘れざるやうにする事なり、三到の中にても、心到るの一ヶ條は童子のみにはあらず、年老るまでも讀書するには此心得にてこそあるべけれ、机畔を潔くし、文具を取亂さず、書冊を保護して、しとやかに扱かふべし、さて始て書を讀は孝經論語ぞよろしき、これを教る人一字づゝ慥につかせて、多くよましむべからず、多くよまして放慢ならんは、少しくよましめて、よく記憶せしむるにしかず、色々の節をつくるはあしく、句讀をよくわかちて、調子の高下緩急あるべからず、また背書・覆字・諳誦・默記せしむるも大に益あり、書物の吟味は論語詩書を初とし、和漢の歷史・訓詁・章句のみに拘泥せず、實用急務を專要とし、大意をとるべし、兵書も讀べし、漢土の書は孫子をよし

とす、凡經世の要務・稼穡・蠶桑・天文・地理・水理・貢賦・山海・川澤・林藪・池沼・原野・土風・土性・氣候・度數・治水・開墾・相山・儲蓄・救荒・鐵鉚・銅鑛・湯鏐・錫鉛・骨角・毛羽・齒牙・玉石・礪砥・綿絮・麻枲・絹紬・錦繡・鱗介・陶漁・草木・菜蔬・藥物・煙硝・硫黃・油漆類・武事之用・文事之具・日用之品、各其書あり、一通りは涉獵して其要領を心得置べし、經濟實用の書といへども、汗牛充棟枚擧に暇あらず、有限の生を以て無レ限書をよむ、讀書のみに淫し、精神を耗損し、天機活用を失ふ時は運用の妙なく、拘儒・腐儒の譏を招くのみ、余讀書法別に記す、此に贅せず

志學問答下終

廣惠編像解

遠藤泰通著

廣惠編像解序

夫方荒歉凶饑之際、所以令嗷々待斃之民、免莩餓轉死之患者、莫善於賤糶、莫不善於遏糴也、縱令官家有賑濟之方、至四海之廣、則蓋有所不及矣、列國及巨農豪商、苟有人心者、當輸粟賤糶、損有餘益不足、而助賑濟之所不及矣、如此則厚貲積粟、不礙滯于一方、糶糴均平、天下無飢民也、故曰、莫善於賤糶、莫不善於遏糴也、人之貧富貴賤、雖不齊一、均是天地之子、自天地視之、皆吾同胞兄弟也、豈忍閉糴遏糴、斂手傍觀、嗷々待斃之民乎、雖然歷代史乘所載、列國鎖關、而不輸粟、富民藏糶、而不賑者、往々而有焉、其何也、抑亦有以也、夫封建之制、侯國自國其國、民其民、雖年飢、在官家賑濟之所不急也、天災薦臻、令其民有莩餓轉死之患、則其責不得辭焉、是以隣國雖饑、閉糴而不輸、將以愛其民盡其任藉口也、厚貲積粟、固得之勤儉節用之餘者、豈一朝散之奢侈淫佚、無蓄之國、而使自國之民饑餓乎、巨農豪商之所以致富者、皆因其力、彼自意、一旦賑人、衆多之飢民、力不及救、則其又何益、不如藏糴以全其家、是以不賑也、於是乎、有有年之國飽粱肉、而不登之國不飽糟糠、一家玉食、而一鄉饑死者、以予觀之、列國閉糴、私其國也、豪富不賑、私其家也、天子以天下爲家、以

萬民一爲レ子、舟車所レ至、人力所レ通、凡在二日域一者、至二鰥寡惸獨、疲癃殘疾一、皆莫レ不レ欲三存恤而全二活之一、寧肯令二此境安樂、彼方饑餓一乎、推レ義施レ仁、務在二徧普均平一、而厚貯積粟、當レ令レ不レ礙二滯于一方一也、彼徒知下餓二其民一、破二其產一之爲中不利上、而不レ識下閉糴不レ賑、則逆二天地之意一、致二官家之大弊一、而非二公平仁愛之道一、分レ災共レ憂、損二有餘一益二不足一、卽古之典上也、夫天下之地形不レ一、山之高低、澤之廣狹、氣候之不レ同、旱霖之不レ齊、燥地以レ雨登、濕地以レ旱穰、河內凶則河東豐、未三嘗聞二河內河東、同時而凶一也、以二皇國一徵レ之、西國饑則東國豐、東國豐則西國凶、未三嘗聞二比年凶荒、列國同饑一也、通二之天下萬國一、無レ不二皆然一、徵二之古書一、驗二之近時一、而不レ謬二毫釐一、人々而知レ之、非二我私言一也、列國及巨農豪商、何懼何憂、而閉糴而不レ賑乎、當下傾二國儲一罄二家財一、以爲中賑濟上、我決知二其民之不下饑也、請試細二論之一、今有三一二升米於此一、一日可レ養二一人一、以レ之爲レ糜、雜以二蕗菜一、則當レ養二十人一、以レ是推レ之、一斗米可レ養二百人一、等上之千萬隨加、所レ得當二億萬々一、當三全二活億萬々人一、是我所下以謂中損二有餘一益二不足一、則厚貯積粟、不レ礙二滯于一方一、而糶糴均平、天下無乙飢民甲也、識者所レ當二大觀一也、嗚呼苟有二人心一者、豈忍三閉糴遏糴、斂手傍觀、嗷々待二斃之民一乎、此書也、專說二勸糴一、戒諭懇篤、悲愴慷慨、實令二人聳動感激一、饑歲救荒之策、莫レ切二于此書一、宜哉全二活二百萬人一、庶幾觀者、有レ感二于此一矣、是爲レ序

天保四癸巳年復月念八日

紀伊侍講遠藤通字士同揮二毫于蕗香園雪窓之下一

敍

福利者、釋氏之說也、感應者、老氏之說也、事不經、罔所弗道已、若夫任郎列於六行、惻隱

首乎四端、孰能外此、以自號爲人乎、三晋薦饑、所司繪圖入

告、

聖天子宵旰憂勤、痌瘝在念、甚至不獲予辜形於

尺一視堯湯之咨儆而彌切矣

綸音初下、廿霖萬里、天地鬼神、皆爲昭假、矧有血氣之倫、其詎不欲欣感動者乎、使者身在喪經

之中、謬膺拯救之任、畏此

簡書、倉皇就道、所至觸目憂心、罔知所措、幸此方尚義耆民、若蒲州之周起瑜、汾陽之張瑛等、

暨一時賢士大夫、踴躍捐輸、相助有成、俾無隕越、非惟高賢古道度越尋常、抑亦仰體

聖心、分憂共患、忠愛之誠、出於不自已也、今者秋成有發、哀鴻安宅、然瘡痍乍起、元氣未復、使

者去矣、所冀諸君子益相懋勉、慷慨者勿懈於將來、吝嗇者並懲其已往、轉此瘡傷、共登仁壽、

豈徒斯民之福、卽使者與二三司牧、均拜其賜、唯是戀戀餘息、不獲效仁人之贈言、偶撿舊聞、

稍加删節、如左、付之棗梨、而洪洞劉比部復編次、使者先後疏草、及所行事、撮葉成一帙、倘賢

豪長者、流覽及之、樂善之心、必有油然莫遏者、若謂老生常談也、而置若罔聞、則有財

而不二善用一、必非二其財一、宛其死矣、他人是愉、使者方將下以哀二饑民一者、轉而哀中夫人上也、而又奚說、時

康熙六十年歲次辛丑、仲秋中浣

欽差賑濟都察院左都御史棘人朱軾書於平水行署

廣惠編目次

廣惠編像解上

高安　朱軾可亭氏纂　洪洞劉鎮靖公氏校
紀伊　遠藤通克輔解　南溟齋藤鑫海藏校

朱子勸諭救荒云、今勸ニ上戶有力之家一、切須四存三恤接ニ濟本家地客一、務令レ足レ食、免レ致ニ流移一、將來田土拋荒、公私受レ弊、至下接ニ濟佃人一之外上、所レ有餘米、卽須三各發ニ公平廣大仁愛之心一、莫レ增ニ價利一、莫レ減ニ升斗一、日逐ニ細民告一レ糴、卽與應副、則不ニ惟貧民下戶、獲一レ免ニ饑餓一、而上戶之所ニ保全一、亦自不レ爲レ不レ多、其有ニ措借出放一、亦許三自依ニ鄉例一、將來塡還不レ足、官司當レ爲ニ根究一

もろこし宋の代の大儒朱文公と申せし人〻、飢饉年に富めるものは貧しきものを救ふべきよし、すゝめ諭されし其文にいへるは、當時きゝんにて候へば、汝等身上よく、かねての心掛よくたくはひありて、人に施すべきいうよもあらば、なほざりに心えず、其方家につきたる小まへのものどもをみすてなく、難儀せざるやうにそれ〴〵存恤(すくひつかは)すべし、食物をたしつかはして、彼等難儀にせまり、土地を見限り、他國へ流移(うつら)ざるやうによく目をかくべし、皆ちり〴〵他こくへうつらば、今よりのち田

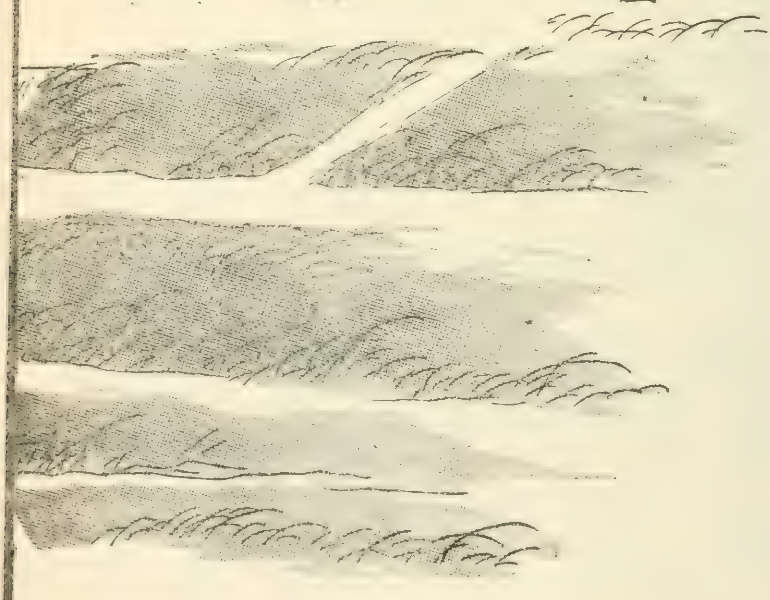
朱元晦令足食免致流移

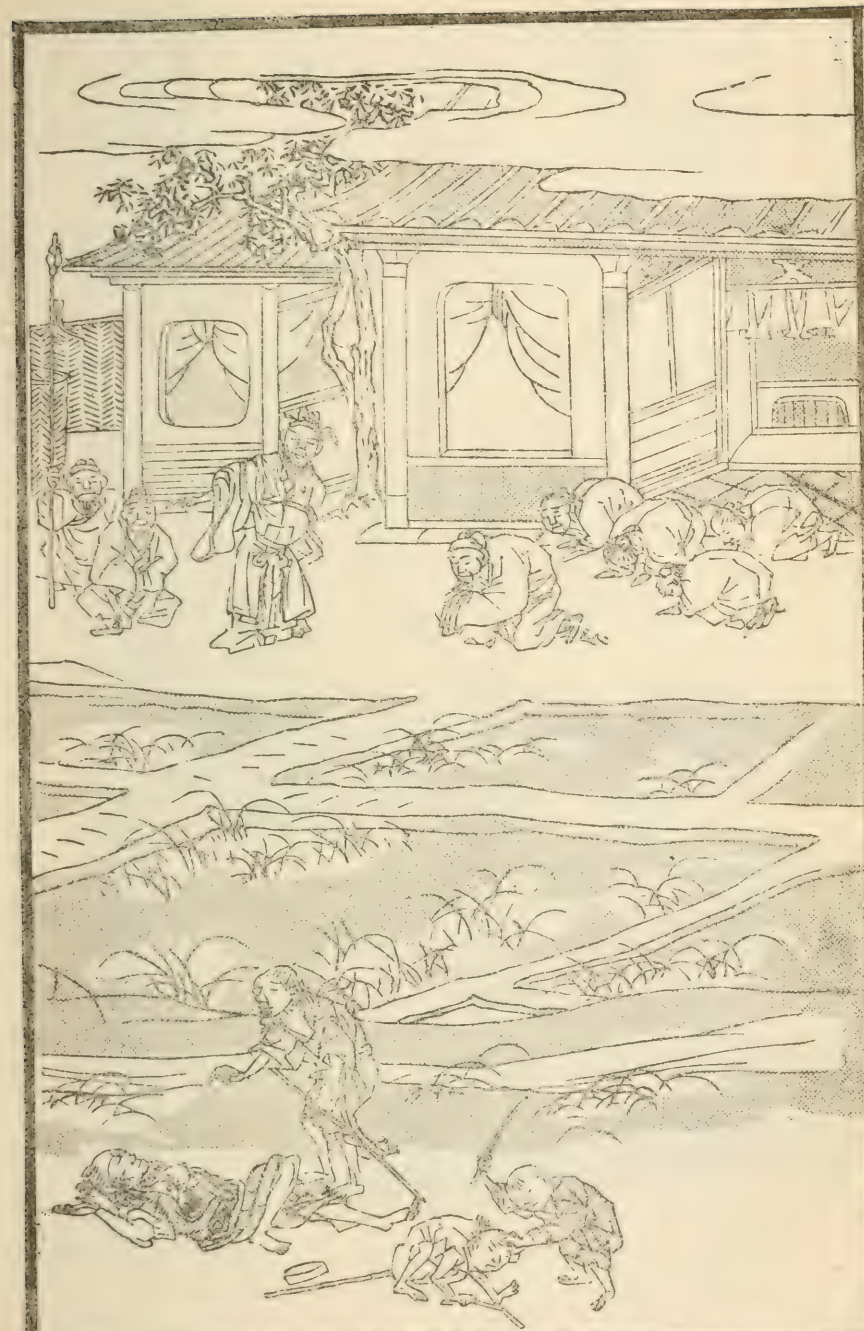
一条内大臣

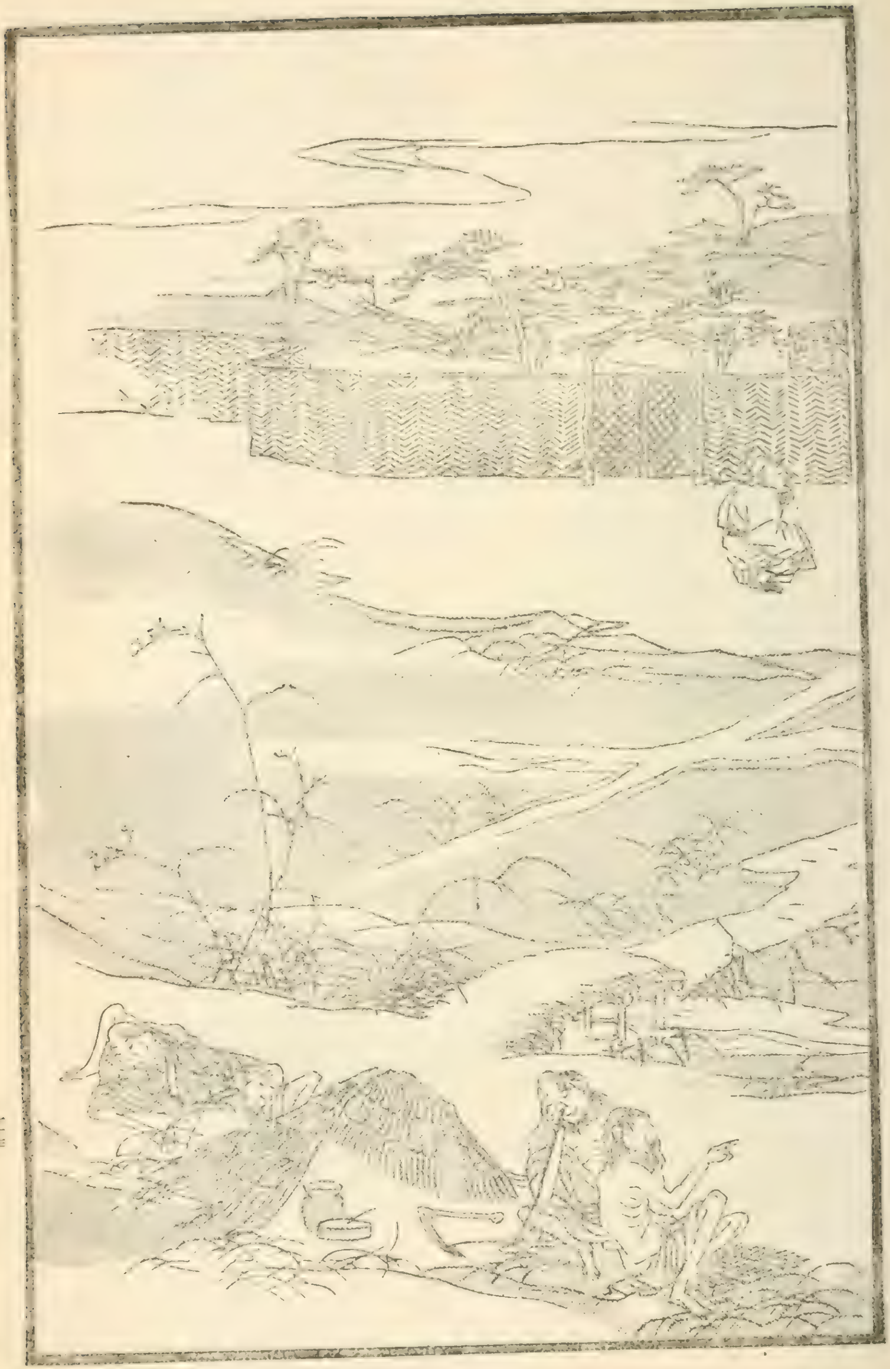
民やすく国ゆたかなる
御代そのすゑをと
きみか千とせをと
たれか祈らむ

少将源定信

りう為まつりれハ国民
みなうらく
こゝろわかちて
国はさかえん

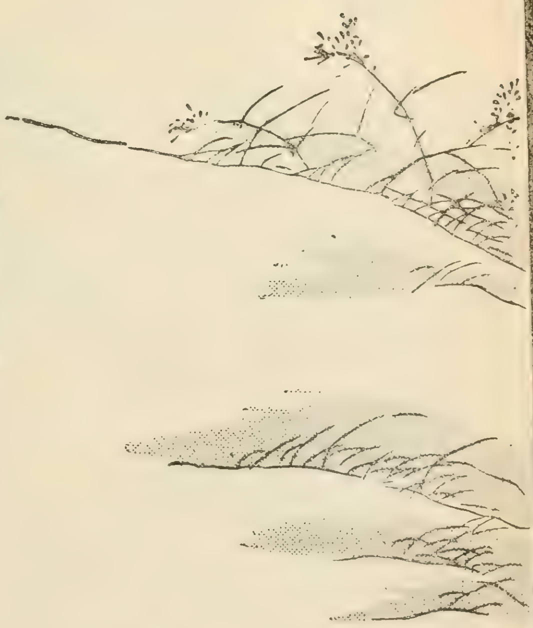






松平太郎作

ホソキ物戀ノ
心ニ琴ノ糸
三郎が脚
扶持方ノ升



拾玉集

誰とみる夢ぞとつねて思ふも
いのちをたのし我物しきちまへ

地田畑作るものなく、荒地となりて上の御損亡ともなり、われ〳〵共方たちまでもつひえたち、めいわくとなるべし、其方が小まへのものは、元よりすくふべきはずのこと、其外のものにてもたくはひの餘米あらば、人は皆天の御子、我も人も兄弟同様のものと心え公平廣大なる仁愛を施さんと發起せよ、みだりに米穀の直あげせず、升めもかるくせず、其日暮のもの毎日すくひ米を乞來らば、夫々その願ひをかなへ遣すべし、かくあらば貧民うゑものがるゝのみならず、富るものも後々荒地出來ず、自分の爲にもなるべし、得分なしとはいふべからず、又かし遣す米穀金銀も、ところの跡方きまりのごとくかしつかはすべし、若かりて塡還ぬものあらば、その時は上より根究ありて、汝等に損は御かけなさるまじきとぞ

宋撫州守黄震約云、天之生ㇾ人、惟有ㇾ愛ㇾ人、人衆不ㇾ能ニ盡皆契上天、天定則時加ニ汰治一（汰治字最精）凡其饑厄之歳、皆其升降之機、富室之在ニ豐年一、賢否未ㇾ知也、及ㇾ至ニ荒年一、或惻怛而濟惠、或頑忍而不ㇾ恤、富室之賢否分矣、小民之在ニ豐年一、善惡未ㇾ白也、及ㇾ至ニ荒年一、或堅忍而守ㇾ分、或無賴而妄作、小民之善惡見矣、賢否既分、善惡既見、天之升ニ降是人一、於ㇾ斯乎決、此非ニ因果之説一也、天道自然、固應ㇾ爾爾、所以飢饉之後、富者或自ㇾ此而貴顯、或自ㇾ此而禍敗、（貧賤憂戚玉汝於成第曰自此而溫厚而刑戮猶爲中人說法耳）貧者或自ㇾ此而溫厚、或自ㇾ此而刑戮、皆有ニ明徵一、思ㇾ之思ㇾ之、自當ニ猛醒一

宋の撫州の守黄震約のいへるは、天の人を生ずるは人を愛たまへるなり、されども多くの人ことご

とく天の御心にかなふにはあらざれども、平日は御とがめもなく捨おき玉ふ、すでに天定り人にかつといふにいたれば、天の下民を見玉ふこと明白にして、よきもあしきもそのすがをたゞしたまふ、おほよそ天の儀危をくだし玉ふは、人をいましめその心掛を見玉ふなれば、この時にこそ人のなりたつと、おちめとのきざしはきはまるなれ、かねもちどもゝ豐年は、させる事なければ、かしこきも愚なるも見えざれども、荒年は其さまよく見分るなり、心がけよくかしこきものは、人のなんぎを惻怛いたみて濟恵をいたし、又愚なるものは人のなんぎをよそめに見て、頑忍おしづよにて、米穀金銀握つめ、あはれみ施す心なし、こゝにて富室の賢と否なると明白にわかるなり、小民も豐年はさせるなんぎなければ、善悪も明白にはみえざれども、荒年には人の様子よく分るなり、心掛よきものは堅固におのれが分限をまもりて、あしきことをなさず、又兼て心掛なき無頼は、くるしさのあまり濫りに悪事をなすゆゑに、民のよしあしもよく見ゆるなり、かしこきもおろかなるもはきとわかれ、善悪す　に明白なれば、天より善人を升悪人を降、善に福し悪に禍したまふこと、此時にこそ御決定はあるなれ、これは佛說にいへる因果報應のわけにはあらで、もとより天道自然の理かくあるべきはづなり、さるによりきゝんもすみ、おだやかになりての後は、富るもの天の福をかうふりて、名世にあらはれ立身するもあり、又不仕合となり身を亡すもあり、又貧民これより身を起し、ゆたかにくらすもあり、或は重き刑戮になるもあり、これいくらも例有ことなりけり、思之思之、き

つと發起（こゝろをあらた）ため氣をつけよ

于忠肅公勸平糶榜曰、富厚之家、有二三千金家計一、可レ捐二貸百金一、萬金家計、可レ捐二貸三百金一、亦不レ過二三十分中一分一耳、損二一分之貲一、而活二數千人之命一、上紓二朝廷蹙憂一、下爲二子孫一積レ福、吾勸二汝等爲二此好事一、爾等未二必恆然一、及二一聞二僧尼說法化緣一、遂能捨二大貲財一、以邀二來世福澤一、豈非二妄謬一乎、孰二若捐二數十百金一、以濟二嗷嗷飢苦之民一、生前萬人感戴、沒後百世流レ芳之爲レ愈也、多有富豪之家、平昔慳吝、不二肯捐賑一、嗟乎渺渺一身、（此亦顯而易見者何富貴人全不理會）在レ世食用有レ限、死又將レ之不レ去、且終日營營、千謀百計作二馬牛一、而不レ肯少捨二一二一、爲二此美事上乎、我亦知二爾等富家巨室、皆辛苦經營成レ家、必不二强致一レ之、亦安敢强出レ之、但恐爾等不レ行二此便宜好事一、爲レ可レ惜耳

于忠肅公平糶榜にいへるは、富厚の家三千金の身上ならば、百金を捐貸（なきものにしてかす）べし、萬金の身上ならば、三百金を捐貸べし、これわが三十分の一分なり、わが一分のすくひもて數千人のいのちをいかさば、上は御やく所のうれひをゆるめ、下は子孫の福ひとなる、我等今かばかり好事を汝等にすゝむるに、汝等げにもとおもひはげむ心のなきは、誠に言がひなきわざ也、また心えぬこと一條あり、一たび僧尼の說法いんゑんをとくをきけば、思ひきりて莫大の金銀米穀をたゞもすてやりて、來世は極樂にてよきめにあはんと、見在の大事をばさしおき、目にもみえぬのちの世の事をねがふは、いかにあやまりならずや、今目前に泣苦汝等が兄弟も同樣なる人間をすておくは、いかなる心いれぞや、わ

づか數十百金のすくひにて、今我が生前に萬人の嗷々飢苦之民をたすけなば、感涙をながしてさこそ有がたくおもふべけれ、しかのみならず、汝等死しての後百世の末までも、かうばしきほまれを殘すにてはなきや、なにとて目にみえぬさきのことに費すをばよろこびて、目前のよきほまれをばせざるや、多有富豪の家は平昔慳吝して思ひきりなく、金銀をなげうち人を賑ことなし、不足もなき身上なるに、何とて左様にはきたなきぞ、にが／＼しく氣のどくなることなり、よく思ひみよ、渺々一身一生の間、食物入用も限ありて、家は廣くきれいなるも、坐所は三尺なり、美服多く持たりとも、一度に十重もきられず、食ひもの多くとも、一升めし一斗酒も用ひがたし、されば若干の金銀毎日にきりつめ何にかはせん、子孫にのこさんとせば、子孫をおろかにするなり、又己持て冥途へゆくこともなりがたし、欲もほどをわきまふべし、さして不足なきうへにも、朝よりゆふべまで營營千謀百計、それまで身のいとなみに、牛馬のごとく骨折てためたる金なれど、纔一分二分をなどかをしみて美事も施さず、しわきがうへにもしわきぞや、しかれどもなんぢらが大きなる身上となることは、皆そちたちのかんなんしんくのいとなみより出來しことなれば、とかくいだしかぬること又理りなれば、我も強くすゝむるにはあらねども、わづかなる賑恤にて人によくいひ立られ、其身の榮のみか、子孫までの榮ともなるものを、きたなびれをしみて、便宜好事をほどこさゞるは、いかに口惜きことならずや、此意よく／＼さとるべし

鎭江守程餉勸損賑論曰、今日旱蝗妨稼、貧民苦饑、此正富室市義種德之秋也、同是編氓、而爾等得稱殷富有、今日殷殷勸賑、不獨爲枵腹之民圖目前、實爲殷富之家圖久遠、凡人之財、決無永聚不散者、顧所散何如耳、慳貪者其散一敗不救、好施者其散累世食報、此理數之必然者也、且上戶自思所以得保其爲上戶者、豈不賴朝廷有法度耶、則殷殷勸賑、又不獨爲爾等圖久遠、始終是實爲爾等圖目前、衆怒難犯、此我所不敢出諸口者、人人知之、爾富民豈獨不知之、此又時勢負富人實害之必然者也、不明乎理數、亦當審乎時勢、毋負開導苦心

鎭江の守なりける程餉が勸損賑論にいへるは、此節旱のみか稲に虫つき、秋の收もあしければ、貧き民の飢にくるしめるあはれさいはん方なし、此時富室たちが市義をみせ種德し、身の爲子孫の謀をもなさんにはよき時節にこそあれ、よく〳〵思ひ候へ、富るも貧しきも、同じ人別帳に入たる民にして、汝らは仕合せよく富有と人にいはるれば、このせつ殷々に人を救へと勸るは、只枵腹たる民の目前の難ぎを救はんが爲のみにはあらず、よくも思へ、じつに汝等殷富の爲に永く久しく家繁昌するの勘辨をすゝむるなり、總じて人の金銀は決して永く聚めおきてちらぬやうにはならぬものなり、そのちりうするといふは、いかにと思案すべし、さて其わけは平日慳貪欲ふかなるものは、人人目をつけにくむゆゑ、なにぞ仕損じある時はふりむき救ふものさらになく、平日施をこのむものは、衆人のよみする所なれば、孫子の末までもおのづからよき報來るべし、これ自然のことわりな

らずや、其上汝等上戶（ぶげん）のものよく思へ、その身ぶげんになりたるは何ゆゑぞ、皆上に御法度ありてみだりなることなく、をさめ玉へるおかげにて家をたもつなり、さればこそ般々勸賑るは、とほく汝等が子孫の爲をはかりていふのみならず、實に汝等が今目前に禍ひのおこらんことをおそるゝ也、汝ら吝嗇（しわく）きたなぐれ、多の人々怒りにくみて、危難に及ぶ時は申わけをする間もあるまじ、この義は我らが口より申がたき所なり、人々の心にしる所なれば、なんぢ富民どもなどしらぬことの有べきや、時のいきほひにておそるべきところなり、汝等たとひ道理は明かにわきまへずとも、さし當る時節柄、わが身の爲不爲のところは、よく〳〵覺悟してあやまつことなかれ、我らがいろ〳〵と苦身（くに）して開導（いゝわけいひ）きかするを、やよ汝富民どもそらあをむいて聞ことなかれ

王志堅蔣門荒政引曰、三簋之需、損其一足以活一夫矣、一縑之衣遲一歲足以存數口矣、推（損一簞之食遲一歲之衣猶曰損也還由饌豆簫鼓是亦不可已已乎寺廟神佛之供何異委之溝壑總使邀求福利何如限而救人爲實在功德）而言之、凡賓筵之觴豆、樓船之簫鼓、寺廟之鑄塑、神佛之旛袍、薦醮之香紙、得無有、可省以爲鵠形者地乎、仁人君子共起而應之、當不待辭之畢矣、（右條欵）

王志堅といふ人の蔣門荒政といふ書のはしがきにいへるは、富るもの酒食のもとあいろ〳〵のさかなそへもの有、其内の一しなをへしなば、一人の飢をばすくふべし、ひとつの衣當年こしらふべきを一年こらへて、そのあたひもて人をすくはゞ、五七人をばいかすべし、此こゝろを推ていはゞ、惣じて賓筵のさけ肴、二階のさわぎ船遊琴三味線のものいり、又宮寺の勸化、鑄塑の修復、神佛のゝ

ぼりはた、色々の實もの、是らなうても大事なきものなれば、その費をもて顔形やせおとろへたる饑人等をすくひ遣はすべきにあらずや、もし仁人君子にしてこのことばをきかば、すみやかに發起し、このことばのをはるをまたあへず、金銀をなげうちすくひつべし

馬伏波云、富者貴能施濟、不則守ㇾ財虜耳

馬伏波いへるは、富る者の人に貴まるゝは、金銀をゝしまず人の難儀を濟ふゆゑなり、金銀財寶を持ながら、をしみて施をせざるは、たゞからの番をする奴にひとしかるべし

司馬溫公家訓曰、積ㇾ金遺二於子孫一、子孫未二必能守一、積ㇾ書遺二於子孫一、子孫未二必能讀一、不ㇾ如下積二陰德於冥冥之中一、以爲中子孫長久之計上

司馬溫公が家訓にいはく、金を積て子孫に遺せば、子孫必ずよく守るにもあらず、書物をたくはへて子孫にのこすも、子孫必ずよく讀にあらず、只一ッ子孫のためになる事あり、冥々内々に陰德を人にかけてやり、力の及ぶだけはいくたびも施しなば、天より陽に報をうけて、子孫永く繁昌のもとゐなり、子孫長久のためを思はゞ、これにまさることあらじとぞ

沈學士勸荒匯議云、嗚呼世事、一何其變遷不ㇾ常哉、然未ㇾ可ㇾ以二一二一指數一也、姑舉ㇾ所ㇾ見、吾貲朋宴會、珍饈羅列、僮僕豢養之餘、輿馬頻饒、而貧人有下終身不ㇾ知二肉味一者上、有二饑餓死者一、吾冬裘見之、適嬪以ㇾ時、資欲ㇾ盛、熱寄ㇾ娘ㇾ附向、而貧人有ㇾ衣不ㇾ蔽ㇾ體、傍徨無ㇾ依、朔風刺ㇾ骨、寒顫掩面、吾高著

大棟、安居甚適、猶復爲二山池臺館、魚鳥花竹之玩一、而貧人緩急無レ頼、至レ有下捐二性命一、割二父子夫妻之懽一者上、吾爲二身家子孫計一、已寛然有レ餘、猶務二多藏厚蓄一、而貧人有下室如二懸磬一、朝不レ謀レ夕者上、吾財貨紛紜、而耳目不レ及レ周、精神不レ及レ運、不レ免下狼戾縱橫、陰以潤中盜賊囊橐上、而貧人偶拾二其一一、遺秉穉穗寫富人纖嗇狀如畫則忍不レ能レ予、或負二貸子錢一、逼レ工易レ事、則刀錐之末、有二盡爭レ之者一、吾盛陳二筐篚一、羣二援豪貴一、惟恐此勢利小人較慳吝錢癖又下一等矣レ不レ納、而貧人丐二一錢之施一、延二旦夕之命一、有二艴然作レ色者一、有地託二在肺腑之親一、而不レ能下以二貧身一歸上者天、吾多レ財而招レ尤取レ忌、宣レ侈導レ淫、因レ之買レ禍、而貧人有下待二吾鼠攘之餘一、以倖爲二福利一、而不レ可可畏可畏レ得者上、何世事之參差不レ齊、一至二於此一也、吾賭而悲焉、乃欲下爲二貧人緩頰一、勸二富人一行中其德上、非三概以二古人高義一、如下麥舟助レ喪、傾レ貲賑レ饑之類上、强レ人所レ難、惟捐三其所二無用一、以化而爲二有用一、則無二不天地生財以養有用有財而不用與不當用而用可不用而用是皆以有用爲無用也夫捐吾用以養人用仁者爲之以吾之無用爲人用吝而忍者亦爲之矣況用以濟人即用以集福爲人用者猶少爲己用者正多也如レ可レ爲者一、請即以二前事一較二度之一、吾賓朋宴會、珍饌羅列、何不下分二杯箸之餘一、爲中窮人粗糲之需上、施二之一此而不爲人譏其忍吝哀其愚二人一、可レ延二數月之命一、施二之十百人一、可レ緩二數日之死一也、衣不レ可二勝用一、而敝二之筐笥一、與レ無レ衣同、省二一二一爲二縕褐一、以施二於衣不レ蔽レ體者一、則入且挾レ纊、而吾文繡自若也、吾不レ爲二一時耳目之玩一、即可下全二人之性命一、保中人之骨肉上、此高世義擧也、以施二於談議一則可レ傳、以省二於清夜一則自得、世間殘忍人苟知淸夜自省亦當愧悔無地天下之可二玩好一者、無レ佳二於此一矣、豈必山池臺館、魚鳥花竹之類、而後爲レ快乎、吾多藏厚蓄、貫朽粟陳、終二吾身一不レ盡用一、以遺二諸子孫一、則賢者不レ恃レ此足レ用、愚者雖レ得レ此不レ爲レ用、將レ遺二之不レ知レ名何人一乎、何不下及二吾身一而施上レ之、朝不レ謀レ夕者之猶爲二有用一也、吾所レ委之狼戾縱橫者、業已寘二度外一、苟貧人得レ之、

是捨ニ遺於道一也、非レ損ニ吾室中之有一也、吾何惜、吾盛陳ニ饌鐘一、攀ニ援豪貴一、寧詎見レ德、施ニ升斗於涸轍一、徒蕊厭惡非徒不見德已也
卽欣欣起レ死回レ生也、何以不レ爲レ此而爲レ彼、吾多レ財而爲レ祟、彼得レ少而爲レ福、而吾損ニ有餘一補ニ不足一、雖ニ爲レ人貽ヒ福、實爲レ我脱レ禍也、此兩利之道也、徒蓄レ膏自煎何哉、故曰、捐ニ無用一爲ニ有用一也

沈學士が勸施迂談といふ書にいはく、さても／＼なげかはしきかな、つら／＼世の中のことをおもひ見るに、人々のなりはひよきもあしきも、さま／＼ありて、一樣にはなきものなりけり、いでやそれこれと一二をさして、かぞふべきにはあらざれども、姑く我みる所をあげていはん、吾賓朋ども酒もりする時は、珍しき食物日のまへにならべたて、そのあまりを僮僕豢養之餘くされてにほひあしくなり、そこらこゝらにとりちらせり、かく仕合なるにひきかへ、貧しきものは一生うまき肉の味ひだにしらぬもあり、うゑきものくはぬのみか、飢死するものもあり、われは冬は暖なる裘をき、夏はうすき衣をきて、すゞしきにも燠きにもときに應て不自由なきに、猶も綺羅をかざり時のはやりをきそふなり、貧人はきたるつゞれは身をかくさず、人の簷ばにかりねして、朔風さむき骨をとほし、ことえ顫て齒をうつもあり、我はそれにはひきかへ、大なる棟に簷高く、すまひやすくして身に適へるを、猶なぐさむわざの足ずとして、假山のすがた池の趣、たかどのよ、うてなと造ならべ、魚の遊べる、鳥のなく聲、花のにほひ、竹のみどりにいたるまで玩、さま／＼盡せるに、貧人は緩急無賴なく、一命を捐るも有、親子夫婦の懽もなしがたく、はなれ／＼となるもあり、

我は子孫までの手あても寛然あまりあるに、なほつとめて金銀財寶をさめたくはふるに、貧人はそれにひきかへて室如懸磬、朝のけぶり夕べをしらぬものもあり、吾は金銀財寶紛紜して、みさゝも遍く屆かざれば、一々しらぶる根氣もなく、金銀財寶みだらになり、陰以潤盜賊蠹囊の内にいるもあり、それをばしらず、貧人のたま〳〵遺穗をひろへるもをじみてあたへず、あるは利つきの金銀をかり、うりかひは刀錐之末すこしの利分もきそひ爭ふものもあり、われは不足なければ、僅なにくれのつかひものをおくりて、時の豪貴攀援つゝ、なほ受納あるまじきやとおそるゝに貧人一錢の施をこひ、旦夕の命をのべんといふに、いだけだかにはらたちてあたへぬもあり、又うからやから親しき身よりのものに身をよせれど、貧身の歸なきもあり、吾は金錢多くして、かへつてとがをまねき、人にもきらはれ、侈をなし取しまりなく、それによりその身禍をかふむることあり、貧ものは我等が餘り鼠攘ばかりなる、いさゝかのものにてもうれば喜べとも、それさへ手にいらずしてくるしむもあり、世の中のさま〴〵なる、何とてかくよしあしの片おちなるや、我まづしきものをみて悲しめり、よつて貧人のために富人にむかひ、綏類めぐみを行へよと勸るなり、あながちいちやうに古人の高義をせよといふにはあらず、宋の范堯夫といへる人、麥五百石をおくりて石曼卿が葬を助けしなど、身代ふるひて賑饑しためし數々あれども、是は人もなしがたく、強てすゝむるにもあらず、わがいふはなうてもすむ事のつひゆるをやめて人をすくへば、無用もか

へつて有用となる、これ出來がたきことならねば、施しをすゝむるなり、汝等に請まへにいひおきしことども較度考へよ、窮人雅糯需ものに、わが客をむかへ酒宴し、珍饌羅列馳走にいだすそのつひえもて、一人二人のものに分ちやらば、數月の命をば延べし、それを十人百人にあたへば、七八日の死をばゆるくすべし、わが蓄ふる衣類も一度には用ひつくしがたく、仕舞こみおかば、いつしかあしくなるべし、そのうち一つ二つをばぬのこわた入とし、きたるつゞれの身をかくさぬものに施しなば、人々狹纊のあたゝかなる、いとゞうれしくおもふべし、かくありとて我たくはひの衣服は、さしてつかへる事もなし、吾一時の耳にきゝ、目にみる慰ものを省きなば、ひとの死ぬ命を全うし、人の骨肉を保たするにてはなきや、これ高世義擧なるべきにてはなきや、此事人々物語せば、ながき代に語傳へて美談とすべし、其身ものしづかなる夜につらつらおもひみよ、快く十分にぞ有るべき、かくいふほどこしをもて我玩とせば、あめが下にならびなきもてあそびぐさなるべし、山池・臺館・魚鳥・花竹のもてあそびはかずにもあらざらまし、我多くたくはひし錢さしは朽れきれ、米穀は蟲ばみ鼠くひ、我身ひとり一生用ふとも、用ひつくしがたかるべし、子孫におくるに、子孫賢者ならば、などか親のおくりものをたのみにせん、愚なるものならば、たくはひありとも、皆つかひすつべし、さればたくはひし金銀は、名もしらぬなに人におくりあたふるこゝろぞや、それよりはわが目の黑きうちに、朝ありて夕べもしらぬ難儀ものに施しなば、いたづらに他人の手に

わたすよりましにてはなきや、これ無用なるものを有用とはなせるなり、我たくはひ積たる米穀、みだらになるとも度外に置、まづしきものゝ拾ひうるも吾室のたくはひへるといふ程にもあらじ、さすれば格別に惜むべきにもあらず、吾いろ〳〵の品もて豪貴攀援(いきほひするひとにとりいり)おくるもさまで德とはせられまじ、升斗を涸轍(かつえし)ものに施しなば欣々(うれしがり)て、死ぬものもよみがへるにあらずや、何とて不爲此(すくひをせず)して爲彼(おごりを)なし、その身に祟のくるを待ぞや、彼は少しのものあたへても福としよろこぶなり、吾は有餘をとらせて彼が不足を補ふなり、畢竟人の爲に福をおくるやうなれども、實はわが身の爲に禍を脱るゝなり、これはかれが爲にもよきのみならずわがためにもよきなり、しかるをいたづらに膏たくはひて自ら煎つけ、たからをいだいて禍を買は、なにごとぞや、されば前にも無用をすてゝ有用にせよとはいひたるなり

顏茂猷勸施廸吉錄云、何曾石崇之富極矣、使下以周レ急行上レ仁、不レ令三功德半二天下一哉、前輩詩曰、忽聞貧者乞聲哀、風雨更深去復來、多少豪家方夜飮、貪歡未レ許二暫停上レ盃、又寇萊公好二聲歌一、以二綾帛一賞二妓者一、妾蒨桃詩云、一曲笙歌一束綾、美人猶自意嫌レ輕、不レ知織女機窻下、幾度抛レ梭織得成、又曰、風動衣單手屢呵、幽窻軋軋度二寒梭一、臘天日短不レ盈レ尺、何似妖姬一曲歌、三詩字字眞切、引而伸レ之、凡可二以約レ己施上レ貧者、當レ無レ不レ至矣、竊念匹夫存二心愛上レ物、於レ人必有レ所レ濟凡救二性命一、所レ損無レ幾、特足レ衣足レ食者、不レ知二寒餓之苦一、視爲レ可レ已、泛泛置レ之、菜色時既不レ留レ意、及レ見二病臥二道塗一

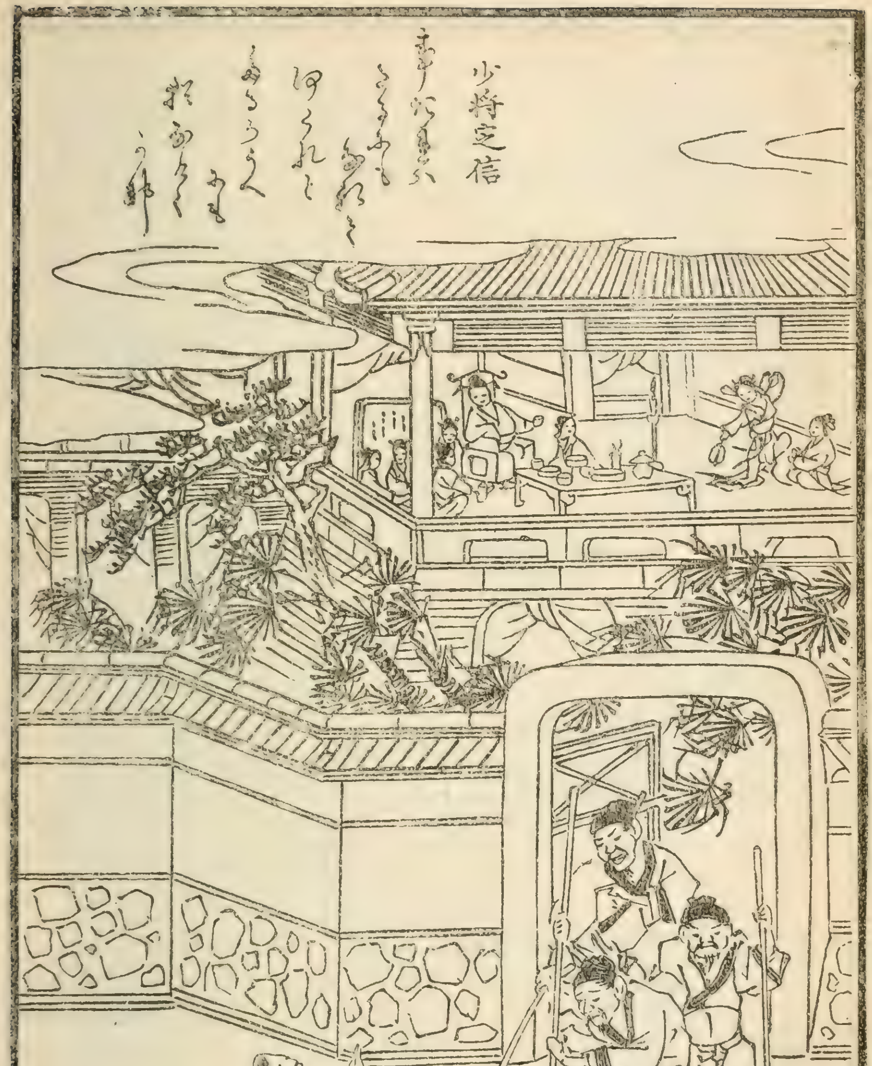
又以爲危篤不能復振、遂坐視其死、卽行道有心人、慨嘆焉耳、其他則側目之、屛逐之矣、不知緣餓得病、病既不能求乞、則愈餓愈深、此不過三四升米調護累日、便能求趁、既能求趁、便有生意、乘其菜色將病時、早救尤妙、在富人過宿之一費、足救二百命、千金之子粒、十損一焉、歲月之衣服飮食、十嗇一焉、足救千命矣、甚輕而易擧也、若得數人、共結此會、置一空屋、積艸薦其中、以貯貧病者、使免風飡水宿之患、則調養易愈、四門有此、則夭札者鮮矣、充之而四方有此、則旅魂絕稀矣、蓋人當病時、無人照管、則益一病、吹風暴露則益二病、空乏憂危、則益三病、再以穢惡薰蒸、拖逐展轉、豈有再生之望哉、試設身處此、痛苦何如、何惜損太倉一粒、不以惠此、且均是人耳、我輩身處寒微、也是這等樣子、幸而享豐席盛、又爲子孫計長久、而眼前捄人、一錢不捨、不知水火賊盜疾病橫災、皆能令我家業頓盡、少少福分、亦是天帝庇之、豈一儉嗇錢財能致、然哉、一旦無常、祇供子孫酒色賭蕩之資、於是一擲、足救千命者有之矣、何如積德邀庇於天之爲厚也、至登高第者、盡以爲己讀書才能所致、阿堵在手、慳吝轉深、孰知些小福分、祖宗殷懃得來、不添油注炭、熱炎幾時乎、其必有騈首號慟於地下者也

言之痛切不翅暮鼓晨鐘

顏茂猷が迪吉錄にいはく、世にも名高き何曾石祟などいへるもの、その身の奢十分を極たり、彼らがおごりし金銀もて、人の急(あやうき)いのちをすくひなば、その功德天下半の人をば救ふべし、されば前輩心なく奢るものをいましめんとて、詩をつくりていはく、忽聞(たちまちきく)貧者食を乞聲哀(こゑのかなしき)、風雨(あめかぜにふけわたり)更深みちも


顏茂猷周急行
仁免風飡水宿
山上憶良
源朝臣晴信


安嘉門院四条


少将定信


少将定信

たどりがたくや立去て復も來ず、多少豪家は人のなんぎもとりあはず今を方夜飮し、たがひに貪懽未許暫停盃ず、又寇萊公音曲を好みしに、綾帛もて妓にとらせしに、妾の蒨桃といへるもの詩をつくりけるは、一曲を筆歌一束綾をとらす、美人猶自意嫌輕ものとおもへり、不知織女機牕下に辛苦して、つとに夜はにに幾度拋梭織得成つるをばしらじと、又同じ詩に、風動衣單手數呵けておる、幽牕軋軋度寒梭なるひをなげわたしやる時は臘天日短不盈尺ゑず、かく苦めるは何似妖姬一曲歌にはにもやらずと、此みつのからうた、一字々々眞切に意味ふかく詠じたれば、よく／＼あぢはひ、そのことばをおしのべて、人のなんぎをおもひ、おのが身をけん約し貧きものに物とらせば、などいたらぬことのあるべき、竊におもふに、匹夫にても人をめぐむを心とせば、必ずすぐれしことをもなしつべし、すべて人の命をすくふこと、その身のためならぬことといくばくもあらじ、ことに衣食にふそくなきものは、人の飢寒をもしらず、たとひみるもみるまゝにすておき、顏色菜色たるさへこゝろにもとめず、ましてやみつかれ道ばたにふせるをみば、もはや病あつく振ひも及ぶまじとて、ゐながらにその死をみん、心ある人のたま／＼みて傷嘆るもあれど、心なきものは目をそばだてゝ見、あるはしりぞけおふもありて、かれがうゑつかれあし腰もたゝで、食をこふことかなはぬといふことをたれしるものなければ、いよ／＼うゑつかれて死にいたるなり、よくおもひみよ、此ものすくふに三四升の米あらばたりぬべし、調護累日

ばあしこし立ていでゆくべし、わづか三四升の米にて一人を生活にてはなきや、かれのあをくなりて病ざるときに、はやく救ひなば、こともなく命をすくひつべし、富人一夜のおごりをはぶきなば、二百人の命を救ふべし、千兩の米穀十分の一をへらし、一歳一月の衣服飲食のものいり、十分の一をへらさば千人の命を救べし、これはかろくなしやすき事ならずや、もし同志の人數人申合、一つのあきやなどへほしたる草こもなどしきて、貧病ものを入おき、風をくらひ水に宿るのなんをまぬかれしめば、やしなひもとどきて病もいゆべし、かくそこゝにて、われもくと施しの手當せば、人々天命を全うせぬものはあらじ、この事廣くをしみて徧く四方に施しなば、道路にまよへる旅魂はたえて稀にぞなりなん、さても飢人のさまをつらく思ふに、かれがやめるとき、よく燗管やる人なければこれ一病を益、野宿して風に吹れ露にうたれ、やしなひもとゞかざれば又二の病を益、あさゆふの手當もなく、憂ひなやめば又三の病を益、その身けがらはしく、あしきにほひにむしたてられ、どのうへそこゝにておひうたれ、たどりありきからきめをうけば、世に再びいける望もあるまじ、哀さたとへんかたなし、先こゝろみにわが身をかれが身のうへにひきかへ見ば、いかにくるしき事ならんかし、なんぞ太倉の一粒をゝしみてめぐまざるや、そのうへよくおもへ、われも彼も同じ類の人なれば、我も寒微身をもちかねば、彼らとかはることさらにあらじ、さいはひにして、富さかえ、其上にも子孫までの長久をとやかくはかりて、眼前人をすくふのこゝろなく、水火

盜賊の難をもしらですぎゆくも、もし一たび病氣おこり、はからず禍生じなば、我家業もなしえず、金銀つくる時いたらば、淺ましきすがたとなるもしるべからず、いますこしの福分もこれ天帝のおかげなり、われら儉嗇錢癖にて、身上よくなりしにはあらず、人のいのちの定めなき、もしおのれ死せる後は、にはかに身上もかたぶきて、ため置し金銀はたゞむなしく、子孫の酒色賭蕩のもとで手あてにのこすなり、されば金銀にぎりつめて、何の用にかせん、こゝにてよくさとらば、千金一擲うちて千人のいのちをすくふもをしからじ、もし金銀をちらしてそこばくの人をいかしなんには、天の御心にもかなひ、厚庇をさづかるべし、これ千金をなげうちて、その身のみか、子孫までも福をうくるなり、又今の學者たち議論高くして、がくもんの御しらべ高第になるも、みな親先祖のおかげなるをしらず、師のをしへをうはのそらに心え、われひとり才能ありてなりしやうにおもひ、阿堵在手慳吝轉深ほどこしをせざるものは、天のにくみもおそるべく、いつの間にか小福分もうしなふべし、たとひ先祖の神靈ねんごろに來ますとも、身のおちめはいかですくひのとゞくべき、家のいとなみさま〴〵なる添油注炭わざのこま〴〵しきなど及び玉ふべき、人の身の熱炎幾時乎、生前人をすくふの志なくば、死して地下の鬼となりて、たれまつるものもなく、駢首て地下に號慟ものあらんかし

陳龍正鄕邦利弊考略云、回二天變一莫レ如レ結二人心一、結二人心一莫レ如レ救二人命一、而消彌挽回、非二甚賤事一、全

賴富貴人、首在當道、次即鄉紳、嘗聞天火沿燒數里、一室巋然獨存、瘟疫流行、有全家不染一人者、甚至寇盜猖獗、亦相戒、此方有某公在、不可驚動、以一人故保一鄉一城、嗚呼、此豈智謀勇斷權鎮耶、積善之家、感通人心、即挽回天意、今日民瘼可痛、鬼哭可驚、學者存無爲而爲之心、（爲中人說法固應爾爾）何妨語有爲而爲之法、傾儲而散者爲上智、以餘及物者爲中人、隨力隨心、原非難事、若目擊災傷、猶守楊朱不拔一毛之意、則不敢指斥言之也、禍患既來、欲散何及、宵分夢覺、請自謀維、（智上者思深慮遠讀此可以悟矣）或曰、慷慨捐濟、富名歸之、得無累乎、曰、晏平仲浣衣濯冠、通國待以舉火者數百家、范文正俸祿千萬、大賑貧窮、臨沒無以殮、富者多吝嗇、貧人多慷慨、享大名者鮮厚實、此乃自然之勢、觀人性行、便可信其囊橐矣、豈有竭力鴻施、而人反疑其富者乎、且害人則不顧人怨、救人則畏人疑、亦顚倒之甚也、人爵之士、本無拘束、自當倡先、天爵之民、曉此機關、理宜嚮應、

陳龍正が鄉邦利弊考略にいはく、天のなせるわざはひをひきめぐらすは、人の心を結び力をあはせて、人命をすくふこそ第一なるべけれ、人力もて天のなすわざはひを挽回すは、いやしきものゝ及ぶ所にあらず、富貴人のかげによるなり、先第一のすくひは政をとる人の心にあり、そのつぎは一鄉の歷々心がけよき人にあるなり、かねてきく火難ありて數里のあひだ燒失たるなかに、たゞ一室（ひとつのいへ）少（すこし）のさはりなく、ありのまゝにたちのこるもあり、又瘟疫おこなはれてやまぬものもなかりしに、全

家ひとりもそこなはずして、又甚しきは盗賊わるものさわぎ立、大厦の家をこぼちありき、村村をさわがすに、彼ら相いましめていふ、そこの村はたれどのなにがしどのゝおはすれば、驚動なとて共村にはいらざりけり、かく一人の徳ある人の蔭にて、一郷一城も無事なるは、これ智謀勇斷權鎭にておさへしにはあらず、平生人になさけをかけ善を積て、人の心にも感通て、はからずもわざはひをのがれ、天意をも挽回すなり、いま民のうゑつかれたる、見るもいたくしく、よなく人の泣ごゑきこゆるは、うゑじにせしものゝなきたまのさけべるにやとおどろかる、學者は無爲を心とするも、又有爲て法をたつるは、などか妨あるべき、その法といふは、先乘てのたくはひをかたむけつくし、人をすくふは上智なり、餘分を人にほどこすは、又その中人なり、おのが身上にしたがひ隨力隨心するはもとよりむつかしき事にはあらず、しかるに人の災傷を目撃見ながら、すくふ心もなく、揚朱が一毛拔て人のためにせざるの意をまもらば、あへてそれとはさしいはじ、禍患すでにきたらば、金銀をちらさんとするもなど及ぶべき、夜分ゆめさめしころ、しづかに此意をよく忍ふべし、あるもののいへるには、意氣地だてしてそこばくの金銀をなげうち人を濟はど、富名歸之といひたてられ、かへつて身のわづらひとなりてよからずと、我これが爲に諭していふ、むかし齊の晏平仲はあらひたる衣、すゝぎたるかふりをき、ひとつの裘三十年の久しきを用ひられ、儉約をせられしかば、一國中にて此人の救をうけ、かまどのけぶりたつるもの數百家ありしときく、又

宋の范文正公は俸祿のたか千萬をなげうちて、貧窮のものをおほいに救はれしが、その身なくなられし時、とりをさめの金銀もなきほどのことなりとぞ、すべて富るものはきたなびれ、貧人にかへつていきぢを立るもの多し、世に名高き人の金銀厚實(もてる)はまれなり、これは自然のありさまなり、今日人の生れつきを見ても、囊橐(かねぶくろ)の内はおもひしらるゝなり、力を竭(つく)し鴻施(おほいにほどこ)すに、たれかかへつてその富をうたがふものあらん、且人を害せんとせば、人のうらみもかへりみせじきに、人をすくふに、など人の疑をおそるゝや、これ大なる顚倒なり、人爵之士はもとよりさしつかへなければ、先第一にすくひの先だちすべし、天爵之民はみぎのおもむきは一大事の所なるをさとりて、われもわれもとひゞきの聲に應ずるごとく、すみやかにすくひをいだすべし

顧咸正賑荒問答有レ云、人之情、將下損二人之財一以予上レ我、貧者必受也、將レ損二人之財一、而幷損下其人之性命上以至レ我、損二其人之父母妻子性命一以予レ我、雖二甚貧者一、決不レ受也、夫饑民一日得二米三合許一、便可三以不二死、計二一歲中一、每二一石米一、可下救二一人一不上レ死、荒年珠粒、僅有二此數一、不レ在二饑民腹中一、則在二官家富室倉庾中一、今閉二一石一不レ發、必有二一人死者一矣、閉二十石一不レ發、必有二十人死者一矣、閉二百石千石一不レ發、必有二百人千人死者一矣、然則官家富室、除二正供日用一外、其餘倉庾中、陳陳堆積者、皆堆積死人皮骨血肉腦髓也、夫省二一筵宴之費一、可レ活二幾人一、省二一交際之費一、可レ活二幾人一、省二一呼盧之費一、可レ活二幾人一、省二一土木之費一、可レ活二幾人一、省二一簪珥衣被之費一、可レ活二幾人一、省二一摩挲古玩之費一、可レ活二

（語々痛切讀此而不動心者非人也）

幾人ヲ、省下一供ニ給游狎客ニ之費上、可ㇾ活ニ幾人ヲ、省下一布施庸俗僧道之費上、可ㇾ活ニ幾人ヲ、夫以ニ種種活ㇾ人之物ヲ、而糜ニ費之無用之處ニ、以爲ニ豪擧娛樂ト、則是合下數十百千死人ノ、皮骨血肉腦髓、羅ニ列目前ニ、以爲中豪擧娛樂上也、（人雖至上亞未有以殺人爲娛樂者豈知羅綺叢中古玩案頭無非淋々膏血耶此定在情事非充類盡義之論也）淸夜尋思、理上說得過否、心上打得過否、縱然他說理上硬得過、心上瞞得過、自有ニ天帝鬼神ニ、與ニ他算帳ヲ、不ㇾ知ニ究竟硬得過、瞞得過否ヲ、記得萬曆某年某鄕有ニ某上舍ニ、積ニ餘米ニ三千石、値ニ歲荒ニ、價一兩二錢、時上舍在ㇾ外、其管ㇾ倉僕寄ㇾ信云、米價貴可ㇾ糶矣、上舍批云、待ニ貴至ニ二兩ニ、方許ㇾ糶、不ニ數日ニ、火發焚ㇾ倉、三千米悉燼、其他古今報應事、更不ㇾ勝ニ悉數ニ、嗚呼可ㇾ畏哉、某言到ㇾ此、直是肝腸寸斷、涕淚千行、鐵石人聞ㇾ之、當ニ必有ニ踴躍奮起者ニ、而況讀ㇾ書明ㇾ理之士哉

顧咸正賑荒問答にいへることあり、人の情たれも同じ事にて、人の金銀をへらしておのれに利分をあたへんとすれば、貪るものは必ずうくるなり、人の金銀をおとしてぬとおもふときは、人のいのちをおとしてもおしづよにとりて、われにあたふるなり、かく人をやぶりてわれにあたへんといへば、むさぼるものなりとも決して受じ、しからば貪るものなりとも、人を損じて利分をおのれにつけざるは人をめぐむ心あるゆゑなり、しからばなどうゆる民をばすくはざる、饑民一日に米三合許あらば、死する命もすくふべし、一年中をはかりみるに、一石の米あらば一人をすくひていかすべし、荒年一粒の米も玉のあたひにて、わづかにあるも、饑民の腹中にはいりがたし、皆武家富室の倉庾中にあるなり、今一石の米を發いてすくはずは、必ず一人の死するものあるべし、十石を閉てひら


顧戚正肝腸寸
斷涕淚千行


藤原季通




三好義賢夢想歌
忠快

かずば、必ず十人死するものあるべし、百石千石を閉てひらかずば、必ず百人千人の死するものあるべし、しからば武家方富室は、なうてかなはぬ入用はかくべつ、其餘は人をすくふべき米なるを、いたづらに倉庾のうちに陳々堆積けるは、みなつみかさねたる死人にて、むさき皮や骨や、血や肉や、膩や髓やなるべし、いたましくあはれなることならずや、それ一筵宴のついえを省かば、いく人をかいかすべき、一交際の費を省かば、いくばく人をかいかすべき、一呼盧の費をはぶかば、いく人をかいかすべき、一土木の費を省かば、いくばく人をかいかすべき、又よくもおもへ、是よりも甚しきあり、をなごの簪珥ひとつのあたひ數十金なるあり、美衣服これに準じてたかきあり、くしかうがいはもの丶夫の大小よりたつとく、衣服は甲冑よりも貴とし、そのあたひもて飢人をすくはば、いくばく人をかいかすべき、又ものずきなる人、めづらしき古物茶器など高金の品々、もののふの弓・鐵砲・鎗・長刀の價より貴うして無用なるも、朝暮摩挲玩のついえをすてば、幾ばく人をかいかすべき、又身上よきもの游狎客酒宴のみくひのつひえをやめば、いく人をかいかすべき、また僧道說法て後生の爲とて、そこばくの金銀をしまであたふ、その費をかへて飢人をすくはゞいくばく人をかいかすべき、そもそも活すべき手段種々あるを、それをばすておき、このものをもて無用のことにつひやし、豪畢樗樂酒のみうちけうずるは、とりもなほさず數百千人のしかばねを目のまへにつみおきて、たのしめるに同じければ、數々の肴は人の皮や肉をくらふな

り、さま〴〵のあつものは、人の腦や髓をすゝるなり、これうすき酒は、人のあぶら血をのむなりけり、これをおもはど、いかでたのしからん、いかでおもしろからん、いかに心なくおろかなる事ならずや、しづかなる夜心しづかに思ひみば、われおごりてめぐまざるゆゑにこそ、人をころせと心づき、こゝろのおどひとけなんには、道理においてすむべきや、心のうへにもすましおかるべきや、縱然氣づよに道理をつけ、硬得(おしづよ)にすぎもせん、心のうへにも噛得(なほざり)にすませおきもせん、されども天道は見どほしなり、かみ〴〵は明かなり、あしきものは天道鬼神の帳面にしるされて、そのとがいつしか來るべし、何とて氣づよにおしとほさん、何とてなほざりにすごしえん、禍の來る恐るべし、われよく記得たることあり、時は萬曆それのとし、それのさとそれのぶげん、餘米三千石を積ておきしに、折しもきゝんにあひけるに、米の價一兩二錢にぞなりける、かゝる折ふし、その主人は外にいでゝ歸らざれば、藏つかさどるもの消息して、米直段よければ、此節糶(うる)べしといひつかはしけるに、主人よくふかきものにて、その文に批(ひてん)していひけるは、價をどりて二兩にもなりたらば、其時糶(うりだす)べしと返事せり、天も欲心ふかきものをにくみ玉へるにや、日もたゝぬまに、其家火事ありて、三千の米こと〴〵くに燒失たり、かやうのこと古今ためし多くしてかぞへがたし、さても恐るべきことならずや、かくいふ某が心のうちもいたましさあまりて、肝腸も寸々にされ、流涕千行をなす、鐵にて作り、石もて作る人なりとも、このことをきかば、たれかあはれと思はざらん、たれかおそ

ろしとは思はざらん、必ず踴躍奮起てすくひを施すべし、まして書を讀道に明かなるものなどか養ふ心を起さゞらん

詹事李建泰宗田記略曰、今人父母既歿、輒憾レ不レ得レ養ニ父母一、祖父母既歿、輒憾レ不レ得レ養ニ祖父母一、遞至ニ高曾一悲憾、靡レ不ニ皆然一、以レ余言レ之、推而上焉、即百世之始祖、至ニ今日一尙可レ養也、矧近而高曾、而祖而父者乎、今日同姓疏屬者、自ニ始祖一視レ之、皆一體也、（推之乾父坤母凡有血氣之倫自天地視之皆吾一體也）稱ニ三從兄弟一者、自ニ高祖一視レ之、皆一體也、稱ニ再從兄弟一者、自ニ曾祖一視レ之、皆一體也、稱ニ從兄弟一者、自レ祖視レ之、皆一體也、稱ニ兄弟一者、自レ父視レ之、皆一體也、養ニ我之疏屬一、即養ニ我始祖一、養ニ我三從再從一、卽養ニ我高曾一、養ニ我從兄弟兄弟一、卽養ニ我祖父一、人不ニ近行ニ孝事一、而徒遠念、孝思亦愚且薄矣、 有格言

詹事李建泰宗田記略曰、今の人ちゝはゝなくなりてのちは、初めて思ひしり、存生のうちよくつかへざりし事を後悔て、おゞばゞよりひゝおゞばゞまでもつかへざりしをのこり多く思ふなり、今わが意をもておしていはゞ、百世の先祖より近き世までも、猶やしなひたく思ふ筈なり、まして近き高曾、それよりおゞ、夫より父は猶更なる道理なり、今日わが同姓遠きつゞきのものまでも、先祖の目よりみれば皆一體なり、三いとこも、ひゝおゞよりみれば皆一體なり、二いとこも、ひおゞよりみれば皆一體なり、いとこ、ちゝよりみれば一體なり、兄弟も父よりみれば一體なり、遠き親類をやしなふは、直に始祖を養なり、三從再從を養ふは、高祖曾祖をやしなふなり、從兄弟兄弟を養ふ

は、直に我おぢや父を養ふなり、今の人近く目のまへなる先祖の子、我兄弟を疎略におもふは、愚にもまた心掛うすしといふべし

廣惠編像解上終

廣恵編像解　下

晏平仲敝車羸馬以朝、桓子以爲レ隱ニ君之賜一、晏子曰自ニ臣之貴一、父族無ニ不レ乘レ車者一、母族無下不レ足ニ於衣食一者上、妻族無ニ凍餒一者、齊國之士、待レ臣擧レ火者三百餘人、如レ此而爲レ隱ニ君之賜一乎、彰ニ君之賜一乎

齊の晏平仲はやぶれし車、やせたる馬にのりて、見苦しきさまにて、公の朝へ出仕せしに、陳桓子といへるよからぬ人、晏平仲は高祿をもちながら、かくみぐるしきさまをせるは、君のたまものを隱なりとそしりける、晏平仲いへるは、臣がもちひられ、かく重き御役儀を蒙りてより、父の一族のものに車にのらぬものなく、はゝのつゞきに衣食のたらぬものなく、妻のつゞきに凍餒ものなし、しかのみならず、齊國の人々我らにたよりて、かまどの烟をあぐるもの三百餘人に及べり、皆わが身を儉約して人をすくへるゆゑなり、かく君のためにするを、君のたまものを隱すとおもはるゝや、君の賜を彰すと思はるゝや、いはずしてかくさぬことゝはしらるゝなりとぞ

范文正公、自ニ政府一出歸ニ姑蘇一、搜ニ外庫一、惟有ニ絹一千疋一、盡ニ親戚及閭里知舊一、散レ之皆盡、曰族黨見ニ我
我輩多從此ニ
生長幼學壯仕一爲レ我助レ喜、我何以報レ之哉

范文正公政府をつとめられ、出てふるさとの姑蘇といふ所に歸られけるに、庫の内を搜されしに、

させるものもなく、たゞ絹二千疋ならではなかりけり、親類したしきものならびに村里ふるきなじみのものどもいく人ありとしらべて、其絹をのこらず散らしあたへられし、人にいはるゝには、わが親類どもわがいとけなきより學問いたし、壯上(ひとゝなり)の御見出しにあひ、かくまで立身せし事、たれも我ために喜ぶなり、我なにをもてこれにむくふべき、せめてもとこれをあたふるなりとぞ

杜正獻公衍、自ニ布衣一至レ爲レ相、衣服飮食無レ所レ加、雖ニ妻子一亦有ニ常節一、家故饒レ財、諸父析レ產、公以レ所レ得、悉與ニ昆弟之貧者一、俸祿所レ入、給ニ宗族一、賙ニ人急難一、至ニ其歸老一、無ニ一椽之居一、寓ニ於南京驛舍一久レ之

杜正獻公衍はいやしき身分より、宰相まで立身をせられしに、衣類食物いやしき時とかはることなし、妻子も常節ありておこたらず、それゆゑ金銀不足なかりき、諸父(をぢ)たち子どもらを家わけする時は、獻公自分の手元より諸しきをおくり、祿知行を盡くむねとの親類へたしつかはされけり、又人の急難をもすくはれける、その隱居せられし時も、家作の取つくろひもせず、南京の驛舍にひさしくかりずまひせられ、生涯人をめぐむをことゝして、其身いとなみをばふつにせざりけり

陸杲、嘉靖辛丑進士、置レ田周レ族、謂ニ之族田一、置レ田畀ニ宗子一供ニ禴祀一、謂ニ之祭田一、置レ田以給ニ族之子弟一、置レ塾講レ業、謂ニ之學田一、以ニ宗族日繁、徭役不一レ支、置レ田分ニ贍之一、謂ニ之役田一

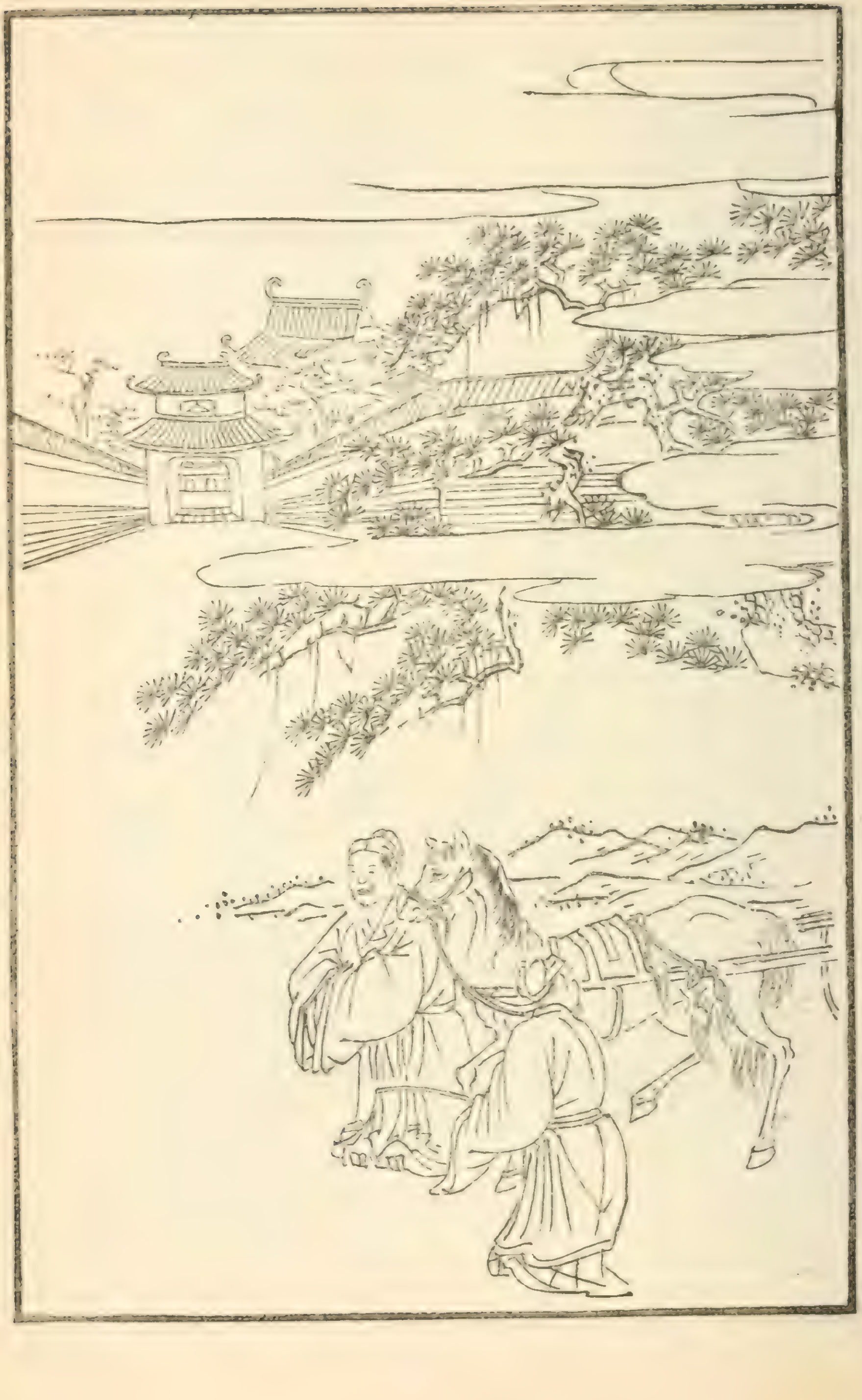
陸杲といふ人、嘉靖辛丑のとし、學問よくて進士といふになりたりしに、田地をおき一族すくひの

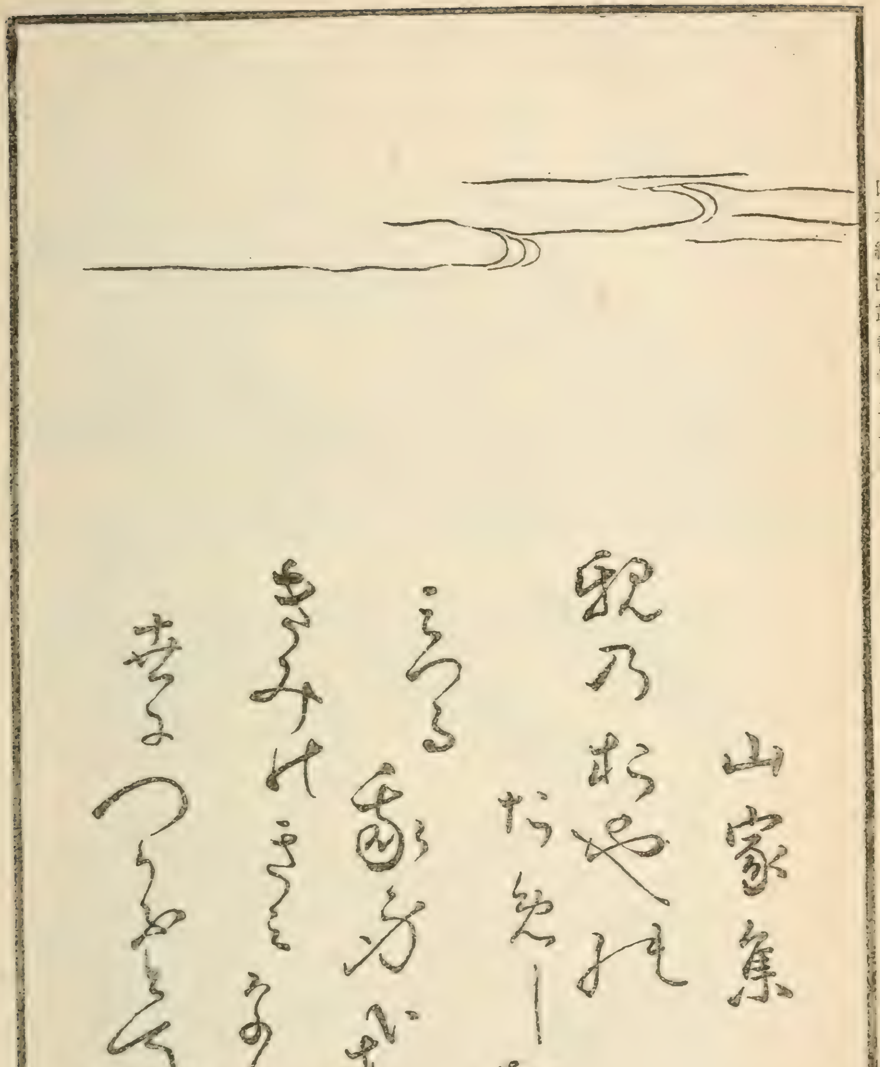
晏平仲敝車羸
馬彰君之賜



權大納言資明






山家集

手當とせらる、これを名づけて族田といふ、又田地をおきむねとのやからにあたへ、先祖まつりの入用にぞせられし、これを名づけて祭田といふ、又田地をおき親類どもの子どもら諸稽古の入用にあたへ、家にも稽古所をこしらへおき、學問諸藝の稽古をさせられし、名づけて學田といふ、宗族どもも次第にしげく、入遣諸色の入用多なりて、手當不足しければ又田地をおき、それ〳〵分ちあたへてすくはれし、是を名づけて役田といひしとぞ

劉翊字子翔、潁陰人、嘗行二汝南界中一、遇下陳留張季札、遠赴二師喪一、寒氷車敗、停中滯道路上、翊見曰、君慎レ終赴レ義、豈宜二久滯一、即下レ車與レ之、不レ告二姓名一、策レ馬而去、後爲二郡功曹一、値二黄巾賊起一、百姓廢レ業、翊出レ粟賑二貧者數千人一、鄉族死亡、則爲二殯葬一、獻帝遷レ都、道阻二草寇一、翊夜行晝伏赴レ之、上嘉二其忠一、拜二議郎一、遷二陳留守一、駕レ車東歸、出レ關見二士民病死二道次一、以レ馬易レ棺、脫レ衣斂レ之、又逢二故人饑二困於路一、不レ忍二棄去一、與二所レ駕牛一助歸

劉翊字は子翔は潁陰の人にて、ある時汝南といふ所のさかひをすぎたりしに、陳留の人張季札といへるが、師匠の喪をとむらはんとて、はる〴〵の道を、時しもそらさむく路のこほりたるに、車やぶれてゆきなづみたるに行あひけり、劉翊見ていへるは、きみは師匠のをはりをつゝしみ玉ひ、恩義をむくい玉ふ折からにて候へば、いかで道に手間どりをらるべきとて、車をおりて季札にあたへ、姓名をもいはで馬にむちあてゝさりたり、のち郡の功曹といふ役勤めしとき、黄巾の賊おこりけれ

ば、百姓ども業をつとむることもかなはずなんぎせしに、劉翊粟をいだしてまづしきもの數千人をすくひけり、村里のもの死して葬りも出來ぬものは、そのとりをさめをいたさせらる、獻帝都をうつされし時も、盜賊草りおこりて道路往來もなんぎなりしに、翊夜のめをしのびてゆき、晝はふしかくれて獻帝をしたひてぞ參りける、獻帝その忠義を嘉し玉ひ、議郎といへる官に仰せつけられ、陳留といへるところの守りにのぼりける、車にのり東の方にかへりし時關をいでしに、士民病みて道ばたに死たるを見て、馬をうりて棺ばこをもとめ、衣をぬぎて取をさめをせられき、又故なじみの人のみちにうゑくるしむをみて、すてさるにしのびず、車につけたる牛をあたへて、すくひたすけて歸りけるとぞ

丕悰父柔、使下齎ニ米數千斛一、到ㇾ呉市易上、悰皆散ニ給士大夫一、空ㇾ船而還、白ㇾ父曰、所ㇾ市非ㇾ急、而士大夫方有ニ倒懸之急一、故賑ニ贍之一

丕悰といふものゝ父柔といへるが、米數千斛を丕悰にもたらし、呉の國にやりあきなひをさせしに、その米皆呉の士大夫にあたへて、舟を空うしてかへりける、その父にまうすは、今かふ所の品いそぎ入用の品にもあらず、士大夫たち倒懸（さしあたりたる）なんぎゆゑ、みなにぎはしすくひはべるとまうしき

（卽張子貫田試井法意）

蔣崇仁、仗ㇾ義樂ㇾ施、倣ニ常平法一、以ニ家資一糴ㇾ穀賤糶、以救ニ貧者一、其弟崇義崇信、亦承ニ兄志一行ㇾ之七十年、歲以爲ㇾ常

蒋崇仁は仗レ義施しをたのしむ人なりしが、常平法にならひて、てまへの金銀もて米やすき時糴れ、貴き時賤うりいだして、まづしきものを救ひけり、その弟の崇義崇信も兄の志をうけつぎて、すべて七十年の間、毎としかくいたせしとぞ

瞿嗣興常熟人、甎工王氏、大雪凍餓不レ能レ起、嗣興憫レ之、攜二錢六十緡一、潛投二窓障一而去、（妙在潛投）歙叢有二寠人一來糴レ粟、受二其錢五千一、陽忘曰、（妙在陽忘）汝十千耶、倍與二之粟一、凡負販者、必多償二其直一、家人怪問レ之、嗣興曰、彼胼二胝手足一、求二升合利一、吾忍二與較一耶

瞿嗣興は常熟といふ所の人なりけり、ある時甎工王氏といへるが、大雪にてうゑこゞえたつこともならざりしに、嗣興憫みて錢六十緡をたづさへ、ひそかに窓のすきまよりなげこみて歸りける、又歙叢寠人來て粟を糴しかば、その錢五千をうけたりけるに、いつはり忘れたるかほしていふ、なんぢ錢十千をいだせしとおぼえたりとて、倍に粟をあたへしとぞ、すべてかつぎあきなひするものには、ものかふあたひは必ず多くつぐのひあたへし、家人あやしみて其故をたづねしに、嗣興いへるは、かれら手足にひゞあかぎれきらし、わづか一升や一合の利を求るに、われかれらと爭ひて利分を求るにしのびんやとぞ申ける

尚書令符雅常曰、天下物何常、吾今日富、後日貧耳、一日不レ施、則意不レ快、時人爲レ之語曰、不レ爲レ儒與レ富、寧作二符雅貧一、貧非レ勝レ富也、如レ此而貧、則貧誠勝レ富

符雅常にいへるは、天下なにものか常に定りあるものあらん、われ今日とみさかえたりとも、後日にいたりまづしかるべきもはかりがたし、されば一日も施しをせざればこゝろよからずといひけり、そのときの人符雅のことをかたりていふ、いろ〳〵みはかりはたらきして富をえんとおもはざれ、符雅のごときの貧こそあらまほしけれ、まづしきは富にまさりたりといふにはあらねども、符雅のごとくして貧なるは、富るにまさる貧なりとぞまうしあへりける

彭思永數歲時、冬處二被中一則思二天下之寒者一（是謂欲立立人）學者常存二此心一即是萬物一體之仁

彭思永といふものいとけなき時、冬被中のうちに快よくあたゝまりし時、自から思ふに、われはかくあたゝかなるに、世間にはこごゆるものあるべしとをさな心にも思ひしとぞ、道まなべる人いつもこのこゝろあらば、すなはちそれが萬物もと一體にて、相ともに見すてなくめぐむべき仁心なり、恕やりは人の一生行ふべき道になん

薛西原性好レ施、人有レ疾、親爲檢二合藥方一、嘗脫二綿襖一施二貧者一、或曰焉得二人人而濟一レ之、答曰、但不レ負二此心一耳、（惻隱之心隨處發露充之則爲聖賢負之則爲殘賊）聞者嘆服

薛西原といふ人、生れつき施しを好みけり、人疾あればみづからその人のために合藥方を檢しあたふ、又あるとき綿襖をぬぎてまづしきものに施しける、ある人いへるは、孟子にもいへるごとく、人ごとにしてすくひをあたふべきやといひければ、答へていへるは、たゞその時にあたりわが心に

やれむごやとおもひしまゝにあたへしのみ、人毎にあたふべきといふにはあらずといへり、さくものげにもと感ぜぬはなかりしとなむ

張獻可常州人、嘗施レ棺、畫二三千圈於紙一、毎レ施二棺一一、則登二其日月於圈內一、期下盡二始圈之數一而續上レ圈焉、備二丐者一掩二道傍屍一、一屍與二錢若干一、丐者毎レ得二露屍一、則喜以爲レ貨也、自レ是邑中幾無二露屍一矣、又費二藥膏一以施二瘡瘍者一、寒凍則爲レ粥以食二餓者一、曰掩二死人一、又何如レ活二生人一

張獻可は常州の人なり、施しのためとて棺ばこをいくらもこしらへてやりけり、紙に三千の圈をゑがきて、棺ばこ一つを施すたびごとに、そのあたへし日月をまるのうちにかきつけたりき、始圈三千かずをつくしなば、又も圈を續べしとてつねに丐者をやとひおき、道路にたふれじにあれば、その取をさめは錢いかほどあたふべしと定めおきければ、こじきどもおのがよきかせぎなりとよろこびけり、これよりして邑中にたふれじにはなかりしとぞ、又藥膏を煮おき、かさいたみあるものに施しけり、また寒くこほるときは粥をつくりて餓者にほどこしけり、自らいふ、死人をおほひをさむるより、又生人を活命は格別の事なりといひき

劉凝之、隱二居荊州一、時適歲荒、衡陽王義季慮二凝之餓死一、餉二錢十萬一、凝之大喜、持レ錢至二市門一、見下有二饑色一者上、悉分二與之一

劉凝之といふ人荊州に隱居せし時、折ふし饑饉なりけるに、衡陽王義季といふ人、凝之はさだめて

うゑ死にをやしぬらんとて錢十萬を餉ける、凝之大いによろこびて右の錢をもち市の門にいたり、饑るものにはこと〴〵く分ちあたへしとぞ

李士謙、字子約、趙郡人、嘗出二粟萬石一貸二郷人一、明年悉召二債家一、爲設二酒食一、對レ之燔レ契曰、債了矣、幸勿レ爲レ念也、厥後歳大饑、士謙粟盡、無レ可二賑貸一、乃鬻二家資一、糴レ米爲二糜粥一、里黨頼以全活者萬計、收二埋骸骨一、所レ見無レ遺、遇二疾癘一、延二良醫一、製レ藥療レ之、如レ此積二三十年一、或謂士謙多二陰德一、士謙曰、夫言二陰德一、其猶二耳鳴一、己獨知レ之、人無二知者一、今吾所レ作、吾與レ子皆知レ之、何陰德之有　右芳烈

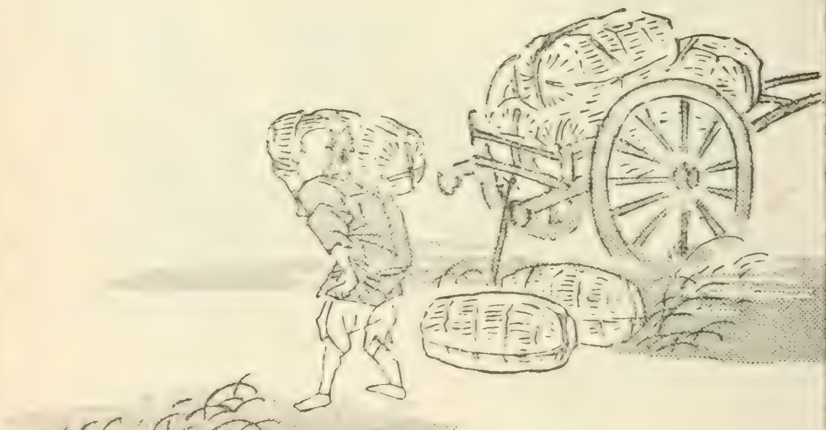
確論可爲好名市德者戒

李士謙字は子約は趙郡の人なり、ある時粟萬を出して郷人へ貸けるに、あくるとしのこらずかせるものをよびあつめ、それが爲に酒さかなをまうけてのみくひし、みなのまへにて手がたを燒すて、もはやかりはすみたり、いづれもこゝろにかけなとぞいひける、その後歳大に饑たりけるに、士謙が粟も盡はてゝ賑しかすべきものなければ、家の調度こと〴〵くうり鬻して米を糴、糜粥につくりむらざとをすくひけるに、そのかげにて全治もの一萬人ばかりなりけり、しぬるものはなきからをみるにまかせて、のこらずうづめけり、又疾癘あれば良醫をまねき藥をこしらへ、療治してかへしけり、かくすること三十年を積たり、あるひといふ、士謙は陰德を施せりとほめければ、士謙いへるやう、それ陰德といふものは、たとへば耳鳴ごとく、われ獨のみしりて人は知ことなきをいへり、今われらがなすことはわれもそこもともしりたる事なれば、いかで陰德とはいはんといひき

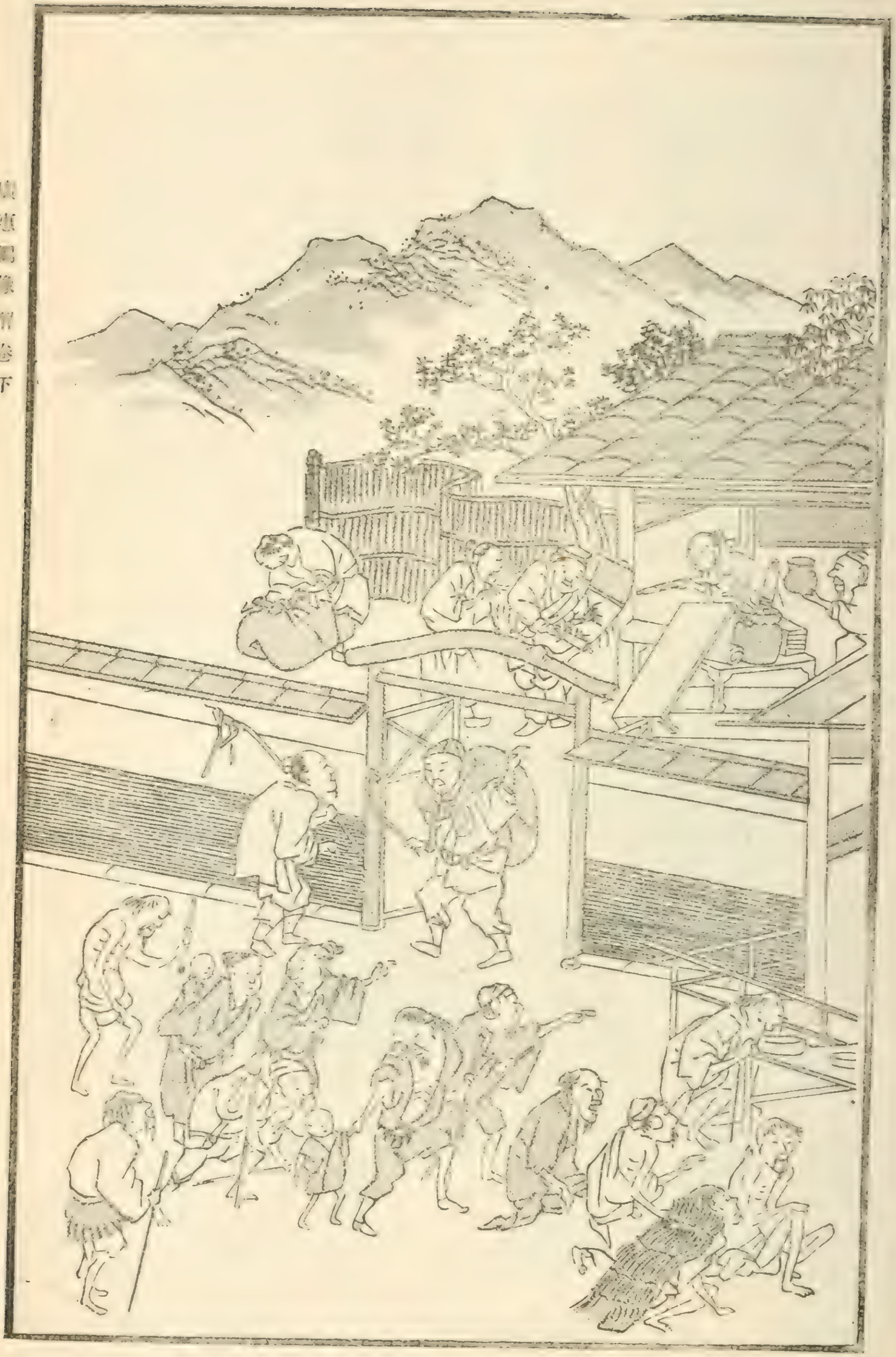
李士謙罄家貲
糴米爲糜粥

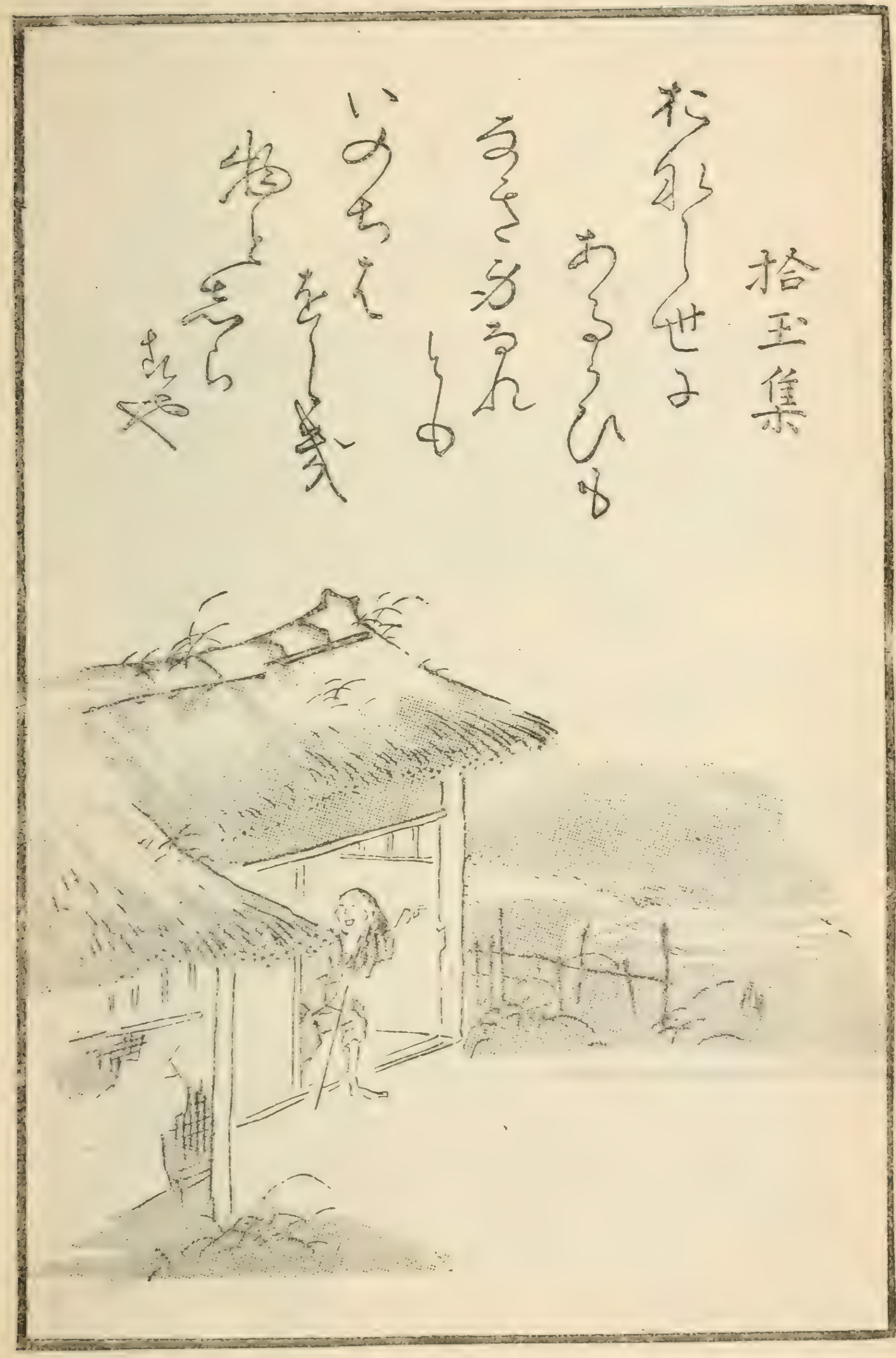
橘枝直

うゑ乃さかえ
ねかりし
人の為
かゆをよう
え多れ
つくてよ




法成寺入道




拾玉集

春秋時、宋鄭饑、子皮貸二國人粟一、子罕戸餼二一鐘一、叔向聞レ之曰、鄭之虎、宋之樂、其後亡者乎、（正是）善二其爲レ君養一レ民也（忠愛激切處）

春秋の時宋鄭の二國うゑたりしに、鄭の子皮といへる人はくにたみに粟をかしたりける、宋の子罕は戸ごとに一鐘の粟を餼りける、晉の賢者叔向といひし人、此事をきゝてほめけるは、鄭の虎、宋の樂はよく人にめぐみをほどこし、君のために民をやしなふ人なれば、子孫ながく家をたもつべしとぞ申ける、虎は子皮のこと、樂は子罕をさしていふ

漢汲黯爲二謁者一、河内失レ火、延二燒千餘家一、帝使二往視一レ之、還報曰、家人失レ火、比屋延燒、不レ足レ憂也、臣過二河南一、貧人傷二水旱一萬餘家、或父子相食、臣謹以二便宜一持レ節、（好個却只是拚得非安希僥倖也）發二倉廩一以賑レ之、請歸伏二矯レ制之罪一、帝賢而釋レ之

漢の汲黯は謁者といふ役をつとめしに、河内といふ所火事ありて、千軒あまり燒たりければ、帝ゆきて見てまゐれとおほせありければ、たゞちに河内へ參り、かへりきて申上けるは、家人あやまちて火事ありしに、家なみやけうせ候へども、さまでうれへ候ことにははべらず、それよりもまさりたるうきめを見候ひき、河南をとほり候に、貧人どもおほ水や旱にてなん儀いたすもの萬家に餘り、親子相はみ候ほどの難ぎに候ゆゑ、臣まかり通りみうけ候てそさいはひと存じ、謹で便宜をもつておほ君のみことゝかしこみ、御しるしをもち御くらをひらきてうゑ人を賑ひ候ひき、そのみことのり

をいつはり候つみいはんかたなし、願はくはいかなる罪にもおこなひたまへかしとぞ申ける、帝賢としてその罪をゆるし玉ひけり

桓帝時、韓韶爲二嬴長一、餘縣流民萬餘戶入二縣界一、韶開レ倉賑レ之、主者爭謂二不可一、韶曰、活二數萬溝壑之人一、而我以獲レ罪、（快哉洵無憾也）捐二其生一、含レ笑入レ地矣、太守素知二韶名德一、竟無レ所レ坐

桓帝の時韓韶といふもの、嬴といふ所の長なりけるに、近隣の縣よりにげ百姓ども、百餘家村ざかひに入來りければ、その時韶倉を開いてすくへり、主るものいふ、かみにうかゞひもなく倉ひらかん事こそしかるべからねと爭ひけり、韶いへらく、數萬人も死してみぞほりにうづまるをいかしなば、我ひとり罪をえていのちを捐るもなにをしからん、わらひをふくみて快く地にいらんとぞいひたりける、太守素より韶が名高く德あるをきゝしかば、つひに何のとがめもなかりけりとなむ

東魏孫瑰爲二郡丞一、召入、道過二昌邑一、見二民饑一、因留不レ去、籌下所二以濟一レ之者上萬端、或曰、非二公責一也、瑰曰、（此是西銘語先已道破）同類即同氣有下見二同氣之垂一レ死、而不レ拯者上乎、遲三月、活レ人萬計、高歡以聞、賜レ書褒賚

東魏の孫瑰といふ人郡丞たりし時、上より召されしに、道に昌邑といふ所をすぎたりしに、民のうゑしを見てその所に留り、民のすくひ方をいろ／＼と籌りけり、ある人いへるは、これはきみが御役がへにてはなきことなりと申ければ、瑰いへるは、同類のものは直にどう氣なり、同氣のものゝ死なんとするをみて拯はざるものあらんやとて、京へのぼることは三月ばかりおそなはりければ、

人をいかすことは萬人ばかりなりしとぞ、高歡といふ人つぶさに其事を言上せしかば、御書を玉はり、たまものもありしとなん

隋辛公義、爲二岷州刺史一、岷州僟、疫盛行、其俗畏レ鬼、一人病、闔家避レ之、病者多死、公義命（現身說法）皆輿置二廳事一、暑月廳廊皆滿、公義設レ榻、晝夜處二其間一、身自省問、病者爭就二使君一、其家親戚、因留養レ之、全活（效全在此）甚衆

隋の辛公義といふ人、岷州の刺史（しし）をつとめしとき、岷州きゝんのみならず、えやみさはにおこりける、土地のならはしにて疫鬼をおそるゝこと甚し、一人やむものあれば、家内のこらずにげされば、病者多くは死にけり、公儀申付て、皆輿にてよびよせ、廳事の内にさしおきぬ、折しも暑中のことなるに、やゝ所の廊下までも病者みち〳〵たり、公儀設榻をおき、よるひるその間にをりて、自親にたづねとひかひはうせしかば、病者ども皆爭て公儀がもとにつきて養はる、その家の親類までもとゞめて養ひ遣はしけり、かくせしにより、全活をたもちしものいと多かりしとなん

唐劉晏、爲二租庸鹽鐵使一、嘗云、（此謂知本）戸口滋多、則賦稅自廣、故其理レ財、務以レ養レ民爲レ先、諸道各置二知院官一、每二旬月一具二雨雪豐歉之狀一以告、豐則貴糴、歉則賤糶、或以レ穀易二雜貨一供二官用一、而於二豐處一賣レ之、知院官始見二不レ稔之端一、先申二應レ免及應レ助之數一、及レ期晏卽奏行、不レ待二困獘流殍一、然後賑レ之、由レ是民得二蕃息一、國用亦足

唐劉晏といふ人、租庸鹽鐵使といふ役をつとめしに、つねにいふやう、たみの家かずいやますときは、年貢のあがりだかもおのづから多きはづなりと、夫ゆゑ財用のてあてとりはからひは、つとめて民をよく養ひ育つるを第一とせり、諸道には知院官役人をおきてとりをさめさせ、毎旬月時候の考へ雨雪のやうすをみて、豊歉を委しくしるし、みのりよきときは貴く糶れ、あしきときは賤く糶だしあるひは穀物をもつていろいろのしなにとりかへ、やく所むきの入用にそなへ、或は豊處かたへそのしなをうりわたしなどして、つかへなくはからふゆゑ、ふさくとてさまでなんぎはなかりし、さて又ふさくどしにはそのすぢ／＼の知院官役人まへかどよりふさくのやうすを見て、これは年貢をゆるすべきすぢ、これはすくひをいだすべきすぢと、まへかどよりしらべおき、その期になりてはすみやかに言上し、困弊流殍せざるまへに賑ひ遣せり、それゆゑ民なんぎなく蕃息、國の入用もまた不足なかりしとなん

宋富弼爲二青州刺史一、時河北京東大水、流民就二食青州一、弼勸二所部民一出レ粟、益以二官廩一、得二公私廬舍十餘萬區一、散二處其人一、以便二薪水一、官吏待レ缺、寄居者皆給二其祿一、使下卽二民所一聚、選二老弱病瘠者一廩上レ之、仍書二其勞一、約他日爲奏請旌賞、率五日輙遣レ人持二酒肉飯糗一、慰藉（善用人）出二於至誠一、人人爲盡レ力、山林川澤之利、可二資以生一者、聽二民擅取一、及二麥大熟一、民各以二遠近一受レ糧而歸、凡活二五十餘萬人一、立レ法簡便、天下傳以爲レ式

宋の富弼といふ人、青州の刺吏をつとめし時、河北の京東といふ所大水にて百姓ともなんぎし、青州はことゆゑなければ、みな青州へうつり食を求めけり、そのとき弼支配所のたみをすゝめ、すくひ米をいださせ、かみの御くらをもひらきてすくひける、公のやく所私の廬舍あはせて十餘萬區の家のうちに、右の流民どもをわけおきて、薪水をば自分はたらきにさせ、かみのやく人もその不足をばたしつかはし、又たび往來かりに身をよするものも、みなそのあてがひをそなへ、多くあつまりたる民の内より、年より子どもほねをりわざのできぬものをゑりて申つけ、その役をうけさせ、よつてその骨をりをもしるしおき、きゝんすみての後、その功を奏請て御賞美等とらすべしとぞ申ける、大やう五日めには人を遣し、酒肉飯糗をもたせやり、やはらかになくさむること、至極のまことよりいでたり、それゆゑ人々力を盡して、山林川澤之利たみのたよりとなるものは、民のほしいまゝにとることをゆるされ、麥大にみのるにおよび、民おの／＼遠きもの近きもの、おのおの糧をうけてかへりける、すべて五十餘萬人ぞ活命たすかりける、飢饉手當の法ことずくなくたよりよしとて、天下傳へて手本にせしとぞ

辛棄疾爲二淮帥一、淮饑、富民積レ粟不レ出、貧民洶洶、將レ甘二心一焉、棄疾乃大二書八字一、榜二於道一曰、（要言不煩）閉レ糶者配、強糴者斬、儲粟盡出、民情乃安

辛棄疾といふ人、淮といふ所の帥つとめし時きゝんなりしに、富民積粟をもちながらかこひおきいだ

さねば、貧民洶々にくきしかたかな、よし〳〵一命をすつるとも、かれらを目にあはせ甘心せんとひしめきければ、そのとき棄疾八字を大書て道に牓をかけたり、その文にいはく、閉糶者籍ん、強糴者斬んとありければ、儲粟こと〴〵くいだせり、こゝにおいて民情安くなりしとなむ

明周忱巡撫南直隷、蘇松二郡大水、秋禾不登、饑莩載道、忱隨一二小蒼頭、棹小舟一葉、親行各郷里、咨詢疾苦、間遇村中老叟、呼至舟命臥榻下、與談、竟夕不倦、見郡縣牧令、坐官衙不出者、責之曰、流民載道、忍安坐乎、民隱不上聞、將以爾等償萬民命、或饋酒食者、即責之曰、恫瘝一體民皆乏食、我一人何忍獨飽、立罷斥之、寮屬震懾、各發倉庫、親賚散給、又令各里甲、月具死逃人數、申院以甄別州縣之能否、以是人皆盡力救濟、所活甚衆

明の周忱といふ人、南直隷の巡撫といへるやくをつとめし時、蘇松といふ二郡でみづにて、秋のみのりあしかりければ、饑莩道にみち〳〵たり、忱一兩人小蒼頭をめしつれ小舟一葉に棹さし、みづからそこゝの村々里々をめぐりて、うゑにくるしめるものを咨詢あるきける、その間に村うちの老叟などにあへば、舟へよびよせ榻下にふさしめ、竟夕ともにかたりあかしけり、また郡縣の牧令やくなど官衙にすはりゐて、みまはりにいでざるものとみるときは、責ていへるは、道にさまよふにげ百姓どもそこゝにみち〳〵たり、かやうなる節やすんじをるにしのびんや、たみのなんぎな

辛棄疾大書八
字儲粟盡出

山はさけ海はあせなん世なりとも
きみにふたこころわがあらめやも

鎌倉右大臣




閑羅者籍強羅者斬


前中納言雅孝


前大納言爲成

るありさまかみへもとほらず、すくひもおそなはりてうゑじにせば、なんじらを萬民のいのちのつぐのひにすべきぞ、また酒さかなをおくり來るものあれば、たちまちせめていへるは、たみみな乏食、我ひとりなにとてあくまでくらふにしのびんやとて、そのものゝ役をたちどころにやめしりぞけしかば、寮屬ども皆震懾れける、かゝりければおの〳〵その所のくらをひらきて、みづからもちゆきてそれ〳〵にわけあたへけり、又各里の死せるもの、にげうつるものゝ人數月日をつぶさにかきしるし、おほづかさへ申あげ、一州一縣のとりはからひよきと、あしきとを甄別にぞしたりける、かくせしゆゑ人々はげみ、皆力をつくして救濟をせしかば、いのち存らせしもの甚多かりき

景泰時、僉都御史王竑、巡二視江淮一、適徐淮間大飢、民死枕籍、竑至、盡下所二以救一荒之術上、流民數百萬猝至、竑大發二官貯一賑レ之、用二米一百六十餘萬石一、窮二晝夜一、竭二思慮一、躬自査閲撫慰毋レ令レ失レ所、（只是一個勤便可活萬姓）又委二用官吏一、必多方獎勸、激切周摯、人樂レ爲レ用、活レ人無レ算、初帝聞レ疏大驚、徬徨廢レ食、後得二竑奏一、太言曰、好御史、不レ然、飢二死我百姓一矣（有作方）

明の景泰年中、僉都御史王竑江淮を巡視せしに、折ふし徐淮のあたり大いに飢て、民枕籍べてしにたふれてぞゐたりける、竑そのところにいたりてきゝんをすくふてだてに心をつくすうちに、又ぞろ地にけ百姓ども數百萬人にはかにきたりけり、こゝに竑上の御たくはひ米をおびたゞしくいだしてぞすくひける、その米高凡一百六十餘萬石とぞ聞えし、さてよるひるとなく心をつくし、自ら

杳閲撫慰じ、なんぎせざるやうに夫々のてあてをぞつくしける、又かみの役人をえらみ、ひたすらに打まかせ、それ〳〵諸方のとめるものをも奨勸てすくはせ、激切周摯しかば、人々も此人のためには、いかにも力をつくし用をなさんとぞねがひける、さてこそ人をすくひしもかずかぎりもなかりけれ、初め帝此處のきゝんの書あげを閲玉ひて、そのおびたゞしきにいたくおどろきたまひ、いかゞはせんと彷徨て、供御をもきこしめさゞりし、そののち歳がかきあげをさし上しをみたまひて、思はずこゑはりあげて、さても好御史かな、此人なからましかば、ほとんど我民うゑしなましものをと、ことのほかほめ玉ひき

久須し幾かも、貴きかも、やまとは食國と定賜ひし神津御代より、大君母御民も、常之九變らぬ宇麻し御國なり発以邊ど母、天つち能大那留雲行雨施すの津い傳多賀ふ處あるをいかにせむ、ことしは年荒て、遠きさかひ近き里わの御民等、しも賀し母なる末頭しきはほと〳〵しな無とするも有と聞こそかなし計れ、されば清の康熙六十年三晋の民字々、朱可亭清主の命うけて書作り、富人を諭し二百萬人の字恵人救ひしとかや、遠藤大人これがあとゝめて、其ふみの解作り畫をまじへ、いか泥人救はむの眞心もて、勉たる事いふ倍久もなし、此字しはやく物部の道學び、文の道に母さかしく、二つの道みな人の難しとするあたりよくゑ賜へりなど、小笹の霜のいちじろく人もいふめり、さてこそこた美救荒便覧をあらはし、圖で廣惠編像解をさへ出されたれ、この書みむ人々、かみは君の大御惠をかしこみ、しもは身をつゝしみよ久さとり、おの〳〵心あはせ力を盡し、大海のひろく救はゞ、人の誠は千よろづの倍にもまさり、濱邊のいさご幾等とふ限りなければ、をちこちの御民等命活と此憂まぬかれ、たひらけ九安けくあらんことのめでたさよとて

七十翁　葛山源維久

うれしくも圖得し母能か此ふみの
こゝろふかきを見む人は見よ

跋

事出二於至誠一則可三以感二動人一矣、如三清朱軾之救二饑民二百萬人一、至誠感二動人一者非耶、康熙辛丑歳、晋饑、軾奉レ命救レ之、偶在二衰経一、時暑甚、扶レ病驅レ車、日二百里、至則發二儲粟一賑レ之、又諭二富豪一助レ之、遠近感泣、爭レ先出レ粟以助レ之、及レ將レ還、老幼慟哭、至二拜不レ能レ起、苟非三至誠感二動人一、豈能至二於此一哉、軾之所レ著廣惠編、乃錄二先賢勸糶之說一、以諭二富豪一者也、其述二孳饑轉死之狀一、悲痛慘悽、如レ在二于目前一、誰不二惻然淚下一乎、富家豪族、雖二八珍之饌一、將レ投レ箸而不レ忍レ食、宜哉當時全活二百萬人矣、我雀洲遠藤先生、學二究古典一、道二唱文武一、慨然志在二經世一、不レ拘二々于詞章之末一、今年偶逢二凶歉一、讀二此書一有レ感、譯以二假字一、附以二畫像一、名曰二廣惠編像解一、以刊二布於世一、其意在レ令三愚夫愚婦了然易レ曉、其丁寧教戒之意切矣、謹題二一辭於卷末一

天保四年癸巳十一月

紀伊助教　南溟齋藤鑫識

近者白鶴先生、著救荒便覽、令余父子審定救荒名物、談話之際、傍見机上有一冊子、題廣惠編、余問是何等書、先生曰、是淸朱可亭所著救荒急務之書也、既爲作解、近日將梓行、余繙而觀之、縷々纖々、摸寫出饑民鵠面菜色、待斃者、乞食者、流哭者、藉死者、泣者、臥者之態、慘痛哀切、宛乎一擊之中、余肇然而栗、戚々迫于胸、因請作圖可乎、先生曰、編中有圖、卽稗史小說耳、余曰、唯々、否々、然則有說乎、曰、有焉、圖說之撰、宋有圖經、癸辛雜志、皆載彩畫、淸太平府知縣梁延年聖諭像解、其他三綱行實等皆有圖、以代面命耳、提愚頑野人、不知一丁字者、非畫以諭之、則不可、豈與稗史同日而論乎、先生曰、子言陳腐縷說、人皆知之、勿喋々焉、夫文人多口、比々皆然、不贋命以贋、不稗史目以稗史、可畏之甚、子其止焉、余自奮曰、皓々之白、何受世之塵埃、詰不言乎、磨而不磷、涅而不緇、勸懲之奇策、發至誠之情、言々出于肺腑中、精氣貫日月、士之多口、奚傷先生之明、先生莞爾笑曰、直之言是也、其試製圖、余拙畫、得之草木寫眞之餘、青屬役

天保癸巳仲冬

菲草林處坂本直大拜撰

廣惠編像解下終

東潛夫論

帆足萬里著

東潛夫論卷之上

帆足萬里著

王室　第一

王室ノ衰ハ藤氏ノ權ヲ世々ニセショリ起レリ、藤氏ノ皇統ヲ奪ハザルハ、兵馬ノ權ナキ故ナリ、サテ王室ノ政ヲ失ヒ玉ヒシハ、中古以來姑息ノ政ヲナシ、天下ノ武士ヲ源平二氏ニ司ラシメ玉ヒシ故ナリ、サレド藤氏痛ク武臣ヲ抑テ、是ヲ登庸セラル、故天下ノ權ヲ取コト能ハズ、先儒以爲藤氏痛ク武臣ヲ抑テ、賴光。義家ノ良將ヲモ奴僕ノ如ク取扱ヒシ故、武臣深ク恨ヲ含タリ、若武臣ノ大功アル者ヲ登庸セバ、利仁•田村麻呂ノ如クハ、武臣必長忠義ノ心ヲ懷クベシトイヘリ、是一偏ナル論ナリ、上古ノ如ク武勇ノ人ハ氏族ニ限ラズ、是ヲ用ヒ玉ハヾ誠ニ可ナリ、若源平二氏ノミ武士ヲ司ラシメ、此ヲ左右大臣ノ位ニ升セル、田村麻呂ノ如キハ、王室ノ政ヲ奪フコト淸盛•賴朝ヲ待ズ、源平二氏兵權ハ執ナガラ、王室猶盛ナリシ故、時ニ背叛ノ者アレドモ、皆誅戮セラレタルヲ、保元ノ頃ニ至テ、先賢ノ論ノ如ク、名倫ノ敎ヘ亂テ、父子兄弟位ヲ爭ヒ給ヒショリ、桀傲淸盛ガ如キモノ、間ニ乘ジテ天下ノ權ヲ擅ニセリ、淸盛ハ橫恣ナレド未ダ叛臣トハイハレズ、叛臣ノ首ハ賴朝ニシテ、義時•尊氏ミナ叛臣ナリ、豐國•東照

ノ二公ハ天下ヲ平定シテ、再ビ王室ヲ尊ビ給ヒシハ、即チ覇者ノ業ニシテ、其功桓・文ノ上ニ出ヅ、東照公ハ盛德勇略楠廷尉ニ抗シ玉フベシ、唯內行ノ微シク及ビ玉ハヌノミナリ、末年天下ノ大權ヲ行フテ大坂ヲ滅シ、數百年太平ノ基ヲ開キ玉ヘリ、大坂ヲ滅シ玉ヒシハ、本多正信ノ勸メニ由ルト、或是ヲ議スルモノアレド、今ニ至テ黎民兵革ノ禍ヲ蒙ラザルハ、全ク此一擧ニヨレリ、其功豈管仲ノ比ナランヤ、故ニ淡海公ノ文事ト、東照公ノ武略ハ、王室ニ在テ二大忠ト謂ベシ、本邦神武帝ノ時ハ、百四十四ノ國造アリテ王室ニ服事ス、諸侯公田アリ、民力ニ藉シテ耕種シ、其粟ヲ屯倉ニ貯テ公用トス、中古諸國造ヲ召、朝臣トシ玉ヌルニ廩祿ヲ以テセショリ、封建ノ治變ジテ郡縣トナル、サレド朝臣ハ猶祿ヲ世々ニセリ、後醍醐帝中興ノ時、早ク楠廷尉ノ言ニ從ヒ玉ヒ、諸國武士ヲ召テ朝臣トシ、相應ノ爵位ヲ給ヒ、封建治ニ復シ玉ハヾ、縱ヒ准后ノ言ヲ用ヒ、少々ノ秕政アリトモ、廷尉・新田左中將ノ如キ武略ノ臣アルコトナレバ、尊氏・直義イカナル奸謀アルトモ、豈天下ヲ傾ヲ得ンヤ、帝時變ヲ知リ玉ハズ、强テ郡縣ノ治ヲナサントシ玉ヒシ故、天下終ニ亂テ王室長ク政ヲ失ヒ玉ヘリ、新田義貞ハ文武ノ全才ノミカ、イト善キ人ニテ君子ノ風アリ、東征ノ時關東武士ノ推戴ヲ受ザルニテ見ルベシ、其文ハ尊氏ヲ訟ル書太平記ニ載ス、天王寺ノ讖楠公ノ作ト、二公ノ文ヲミルニタル、然ドモ廷尉ハ常ニ義貞ノ背反ヲ虞リ玉ヘリ、是當時武士職ヲ失テ天下必亂ノ勢アリ、義貞ノ長者モ諸人ノ爲ニ推戴セラレテハ、餘儀ナク背反セマジキニモアラズ、准后ノ口入ニ苦シキ時ハ、其臣ノ勸ニ從テ廷尉ヲ謀ランセシコ

トモ野史ニ見エタリ、其時モ義貞初ハ拒テ從ハズ、湊川ニ在テ親ラ其事ヲ舉テ罪ヲ謝セシニテモ、義貞ノ長者ヲミルニ足ル、廷尉ハ大功ヲ立テヽモ賞薄ク、良策モ用ヒラレズ、父子ミナ屍ヲ平原ニ暴シ、南朝此ヲ以テ盛衰シ、時移リ勢變ズルニ至リ、廷尉孫正元豫讓ノ忠ヲ懷キ、足利氏ノ爲ニ殺サレタル如キ、和漢ハ申ニ及バズ、開闢以來五千年廣ク世界ヲ尋ネタリトモ、楠家ノ如キ忠臣豈別ニ有ベキヤ、本邦武臣ニ小松内府・楠廷尉ノ如キハ、孔子ノ前ニ出タリトモ、必ズ深ク褒稱セラルベキ人ナリ。豐國公重盛ハ勞慮ノ人ナリ、清盛ノ無道ヲ知ラバ、自忠ヲ王室ニ盡スベキコトナリト宣ヘリ、是小松公ヲ知リ玉ハヌ也、モシ是ノ如クナラバ、武田信玄ト相距遠カラズ、是重盛ノナサヾル所ナリ、能ザル所ニ非ズ、清盛上皇ヲ攻ントセシトキ、權謀ヲ設テ是ヲ解タルニテモ知ルベシ、熊野ニ詣テ死ヲ祈、燈籠ヲ點ジ婦人ニ佛歌ヲ唱ヘシメシナド、公子無忌ノ所爲ニ似テ、皆自死ヲ求メシナリ、廷尉湊川ノ戰死ト略同ジト謂ベシ、今ノ時ハ北條氏トハ換リテ、天下數百ノ諸侯アリ、覇府其上ニ位シ玉ヘバ、王室ハ長ク中興ノ期ハナシト謂ベシ、是却テ目出度コトナリ、楠廷尉ノ言ノ如ク、後世武士ハ唯賴朝ノシソザノ如ク、天下ノ權ヲ取ントノミ思フテ、簒弑ノ志アルニ非ズ、外國ヨリ日本ヲ取バ格別、左モナクバ王室長ク至尊ノ位ヲ失ヒ玉ハン、武臣モ又王室ヲ虜リ玉ハ有マジキナリ、當時ノ衰微ノ王室ヲ氣遣玉フハ、縱令バ其父縲縶ニ在テ、子タル者是ト捍言スルガ如シ、甚ダ宜カラズ、畢竟ハ時勢ヲ知ラヌ人ノ爲スコトナリ、南光坊ノ言ノ如ク、下トシテ上ヲ謀ラバ、其下又是ヲ謀ル、是天下ノ定理ナリ、

當今ノ務ハ幕府モセメテ御一生ニ一度ハ、御上洛アリタキコト也、諸事儉素ニ東照公ノナシ玉ヒシ如ク、其後御上洛ノ如ク華侈ニハアルマジキコトナリ、騎從モ三四千人ニテタリヌベシ、豐國公ハ近臣二十八ト深ク越後ニ入リ、東照公唯二萬人ニテ數多ノ敵國ヲ背テ京都ニ趣キ玉ヘリ、是レ皆英雄事ヲミルノ明ニシテ、敵國危懼ノ時スラ是ノ如シ、況ヤ當時太平ノ世ヲヤ、二代・三代ノ時ハ人心未ダ平ナラズ、用心シ玉ヒシコトモ有シナリ、今ハ其時トハ時勢大ニ異ナリ、幕府ハ新田ノ御一族ナリ、モシ楠公ノ後ヲ求テ、一萬石計ヲ賜ヒ諸侯トナシ、菊地・名和・備前高德ナドノ後ニ二三千石宛モ賜ヒ、王室ノ警御トナシ玉ハバ、誠ニ處置ト申スベシ、是關東長久ノ基ナリ、關東モシ君道ヲ失ヒ玉ハバ、足利氏ノ季世ノ如ク、其下ニ放逐セラレテ、見苦キ滅亡ヲ取玉フベシ、王室ノ誅ヲ受ハセメテモノコトナリ、マシテ王室ハ絕テ中興ノ勢ナキヲヤ、當今王室ト幕府ト御中ラヒノ六ケシキハ、偏ニ財利ノ上ニアリ、是始メヨリ紀極テ立テズ、唯一偏ノ御賂ヒニナシ玉フ故、關東ヨリハ成丈省略セントス、京師ヨリハ成丈責取ラントス、上下利ヲ爭テ六ケシキコトモ出來也、天下モ本王室ノ天下ナリ、日本惣高三千萬石、五分物成ニテ千五百萬石ナリ、社領・寺領除テ、二百分ノ一ヲ以テ王室ニ貢セバ、七萬石ハ有ベシ、王室天下ヲ治メ玉ヒシ時モ、古ノ租稅ハ至テ薄シ、故ニ大抵其入二百萬石ニハ過ザルベシ、是ニテ天下ノ用ヲ贍フシ玉ヘリ、今ノ王室ハ京師ダケノ御物入ナリ、當今ノ禁庭御賂料ハ銀八百貫ナリト承ル、七萬石ニテ公卿ノ廩祿マデモ足ヌベシ、サテ公料ヨリ諸侯マデ、租稅二百分ノ一ヲ出

スハナシガタキコトニアラズ、關東モ左アル時ハ、京師ノ御賂モ入ラザルユヱ、諸侯ニモ其ニ應ジテ公務ヲモ免ジ玉フベキコトナリ、サテ其貢ハ關東ヨリ取立テ、京師ニ送リ玉フベキコトナリ、禁庭幷ニ公卿ノ領地皆關東ヨリ吏ヲ置治メシメ、租稅ヲ取立テ上納シ玉フベキコトナリ、左モナケレバ、政務行届ズ、奸臣ノ淵藪トナルコトナリ、且天子モ今ノ如ク深居シ玉フコトナク、花紅葉ノ時節ハ鳳輦ニ駕シ玉ヒ、鹵簿三四十人ニテ西川東山ニ行幸シ玉ヒ、又時トシテハ叡山。三井寺。莵道(ウヂ)ノ邊ニモ遊ビ玉フベキコトナリ、是モ隨分手輕シ玉ヒテ、武臣ヨリ衞卒二三十人計リモ出シテ事足ヌベシ、天子ノ今ノ如ク深居シ玉フハ、足利氏ノ時戰國物騷シク、其上公上ノ貢物乏シク、遊幸ノ御備モデキザリシユヱナリ、是ノ如クナラバ、天子ハ唯天下ノ供給ヲ受玉フニ、何ノ御勤モナキ者ノ如シ、絕テ然ルベキノ理ナシ、次ニ其事ヲ申スベシ、天下ヲ治ルハ文武ノ二事アルノミ、王室已ニ武備ヲ以テ幕府ニ委セ玉ヘバ、文敎ヲ以テ自ノ任トシ玉ベキコトナリ、天照太神君師ノ任ヲカネ、神道ノ敎ヲ立玉ヒ、何事モ正直ニシテ詐ナク、身ヲ潔クシ過ヲ改ヲ以テ人ヲ導キ玉ヘリ、是人道ノ第一ニテ、孔子ノ忠信ヲ主トシ、過ヲ改ルニ憚ル勿レト宣シト一致ナリ、サレド文字ナキ國ユヱ、細節ニ至テハ備ザルコト多カリシナリ、應神帝經書ヲ得テ、御子仁德帝ニ是ヲ學バシメ給ヒシヨリ、寧樂ノ時ニ至テ文敎大ニ興リテ、王室モ亦盛ナリシナリ、平安遷都ノ後文敎日ニ衰ヘ、徒ニ佛法ヲノミ尙ビ玉ヒ、是ニ加ルニ和歌ノ學盛ニナリテ淫風流行シ、名倫ノ敎盡ク敗レテ、終ニ保元ノ亂ヲナセリ、是レ全ク文敎ノ衰ヘシ故

ナリ、吾邦ハ文字モナキ國ユエ、古神道ノ敎ハ有ナガラ、神道トイフ名モ漢學傳リテ後付シナリ、前ニ言シ如ク、其大本トスル所ハ人道ノ至極ニシテ、堯舜ノ道ト一ナリ、但皇祖ヲ天神ナリトシ、神ト同室ニ住シ玉ヒテ、神威ヲ借テ命令ヲ下シ玉シノミ、稍方便ノ意ヲ帶タリ、サレド本邦ノ人才智萬國ニ勝レタレバ、人文漸開ニ及デ、漢籍未傳ザル前ニ、崇神帝人神異宮ノ制ヲ肇メ玉ヒ、刑賞ヲ以テ國ヲ治メ玉ヒシ後ハ、神道ノ敎周・孔ノ敎ト全ク異ナルコトナシ、應神帝漢學ヲ興シテ、神敎ノ細節未備ザルモノヲ備玉ヒシヨリ、神道モ稍成就シタリト謂ベシ、故ニ神道ハ元國家ヲ治ルノ道ニシテ、巫祝ノ道ニアラズ、巫祝ハ神ニ事ルノ役人ノミ、中古ノ時僧空海神道ヲ佛法ニ引合セ、後世是ヲ兩部神道ト名付タリ、是ヨリシテ神道アラヌ者トナリタリ、山崎闇齋是ヲ嫉テ、盡ク其言ヲ紬テ、更ニ陰陽五行ナド漢說トハ云ナガラ、儒敎ニモアラヌモノヲ捏合ス、賀茂眞淵・本居宣長ガ徒更ニ其非ヲ斥シテ、盡ク漢說ヲ除テ古ニ復センコトヲ求ム、一通リハ尤ナレド、眞淵・宣長元是文人ニシテ、更ニ敎ヲ興ノ人ニ非ズ、故ニ大和魂・眞心ナド古ニハ絶ニ聞ザル怪シキ名目ヲ唱レド、神道ハ名コソカハレ、實ハ孔子ノ忠信ヲ主トシ、過テ改ニ憚ル勿トノ玉ヒシト一ナルコトヲ知ラズ、カク言ヘバトテ、余又神道ヲ援テ儒敎ニ入ルヽニハ非ズ、孔子ノ敎モト人倫ノ道ニシテ、即チ國家ヲ治ルノ道ナリ、佛法ナドノ如キ方便ノ敎ニ非ズ、孔子モ宋ニ在テハ縫掖ノ衣ヲ衣玉ヘリ、今ノ儒者房主ノ如ク剃髮モセズ、山伏ノ如ク惣髮ニモナラズ、近古以來見苦ク月題ヲモソリ、袖ノナキ上下ヲモ衣ルナリ、故ニ名コソカハレ、忠

信ヲ主トシ過テ改ルハ天道至極ニシテ、何ノ國ニモアレ、眞ノ道ハ必ズ此ニ止ルナリ、サテ細節ノ備ザルヲ儒教ヲ以テ補ハバ、鐵砲ヲ以テ軍陣ニ備ヘ、遠鏡ヲ以テ天學ヲ助ケ、麻黄・大黄ヲ藥用ニ備ルガ如シ、尤モ儒教ニ非ズトモ、他教ヲ取テモ神教不足ヲ補ベケレド、唐ノ邦タルコト本邦ト尤モ近ク、文事其外藝術多ク唐ヨリ習得タレバ、手近キ儒教ヲ取タルナリ、且近世西洋人ノ言ノ如ク、人倫ノ道ハ孔子ヲ大成トシ、他教ノ及ブ所ニアラネバ、此ヲ取コト尤モ宜キ理ナリ、天文・地理・醫藥・器械ナドノ學ハ、唐ヨリハ西洋精レバ、近來ハ專ラ西洋ヲ學ブ、學者ヨク知ルトコロナリ、眞淵・宣長カヽル理ヲ知ラズ、又崇神・應神二帝ノ御心ヲモ知ラズ、故ニ其學ブ所ロ巫祝ノ作法、サテハ歌學也、絶テ身ヲ修國ヲ治ル說ナシ、是豈神道トスルニ足ンヤ、故ニ王室文教ヲ以テ任トシ玉バ、儒學ヲ以テ主トシ、四子・五經・其外歷史ノ類ミナ和言ニテ翻譯シ、是ヲ學者ニ教ユベシ、詩文ヲ學ビ飜譯ヲ業トスルハ、唯儒官ノ任トスベシ、次ニ蘭學ヲ置テ天文・地理・醫藥・本草・諸器械ノ說、漢學ノナキ所ヲ飜譯シテ、是ヲ儒官ニ移シテ學者ニ讀シムベシ、尤モ翻譯ハ蘭學師ノ職トスベシ、若直ニ蘭書ヲ讀ントスル者ハ、此館ニ就テ學ブベシ、又次ニ佛學ヲ置テ、藏經ヲ始メ諸宗ノ書ヲ讀シメ、僧徒ノ誤ヲ正スベシ、是ハ翻譯ニ及バズ、漢文ニテ行ベシ、佛教ハ方便ノ言(コトバ)ナリ、阿彌陀經ナド和言ニ翻セバ、樂黠ノ徒却テ是ヲ笑ヒ侮ルベシ、又和學ヲ置テ古事記・萬葉以下古言ヲ明メ、和歌和文ヲ教ユベシ、是四館ハ讀書ノ學舍ナリ、其外天文・醫業・算術・本草・分析術其師ヲ置テ是ヲ講究スベシ、凡學問セント志ス者、必ズ京師ニ

就テ學ブ如クナシ玉フベシ、是大事ナレバ、王室モ上貢三分ノ一ヲ以テ其費ニ供シ玉フベシ、上ニ申ス如ク、經史有用譯本上木セバ、老子・莊子・列子ヨリ始メ、後世演義ノ類、本邦勢語・源語以下近世作レル演義物讀本類、其他風俗ヲ壞ルノ書盡ク絕板シテ、寫本ヲ以テ行フベシ、其上ニテ上代格式ニヨリ、下ハ源・勢二家ノ言ヲモ取、カタハラ漢ノ禮典ヲ考テ、王室ヨリ士人マデ其々ノ禮ヲ作リ、書ニ錄シテ邦國ニ布キ、葬埋・祭祀・喪紀ノ制ヲ定メ、祖先ヲ祭ル祝辭ヲ制シ、王室ハ申スニ及バズ、覇府・諸侯及士人ノ貴キモノ、葬埋・祭祀・喪服等皆其制ニ從テ、僧徒ヲ用ルコトナカルベシ、總テ僧家ニハ葬埋ノ禮ナシ、今ノ位牌・碑碣・棺槨ノ飾リ皆唐ノ制ナリ、但明旌ニ經文ヲ書キ、位牌ニ須彌山ヲ刻ムノミ佛說ヲマジヘシナリ、天竺ニテハ墳上ニ塔ヲ立ツ、今ノ石塔ハ是ヲ略セシニテ、是ミナ天竺ノ禮ナリ、石塔モデキヌ故、卒都婆トテ木ニテ塔形ヲ刻ミ、墓碣ノ後ニ立ツ、何人ノ創メシニヤ、卒都婆ハ塔婆ト同ジク、皆天竺語ニテ樓ト言コトナリ、王室禮ヲ制シ玉ハヾ幕府ト議シ、萬事礙リナキ様ニナシ玉フベシ、一位ヨリ九位マデ階級立トキハ、冠服ノ制ナドモ其々ノ當リ前アリ、後光明帝ノ宣シ如ク、上下ナド如キ見苦シキ服ヲ廢シテ、大紋素袍ニ代ユベシ、是モ袖些シク小ニシ、裙ヲ截テ取回シヨキ様ニスベシ、淸ノ太宗ノ言ノ如ク、武人ハ餘リ裾長ク袖廣キ衣ヲ着バ、狼藉モノナド不意ニ來ルトキ、必ズ後レヲ取コトアルベシ、次ニハ宴享・婚姻・餞送等其々ノ樂歌ヲ作リ、又ハ三絃・琵琶・胡琴ノルイ、其他樂器ニ和シテ歌ハシメテ、是ヲ邦國ニ用ユベシ、箏・琵琶・三絃・古琴皆俗手ノ器ナリ、サレ

ド器ニ雅俗ナシ、但用方ニヨリテ雅俗ヲナスナリ、琴瑟ハ雅樂ノ器ナレド、被ラシムルニ淫蕩ノ辭ヲ以テシ、頻手ノ操ヲナサバ、立ドコロニ鄭聲俗樂トナルベシ、凡ソ樂ハ絲聲ヲ以テ主トス、大抵ノトキハ箏・三絃ニテ足リヌベシ、大宴享ノトキハ笙・鼓以下ノ樂器ヲ用ユベシ、天王寺ノ樂マヽ古樂アリト聞ケド、樂ハモト歌ヲ以テ主トスル者ナリ、當時歌辭ヲ譯スルコト能ハズ、唖人ノ樂ニテ用ヒガタシ、且樂ノ主タル絲聲ナシ、但制樂ノトキ見合セニハ成ヌベシ、今ノ世申樂ヲ以テ朝廷ノ樂トナシ玉ヘド、是ハ雜劇ノ類ニテ、眞ノ樂ニハ非ズ、唯玩娯ニ供ベシ、誠ノ樂ハ詩經ニ載セシ如ク、皆其席上差當リタルコトヲ歌ハネバ樂ノ用ナシ、本邦古ヨリ是ヲ知ラズ、但上古ニ天子其外ノ人々作リテ歌ヒシ長歌ハ、即チ眞ノ樂歌ナリ、凡樂歌ハ其辭巧ナラネバ、人ヲ感ズルコト少シ、詩經周公ノ作リ玉ヒシ、誠ニ千古ノ手本トスベシ、漢以下朝廷ノ樂歌ハ、當時有名ノ文人ニ命ジテ作ラシメシ故、其辭皆ウルハシ、本邦ニテモ祝辭ハ樂ノ類ナリ、柿本人丸ニ命ジテ是ヲ修セシメ玉ヒシト聞ケリ、其辭甚ダ美ナリ、申樂ノ謠ニモ、叡山ノ僧又一休ナドモ作リシト云ヘリ、其辭ツヾキ皆ウルハシ、今ノ世箏・三絃ニ用ル歌辭、其淫蕩ハ姑クオク、辭ノツヾケ様甚ダ拙ク、テニヲハノ用明ナラズ、人ヲシテ笑ヲ發セシム、近來江戸山田檢校ノ作リシハ尤淫蕩粗惡ニシテ、一モ文辭ノ筋ニ合セズ、王侯貴人ノ前ニ奏スベカラズ、風習ノ薄惡モ思ヒ知ラルヽナリ、故ニ樂歌ハ和漢ノ學ニ達セシ、見識正シク文辭ニ達セシ人ニ作ラシムベキコトナリ、サレバトテ歌辭ニ理屈ヲ叙ルハ、歌詩ノ道ヲ失フテ尤モアシヽ、禮樂ハ文事ナレ

バ、王室是ヲ主リ給ヒ、政刑ハ武事ナレバ、幕府是ヲ主リ玉フコト、其宜ヲ得タリト申ベシ、前ニ擧シ如ク、眞淵・宣長ガ學ハ歌學ニテ、眞ノ和學ニアラズ、眞ノ和學ハ先ヅ六史ヲ讀テ、其漢文ニ引レテ事實ヲ失ヘル處ハ、古事記ニテ是ヲ正シ、次ニ格式律令ヲ讀テ、先王經世ノ法ヲ明ラメ、野史・小説ノ寓言カタハラ皆讀テ、戰法古今ノ異同、地理・物産・風俗ノ勇怯、土地ノ肥瘠、海路ノ迂直、當今ノ要務ヲ盡ク講究シテ、上ノ采用ニ供スベシ、旁ラ古事記・萬葉ヲ讀ミ古言ヲ明シ、上古ノ風習ヲモ觀ベシ、勢語・源語モ又棄ベキニ非ズ、王室名倫ノ亂ハ、漢學ヲ廢シテ唯和歌ヲ尙ビ玉ヒショリ起レリ、勢語・源語皆詩敎ナリ、試ニ源語ヲ看ベシ、是寓言ナレド當時ノ好尙ヲミルニタル、當時ノ人イカニモ奥深ク溫厚ニシテ、絕テ武人粗早ノ態ナシ、溫柔敦厚ハ詩ノ敎ナリト云ニヨク叶ヘリ、若シ其人是ノ如ニシテ謠縱ノ質ナク、書經ノ敎ニ由テ天文・地理ヲ明ニシ、彝倫ノ道、邦國經濟ノ法ヲ失ヒ玉ハズバ、淸盛・賴朝ノ反臣何百人アリトモ、豈王室ヲ動スヲ得ンヤ、平安遷都ノ後ハ徒ニ佛法ヲ尙ビテ和歌ヲ宗トシ、孔子ノ敎ヲ廢シ玉ヒシユヱ、王室政ヲ失ヒ玉ヒシナリ、後王ノ宜ク鑑ミ玉ベキコトナリ、王室ノ制已ニ立タバ、比叡山ノ絕頂ニハ大神宮・及ビ八幡宮ヲ立テ、伊勢・宇佐ヲバ原廟トシ、皇宮モ叡山ノ上ニ立テ、公卿ノ居ヲ移シ、南ハ溝渠ヲホリテ獅子飛ノ險ヲサケ、大坂ヨリ漕河ヲ通ジ、西州ノ米ヲ坂本ニ致シ、北ハ敦賀ヨリ戍丈水路ヲツケ、水路ノナキ程ハ陸運ニシテ、北州ノ米ヲ致スベシ、是ノ如クンバ異日外國ヨリ大軍入寇ストモ、漕運ニ礙リナク、王室モ稍盛ニシテ、異寇ヲ防ニハ此策ヨリ

ヨキハナカルベシ、サテ叡山ノ寺院ハ其儘置玉フトモ、別ニ善地ヲ賜フトモ、程ヨキ處置アルベキコトナリ

覇府　第二

覇府ノ諸侯ヲ控制シテ、二百年兵革ノ災ナキハ、萬國稀ナル至治ナリ、豐國公ノ諸侯ノ家ヲ都下ニ置玉ヒシハ、誠ニ封建ノ國ヲ治ル良法ニシテ、至治モ是ニ由テ興リシナリ、然ドモ是法豐國公ノ創ニ非ズ、大内氏防州山口ニ都セシトキ、筑前ノ諸侍家ヲ携テ山口ニ居リ、輪年己ガ邑ニ還ルコトアリ、豐公久ク播州ヲ鎮シ玉ヒシ比、是コトヲ傳聞テ、是ヲ設ケ給ヒシニモアルベシ、豐公天下ノ權譎ヲ設ケ、東照公ノ威重ヲ借テ、纔ニ君臣ノ儀ヲ定メ玉ヘリ、サレド豐公ハ威盛強キ人ニテ、其上追々關白ノ位ニ昇リ玉ヘリ、君臣ノ儀モ立シナルベシ、東照公大坂ヲ平ゲ玉フテ、幾程モナク薨ジ玉ヒシ故、幕府モ又君臣ノ儀正シカラズ、三代將軍ノトキ酒井讃州。松平豆州ノ二侯大猷公ヲ相ケテ、始テ君臣ノ儀ヲ定メ玉ヒシナリ、二侯皆振古ノ英雄ナレド、不學ニシテ古ノ道ニ達シ玉ハズ、世人普ク知レル如ク、已ニ三代將軍職タレバ、先例ニ引キ易ルト稱シ、略君臣ノ儀ヲ定メ、若甘心セザル者ハ、三年ノ間朝勤セズトモ問玉フマジ、三年ヲ過テ朝勤セズハ、兵ヲ擧テ是ヲ伐ベシト云付玉ヒ、其後毎人茶室ニ召テ、將軍手ヅカラ茶ヲ點シテ是ヲ賜ヒ、刀ヲ賜テ拔テ其刄ヲ視セシメ玉ヒ、其上朝儀モ上下ノ位班正シカラズ、些ノ失儀ハ有司コレヲ譴責ス、其言皆權詐刼迫ニ出デ、更ニ君子ノ道ニ非ズ、戰陣ニハ權詐ヲモ用

ユレド、朝廷ノ禮儀ニ權詐ヲ用ユベキニ非ズ、カヽル苛酷ナル禮儀ナンド、大猷公文武ノ德備ハリ玉フテ、御機嫌ウルハシキトキモ、諸侯ノ死ヲ聞玉ヘバ、涕ヲ下シテ此ヲ悲ミ玉ヘリ、カク仁慈ニオハセシユヱ、天下悅服シテ怨望ノ人モナカリシナリ、若刻薄殘忍ノ君カヽル苛酷ヲ行ハヾ、怨怒四起シテ天下必ズ亂ルベシ、讃州・豆州ノ二侯少主ヲ相ケ玉ヒシトキ、今ノ世ヲ七十子ノ徒ニ治メシメテ見タキモノナリト常ニ言ヒ玉ヒシトナリ、是七十子ヲ貴ブニアラズ、我儕ハ能治ムレド、七十子ハ得治メマジト云コトナリシトナリ、豆州ハ才智ハ勝レタレド、殊ニ私智ニ誇リテ、德川家ニ德川家ノ法アリ、聖人ノ敎ヲ待ズト公然ト云玉ヒシナリ、讃州常ニ伊豆守ト智惠競(クラベ)スベカラズ、渠ハ人間ニテハナキナリト申シ玉ヘリトキケリ、豆州ノ行ノ私智ニ過テ僞詐ニ落ルハ、世ニモ多ク申シ傳ヘタリ、中ニモ御先祖ノ御法事ヲ町受ニシ玉ヒ、盛切(モリキリ)トテ奴僕ノ飲食ニ限量ヲ立玉ヒシナド、非禮非義實ニ不學ノ過チナリ、酒井侯思慮深キ御人ニテ、少壯ノ日ヨリ昏ニ火ヲ點シテヨリ、必ズ儒臣ヲ召シテ書ヲ講ゼシメ玉フ、五鼓ニ至テ止ム、寒暑ト雖モ廢セズ、四書・五經・通鑑綱目マデモ殘ラズ聽玉ヘリ、サレバ老年ノ後深ク前失ヲ悔ミ玉ヒ、吾モシ今ノ位物ノ心ヲモ知リタラバ、前年ノ如キ法ヲバ立マジキモノニト云玉ヘリトキケリ、幕府ニ君臣ノ儀立カネシハ、元君臣ニ非ザルユヱナリ、若シ正理ヲ以テ言バ、將軍家攝政關白ヲ兼玉フベシ、攝政關白ハ素ヨリ天下ノ政ヲ執リ玉フベキ官ニシテ、至貴ニシテ天子ヲ距ルコト一等ノミ、故ニ左右大臣ト雖ドモ、必ズ是ヲ尊奉セザルコト能ハズ、マシテ況ヤ四位・五位ノ

諸侯ハ、天子ヲ見ト略異ナルコトナシ、卽チ諸侯位階ニ從ヒ、坐席ノ進退ヲ定メ、從容ニ禮ヲ行ハシメ玉ヒ、卿ノ失儀ハ咎メ玉フマジキナリ、禮ハ心ノ恭敬ヲ表スル者ナリ、是ヲ以テ咎責ノ具トナスベキニ非ズ、其上ニテ太政官朱印ヲ申請ケ玉ヒ、諸侯ニ土地ヲ頒テ封ズルニ、是ヲ用ヒ玉フベシ、若シ諸侯令ヲ受ザルモノアラバ、天子ノ命ヲ奉ジテ是ヲ伐玉フベシ、豐國公ノ天子ノ命ヲ以テ薩ノ不朝ヲ責玉ヒシゴトキ、左モテクテハ叶ハヌコトニテ、强チ豐國公ノ明達ノミニモ非ズ、是ノ如クナラバ名正ク言順ニシテ、當時關東ノ御武威ニテ、カヽル正道ヲ行ヒ給ハヾ、諸侯アニ畏服セザランヤ、是當時ノ第一ノ義ナリ、次ニ武士ノ階級ヲ定メ玉フベシ、今武臣ノ位階王朝ヨリ班チ玉フハ五位ニ止ル、五位以下八位。九位マデモ次第ヲ立テ、幕府所麾下ヨリ諸侯ノ大夫士マデ、大中小國ニ從テ其々ニ位階ヲ定メ玉フベシ、足利氏ノ時ニ武士ノ位階ヲ十二等ニ定メシコトアリ、是宜シカラヌコトナリ、唯王室ニ請テ六位以下ハ幕府ヨリ授ケ玉ヒ、八位九位ニモ至ラバ、諸侯ヨリ授ケ玉フベキコトナリ、今是制ナキユヘ、幕府ノ諸臣諸侯ノ臣下ニ遇テハ、直參ナドヽテ自矜ル、諸侯臣下モ相當ノ禮ヲ知ラズシテ迷惑シ、小國ノ臣中國ノ臣ヲ見、中國ノ臣大國ノ臣ヲミルトキ亦然リ、是禮制ノ至ラヌユヱナリ、是制已ニ立タバ、徧ク天下ニ告知シテ、モシ諸侯罪アッテ國除スルトキハ、其臣君ニ與シテ惡ヲナセシモノヲ除テハ、盡ク召シテ幕府ノ臣トナシ、又ハ最寄ノ地ニ居ラシメテ、武衞トナシ玉フベシ、諸侯ノ制大抵其租入半ヲ以テ諸臣ヲ祿ズ、當時諸侯貧窘ニシテ半知ノ國多ケレバ、盡ク臣下ヲ祿シ玉フトモ、

其費ス所ロ税入四分ノ一、又ハ三分ノ一ニ過ズ、ナシ難キコトニ非ズ、諸侯ノ臣貴賤ヲ通ジテ一萬石ニ二百人位ナリ、益封スルノ國ハ其高ヲ度テ抱置給ヒテ、臣下ニ分チ賜フベシ、是令人心ニ孚セバ、百萬石ノ國トイヘドモ、罪アラバ潰シ玉フコト思ノマヽナルベシ

公料ノ諸侯ノ邦ニ犬牙シテ、切々ニナリヲルコト甚ダ宜カラヌコトナリ、第一ハ禁令屆カヌルコト、代官・郡代ナド中役、唯年貢取立ノミヲ事トシ、武威ナキユヱ治メ方行屆カズ、手代元締メハ日傭取ナリ、日傭取ニ民ヲ治メシムルコト、和漢共ニナキコトナリ、故ニ公料ノ地ホド埒モナキハナシ、唯盜賊奸人ノ隱家(カクレガ)トナルノミナリ、且ツ關東御武威盛ナル時サヘ此ノ如シ、武威少シク衰ヘバ、皆近所ノ諸侯ニ取ラレ玉フベシ、公料ハ關八州・駿・遠・甲・信ニ集メ給フベシ、尤百萬石バカリハ大坂城ニ付ケ置玉フベシ、諸國ニ散在スルモノ、又海島ナド皆諸侯トカヘ地ニナシ玉フベシ、佐渡十二萬石・隱岐六萬石、皆內地ノ諸侯ヲ移シ玉フベシ、佐渡ハ金山ダケヲ除テ諸侯ヲ封ゼシニ、何ノ礙リカアラン、是ノ如クニ諸侯ナラバ、先年魯西亞人東邊ヲ掠セシ時ノ如ク、諸侯ノ兵ヲ遣リテ戍シメ玉フニ及バズ、隱岐ニ北條氏後鳥羽帝ヲ遷奉シ離宮今ニアリトキケリ、逆臣ノ跡久シク留ムベキニ非ズ、速ニ後鳥羽帝ノ原廟ヲ立テ、祝史ヲ置テ奉祀スベシ、石碑ヲ立テ其事ヲ記セバ、後世モ其跡ヲ知テ、北條氏ノ反逆ヲ惡ミ、御當代ノ忠義ヲ感ジ奉ベシ、是御當代長久ノ仕方ナリ、天草・小豆島・南海諸島ミナ小侯ヲ移シテ、其易地ヲ關東・大坂ニ集メ玉フベシ、蝦夷ノ「ネモロ」ニ「アツケシ」、唐太島ノ「アソフ」皆十萬石餘ノ

諸侯ヲ移シ、其地百里位モ賜ヒ、金坑・材木・漁捕ノ利ヲ擅ニシ、其舊封租入三分ノ一若ハ三分ノ二ヲ賜テ、大舶ニテ送リ玉フベシ、三年二度百日參府スル對州松前ノ例ニ從フベシ、松前ハ東ハ箱舘ヲ限リ、西ハ「ソウヤ」ヲ限リ、其封疆トスベシ、是西海ニハ寇盜ノ患少キユヱナリ、税入ノ不足ハ新ニ移セシ諸侯ノ租米ニテ償ヒ、是モ大舶ニテ送リ賜ハルベシ、唐太島ハ其地高大ナレバ、尙度テ一二ノ諸侯ヲ移シ玉フベシ、不毛ノ地ハ舊封ノ租米コトゴトク賜フベシ、東海ラッコ島・エトロウ・クナシリ、皆小侯ヲ移シテ邊徼ノ守ヲ固スベシ

今ノ穢多ト云モノ、古奧羽ニ住セシ一種ノ夷人ノ裔ナリ、上古蝦夷ノ俘ヲ伊勢ノ廟ニ獻ジ玉ヒシニ、牛馬ヲ喰テ皮肉ヲナゲチラシ、神山ノ木ヲ伐テ叫呼セシ故、倭姬ノ命朝廷ニ請テ、是ヲ諸州ニ移シ玉ヘリ、是ヲ佐伯部トイフ、今穢多ノ先祖ナリ、其後田村麻呂奧羽ノ地ヲ平ゲテ、蝦夷ヲ盡ク日本人トセリ、故ニ穢多モ常ノ人ト異ナルコトナシ、穢多ハ盜賊ヲ監スル名有テ、實ハ盜賊ノ宿ヲナス、且ツ平人ト交ラヌユヱ其惡事露顯セズ、諸侯ノ城下ニ夷狄ノ邦アルガ如シ、宜ク盡ク召集メテ大神祠ニ詣シ、祓除シテ平人トナシ玉ヒ、是ヲ蝦夷島空曠地ニ移シ、耕種畜牧ノ業ヲ開カシムベシ、其後死刑ヲ以テ粹方ト云モノヲ禁ジ玉ヒ、質庫ニ盜ミ物ヲ賫スルモノハ、都下ノ如ク欠所トナシ玉フベシ、是法甚ダ善ナレド、遠國ニハ未ダ行ハレザルナリ、是ノ如ナラバ盜偸ハ長ク止ムベシ

覇府　第三

公料四百萬石ト承ル、諸侯ノ國差出ノ高ハ格別、慶・元ノ間新封ノ國モ、貧瘠ニテモ四ツ五六分五成ハ納ルナリ、源白石折焼柴ニ載スル所ヲ見ニ、公料ノ納ハ四成ニ及バズ、其故ヲ問ニ、慶長ノ比ハ戰國新ニ定テ、田畝三分ノ一ハ荒地ナリ、時太平ニ成ヌル後ハ、開墾シテ荒地ト云モノナシ、諸侯ノ國其時ニ竿入シテ年貢米ヲ納ルユヱ、物成モ多キナリ、公料ハ諸州ニ散在シテ行屆カヌ故、開墾ノ畝町ハ皆古田ニ加テ、貢米ヲ出サヌナリ、サテ荒地ナケレバ、海成・川成ナド稱シテ帳面ヲナスナリ、若シ檢地シテ是ヲ正シ玉ハバ、二百二三十萬石ノ納米ナキコトハアラジ、是ヲナサズシテ頻ニ新田ヲ拵ヘ玉フ海邊新田ハ場所アシクシテ出來ヌモノナリ、近來西州ノ新田徒ニ金財ヲ斥鹵ノ中ニ投ジテ、何ノ益ニモ立ズ、適々用立處ハ强テ諸侯濱海ノ地ヲ奪取ルユヱ、德川御家ノ爲ニ怨ノ碑ヲ立ルニ同ジカルベシ、誠ニ甚ダ宜シカラヌコトナリ

國ガヘトテ屢諸侯ノ邦ヲ移シ玉フハ、宜シカラヌコトナリ、何格別ノ譯アルカ、又ハ罪アル者ハ格別、屢國ガヘシ玉ヘバ、國民上ヲ逆旅主人ノ思ヲナシ、其尊敬薄クナルナリ、譜代ノ諸侯屢國ガヘアルユヱ、其民上ヲ敬スル外樣ニ及バズ、是尤アルマジキコトナリ、幕府自ラ其輔ヲ弱メ玉フナリ、諸侯ニ加增シ玉フハ、近旁ノ地又ハ遠方ノ地ヲモ與ヘ玉フベシ、是ハ公料ノ諸州ニ散在ストハ違ヒタルコトナリ、諸侯屢國ガヘシ玉フユヱ、臣下皆城下ニ集リ居テ、日本ノ兵數減ゼシトイヘリ、當今ノ大積リハ一萬石ニ上下打混ジテ二百人位ナリ、日本惣高三千萬石ナレバ六十萬人ナリ、甲斐宗渾ガ九州

軍兵ヲ算セシニ、豐後一萬六千人、豐前一萬二千人トイヘリ、若シ一萬石二百人積リナラバ、豐後三十六萬石兵七千二百人、豐前二十八萬石兵五千六百人、是宗運ガ積リノ半ニ及バズ、豐國公ノ時一萬石ニ四百人ノ陣役ヲカケ玉ヒシコトモ有シナリ、若然バ日本惣人數百二十萬人四分ノ一ヲ居守トシ、殘テ九十萬人ヲ三分シ、三十萬人ヲ東州ニ置キ、三十萬人ヲ中州ニ置キ、三十萬人ヲ西州ニ置キ、舟船大熕ノ用ダニ備ラバ、本邦旁近ノ海風濤殊ニ險惡ニシテ、西人死海ト號スルモノヲ壕塹トシテ戰バ、亞細亞・歐羅巴ヲ并テ來攻ルトモ、豈本邦ヲ動スコトヲ得ンヤ、猶士人土着ノコトハ、先賢ノ論モアルコトナリ、且諸侯條ニ是ヲ論ズベシ

本邦城郭・樓櫓・雉堞・木造リニテ牢固ナラズ、大熕ニテ擊バ必敗壞スベシ、宜ク石モシクハ三和土ニテ築キ、磚ヲ以テ砌成シ、敗席敗帆ノ類ニテ大熕ノ射擊ヲ防グベシ、然ラザレバ大熕盛ニ行レテハ、今ノ城郭ハ守ラレヌナリ、江戸大坂ナドノ御城モ此通ニ造リ玉フベシ、一旦ハ費多ケレド、長ク修理ノ累ヒナカルベシ

三都及ビ大國城中ノ屋宅ハ、西洋ノ法ニ倣テ、石又塼瓦ニテ砌成スベシ、是又一旦ハ費多ケレド、數百年モ破壞セズ、且自火ハ格別延燒ノ患ナカルベシ、且石屋塼屋ハ三四層ニモ作ル故、土地今ノ半ニテ濟ベシ、餘地ヲ空地トシ街路ヲ廣メ、空地ニハ松柏・雜樹ヲ植玉ハヾ、永ク大火延燒ノ災ナカルベシ、且二階住居ニテ濕氣薄ク、瘟疫ノ患モ減スベシ

本邦海中ニ居ナガラ、舟船ノ制備ラズ、故ニ屢西洋賊船ニ難儀スルナリ、日本ノ東南海ニ折々來ルハ尹夷ノ鯨トリ船、又ハ北亞墨利加ノ鯨舟ニテ、十六七丁・二十丁立ノ小舟ニテ、甚々敷武器モ持タズ、元舟トテ大船アレド、大炮小々用意シテ、數多ノ戰卒有ニアラズ、患ニタラヌコトナリ、日本ノ東海ハ鯨極テ多シ、鯨ハ寒ヲ好暑ヲ惡ム雁鴨ト同ジ、冬分氷閉レバ、亞細亞・亞墨利加中間ノソント峽ヨリ南海ニ出ルナリ、一分ハ蝦夷・唐太ノ峽ヲ經テ平戶五島ニ至ル、一分ハ蝦夷ノ東海ヨリ日本ニ傍テ南海ニ出ルナリ、鯨ハ海藻又ハ海鰮ヲ取テ食フ故ニ、必ズ陸地ニ沿テ出入シテ、大洋ヲバ通ラズ、是食物ナキ故ナリ、平戶ニテモ南海ニ出ル時ト、北海ニ過ルトキ二度トルコトナリ、魯西亞人ナドハ用事ナキユヱ、餘リ日本近所ニハ來ラズ、偶西洋大熕ヲ裝セシ大舶モ來レド、一艘二艘ニテハ何程ノ害ヲカナサン、然ドモ西人ヨク本邦舟舶麁脆ニシテ大熕ヲモ架セズ、西舶ト爭戰ノ出來ヌヲ知ル故、一二艘ノ西舶モ亂妨ヲナスマジキニ非ズ、先年佛郞察ノ舟長崎ニテ猖藉セシコトモアリシナリ、其節諸侯番船徒ニ西舶ノ帆ヲ揚テ去ルヲ見物シテ居リシトナリ、一通リノ小舟ニテ巨熕ヲ架セシ大舶ヲ圍ミヲルコト、大膽トヤ申ベキ、愚痴トヤ申ベキ微塵ニ打碎レヌコトコソ、マダシモ仕合セナリ、ケ樣ナル時ハ隨分丈夫ナル小舟ヲ作リ、表ニ車臺又ハスリ臺ニテ、三四貫目餘ノ大熕ヲ架シ、竹束・板屋根ニテ敵ノ銃丸ノ汰リ去ル如ク圍ヒ、逆櫓ヲ設テ舟ノ横ヲ打レヌ如クシ、三丁モ離レテ圍ミ居ルベシ、小舟ノ表ハ方三尺計ニ過ズ、三丁ニテ方三尺ノ的ヲ打ハ、十八間ニテ三寸ノ的ヲ打ガ如シ、小筒ニテモ妙手ニ非ザレ

バ中ルコト能ハズ、マシテ大熕ニテハ絶テ中ルコトナシ、西舶ハ長サ二十間モアルコトナリ、是十八間ニテ横二間高サ三尺ノ的ヲ打ガ如シ、毎發必中ナリ、是舟二三十隻ニテ取圍バ、西舶豈ニ動コトヲ得ンヤ、サテ西洋ノ如キ大舶ハ一隻ヲ作ラバ必萬金ヲ費スベシ、先公儀ニ十隻計リモ作リ玉ヒ、大國ニハ一二隻、小國ニハ二三國モ組合テ一隻ヲ作ルベシ、八九十隻モ有バ日本ノ用ヲ達スベシ、東諸侯ノ舶ハ東海・松前・箱館邊ヨリ江戸ニ漕スル用トシ、北諸侯ノ舶ハ羽越ヨリ下關ニ漕スル用トスベシ、皆大熕ヲ架シ兵卒ヲ具テ、天文地理ニ達セシ人ヲ載セ、測量ノ道具ヲ備ヘ、毎舶公儀ヨリ目付一人ヲ差添玉ヒ、遠洋ニ漂流シテモ自由ニ歸ル樣ニスベシ、常ニハ運賃ヲ取テ造舶ノ用ニ供シ、非常ノ節ハ戰艦トスベシ、商賈ノ舟舶ハ裝載三百石位ヲ限リ、遠ク大洋ニ出ルヲ禁ズベシ、當今ノ如ク毎々漂流シテハ、第一ニハ國傷スベシ、第二ニハ必其中奸人有テ、我邦ノ情ヲ以テ尹夷魯西亞ニ輸ベシ、速ニ禁ゼザルベカラズ、是制已ニ備ラバ、西舶豈日本近所ニ近ヲ得ンヤ、當今ノ如ク西舶一隻來ラバ、一方騷動スルコト徒ニ人民ヲ疲ラカシ、無謀ノ甚シト謂ベシ、淸人尹夷アシラヒ不手際ユヱ、佛郞察・尹夷ナド詐謀ヲ以テ琉球ヲ動カシ交易ヲ求ントス、是交易ノミニ非ズ、伊斯波以亞人呂宋王ヲ詐テ、牛皮ニテ蓋フホドノ商館建ベシトテ願テ、牛皮數十枚續テ城堡ヲ築キ、是ヲ足ダマリトシテ終ニ呂宋ヲ取リシ、謀計アルベキコトナリ、薩侯ヨリ手當シ玉ヘバ、落度ハアルマジケレド、大舶ナクテハ急ニ軍兵ヲ遣ハスコトナラズ、若シ日本舶ニテ渡海セバ、西舶一隻洋中ニ待受バ、必ズ微塵ニ擊碎カルベシ、

薩ハ公儀ニ願ヒ、大舶二三隻造リ玉ハデ叶ハヌコトナリ

當時異國ト交易ハ先長崎ノミナリ、常ニ姦商ヲ禁ジ難キヲ以テ患トシ玉フ、是レ其制悪キ故也、唐物・蘭物皆封角(コリ)ノマヽ大坂ニ送リ、官庫ヲ置テ大坂ニテ入札セシメ玉ハヾ、姦濫ノ患ハ長ク止ムベシ、地下六萬兩ノ配分金ナドアリテ差支ルト、俗吏ハ申スヿモアルベケレド、其ハ如何トモ引易方有ベシ、譬バ大堰河ハ舟橋ヲ架シテ、往還ヲ利シ玉フベキコトナリ、島田・金谷二驛ノ人愁訴ニ由テ止メ玉フト聞ケリ、二驛ノ生業ハ別ニ仕方アルベシ、徒ニ二驛ヲ利セントテ、天下ノ人ヲ困シムルハ、經濟ノ策ナシト云ベシ、東海・東山・山陽・北陸其外ノ官道道路モ多ク平夷ナレバ、小車ヲ作リ、一馬又ハ二馬ニテ引セバ乘輿ニカユベシ、都下ニテモ諸侯ハ是ヲ用ユベシ、病人婦人ナドモ亦是車ニ乘ルベシ、箱根ナドノ如險路ハ諸侯舟分ノ車輪ヲ去テ、驛夫ニ舁スル如制スベシ、旅人モ皿駕ヲ用ユベシ、是ノ如クセバ六尺渡リモノナド申ス無頼ノ人、多ク都下ニ集ルヿナク、都下ノ風儀モ自ラ宜ナルベシ、上ニ申セシ石作リ、屋宅出來セバ、無頼ノ火消モ省カルベシ、都テ無頼ノ人都下ニ多ク集ルハ、制度ヨカラヌ故ナリ

諸侯獻上物トテ用ニモ立ヌ物ヲ献ジ、其御調ヘ甚ダ六ツカシクテ、動スレバ罪責アルハ、物徂徠論ジテ、宜ク有用ノ物ヲ貢セシムベシトイヘリ、是正論ナリ、宜ク用ヒ玉フベシ、且御當家ノ始貴クハアラセラルレド、先ヅ諸侯ト同列ナリ、執政ノ臣ハ皆陪臣ナリ、其陪臣ノ機嫌ヲトリテ賄賂ヲ贈ハ、能々關東御武威ノ盛ナルナリ、故ニ大坂已ニ亡テモ、上ヨリ大目ニ見玉ヒテ禁ジ玉ハザリシナリ、此

權宜ノ事ナレバ、宜ヲ計テ早ク止玉ベキニ、其風今ニ殘テ、獻上物ヲ必ズ後老中・若年寄其外ニモ遣ルナリ、諸侯ニモ其弊移リテ、立身又奉公ニ出ルトキ、家老・用人、其頭ニモ定リテ物ヲ遣ル、是絶テ有マジキ理ニテ、和漢共ニ例ナキコトナリ、速ニ禁ジ玉フベキコトナリ

本邦近來幕府ヨリ諸侯ニ至マデ、正夫人アリ妾媵アリ、其妾媵ト云モノ、諸侯ニ至テハ多ク筋目モナキ奉公人トテ、娼女ト異ナルコトナク、度々入レカヘモアルコトナリ、是ハ法制ヲ立玉ヒテ、大中小ノ國ニテ妾媵ノ數ヲ定メ、色ヲ以テ選モ妾ハアルベキコトナレド、京家又ハ御家人ノ輕キ人、諸侯ノ臣士人以上ノ女ヲ選ピ、公儀ニ屆ケテ一生モラヒ切ニ仕玉ヒ、初ヨリ格式ヲ立テ置、其生男女ノ子ハ公儀ニ御屆ケ申オキ、其内ノ出生ニアラズンバ繼嗣ヲ許シ玉フベカラズ、若姦詐冒昧ノコト有バ、重ク罪シ玉フベシ、公儀ニモ此ニ準ジテ、妾媵ノ筋目ハ諸侯ヨリモ一等貴キ人ヲ用ヒ玉フベシ

江戸近所ニ大學校ヲ立、内ニ三百諸侯ノ寮舍ヲ設クベシ、尤是ハ諸侯ニ地ヲ割付テ名々立シメ玉フベシ、幕府ノ公子又諸侯ノ子息十歳ニモ餘ラバ、皆學ニ入テ四書・五經以下歴史ヲ讀シメ、旁ラ軍學ヲ習ヒ、武藝ヲモ學バシメ玉フベシ、學問モ上ニ申セシ經史ノ講譯出來バ、只今ノ如クハ六カシカラジ、サテ三十歳以上人倫ノ道ヲモ知リ、治國ノ法ニモ達セシ後、始テ繼嗣ヲ許シ玉フベシ、格別ニ不肖ナルモノハ、評議ノ上是ヲ廢シ、次男ヲ立テ嗣トシ玉フベシ、父沒シテ子幼ナラバ、縁類ノ國ヨリ指圖シテ大夫ト共ニ邦ヲ治メシムベシ、又公儀ヨリモ大目付ノ正シキ人物ヲ遣シテ其國ヲ監セシムベシ、尤

公儀モ御幼年ノ間ハ、御三家御三卿打寄テ政ナシ玉フベシ、學校ニハ軍學ヲ置ベシ、是上ニ申セシ王室ノ學ニハナキコトナリ、本邦ノ兵學ト云モノ、皆慶・元太平ノ後ニ拵シモノナリ、甲州・越後・楠・大田ナド樣々ノ名アレドモ皆假託ニシテ、其實ハ一ナリ、實ハ甲越ノ戰法ヲモ能知ラヌ人ノ作リシナリ、物ノ用ニ立ベカラズ、且ツ今ノ戰ハ鐵炮ヲ第一ノ用トス、鐵炮渡テ程ナク天下太平セシユヱ、未ダ鐵炮ノ用ヲ盡サズ、唯足輕ニ與ヘテ軍鋒ヲ碎ノ用トセシノミナリ、專ラ槍ニテ勝負ヲ爭ヒシナリ、マシテ大熕ナドハ大坂陣ニ用ヒシノミナリ、織田信長ノ長篠ニテ用ヒシ大鐵砲ハ、定テ三四十目ノ鐵砲ナルベシ、大友宗麟臼杵ニ在テ、一擊ニテ薩人ヲ退ケシハ先ハ大熕ナリ、是波爾杜瓦兒國ヨリ送リシ者ニテ、今ニ臼杵城中ニ在リト聞ケリ、一ツハ一貫六百目位、一ツハ八百目位ナリ、サテ大坂地中ノ大熕モ未ダ手弱キコトナルベシ、天滿ノ寄手ハ大熕ヲ打レテ困シミシト聞ケリ、本藩モ天滿ニ陣シ玉フ、城中ヨリ打出セシ鉛丸公庫ニアリ、又人夫一ツ拾ヒ還テ井手八幡ニ納メ、今ニ社家ニアリ、徑リ四寸許リ、是二三貫目ノ大熕ナリ、若城中巨熕ノ用ヲ盡サバ、纔小川一筋ヲ隔テ土山築ズシテ、寄手豈天滿ニ軍スルコトヲエンヤ、砲術近來西州諸侯ニテ講究シ玉ヘバ、追々ハ精シクナリテ、西洋ニモ抗行スベシ、唯和漢ノ兵學ニ達シ、西法ニモ通ゼシ人々、新ニ兵法ヲ作リテ士人ニ敎ベキコトナリ、甲冑旗幟ノ制モ改ムベキコトナリ、只今ノ通リ大將ノ大旗ハ大熕ノ目當ニナルベシ、甚ダ以テ拙キコトナリ、總テ戰法ハ世々同ジカラヌモノナリ、本邦上古ハ弓矢・劍戟ヲ用ヒシナリ、伊弉諾尊八尺瓊利戟ア

リ、是未ダ鍛鐵ヲ知ラズ、瑪瑙ニテ磨リ立テシ手槍ナリ、大己貴ニ平國ノ矛アリ、大神宮以後鍛鐵ノ法モ興リシナリ、延喜式ニ槍制アリ、源平兵ヲ司リシ比ヨリ專ラ騎射ヲ用ユ、騎射ハ槍取ニ暇アラズ、故ニ刀ノミ用ヒシナリ、騎兵ノミ用ルハ軍勢ノ數甚ダ少シ、賴義・賴家、東征ノ將トシテ纔千騎許リ、南北朝ノ始ニ至テ、本邦一統ノ戰國トナル故騎馬給セズ、歩兵ヲモ用ヒシ故、槍再ビ用ヒラレテ、終ニ歩戰ノ利器トナル、鐵砲渡テ足輕ニノミ用ヒサセタレド、加藤清正ハ士人ニモ皆鐵砲ヲ持セタリト清正記ニ見エタリ、本藩兵庫ニ福島家ノ士人ノ背負鐵砲アリ、長サ二尺ニ滿タズ、四錢位ノ玉目ナリ、是ノ如キ豪傑ノ人、早ク戰ハ鐵砲ヲ利トスルヲ悟リタリ、今世ノ戰法ハ、士人ミナ鐵砲ヲ持ツ如ク組タツベキコトナリ

東潜夫論卷之上終

東潜夫論卷之中

覇府　第四

相撲ハ古ハ武技ノ一ナリ、近世ハ柔術ト云フモノ出來テ、人之要害ヲ扼シテ捽殺シ、又死活ノ術アリテ、相撲ノ及ブ所ニ非ズ、今ノ相撲トリハ關取ト稱スルモノ、献臺上ニアリテハ誠ニ勇壯ナレドモ、多ハ肥太リテ物ノ用ニ立ズ、且田舍ノ相撲取ハ、年老テハ必ズ碎方ト云モノトナル、夫ニモ及バヌモノハ、伯勞牛引トテ皆民俗ヲ破ル、吏治ノ妨トナルモノナリ、且勇壯ノ人ヲ何ノ役ニモ立ヌ相撲トリトナスモ、惜ムベキコトナリ、幕府ヨリ相撲ノ棚ヲ搆ヘテ、錢ヲ取ルコトヲ禁ジ玉ハヾ、立ロニ止ムベシ、少年ノ人ノ戯ニ相撲取ハ苦シカラヌコトナリ

都會ニ博奕ノ骰子、又カルタヲ鬻サグ人アリ、又盜人ノ壁ヲキリ鎖ヲ開ク道具ヲ作ル鍛工アリ、是ノ禁ナキハ何事ゾヤ、双六モ骰子ヲ用ヒテ、其骰子スグニ博奕ニ使フベキナレバ、同ジク禁ジ玉フベシ、官ニ碁師・象戯師アリ、無用ナル様ナレド、其技ニ於テハ天下ノ名人ナリ、是ヲ三都ニ分チ居ラシメ、掛碁・掛象戯ヲ禁ジ玉ハヾ、ヨク行届ベキナリ、大坂ニ米相場ト云コトアリ、天下ノ大博奕ナリ、是ヲ以テ産ヲ失フ人勝ゲテ數フベカラズ、是ニテ眞ノ米相場ヲ引立ルトハ僞ナリ、速ニ禁ズベシ、米相場

游女ナドノ何クニテモ自由ニ居レバコソ大都ナリ、禁ズベカラズト俗吏ノ得テ言コトナリ、其人相場ズキニ非ラズハ、賄賂トリト知ルベシ、富是マタ博奕ナリ、嚴ニ禁ジ玉フベシ、當時昔ヨリ定リヲル富ハ許シ玉ヒ、陰ゲ富ヲ嚴シク禁ジ玉フハ、己ハ赤裸ニナリテ人ノ赤裸ヲ咎ムルガ如シ、有ルマジキコトナリ

慶・元以來度々金幣ヲ改メ作リ玉フ、其度毎ニ夾雜多ク、金銀ノ位惡シクナルナリ、是ミナ官吏ノ官ノ窮乏ニ乘ジテ己ガ私欲ヲ逞スルナリ、新井白石ノ折焼柴ニ載セシ如ク、官五百萬兩ノ御益アレバ、其主司タル萩原近江守ハ七十萬兩ヌスミ、萩原ガ臣ハ五萬兩ヲ盗ミタリト、是官ノ利十分ノ一ハ奸吏ニ取ラル丶ナリ、且五百萬兩ノ御益トイフモノハ、實ノ御益ニアラズ、詐ヲ構テ下民ノ利ヲ奪取ルナリ、金銀ノ位アシクナレバ、諸色ノ價高クナリテ、是ガタメニ困ム者幾萬人ゾヤ、譬バ此ニ人アリ貧ヲ苦(クルシ)ムトキ、其奴此ニ誨ヘテ、隣ノ庫ヲ鑿チテ其金ヲ盗ム、十分ノ一ハ盗貨ニ其奴ニ與フベシ、惡名ハ盡ク其主人ニ歸スルガ如シ、宜ク天下ノ金幣ヲ收メテ、改メ鑄テ盡ク純金トナシ玉フベシ、然ルトキハ幕府元收メ玉ヒシ程ノ利ヲ失ヒ玉フベシ、是分銀鈔ヲ造リテ是ヲ補ヒ玉フベシ、引カヘ場ヲ三都ノ外、長崎・下關・兵庫・尾道・新潟・津輕・箱館・銚子其他要津ニ置テ銀カヘサセ玉フベシ、併シ此法能行レバ、格別引カヘニハ來ルマジキ也、サテ年々山出ノ金銀ニテ新幣ヲ制シ、後ニハ銀鈔ヲモ廢シ玉フベキナリ、或云、金幣モシ純質ナラバ、人是ヲ鑄消シテ地金トナスベシト、是一偏ナル論ナリ、今ノ世金幣ト地金

値高下大ニ異ナルハ、金幣ニ雜夾多ケレバナリ。金幣純質トナラバ、自然高下ノ異ハナキ樣ニナルベシ、人豈死刑ヲ犯シテ是ヲセンヤ、鐵錢砂碎シ易クシテ便ナラズ、是ヲ廢シ玉フベシ、鐵錢已ニ廢セバ、仙臺錢ハ禁ナクトモ、用ユル人アルマジ、銅鐵ノ價ヒ高下格別ナル故ナリ、今ハ仙臺領ニテモ此錢ニハ民間甚ダ迷惑スルナリ、且銅錢トハ價ヒ格別高下アリト聞ケリ、今民間ニテ銅錢。鐵錢同價ナルハ輕價ユヱ、人モシカト取ワケヌナリ、長ク行ハルルノ道ニハ非ザルナリ

前ニ言シ如ク、本邦上古ハ諸州ニ公田アリテ、其收納ヲ屯倉ニ納メテ公用トセシナリ、是制田ノ法ト略同ジカルベシ、サレド古ノ史籍簡ニシテ其詳ナルハ知ルベカラズ、諸國造ヲ召シテ朝臣トシ、郡縣ノ治トナシ玉ヒシ後ハ今ノ貢法ト同樣ナリ、但其年貢甚ダ少ク、十分ノ一バカリナリ、唐モ上古ハ今ノ年貢ノ取カタナリ、殷ヨリ井田四角ナル田ノ中ニ、井ノ字ヲ書ケバ九ニ分ルナリ、中ノ一ヲ公田トシ、周リノ八ヲ百姓自分ノ田トシ、八軒ノ者ヨリ合テ公田ヲ作リ、其收納ヲ盡ク上ニ差上ゲ、自分ノ田ハ作リ取ナリ、周ノ世ハ其法ヲ改メテ、公田トモニ九人前ヲ畝分セズ、一同ニ作リテ收納之上ニテ、九ニ分ケテ其一ヲ上ニ奉リ、其八ヲ八軒ニ分ルナリ、周ノ時殷ノ法ヲ改シハ、畝ヲ分テバ地ニ肥瘠アリテ平均ナラズ、又時代稍降テ民自分ノ田ノミ能作リテ、公田ハステ作リニセシナルベシ、サテ井田ハ但割合ヲ言シ者ニテ、古ノ田トテ皆四角ナルハナシ、今ノ世ハ周ノ法モ行フベカラズ、何ナレバ八軒ノ民出精。不精同ジカラネバ、物言ヒタユルコトナク、出精ノモノモ自ラ不精ト成ルベシ、當時ノ貢法

尤モヨシ、貢法ナレバトテ、凶年ニハ檢見赦免モ有コトニテ、急度定見ヲトルニモ非ズ、井田ノ當今ニ行ヒ難キハ、孟子ノ時ト二千年古今ノ違ヒアリテ、人情風俗大ニ異ナルユヱナリ、井田ニアラネバ、天下ハ治メラレヌ樣ニ思ハ、時勢ヲ知ラヌ俗儒ナリ、當時公料・私料トモ民其田ヲ賣コトヲ禁ズ、又禁ゼザル國モアリ、此禁トテモ出來ヌコトナリ、其故ハ人ニ貧富有ハ天然ノ勢ヒナリ、年貢モ出シ得ヌ時ハ、田ヲ賣テモ出サザルヲ得ズ、其上餓死シテモ、己ガ妻子ヲ賣テモ、田ヲ賣ルコトナラヌハ、天倫恩愛ノ道ニアラズ、百姓ノ田ヲ賣ル誠ニ美事ニアラズ、然レドモ賣ラデ叶ハヌ勢ヒアリ、故ニ公料ニモ年季賣ヲバ許シ玉ヘリ、年季ウリトハ、譬バ一段ノ田アリ、永代賣離セバ價十兩ナリ、今十年ヲ限リテ金三兩ヲ取テ田ヲ渡スナリ、十年ノ後元金ヲ戻セバ田ヲ還スナリ、然レドモ賣人ハ必ズ十兩ヲ得ント欲スルユヱ、金十兩受取テ年季證文ヲ作リ、金廿兩受取テ十年切ニ田ヲ渡ス由テ載セルナリ、是田トテモ廿兩ノ價ナケレバ、百年ヲ經テモ受還スベキ日ナシ、公料私料トモ田ヲ賣ルヲ禁ズル國ハ、皆是法ニテ賣買ヲスルナリ、勢ノ然シムルトコロニシテ、相談セズシテ一樣ニナルナリ、法令ノ禁ズル所ニ非ズ、或曰、百姓同士ノ賣買ヒハ禁ズベカラズ、豪商ナドノ田ヲ買コトヲ禁ズベシ、豪商又士人多ク田ヲ買フユヱ、何ノ國ニテモ負郭ノ田ハ甚ダ貴クシテ、百姓一タビ賣テハ又買コト能ハズ、多ク僑田ノミニテ業トスル也、是論誠ニ宜シケレドモ、是モ亦容易ニハナシ難カラン、田ヲ賣ルモノハ一兩ニテモ多ク金ヲ得ント欲スレバ、實ハ豪商ニ賣テカヘ名ヲコシラヘ、色々ノ姦詐ヲ構フベシ、宜

ク負郭無田ノ民ヲ遠方田多キ處ニ移スベシ、サテ其遷徙ノ費ハ豪商又ハ士人ノ田ヲ買タルモノニ高割ヲ出サスベシ、是ノ如クセバ、田ヲ買テモ作ル人ナク、自ラ買ザル樣ニナルベシ、王朝天下ヲ治メ玉ヒシトキ、百姓ノ田ヲ一町モチシモノハ、內三段ヲ永業田トシ、賣買ヲ許サズ、七段ヲ口分田トシ、賣買ヲ許シ給フ、ヨク行屆キタル樣ナレド、其弊アルコトハ同樣ナリ、且ツ田ノ賣買ヲタエテ許サネバ、不精ノ民ハ其田ヲ荒地トナシ、出精ノ民モ買コトナラネバ、國中多ク荒地トナルベシ、賣買ヲ許サバ貧富互ニ變遷シテ、田野マスマスヒラクベシ、是當今ノ形ナリ

公料私領トモ村正ノ宅ニハ、水帳トイフモノアリ、村中田畠ノ廣狹高免、並ニ田主ヲモ順々ニ精シク書キツケタリ、水帳トハ定メテ水ノ灌漑ニ從テ部ヲ分シユヱ、名ヅケタルナルベシ、但田ニ限ラズ、畠モ載セタリ、是ハ國初ヨリアリシモノナルベシ、然ドモ年久シクシテ岸カケ・川成・海成アリ、又新開發ノ地マジリテ、其上田畠ナリトテ畠ヲ田ニ直シ、畝町タホシトテ二枚ノ田ヲ合セテ、上ヲ平均シ一枚トナスナリ、是等農業出精家ノナスコトニテ畝モ廣クナリ、耕作モ致シヨクナルナリ、以上ノ事ミナ村正ニ告テ水帳ヲ改ムベキコトナリ、サレド水帳ハ急務ニ非ズト、村正モ百姓モ打棄オクガ故、甚ク混亂シテ明ナラズ、色々ノ奸詐モ是ヨリ出來ルナリ、故當時ノ水帳ハ一ツモ用立ズ、公料ナドハ別シテ埒モナク、水帳ナキ村モ多シト聞ケリ、サレバコソ前ニ論ゼシ通リ、納分モ諸侯ノ國ニ比シテハ甚ダ少ナキナリ、サテ水帳ヲ調テ田地ト引合セスルヲ坪押トイフ、志アル村正皆ナスコトナリ、檢地

トハ同ジカラズ、檢地ハ竿ヲ入レテ廣ケレバ、高免ヲモ增コトナリ、新田ハ格別、古田ヲ檢地スルコトハ、公儀ノ御免ナケレバ、諸侯モ擅ニナシ玉フコト能ハズ

公料私領トモ山附ノ村ニ荒畠甚ダ多シ、予是ヲ一村正ニ問フ、是ハ百姓兎角城下其外市町ノ方ニ遷リシニヤト、村正答テ、些シハ其理モアレド、全ク左ニアラズ、昔ノ百姓律義ニテ、山間墝埆ノ地ニモ粟・稗ヲ作リテ食物トセリ、今ハ百姓利口ニナリテ、骨折テ利少キコトハセズ、薪ヲウリ日傭ヲトリテ、米ヲ買テ食フ方ガ勝手ヨキ故、墝埆ノ地ミナ荒地ニナリタリ、今已ニ山林ニナリタル地ニモ年貢ヲ出スナリ、年貢出シテモ作ラヌ方ガ勝手ヨキトイヘリ、是ヨク事情ニ達セシ論ナリ、凡ソ耕作ニ畠ホド難儀ナルコトハナシ、力ヲ用ユルコト水田ニ三倍シ、獲ル所ハ半ニ及バズ、故ニ畠ノ多キ村ハ多ク困窮ナリ、故ニ治民ノ第一ハ水利ヲ通ジ、畠田ナリヲナスニ有リ、新田モ出來ルコトナレバ、永荒ノ山畠ハ見ハカラヒテ、年貢ヲ除クベキコトナリ、太平二百年民游逸ヲ好ムユヱ、山中ノ民ハ日日ニ減ジ、三都諸侯城下ノ民日日倍ス、是レ宜シカラヌコトナリ、山中ノ民口ハ百年ノ前ニ比スレバ已ニ半ヲ減ズ、山國ノ諸侯ナドハ甚ダ以テ迷惑スルコトナリ、是レハ三都並ニ諸都會諸侯城下ノ市、ミナ人戸ヲ限リテ限制ヲタツベキコトナリ、左モナケレバ偏ツリ合ニナリテ田畝荒シ、人民益困ムベシ、明智光秀權宜ノ計ニテ、京都ノ地子ヲ免ゼシヨリ、今諸侯ノ城下マデ商人ドモ自由ニ賣買シテ、自分ノ領地ノ如クス、是レタエテ有マジキコトナリ、先賢ノ論モ備リタリ、但シ上田ニ準ジテ租ヲ納メシメ玉ハ

バ、王都ソノ外侯國町家ノ租ヲ、前ニ申セバ王室ノ貢ニ充バ、別ニ取立ルニハ及ブマジキナリ天下ノ佛寺十萬ニ過グベシ、僧尼ノ數ハ數十萬人ニ及ブベシ、當時ノ僧徒學問スル人甚ダ少シ、ヤスキ學問ダニセネバ、釋氏ノ敎ノ如ク戒律ヲヨク守ル人ハ、千ニ一二モ得ガタシ、僧ト醫ハ學問セネバナラヌ者ナリ、然ドモ僧・醫トモニ學問出精スルコトナシ、余少キ時ヨリ文學ノ弟子多ク取リタルニ、醫ハ匕一本ニテ生業ヲスルモノユヱ、少シハ學問ヲ出精スルモノアリ、僧ハ兎角シテ師匠ノ讓ヲウケ、又空キ寺ノ主トモナレバ、生業モ出來スレバ別シテ不精ナリ、且ツ天敎ノ禁嚴ニシテ、編戶ノ民ヲ佛寺ニ割付常檀那トナシ玉ヒショリ。如何ナル名僧ニテモ檀那ノ增スコトモナク、愚僧ニテモ定レル檀家ハ離レヌ故、別シテ不精ニナリタルナリ、且ツ當時國家文明ニナリテ、富貴ノ人ハ子ドモヲ僧トナスコトナシ、只窮人ノ子ノミ寒餓ニ逼テ出家スルナリ、故ニ僧ノ人品益卑クナリテ、佛敎國家ノ益ニハナラズ、還テ害トナル樣ニナリタリ、眞宗ハ佛氏ノ道ニアリテハ其敎ニ背キタレド、父母妻子ハ元人倫ノ道ニシテ、其人柄却テ律義ナリ、禪宗ハ殊ニ人柄惡シク、和尙ハ格別、小僧ハ人ノ妻娘ヲ盜テカケ落チシ、人ノ資財ヲ盜テ逃レ去ルナリ、是空觀トテ世界ノ事ハ空ナリト見破リシ弊ト云フ人モアレド、實ハ行脚シテ佛寺ニ投宿シ、旅行ノコト容易ナルユヱナリ、他宗ハ投宿ナシガタキ故不埒モ稍少シ、然佛寺ニ投宿ヲ許スハ、元ト坐禪修學ノ爲ニハ甚ダ便利ナルコトニテ、他宗モ左モアルベキコトナリ、然ドモ事ノ大便利ナルハ、大害モアルコトナリ、是自然ノ理ナリ、且ツ今天下ノ寺數甚ダ過テ、田舍ノ

佛寺ハ檀那纔ニ三四十戸、甚シキハ十餘戸ナリ、名ハ僧トイヘド實ハ農戸ト同ジ、但田作シテ生業トナスナリ、深艸ノ元政ガ一禪寺ニ宿セシ詩ニ、但談ニ農桑ニ不レ談レ禪トハ誠ニ其實ヲ得タリト云ベシ、箇樣ノ僧徒豈學問ニ暇マアランヤ、宜ク天下ノ佛寺ヲ併セテ十分ノ一トシ、一寺ノ旦那千軒以上トナスベシ、佛寺ハ古ヘ村里ノ庠序ナリ、僧ハ其教官ナリ、豈今ノ如ク無賴ノ人ヲ居ラシムベケンヤ、必ズ家筋正シク學問アリテ、年四十以上ノ人廢不仕合ナドニ、今世ヲステント思フ人ニ出家ヲ許シ玉ヒ、度牒ヲ給シテ遵樂セシムベシ、五十以上ニモナリ、二百五十ノ戒律ヲ守リ、學問アル者ヲ一寺ノ住職トナスベシ、檀家千軒以上ナレバ檀施モ多ク、弟子ノ三人ヤ五人ハサシ置キ、學問モサセラルヽナリ、サテ朔望ニハ必ズ檀那ヲ集メテ說法スベシ、前方ノ講錄ヲ其所々ノ官廳ニ差出シテ、故障アルコトハサシ留ムベシ、說法ノ日ハ役人立合テ、喧嘩非禮ヲ禁ズベシ、尤モ白日ヲ以テシテ男女ノ席ヲ左右ニ分ツベシ、是ノ如クナシ玉ハバ、民間ノ教トモナリテ鴻益アルベシ、今ハ唯人ニ便ナリトテ、說法夜ヲ以テシ男女ノ席モ分タヌ故、說法ノ場男女淫奔ノ媒トナル、佛寺ノ數ハ十分ノ一トナルトモ、皆大寺トナリテ、學問アリテ行儀正シキ僧住職トナレバ、佛法興隆トモイフベシ、サテ毀チ棄テタル小寺ノ跡ニハ、小堂ヲ立テ本尊ヲ安ンジ、歲時ニ新ニ立タル大寺ヨリ僧ヲ遣ハシテ諷經セシムベシ、本山ヨリ金子分ケ前ナド云付ラルヽ時ハ、前方寺數ノ割合ヲ出銀セバ、本山モ障リアルマジ、眞宗ハ妻子モアルコトナレバ、本寺ニ召寄セテ寺家ト云モノナシ、又ハ多ク田地ヲ與テ御座ト云フモノニナスベシ、

本山ヨリ元一寺ノ跡ナレバ、格式モ一寺ノ並ニアシラヒ、官ヨリモ出産ノ路ヲ饒ニシタマハヾ、何ゾ故障ハアルマジキナリ

本邦太平二百年、封建ノ勢牢固ナレバ、內亂ノ患アルコトナシ、但慮ルベキハ外患ナリ、琉球蝦夷ハ屬國ナリ、叛亂スル程ノ勢ナル國ニハアラズ、異國ニテ尤近ハ朝鮮ナリ、然ドモ其人怯弱ニシテ、其上數百年以來、唐ニ傚テ文弱ヲ以テ國ヲ治ムレバ、絕テ外攘ノコトニ及バズ、次ニ近キハ淸ナリ、淸ハ女眞ヨリ出デ唐ヲ併セ、西北韃靼諸部ヲ降シ、其强大ナルコト世界一ナリ、女眞ノ兵ハ頗ル勇悍ナリ、然ドモ西洋ノ如ク海舶ノ利ニ習ハズ、且ツ其領地甚ダ廣ク、屢界目ノ亂アリ、元人ナドノ如ク、本邦マデモ寇センコトハ、絕テアルマジキコトナリ、又次ニ近キハ魯西亞ノ屬國ナリ、魯西亞モ强大ノ邦ニシテ淸朝ニ次ベシ、是ハ海航ヲヨクシテ、大熕モ習鍊セリ、然シテ土地淸朝ヨリモ廣ク、本國ヨリ蝦夷ト相對セシ韃靼ノ東極マデハ、日本道二千餘里アリ、其間荒地ノミニテ人民甚ダ少シ、往來タヤスカラズ、大軍ヲ行ルベカラズ、韃靼ノ北海ハ海路稍近ケレド、堅氷ハリツメ寒氣强ク、風北ヨリ來ルモノ暴急ニシテ、舟行ナリガタシ、西人但二三度通行セシノミナリ、サテ西ヨリ回リテモ、東ヨリ回リテモ、海路ミナ一萬里ニ過グ、是亦大軍ヲヤル可ラズ、且魯西亞兵六七十萬ニ過ズ、野戰ニ押出スハ三十萬ニ過ズト聞ケリ、又其國都兒格淸朝ト隣リ、二國ミナ强大ニシテ、都兒格ハ殊ニ仇讎ノ邦ニテ、地モ密ニ相接セリ、大軍ヲ一萬里ノ外ニ出サバ、譬ヒ勝利アリトモ、往來三四年ヲ經ルベ

シ、其國々ハ本國人ノタメニ奪ハルベシ、尤先年東海ノ水軍一萬八千人、兵舶七十餘隻アリシト云ヘリ、今ハ其數ニモ倍スベシ、然ドモ其水軍東海「ヲツアカムサスカ」ヨリ北亞墨利加マデ、數千里ノ間港港嶋嶋ニ分レテ、警固トナルコトナレバ、一ケ所五百人カ七百人ニ過ズ、此ヲ一所ニ集テ本邦ヲ攻ントセバ、跡ニ守リノ兵ナク、其邦忽チニ亂ルベシ、北亞墨利加西岸ノ人ハ疑ノ心フカク、魯西亞人ニ親附セズ、近來モ謀叛シテ、逗留ノ役人ヲ盡ク殺セシコトアリ、尤伊斯波以亞人ノ亞墨利加人ヲアシロウコト、刻薄殘忍ニシテ、或ハ大ナル長屋ヲ作リ、土人ヲ捕ヘオシコメテ仕事ヲ申付ケ、日ニ一度一寸出スノミナリ、故ニ土人畏レテ山中ニ逃レ入リ、透間ヲ窺ヒテ仇ヲナスコトアリト云リ、魯西亞人ハ務テ領分ヲ廣ムレバ、已ニ韃靼ノ東海マデモトリタレバ、　蝦夷。東海ノ島々ヲトルベキ管ナルニ、東海ノ島々ハ居人甚ダ少ク、トリテモ何ノ益ニモ立タヌ故、ソント峽ヲ渡リテ、北亞墨利加ノ漁東岸ヲ經略スルナリ、先年官ヨリ蝦夷ヲ開キ玉ヒシ時モ、蝦夷東海ノ島々ハ、一村土人七人ニ過ズ、場ナドモ仕立ガタキユヱ、棄テ開キ玉ハズトキケリ、西書ニ載スル所亦同ジ、當時東海ニ折々ヨスルハ尹夷ノ鯨舟、又ハ北亞墨利加ノ鯨舟ナリ、尹夷西洋中最モ水戰ニ習ヒ、海中大王トモ唱ヘラレシ國ナリ、舟艦水軍モ最モ多シト云ヘリ、然レドモ島國ニテ小國ナリ、地面ノ廣サハ日本位アルベケレド、人數ハ日本ノ半ナルベシ、軍勢ナドモ二三十萬ニ過ズ、其上天竺ノ南郡ヲ攻トリテ、屯戍ノ軍勢多ク入リ、其外ニモ處々屬國アリテ事多シ、日本ヲサルコト東西兩路ミナ一萬里餘ニテ、日本近所ニハ基

墓敷屬國モナシ、其上本國佛郎察ト海峽六七里ヲ隔、世々仇讐ノ國ナリ、「ナヲリヲン」以後暫和平セシカドモ、永久ヲ保スベキニ非ズ、本邦ヲ攻ルコト出來ベキコトニアラズ、北亞墨利加ハ寄合持ノ田舍國ニテ、尤凡卑ナル國ナリ、二國ノ舟江都東南ニ來ルモ、皆鯨トリノ舟ニテ畏ルニタラズ、然ドモ本邦清人ミナ舟艦ノ制ツタナク、水戰ノ備ナキヲ能シルユヱ、先年魯西亞人ノ蝦夷ヲ亂妨シ、英夷清朝ノ舟山ヲ亂妨セシ如ク、不埒ノ働ヲナスナリ、前已ニ論ゼシ如ク舟艦ノ制具ラバ、モシ亂妨ナドセバ、立ドコロニ虀粉スベシ、是後トテモ大軍ニテ攻來ルコトハ、トテモデキネドモ、一二艘ノ舟ニテモ亂妨スマジト云ハレズ、是日本ノ備ナキヲ知レバナリ、黑船一艘來レバトテ、數國ノ諸侯兵ヲ動スハ、徒ニ勞シテシカモ間ニ合ヌナリ、モシ西洋人實ニ本邦ヲ攻ント思ハヾ、今ノ如ク一二艘ノ舟ヲ海上ニツカハシ、五返モ十返モ本邦人ヲ騷ガシテ、是ヲ疲カラスベシ、日本人西洋ヲツヨキ國ト畏ル丶ハ間違ヒナリ、唯本邦舟艦ノ制虛脆ニシテ、炮術不鍛錬ユヱナリ、舟艦牢固ニシテ炮術鍛錬セバ、西洋人豈我軍ニ勝ツコトヲ得ンヤ、西洋ニテハ英夷ヲ尤器用ニテ勇悍ナリトス、西人ハスベテ氣根强ク、學問藝術ノ利方、固ニ我邦ノ及ブ所ニアラズ、然ドモ西人ハ氣根コソツヨケレ、甚ダ魯鈍ニシテ不器用ナルモノニテ、長崎ニテ日本大工ノ一日仕事ヲ三日ニテコソ仕上ルナリ、英夷ナドノ作リシ袂時計、其外箱類仕口ハナハダ不細工ニシテ、申サバ極不器用ナル人ノ砥草鮫ナドニテスリタテルガ如シ、通事ノハナシニ、和蘭字二十五字ナレド、字ヲ知タル人十人ニ一二人ニ過ズ、葛必丹醫者ハ終日學問シ

テ、纔ニ日本不學文盲ノ人ノゴトシ、其不學ノ人ハ何ゴトモ分ラヌナリ、學文セシ人モ魯鈍ナルユヱ、事ニ遇テハ頓智ナシト、長崎人是ヲ笑フト聞ケリ、東蝦夷ニテ日本人魯西亞ノ葛必丹以下十餘人生擒セシ時、魯西亞人ノハタラキ甚ダ手ヌルクシテ、蝦夷人ニハ迥ニ劣リタリトイヘリ、余西書ヲ讀ミ、窮理ノ說ナド細カナレド、精微ニシテ唯思慮ニカヽリ、算式道具ノ屆カヌトコロハ皆違ヒタリ、醫書ナド行屆キタル樣ナレド、經驗ノ書ヲ讀ニ、療治ハ仕損ジ甚ダ多シ、算術ナドモ甚ダ拙クシテ、手ギハナルコトナシ、英夷ハ刀ヲモ鍛ヘド、一尺ニスグレバ得キタハズト云ヘリ、是其人魯鈍ナルユヱナリ、故ニ近來ハ西人日本人ヲ稱美シテ、西洋第一ノ英夷モ及ブマジト言ト聞ケリ、然バ舟艦器械具ラバ、西洋ト水戰シテモ必ズ勝ベキナリ、明史ニモ和蘭人器械ハ犀利ナシ、其人ハ怯懦ニシテ、戰ハ常ニ敗北スト云ヘリ、却テ西人ハ遲鈍ニシテ蹻捷ナルコトナシ、其他國ヲ攻ルハ、ミナ火器ノ力ヲタノム、二百年前伊斯波尼亞人白露國ヲトル、大煩二位百六十人ニテ、國王三萬ノ師ヲ敗リ其國ヲ併セタリ、墨吉是可無双ノ大都ナルヲ、一葛必丹軍兵六百人ニテ是ヲ攻トリ、國王ヲ擒ニシタリ、南北亞墨利加豐饒ノ地ハ、盡ク伊斯波以亞ヨリ押領セシハ、皆大炮ノ利ヲ恃ミシナリ、近來ハ土人火器ヲ使ヒ覺エテ、大抵取リ還サレタリ、魯西亞ノ韃靼北部ヲ併セシモ又シカリ、韃靼ヨリ北亞墨利加西海岸、卅五度ヨリ七十五度マデ魯西亞ニ屬スレバ、一所ノ屯兵三百カ五百カニ過ギズ、緊要ノ大都五六千人ナリ、追々土人大炮ニ熟セバ、必ズトリ還サルベシトナリ、英夷ノ天竺南邊ヲ領セシモ、亦久有ノコトハ難カルベシ、

近來淸人尹夷幾ノ軍勢ニ困シミシモ、大熕ノ用ニ拙キユヱナリ、淸人南京北京ノ鐘磬ヲ收メ、六七貫目ノ大炮數千門ヲ鑄立テ、二十萬ノ軍ヲ發シテ、二三里モ外ヨリ大炮ニテ打スクムベシ、尹夷ノ大炮ハ一里トハ屆カズ、纔一二萬ノ軍勢過半大炮ニ擊殺サルベシ、隊伍亂レタルヲ待テ、滿洲ノ騎馬ニテ驅立バ、一人モ殘ラズ擊トルベシ、掛ルコトニモ心付スハ唐ハ千年以來詩文ヲ作リテ立身スルアシキ國法立チシユヱ、唐ノ學問ハ何ノ用ニモ立タズ、其學者ト名ヅケシ者、唯文ヲ書キテ立身シ、美ナル姿ニテモ抱ユベシト思フノミナリ、偶賢哲ノ士有テ、其習ニハ染ネドモ、一體ノ學風崩レタルユヱ、行屆カヌガチナリ、試ニ唐ノ書ヲ讀ムベシ、天文。地理ヨリ始メ、一向用立ヌ書ノミナリ、同ジ韃靼人ナガラ、淸人ノ軍學ハ吐蕃ニ及バズ、吐蕃ハ今杜兒格トイフ、唐ノ比マデハ唐近ク居タレド、二三百年以來西ニ移リテ多クノ國ヲ攻トリ、遂ニ西洋ニ攻入テ數百里ノ地ヲ併セ、都逸ノ都ヲモ數攻メ破リ、魯西亞ナドモ屢是ガタメニ困メラル、西人城堡烽火ヲ置テ備ユレド、屢攻敗ラレタリ、近來西人大熕ヲ善ク用ニ至テ、都兒格勝コト能ハザル樣ニナリシカバ、急ニ炮術ヲ講ジ戰法ヲ改テ、十年ノ間ニ又西洋ト抗行ス、是都兒格人ノ淸人ヨリ智ナルニ非ズ、其國西洋ト隣リテ、其戰法ヲ能知リタル故ナリ、本邦モ早ク炮術ヲ習ヒ、戰法ヲ改ムベキナリ、否バ必ズ淸人ノ敗アルベシ、先年以來銅•樟腦ヲ以テ和蘭人ノ蘇木•白砂糖ト交易シ玉フ、蘇木何ハノ益モナキ者ナリ、白砂糖モ近來多ク產ス、且唐ヨリモ來ル、唐ノモノ上品ナリ、和蘭ハ尤モ下品ニテ、本朝ノ產ニモ劣レリ、銅ヲ多ク與ヘ玉ッ故ニ本邦ノ用カクルト、源白石ノ玉事

ニ云ヘリ、近來銅ノ貴クナリタルニテ、其言ノ謬ザルヲシルベシ、樟木モ限リアルモノナレバ、後ニハ乏シクナルベシ、樟腦ハ和蘭ニテ製シテ反腦トシ、龍腦ニ代テ西洋諸國ノ用ニ達スルナリ、猶尹夷人清朝廣東ニテ茶ヲ買ヒ歸リ、其國ニ用テ餘リヲ諸國ニ賣ト同ジ、是交易大惣ナルコトニテ、金二千萬兩ニモ及ブベシ、易物ニ阿片ヲ買ヒ集テ持來リシユヱ、先年ノ亂モ興リシナリ、西人古ハ「コツヒイ」ト云フ木ノ實ヲ熬リテ漉瀑シテ用ヒ、又「ビール」トテ麥ニテ澁酸キ酒ノ如キモノヲ造リテ茶ノ代トス、ナレド一タビ茶ヲ飲テハ、是二者ハ味アシクテ飲レズト蘭書ニ云ヘリ、同書日本茶ノ風味ヨキヲホム、宜ク天下ニ命ジテ多ク茶ヲ造ラシメ、是ヲ易物トナシ玉フベシ、西洋モ廣キコトニテ、今ノ勢唐ノ茶ニテハ足ラザル樣ニナルベシ、茶ハ一年立ノ木ノ葉ユヱ、何ホド取テモ盡ルト云フコトハナカルベシ、唐人ニハ煠海參・鮫魚・鰭魚・串鮑・昆布・乾烏賊・紙傘ナド用玉フ、是ミナ年々産スル者ニテ盡ル期ナケレバ、ヨキ御易物ト云フベシ

寺澤侯先年自力ニテ南蠻ヲ伐コトヲ請ハレタリ、然ドモ其事終ニナラザリシナリ、南蠻トハ呂宋ヲ云フ、明季ヨリ伊斯波以亞人是ヲ押領セリ、其島ハ唐ノ東南ニアリテ、南「シンタナフ」ト云嶋ニ連リテハ、其地本邦ヨリハ餘程廣カルベシ、伊斯波以亞人ノ領セシハ北ノ端些シバカリナリ、其邦人口三百萬、百萬人ハ伊斯波以亞人ニ屬ス、二百萬人ハ屬セズト云ヘリ、其國都ノ軍兵八千人、皆黒色ノ土人ヲ用ユ、隨分勇氣ナレド、西洋人ニハ及バズト云リ、尤盡ク召ビ集レバ二萬人ハアリト云ヘリ、役人

モ多ク其地永住ナリ、偶ハ本國ヨリ遣ハセシモノアリ、皆不學文盲ニテ、冠服ノ違ヒタルノミニテ、其人柄ハ足輕軍卒ト同ジ、南ノ方海岸ニ栖メル人ハ劫盜ヲ業トシ、本國ヨリ大熕習錬ノ人ヲ呼寄テ、是ヲ攻レドモ克コトアタハズト云リ、近來淸朝ニ海賊ノ降參セシコトアリ、軍卒二千七八百人、大熕七十餘位アリ、此類ノ組猶多シト云ヘリ、淸人大ニ驚キ、斯ル海賊何ニ居スルヤト怪メリ、是即チ呂宋ノ南邊ノ島々ニ居テ、元ハ皆唐人ナリ、明ノ末ヨリ多クアルコトナリ、近來和蘭ノ本朝ニ來ル商船ニ、臺灣ノ邊ニテ大熕ヲ打カケシナドアリシハ、此輩ノナスコトナリ、明史ニ載セタル徐海陳東、サテハ鄭芝ナド皆此類ノ海賊ナリ、呂宋ニハ金銀以下產物豐饒ナレド、伊斯波以亞採用ヲ知ラズ、役人兵卒ノ給金モ本國ヨリ送ルナリ、唯北亞墨利加・墨吉是可・白露等ノ屬國ヨリ西行スル舟舶ノ便トスルナリ、スベテ伊斯波以亞ハ西洋ノ西邊ニ居テ、早ク諸國ニ通ジ、處々ニ屬國多ケレバ、萬事行屆ヌ國ニテ、魯西亞尹夷ナドノ如ク戰鬪ニモ勇ナラズ、近來尹夷ノ纔ノ軍兵ニ呂宋ヲ攻ラレテ、金子ヲ出シテ和ヲ乞タリト聞ケリ、本邦舟艦・炮術鍛錬セバ、西諸侯ノ師六七萬ヲ遣ハシテ是ヲ攻バ、立ドコロニ攻トルベシ、南「シンタナヲ」マデモ併セタラバ日本ヨリモ廣ク、南北ニテ產物豐饒ナレバ、其上ニテ四五ノ諸侯ヲ遷シテ是ヲ守ラシメ、日本ノ罪人ナド數萬人ヲ遷シテ新日本トシ、永ク本邦ノ援國トスベシ、是霸王ノ業ト云フベシ、豐國公ノ朝鮮ヲ攻メ玉ヒシ如ク拙キコトニ非ズ、朝鮮ハ地續キニテ、縱ヒ攻取リテモ、二十萬ノ兵ヲ置ズシテハ守リガタシ、呂宋ハ五六萬人モ兵ヲ置バ、誰モ手ザス人ハア

ルマジキナリ

東潛夫論卷之中終

東潛夫論卷之下

覇府　第五

日光ノ御廟壯麗天下ニ甲タリトイヘリ、是甚ダ宜シカラヌコトナリ、東照公節儉ノ御法ハ楠廷尉ニ比シ玉フベシ、嘗テ宣シハ、豐太閤ハ大氣ニテ人ヲモヨク使ヒ、勘忍モヨクシタル人ナリ、サレド餘リ大氣ナルユヱ、侈リノ勘忍破レタリト、豐公誠ニ豪侈ノ人ニテ、金銀ヲ夥シク貯ハヘ、二度マデ諸侯ニ金分（ワケ）ト申スコトヲ爲シ玉ヒ、逝去ノ後モ大阪ノ金銀甚富タリ、是ヲ道ヲモシラヌ軍學者ナドハ、神變不思議ノ人ナリトイヘリ、財利ヲ生ズルハ節儉ノ外他道ナシ、豐公ハ唯人ノ財ヲ奪トリ玉ヒシモノナリ、今一事ヲ以テ徴スベシ、新「イスハニヤ」ノ商舶暴風ニ逢テ、土佐ノ南邊ニ飄到セシトキ、一萬石ヲモツム大船滿載ノ財貨盡ク奪ヒトリ玉ヒ、舶ヲバ修理シテ、白米五百石、麪粉五百石ヲ賜ヒテ歸シタマヘリ、是豈有國者ノナストコロナランヤ、其後東照公ノ時ニ又々飄到セシニ、舶ヲ修理シ粮米ヲ與ヘ、貨財ヲバ一物モ殘ラズ歸シ玉ヘリ、是コソ眞ノ道トイフベケレ、西人モ御法ヲ仰ギテ、三歳ノ後御禮ノ爲ニ來朝シ、始テ遠鏡ヲ獻ジタリトイヘリ、天照大神ノ伊勢ノ廟ハ茅茨采椽ユヱ、二千年ノ久ヲ經テモ、兵亂ノ世ニモ人之ヲ犯スモノナシ、是欲スベキモノ其中ニナケレバナリ、秦ノ始皇

ノ驪山ノ墓、唯二代ニシテ項羽ニ掘崩サル、俗人ノ言ニ、日光ノ壯麗ハ其金銀ヲマサカノ時ノ軍用金ニナシ玉フベキ爲ナリトイヘリ、是飾リタル言葉ナリ、覇府ノ御威光盛ンナラバ、譬兵亂アリトモ、豈御先祖ノ廟ヲ毀テ軍用金トナシ玉フニ至ランヤ、御威光衰ヘバ敵人先其金ヲ取ベシ、カヽルコトヲナシ玉ハンヨリハ、東照公ノ黄金千枚宛ヲ鑄テ作リ玉ヒ、軍用ノ外他用ナカレト銘ジ玉ヒ、數多ノ大方銀（フンドウ）ヲ長ク貯ヘ玉ヒテコソ、神慮ニモカナフベシ、日光ノ壯麗ハ三代將軍ノトキ、アヤマツテ大猷ノ廟ヲ台徳公ノ廟ヨリ麗シク立タル故、不釣合ナリトテ新タニ台徳公ノ廟ヲ壯麗ニ立玉ヒシニ、日光又粗末ニテ釣合ズトテ立直シ玉ヒシユヱ、次第ニ華侈ニナリテ、終ニ今ノ如クナリタリトイヘリ、大猷ノ廟ヲ見ゴトニ立タルハ元過チナリ、速ニ毀テ粗末ニ立ベキコトナリ、過ヲカサネテ、サシモ恭儉ノ東照公ニ、豐國公モナシ玉ハヌ壯麗ノ廟ヲ立玉フハ、皆俗吏ノ心得違ヒニテ、神慮ニモ叶マジキコトナリ、京師豐公墓荒廢シテ碑板モナク、人ノ參詣モ許シ玉ハズ、大阪平定シテ暫毀徹シ玉ヒシハ、一時ノ權宜ナリ、今ハ宜祠廟ヲ立テ守祝ヲ置、知行ヲモ相應ニ寄附シ玉フベキコト、島田幽也カ日光ノ後世マデ廢毀セザルヲ欲セバ、日光ヲ壯麗ニセズトモ、豐國廟ヲ立玉フベシト云ルハ、至極ノ論ナリ、當時其言ヲ用ヒ玉ハザリシハ、猶慮ルコトアリシユヱナルベシ、今ハ何ノ御遠慮カアルベキ、王室ヲ除リニ防閑シ玉フト、皆時變ヲ知ザル俗吏ノ論ナリ、豐公ハ東照公ヲ待玉フコト誠ニ懇切ヲ盡シ玉ヘリ、妹氏ヲ以テ妻セ玉ヒシハ、一時權謀ニモアルベケレド、已ニ薨ニ臨テ天下ヲ二度マデ讓ラント言玉ヘ

リ、其德ステ玉フベキニ非ズ、大阪ヲ亡シ玉ヒシハ天下ヲ安ズルノ道ナレバ、別ニ論ズベキコトナリ、因テ云、豐公天下ヲ讓ラントシ玉ヒシハ、誠ニ天下ノ大度ニシテ、堯舜ハ聖德ヲ以テ、豐公ハ達見ヲ以ス、尋常英雄ノ及ブ所ニアラズ、但恨ラクハ學問シ玉ハヌユヱ、漢高ノ大將ニ拜スル小兒ヲ呼ガ如クノ失アリ、東照公豈受ケ玉フコトヲ得ンヤ、當時ノ豪傑爭デカ爭競セザラン、若天下ヲ讓リ玉ハヾ、先其段ヲ京師ニ奏シ、五攝家ノ内兩三公ヲ勅使ニ申受ケ玉ヒ、豐公モ病ヲ力メテ出席シ、勅使秀吉病氣差重リ、快復ノ程計リ難ク候ニ付、天下ノ政德川某ニ預ケ玉フ間、諸大名唯今迄秀吉ノ命ヲ受シ通リ其差圖ヲ受ベシ、尤今日ヨリ攝政關白ノ職ヲ授ケ玉フ段命ゼラルベシ、秀吉モ左樣命ゼラレ然ルベキ段、此ヲ申ス所ナリト申シ玉ヒ、豐公モ只今勅命ノ通リニ、以來ハ何モ德川殿差圖ヲ受玉フベシ、今日ヨリ西宮ニ移リテ、天下ノ政ヲ聞カルベシトナラバ、東照公モ受玉ザルヲ得ズ、豐國公ノ裔モ今ニ大諸侯トナルベキコトナリ

漢ノ文帝ノ肉刑ヲ除シハ婦人ノ仁ニシテ、眞ノ仁ニアラズト言コトハ、彼邦ノ儒者精シク論ジタリ、其言一々中レリ、文帝ヲ譽ルハ天下ノ事勢ヲ知ラヌ俗儒ノ論ナリ、先サシ當リ之ニテハ堯・舜・文王・周公ヨリモ文帝仁者ト云フナリ、肉刑實ハ早ク人ノ惡ヲ禁ジ、性命ヲ有ツコトヲ得、惡人少クナレバ、自ラ亂モ止ムナリ、肉刑ヲ禁ゼシハ、實ハ大赦ト同ジク善政ニ非ズ、本邦ニモ宮刑ト刖刑ハ有タキ者ナリ、當時ノ法ニ巾着切ナドハ手ニ黥シ、黥三ニ滿レバ死罪ニ處シ玉ト聞リ、誠ニ宜シキ御法ナレド、

古ヨリ黥ハ皆面ニスルコトナリ、是見エヤスキ爲ナリ、見エ易ケレバ人モ用心シ、又盜ニモナリ難キナリ、且巾着切位ニテ死罪モ憫ムベシ、黥二度ニ滿バ右足ヲ刖スベシ、刖トハ足ノ筋ヲキルコトナリ、足ノ筋ヲキレバ達者ナラヌナリ、盜ミハ達者ニ無テハナラヌ者ナリ、俗ニモ一日三十里ノ路ヲ歩ミ得ネバ、盜人ニハナラレヌト云ヘリ、凡盜押入剪徑人ヲ死傷シ、强奸ノ人倫ヲ破ルノ外ハ、先刖罪ニ處スベキナリ、今諸侯抔ノ追放ハ甚アシヽ、是ハ後ニ論ズベシ、淫放ノ人ノ人ノ妻ヲ竊ミ、人ノ家ヲミダリタル如キハ、必ズ宮刑ニ處スベシ、宮刑ハ陰莖ヲ斷ハ疵口重クシテアシヽ、睾丸ヲ切ベシ、陰莖ヲ斷モノハ猶淫慾ノ念アリ、睾丸ヲ斷モノハ慾念長ク止ム、疵口モ癒易シ、韃靼ノ馬ハ皆騸馬トテ睾丸ヲ斷ツ、慾念止テ益强壯ニナルナリ

當今ノ御法ニ三都御搆ヒ、又何ケ國御搆ヒナド云コト有、是ハ善法ニアラズ、皆遠島ニナシ玉ベシ、罪ノ輕重ハ島ノ遠近ニテ分ツベシ、諸侯ノ國モ西國ニテハ、薩摩・筑前ノ如キ封内絶島アル者ハ遠島ノ刑ヲ行ベシ、島近ケレバ自由ニ逃還リテ刑ニハナラズ、諸侯ノ國ノ遠島ハ舟送ノ資ヲソヘテ、江戸大阪ナドニ差出テ、公儀ヨリ島ニ遣ハシ玉フベキコトナリ、當時專行フ追放ハ元戰國ノ刑ナリ、今一統ノ世ニ當テ、惡人ヲ隣國ニ追ヤルベキ理ナシ、且是法ハシカト懲ラシメニモナラズ、三都御搆ナト云フコトモ追放ノ類ナリ、遠島ニモ至ラズ、追放ハ鞭刑ヲ以テ易ユベシ、是ハ五十モ百モ數ヲ定テ杖ニテ打コトナリ

火付ヲ逆罪ナドノ如ク火炙ニシ玉フハ過嚴ナリ、然ドモ當時ノ如ク都下大火事有テハ、左ナクテハ成ラヌナリ、上ニ述シ西洋ノ屋作ヲナシ玉ハヾ火付ハ成マジ、譬タマ〳〵ハ火ヲ付テ一軒ヤキテモ、何ノ用ニモ立マジ、火付タリトモ一通リノ死罪ニテ足ルベシ

旅行ノ人ハ武士ハ勿論、商人道者マデ皆其國官府ノ路引モチテ、關所又ハ海口ニテ改ムベシ、路引ナキ人ハ通スベカラズ、乞丐ハ其村里ヲ板ニ書シ官ノ燒印ヲナシ、故ナクバ其隷スル所ノ邦國ノ外ニ出スベカラズ、境ヲ踰タル者速ニ送リ還スベシ

諸侯　第六

本邦諸侯ハ仙臺尤大ナリ、封境長九十餘里、人口百五十萬ト云ヘバ、二百五十萬石ニモ過ベシ、加賀長門此ニ次グ、各百餘萬石ナリ、薩摩・肥後サテハ尾州ナリ、是ニ次グベシ、各七十萬石ナリ、是ノ如キ大諸侯ノ士卒二三萬モ有ランハ、城高池深廣ナラバ平城ニテモヨシ、士卒二三千ニ過ヌ小侯ハ、當時大炮ノ用備リテハ、山城ニアラネバ守リガタシ、山城モ二三丁以上獨立シテ、旁一里ノ內ニ高山ナキ地ニアラネバ用ヒ難シ、古名城ト號セシ所モ、大熕アリテハ多ク用ヒ難キナリ、已ヲ得ズバ高山ノ方ニ、雜樹ヲ幾重モ植テ礮攻ヲ遮ルベシ、且山城ハ水ナキヲ苦ム故ニ其得ガタキナリ

諸侯所替ト云コト止タラバ、士人皆土着スベシ、但勤役人ノミ城中ニ居ルベシ、楠廷尉ノ士三千八百人千早城中ニ居ル者百人ニ過ズト云ヘリ、土着スレバ人ミナ辛苦歩行ニナラヒテ、手足丈夫ニナリ、

其領分ノ百姓ヲ召連テ出ル故、軍勢モ今ノ世ニ倍スルナリ、一萬石ニ四百人ノ兵、土着ニアラズシテハ出來ズ、且人智勤儉ニナリテ華侈ノ弊ナシ、後醍醐帝隱岐ヲ出テ名和長年ヲ頼ミ玉ヒシニ、長年ハ一族ヲ集メテ酒宴シテアリシガ、卽坐甲冑ヲ着テ帝ヲ負ヒ奉リテ、宅西上リ一里アル高山ニ上リテ旗ヲ擧タリ、長年ハ當時ノ所レ謂大名ナリ、其豪勢是ノ如シ、立花宗茂十三載計ニテ立花家ノ養子トナリ玉ヒ、山中ヲ歩ミ玉ヒシニ、栗毬路ニ滿シカバ、是ヲトリ除ケヨト言玉ヒシニ、小野和泉ハ上大丈夫ナリシカ、栗毬何ゾ人ヲ傷ラントテ、掌ニノセ援碎キテ棄タリト云リ、古土着ノ士人皆シカリ、或曰、土着ノ武士ハ必地方取ナリ、地方取ハ小祿ノ士、凶年ニ遇バ皆無トナリテ、自ラノ費用ダニナシ、マシテ其民ヲ救フ能ハズ、又不肖ノ人平日モ百姓ヲトリカラスベシトイヘリ、此言實ニシカリ、然レドモ其民ノミ領主ニ割付玉ヒ年貢取立、凶年ノ賑濟ナドハ官ヨリナシ玉ヒ、領分ノ民ヲ使フモ歲ニ三日トカ五日トカ、カギリテ擅ニ使役スルコトヲ禁ズル樣ニ、其法如何トモ立ベシ

土着ハ大國ハ格別、二三萬石ノ小國ハ士人ヲ城下近ク、恰好ヨキ所ニ散居セシメテ、倉卒ノ召呼ニ備ベシ、尤盡ク爾ルニモアラズ、士人三分ノ一モ城下半里一里ノ所ニ居バ、餘ハ遠クテモ苦シカラズ

學校ヲ設ケ文武ノ藝ヲ敎ルハ、覇府ノ條ニモ言シコトナリ、當時ノ戰法已ニ立バ、空隙ノ地ニ有テ常ニ士卒ヲ調錬スベシ、ヨク調錬セネバ、士卒多クアレバ多クアルホド亂テ、多人數ノ用ナシ

覇府以下九位階已ニ立バ、諸侯ノ國ハ平日衣服ノ染色ニテ、貴賤ノ等ヲ明ニスベシ、町人百姓ニ至テ

モ混亂セヌ如ク、其別チ立ツベキナリ、然ル時ハ人自美服ヲ好マヌ如クナルベシ
諸侯ノ江戶留守居ホド不埒ナル者ハナシ、勤ト稱シテ其徒相與ニ靑樓ニ上リテ、主人ノ金ヲ使ヒ棄ル
ナリ、其古參ト云フ者ハ白衣ニナリテ、妓人ノ間ニ偃臥シ、新參ハ頗ル大國ノ臣、又ハ年輩人ニテモ、
上下ヲ衣テ次ノ間ニ侍坐シ、酒モ飮マヌナリ、サテ同ジ諸侯ノ臣下ナルニ、某ハ最早上下ヲバ免シテ
袴羽織ニスベシ、己ガ心ノ儘ニ取リ扱フ、無禮不法將軍御膝下ニアリテモ正シ玉ハズ、其問合セノ御
勤ト稱スル者ハ、徂徠ノ政談ニ言シ如ク、箸一本コケタル位ノコトナリ、尙留守居ノ病ハ政談ニ精シ
ク見エ、且世人ノ周ク知ル所ナリ、尤公儀ヨリモ深ク其弊ヲ知ロシメシテ、屢戒勅シ玉ヘド、其法制
ヨカラネバ、飯上ノ蠅ヲ逐ガ如シ、直ニ元ノ如クナルナリ、是ハ宜ク新令ヲ下シテ、永ク諸侯城使ト
云役ヲ止メ玉フベシ、事ノ輕重ニ隨テ、詰合家老用人ヲ御城ニハ出スベシ、着用衣服出仕時刻ナト樣
ナル瑣細ナルコトハ、家老用人ヨリ手紙ニテ月番御老中御用人ニ問合セ、手紙ニテ分ラヌコトハ、用
人往テ親ク公用人ニ尋ヌベシト申付玉フベシ、是ニテ十分スムコトナリ、公用人多クハ別ニ問合役人
ヲ立玉ヒテモヨシ、近ゴロ聞、白川侯ハ留守居ノ突合スベカラズ、何モ御老中ノ公用人ニ尋ヌベシト
臣下ニ云付玉ヘリト、是定テ致政ノ後心付セ玉ヒシナルベシ、左モナクバ必ズ法ヲ改メ玉フベシ、凡
留守居ノ病ハ公儀ヨリ改メ玉ハネバ、諸侯ノ力ニテハ、其臣下ナガラ仕方ナキナリ、大坂藏屋敷留守
居ト稱スル者アリ、御勤ト稱シテ遊女狂ヒスル江戶留守居ト同ジ金財ノ元ヲスルコト故、其費ス所益

多シ、又九十兩ノ拂ヲバ百兩ト請取ヲ書セテ十兩ヲ私シ、八十九匁ノ米ヲバ七十九匁ノ入札サセテ、十石賣レバ一貫目ノ銀ヲ盜ム、是ノ如ク手ノ觸ル所盜マズト云コトナシ、サテ銀主ノ金ヲ程ヨク借リ出セバ、踏潰シテ元モ利モ拂ハズ、結構ニシテ事情ヲモ知ラズ、家老ハ是ヲ勤功ナリトテ祿ヲモ增シ、格式ヲモ昇進サスルナリ、是大ニ笑ベキコトナリ、譬バ吾儕町人ノ物ヲ唯取ニセシコトモナケレバ、若童僕ヲ市ニ往シメテ、諸ノ入用ノ物買カヽリニセンニ、申遣ス程ノ物ハ借シ與ヘン、若節季ニ至リ一錢モ拂ズバ、明年ハ一束ノ紙一管ノ筆モ、錢ナクテハ與ユベカラズ、畢竟主人ノ顏ヲ潰セシニテ、更ニ童僕ノ勲功ニアラズ、サレバ右樣不埒ヲ行國ハ、銀主ニモ見限レテ、後ハ臣下ヲ養ベキ米穀モナク、公務ヲ勤ムベキ金子モナキ樣ニナリ行ナリ

今ノ世町人ヲ勝手向ノ役ニ使フ國多シ、是甚ダ宜シカラヌコトナリ、先ヅ財利ノ事モ國政ナリ、町人ニ賴ミテ國ヲ治ムベキ理ナシ、周禮ニ賈人アルハ、周禮ハ劉歆ガ僞作ニテ、武帝ノ時弘桑羊ガ事ナドヲ見テ捏シナルベシ、町人ハ利分ヲ表トシテ私多キ者ナリ、且利德ノ事ニハ幼少ヨリ馴テ、中々以テ士人ノ及ブ所ニアラズ、欺レテ盡ク國益ヲ盜マルヽナリ

覇府ノ條ニ言シ如ク、役人ノ下方ノ送物ヲ受ルハ、國初權宜ニ許シ玉ヒシコトニテ、早ク止メ玉フベキコトナリ、增シテ諸侯ノ國ニテハ、一籃ノ魚一筐之果モ受シメベカラズ、是皆賄賂ノ類ナリ、魚果ノ類利德ニハナラネドモ、已ニ其物ヲ受テハ、人情氣ノ毒ニ思フ心出來テ、必法ヲ枉グル樣ニナルナ

リ、且役先ニテ酒色ノ饗ニ與ルベカラズ、若止宿ナドセバ其費ヲ賜フベシ、俗ニ役人ノ下方ノ物ヲ受ルヲ役德ト云、役儀ハ元勤メ也、勤ニ利益アルベキ理ナシ、皆賄賂ナリ、役ヲ正直ニ勤ムレバ、昇進モシ加增モ賜ハルナリ、是コソ眞ノ役德ト謂フベシ

今ノ士人算術ヲ胥吏ノ事ナリトテ學バズ、珠算ハ誠ニ胥吏ノ事ナレド、筆執リモ又胥吏ノコトナリ、然レバトテ文字書ヌ人ハナシ、書數ハ六藝ノ內ニテ、算術シラヌ人ハ無筆ト同ジコトナリ、經國戰陣數ヲ知ラズシテハ行屆カヌコト多シ、士人スベテ數ヲ知ラヌ故、奸吏ヨク是ヲ知リテ、簿帳ヲ詐リ金銀ヲ盜ムコト、列國ミナ然ラヌハナシ、心ヲ付ベキコトナリ

當今二百六十餘ノ諸侯貧ヲ憂ザルハナシ、其國ノ政ヲ執モノ、御益スヂ御爲スヂナド云ヌハ少シ、然ドモ其國益貧ナルナリ、是其本ヲ知ザルニ由ル、諸侯ノ國大小異ナレドモ、大抵貢賦ノ半ヲ以テ公用ニ給シ、半ヲ以テ臣下ヲ祿ス、慶・元ノ頃ハ是ニテ事足リシナリ、近來ノ諸侯ハ多ク臣下ニ半祿、又ハ三分ノ二ヲ與フ、是古公用五千石アリシ國、六千六七百石ヨリ七千五百石マデヲ用ユルナリ、尤百年ノ昔ニ比スレバ山中荒地ナドモ出來、貢賦稍減ジタレドモ、其ハ二十分ノ一ニモ滿ズ、譬二十分ノ一トセバ、古公用五千石有シ者、六千一二百石ヨリ七千石マデ有ナリ、近來ノ諸侯ハ表向儉約ヲ主トシ玉ヒ、儀式ゴトモ皆殺ギステ玉フユヱ、何ゾ諸侯トテ廣大ナルコトモナシ、古五千石ニテ公用タリシ者、今六千石七千石ニテ足ザルハ、其故二ツアリ、其一ハ今ノ世ハ古ニ比シテハ事多シ、古一事ニテ

濟シモノ、三事モ四事モ有リ、毎事儉嗇ニシテモ、事多ケレバ物入多シ、其二ハ臣下ノ人私多キナリ、簿帳明ナラズ、出入ノ際散物多キナリ、御爲スギト唱ルモノ多ハ私ナリ、唯其本ニ反ルベキナリ、君ハ君ノ職ヲ守リ、大夫以下皆其職ヲ守リ、賄賂行レズ請謁通ゼズ、賞罰其當ヲ得バ、何ゾ財用ノ給セヌト云コトアルベキヤ、故ニ能治リタル國ニ貧ヲ困ムハナキナリ、去ル地ノ一富商嘗テ余ニ謂テ、僕ハ鹽藏鰤魚ヲ嗜ム、炙リテ下飯トナシタケレドモ、其モ得仕ラヌト云リ、余笑テ、子ハ是千金ノ家ナリ、鹽鰤一頭何程ノ貴キコトカアラン、得食ハズトハ何ノ故ニヤト言シ、其人答テ、僕ガ家手代番頭ヲ併テ二十餘人アリ、若シ一切ヅヽ食シテモ、鰤一頭ヲ用ユベシ、鰤一頭ノ價ヒ一貫文、是立ロニ錢一貫文ヲ費スナリ、若僕一人是ヲ食セバ、番頭手代怨ミ忿リテ、金銀又貨物ヲ巧ニヌスミテ榮耀食ヲスベシ、其費鰤ニ十倍セント云リ、是尤モナル心得ナリ、諸侯大厦廣堂ニ居玉ヒ、料理人賄ヒ方ヲ備テ珍羞ノ用ヲ享ケ、定レル妾・召使ナドハ、是諸侯ノアルベキコトナレバ、其臣下譬半祿ヲ賜トモ、爭カ是ヲ恨ミンヤ、ソレダニ有德ノ君ハ是ヲ減損シ玉フ、若無益ノ普請ヲナシ、法ニ過タル妾狂ヒヲナシ、便嬖ヲ集テ長夜ノ飲ヲナシ給ハバ、正シキ大夫ハ必諫爭スベシ、其モ聽給ハズバ、古ノ如ク三諫身退クト云樣ナル人ハ有難ケレド、多ハ退役又ハ隱居スベシ、其時何事ニヨラズ仰付ラレ、道々取計ル人代テ家老トナルベシ、其人下ノ者ニ向テハ以ノ外權高シテ、其君ノ己ヲ取扱フ如ク用人以下ヲ取扱ヒ、取ベキ者ハ一番ニ取リ、私欲我儘ヲ恣ニスベシ、用人以下モ亦其爲方ニナラヒテ、互ニ其下ヲ抑付ベ

シ、國人皆云ベシ、一統半知ニテ困窮ナルニ、殿様ハ榮耀ヲナシ給フ、家老殿ハ私慾我儘ヲシテ我輩ヲ嚴シク取リ扱フ、當時ハ盗ミセヌコソ損ナレト、一統私欲世界トナルナリ、然ルトキハ君ノ御費ハ千金ニシテ、國人ノ盗ム所ハ萬金ニモ過ベシ、是當時諸侯ノ困窮シ玉フ所ナリ

足利ノ末戰國ホド日本ノ亂レタルコトハナシ、是名敎ノ亂レシ故ナリ、季世ニ至テハ其女ヲ嫁スルハ、婿ヲ召ヨセテ是ヲ殺スガタメナリ、其男子ヲ養子ニヤルハ、養父ヲ殺シテ其國ヲ奪フタメナリ、其大將ト云ハ武田信玄・織田信長、サテハ松永彈正・明智光秀等ノ行ニテ見ルベシ、信玄ノ父ヲ逐ヒ子ヲ殺シ、信長ノ其女ヲ欺テ弟ヲ殺ハ、松永・明智ガ其君ヲ弑スルト格別換リタルコトハナシ、然ルヲ松永・明智ノミヲ大惡人ノ如ク言ヒシハ、元官途ノ上ニテ云シ議論ニテ、偏落ナルコトナク、光秀ガ母ヲ危地ニ陷レテ、人質トシテ終ニ殺サレタルハ、信長ヲ弑セシト換ルコトナシ、然ルニ信長ハ却テ其功ヲ賞シタリ、總テ信長ノ光秀ヲ暴虐ニ扱ヒシハ、或ハ光秀ノ信長ノ母堂照高院殿ニ密通スルト言ヒシ故、信長怒テカク扱ヒシト云ヘリ、降參セシ敵將ヲ殺シテ、光秀ガ母ヲ磔ニカケサセシモ是故ナルベシ、然ドモ光秀ガ罪ハ閨門曖昧ノ罪トテ、スベテカヽルヿハ同ジ家門ニテモ明ニ分ラヌ者ナリ、故ニ古ヨリ閨門曖昧ノコトニテハ人ヲ罪セヌ例ナリ、信長モ其事疑ハシクバ、光秀ヲ遠ケテ是ヲ要任ニ居ラシムベカラズ、光秀モカヽル嫌猜ヲ知ラバ、猶以テ其母ヲ人質ニハナルマジキヿトナリ、其母磔死セラレバ、速ニ自殺シ罪ヲ贖ベキコトナリ、信長聽察當時諸侯將ニ過タレド、不學ニシテ人倫ノ道ニ暗キ故、サホド不

埒ナル光秀ヲモ信任シテ、身弑セラレ國亡ビテ、終ニ天下ノ笑ヲ受タリ、豐公ノ大廳ヲ濱松ニ赴キ、其女ヲ省ミ玉ヘトテ天下ヲ安ゼシハ、光秀ガコトトハ大ニ異ナリ、惡シキコトニハ非ズ、或ハ云、東照公モ其子ヲ殺シ玉ヘリト、是誠ニ然リト雖ドモ、是ハ信長ニ逼ラレテ、餘儀ナクナシ玉ヒシニテ、其レダニ臣下ノ此ヲ奉ジテ逃去ルコトヲ欲シ玉ヘリ、サレド臣下其旨ヲ悟ラズシテ終ニ自殺シ玉ヘリ、戰國ノ武士剛果淸潔ニシテ、名士ノ節アルモノ甚ダ多シ、大將分ノ人ハ埒モナキ人ノミナリ、是レ實ハ小利ニハ迷ネド、大利ニハ迷ナリ、畠山重忠ハ誠ニ鎌倉ノ義士ナリ、然ルニ寺領ヲ押領セシトハ、誠ニ耻カシキコトナリ、謀反ノ心アリトハ聊カ武士ノ面目ナリトイヘリ、大笑スベキコトナリ、當時武人ノ取違ハ此ノ如シ、皆名敎ノ亂レシユヱナリ、故ニ亂世ニモ殊ニ學問アル人ヲ用ユベキコトナリ、但經史今ノ通ニテハ隙入テ、亂世ナドニハ學ビ難シ、早ク飜譯スベシ、戰國ノ世ハ器量アル士ハ皆戰鬪ニ用ヒテ、臆病ニテ役立ヌ者ヲ代官トシテ年貢ノ取立ヲシタリ、戰國事多キ故、代官ハ自ラ人ヲヤトヒテ助トス、是ヲ手代ト云、是レ唯年貢取立ノミニテ、敎導撫學ハ知ラヌナリ、其弊ヘ入テ公料ニ殘リテ、御代官所ハ先ヅ年貢取立計リニテ、敎導ノ官兵ノ威モナシ、故ニ公料ハ逋逃ノ淵藪トナル、諺ニモ埒モナキコトヲ公料ノ事トイヘリ、又其弊ノ諸侯ニ殘ル者ハ、凡財利ノ役ニハ多輕賤ヨリ立身シテ、學問モナク武藝モ知ヌ人ヲ用ユ、是前ニ言ヒシ如ク、算術ヲ胥吏ノコトナリトテ士人ハ學ハヌ故、勘定役ハ得セヌナリ、輕賤ヨリ歷上リシ人ハ、徒ニ利欲ヲ面トシテ、志操アル人少ナシ、竹山先

生ノ言ニ、學者トテ他ノコトハ格別俗人ト異ナルコトナシ、但淸廉一事ニ至テハ、格別ノ違ヒアリト云ヘリ、是極テ名言ナリ、學者ハ先ヅ利欲ト理義トハ別シテヨク見分テ、其上學問ニテ人ニモ用ヒラレ、金銀ノ威光ヲモ假ラヌ故ナルベシ、治民及ビ貢賦ハ國家第一ノ要務ナリ、輕賤ノ人ヲ用ユベキニ非ズ、必ズ學術アル士人ヲ用ユベシ、是治世ニモ學問ヲ用ユベキワケナリ

戰國ニハ武勇ヲ面トス、武勇ナレバ人ノ國ヲモ伐取ニス、故ニ武勇ノ士ハ小々ノ過モ赦サレ、臆病ナル人ハ扶持ニモハナレ、人ニモ比類セヌナリ、太平ノ世ハ領地限リテ費用多ケレバ、淸廉ニシテ盜ミセヌ人ヲ第一トスベシ、淸廉ノ士ハ小々ノ過ハ赦スベシ、貪汚ニシテ官物ヲ盜ミ、賄賂ヲ納ムルモノハ、其刑尤モ重カルベシ、戰國ノ陣頭ニテ逃走スル者ト同ジ、今ノ世大夫タル者貪汚ニシテ、官物ヲ盜ミシ人ヲ罰セヌハ、其故二ツアリ、一ニハ結搆ナル人ナリト言レテ、自分ノ惡事ヲ掩ニアリ、二ニハ素ヨリ其人ノ賄賂ヲ受ケシ故ナリ

荀子秦國ヲ譽テ、其朝ハ甚事少クシテ人モ居ラヌ如ク、役人諸役所ヨリ下ルモノ、役所門ヲ出デ直ニ己ガ家ニ還ル、路寄スル者ナシトイヘリ、是至極ノ見カタナリ、其朝ニ甚ダ事多キハ、大夫器量ナクシテ、事ニ泥ミ事ヲ見ルコト明ナラズ、故ニ下方ヨリ多ク嘗試ノ說ヲ言出ル故ナリ、諸役人ノ役所ノ門ヨリ出デ、多ク連立チ處々ニ行ハ、極テ亂レタル國ナリ、スベテ諸役人連立テ遊山シ、酒ニテモ飲アルヲ必大奸曲アリト知ルベシ、其國ノ大臣ハ殊ノ外貪シク、小吏ノ家多ク富タルハ亂國ナリ、上タル

人節儉ノ行ヒナク、家老人愚蒙ニシテ、財利ノ下ニ漏ルヲシラザルナリ、子遊澹臺滅明ヲ稱シテ、公事ニアラザレバ己ガ家ニ來ルコトナシト云ヘリ、是滅明ノミナラズ、子游ノ賢モ知ラルヽナリ、下役タルモノ公事ニ非ズシテ屢其家ニ出入シ、酒宴ノ席ナドニ列スルハ亂國ナリ、町人ナド心易ク出入スルハ尤モアシキナリ、スベテ大夫ノ家ニハ僧道士、其他技藝ノ人モ出入セヌ方ガヨシ、出入シテヨキハ學文經濟ノ士、サテハ武藝ニ達セシ端人ナリ、學文モ詩書畫ノミナス人、武藝モ不埒ニシテ人柄アシキ人ハ、出入ヲ許スベカラズ

諸侯ノ國地利ヲ盡スハヨシ、商賣ノコトハナスベカラズ、地利ヲ盡ストハ、瘠土ニハ松ヲ種、水濕ノ地ニハ杉ヲ植、又ハ烏桕・楮ナド仕立ルコトナリ、金坑ヲ開キ鹽田ヲ作ルハ、地中ニ產スル物ナレド、人力ヲ費スコト多ク精細ナラネバ、損失アルノミナラズ、種々ノ病生ズルナリ、俗ニ精ヲ入レヌコトヲ御勤ト云フ、商賣自分ノタメニ十分出精シテ、時トシテハ損失アリ、況ヤ御勤心ニテナサバ、豈利益アランヤ、第一ハ國體ヲ失ヒテ、第二ニハ大損失アルナリ、尤モ蝦夷地ナドニ漁獵ヲ開キ金礦ヲ開カバ、其出ストコロ甚ダ多ク、且五穀ヲ產セヌ國ナレバ、是ヲ以テ耕作ニ代ユルナリ

近年覇府又諸侯ニモ、大賓客又ハ御法事等ニモ、町ウケト云コトナリ、是松平伊豆侯公儀ノ御法事ヲ町受ニナシ玉ヒシヨリ始リシナリ、御法事町受ニナシ玉ヒシコト、酒井讚州侯ノ世子ハ唐本ヲモ能讀ミ玉ヒシ位ノ御人ナルガ、伊豆守ガムサキ仕方ト是ヲ論ジ玉ヒシ故、讚州侯ヨンドコロナク世子ヲ安房

ニ流シ、安房ニテ沒シ玉ヒシト聞ケリ、世子ノ言正義ニテ、都テ覇府諸侯御自身ハ庖人ヲ置キ、珍羞ニ飽キ玉ヒテ、タマ〳〵御先祖ノ法事町人ニ任セ玉ハンコト、豈聖人ノ道ナランヤ、凡賓客ノ饗應ヲ町ウケニスルモ失禮ナリ、豆州ハ俗ニ言小利口ニテ、聖人ノ道ヲ知リ玉ハズ、故ニナシ玉フコト皆僻事ニシテ眞ノ道ニ叶ハズ、豆州ノ才ニテカクアリシハ、全ク不學ノ過チナリ、何ナレバ町受ハ細工人・庖人其他役夫ミナ賃錢ナクテハ叶ハズ、野菜・魚類買上ズシテハ叶ハズ、公儀・諸侯ハ諸役人アリテ、野菜・魚類ハ下方ヨリ給スルワケモ有リ、物入ノ多キハ飲食セマジキ人飲食シ、何事モ屑越（ザツハ）ニスルユエナリ、掛リノ役人淸廉ノ人ヲ用ヒ、事々行屆キナバ、町受三ケ一ニテ費用ハ足ルベシ

儉約ト云コトハ當時諸侯ノ流行リ言バナリ、隨分金財ヲバ相應ニ儉約スル國モアルナリ、然ドモ事ヲ省クコトヲ知ラズ、當時諸侯ノ國、文事ニモ非ズ、武備ニモ非ズ、昔ヨリ仕來リシコト甚ダ多シ、其一二ヲ擧ゲバ、謳初メ、鼓初メ、舟乘リ初メ、鷹狩初メ、此等ノコト初メミナ益ナキコトナリ、次ニ番警固入ラヌ處ニ甚ダ多シ、先儒ノ言シ如ク出行ノ鹵簿モ、大勢ニシテ軍陣ノ備ノ如シ、是類ノコト皆幕府ヨリ殺ギステ玉フベシ、連歌師・碁打・將棊指何ノ用カアラン、皆省クベキ役ナリ、畫工ナドモ寫眞形畫ハ用アリ、水墨破筆ハ國家ノ用ニタヽズ、官ノ畫師ニハ此ヲ禁ジ玉フベキコトナリ

醫師ヲ俳優ヲ以テ遇スルハ甚ダ惡シ、上俳優ヲ以テ遇スレバ、下マタ俳優ヲ以テ自ラ居ル、後ハ俳優ノ藥ヲ劫シテ、非劫ノ死ヲナスベキコトナリ

天下ノコトハ大小ニ由ラズ、一己ニテハ出來ヌ者ナリ、第一輔翼ノ人ヲ求ムベシ、孔子ノ汝人ヲ得タリヤト宣ヒ、孟子訑々ノ聲音顏色人ヲ千里ノ外ニ拒トハ、誠ニ聖賢ノ拔ケ目ナキ至言ナリ、役人タル者第一ノ心得ナリ、余嘗テイヘルハ、此ニ事之處スベキアリ、役人ノ考ヘシハ十分ヨキナリ、此ヲ其事ヲ司ドリシ人ニ問ニ、其人ノ仕方七分計リニシテ十分ナラズ、若シ押テ己ガ仕方ヲ云付ルトキハ、元其人ノ能分ラヌ仕事ニテ出來カネ、其上己ガ評議ヲ細ケシヲ怒テ出精セズ、出來ネバ其過ヲ上ニ諉スルナリ、是故ニ十分ノ利方忽チ七分トナル、其人見識ノ七分ニ言付レバ、己ガ策ノ用ヒラレタルコトヲ喜ビ出精シ、且素自ラ工夫セシコト故、能分リテ出キモヨキナリ、是故七分忽チ十分トナル、故ニ上タル人ハカヽル時ハ、下方七分ノ評議ヲ取リテ、其屆ヌ所計リ加ヘ、且惡キ處ヲ改テ、餘ハ其言ニ從フベシ、是レ舜ノ人ニ取テ善ヲナスト謂者ナリ

肥後嘗テ太宰春臺ヲ聘ス、春臺曰、政ヲナサシメ玉ハヾ十人扶持ニテモ往ベシ、但文學ノ任ナラバ千石ニテモ往ズトテ、終ニ事止ミタリ、蘭室先生此事ヲ語リ玉ヒテ、肥藩幸ニ春臺ヲ用ヒ玉ハズ、若用ヒ玉ハヾ取モ直サズ日本ノ王安石ナルベシト云ヒ玉ヘリ、安石モ學博行正、文章天下ニ秀タレバ、翰林學士トナシ玉バ東坡ノ上ニ出ベシ、唯丞相ノ才ニ非レバ、執拗ニシテ人ノ善ヲ用ザル故ナリ、惜ベキノ至ナリ

是隨筆王室・覇府・諸侯ト分チタレド、其コト互ニ相通ズベキモノ甚ダ多シ、且ツ踈謬ノ質毫コレニ及

ビ一ヲ挂テ萬ヲ漏ス、覧者サイハイニ亮ニシ玉ヘ

東潛夫論卷之下　終

西藩田租考

伊地知季安著

西藩田租考上

目次

西藩田租考卷上

鹿府　平季安私撰

井田第一

夫理レ國者、先務二其本一、高以レ下爲レ基、民以レ食爲レ天、書云、民惟邦本、本固邦寧、程子云、其固レ本在二於安下民、故班史亦理レ民之道、地箸爲レ本、（謂二民安レ土）建レ步立レ畝、必正二其經界一云、何謂二經界一、治レ地分レ田、溝塗封植、經二畫其界一、若不レ脩レ之、田無二定分一、豪強兼併、賦無二定法一、貪暴多取、是故古者農師監レ之、田畯董レ之、都無二游民一、室無二縣耜一、夫必親耕婦必親績、黎民時雍、降レ福孔偕、致二民殷富一、若又反レ之、一人不レ耕、則天下有下受二其飢一者上矣、一女不レ績、則天下有下受二其寒一者上矣、民事豈其可レ不レ重乎、孟子反レ本說、亦惟言下仁政自二經界一始上、而叮嚀反覆、皆莫レ不二是意一矣也、抑田畝制、隨レ世異レ制、古者三代、六尺爲レ步、商以二五尺一爲レ步、（即魯般尺、尺當二此方曲尺玖寸壹分陸釐漆毫有奇一）周制八尺爲レ步、（當二魯般尺伍尺參寸參分參毫強一云）至二秦始皇一、六尺爲レ步、（亦魯般尺五尺）司馬法亦六尺爲レ步、步百爲レ畝、王制以二周尺六尺四寸一爲レ步、疏云、步百爲レ畝、長一百步、濶一百步、註云、古者八寸爲レ尺、以二周尺八寸一爲レ步、則有二六尺四寸一、今以二周尺六尺四寸爲レ步、則一步有二五尺二寸一云、若二夫路程一、則六尺爲レ步、三百步爲レ里、又方一里、計十二

萬九千六百步也、或曰、三百六十步爲二一里一、可三以知二其不二一同一也、夏之民一夫耕二五十畝一、每レ夫計二其五畝之入一、上二送於官一、謂二之貢法一、然有二遊豫一、視二其豐凶一、以補二助之一、亦傳二夏諺一、商人始爲二井田之制一、以二六百三十畝之地一、畫爲二九區一、區七十畝、中爲二公田一、外面八家、各受二一區七十畝一、以合二其力一、助二耕公田一、於二其七十畝一爲二廬舍一、則一夫所レ助、各當二七畝一、而不三復稅二其私田一、一說、井田始二於黃帝一、經界如二井字一、後世因號爲二井田一云、周時方里而井、井九百畝、一夫一婦受二私田百畝一、以二公田十畝一、徹二十外之一一、是爲二八百八十畝一、餘二二十畝一、以爲二廬舍一、八家分レ之、各受二二畝半一、皆在二廬田一、而受二邑宅一亦如レ之、通爲二五畝之宅一、春夏居レ廬、秋冬居レ宅、其耕也通レ力、收也計レ畝、必遣二司稼一巡レ野觀レ稼、（疑當稽誤）以二年上下一定二之歛法一、而其貢輕二於什一一矣、孟子所レ謂、夏后氏五十而貢、殷人七十而助、周人百畝而徹、其實皆什一云、雖二法少異一、言下其所二通率一、不上レ離二什一一也、其三代授レ田不レ同、則以下禹平二水土一、沿二歷商周一、而田寖闢上故也、一說、歷レ世民漸稀、故受レ田隨多、或云、文稍勝レ質、政亦急煩、遂至二盡稅一、此等說皆應レ有レ據焉、但其易レ代疆理更制、先儒既疑、煩擾動レ衆、況如二我藩一、山林陵麓、尖斜折方、縱令三禹來制二之井田一、安得下能用二溝洫法一、齊整分畫上乎、惟潤二澤之一、則莫レ如下師二其意一、而逐二地勢一、絕レ長補レ短、計二約數畝一、以正二其分授一、貢助行二合於人情一、得中簡易之活法上而已矣、蓋孟子時、井田之法既廢矣、暴君去レ籍、然猶未三敢易二其名一也、至二秦商鞅一、鑿二開阡陌一、始蕩然盡泯二其迹一、而任二民所レ耕、不レ計二多少一、隨レ所レ佔田一、以制二之賦一、然而六國之時、有下闢二阡陌一者上、則或以二六尺四寸一爲レ步、或以二六尺一

爲レ步、或依レ舊八尺爲レ步、各國異レ制、秦孝公當ニ周顯王三十五年時一、自革ニ田制一、以ニ二百四十步一爲レ畝、後漢趙氏說異レ之同 於レ是乎至ニ始皇幷ニ天下一、乃遂一槩以ニ六尺一爲レ步、漢魏晉皆因レ之、故漢志、六尺爲レ步、百步爲レ畝、或作レ畮、畞同 百畝爲レ夫云之類是也、夫卽頃、而因ニ一夫一婦佃田一得ニ其名一云、至レ唐變レ制、則六典曰、凡天下之田、五尺爲レ步、金謂ニ之營造尺一 二百有四十步卽其長也、濶一步、爲レ畝、百畝爲レ頃、金清因レ之、但清方一弓爲レ步、當ニ此方曲尺伍尺五寸一、故今清壹畝當ニ此方伍畝柒分貳釐柒毫一 而畝步名、猶因ニ古制一、故其地實異ニ廣狹一、則宋程頤曰、古者百畝止當ニ今之四十畝一、今之百畝、當ニ古之二百五十畝一、趙氏曰、古以ニ百步一爲レ畝、今以ニ二百四十步一爲レ畝、古百步、當ニ今之四十一畝一、金仁山亦云、古所レ謂畝、卽今田疇、濶一步。長百步、以レ尺計則其廣六尺、長六百尺、以ニ今大步一計レ之、則古百畝、當ニ今四十一畝一、而古者二畝半、當ニ今一畝十步一云、據レ此程說猶似レ未レ覈、唐後田制、宋及金清亦世因レ之、如ニ我本邦一、則因ニ唐尺一、別始ニ田制一、語在ニ班田篇一、而今曲尺、卽唐大尺者云、而所レ謂周尺、八寸 校ニ之唐尺一、當ニ柒寸貳分弱一、而壹畝當ニ今伍畝拾陸步有奇一、一頃當ニ今伍町伍段伍畝拾陸步一、如ニ其校考一、詳見ニ度量考一、可ニ併觀一焉

授田第二

周制授田、凡上田夫百畝、中田夫二畝、下田夫三百畝、班史從レ之、土有ニ肥磽高低之善惡一、歲耕種者爲ニ不易上田一、不易謂ニ一歲一墾一、休一歲者爲ニ一易中田一、一易謂ニ二歲一墾一、休二歲者爲ニ再易下田一、再易謂ニ三歲一墾一、肥磽不レ得ニ獨樂一、磽埆不レ得ニ獨苦一、三歲更ニ耕之一、換ニ易其處一、而其農民、則上地家八人、

中地家六人、下地家五人、（孟子所謂上農夫食九人、其次食八人、其次食七人、則其言民務農之勤怠云）戶口受田、雖均百畝、然其家子弟之衆、或食不足、而力有餘、是爲餘夫、其餘夫亦以口受田、各二十五畮、其家既受田百畝、而又予百畝、則彼力有所不逮矣、故其田四分農夫之一云、上地夫一廛、田百畮萊五十畮（禮言上地田百畮、萊半之同此）中地夫一廛、田百畮萊百畝、（禮言中地二十五畝、萊亦二十五畝）下地夫廛、田百畮萊三百畝、（亦言下地二十五畝、萊五十畝）並餘夫受之亦如此、不但餘夫、士工商家受田五口、乃當農夫一人、此謂平士、可以爲法者也、若山林藪澤、原陸淳鹵（不生五穀）之地、各以肥磽多少爲差、或近城市、田地膏腴、重於郊外、而各損益、有賦有稅、稅謂公田什一、及工商衡虞之入也、賦謂計口發財也、工有技巧之作、商有行販之利、衡虞取山澤之財產、則小墾殖亦取其稅也、而有君子焉、有野人焉、無君子莫治野人、無野人莫養君子、分田以給野人、制祿以待君子、故其賦供車馬兵甲士徒之役、充實府庫賜予之用、稅給郊社宗廟百神之祀、天子奉養、百官祿食庶事之費、民年二十受田、六十歸田、七十以上上所養也、十歲以下上所長也、十一以上上所強也、強謂勸之令習事也、得時種穀、以雜五種、（種即五穀）以備災害、中不得有樹以妨五穀、五穀朱註、謂稻黍稷麥菽、（吳氏□□曰或、是本相說、或云、禾麻粟麥豆、或云、黍稷麻麥豆、金仁山曰、朱註、五穀用周禮九穀之數、而五之也、其說、黍稷稻粱、稱夫四穀、皆有稱、安有獨出一條、然古人重黍、次亦重粱、粱今粟也、當曰黍稷稻粱麥、又事類云以三穀言爲稻粱菽、以五穀言、爲麻黍稷麥豆、以六穀言爲稻黍稷粱麥瓜、以九穀言、爲稷秫黍稻麻大小豆大小麥、以百穀言、包舉三穀各二十種、爲六十、蔬果之實助穀者各二十者云）種曰稼、斂曰穡、力耕數耘、收穫如寇盜之至、環廬樹桑、菜茹有畦、瓜瓠果蓏、殖於疆埸、雞豚狗彘、毋失其時、女修蠶織、則五十可以衣帛、七十可以食肉、三年耕則餘一年之蓄、農事勤怠、

三年可レ觀、故三載考レ績、九年耕餘ニ三年之食一、進レ業曰レ登、故三考黜陟、再登曰レ平、餘ニ六年食一、三登曰レ大、平二十七載餘ニ九年食一、故以ニ三十年之通一、量レ入以爲レ出、雖レ有ニ旱乾水溢一、民無ニ菜色一、至德流洽、在レ野曰レ廬、在レ邑曰レ宅、五家爲レ鄰、（或比）五隣爲レ閭、（或里）四閭爲レ族、五族爲レ黨、五黨爲レ州、五州爲レ鄉、鄉萬二千五百戶也、於レ里有レ序、於レ鄉有レ庠、而夏曰レ校、殷曰レ序、周曰レ庠、雖ニ各異下名、皆爲ニ鄉學一、使下致仕大夫有ニ德行一者、教中明倫於其農隙上、而國學則三代共レ之、其所三以明ニ人倫一者、上下皆同、然後所レ謂人倫明ニ於上一、小民親ニ於下一、禮樂之化、於レ是乎可レ觀レ成焉、苟從レ政者、不レ可レ不下講究而爲中法則上焉矣

班田第三

原夫我本邦田畝制、亦多ニ沿革一矣、推古帝十六年、聖德太子既通ニ于學一、遣ニ高向漢人玄理、（或作ニ高向博士黑麻呂一亦此人）新漢人僧旻等八人一、往ニ學于隋一、時隋亡唐興、旻等在レ唐、二十餘年暨下舒明帝遣ニ三田耜等一使ニ於唐一、唐太宗遣ニ高表仁一送中歸之上、旻等還レ自ニ唐學一、玄理等猶留三十餘年、而歸ニ于帝之十二年一、皆以ニ博物一聞、暨ニ孝德帝立一、乃以ニ旻與ニ玄理一、爲ニ國博士一、大化元年（八月庚子）帝拜ニ東國國司一、仍詔レ之曰、方今始將レ修ニ萬國一、汝等之レ任、皆作ニ戶籍一、及校ニ田畝一、九月（丙寅）遣ニ使諸國一治レ兵、又錄ニ民口員一、仍詔曰、諸國造等、恣佔ニ山野一、兼ニ併數萬頃田一、殆掠上盡水陸一、進ニ調賦一亦先自收斂、害レ民傷レ財、莫レ大レ焉、爾後禁レ之、百姓大悅、二年正月甲子朔、詔罷ニ諸屯倉、（公穀正稅之藏）及諸臣田莊一、始脩ニ京師一、置ニ畿內國司郡司等一、郡以ニ四十里一爲ニ

大郡、三十里以下、四里以上爲中郡、三里爲小郡、而選於衆、各置之大領・小領・主政・主帳、始作戶籍計帳、班田收授之法、凡五十戶爲里、每里置長一人、掌按撿戶口、課殖農桑、禁察非違、催駈賦役、凡田長三十步、廣十二步爲段、十段爲町云々、又是年詔葬域法曰、王以上墓、其內長九尺、濶五尺、按此等尺、應必大尺也、蓋帝之制田也、皆當野僧旻及玄理等據還自唐學、而居博士、則彼等應必建自所學唐制、以效別定段町云者也焉、而其度地、五尺爲步、三百步爲里、見淡海公令、（大寶元年敕撰）又大方六尺爲步、見三代格、（拾芥抄同之）又和銅六年制、（二月壬子、始制度量調庸義倉等類五條事語、具別格云是也）及延喜式等竝六尺爲步、唐所謂大尺與格所謂壹尺、皆當今曲尺、而令所謂尺、當今曲尺壹尺貳寸、見白尾氏說、稽之和爾雅、其曲尺李唐尺、而今匠家所用、以鐵制之、故曰金尺云、據此大尺所以其云大、蓋應對周尺小（八寸）以言之也、其令所謂尺當今曲尺壹尺貳寸云、今曰吳服尺者、應必此也、又今有海鯨尺、（以海鯨鬚作之、故得名云）更增伍分、以是觀之、唐爲大尺、亦今知不大、又式所謂度量權衡者、官私用大云、亦蓋此大尺、而卽今曲尺也、度制略考所謂格六尺步、似廣一尺、由每尺應各以二寸、於其地則雖五尺步、未初有所損益云、其說得之、又稽制度則曰、今謂其步（六尺）曰田舍間、量石垣等必因之、又六尺三寸爲步、今謂之京間、而量田畝多因之、又六尺五寸爲步、里程宅地皆因之、步亦有異、我藩所謂壹里、定參拾陸町、而置之塚、始自寬永十年、其年六月、大猷廟遣小出對馬守・野瀨小十郞・城織部、來巡封內、故定里程事、見大口士人二宮伊豫筆錄、但量

遠近、皆揣自府城樓門橋口云、後五十三年、塚木多朽、於是貞享二年、（九月朔日）大玄公命補葺清雄、復修樹之、時量遠近、始自札辻、（在下町）見清雄記、因言里程、聊書于此、又曰、周尺當今曲尺六寸八分一絲、而八尺爲步、求之吾坪、（六尺三寸）當今伍尺肆寸捌釐、（度考當今五尺漆寸伍分強、云佗可準知）而拾步當玖坪肆合捌勺、而百步爲畝、畝當今參町肆段捌畝、而壹頃當今伍町漆段貳畝強、其所量步、皆依六尺三寸云、稽之源順著和名抄、當今陸町陸段貳百拾肆步云、其去今據頓卒於永観元年、則於其步應以六尺言之也、古者頃字、則仁德紀訓曰志呂、後易代字、所謂一代、當漆坪壹尺貳寸、推至十代爲二畝、至五十代爲一段、則三百六拾坪、本居氏曰、代爲物實、見崇神紀、今所謂定代昉于此云、今季安按、建久八年日向圖田町、載寺領田代二百三十八町、社領田代二千百六町、或島津莊田代云々如此、田代似泛指田畝言之、蓋其云代卽易義、而本出於計中下田有一易再易之人、故未悉言物實、泛爲計田詞、亦可概知也、又按田賦集（註後）武用辨略等、聖武帝時、行基奉敕、定田畝尺、六尺爲步、三十六步爲步、十步爲段、段則三百六十步、而縱六十間、横六間、十段爲町、町則三千六百步、方六十間云、所謂段云、蓋應本於路程所謂三百六十步爲一里之數也、荒政要覽所謂一町（作畝恐誤）分爲四角、每角六十步云、應亦是也、稽之續紀、前於帝之卽位十有二年、元明帝和銅六年四月戊申、頒下新格並權衡度量於天下諸國云、而其年當行基四十四歲時、其云奉敕者、應必誤是事也、而其六尺步、制度通所謂石垣尺、而今曰田舍間者此也、故

本邦之田畝、不隨世考、必有不揣本之誤也、談古田者、不可不察焉

租稅第四

本邦上古之租、什一而稅、見桓武紀、然未觀據、蓋引孟子述夏殷周之法而已、非謂本邦亦即有其制、如彼三代也、按本邦租、則孝德帝大化二年、正月朔日詔始班田收授之法、凡田長三十步、廣十二步爲段、十段爲町、段租稻二束二把、町租稻二十束、後歷八年、白雉三年正月己未班田已訖、段租稻一束半、得米七升九合町租稻十五束七升五合云、按義解等、凡一手握爲一把、十二把爲一束、而束稻則今糲一斗也、舂得五升、其米即糙、非精白云、本田親孚所著大島私考云、島俗計稻、猶曰幾束幾把、大抵壹畝得稻三束、所謂束凡所穫稻、偏手三握爲把、合其把三以爲一把、訓之多婆利、混其八把爲一束、而一束稻重二十五斤、(百六十匁爲斤)得米四升、或値豐年得六七升、其訓束曰都加、訓把、曰多婆利、則與孝德紀、到于今尙同其訓云、季安謂、上古南島隷太宰府、貢赤木等、見延喜式、而續紀所謂庵美、即大島云、其貢方物、見文武紀等、本名天見、其書菴美、應語轉也、據此其云多婆利、則我邦古訓、而蓋手量約納言也、所以其云爾、不以升量、而以手量故有此訓、可以知焉、今本藩民俗、尙量田畝、多曰幾束、亦以所穫稻、用手量之也、可亦知也、因村里異、應因他品也　凡段地、上田穫稻五十束、町獲五百束、其舂米二十五石、而二十二束所穫、米一石一斗也、蓋當時倣唐、新立租法、民猶以爲重、不堪輸之、故未十年、又輕其斂、定段租一束半、町租十五束、勢亦可觀焉、其十五束所穫、米七斗五升、則輕於三十三分之一矣、謂之令前租法、三代格所謂田五十代、租稻一束五把、得米三升、此大升云、亦與此同、白尾氏云、大升三升、減六升受貳升五合、其三升則七升五合也後五十年爲大寶元年、文武帝乃敕淡海公、藤原氏不比等新制田令、蓋當是時也、公等念民漸霑化、欲復修大化之制、乃定段租稻二束二把、町租稻二十束、得米壹石壹斗而二年二月、始頒于天下、孝德帝所倣唐制、大化三年而益白雉

制(段漆升伍合、町柒斗伍升)者應參斗五升也、後歷五年、慶雲三年、(九月丙辰)文武帝遂遣使七道、始定田租法、町十五束、及點役丁云、按新令盖不行、故應復白雉舊也、而猶因年、民或苦輸、天平勝寶五年、(十二月己卯)西國稼損、特免田租、延暦二十五年、(十二月乙未)日向大隅薩摩等、水旱疾疫、頻年相仍、百姓凋亡、田園荒廢、特免一年田租、弘仁三年、(六月辛卯)薩摩國蝗、免通負稻五千束、四年(六月甲申)大隅薩摩蝗、免未納稅、六年(五月甲申)薩摩國蝗、免租稅、十年、(十一月丁丑)薩摩國蝗、免田租、十二月、弘仁格(十卷)式(四十卷)成、其所定租、則段別地子、上田十束、(得米五斗)中田八束、(得米四斗)下田六束、(得米三斗)下下田三束、(一斗五升)而其上田租十束、(五斗)校之白雉租、(七升五合)則六倍強矣、承和三年、(閏五月戊寅)薩摩國飢、特賑給之、五年、(九月己巳)定西國地子交易法、綿一屯直稻八束、(得米四斗)十年、(九月甲寅)薩摩國等飢、賑給之、十四年、(七月丁卯)減省日向國俘囚蘇料稻十萬七千六百束、以俘囚多死也、爾後無考、凡八十年、至延長五年、(十二月廿六日)延喜式成、(五十卷)則其主稅曰、凡公田一町所穫稻、上田五百束、(得米二十五石)中田四百束、(米二十石)下田三百束、(米十五石)下々田百五十束、(七石五斗)而其地子各依田品、令輸五分之一、若總計國內、所輸不滿十分之九者、勘出令塡、但不堪佃田、聽除十分之二、而其租則段別、租穀一斗五升、町別一石五斗、皆令營人輸之、按五分一、於上田二十五斛、則知其租石輸貳斗、通爲伍斛、而莫亦有與弘仁租所增減也、故校之白雉租、(町別七斗五升)則亦知強於六倍矣、如不堪佃田、蓋今分下田之類也、今聞縣官法、曰、段別上田稻五十束、爲穀伍石、舂米貳石伍斗、中田稻四十束、米而貳斛、於其中、地頭收一、民取

二云、亦蓋莫不法焉、但上力上田段別收漆斗伍升、則當白雉町租、（漆斗五升）其稍强者至十倍矣、他詳後篇、可併觀焉已

蠶織第五

按書紀・姓氏錄等、曰、應神帝十四年、百濟貢縫衣女眞毛津等、是歲秦始皇、後曰物智王弓月王（紀載弓月君、而無物智王）者、亦自百濟來、而有上請、曰、臣欲率己國人百廿七縣狛姓者、（紀無七及狛字）歸化本邦、既上道、爲新羅所拒、而留韓國、帝乃遣葛城襲津彥、迎召其徒、亦往留久矣、十六年八月、復遣平郡木菟等、將水兵往伐新羅、爲披其道、蓋弓月亦尙還、（紀無此事、見姓氏錄）既而新羅懾服其罪、乃木菟襲津等、以弓月之徒、還自新羅、於是弓月等皆歸化本邦、獻金銀玉帛諸寶物等、帝嘉之、令皆安置焉、三十七年、（二月戊午）帝遣使主等如吳、求縫工女、吳王乃遣四工女、曰兄媛、曰弟媛、曰吳織、曰穴織、四十一年二月三日、帝崩于大隅宮、是月使主等自吳還筑紫、乃留兄媛、奉胸形神於筑紫、率他三女、及至津國、帝既崩、乃獻之仁德帝、帝十七年、新羅不貢、遣使問之、乃謝罪貢調絹一千四百六十疋、先是弓月君、生男四人、曰眞德王、曰並洞王、（古記作浦東王）曰雲師王、曰武良王、蓋眞德普洞等、以其徒及吳工女、修蠶織業、於是乎帝嘉其功、賜眞德普洞等各姓、皆曰波陁、則秦字之訓也、且使普洞等爲秦造、委任其事、而普洞王男曰秦公酒、終帝之世迄雄略帝時、其間厤載、殆五六十、秦造所率諸秦氏、既多爲臣連等被驅使、而分散諸州、不隸秦造者、由

是酒公深以爲憂、仕帝承寵、亦襲父職、因曰秦造酒、故酒奏帝、請奉敕巡檢集之、帝乃遣小子部雷率大隅阿多隼人等、捜括鳩集焉、遂得秦氏九十二部、一萬八千六百七十人、悉賜酒公、率其秦族、以養蠶織絹爲產業、既而迨帝之十五年、酒公乃率百八十種勝部、收其庸調絹縑、盛籠詣闕以貢進之、庭實充積、如丘如山、帝褒顯之、特賜寵號、（紀云、賜姓）曰禹都萬佐、（紀一云、禹豆母利麻佐、皆盈積之貌）是則盈積有利益之義、而亦太秦之訓也、乃役諸秦氏、構八丈大藏於其宮側、納其貢物、故名其地曰長谷朝倉宮、時始置官員、令以掌之、所謂大藏宮者、自斯時始、（秦氏皆出自一祖、至其子孫、或異居地、或異事業、分爲數處、見姓氏錄、所謂散處、言其族類繁衍乎諸州也、今見界等人、自言其苗裔、曰我腹內、亦是以證焉、又諸古者呼其家曾、猶曰蔽頭、亦同之可作證也）既而十六年七月、帝、詔宜桑國縣、令益殖桑、因分遷秦氏、使獻庸調、事見書紀、則延喜式所載、大隅國桑原郡、及和名抄載肝付郡桑原鄉等、亦蓋和銅建國後、爲就當時秦氏等所殖桑養蠶之地、所以建郡鄉者、可併證焉、且其祠應神帝於桑原郡、尊崇其廟、曰八幡宮、亦秦氏等、未有忘恩乎其歸化于帝時、遂以開機業於天下焉、則彼等感恩、祠號八幡、秦幡同訓、皆曰波陀、八若干意、且呼其地、曰大隅宮內、（書紀一云、曰大隅宮）之類、皆似有謂、而其子孫、則天平二十年、賜居京畿者、姓秦忌寸、囊守爲日向守、大隅秦忌寸三行、爲隼人正、並見續紀、後降三百年、尚有曰太秦元平者、康和二年以貢節功、奉堀河帝詔、爲郡司於薩州牛屎院、後世襲職、因牛屎爲氏、後易桑幡、今居大隅桄城者、藏其故牒、（井手籠氏、羽月氏、樺木原氏等、皆其族類、而家傳以太秦爲秦徐福之裔也云）又曰高麗行、謂高麗助行者、見正嘉元年大隅國鐘銘、（臺明寺藏）所謂狛姓、與此同訓、亦似族

裔、而到于今、我藩工女、尙呼織器曰波陀道具、或績熟麻先漬水解、謂之弓月、亦蓋應緣秦氏弓月所教以傳言之也、既而終雄略帝之世、迄孝德帝詔殖農桑之年、大抵百七十年、諸國調庸、莫詳其制、蓋其濫觴、起乎酒與雷、率大隅阿多隼人等、搜集秦族、以開蠶織業於我桑原等、可概知焉、據此上古蠶織之道、專廣於西藩、後稍廢絕、故慶長始、中村常和久寓於京、(新在家)學業織絹、以需公服、蓋有之燭下却暗之意也、繇是關原亂後、薩敗散士、多匿織屋者、迨伊勢貞昌如京、召其子作左衞門、來建織屋於藩府、給之廩米貳拾漆斛、爲十五口粮、令以織絹、別賜伍拾石、賞常和忠、寬永十六年、偏收廩米、停織絹業、而猶稱織屋如初、至慶安二年、遂削屋號云、近創建織屋、可謂興廢矣已

調庸第六

孝德帝大化二年、(正月朔日)詔于諸國、每里置長、課殖農桑、而罷舊賦役、始行田之調、凡絹絁絲綿、並隨鄉土所出云、凡田一町、絹一丈、絁二丈、布四丈、其絹四町成疋、絁二町成疋、布一町成端、並長四丈、廣二尺半、別收戶別之調、一戶則布一丈二尺、凡調副物鹽贄、亦隨地所出、而官馬則中馬百戶輸一疋、細馬二百戶輸一疋、前此仕丁三十戶出一人、至是五十戶出一人、以充諸司、與辨其粮、一戶庸布一丈二尺、庸米五斗、又郡少領以上、則貢其女若姊妹有姿容者爲采女、隨之一丁二女、亦以百戶與辨采女一人粮、文武帝元年、(九月乙酉)令日向國獻朱沙、大寶二年、(四月壬子)令筑紫七

國、簡點采女兵衛貢之、和銅三年、(正月戊寅)日向國貢采女、薩摩國貢舍人、六年、(二月壬子或作七年)制絹絁六丈爲疋、調布四丈二尺爲端、庸布二丈八尺爲端、商布二丈五尺爲端、(見白尾氏著書)又七年、(二月庚寅)令以商布二丈六尺爲段、不得用常、辛卯制、諸國輸調者、調庸以外、宜每人儲絲一斤・綿二斤・布六端、以資產業、敎足衣食也、辛卯制、年十五以上、六十五以下者、令輸調馬、養老二年(六月丁卯)令大宰管國、輸庸如諸國、先是減庸、至是復舊、七年五月(辛巳)大隅薩摩隼人等朝貢、天平元年、(六月庚辰)薩摩隼人等貢調物、七年(七月己卯)大隅薩摩隼人入朝、貢調物、十八年、(十月癸丑)日向風雨、養蠶損傷、特免調庸、天平勝寶元(八月壬午)大隅薩摩隼人貢御調、天平神護二年、(六月丁亥)日向大隅薩摩大風、桑麻損盡、詔免柵戶調庸、寶龜六年、(十一月丁酉)日向薩摩風雨、桑麻損盡、免本年調庸、弘仁六年、(五月甲申)薩摩國蝗、免調庸稅租、十一年弘仁格式成、後剩百載、延喜式成、於其諸國輸調、則中絲國、絹絁兩面以下、各長六丈廣一尺九寸、絹長四丈五尺六寸、廣二尺五寸、竝成疋、長絹長七尺五寸、廣壹尺九寸、長幡部絁長六丈、廣一尺九寸、竝五丁成疋、綿紬三丁成疋、長四丈五寸、廣一尺九寸、但西國長三丈九尺、貲布長四丈、廣二尺、望陁貲布長八丈、廣一尺八寸、竝四丁成端、細貲布長六丈五尺、廣一尺九寸、小堅貲布長八丈、廣二尺、薄貲布長八丈、廣一尺九寸、望陁布長四丈二尺、廣二尺八寸、廣布竝三丁成端、細布二丈成端、倭文調布竝三丁成端、各長四丈二尺、廣二尺四寸、大隅薩摩兩國調布、四丁成端、又輸庸則薩摩國二丁席三枚、一丁紙七十五張、自餘雜物準此、輸二分調之一云、(按、大化二年制所謂絹、四町成疋、町則田之調、而指田畝者)

（明矣、此所㆑謂四丁成㆑疋之丁、據㆓賦役令㆒、檢㆓其損益㆒、調丁有㆑損者、調丁一人、以補㆓庸丁二人㆒云、則以㆑言㆓調丁四人成㆒㆑疋、然據㆓和銅七年㆒上總國貢㆑調、請㆑代㆓細布長六丈、濶二尺二寸㆒、每丁輸㆓二丈㆒、以㆓三人㆒成㆑端云、亦似㆔言㆓四町㆒姑註㆑所㆑疑、以俟㆓識者㆒耳）而日向國、則去㆑府行程、上十一日、下六日、調絲十八絢、自餘輸㆓綿布薄鰒堅魚㆒、庸輸㆓綿布薄鰒㆒、中男作物斐紙麻熟麻茜胡麻子、大隅國則行程、上十二日、下六日、調綿布、庸中男作物紙、薩摩國則行程上十一日、下六日、調鹽三斛三斗、自餘輸㆓綿布㆒、庸綿紙席、中男作物紙、凡中男一人輸作物紙四十張、斐紙麻三斤、熟尾茜各二斤、薄鰒一斤、堅魚西國二斤、（餘國一斤八兩三分）又其價法、則太宰管國絹一疋、直稻八十束、（舂米四石）絲一絢十束、（舂米五斗）綿一屯六束、（舂米三斗）調布一端四十束、（舂米二石）庸布一段卅束、（米一石五斗）商布一段五束、（二斗五升）自庸布上、爲㆓位祿價㆒、如㆓其交易㆒、準㆓當時估㆒云、又其運漕功、則一駄率絹七十疋、絁五十疋、絲三百絢、綿三百屯、調布卅端、庸布卅端、商布五十段、陸路駄別、稻十五束、（七斗五升）海路自㆓博多津㆒漕㆓難波津㆒、船賃米石別五束、（二斗五升）挾抄六十束、（三石）水手四十束、（二石）自㆓與等津㆒運㆑京、車賃石別米五升、但挾抄一人、水手二人、漕米五十石云、又隼人調布、則除㆓府家三年料所㆑餘、宜㆘附㆓貢綿使㆒進㆖㆑之、又別貢㆓雜物㆒、則日向紫草八百斤、大隅一千八百斤、青砥二百顆、南島亦進㆓赤木㆒、其數隨㆑得、其運送傜夫、各給㆓路粮㆒、又進㆓典藥寮㆒、則木蘭皮百五十斤、土瓜石膏各十斤、龍骨六十斤、皂莢四十斤、代赭禹餘粮各一斗、鬼臼四升、狸骨二具、檳榔子人參廿斤、石斛十斤、附㆓別貢使㆒送㆑之、見㆓太宰府㆒、又交㆓易雜物㆒、則絹四千疋、履料牛皮廿四張、狸皮十張、銀三百兩、金漆五缶、朱沙一千兩、茜二千斤、紫草五千六百斤、猪膏二石、雜油卅石、檳榔馬蓑六十領、同蔞蓑百廿領、蘭帖笠百卅蓋、黑漆鞍十具、

鐵鐺廿隻、交易正税進之、其運功食並用正税、亦見太宰府、皆無國名、然據三州時隷之、應或所出也、姑載焉、凡三國田租調庸、及別貢副物、諸所課進者、多如此類也、而太宰府管國皆其國郡司、並領送之太宰府、其運脚功食、均出其戶、而其出納帳、於府雜掌勘之、附正税帳使、申民部省、如其調絲、府只收五百絢、以充儲料、餘皆每年限七月晦、附貢綿使、進大藏省、其他送輸、則起於八月、限十二月、若遭風雨、桑麻損盡、不堪輸調者、特免其調、若桑漆帳有闕者、令率戶數補塡之、是古調庸之大略也

丁役第七

天平十九年、（五月戊寅）制凡封戶、每一戶以正丁五六人、中男一人為率、而鄉別計口二百八十、中男五十為定數、其田租每一戶以四十束為限、見續紀、又按延喜式、凡正丁歲役十日、其不役者一日為布二尺六寸、十日收二丈六尺、謂之庸、不但限布、隨鄉土所出、又正丁外須留役者、滿三十日、租調俱免、役日不滿、混合租調作三十分、以其一分計免役日、通之正役、不得過四十日、次丁歲役五日、其庸收布一丈三寸、若留役者、滿十五日、租調俱免如正丁例、凡人生五男成正丁、免父課役、詳見令式、後三百年為鎌倉代、弘長三年（六月）賦役則段別百文、五町別官駄壹疋夫二人、如畑則以二町準田一町、後移足利世、建武元年、（十月）牒曰、莊園鄉保地頭以下、領田十町出仕丁一人、歲役一日云、今藩丁役詳見下篇

馬牧第八

日向馬見於書紀、薩广馬出于姓氏錄、曰、允恭帝時、遣湯坐連來于薩摩、平治隼人、其復奏也、獻馬一疋、額毛如町、帝喜、乃賜姓額田部云、大隅馬出于三代實錄、曰、貞觀二年、（十月八日甲申）廢大隅國吉多野神一二牧、綠馬多蕃息、害百姓作業也、又按延喜式、日向則置馬牛牧、所謂野波野牧、提馬馬牧、都濃野馬牧、野波野牛牧、長野牛牧、三原野牛牧、而馬五六歲、牛四五歲、各備梳刷、送太宰府、帳進馬寮、凡大被馬以正稅買（不得價過稻五十束）日向國以牧馬充之、後降文治我得補公之受封也、遣本田靜觀、先來觀國、靜觀乃建馬牧於瀨崎野、（在山門院）而於其堺、瀨浦・賀志浦・黑多尾。脇本・宇波崎、鷹屋・尾島等、雖地名異、皆屬牧內、而至道鑑公、世狩于黑多尾、事見公書、（十二月十八日）又貞治七年、（三月二十七日）定山公賜執印友雄書、令領寄田牧、四月六日、齡岳公亦賜友維書、言其事、公嘗乘馬於瀨崎、（同上）及佐野高原、（並在庄內）鹿島吉野、（大瀨多尾）穎娃小牧、（[illegible]）市來大峯等、見聖榮記、蓋皆馬牧也、寬正六年大岳公以弓馬法、悉授川上道安、使之歷落閱馬於市來、文明初年、節山公賜道安高江寄田等、馬牧亦應係焉、永正中、伊集院有春山野、天文中加世田有野間野、又天正八年、（四月十四日卯刻放）始置廻野牧、十四年、（八月十四日）創牧神、壓猥害也、又會於郡有春山野、清水有平野、鹿屋有高牧野、至幸侃時、移之廻云、又伊作有伊作野、皆古之馬牧、見慶長前云、今上使對條、則吉野比志島野・東鄉・笠山野・穎娃野、及唐松野・加世田野・間野・下甑島・上甑島山野・出水・瀨崎野。長島野。高江・寄田野・市來野。伊

作野、是爲薩牧、蒲生青色野・曾於郡春山野・福山野・鹿野・屋高牧野・末吉野・佐多野是爲隅馬牧、而無牛牧焉、寛永十二年（二月）令於封內、點檢牛馬、給之札

國郡第九

古者薩摩大隅日向、皆係熊襲國、景行帝還自討熊襲、十七年三月、幸子湯縣、望日之出於東方、乃命其國、始曰日向、時薩摩大隅等尚多隸之、或仍舊屬熊襲、亦應在焉、成務帝五年（秋九月）始令諸國、各分國縣、循其山河、定邑里、隨其阡陌、於是置造長於國郡、稻置於縣邑、按薩摩大隅等、分於郡縣、應在此時、然猶未必定其名也、應神帝時、以豐國別命之孫老男、爲日向國造、初景行帝在高屋宮、納襲人女爲妃、曰御刀媛、生男、即豐國別皇子、而老男其三世孫云、舊事紀、則豐國別命爲日向諸縣君祖云、孝德帝大化二年（八月癸酉）發遣國司等、巡撿諸國疆、各獻圖狀、爲定國縣名也、我藩之名諸郡、亦應在此時焉、凡大郡四十里、中郡三十里以下四里以上、小郡三里云、見畿內例、文武帝大寶二年（二月）始頒田令、給諸國司鑰、先是別置稅司主鑰、至是罷之、始給國司、是歲薩摩多褹逆命、八月、發兵討之、遂校戶置吏、按吏即國司也、十月、國司建白築柵要險、以守之、乃許焉、自時七年、薩摩多褹、既有國司、見于和銅二年、則割日向國、始置薩摩等、應必在前置吏時也

元明帝和銅六年（四月乙未）割日向國肝坏・贈於・大隅・姶羅四郡、始置大隅國、後建桑原郡、語在鹽織篇、

孝謙帝天平勝寶七年、（五月丁丑）建菱刈郡於大隅國、前此爲村所浪浮者、九百三十人、請別建郡家、許之、淳和帝天長元年、（十月丙子）停多褹島、隸大隅國、初建一島管四郡、給多褹島印、（和銅七年）置之島司年所給準稻三萬六千餘束、其貢調惟鹿皮一百餘張耳、計其課口不足一郷、僻在海中、無虞寇至、故以能滿郡、併馭謨郡、以益救郡、併熊毛郡、省爲二郡、以隸大隅國、其管八郡、蓋應此時也、醍醐帝延長五年延喜式成、則載之曰、日向國管臼杵・兒湯・那珂・宮崎・諸縣五郡、大隅國管菱刈・桑原・贈於・大隅・始良・肝屬・馭謨・熊毛八郡、薩摩國管出水・高城・薩摩・甑島・日置・伊作・河邊・頴娃・揖宿・給黎・谿山・鹿兒島十二郡、竝爲中國、列西海道之遠國、凡郡限千戶、若餘五十戶、分隸比郡、地勢難分、滿百戶者、應立別郡、但郡里等名、竝用二字、必取嘉名云、而和名鈔載麑島、弘安七年、古鐘（淨光明寺）亦書麑島、竝爲二字、據此鹿島麑之誤、而今書兒島、以作三字、亦乖式法、似近世誤、西藩國郡、延喜以後具於建久八年圖田帳、建治二年石築賦等、然既別著、故不贅焉

官員第十

天平十一年、（五月甲寅）令省諸國郡司改革、大郡大領・小領・主政各一人、主帳二人、中郡大領・小領・主帳各二人、小郡大郡主政・主帳各一人、多置官員、徒損百姓云、天平寶字四年、（二月甲子）大隅薩摩等司身居邊要、出擧之稻、私物難運、故特割太宰管國地子各給、守一萬束、（米五百石）掾七千五百束、（米三百五十石五斗）目五千束、（二百五十石）史生二千五百束、（百二十五石）資遠戍也、七年正月、（戊申）多犬養爲撿稅使於西國、判官主典各

一人、大同二年、十月壬申國司交替、六歳爲レ限、弘治三年、五月戊戌禁三國司恣改二造舘舍一、先レ是儻有二一人病死一、諱惡不三敢居二之、輙擅移造、故依二天平十年五月二十八日格一有二此禁一、皆如二國圖所一レ載也、靈龜元年、十月乙卯詔曰、國家隆泰、要在レ富レ民、富レ民之本、務從二貨食一、故男耕耘、女脩二紝織一、家有二衣食之饒一、人生廉恥之心一、刑措之化爰興二太平之風致一、凡厥吏民豈不レ勗歟、今諸國百姓未レ盡二產術一、唯趣二水澤之種一、不レ知二陸田之利一、或遭二澇旱一、更無二餘穀一、秋稼若罷、多致二饑饉一、此乃非二唯百姓懈一、固由下國司不レ存二教導一、宜レ令下百姓兼種二麥禾一、男夫一人二段上、凡粟之爲レ物、支レ久不レ敗、於二諸穀中一、最是精好、宜下以二此狀一遍告中天下上、盡二力耕種一、莫レ失二時候一、自餘雜穀、任レ力課レ之、若有二百姓輸レ粟轉レ稻者一聽レ之、必給二木綿柒佰匁一、若無二木綿一者、別給二匁壹分五厘一按式所レ謂織綾料給、織手日米二升、鹽二勺云、當時國司處二分公廨一、中國無レ介、則長官五分、判官三分、主典二分、史生一分、如二員外司一、各準二當員一、博士醫師準二史生一云、而郡司不レ得三一郡併二任同姓一、他姓無レ人、聽二異門任一、但大隅駁讀熊毛等、不レ在二制限之郡一、領民不レ得レ任二主政主帳一、其國司郡司之拜除也、必具レ狀進二太政官一、奏二聞之一、且其四度使雜掌、及入京郡司、皆季冬下旬、大廿八日小廿七日總二集諸司一、預令レ習レ禮、而聽二朝拜爲一レ例、凡太宰及國司、巡二行部內一、則帥傔仗十人、貳六人、監以下史生一人、國介以上三人、掾以下二人、史生如レ前、其食料則官人日米二升、鹽二勺、酒一升、番上日米二升、鹽一勺、酒八合、傔從日米一升五合、鹽一勺五撮、如二諸使食法一、又日隅薩等學生醫生、皆集二宰府一、分業二教習一、太宰試レ才、補二任博士醫師一、副二勘籍狀一申レ省、遷替六年爲レ限、非レ業二博醫一、五年爲レ限、受

業非業、每年三月朔、移民部省、又國司公廨、以其所餘交易、輕貨送太政官廚、或進主計寮、調庸亦若或未進、准未進數沒國司史生等公廨、混合正稅、則延曆元年制、設公廨爲塡闕負云、此類也

正公第十一

天平十七年、（十一月庚寅）制、諸國公廨、（大國四十萬束、上國三十萬束）中國二十萬束、就中大隅薩摩各四萬束、日向如制、（即見上註）（而下國則萬束）延曆二年、（十一月庚子）禁、諸國司等不得公廨田外、更營水田、又不得私貪墾闢、使百姓農桑地、恤民凋弊也、九年、（十一月乙丑）敕、設公廨、本爲塡闕負、爾後中國、有未納一萬束以上者、宜年徵塡之、其出擧則曰、日向國正稅、公廨各十五萬束、（得米伍仟貳佰伍拾石、通計壹萬伍佰石）國分寺料壹萬束、（米伍佰石）文珠會料壹仟束、（米伍十石）修理池溝料貳萬束、（米仟石）救急料肆萬壹仟束、（米貳仟伍拾石）俘囚料壹仟壹佰壹束、（伍拾伍石伍升）大隅國正稅捌萬陸仟肆拾束、（肆仟參百貳石）公廨捌萬伍仟束、（肆仟貳佰伍拾石）國分寺料貳萬束、（仟石）文珠會料壹仟束、（伍拾石）修理池溝料貳萬束、（仟石）救急料參萬束、（仟伍百石）薩摩國正稅公廨各捌萬伍仟束、（肆仟貳佰五拾石通計捌仟伍百石）國分寺料貳萬束、（仟石）同寺十一面觀世音菩薩燈分料壹仟伍佰束、（柒拾伍石）文珠會料壹仟束、（伍拾石）修理官舍料貳萬束、（伍仟佰石）皆限二月卅日、進正稅帳於太宰府、々加覆勘、限五月卅日申之官、俘囚料置三年儲所餘稻、皆混正稅云、總計日向國稻參拾柒萬參仟佰壹束、大隅國稻貳拾肆萬貳仟肆拾束、薩摩國稻貳拾肆萬貳仟伍佰束、而束稻則米伍升也、中田一町稻（見上）則貳拾石也、入其伍分一、則四石租也、今推其租求之今高、則

日向國玖萬參仟貳佰柒拾伍石貳斗伍升、大隅國高六萬伍佰拾石、薩摩國陸萬陸佰貳拾伍石、通計貳拾貳萬肆仟肆佰拾石貳斗伍升、但其壹斛、卽米壹斛、而猶㆓文祿高㆒、非㆓如㆑今以㆑穀（玖斗陸升）準㆑斛也、其減㆓於文祿㆒、則田有㆓輸租㆒、有㆓不輸租㆒、口亦有㆓見不輸・見輸・半輸・全輸之異㆒、所㆑謂神田・寺田・布薩戒本田。放生田。勅旨田・公廨田・御巫田・采女田。射田・健兒田。學校田・諸衞射田・左右馬寮田・飼戶田・賜急田。勸學田。典藥寮田・節婦田・易田。職寫戶田。膂力婦女田。惸獨船瀨功德田。造船瀨料田・並爲㆓不輸租田㆒、其位田・職田國造田・采女田・膂力婦女田・賜田等未授之間、返㆓遙授國司㆒、公廨田。沒官田。出家得度田・逃亡除帳口分田・乘田並爲㆓輸地子田㆒、自餘皆爲㆓輸租田㆒、而通㆓計國內㆒、集㆓於十分之七㆒爲㆑定、若不㆑堪㆑佃者聽㆑除㆓十分之三㆒、如過㆓此限㆒申㆑官聽裁、其口分田、則給㆓男一人田二段㆒、女減㆓三分之一㆒、食貨志所㆑謂、以㆑口受㆑田、此云古者、割㆑田如㆑此、其多則三國稅額、莫㆓得而考㆒焉、所㆑謂正稅、今以㆓我藩言㆑之、應㆓必準㆓御倉入㆒、而公廨猶給㆑地、又稽㆓物氏說㆒云、古之民耕㆓公田㆒者、謂㆓之良家㆒、卽今武士也、正稅一町、入㆓一石一斗㆒、別有㆓徭役㆒、給㆓男一人田各二段㆒、謂㆓之口分田㆒、其得米伍斛則入㆓一斗一升㆒、而如㆓奴婢耕㆓其私田㆒不㆑徵㆓之租㆒、則令所㆑謂女減㆓三分一㆒是也、而其得米一石六七斗、今百姓、此奴婢類云、又算㆓肥後國貢㆒、求㆓之今高㆒、古之田則多㆓於今㆒者、大抵三倍云、今季安試就㆓其說㆒以言㆑之、其石別則入㆓肆升肆合㆒、而百斛則入㆓肆石肆斗㆒云、以乘㆓日向米㆒、覰㆓其高㆒、則爲㆓肆佰貳拾參萬玖仟漆佰捌拾肆石零㆒、大隅高則爲㆓貳佰漆拾伍萬肆佰伍拾肆石伍斗零㆒、薩摩高則爲㆓貳佰漆拾伍萬陸拾捌石壹斗零㆒、校㆓之今高㆒、實似㆓

倍蓰、然季安按、物子所謂一町爲廿五石、則言上田米、而其云納一石一斗、則言正稅耳、蓋當時租、不但正說、各依田品輸五分之一、式法也、而率上下於中、則凡一町田穫二十石、據其租五分一云、則知石別入貳斗、當肆石租、而薩摩大隅日向、並列中國、故以中田率、姑算如前、然依物說以算于此、亦備異聞爾、但古之耕者、多於今矣、則量夫食公廨者、與今食給地者之多少、可以觀焉也、食公廨者、詳前篇

僧尼第十二

天平十六年、（七月甲申）詔七道諸國、割國別正稅四萬束、（米四千石）入僧尼兩寺、各二萬束、每年出擧以其息利、永支造寺用、天平勝寶八年、（六月乙酉）遣使七道、催檢諸國所造國分寺、丈六佛像、延曆二年、（十月庚戌）定中下國、各任國師一人、前此增師員、故有法制、三年、（五月辛未）國師遷替六年爲限、承和十一年、（四月壬□）轉敕置大隅薩摩等國講讀師、如博士醫師例、令祈鎭護也、又國分二寺、各起正月八日迄十四日、轉讀最勝王經、其布施則三寶、絲卅斤、僧尼各絁一疋、綿一疋、綿一屯、布二端、定坐沙彌尼、各二端、布施則絁如供養用奇物、國廳亦請講部內諸寺僧、自八日迄十四日（正月）行吉祥悔過法、總計七僧、布施則絁七疋、綿七屯、調布十四端、法服絁廿疋、綿十四屯、混合準價、平等布施、其布施供養、並用正稅、又金光明寺安居、則三寶、布施絲卅斤、講讀師法服、各絁五疋、綿十斤、布一端、呪願散花唄等僧、各絁二疋、綿四斤、布四端、聽衆僧尼、各絁一疋、布一端、定坐沙彌、綿二斤、布二端、講讀師從沙彌、

各布二端、其供養講讀師、日各米六升、（飯料二升、餅粥四合、雜餅四升）大豆小豆各五合、油二合、醬酢味醬各一合、海藻滑海藻於期各三兩、大凝菜芥子各一兩、紫草二合、鹽一合二勺、定坐沙彌講讀師・從沙彌、各日米一升五合、（飯料）餘物減半、並用正稅、又春秋仲月、各一七日、請部内衆僧於金光明寺、轉讀金剛般若經、其布施則三寶、綿十屯、僧各布一端、如供養用本寺物、（若無國分寺、及部内無物寺者、並用正稅、）凡講師年中供養、則日米二升四合、（二升飯料、四合餅粥）鹽六勺、醬酢各六勺、味噌一合、海藻三兩、大凝菜芥子各一兩、從沙彌一口日米一升五合、餘物減半、童子一人米一升、鹽一勺、其料用國分寺物、若不足者、用部内寺物、讀師亦同、又國分僧等自京來、則路次充馬、其食僧日米二升、鹽二勺、童子一人日米一升五合、鹽一勺五撮、僧尼定數、待玄蕃寮移行、布施等、亦其隨之

倉廩第十三

周禮、倉人掌粟入之藏、辨九穀之物、以待邦用、若穀不足、則止餘法用、有餘則藏之、以待凶而頒之、凡國之大事、共道路之穀、積食飲之具、廩人掌九穀之數、以待國之匪頒賙賜稍食、以歲之上下數邦用、以知足否、以詔穀用、以治年之凶豐、凡萬民之食食者、人四鬴上也、人三鬴中也、人二鬴下也、若食不能人二鬴、則令邦移民就穀、詔王殺邦用、凡邦有會同師役之事、則治其糧與其食、大祭祀則共其接盛、注云、價米曰倉、藏米曰廩、而有虞氏曰米廩盛之米於學宮、其云庠、卽米廩、教孝之義云、金仁山曰、有穀曰粟、無穀曰米、粟卽穀也、古人米與穀兼積、米切用而易腐、

穀氣歪而可久、緩急兼儲、後世軍儲獨以米、故久卽不可食、本邦和銅七年、（四月壬午）令諸國造倉、率爲三等、大受肆仟斛、中參仟斛、小貳仟斛、延曆十年、（二月癸卯）令諸國、倉廩勿置接近、一倉失火、合院盡燒、自後倉廩、宜去十丈、隨處寬狹以造之、十四年、（閏七月辛亥）先是諸國建郡、本置一處、民居距郡、多棲僻遠、跋涉山川、受徵納貢、且倉甍隣接、有失火憂、至是革制、宜每鄉分置一院、以濟百姓、兼避火難、而今年租、皆納新院、但置倉法、依十年符、相去十丈、量便置之、旣而追尋每鄉建正倉院、頗乖穩便、九月、（辛亥）更下令、須彼此所接近鄉、置一院於其中央、如遙阻絕處、宜量地便每鄉置之、按我西藩、自古有地名其院者、如伊集院・入來院・祁答院之類、今尚稱呼、皆此倉院之遺名、而爲古倉地、猶今日伊集院組・祁答院組也、別著郡鄉院說、旣詳言之、故今不贅焉

覇制第十四

古之租法、隨世寖降、皆爲不足、而重稅斂、競誇奢侈、田荒民少、列國愈痛矣、保元亂後、迨鎌府擅執覇政、令段別皆不論莊公、輸米五升、以充兵粮、弘長三年、（六月）令百姓段別皆出錢佰文、五町別出官駄一疋・夫二人、而於其畑、以二町準田一町、或三分年穀、特免其二之類、雖見東鑑、不亦常制、如其常制、無得而考、其後楠氏什分而收其二、民大悅服、或云、楠公收四分、民合六分、未知孰是、足利氏則什分、而收其四、令蒼生取其六、且令諸守護算其領土、各輸軍賦五千分之一、後

至高經之間覇政、更令增徴二十分之一、由是失望於群牧云、按建武元年（十月）牒、諸國莊園鄉保地頭以下所領等年貢、則二十分、正税以下諸雜物等所出、以輸其一於御倉、如貢金及馬等、亦隨先例、皆因遠近、各有其期、違闕後期、宜倍進之、猶後三月、沒給他人云、應言之也、於我藩、則自文治中得佛公、享封於薩隅日、世襲爵守護焉、按建久八年（六月注進）圖田帳、則日向國總田捌仟陸拾肆町、而所謂島津御莊、參仟捌佰參拾漆町、於其中貳仟貳拾町爲一圓莊、自餘捌佰拾漆町爲寄郡、薩摩國總田肆仟拾町漆段、而島津莊貳仟伍佰玖拾壹町陸段、於其中陸佰參拾伍町爲一圓御領、自餘仟玖佰伍拾陸町陸段爲寄郡、大隅國總田參仟拾漆町伍段壹丈、於其中漆佰陸拾町爲新立莊、自餘漆佰拾伍町捌段三丈爲寄郡、三州總計壹萬伍仟玖拾貳町貳段壹丈、今率延喜式中田、（一町廿石）以求之高、爲參拾萬仟捌佰肆拾石零、又乘之式租法、（五分一而二十石則四石）則其租入拾貳萬漆佰參拾漆石陸斗零、可概知焉、而公爲總地頭於島津御莊、其總計田則漆仟玖佰肆町肆段參丈、於其中參仟肆佰拾伍町爲本莊、自餘肆仟肆佰捌拾玖町肆段參丈爲寄郡、而日向本庄分肆拾町、薩摩本莊分參拾町、大隅本莊分參拾町、通計百町爲地頭用作田、其租則段別壹石貳斗、自餘本莊段別壹斗、又寄郡租段別五升、（當時謂之五升米、見弘安九年[illegible]注進狀）三州總計七頭所收租、大抵陸仟漆佰伍拾玖斛漆斗壹升伍合、別著書篇、詳言御莊來歷事、故不贅焉

貫高第十五

自北條季迄天正初、有以貫言、曰貫高、曰永高、其貫高則凡田壹坪、（即壹步也）植秧一把、（凡壹把二十秧、一畝一升共

所レ生秧（天工開物爲三）段別上田栽二七升苗一、下田八升云、其秧一科、或四五本、因レ土異レ宜、插レ之供栽（卅五步一）每科疏レ間可三二尺一、整直如二碁秤一而步栽二百科一、段栽三三萬一、因二肥磽一異云而其穫レ之、得二籾壹升一、推レ此量レ之、拾坪拾把、得二籾壹斗一、百坪百把、得二籾壹石一、謂二之百文一、（作レ目恐非）而仟坪仟把、則得二籾拾斛一、謂二之壹貫一、而當時高、卽以レ籾計、則當二高拾斛一、雖二田品異一、大抵拾貫、當二高佰斛一、佰貫仟斛、仟貫萬斛、他推可レ知、其云二貫高一、不レ同二租法一、起二乎賦レ坪出一レ兵、故至二六仟坪一、必出二一騎一云、今季安按、古者因二井田一而制二軍賦一、稅以足レ食、賦以足レ兵、有二乘馬之法一、蓋本二乎斯一、而當時畝爲二三十六步一、則六千坪當二壹町壹段壹畝肆步一、而其所レ得籾六拾石、則古之一騎、出二於六拾斛一、亦可二以知一也、而今上方斛高變二於貫高一、專主二厘附一、故謂二之上方厘取一、其云二厘附一、則段別上田、收二漆斗伍升一、中田收二陸斗一、下田收二伍斗伍升一、每レ品殺レ斗、謂二之五民法一、或謂二五取一、今季安按、其云三上田收二漆斗伍升一、應レ因二白雉租一也、而上方田畑、皆應レ輸レ米、故十二分之一、其一分輸二大豆一、價如二石代一（見レ後）三分二出二於田入一、充二御廻米一、價視二諸國一、三分一出二於畑入一、價如二石代一、皆易レ銀輸、斛高法詳見二後篇一

永高第十六

所レ謂永高、關東諸州、中古量レ價、計二其租入一、多用二永樂錢一、故得二其名一、因二地肥磽一、異二價貴賤一、曰、田永若干、畑永若干、此也、故壹貫地各有二廣狹一、不二自レ地言一、自レ物言レ之、是爲二永別・永盛一、（按盛卽賦）其壹貫田、則入二籾伍斛一、畑入收レ價、謂二之貫代一、而當時租專令二以レ籾輸一、後迨レ入レ糙、其田租則減二籾半一、收二米貳斛伍斗一、而如二畑入一、到二于今一、猶收二其價一、則以二永一貫一、米貳斛伍斗、以レ金輸云之類、此也、今關東

斛高、變於永高、專主段別、故其遺法遂爲流俗、謂之關東段取、其略曰、段別上田收漆斗、中田收陸斗、下田收伍斗、每品殺斗、上畑收貳佰伍拾文、中畑收貳佰參拾文、下畑收貳佰拾文、每品殺廿、然於田畑皆均云、又一說、壹貫當田伍段、求之今高、東國當玖石、西國當捌斛、雖所當異、大抵拾斛、得其中云、亦應言之也、但其云伍段、今以貫代伍斛、（所得米二石伍斗、其價則永一貫也、是爲貫代、或石代、因國不同云）　校之貫高、則其糓當伍佰坪所穫也、而以三六步求之畝數、於其地則當田伍段、求之今高、東國當玖石、西國當捌石、雖所當異、大抵拾斛得其中云、亦應言之也、但其云伍段、今以貫代伍斛、（所得米二石伍斗、其價則永一貫也、是爲貫代、或石代、因國不同云）　校之貫高、則其糓當伍佰坪所穫也、而以三六步求之畝數、於其地則當壹段參畝參拾貳步、來必當伍段、而以中田法、量其租、則東國玖石當伍斛肆斗、西國捌斛當肆斛捌斗、所謂永高、地有廣狹云、亦應此也、稽延喜式、給馬料錢有以貫言、則曰神祇伯六貫、大副四貫、以神稅給之、或一位官伍拾貫、二位官卅貫云之類、蓋其所首乎、於我藩自古云斛、未之有聞而已

京制第十七

我藩租法、蓋變自村高、按、文祿元年八月、豐太閤遣細川幽齋、來革租法、見朱黌書、然莫知其詳、三年七月、石田三成亦奉旨、使大音新介（一本名同）爲總奉行、黑川左近助。高橋新太夫。（一本作新兵衞）　坂上源丞・奧田傳介・猪子彌平・夾村山理介。（一本作村上彌助）　山田孫七・（孫或作彌）　山羽小左衞門・雨森勘左衞門・（或作富森）　村田助九郎・木內五右衞門・爲竿目來於薩摩、中小路傳吾・多賀吉四郎・（吉或作喜）　川崎新六・海老名

源介。富田九兵衞。(河內州人也、嘗於郡地頭寄藏三柱石一其文如レ左、隅州日州堺御檢見時柱石也、川內住人富田九兵衞尉・隅州住人石崎圖書介・同長友助左衞門・同與阪勘解由・嘗於郡月內前村・文祿三年十一月二十一日、今說之實二謬也、蓋下所二舊址一在上、可也、惜哉失レ境) 平井助兵衞。(或作二助右衞門一) 駒井勝介。行松四郎太夫。安樂武介。能勢與右衞門(一本、安樂以下無レ載) 亦爲ニ竿口ノ來ニ於大隅ノ大橋甚右衞門爲ニ奉行ノ、今井傳左衞門。白井三郎左衞門。島田彌五右衞門。田邊宗兵衞、(一本作ニ宗右衞門一) 富森九介。國廣(一本無ニ所謂堀川國廣一云) 上林助兵衞。友田新允、(一本上林以下無レ之) 爲ニ竿口一來ニ於諸縣郡ノ、徧丈ニ量之ノ、乃十六日示レ令曰、(此時令書二通在ニ竹管孝右衞門家一、相傳曾祖嘗預ニ此丈量ノ、故傳至ニ孝右衞門ノ、貞享二年十月、靈寢淸葉衞藏ニ史局一云、應ニ必是一也) 凡長陸拾步、濶伍拾步爲ニ壹反ノ、而其量レ地除ニ疆溝ノ、以定ニ斗代ノ、凡段別上地上田壹石陸斗、(十一日亦示レ令、作ニ壹石柒斗ノ、下注皆倣レ此) 中田壹石肆斗、下田捌斗、(壹斛壹斗) 上畑壹斛貳斗、中畑壹斛、(玖斗) 下畑捌斗、(或作ニ陸斗ノ、又有ニ山畑壹一) 中地上田壹斛肆斗、(壹石三壹) 中田壹斛貳斗、(壹石) 下田壹石、(柒斗) 上畑壹斛、(伍斗) 中畑捌斗、(參斗) 下畑陸斗、(壹斗壹升又有ニ山畑柒斗一) 下地上田壹斛貳斗、(玖斗) 中田壹斛、(陸斗) 下田捌斗、(參斗) 上畑捌斗、(貳斗) 中畑陸斗、(壹斗) 下畑肆斗、(三斗又有ニ山畑四斗一) 下々地上田壹斛、中田捌斗、下田陸斗、上畑柒斗、中畑伍斗、下畑參斗、民宅壹斛、市宅壹斛參斗、宜ニ以分レ品謹擬ニ定之ノ、其他除ニ寺社士宅市廛莊屋等ノ、外應ニ皆巡量ノ、且如ニ山浦川藪之財產、桑漆茶竹等ノ、亦宜ニ檢注以定ニ其稅ノ、必勿レ疾レ民矣、但如ニ竹藪ノ、宜下年伐ニ十分一ニ以輸中于官上、縱令百本、年伐ニ拾本ノ、收ニ其九ノ、令ニ主取ニ一本ノ、茶勿ニ必稅ノ、但宅若畑、量ニ有レ茶地ノ、宜ニ稅注意ニ焉、九月十四日、正ニ薩摩經界ノ、始レ自ニ大口ノ、而隅州始ニ於十月ノ、至ニ四年二月二十九日ノ、三州丈完、共與レ事者、皆會計ニ於加治木町湯淺讚岐守宅ノ、三州諸邑精ニ算術ニ士、亦聚與云、隅日堺柱石、河內人富田九兵衞尉一人、配ニ隸隅州人ノ、三士之類可ニ推量ニ也、凡總計薩州貳拾捌萬參仟肆佰

捌拾捌石、隅州拾漆萬伍仟伍拾漆石、諸縣郡拾貳萬佰捌拾漆石、通計伍拾漆萬捌仟漆佰參拾參石、而除其中太閤領壹萬斛、（在加治木）三成領陸阡貳佰石、（在曾於郡清水）幽齋領參仟石、（在肝屬郡）所餘皆係松齡公封稅、

乃六月二十九日、太閤賜公朱璽書、使以領之、則伍拾伍萬玖仟伍佰參拾參石、謂之京竿御朱印高、

是年太閤令於諸州、定田租制、曰、天下賦稅、宜三分斛、令地頭收其一、農夫取其二、謹勿使疾焉、白尾氏等說、收令反之、孰必有誤、（一說京竿、爲文祿五年三州稅額陸拾萬伍仟捌佰陸拾參石肆斗參升壹合、而薩州則參拾壹萬伍仟伍石陸斗、就中拾捌萬捌仟伍佰玖拾陸石捌斗捌升伍合爲水田稅、拾貳萬肆仟貳佰玖拾柒石陸升玖合爲白田稅、貳仟佰拾捌石陸斗肆升陸合爲硫黃桑漆山稅、隅州則拾柒萬捌佰參拾參石肆斗伍升壹合、就中玖萬玖仟伍拾伍斛壹斗參升壹合爲水田稅、柒萬仟參佰捌拾捌石伍斗玖升柒合爲白田稅、參佰捌拾玖石柒斗貳升參合爲桑漆山稅、日州諸縣則拾貳萬貳拾肆石伍斗捌升、就中仟捌佰陸拾玖石玖斗玖升肆合參勺爲水田稅、肆萬捌仟佰伍拾肆石伍斗捌升五合柒勺爲白田稅、日州總計貳拾玖萬佰捌拾石玖斗玖升）京制以前去古未遠、諸國往々皆爲兵農、雖武門人、無不躬耕以勤稼穡、至是一變、士專業武、不暇受田、故多離土、君子就祿、野人勤農、各至異職、遂建此制云、則縣官所謂村高、始於文。慶間云、亦應言之也、而今我藩多置鄉士、乃古之遺俗、尚存乎今、則信陽春藩、勢州南泉等所謂藩州土州、皆置兵農云、是也、

又川島重貯曰、其云高壹斛、則分米大豆菽壹斛、而三分之、其一當參斗五升、而入其二、則領主所收當漆斗、農民所取、當參斗伍升、而又有田三成所對、亦高壹石租則漆斗代云、據此當時壹斛、亦壹斛伍升、而其增伍升、則知與今稟米所謂五先法同焉、其云壹斛伍升、則以先言之、其只云壹斛、則以起言之、故三分而其一、當參斗五升云、亦以先言之、今所謂起先法、知其既首於京制矣、匪但我藩、他邦亦之出目米、於關東謂之斗立若廻米之類、亦是也、詳見本篇

村高第十八

所レ謂村高、肇二於文祿慶長間一、非三獨田入一、擧二村所一レ税、故曰二村高一、而其百斛、即籾佰斛云、其賦レ之則有二石盛法一、所レ謂其法亦上田壹歩、得二籾壹升一、而至二壹段一、則得二籾參斛一、凡舂二籾壹升一、而去二其穀一、大抵得二米伍合一、以量二參斛一、則所レ得米壹斛伍斗、謂二之十五盛一、其他中田十三、下田十一、爲二壹斛伍斗一毎レ品殺二貳斗一、而於二此盛一、以レ益爲レ强、以レ損爲レ弱、凡水陸雨旱、工作商利、若富饒里頗雖レ强レ税、猶堪二以輸一、如二不便田燥原磽陵、或貧寒村一、必察從レ弱、最爲二要務一云、而雖二百斛一以レ籾言、則所レ謂穀祿、而其所レ入米、或肆拾斛、或參拾斛、不二皆一槩一、又易二其佰斛一給二米俸一、此云御切米也 則爲二佰俵一、而廩人授レ之、亦定二參拾伍斛一、我藩切米、昔以レ斛呼、至二正德二年正月九日一、令レ革二此制一、授以二俵數一、故其壹斛爲二伍俵一云、因レ言二切米事一亦附誌焉 今所レ謂四物成、言二四十石一 三物成、言二三十石一 三五分物成、三十五石 云、即此也、而其俵則受二四斗一、或受二三斗伍升一、故謂二之肆斗俵一、或謂二參斗伍升俵一、亦自レ斯始、往古壹俵、受二伍斗一爲二定法一云、而今關東諸州、及出羽村山郡等、受二參斗漆升一、又其因レ郡或受二肆斗捌升一、奧州岩城、及作州受二參斗參升一、白川福島、及越前後參遠駿濃丹但等諸州、並受二肆斗一、甲州受二參斗陸升一、尾州及豐前後播攝等受二伍斗一、各國異同、未二必一槩一、如レ此類也

今制第十九

凡段別上田稻五拾束、爲二籾伍斛一、舂去二其穀一、得二米貳斛伍斗一、中田稻四拾束、爲二籾四斛一、舂得二米貳斛一云、本二於延喜式一、可二併知一焉、通二上中下一、以率二其租一、則於二伍斛一、民舍レ二地頭收レ一、而其一當二壹斛陸

斗陸升、以積於町、知其租穀當拾陸斛陸斗、以石盛言、則曰十六者、是也、又下田爲粄參斛、而於其中、民二地頭一、則其一當壹斛、以積於町、知其租穀當拾斛、以石盛言、則曰十者、是也、畑亦準田、賦粄如之、其尤下畑爲粄壹斗、以積於町、知當壹斛、以石盛曰一者也、而古之授田者、上田一段、中田二段、下田三段、通率其入、則於其地、雖有廣狹、各隨肥磽、概準上田、不得皆過壹斛陸斗陸升、大抵各自當石盛十六而已、其或曰二十・三十・四十者、不但田入、稅上田兩毛、若工商等之利云、自文祿中有村高制、皆爲穀祿、故高佰斛即收粄佰斛、至仟萬斛、亦準之耳、中古以來、造輸米、則有三分一・三分二・六兵・四兵・六民等之法、而田祿名實、雖稍乖異、推是求之、他可準知也、今制所謂四分六分、則六兵四民、而十分田入、地頭收其六、令民取四、凡上田灌水爲田、使燥爲畑、歲有兩秋、則强稻租、亦弱麥入、其弱麥入、見慶長三年 十一月廿三日 貫松慈三公所令書此也、而於中田、地頭收其四、令民取六、下田地頭收二、令民取八、通計地頭所收十二、民所取十八、故割四分六分、爲永制者、縣官法云

三役第二十

所謂伍取者、於上田壹斛伍斗、領主所收、則漆斗伍升、而民所取亦漆斗伍升也、然於其中、又民有輸、曰請掛米、則有別收陸尺給米貳合、及御傳馬宿料六勺、又御藏米入料、於關東則有別出錢貳文伍絲、上方出拾伍文、謂之三役、又有口米、亦於關東、每參斗伍升、出米壹升、每永壹貫、出參

拾文、於上方石別出參升、毎銀百錢出參匁、（元和二年令、毎錢百文、口錢參文云）而口米多寡、各國異制、奥州常州、石別六升、或出貳升、毎永壹貫出肆拾壹文、或出陸拾貳文、甲州石出肆斗、（斗疑升誤）始於信玄云、其或不同、如此類也、且關東俵、雖其所受曰參斗伍升、而又收之、則猶益貳斗、取參斗漆升、其本首於塡散闕云、而於遠國、則謂其貳升曰出目米、關東謂之廻米、或曰斗立、遂爲定法、若不少足、不得以納、故又今窃副之伍合、曰合米云、今季安按元和二年七月閣老令、毎壹俵參斗漆升、收口米壹升、毎錢佰文收口錢參文云、據此其爲參斗漆升、亦非近古、可以知也、而其口米及合米、皆混容之、則所謂參斗伍升俵、其所實容、應是參斗捌升伍合也、而併此三俵、以爲壹斛、則實餘於斛、應壹斗伍升伍合也、我藩所謂役米・代米・賦米、或口米・起先等之法、皆本乎此、可類知也

度考第二十一

我藩之田制於上古、皆因田舍間、而以六尺爲步、以三十六步爲畝云、而其字則假爲書、以便急捷、所謂畝或作丨、二畝作‖、三畝作川、四畝作〤、五畝作〥、六畝作丁、七畝作〒、八畝作〧、九畝作冊、多見古書、則文永元年、（貳月八日）道忍公施藥師、（在小田苗代）田書等、此也、皆非今畝、（今三十步）書紀通證曰、中古之制、六尺五寸爲步、卽一間也、而天正中復用六尺云、我川島氏說異乎此、曰、豐文祿三年、豐太閤正藩之經界、以六尺三寸步、悉丈量之、故謂之京竿、事見其所著田賦集、則制度通所謂田畝尺、而今曰京間云者、此也、又本田親孚曰、六尺五寸爲步、則太閤所革制、而其復

六尺一步、稻葉濃州所定也、但於我藩、尚因太閤制云、未知孰是、又讀史餘論、豐太閤變田畝制云、亦應是也、但其云三百六十步爲町、校諸古町三百六十步、減六十步、恐未免誤、夫三百步固爲段者明矣、而其町當三千步、則百必千誤、十必百誤、可以知也、而和爾雅所謂方六尺五寸爲一步、（間方即壹）參拾步爲壹畝、（長六步廣五步）拾畝爲段、（長六十步、濶五十步、即三百步）拾段爲壹町、（長六百步、濶九百步、即三千步）據親孚說、則知太閤所革制、不與此二矣、然貞享中、川島重貯輯纂我藩所自古傳諸說、以著田賦集、（今按其由云、文祿渤既建矣、歷廿八年至元和七年、憲眼公使河野文右衛門通宜等文祿簿、皆藏諸樓門庫、時於三州、如飯野杉水流村帳、既散逸焉、後到二十年、正保季、亦使□村内藏助、更攷檢之、既而後亡於廿五年間、失其所在矣、於是延寶元年、寛陽公河野新左衛門重貯爲郡奉行、遍訪求之、寛無獲焉、但得杉水流等一冊於故紙叢中、乃元和年所造云、後迄貞享元年、彌寒清兵衛□□庫事原口次兵衛、大保田宗之、于時又獲山之口當吉村文祿故簿二冊於北郷氏、於是重貯乃幸賴此三冊尚存於世、博稽旁證、涉後漢籍、專祖述之、纂□□我藩慶寛後之書、參考質定、以著二書三篇、此田賦集也）則曰、文祿京制、六尺三寸爲步、三十步爲畝、而除畝（八寸壹步）溝塗壙、（一尺五寸二分）以丈量之云、制度通亦概同之、如其六尺五寸爲步法、則至慶長季、自疆而量、始因此制、（六尺五寸、琉球後亦因之云）寛永十年、萬治二年、丈量田畝、亦皆因之、遂爲永制云、亦制度通、則曰里程宅地尺者此也、據之我藩田畝、蓋自得佛公未享封前、迄文祿三年、皆因田舍間、（六尺爲步、三十六步爲畝）而壹段當參佰陸拾步、壹町當參仟陸佰步者、從可知也、何以言之、按建久八年（六月日）日向國圖田帳、載救仁鄕院九十町、救仁鄕百六十町、校之天正十六年（八月五日）豐太閤賜松齡公朱璽書、亦載九拾町救仁院、百六拾町救仁鄕、又薩摩國所載、荒田莊八十町、不與天文六年（十二月二十四日）太翁公賜本田董親書異、又建治二年、（八月日）石築地賦所載、阿州山之路二十五町、不與永正十一年（二月朔日）蘭窓公賜本田親安書異、又小濱

六町東鄕六町、不與天文十一年、（十二月六日）十二年、（卯月十八日）大中公賜董親書異、而自天正距建久年、剩三百卅、觀其間多同而不少差、可以證也、後至文祿、稟京制而增三寸、（六尺三寸）又降慶長、增之二寸、遂爲今制、（六尺五寸）故以文祿前步、（方爲六尺）校之今制、古之一步、（方六尺）則於今之一步、（六尺五寸）雖方減伍寸、今之一畝、（三十步）於古之一畝、（三十六步）因畝減六畝、陰古畝者、陸分漆厘肆毛零、其積至段、亦猶減古者陸步七分肆厘五毛零、又其至町減古町者、陸拾漆步肆分伍厘伍毛、（貳畝漆步四分伍厘伍毛零、聞諸徵弁禮某云、其算法、則自古制六尺、爲三千六百寸坪、乘之三十六、爲十二萬九千六百寸坪、又自乘今制六尺五寸、爲四千二百二十五寸坪、乘之三十、爲十二萬六千七百五十寸坪、而以今制除於古制、則一畝餘二千八百五十寸坪、一段餘二萬八千五百寸坪、一町餘二十八萬五千寸坪、以是爲丈、則五丈三尺三寸八分五厘三毛零、而以今制六五除之、爲八間二分一勺三撮零、又自乘之、則爲今制六十七步四分五厘五毛零、而以三除爲二畝七步四分五厘五毛零、以是測之、古之一段、廣於今之一段爲六步七分四厘五毛零、又古之一畝、廣於今之一畝爲六分七厘四毛零云）余惜平數煩人算之、爾而我藩古之壹町、稽諸史說、則曰、率上下於中田、大抵當今高參拾伍石、伊地知重英云、日州田島莊八拾町、當今高貳仟捌佰石、其壹町亦當參拾五石、又吉田淸純云、古之捌仟町、當今之高貳拾肆萬石、仟町當參拾萬石、百町當參仟石、拾町當參百石、壹町當參拾石、又白尾國柱云、古之八町當今之貳佰石、其壹町當貳拾五石、物徂徠說與此同、又聞諸郡吏云、以中田廿五法求之壹町、當貳拾陸石肆升壹合陸勺陸撮、諸說異同、未知孰是、然今季安參證衆說以考之、則古今異制、畝有廣狹、租有輕重、或推今狹、論於古廣、或以古廣、當於今狹、前輩所言、因本不揣、其說雖各有所承、未得皆至一概、故我藩吏官、所自古傳言、當參拾伍石、或淸純所謂參拾石等者、蓋皆因古之畝、（三十六步）併之諸役高等、舉其大數、可以知也、元龜年間、大口地頭新納

忠元始頒屋祭、而邑士領壹町以上者、自古與之、到今不絕、而今則有高參拾石以上者、得仍與之、爲故事云、據此大抵當參拾石以上者明矣、又國柱所謂貳拾伍石、郡吏所謂貳拾陸石肆升零、蓋皆就今畝（三十歩）、惟擧田租、而如諸役高、蓋略焉已、皆不揣本、則其不合至如是、亦宜哉

斛高第二十二

古者計田、位職皆以田呼、則田令所謂位田一品八十町、職田大臣四十町云々之類、是也、蓋北條季變乎貫高、或爲永高、並詳本篇、蓋如我藩、則西陲僻遠、而尚因古制、未聞有其以貫呼焉也、至豐太閤革田畝制、令計以斛、縣官所謂斛高、應言之也、故天正十五年、我貫明公始朝于京師、太閤賜公萬斛之半租於上方、（[illegible]之地）觀其云斛、當時上方既以斛呼、可亦證也、十六年秋、太閤更益松齡公封於日之諸縣郡、授之目錄、猶書幾町、據此我藩知時仍因延喜舊矣、而家忠日記、則始乎十八年云、未悉爲然、又十九年八月、松齡公書亦云、六月初旬、令于諸國、有御前帳事、所謂斛高行於諸國、應在此間也、然如我藩、迨文祿中稟太閤制、計以斛斗、載籍亦然、（享保十四年、大家訪我藩、以貫高等事、乃十一月、命吏官以呈大家、其所對亦不與此異云）由是諸家所知行稅額、天下皆遂至普謂之高、蓋所以其謂高者何、以其積小至於高也、稽延喜式曰、六位諸王任職事者、王祿官祿、從一高給、或收納穀若干、積高若干丈尺云之類、似其所首焉、姑書臆說、竢來哲爾

代官第二十三

所レ謂代官、地頭屬官也、寶治二年九月十九日下知狀、以二本田五郎兵衛尉一爲レ地二頭御代官於薩摩國一、按時地頭乃當二我道佛公一、又建武元年、二月二十一日光嚴帝以二道鑑公一、爲二豐後井田鄕地頭職一、而公之居二其職一也、遣二伊地知彈正忠季隨一、爲レ地二頭代官於鄕之柴比名一、年月無レ考二年八月、二十二日公以二本田孫次郎久兼一、爲レ代二官於山門院內一、又四年八月、酒勾兵衛次郎爲レ御二代官於守護一之類、亦其守護若地頭云、則皆當レ公者明矣、又文明七年、以二宮丸某一爲二圓室公御代官一、又天正中、伊勢如閑爲レ御二代官於貫明公時一之類、可二併觀一也、而降二文祿中一、京制既建、分二遣代官於三州諸郡一、令三各掌二其租入一、事多雜二出乎諸舊記一、則如二伊作郡一、係二貫明公封域一、乃使下伊地知民部少輔重賢、遷二地頭於山野一、兼領中代官事上、五年二月、和田玄蕃居二地頭於小根占一、以二有馬銀右工門一爲二下代一、以二橋監物一爲二筆者一、令レ掌二宮原倉一、猶下古郡司掌二倉院一時上、慶長三年、甑島領主小川藤八郎、師二立于朝鮮一、得二罪於公一、故沒二其地一、遷二酒勾勘右衛門景信・岩崎出羽守一、爲二地頭代官一、景信居レ任十一年云、四年六月、小根占地頭川上右京亮兼二代官事一、以二川窪五右衛門・播摩屋久兵衛等一爲二下代一、令レ掌二伍千伍佰斛之租入於山本田代等一、赤瀨川甚介爲二筆者一焉、十二年四月、以二長谷場主膳純常・木原七郎左衛門一爲二根占代官一、下代如レ前、十三年十月、相良勘解由賴豐遷二地頭於根占一、亦兼二代官事一、下代如レ前、十六年十月、友野次郎右衛門爲二小根占代官一、掌二租入於山本田代佐多邊塚等一、後兩二

分之一、以二湯地左近將監一爲二川北代官一、以二日高與市兵衞一爲二川南代官一、寬永五年、前レ此高岡噯・河上參
河守忠辰、及猿渡喜之助直信・中村主水佐等、爲レ代二官於日州一、掌二廩入事一、然高岡噯廣邑多務不レ堪二
兼掌一、於レ是四月、命隷二府下廩入一云、十五年、國老三原重庸之領二御物奉行一也、遣二國分士有馬丹後
守純定一、及二飯隈山東壽坊一爲二代官一、國分士新橋傳右衞門賴重・田實九左衞門重安爲二下代一、令レ掌二貳萬
斛租於肝屬郡一、十六年、純定致二代官一、多二如レ此類一、不レ遑二悉書一、推レ此觀レ之、當時代官帥二下代及筆
者一、莅掌二租入一、或兼二地頭一、亦間有レ之、足三以證二當時一、故摭二古簿一、粗載二于此一、按文祿中、石田三成
奉二太閤命一、正二藩經界一、又分二其祿一、則割二陸拾參萬斛於我三公一、各有レ差、而拾肆萬斛係二貫明公封一、
就レ中拾萬斛爲二公廩入一、所レ餘肆萬斛爲二諸給地一、拾貳萬斛係二松齡公封一、就レ中捌萬斛爲二公廩入一、餘肆
萬斛爲二公廩入一、餘貳拾伍萬斛爲二諸給地一、又太閤命二貫明公一自二麑城一移二於大口一、而徙二松齡公於麑府一、
然皆不レ肯、貫明公乃居二于國分一、時云二富隈一松齡公居二于帖佐一、慈眼公遂都二于麑島一、竝其封內也、由レ是考
レ之、爾後沿革雖二審叵一レ知、今所レ謂表方廩入據三其總計爲二拾貳萬斛一、則首二乎慈眼公廩入拾貳萬斛一、而
國分組本二乎貫明公廩入一、帖佐組本二乎松齡公廩入一、各因二其遺名一、亦足二以概知一焉、慈眼公薨、寬陽公
嗣、國用不レ足、興利說行公志二勸農一、正和二年四月、公命二殿役奉行右松安右衞門祐・後醍院喜兵衞・有
馬治右衞純成・村田藤左衞經□・市來五兵衞家昌一、兼領二郡奉行事一、分巡二諸郡一督二察之一、於レ是十一日、
國老島津圖書頭久通・川上因幡守久國・頴娃左馬頭久政・山田民部少輔有榮移二文諸鄉一曰、宜下修二溝堤一

斥荒田畝、遵每年例、若其荒者、雖士營之、必據其科、如農及諸家僕、必糺輕重、或獄、或拘、將近日遣奉行莅督察之、勿必怠慢矣、慶安二年正月、始置郡奉行、以猪俣爲右衛門則康・東鄉肥前重方任此職掌、以小野千右工門・中村二兵衛爲之筆者、乃重方掌東郊諸郡伍十鄉、則康掌西郊及祁答院菱刈諸郡五十鄉、而其租入則置藏入奉行、班列亞國老、乃萬治元年二月、書所謂新納又左衛門久了・町田源左衛忠代是也、一說曰御郡代取納奉行、亦應言之也、時分廩入、一曰、御郡代方、一曰、御國仕方、(即今御勝手方)皆置代官、而御郡代官、則有三組、曰、日州組、曰、南組、曰、出水組、所謂三組代官、此也、又御國仕方有二組、曰、穎娃組、曰、加世田組、併前三組、謂之五組代官云、前此重方等、總計稅額、校御判物、則所減拾壹萬玖仟參佰參拾斛零、於是重方建白田野未闢、務始墾田、凡穫貳萬肆仟斛零、故是年八月、公召于前、賜重方食、且使相良土佐賜二百石、以賞其功、冬又命菱刈孫兵衛重敎・汾陽次郎右衛門光東、令蓄其稅、以益闢之、皆隸郡座、寛文五年、置之代官、令掌租入、乃以佐藤孫左衛門祐豐・宮里五右衛門正行、任此職掌、六年七月、書郡方代官、或書郡座附代官此也、九年三月二十一日、公使喜入五郎兵衛久□、賜重敎光東腰刀各一口、以褒賞之、皆正房所造也、十年省穎娃・加世田二組、混日州南出水三組、而每組定代官各二員、十一年、改郡座附代官、曰帖佐組代官、延寶三年二月、令帖佐組混國分組墾田捌仟柒佰伍拾斛零、以司掌之、而分二組、曰、新田方・古田方、前此府下醫師鮫島加心、以其所食

祿拾伍石貳斗肆合捌勺玖撮一、施ニ諸萩原天神一、又以ニ拾伍斛貳斗玖合伍撮一施ニ野木藥師一、請下其所レ併參拾斛肆斗壹升三合玖勺肆撮、年輸ニ官倉一、永給中神祭佛餉、及修理料上、是年四月、命混ニ表方一、如ニ其所一請、七年五月、先レ是（爲ニ寬文中事一）大乘院主僧政眞弟子、捐ニ師遺金一、新作ニ仁王門一、（舊葺以レ茅、易以ニ板葺一）又以ニ餘金一買ニ府士祿參拾斛貳合捌撮一、亦請下年輸ニ官倉一、永給中修理料上、至レ是命混ニ表方一、亦如レ所レ請、天和元年冬、重敎光東所ニ與闢一田、凡穫ニ參萬肆仟參佰玖拾斛零一、二年七月、公召ニ御組頭禰寢八郎右衞門（後改ニ丹波一）淸雄於前一、口親命預ニ聞封內勸農及租税事一、八月二日、又命ニ御物方（今御勝手方也）御家老島津帶刀久元一、爲ニ之總督一、令下及ニ淸雄一偕議行上レ之、於レ是建ニ署於役宅一、（此云ニ役屋鋪一）四日命ニ其署一、曰ニ惣郡座一、而郡座及代官座亦並隷焉、而擢ニ筆者一兩員一、令ニ之給事一、此月併ニ三組一爲ニ一組一、省ニ代官員一、更爲ニ四人一、令下以掌中收ニ拾貳斛零租一事上、謂ニ之表方代官一、蓋慈眼公廩入之遺制、而中謂ニ御郡代方、及御國仕方一、（卽今御勝手方）者、亦應レ是也、三年七月七日、命ニ表方及二丸廩入一、（世子料也）隷ニ惣郡座一、使ニ淸雄領一レ之、前レ此置ニ廩入筆者及手代一、至レ是減省、二十日令レ殖ニ楮於封內諸邑一、使ニ松下五郎右衞門等一爲ニ楮見廻一、徧巡ニ外城一催ニ撿之一、十二月令ニ帖佐組代官、混ニ新田古田二組一、同領ニ其事一、而貞享四年十一月、置ニ新田代官座一、以ニ帖佐組代官東鄕仲右衞門重依一任ニ此職掌一、元祿八年正月、停ニ帖佐組代官一、隷ニ新田代官座一、十一月、改ニ新田代官座一、曰ニ帖佐組代官一、寶永四年十二月、先レ是（承應二年）勝軍院主僧眞尊、爲ニ愛宕堂一遍募ニ府士一、以ニ各所レ施銀一買ニ拾玖斛玖斗捌升玖合伍勺捌撮於木上某一、私輸ニ寺僧一、至レ是寺主以請下年輸ニ官倉一、永給中祀

事上、此月有レ命、亦混二表方一、如二其所一レ請、八年二月、初寛陽公遷二片平毘沙門於護摩所一、至レ是淨國公、命復貿二片平一如レ故、且施二之三斛一、亦混二表方一、令二年給一レ之、享保七年、間歲諸顯職催二講于磯天神一、混二各所一レ投、買二拾玖斛於川上某一、年輸二社司一、至レ是九月、國老承二淨・宥二公、及月桂君旨一、亦混二表方一、永給二紀事一、十一年三月、初大玄公時、創二月船寺一、使三僧愚門爲二之住持一、愚門請レ命、以二所一レ貯銀一、買二貳拾斛壹斗漆升漆合漆勺壹撮於鮫島某一、故混二表方一、年々給二寺主一、亦如二其請一、間歲一乘院主僧堯周、請下建二智慧光院一、永爲二宿主一、買二陸拾玖斛玖斗玖升玖合玖勺壹撮於府下士祿一、以輸二官倉一、年年給中寺料上、是歲八月、命混二表方一、亦如二其請一、十二年冬大完、于レ時所レ謂表方、混下諸寺社所二稟輸一租上、總計拾貳萬參佰漆拾壹斛玖斗肆合漆撮、其後大乘院主僧盛嚴、亦請二于官一、以二其餘銀一買二肆拾玖斛伍斗壹升貳合一、年々輸二官倉一、永給二之於善光院一、故延享元年六月、命混二表方一、如二其所一レ請、又大乘院主僧盛有、退二老於威光院一、爲二摩利支天一、買二府士祿肆拾貳斛於家村某一、請下輸二官倉一、年々給中寺產上、於レ是明和五年七月、命混二表方一、亦如二其請一、而至二寛政七年一、代官上斛所レ載表方、則拾貳萬仟佰玖拾斛玖斗參合漆勺捌撮、於二其中一拾貳萬斛貳斗捌升貳合參撮爲二拾貳萬斛稟入一、而護摩所領貳佰漆拾漆斛貳斗陸升伍合壹勺、佛餉料曹源君貳拾玖斛貳斗壹合肆撮、淨國公・宥邦公・慈德公・圓德公、各佰伍拾斛、其他萩原天神・野本藥師仁王堂・後迫愛□・片平毘沙門・大磯天神・月船寺・智惠光院・善行院・威光院領等、皆如レ載レ前、所レ謂國分組・帖佐組、按二代官疏一、其所二以名一、則由下平重方等所二墾闢一、始上レ自二帖佐一

云、然季安按、國分乃貫明公所レ居、而當時廩入有二拾貳萬斛一、帖佐亦松齡公所レ居、而當時廩入有二捌
萬斛一、終二二公世一、亦其收二出物等一、猶二在世時一、則觀下元和四年、國分士人坂元彥右衛門等收二出銀一、六
年三月、帖佐支配所授目錄之類上、可二概知一也、且據三國分組既有二吉田方一、則雖下上疏曰中所二墾闢一由上
自二帖佐一、因二其地舊係二二公廩入一、以各存二其舊名一、却似レ有レ謂、而如二國分一、寬永十三年、寬陽公爲二
世子一、欲下修二築新城一徙以居上レ之、既稟二覇府一、雖レ得二其命一、遭二慈眼公病不一レ起、而不レ果焉、後至二明
曆・萬治之際一、曰二御鷹方伍仟斛一者、即國分組廩入云、延寶中則國分組、總計捌仟漆佰伍拾斛零、天和
二年、禰寢淸雄之閑二勸農一、亦稟二于公一、且專盡二力乎國分組一、每二往還一輙給二馬一疋一、屢莅レ監之、或多
齎レ鍬、或齎二菅笠一、頒二之貧民一、令三以勤二耘耕一、遂聞二惣郡事一云、而享保六年、淨國公老二於磯館一、
取二諸國分組一、凡壹萬伍仟石、十二年、丈完所二總計一、國分組捌仟漆佰貳拾伍斛壹斗玖升陸合參勺捌撮、
磯附廩入漆仟玖佰捌拾漆石捌斗零、老公廩入壹萬壹斛陸升零、延享三年、宥邦公告レ老、亦取二諸國分
組一、如二淨國公例一、蓋皆似レ襲二貫明公遺蹤一、而至二明和八年一、大信公時、命割二其壹萬斛一、隷二御納戶一、併
レ前貳萬斛、天明八年、公既告レ老、割二其貳萬斛一、以二壹萬五仟斛一、供下償二上方償金一料上、令レ授二表方一、
今謂二之國分組廩入一、以二其所レ餘五仟斛一爲二御鷹方一、故今謂二之御鷹方伍仟斛廩入一、隷二御納戶一如レ故、
而寬政七年上疏、則國分組總計捌仟漆佰貳拾捌斛捌斗參升玖勺漆撮、於二其中一諸所二沒入一、漆拾捌斛伍
斗伍升貳合漆勺壹撮、月桂君佛餉料佰斛、又今有二御納戶附廩入一、其總計則肆仟貳佰貳拾捌斛貳斗伍升

肆合參勺貳撮、於其中所發開、凡貳仟肆佰肆拾漆斛伍升捌勺貳撮、他皆諸所買若沒入、詳見上疏、然略其由、季安按、貞享元年、寛陽公命禰寢清雄以出水租價、及牛馬出銀、買諸士錄、名用心高、混帖佐組、三年七月、公命清雄、凡惣郡座所買租入、皆勿出物、如御納戸所買入高云、據此御納戸買入、始乎貞享以前明矣、所謂用心高、享保竿有曰助用高者、疑當之否、後曰御內用高者、應必此也、書竢識者爾、所謂帖佐組、寛文始則參萬肆仟斛零、至享保竿、爲五萬貳仟貳佰玖拾斛玖斗漆升貳合壹撮、而寛政中則拾萬伍佰肆拾六斛漆斗貳合陸勺漆撮、於其中漆萬仟佰伍拾陸斛貳斗陸升玖合捌勺玖撮爲帖佐組廩入、陸佰肆拾伍斛漆斗壹升漆合參勺陸撮爲享保墾田、壹萬漆仟陸佰玖斛壹斗陸升貳合伍勺陸撮亦爲墾田、參佰陸拾參斛貳斗貳升陸合捌勺漆撮爲尾畔墾田、參仟玖佰陸拾漆斛漆斗漆升壹合壹勺玖撮爲申歲所買、參仟參佰陸拾捌斛玖斗陸升漆勺爲內用方、參仟肆拾斛肆斗捌升陸合壹勺爲諸士沒入、而佛餉料、則佰斛爲淨岸君、佰漆拾斛爲慈眼公、貳拾伍斛爲月桂君、又參拾斛給彌勒院、貳佰斛給壽國寺、其他國母翁主食料、及諸顯官職祿、致仕食料、皆取諸帖佐組、因歲損益、則貳仟斛爲御部屋君、貳仟陸佰斛爲御內證君、而玉仙・心鏡兩翁主爲各參佰斛、爲市田執政（非常職祿）壹萬漆仟佰參拾陸斛爲諸職祿、肆佰斛給島津幽翁・島津嘯山・宮之原春山・川上賴母各佰斛、命終身食云之類、此也、所謂享保墾田、原其所肇、享保班田既訖、多諸士所沒入祿、故十分之、命諸士許其二、斛別值銀佰貳拾錢、復爲士祿、而值總計銀

拾玖貫錢（謂二之十分二上地申受一、先レ是申受價錢四十錢爲レ當、而享保中、世間高價佰二三拾錢、至二五六拾錢一、故二三倍舊値一定レ之云）乃命二郡奉行一、令三以二墾田一、既而費多、假二帖佐
組一、得二以成一レ功、故令下其租入混二帖佐組一、年々償上レ費云、御内用方不レ詳二其首一、然代官相傳、墾二田於
宮内原一、（享保竿爲二參拾參石捌斗捌升貳合壹勺六撮一）買二其租入一、以買二士祿一、混二帖佐組一、謂二官米之一、令三以レ時補二云、享保竿内
用廩入、既有二伍佰拾參斛伍斗捌升伍合玖勺肆撮一、又申歲買入亦相傳爲二元文五年中所一レ令レ買云、享保
竿既有レ曰二新買入一者、凡佰漆拾參斛捌斗漆升陸合漆勺肆撮二、疑亦混二合于此一、又有二伍萬斛廩入一、乃世
子料、而曰二御部屋方一者、此也、寛文三年、泰清公之爲二世子一也、寛陽公賜二四萬斛一、爲二世子料一、
使三攝宗勳掌二之出納一、後至二大玄公爲二世適一、亦謂二之二丸廩入一、天和三年七月、命二禰寢清雄一、隷二惣
部座一、命二以掌一レ之、如二表方例一、（斛高未考）元祿七年、淨國公之爲二世子一也、大玄公賜二參萬斛一、爲二世子料一、
八年五月、取二其參萬斛一、更賜二伍萬斛一、謂二之伍萬斛方一、享保竿則伍萬貳仟陸佰壹斛肆斗捌升壹合漆
勺、而至二十五年一、命隷二表方一、混二御續料一、至二元文五年一、爲二伍萬肆佰玖拾斛零一、是年七月、慈德公之
爲二世子一也、命定二食料一、限二伍萬斛一、而世子不レ立、則混二表方續料一如レ故、以二其所一レ餘、隷二帖佐組一、故
世子料若有二損田一、宜レ割二帖佐組一、以塡中補之上、由レ是自二寛延三年一至二寶曆三年一、供下償二上方債一料上、四
年秋、復混二表方續料一、天明二年、今溪山公之爲二世子一也、割二其中參萬斛一、爲二世子料一、餘貳萬斛備二表
方料一、六年七月、命二諸官代一、皆加二御字一、曰二御代官一、七年七月、大信公告レ老、併二伍萬斛一、爲二御隱
居料一、八年六月、割二貳萬斛一、復隷二表方一、寛政六年五月、復還二壹萬斛於表方一、備二上方償債料一、於レ是

併ニ參萬斛一、皆隷ニ表方一、而老公乃取ニ貳萬斛一、以レ故七月、命謂ニ之貳萬斛廩入一云、七年、上疏則貳萬斛、廩入爲ニ貳萬斛貳合貳勺一、又參萬斛廩入、爲ニ參萬斛貳撮一、他詳ニ享檢篇一、可ニ併觀一焉

復封第二十四

我藩三州、雖ニ舊封一也、自ニ文祿制一、太閤少削焉、慶長四年、松齡公以ニ朝鮮功一、復封ニ於出水高城二郡、及封内所レ除地一、凡稅額五萬石、於レ是公得ニ全復ニ兩州一郡一、旣而五年九月、公應ニ西軍一、及ニ神祖一戰ニ于關原一、八年和成、於レ是國老伊勢貞成・本田親正、承ニ公旨一、使ニ川上掃部助・本田助允親貞・帖佐彦左衞門宗光等、莅ニ正二郡經界一、今其故簿在ニ親貞後一、推レ此益封地應ニ皆然一也、此年八月、長谷場越前守宗純、載ニ三州稅額於其所レ著翰游集一、後曰、薩州拾四郡、田・畑・山・桑・漆・硫礦役總計參拾壹萬肆仟捌佰伍石玖斗壹升漆合五勺、大隅八郡田・畑・桑役總計拾漆萬捌佰參拾參石玖斗陸升陸合、日向諸縣郡田・畑・桑・楮役總計拾貳萬玖仟玖佰陸拾漆斛肆斗參勺肆撮、通計拾萬伍仟陸佰漆石貳斗捌升參合參勺玖撮、田賦集伍千以下、作ニ捌佰陸拾參石零一又享檢簿擧ニ三州享年一、載ニ參石以下一、曰ニ陸斗貳升參合壹勺一 足ニ以補一耳、而其田則參拾伍萬捌仟伍佰玖拾貳石陸斗捌升玖合漆勺、亦捌仟以下作ニ玖仟陸佰石零一 其畑貳拾肆萬肆仟參佰捌拾壹石壹斗陸升貳合肆勺參撮、亦肆仟以下、作ニ參仟陸佰貳拾石零一 其硫礦・桑・漆・楮役貳仟陸佰參拾肆石肆斗參升壹合貳勺參撮亦肆石以下作ニ貳石零一 云、是則知下寫ニ文祿籍一而所上レ載焉、又壹說、通計陸拾壹萬斛、以ニ高拾斛一爲ニ貳拾捌苞一、總計佰漆拾壹萬貳仟拾漆苞云、見ニ二十九年三月二十七日書一云 按、親貞等之丈ニ量出水等一、亦因ニ京制一者明矣、間雖ニ少異一、大抵同矣、亦載ニ于此一、以備ニ異聞一云、凡段別所

穫米、上々田(田賦集作上田)壹斛陸斗、上田(亦作中田)壹斛肆斗至伍斗、(肥後豊後上田、皆壹石參斗、見制度通、後倣此)中田壹斛參斗至肆斗、(肥壹斛貳斗、豊壹斛壹斗)下田壹斛壹斗(肥同之、豊玖斗)至參斗、下田捌斗至壹石、(肥壹石)荒田(田賦集下下田)伍斗至陸斗、上畑壹石貳斗、上畠壹石至伍斗、(肥捌斗、豊壹石)中畑捌斗至壹石、(肥柒斗、豊捌斗)下畑五斗(肥同之、豊陸斗)至捌斗、(肥下々畑參斗伍升)山畑參斗至肆斗、(肥山畑分上中下、而上則參斗五升、中貳斗伍升、下壹斗伍升)荒畑貳斗至參斗、宅地壹石、謂之斗代、地有肥磽、因田品異、以此乘彼、佗可推量、又田畑外、山有山税、川有川税、浦有浦税、或曰山桑役、或曰漆役之類、是也、其桑大抵一根養蠶、收綿三匁、而至拾匁、爲米五升、漆亦大抵一根收三匁、易米爲伍升、(一說百目爲米四升)又屋久種子等島則曰山役・川役・浦役・又硫磺等島曰硫磺役、日州曰楮役、皆賦其税、謂之諸役高、凡税桑漆見延喜式、税桑麻見續紀、而後世所謂上木高之類、應必本乎此、今季安按、京制一町所穫米上々田拾陸石、即時高也、又延喜式上田所穫米貳拾伍斛、亦應時高也、校之京制、則文祿高減於延喜高者、爲玖石矣、而以京租法(柒斗代)乘其高拾陸斛、則領主收拾壹斛貳斗、而農夫取肆石捌斗、又延喜租、(五分之一)乘其貳拾伍石、則上收五石、而下舍貳拾石、但於其地、廣於文祿町者貳畝拾玖步零、故文祿高本減於古、既如算上、而租強於古者陸斛貳斗矣、雖固調庸除、如絹布、猶可知其爲重歛焉、古之調庸、詳見本篇、可併考也

西藩田租考卷上終

西藩田租考 下

目次

西藩田租考卷下

琉租第二十五

慶長十四年、琉球既服、樺山久高等、乃使本田伊賀守親政・蒲地休右衞門等留戍琉球、而久高及諸將、以尙寧王還自琉球、於是七月、神祖賞其功、七日、賜慈眼公書、使領琉球國、愈布政令、故是歲乃遣上井次郎左衞門尉里兼、及阿多某等、往正經界、里兼等至、與親政等議、丈量沖繩島、明年三月、丈完籍成凡七冊、所謂琉球先竿云、是也、十月、復遣鹿島駿河守國重・毛利內膳正元親・市來小四郞家治・面高連長坊俊昌・村尾右衞門兵衞重昌・至自江戶、應別赴之伊地知勝左衞門重房・丸田三右衞門・宇都八兵衞等十四人、爲竿奉行、及瀧聞傳右衞門・野村玄蕃助・有馬主膳正純盛・有馬二右衞門・德永源兵衞・押川權兵衞・三宅七兵衞國廣・井尻少右衞門・南雲順右衞門・海江田十兵衞・宮內源介・長田乖右衞門・末廣甚兵衞・東鄕監物・池上傳兵衞・田實彥右衞門重政・河野與左衞門通之等百六十八人、如先島、分丈量之、又別遣黑葛原吉左衞門・宇田小左衞門等、爲代官、莅鎭大島、十二月、重房等開帆德島、歷永良部、二十一日抵那覇、十六年二月、抵計羅摩、五日抵大平島、六日抵都島、七日始莅田畝、遍正經界、島民懾望莫不股栗、十三日正中伽泊、二十六日抵八重山、二十九日往皆舍

于石垣、三月元親抵與那國、俊昌抵波照間、五日重房等莅正八重山、七日還舍石垣、九日國重等往正湖見、皆水田而無陸田焉、四月、公又遣相良勘解由賴豐・有馬次右衛門重純、率根占士人蜂須賀次右衛門・脇田三左衛門・脇田金兵衛等數十人、往鎭德島、掌租稅事、七日賴豐出海、赴于面繩、十一日重房等抵嘉比良、十九日往正多良摩、丸田某等正水那島、五月、各島丈完、田籍皆成、七月四日、皆發那覇、八月八日同歸本府、十日遣朝、就岩切彥兵衛國信、進檢地帳、凡沖繩及先島總計稅額捌萬玖仟捌拾陸斛、一說、十七年竿琉球稅額則拾壹萬參仟百（本百或作四十）壹石玖斗陸升陸合壹勺伍撮云、蓋應併道島計之也、然當時猶未丈量、疑追書耳、但其地則因京制、以六尺五寸為步、三十步為畝、而所謂壹斛、以籾壹斛伍升為高壹斛、猶我藩制（與二十七年竿同）云、於是九月十日、國老樺山久高・比志島國貞・町田久幸・伊勢貞昌、令於三司官、定沖繩・計羅摩・與部屋・伊是・伊慧島・戸無島・粟島・久米・八重山・宮古島等每歲應輸調物、曰、芭蕉布參仟端、上布陸仟端、下布壹萬端、唐苧仟參佰斤、綿參貫目、棕櫚赤黑綱各百房、（長十六尋）莚參仟捌佰枚、（就中三佰枚為長席）牛皮貳佰張云、十九日久高・久幸・國貞・貞昌復奉旨、授三司官書、使割惡鬼納及諸島稅額捌萬玖仟捌拾陸斛、以伍萬斛為王廩入、自餘頒給諸臣、猶或所餘、宜混廩入供王雜費、又裁制令十五章令、亦歸布於國、二十日尚寧王、及三司官等、咸聽其令、乃呈誓表各三章、既而遣還、二十七日尚寧王等、開帆山川、歸琉球國、凡居鹿府者三年矣、十八年六月朔日、國貞・貞昌・重種、復令於三司官、致以布十五條、其略

曰、請停調物更輸其價、故許混合輸銀參拾貳貫錢。宜以每年會計焉、但仟斛、別須賦浩營夫、必出壹人、元和三年、國老復令琉球、停輸調價、更石別出銀捌分、於銀難出聽易米輸、如其運漕、宜遣之船、令所謂出物、始于斯云、六年、國老復令琉球、所輸出物、宜待歲移文、以運漕之。七年、川上久國奉旨、使鮫島孝左衛門宗昌爲筆奉行、有馬丹後守純定爲附役、往丈量大島鬼界島等、凡五島稅額、總計肆萬參仟貳佰伍拾漆斛漆斗陸升參合參勺肆撮、亦以粗壹萬斛伍升爲高壹斛、所謂元和十年竿云者、此也、而其五島、則大島。喜界島・永良部島・德島・與論島也、遣川上久國偏歷道島、抵于琉球、命租調事、寬永元年六月、久國還自琉球、是年、大島等始貢于本府、五年、先是所檢定都島等稅額、頗有誤矣、於是命三司官、徵所既授目錄、五月十三日、命新納勘解由久宜・本田伊豫守親正・町田縫殿介久□等正其誤、刪陸仟肆拾石玖斗貳升肆合貳勺於宮古島、所改定高、凡捌萬參仟捌拾肆斛玖斗肆升五合捌勺陸撮、裁書授之、六年八月二十一日、公賜尚豐王親翰、使以領之、曰、沖繩伍萬漆仟玖拾石玖斗參升、所謂本琉球此也、久米島參仟貳佰伍拾壹斛肆斗漆升、計羅摩島佰捌拾捌石壹斗貳升陸合、八重山島伍仟玖佰拾石玖斗參升肆合、粟國島陸佰漆拾伍石捌斗伍升、戶無島肆拾壹石肆斗肆升、伊惠島參仟參佰漆拾斛玖斗參升、伊是島陸佰玖拾陸石貳斗貳升、與部屋島伍佰石壹斗玖升、通計捌萬參仟捌拾伍斛參斗壹升、是爲琉球高、九年十月、國老久國有所建白、乃遣國分士有馬丹後守純定、爲代官於大島、出水士某爲代官於德島、

先是遣名族士、逋闕稍多、今擇兩士、皆練達吏務、特精租調故也、十一年五月、國老貞昌就閣老酒井忠勝開于大家、以琉球高、凡拾貳萬參仟漆佰拾貳石玖斗貳合壹撮、（一下漆佰以下不書、又慶長日記凡九十三島、稅額總計拾參萬石云）閏七月十六日、大猷廟賜公親翰、使以領薩隅、及日諸縣總計陸拾萬伍仟斛零、及琉球拾貳萬參仟漆佰石焉、昔日八月四日、蓋將期其日授之、而先賜故也、謂之御朱印高、凡琉球稅、混合藩額、首于斯云、通計漆拾貳萬捌仟漆佰也、十二年八月、公命有司、量實租入、不及御朱印、故令更議塡其所不足、乃十日、國老島津久慶。川上久國。山田有榮・三原重庸・鎌田政統、令三司官等、定慶長高佰斛別益漆斛參斗陸升伍合壹撮、又始上木稅、凡每一畝、芭蕉地輸米貳升伍合、唐芋地輸伍升陸合漆勺、牽藺地輸肆升、又每一根桑輸米陸合漆勺伍撮、棕櫚輸漆合伍撮、漆輸參合、鹽屋一戶輸貳撮、謂之上木高、所謂慶長高捌萬參仟捌拾肆石玖斗肆升伍合捌勺陸撮、至是所益高陸仟佰拾玖石貳斗壹升伍合捌勺捌撮、上木高仟陸佰漆拾玖石漆斗參升玖合伍勺參撮、通計玖萬捌佰捌拾參石玖斗壹合貳勺漆撮、是歲二月令於封內、計牛馬數、皆給之札、始稅匹別、輸銀貳分伍釐、（後減二定貳分一云、年月未考）前此丈量道島、所定租額、未至精覈、故公賜王書、雖略不載、至是特示之曰、鬼界島陸仟玖佰參拾貳斛肆斗、德之島壹萬玖斛漆斗、大島壹萬肆佰伍拾伍斛伍斗、永良部島肆仟佰伍拾捌斛伍斗、與論島仟貳佰漆拾貳石伍斗、以上五島通計參萬貳仟捌佰貳拾捌斛陸斗、校上元和高、則所減壹萬肆佰貳拾玖斛壹斗陸升也、萬治二年、丈量三州、則遣肝付三郎兵衛兼親、及附役肥後三左衛

門・宮里村右衛門・中馬紹宅・吉見八右衛門・赤塚種右衛門一、如二大島鬼界島一、與二前代官川上右京等一議、丈二量田畑一、三年夏皆訖、還レ府、大島水陸田畝、及宅地・唐芋・芭蕉・室蘭等土、總計仟玖佰肆拾參町伍段捌畝貳拾陸步、厥籾大豆肆萬參仟伍佰參拾捌俵貳斗陸升漆合、鹽濱肆段陸畦總計稅額壹萬肆仟伍佰貳拾斛壹斗貳升玖勺伍撮、喜界島水陸等田畦總計仟貳佰參拾伍町參段伍畝貳步、厥籾大豆萬仟肆佰陸拾貳俵壹斗陸升陸合、總計稅額拾壹萬肆佰捌拾漆斛肆斗玖升壹合肆勺參撮、德之島水陸諸田畝總計貳仟陸拾參町捌段漆畦貳拾捌步、厥大豆肆萬仟玖拾漆俵貳斗貳合肆勺陸撮、總計稅額壹萬參仟陸佰玖拾玖斛壹斗玖升貳合捌撮、（別有二貳撮不足一）永良部島水陸諸田畝總計仟伍佰伍拾漆町貳段陸畝拾步、厥籾大豆壹萬漆仟肆佰捌拾陸俵壹斗伍升伍合貳勺肆撮、總計稅額伍仟捌佰貳拾捌斛捌斗壹升肆合伍勺壹撮、與論島水陸諸田畝總計參佰參拾捌町陸段貳拾貳步、厥籾大豆漆仟貳佰捌俵玖升漆合壹勺漆撮、總計稅額貳仟肆佰貳斛漆斗伍升玖合壹勺捌撮、以上道島諸田畝宅地通計漆仟參佰參拾捌町陸段捌畝貳拾捌步、厥籾大豆拾肆萬漆佰玖拾參俵壹斗捌升漆合捌勺漆撮、通計稅額參萬（或作肆万）陸仟玖佰參拾捌斛（或作二肆石一）肆斗參升（或作二伍斗柒升一）捌合捌勺漆撮、琉球總計玖萬捌佰拾參斛玖斗壹合貳勺漆撮、所レ謂壹斛仍二慶長舊一、皆籾壹斛伍升云、而併二諸三州額一、漆拾肆萬漆仟佰玖拾參斛肆斗貳升肆合參勺貳撮、但三州所レ謂壹斛籾玖斗陸升也、詳見二萬檢篇一、後降二享保一、年餘二六十一、地異二肥磽一、民愈凋疲、於レ是七年九月、國老種子島彈正奉レ旨、命二有司一丈二量三州一、十月令二於琉球一、亦正二經界一、三司官等議、以爲頃歲荐饑、繼以二冊使一、民益困

矣、而未レ幾、加レ之以三衆官莅丈ニ量田畝一、則國民動搖、不レ任ニ愁痛一、乃具レ疏請ニ于本府一、願優ニ其期一、延ニ四五年一以起レ之、國老彈正下ニ有司一議レ之、議者皆曰、效ニ寛永例一、凡壹石別各增ニ其半一、（寛永例、每壹石增ニ菜石參斗陸升五合壹撮一、此每壹石增ニ參石陸斗捌升貳合五勺一）以定ニ歲額一、則不レ至三衆官往勞ニ疲民一、而慶長後雖ニ小墾殖一、亦輸ニ其租一、爲ニ琉球一謀、莫レ善ニ乎斯一、遂以從レ之、固本錄所レ謂居檢地是也、十二年六月、國老彈正令下算ニ諸島一以益中稅額上、如ニ惠平屋島一、則慶長籌載ニ伍佰斛壹斗玖升參合伍勺一、至ニ寛永籍一、益ニ參拾陸石捌斗參升玖合參勺一、又稅ニ草樹一、（謂ニ上木高一）益ニ肆斛伍斗玖升貳合漆勺肆撮一、至レ是益ニ拾玖石玖斗肆升伍合參勺陸撮一、通定ニ伍佰陸拾壹斛伍斗漆升玖勺一、伊是島、慶長籌載ニ陸佰玖拾陸斛陸斗貳升壹合一、寛永籍益ニ伍拾壹斛參斗陸合伍勺壹撮一、上木益ニ貳石貳斗漆升參合肆勺參撮一、至レ是益ニ貳拾漆斛陸斗貳升陸合壹勺肆撮一、通定ニ漆佰漆拾漆斛捌斗貳升陸合漆勺捌撮一、伊惠島、慶長籌載ニ參仟參佰漆拾石玖斗參升捌合一、寛永籍益ニ貳佰肆拾捌斛貳斗陸升玖合玖勺漆撮一、上木益ニ貳拾參石捌斗參升伍合一、至レ是益ニ佰參拾四斛壹斗伍升伍合陸勺一、通定ニ參仟漆佰漆拾漆斛壹斗玖升捌合參撮一、沖繩島、（本琉球）慶長籌載ニ參仟參佰漆拾斛玖斗參升捌合、寛永籍益ニ貳佰肆拾捌斛貳斗陸升玖合玖勺漆撮一、上木益ニ貳拾參石捌斗參升伍合一、至レ是益ニ貳仟佰玖拾斛伍斗捌勺捌撮一、通定ニ陸萬肆仟肆佰玖拾石壹斗壹升漆合陸勺貳撮一、計羅摩島、慶長籌載ニ佰捌拾捌斛捌斗捌升參勺一、寛永籍益ニ拾參斛玖斗陸合陸勺肆撮一、上木益ニ貳斗漆升漆合壹勺玖撮一、至レ是益ニ漆斛肆斗漆升伍合六勺參撮一、通定ニ貳佰拾斛肆斗漆升玖合漆勺陸撮一、戶無島、慶長籌載ニ肆拾壹斛肆斗肆升肆合伍勺一、

寛永簿益ニ參斛伍升貳合參勺玖撮一、上木益ニ陸斗伍升捌合壹撮一、至レ是益ニ壹石陸斗陸升貳合捌勺參撮一、通定ニ肆拾陸斛捌斗壹升漆合漆勺參撮一、粟國島、慶長簿載ニ陸佰漆拾伍斛捌斗伍升陸合一、寛永籍益ニ肆拾玖石漆斗漆升陸合捌勺漆撮一、上木益ニ壹斛捌斗參合伍勺玖撮一、至レ是益ニ貳拾陸斛漆斗捌升漆合捌勺伍撮一、通定ニ漆佰伍拾肆斛貳斗貳升肆合參勺壹撮一、久米島、慶長簿載ニ參仟貳佰伍拾壹斛肆斗漆升玖合一、寛永籍益ニ貳佰參拾玖石肆斗漆升壹合捌勺一、上木益ニ佰捌拾陸斛漆斗伍升玖合壹勺陸撮一、至レ是益ニ佰參拾伍斛肆斗參升壹合陸勺漆撮一、通定ニ參仟捌佰拾參石壹斗肆升壹合陸勺參撮一、宮古島、慶長簿載ニ壹萬仟貳佰捌拾捌斛壹斗貳升伍合玖勺一、寛永簿益ニ捌佰參拾壹斛參斗漆升壹合漆勺捌撮一、上木益ニ肆佰伍拾捌斛漆斗玖升肆合玖勺一、通定ニ壹萬貳仟玖佰拾漆斛伍斗捌升參合漆勺漆撮一、八重山島、慶長簿載ニ伍仟玖佰捌拾斛玖斗參升參合陸勺陸撮一、寛永簿益ニ肆佰肆拾石肆斗玖升陸合肆勺陸撮一、上木益ニ貳佰拾伍斛捌斗玖升玖勺肆撮一、至レ是益ニ貳佰肆拾肆斛肆斗壹升玖合參勺伍撮一、通定ニ陸仟捌佰捌拾壹斛漆斗肆升肆合壹撮一、凡十島、慶・寛兩次、及上木税所レ益、總額玖萬捌佰捌拾參斛玖斗壹合貳勺漆撮、至レ是所レ益總計參仟參佰肆拾陸斛漆斗玖合陸勺漆撮、總計所定歳額玖萬肆仟貳佰參拾斛漆斗玖勺肆撮、是月十五日、國老彈正裁ニ之目錄一、以授ニ琉球攝政三司官一、但其壹石亦爲ニ糗壹石伍升一、猶ニ慶長例一、人員總計拾貳萬玖仟陸佰肆拾貳人、（男伍萬柒仟柒佰捌拾伍人、女柒萬壹仟玖佰伍拾柒人）牛馬貳萬陸佰漆拾伍疋、（馬捌仟參佰肆拾捌疋、牛壹萬貳仟參佰貳拾柒疋）凡御前帳及總目帳等貳佰玖拾冊、皆倣ニ慶長例一云、是爲ニ中山王領一、十三年六月、先レ是遣ニ郡奉行田中孝右衞門一、奉ニ寄筆、

者園田覺之助・筆算中野覺右衛門・（牛根人）鮫島伊左衛門・（帖佐士人）鎌田宇右衛門・（田布施人）定蒔見蘭牟田次左衛門・（蒲生士人）
井手籠與兵衛・（帖佐士人）竿取久米太郎助・（出水士人）坂元平吉一、（大根占士）如ニ大島名瀨一、（爲ニ十一年十二月事一）又遣ニ郡奉行市來新右衛門一、
帥ニ定筆者松岡覺兵衛・筆算川內淸左衛門・（蒲生士人）野村五郎左衛門・（同上）肥後甚右衛門・（高尾野士）寄蒔見黑木吉左衛
門・（高原士人）古川孝右衛門・（栗野士人）竿執神崎休左衛門・（內ノ浦士）塚元作太夫一、（水引士人）如ニ大島倭濱一、各分ニ其道一、遍丈ニ量之一、
此月皆還、乃命ニ郡奉行津留伊兵衛・仁禮孫左衛門・吟味役（御勘定所）木場次郎兵衛・代官榎本新兵衛・御勘定
所筆者西川次郎左衛門・竹之內宇左衛門一、校定淨寫、始ニ十六日一、訖ニ于七月二十五日一、凡所レ成田籍、
（即御前帳）佰四十一冊、水陸田畝、及宅地（宜ニ唐蕃芭蕉室蘭菓木等一地）總計貳仟參佰伍拾陸町參段捌畝拾漆步、（別有ニ荒地貳拾肆町壹段參畝貳拾參步一）
籾大豆總計伍萬參佰拾肆俵貳斗陸升陸合、鹽濱總計伍段陸畝貳拾捌步、稅額總計壹萬陸仟漆佰漆拾捌斛
貳斗玖合伍勺玖撮（栽レ中貳樣蕉芋〇桑樹貳千貳百肆拾肆本、櫻樹捌百五拾陸本、黑櫻肆佰玖拾肆本、大唐竹伍佰伍本、小唐竹肆拾本、宅地肆仟參佰參拾捌區）人員總計貳萬參仟陸佰伍口、
（男壹万仟柒佰貳拾壹口、女壹萬仟捌佰捌拾肆口）牛馬參仟參佰陸拾伍匹、（牛貳仟佰肆拾玖匹、馬仟貳佰拾陸匹）而於ニ其縣一、則參仟肆佰拾參斛玖斗伍升壹合
肆勺參撮爲ニ笠利間切一、參仟貳佰伍斛捌斗玖升肆勺玖撮爲ニ名瀨間切一、貳仟佰玖拾陸斛參斗玖升壹合肆
撮爲ニ東間切一、貳仟貳佰參拾玖斛捌斗壹升參合參勺肆撮爲ニ燒內間切一、仟貳佰拾陸斛參斗漆升漆合壹勺
肆撮爲ニ住用間切一、貳仟陸佰伍斛肆斗伍升伍合貳勺陸撮爲ニ西間切一、又遣ニ仁禮孫左衛門等一、如ニ喜界島・
德之島・沖之永良部島一、各奉行一員、屬吏如レ前、往丈ニ量之一、喜界島田籍凡貳拾肆冊、水陸田畝、及宅
地總計仟陸佰漆拾町壹段玖畦貳拾漆步、（別有ニ荒地貳拾玖町參段柒畝貳拾肆步一）籾豆總計參萬貳仟伍佰玖俵壹斗捌升肆合、稅

額總計壹萬捌佰參拾陸斛伍斗捌合伍勺漆撮、（椶櫚佰柒本）人員總計捌仟捌佰伍拾捌口、（男肆仟肆佰拾壹口、女肆仟肆佰拾柒口）牛馬總計貳仟伍佰肆匹、（牛仟肆佰參拾貳匹、馬仟柒拾貳匹）而於二其縣一、則仟捌佰玖拾參斛肆斗捌升漆合陸勺貳撮爲二荒本間切一、仟伍佰伍拾石壹升漆合壹勺肆撮爲二伊砂間切一、仟漆佰漆拾陸斛貳斗伍升伍合貳勺肆撮爲二東縣間切一、仟陸佰玖拾斛貳斗肆升壹合玖勺爲二志戸桶縣間切一、仟捌佰陸拾玖斛壹斗陸升肆合漆勺陸撮爲二西間切一、貳仟伍拾漆石參斗肆升壹合玖勺壹撮爲二灣間切一、德之島田籍凡漆拾貳册、水陸田畝、及宅地總計貳仟佰拾肆町壹段拾陸步、（別有二荒地漆拾壹町捌段漆畦拾貳步一）糭豆總計肆萬伍仟玖佰伍拾伍俵壹斗壹升陸合、稅額總計壹萬伍仟參佰拾捌石肆斗肆升參合捌勺壹撮、人員壹萬漆仟肆佰貳拾參口、（男捌仟柒佰拾壹口、女捌仟漆佰拾貳口）牛馬伍仟漆佰玖拾參匹、（牛參仟捌佰玖拾參匹、馬仟玖佰匹）而於二其中一、伍仟漆佰石參斗捌升玖勺伍撮爲二東間切一、伍仟貳佰肆拾陸石壹斗漆升漆合壹勺肆撮爲二西目間切一、肆仟參佰漆拾壹石捌斗捌升伍合漆勺貳撮爲二面繩間切一、永良部島田籍凡參拾漆册、水陸田畝、及宅地總計仟陸佰玖拾漆町捌段壹畦拾壹步、糭豆總計壹萬玖仟貳佰參拾俵貳斗伍升伍合、稅額陸仟肆佰拾石貳斗肆升貳合捌勺捌撮、人員壹萬捌拾漆人、（男肆仟玖佰捌拾玖口、女伍仟玖拾捌口）牛馬貳仟捌拾伍匹、（牛伍仟玖拾捌匹、馬參佰伍匹）船艇捌拾壹艘、（伍布帆三艘、四布帆壹艘、三布帆七艘、緑舟七拾艘）與論島田籍伍册、水陸田畝、宅地總計肆佰肆拾町捌畦陸步、糭豆總計漆仟貳佰參拾玖俵貳斗肆升漆合、稅額貳仟肆佰拾參斛貳斗參升伍合貳勺肆撮、人員貳仟參佰參拾壹口（男仟貳佰伍拾肆口、女仟柒拾柒口）、牛馬陸佰參拾捌匹、（牛伍佰捌拾柒疋、馬伍拾壹疋）船首肆拾伍艘、（五布帆壹艘、三布帆壹艘、刳舟四十三艘）立網三帖、凡五島通計伍萬仟漆佰伍拾陸斛陸斗肆升玖撮、就レ中肆萬肆仟佰玖拾參斛參斗漆升壹合肆勺玖撮爲二水田一、陸仟玖佰

漆拾陸斛肆斗玖升陸合貳勺爲ニ陸田一、伍佰捌拾斛壹斗肆升玖合伍勺肆撮爲ニ上木稅一、陸斛陸斗貳升貳合捌勺陸撮爲ニ鹽濱稅一、自ニ萬治一後、所ニ益墾一租額肆仟捌佰拾漆斛伍斗參升貳合陸勺伍撮、所レ謂壹石亦糶壹石伍升、而如ニ慶長例一、併ニ之琉球稅額一、總計拾肆萬伍仟玖佰捌拾漆石參斗肆升壹合參撮、所謂享保大御支配、此也

慶検第二十六

文祿丈量、雖ニ京師差徧正ニ經界一、三州班田、猶或未レ均、始ニ于三年九月一、訖ニ于四年二月一、既而四月、（六日）三成家老安宅三河守呈ニ我松齡公一書曰、雖ニ丈完一矣、貫明公及國中士庶農民、莫ニ敢服者一云之類、可ニ併觀一也、是故慶長十六年、慈眼公命ニ脩ニ兵政一、三州諸士所レ食田祿、總計參拾貳萬伍仟伍佰肆拾漆斛伍升漆合伍勺、京制班田匪ニ啻未レ均、地有ニ肥磽一、租亦不レ平、於レ是十月二十三日、國老町田久幸・伊勢貞昌・三原重庸奉レ旨、使ニ野村才右衞門昌綱・野間孫兵衞政貞・長谷場主膳正純常・黑田與左衞門・井尻勝右衞門等一、復ニ私正レ之、謂ニ之內検一、而三州皆始ニ于十一月九日一、至ニ十九年五月一、班田既訖、田籍亦成、謂ニ之十七年竿一、（或十九年）總計稅額陸拾壹萬玖仟伍拾伍斛捌斗壹升、校ニ文祿竿一、則所レ增壹萬參仟佰玖拾貳石壹斗漆升玖合、而薩州則貳拾伍萬陸仟玖佰捌拾石伍斗漆升零、比ニ之京竿一、別所レ減伍萬捌仟貳拾五石參升、隅州則貳拾萬仟參佰拾壹石參升壹合、亦比ニ京竿一、就レ中所レ增參萬肆佰漆拾漆石捌斗伍升玖合、諸縣則拾陸萬漆佰陸拾參石玖斗參升零、亦比ニ京竿一、所レ增肆萬漆佰參

拾玖斛參斗伍升、一說、三州此時總計漆拾參萬貳仟佰伍拾漆石漆斗捌升陸合壹勺伍撮、於其中拾壹萬參仟佰壹斛玖斗陸升陸合壹勺伍撮爲琉稅額云、但諸邑士宅各定伍畝、佰石以上至貳佰斛特定捌畦、皆免租入、亦自斯始也、河島重貯云、所謂壹斛、以籾大豆壹斛伍升準高壹斛、分爲三俵、俵受參斗伍升、（一說此表石三斗、子萬治）所謂參俵壹斛也、舂而去穀、則獲米伍斗貳升伍合、而其租入參斗伍升、則百姓所取壹斗漆升伍合云、倣文祿制、以米壹斛計其稅額、則參拾貳萬伍仟壹斛貳斗伍升零、（一說參拾柒萬玖佰柒拾肆石捌升陸合五勺）而減文祿者貳拾捌萬捌佰伍拾捌斛漆斗伍升云、又以此高比建久高、則建久高舉三州全、如慶長高二州一郡、雖闕四郡、猶益建久者貳萬參仟佰伍拾漆石零、又比諸延喜高、亦非其全、雖失稅額、校前所算、大抵慶長所益亦拾壹萬伍佰玖拾壹石零、而論地廣狹、則延・建田畝廣於文祿者、如言前篇、雖由地闢、然文祿高猶益於慶長者、如上所算、則文祿京制、質諸前後、無一所證、宅地三河所謂士庶農民、莫獨服云、亦似有謂、而今我藩諺謂會計不當者、往往皆曰杙城算、無知其謂、然季安按、文祿竿丈量既訖、而三州皆會杙城淺湯氏、借總計之、詳見前篇、而士庶農民、當時既言莫獨服者、則今諺傳杙城算、似言文祿竿、聊書所疑竢博識爾、其後元和三年二月、大家使本田正純・安藤重信致我公書、徵封國稅額、乃呈以京使所定稅額、於是九月五日、台德廟賜公親翰、封薩隅及日之諸縣郡如故、總計凡陸拾萬伍仟陸佰漆石零、而薩州則參拾壹萬肆仟捌佰伍斛零、隅州拾漆萬捌佰參拾參石零、諸縣郡拾壹萬玖仟玖佰陸拾漆石零、

所謂御判物高此也、但與田賦集小異大同、詳見上註、五年七月、公憂用不足、令於封內、收諸士田祿、凡佰斛以上者二分半、佰斛以下者三分二、而於諸寺、如祈願菩提、亦多準之、其他微祿士人、無緣小寺、悉收于官、時置高奉行、以本田甲斐守親良•佐多越後守忠增•本田新助親□•三原次郎左衛門重貞掌此事云、按、前此佐多忠增、及本田伊賀守親政•市來八左衛門家素等、算諸士食祿、定出兵賦、見慶長十五年四月書、亦應此職也、六年二月計頒粟、弟子丸治介宗辰•伊地知民部少輔重政等爲支配奉行、謂之四分一上地、而其云二分半、則每佰斛致貳拾伍斛云

寬檢第二十七

寬永九年六月、公命復脩兵賦、凡隆拾萬伍仟斛出千貳佰騎、覇府令也、然我藩田租、猶未均平、且所賦陸佰漆拾肆騎、僅踰半賦云、於是乎命吉利下總守忠張•潁娃長左衛門久政•新納右衛門久詮•伊地知四郎兵衛重賢•本田伊豫守親正•相良木工助長信、爲小割奉行、復私正之、明年丈完、野元源左衛門爲綱計近郊伍萬石、猪俣爲右衛門則康•本田木工介親秋•計中郊漆萬玖仟斛、辨官新兵衛新康•烏丸兵右衛門計遠郊貳萬伍仟石、見列朝制度記所謂近中遠支配、而則康等蓋三組代官也、後付十年竿者、亦謂此耳、其地則伍萬仟肆町捌段陸畝零、就中貳萬伍仟捌佰玖拾參町漆段陸畦捌步爲水田地、貳萬仟漆佰貳拾肆町陸畝伍步半爲陸田、參仟參佰玖拾町肆段參畝肆步半爲其宅地、而稅額總計伍拾漆萬貳仟陸佰八石八斗六升六合七勺、就中肆拾漆萬參仟伍佰貳拾參斛漆斗參升爲水田稅、玖萬陸仟貳佰陸

拾石肆斗捌升陸合伍勺爲陸田稅、仟陸佰伍拾玖石壹斗貳升陸合參勺爲上木稅、仟佰陸拾伍石伍斗貳升肆合爲鹽濱稅、校之慶檢、凡所減四萬六千四百四十四石七斗四升四合、校文祿朱印、所減參萬參仟貳佰五拾五石五斗六升零、皆減公隷之、而薩地則貳萬仟佰參拾貳町參段貳畝參步半、其稅額貳拾伍萬肆仟佰拾陸斛玖斗玖升伍合陸勺、校之京檢、所減陸萬捌佰拾捌石陸斗伍合、就中壹萬仟參佰拾陸町捌段肆畝拾壹町步爲水田、其稅額貳拾壹萬貳仟佰陸拾參石捌斗漆合壹勺壹撮、又捌仟參佰拾貳町漆段漆畝貳拾步爲陸田、其稅額肆萬參佰陸拾參石參斗參升參合貳勺陸撮、而仟伍佰貳町漆段伍畦貳步半爲諸宅地、其上木稅漆佰貳拾伍斛漆斗肆升肆合捌撮、（校慶檢、別所減壹萬貳仟捌佰陸拾參石伍斗貳升肆合參勺玖撮）隅州地則壹萬捌仟貳佰捌拾漆町參段壹畝拾壹步、其稅額拾玖萬貳仟漆佰拾石壹斗捌升肆合陸勺漆撮、就中捌仟貳佰拾肆町壹畦貳拾壹步爲水田、其稅額拾肆萬伍仟參佰拾伍石肆斗玖升捌合參撮、又捌仟玖佰肆拾陸町玖段伍畝爲陸田、其稅額參萬陸仟陸佰參拾石捌斗伍升伍合貳勺陸撮、而仟貳佰拾陸町參段肆畝貳拾步爲諸宅地、其上木稅肆佰陸拾貳斛肆斗壹升捌合陸勺貳撮、又參佰壹石肆斗壹升貳合伍勺爲鹽濱稅、日之諸縣地壹萬仟伍佰捌拾伍町貳段貳畦拾步、其稅額拾貳萬伍仟漆佰捌拾壹石陸斗捌升陸合、就中伍仟捌佰玖町貳段肆畝拾捌步爲水田、其稅額拾萬伍仟貳佰參拾伍石貳升陸合、又伍仟拾肆町陸段肆畝拾步爲陸田、其稅額貳萬漆拾伍石陸斗玖升陸合、而漆佰陸拾壹町參段參畦拾貳步爲諸宅地、其上木稅肆佰漆拾斛玖斗陸升肆合、（慶安五年所檢、亦作此數云、見下）不但寬檢、慶安五年所檢、浦宅亦計此數、是貞享二年（乙丑十一）

(八月日)菱刈孫兵衛重敦・汾陽次郎右衛門光東・村田五郎左衛門經貞・村尾源左衛門重榮所追考云、河島重
貯云、所謂其壹石穀豆玖斗陸升、準高壹斛、而量田畝、以所殖種、如慶長例、所謂幾升蒔、而
今蒔見亦首於斯、可以知也、亦春去穀、則穫米肆斗捌升而已、若其壹石以糙計之、總計貳拾
漆萬肆仟捌佰肆拾捌斛、校諸京竿、其所減參拾參萬仟拾貳石云、十一年八月四日、大猷廟賜公親
翰、以授封國如故、前此惟舉薩隅兩州、及日諸縣稅額計之、至是併琉球租、(併諸島九拾貳萬參仟柒佰拾貳石玖斗貳
合壹撮、御朱印高有所不足、別稅上木)以載親翰、通計凡漆拾貳萬捌仟漆佰石零、所謂御判物高此也、十三年八月、命計封
內租入及口員、時石別輸米參斗貳升、是爲定租、以乘時高、則租米伍拾玖萬漆仟陸佰斛、而其口員
參拾參萬仟陸佰玖拾漆人、以配之粮、則所不足、米貳拾萬捌仟石、且當其時、國用不足、官廩所
負債、銀壹萬貳仟伍拾貫錢云、而未幾、寛陽公既襲封爵、正和二年正月、令二佰石以上爲騎士、
佰斛以上爲小荷駄、前此三百石以上爲騎士、至是革制、三年十一月、令計封內稅額、則曰漆拾
貳萬玖仟伍佰漆拾陸斛、於其中參拾壹萬伍仟伍斛零爲薩摩、拾漆萬捌佰參拾參斛零爲大隅、拾貳
萬貳拾肆斛零爲日諸縣郡、拾貳萬參仟漆佰拾參斛爲琉球、又別稅山川浦濱、有伍仟肆佰陸斛、於
其中漆佰參斛零爲薩摩、肆仟佰貳拾壹斛零爲大隅、伍佰捌拾貳石零爲諸縣、郡又私稅七島、得
肆佰玖拾石、十二月、復令計之、曰、薩摩國周圍佰拾捌里貳拾貳町、鹿島郡參萬參佰參拾玖斛陸斗
玖升肆合貳勺、谷山郡壹萬伍仟肆拾漆斛捌斗玖升伍合伍勺、喜入郡參仟陸佰貳拾伍石漆斗伍升參合肆

勺、指宿郡壹萬陸仟捌佰伍拾漆石伍升陸合漆勺、穎娃郡壹萬伍仟玖佰參拾玖斛參斗捌升肆合漆勺、知覽郡陸仟捌佰參拾捌斛肆斗伍升參合陸勺、寬文四年併二喜入郡一河邊郡參萬伍仟肆拾伍斛漆斗壹升捌合、阿多郡貳萬參仟伍佰漆拾斛肆斗漆升伍勺、日置郡伍萬仟陸佰肆拾捌斛肆升參合玖勺、薩摩郡肆萬貳仟漆佰拾玖斛壹斗肆合漆勺、高城郡捌仟肆佰肆拾伍斛玖斗玖升壹合肆勺、出水郡貳萬參仟漆佰參拾伍斛貳斗伍升陸合、伊作郡參萬捌仟肆佰壹斛參斗陸升貳合肆勺、甑島郡貳仟漆佰玖拾壹斛參斗捌升伍合、總計參拾壹萬伍仟伍斛陸斗、大隅國周廻佰里貳拾漆町、菱刈郡玖仟玖佰捌拾陸斛捌斗伍升陸合、桑原郡貳萬仟捌佰貳拾肆斛肆升參合、始羅郡貳萬陸仟陸佰肆拾參斛肆斗陸升貳合、曾於郡肆萬參仟捌佰捌拾肆斛肆斗漆升壹合、肝付郡肆萬貳仟拾伍斛玖斗捌升捌合、大隅郡貳萬佰玖拾貳斛參斗壹升參合、熊毛郡伍仟貳佰伍斛漆斗壹升玖合、駒路郡仟捌拾斛伍斗玖升、總計拾漆萬捌佰參斛肆斗伍升壹合、日向國諸縣郡周廻玖拾肆里拾貳萬貳拾肆斛伍斗捌升、琉球國拾貳萬參仟漆佰拾壹斛漆斗、通計漆拾參萬漆拾斛伍斗壹合云、慶安五年、命二御船手一、丈二量諸浦市宅及鹽濱一、定二之稅額一、謂二之御船手竿一、大抵皆因寬永十年例一、併二琉及諸島一、凡陸拾玖萬陸仟參佰貳拾壹斛漆斗陸升漆合玖勺玖撮、就レ中琉稅總計既見二上御判物註一、其後承應二年十一月、亦計二租額一、薩隅及諸縣總計陸拾萬伍仟捌佰陸拾貳斛、別稅二其山川浦濱一、所レ獲伍仟肆佰陸斛、併二諸琉稅額一、通計漆拾參萬肆仟玖佰捌拾貳斛、校二前所レ進目錄一、則所レ益貳仟參佰伍拾肆斛云、但除二七島一、餘如二正保三年所レ計也

萬檢第二十八

明暦三年、西藩畝田、獨未得均、租亦不平、於是月公命國老島津筑前守久賴・新納右衛門久詮爲總宰、正封內經界、兼脩軍賦、喜入久右衛門久供・相良主税長清・平田藤右衛門宗則亦預其事、乃使東鄉肥前重方・菱刈孫兵衛重敦・汾陽次郎右衛門光東等分巡三州遍丈量之、明年四月、改元萬治、秋丈完、有馬治右衛門純成等爲大割役、至二年終其功、故謂萬治二年御引丈竿、則薩州水陸田畝宅地等總計貳萬伍仟伍佰漆拾陸町陸段參畝拾壹步參合伍勺伍撮、厥糗大豆漆拾肆萬漆佰伍俵壹升漆合捌勺玖撮、總計税額貳拾漆萬伍拾伍斛漆斗玖升玖合捌勺捌撮、隅州水陸田畝宅地等總計貳萬仟捌佰捌拾捌町參段漆畝貳拾捌步、厥糗大豆伍拾陸萬伍仟參拾伍俵貳斗捌升陸合壹勺參撮、總計税額貳拾萬陸仟貳佰玖拾斛陸斗參升陸合玖勺肆撮、日州水陸田畝宅地等總計壹萬肆仟陸佰漆拾玖町捌段參畝拾壹步半、厥糗大豆參拾陸萬貳仟玖佰參拾貳俵捌升參合壹勺捌撮、總計税額拾參萬貳仟參佰拾玖斛肆升肆合玖勺捌撮、三州田計水陸田畝宅地等陸萬貳仟佰肆拾肆町捌段肆畝貳拾參步半、（一本仟下作貳佰肆拾伍町貳段肆畝拾步）厥糗大豆佰肆拾陸萬捌仟陸佰漆拾參俵參升漆合貳勺、厥税額陸萬捌仟參佰漆拾斛肆斗參合參勺參撮、直濱通計佰町參段玖畦貳拾伍步、厥所輸米參佰伍拾斛伍斗參升玖合參勺、總計税額陸拾萬貳仟參佰漆拾壹斛玖斗肆升肆合壹勺陸撮、一書云、漆拾貳萬捌仟漆佰斛寄其中拾貳萬參仟漆佰斛爲琉球之兵、河島重貯則曰、此時總計陸拾玖萬玖仟參佰漆拾捌斛捌斗漆升、所謂壹斛、亦糗大豆玖斗陸升也、高寄斛、

猶寛永例、而其租入參斗伍升、如慶長制、前此減入參斗貳升、(寛永十年等也)至是復舊、但慶長高、所穫米伍斗貳升伍合、(舂籾高壹斛伍升、而去其穀所穫也)而割其中入參斗伍升、如前所言、至萬治制、其所得米肆斗捌升、而於其中入參斗伍升、則强慶長者、爲肆升伍合矣、別稅雜物、而無口米、然其賦之率近中遠、量運輸功爲之輕重、且給路所舍貨之類、文祿以後、莫精於此制、其檢地費令石別出米伍合償之云、其稅雜物、今所謂代米也、詳見本篇、又其舍貨、今所謂宿米是也、以以此高(籾玖斗陸升也)校文祿高、(分米壹斛)僅爲貳拾玖萬貳仟漆佰玖拾漆石陸斗零、而所減參拾壹萬參仟參佰陸拾貳石肆斗云、於其田畝總計中、(既詳上註)參萬捌佰捌町貳反貳畝捌步爲水田、厥高伍拾萬參仟肆佰貳拾伍斛零、又貳萬玖仟肆佰伍町貳段玖畝玖步爲陸田、其高玖萬參仟參佰貳拾陸斛零、其他稅諸宅地、及岡浦市店等地、所以擧亦皆計之、但諸邑士宅地佰石以上、特給壹段、玖拾玖石以下、至漆拾伍石、捌畝漆拾肆斛以下、各爲伍畦云、校寛永高、少所減焉、凡世亂則士勞、故多隱農、又世治則農勞、故減希士、乃遁入商、商致其富、盡智列士、情之自然、如我藩因昇平久、農漸離士、田園荒蕪、租入隨減、可亦知云、於是乎國老相議、乃使兒玉四郎兵衞利實等、遍訪朝野、晉地所隷於諸士及寺社、奴僕等多歸農貫、其後天和三年、公又命禰寢淸雄、嚴禁民間產婦不悉擧子、如先公制、乃十月淸雄告之國老、申令農民、又貞享二年三月、命淸雄擇夫多少、若其餘夫、移諸田餘、令樹農實、於是淸雄嚴禁農人恣離其士、雇仕於人家、置之奉行、請惣郡廛、以聽其

栽一、遂爲二永制一、今所レ謂年季方、應二必是一也、由レ是元祿二年二月、大崎野方村有二野未レ闢、曰二荒佐野一、乃就二清雄一、請下招二他邦人一、令中以墾殖上、許レ之、既而十一年、泉州人出原次左衛門、奉二其徒泉・攝・河・土四州人一、來闢二于此一、迄二十五年一、凡移居者二十四戸、人員五十一口云、今麋人爲二佰四拾四石一五十壹戸、三百六十五口云皆古人足レ國、在二乎務一本云之意也、又以二萬治田畝總計陸萬貳仟貳佰肆拾伍町貳段零一、校二之建久總計壹萬伍仟玖拾貳町貳段零一、則萬治町畢二二州一郡一、雖レ闢二四郡於日州一、猶倍二於建久三州總田一者肆萬漆仟佰伍拾參町零、言二其廣狹一、則建久一步方六尺、而其一畝三十六步也、萬治一步六尺五寸、而其一畝三十步也、其積至レ町、則萬治每レ町、隂二於建久一者貳畝拾玖步零、以積二其隂一、別應レ增レ町、況又歷レ世田畝稍闢、故至二其倍二於建久一、亦可二固然一耳、姑述二大意一、以竢二算士一爾

役米第二十九

所レ謂役米、蓋延喜式脩理料之遺制、而今縣官所レ謂二役之一也、按下慶長十八年、六月朔日我藩國老比志島紀伊守國貞・伊勢兵部少輔貞昌・三原諸右衛門尉重種令二於琉球一貢上、徵二千斛出二造營夫此云二御普請夫一壹人一、又其八月府城捷庭之修二造屏一也、敷根中書立賴使下其臣某與二伊地知利左衛門重康・鈴木宇左衛門・內山利右衛門等一、收二諸出銀一、各出二其僕一、輪番蒞上之、又十一月、重康別出二千斛夫一、或出二貳千斛夫一、見二其日記一、又元和六年、桛城屋形之修レ屏也、石別輸二銀零匁一、乃三月、島津又五郎久通、使下其臣相良式部少輔收二重康等出銀一、以造中營之上、又寬永十三年、九月撿地府下宅籍、有下宅地八畝二十四步曰二立野夫屋一、或曰二御普請

夫屋壹段五畝者、又十四年十一月、島原之役、北條善左衞門時當。有川右近將監貞、（後皆殿役奉行）授出水士人□山元左近等傳羅券、有致御普請方、及吉田・蒲生等殿役使者、據之則今御作事、而所謂殿役使、則當今在番部見廻、可準知也、而別置夫屋於立野、今莫知其詳、然十八年、有故籍曰什伍佰斛夫賦者、則前年十二月所賦帳也、雖多殘缺而非全書、觀此考之、蓋合諸士寺社所各食祿、至什伍佰斛、皆分爲一隊、每隊有長、各掌發其什伍佰石所與賦夫、留役於夫屋、而其長則島津兵庫頭忠朗・島津彈正大弼久慶・新納四郎久辰・肝屬半兵衞兼屋・土井采女兼延・三原左衞門佐重庸等、見所殘籍、而隊長久慶等、使其家宰相良志摩允・肥後十左衞門□・木脇二兵衞等、令其隊下諸士、及所隸穆佐噯等、出其所賦夫壹人、自持器具、限歲抄日、上於夫屋、自明年元旦、至十二月晦日、令留役之如例年云、而諸士以小番、入直府城、或官居御納戶役・御兵具役・高奉行・御振舞奉行等者、皆免貳佰石、計其所餘、隸其隊籍・不但府士、至諸邑噯、亦免四拾石、或福昌寺免二佰石、與國寺免佰石、亦準此例、則如其云見玉四郎兵衞利實食四佰伍石、因居御兵具役免貳佰石、或佐多越後守忠增食參佰陸拾參石伍斗、上井采女食陸佰拾貳石、皆直小番、獨貳佰斛之類、此也、推此觀之、慶長所謂數根中書、督諸士與修公宮屏、元和所謂島津久五郎、督諸士出工料、修杙城屏、亦知皆爲一隊之長焉、又大口士人原田新兵衞者、就其坤頭新納加賀守忠清宅於鹿府、以家貧故、自求謝士業、限五年間、役於夫屋、以得貨給、事見忠清與噯書、久

使壹岐主水修築柁城橋口、至高麗町之路程、徵蒲生士人貳佰肆拾陸人、充之功夫、事見東鄕藤兵衛・伊東肥前等與矆書、然而後世不開諸士與有若役也、稽之史說、凡府城之修築屏牆、必令起公田夫、以修造之、諸士宅牆招其私夫、令以修造、然遠郊民不得皆役、故其不役者、別收貳升充其雇料、謂之役米云、按萬治二年令、（見後）當時役米、因歲異入、其年則爲參升、又貞享季既貳升云、而今定貳升、莫詳其年、然據其定賦米等、在寶永六年（或曰元祿元年事云）云、則應必其時也、據此所謂夫賦、收諸出銀、以修造者、則式所謂日闕並修理池溝料、各貳萬束、（春米千石）薩修理官舍料、貳萬束（仟石）云之類、而今役米、大抵其遺制也

代米第三十

所謂代米、蓋延喜式輸雜物之遺意、而今縣官所謂諸掛米之一也、萬治二年、（八月朔日）國老島津筑前久賴・新納右衛門久詮・令於藩曰、凡受田者、不論公私、五里以近、皆每一東、（此云一門）必輸歲時物、奉給主家、而五里以遠不自輸者、入錢爲價、故曰代物、而其徵之、必告莊屋、備以收焉、凡賦參拾斛、則如正月輸茅筵三枚、（值銀貳匁）節木四束（值銀壹匁）萩貳束、（值貳拾文）炭壹俵、（受參斗）薪四束、（值柒拾文一度貳束）箸木三十膳、（值肆佰文）里芋三升、（值三拾文）薯蕷[□□]把、（圍壹尺五寸）杵貳枝、（值貳拾文）若木貳束、（值參拾伍文）豆萌壹薦、（值拾漬三拾六文）其他近郊輸讓葉・諸枣・兩穗・多羅・門松、三月上巳輸蓬、五月端午輸粽茅・菖蒲、七月七夕輸曝竿貳本、及臺四本、盂蘭盆輸燈松壹束、（東圍貳尺長壹尺五寸）津萩、（值參拾六文）水粉菜茶等、又防風雛輸張梁壹本・（若無則易長本五寸）

長木五本（値銀貳匁）藁莚四枚（値銀壹匁六分）半綳拾房（長三拾尋値四拾文）小綳三房（長五拾尋値拾五文）疊薦貳帖（毎帖六重値貳匁六分）及其用素、（値銀壹匁）又八朔賦一廛、輸扨首綳一口・庭筵壹枚（値四分）藁貳把（値參分）緣薦三枚、（値銀六分）或修造料、屏柱貳本（値銀貳匁八分）直竹貳束（値銀貳匁）半綳五房（値錢卄文）小綳貳房（佰拾五文）之類。蓋本於古之令式、輸雜物云、可併知也、而後遠近皆易以米、則今曰代米、收壹升者、即此也、故若農戶或欲輸之者、聽如所願、以舍其米、亦此遺法云

賦米第三十一

所謂賦米、蓋延喜式驛家、口分田之遺法、而今縣官所謂種馬宿料、（亦三役之一ト云）此也、按慶長十八年（或爲二十五六年）府士高帳、當時有田祿者、皆有殿役分、蓋塡公役料、故謂其米曰殿役米、大抵伍拾斛、則以壹斛若貳斛爲殿役分、而佰斛則貳石若參石、伍佰斛則拾參石、仟斛則拾捌石、因多寡異、寬永七年、旣置之宰曰殿役奉行、又謂其署曰殿役座、十四年、島原之役、諸鄕（陣名外城）亦有殿役仕、（今郡見廻此云）凡每公東西、及諸士宦遊、必皆農民出役驛丁、而三州諸郡、及諸島嶼其出役者、動撰近郊、鮮及遠郊、逸勞不齊、故稅一統、分收官倉、使殿役奉行、掌之出納及驛丁事、以結其役者、則萬治元年二月書、所謂傳馬役人中島孫左衛門・丸田與右衛門・面高連長云、亦應此職也、而至寶永六年、令於封內、定石別出眞米壹升壹合、（一說爲元祿元年所令云）於是乎七年閏八月、省殿役座、以驛丁事屬之郡座、改殿役方、如出納事隸表方代官、正德三年八月、令殿役方改人馬賦、殿役米亦改賦米云、

今按後紀、凡毎郡必有郷有驛、而驛戸受口分田於其便近（除百姓要地外）處、其有馬十疋者、給戸別二百束、（得米拾石）不滿十疋者、戸別百束、（得米伍石）見弘仁十三年、（正月丁酉）則割越前丹生郡管郷十八驛三、更建九郷一驛於一郡、擬今立郡、見十四年、（六年丁亥）之類也、延喜式驛傳、則大隅國驛馬、蒲生・大水各五疋、薩摩國驛馬、市來・英禰（雲州作英禰是）・納津（人作網津恐網津誤）・田後・櫟野・高來各五疋、傳馬市來・英禰・納津・田後驛各五疋、日向國驛馬、長井・川邊・刈田・美禰・去飛・兒湯・當磨・田救・麻救・貳亞・椰口・（雲州一字闕）野後・夷守・眞斫・水俣・島津各五疋、傳馬、長井（雲州本長井川）川邊・刈田。美禰・兒湯・去飛、驛各五疋云、而凡驛家令國郡司專當、其名毎年附帳申上、其公私行人、停術致損者公使錄名申上、自餘量事科決、若專當官司、驛長等妄有許容、亦處重科、其驛馬、皆買百姓馬堪騎用者置之、不得買用國司私馬、又驛馬直、則大隅・薩摩・日向等三國、上馬四百束、中馬三百束、下馬二百束、但傳馬直、各遞減五十束、又不用直、疋別稻卅束、死皮直、張別五束、其飼秣則國司量路遠近嶮岨幷使往還閑繁、十月以後、三月以前爲偶飼養、其嶮路使繁、疋別十七束、使稀十束、平路使繁八束、使稀六束、又驛馬死損、則大隅・薩摩・日向等、十分許損二分云、然今我藩、則西海邊陲、而公私旅客、亦不當絡繹、故建驛家、不甚便利、於是乎役農戸法、始自近古云、然如伊集院・市來・隈之城・末吉・財部等、今尚給宅地、以置驛所、可謂古驛之遺制矣、據此今所謂賦米、上古給驛家口分田之類也、而三國驛馬各五疋云、則應皆戸別百束（得米五石）也、未知其米與今合否已、但賦米亦古者毎歳有令異入、至寶永六

年、（或爲元祿元年所令）遂定石別出眞米壹升壹合云

口米第三十二

所謂口米、按慶長二年、（五月二十二日）貫明公及石田三成、令於代官定口米、則曰貳升、元和二年、（七月）閣老令曰、每俵（參斗七升）口米壹升、每錢佰文口錢三文、寬永二十一年、（正月）閣老令於上方關東諸代官、亦曰、關東口米、每俵（參斗七升）收米壹升、每永百文口錢出三文、上方石別收米三升、勿違此收、而萬治二年、（八月朔日）我國老令（詳代米篇）則無有代米及口米焉、曰、凡其遞輸限拾貳里、若踰之、則領主給船賃及諸港所舍賃米、如其駄賃、令農夫辨、而留于領家者、領主食之云、可以知其所無也、後迨貞享中、禰寢淸雄（丹波）聽總郡座事、則乘口米既見古簿、可知復（マタスルコトナ）焉、自後定代、則無公私皆有口米、凡斗別貳合、故謂之貳口、於遞輸日、充其口粮、且塡散闕云、諸國口米、各異多少、三役篇、我藩貳口、蓋首於石田所令、可併知也

常租第三十三

本藩租法、亦今田高、則以參斗伍升爲常租、所謂定代是也、而租外又石別所收、有役米貳升代米壹升、（或云一升米此）賦米壹升壹合、口米漆合、（乘定代參斗伍升爲漆合）通計參斗玖升捌合也、但文祿前段別租、則水田收米壹石、陸田收大豆五斗、山畑收壹斗伍升、見田賦集、而今常租參斗伍升肇于慶長、（十九年）如殿役米（即今賦米）亦見慶長、則知既久焉、其收役米、見萬治令、而別輸雜物、則時未有代米、又無口

米、至貞享始、既乘口米、然尚因歲或所上下、則役米貳升、代米陸合、畷役米壹升參合伍勺云之類、可觀也、而其遂定參斗玖升捌合、蓋應在寶永間也、所謂押入代入是也、而如私田、則於其常租、（參斗玖升捌合）不論當（定代錢、見上）輸出米（捌升壹合、眞赤半之）賦米（眞米壹升壹合）於官倉而已矣、亦大抵十分而收其四、令農夫取其六、似足利制、然慶長後、我藩之制租也、以粗大豆玖斗陸升準高壹斛、而春所穫米肆斗捌升也、於其中收參斗玖升捌合、則農夫所取、僅柒升貳合耳、雖然其實則丈量田畝、頗加優恤、減本所穫、藏之租籍、故三分實穀、上收其二、大抵不異於文祿制云、今以其高者、校之京制、則上上田（段別壹石陸斗）壹町所穫米拾陸石、（京制米卽高也、畑豆同之、後皆倣此）以京制柒斗乘之、則其租拾壹斛貳斗、當今貳拾捌斛壹斗肆升柒勺壹撮之租、（定代參斗玖升捌合）上田（段別壹石肆斗若伍斗）壹町米拾伍斛租拾斛伍斗、（亦柒斗代下同）當今高貳拾陸斛參斗捌升壹合玖勺伍撮之租、中田（段別壹石參斗若肆斗）壹町米拾肆石租玖石捌斗、當今高貳拾肆石陸斗貳升參合壹勺貳撮之租、下田（段別壹斛壹斗、若至參斗）壹町米拾參斛租玖斛壹斗、今當高貳拾貳石捌斗陸升肆合參勺參撮之租、而地廣狹亦與今同、如前所論、又於公田別輸雜物、凡田祿拾斛輸茬子貳合、拾伍斛以上輸蒁蓆、至參拾斛、蒁皮壹俵、（俵値錢漆分）薪皮捌束、（束値壹分捌釐）謂之御節禮、又陸田常租、以漆斗爲定代、而多輸粱、如大豆輸二十分之一、（盡十分一）或少輸麥、亦僅々、因畑品然、由田少餘特惠民意云、事見慶長三年貫明公等制、詳今制篇、若易米則輸其半、雜穀壹斗當眞米五升、蓋式所謂雜穀相傳粟小豆各二斗、當稻三束、（稻一斗五升）大豆一斗當稻一束、（稻五升）云之遺法也、但直隷石別、輸麻苧拾匁、

又因畑地、或輸胡麻・菜種子、或椶櫚一根輸皮八片、又上木高則稅茶拾匁、（一斤二百五十匁）爲籾壹合四勺、壹斤爲三升伍合、（百目則卅三匁三分）或稅柿桑（値壹匁五分）椅（値壹匁貳分）各一根、竝爲籾壹升、唐苧地步別、亦爲籾壹升、（收苧十二匁）云之類、亦與米同、皆輸眞米、而凡定代皆無公私、乘之口米、其他椿・蜜柑・九年母・金柑・梨子・橙等、撿定其品於上中下、令以價輸、諸士私田、亦至如茶、收十分之一、或間有之、至如椶櫚・櫨・蜜柑・九年母不稅之、又公田石別、輸楮皮捌拾匁、至壹貫匁、輸梢皮佰陸拾匁、陸田石別、輸楮皮肆佰匁、若伍佰匁、梢皮同上、因地品異、不但貢租、故官特給楮皮貫別銀漆分、梢皮貫別參分、爲蒸剝料、凡壹釜（長一尺八寸、幅亦同之）爲籾漆升、輸紙廿四枚云、今按、三州上古庸竝收紙、見式則中男一人輸作物紙四十張云、此也、而文祿制、則惟日州載楮皮耳、又曾有聞、我藩栽楮製紙、專肇於島津久通云、可謂繼絕矣、又今調庸、則凡男十五以上至六十歲、歲役六日、其不役者、日輸銀五分、（六日三匁）謂之夫銀、按萬治二年（八月朔日）令、人別歲役十二日云、未知其減爲六日、在何時也、又公田則婦亦有庸、收織木綿、凡十五婦成端、每端官必給木綿漆佰匁、（若無木綿、端別給價三匁壹分五釐）按式所謂織綾料、給織手日米二升、鹽二勺云之遺例也、而不及十五婦、則人別收銀貳分、以塡織貨之類、亦皆田令等、所謂仕丁庸布之遺制也

出物第三十四

所謂出物字亦見於式、則其本乎古法者明矣、文祿以前皆謂段銀段米、所以算其段步、不算畊

斗也、今尙部農謂出物廩、呼段銀倉、亦其遺稱云、恕翁公令云、俗家段別出錢伍拾文、寺社出佰
文、或俗家出參拾文、寺社出伍拾文、又寶德二年、（四月廿日）畠山德本致大岳公書、令徵汎錢於薩・隅・
日、以充造內裏料、又天正中、松齡公之上洛也、戶別段錢未有、少輸（見下賜本田親政書上）云、類、皆算段
步言之也、文祿中、朝鮮之役出物五斗、其後期者、輙沒入云、或每佰斛出兵五人、慶長二年、
參拾斛出一人、五年、公之將戍伏見城也、徵佰斛出一人、九年二月、慈眼公之赴洛也、諸士石
別輸錢拾文米伍合、又十年二月、伏見邸之成也、石別輸錢四文四絲、十二年五月、石別輸七分、十
三年九月、琉球之役、石別輸銀參分參釐・米參合貳勺漆撮、其貳佰石出弓壹張、參佰斛出鐵砲壹挺、
十五年七月、石別肆分、十六年六月、石別伍分、十七年六月、石別壹分、閏十月、石別壹分、十八年
六月、令妹君（オイモトサマ）下於之質武也、石別輸錢貳文、十一月、伊勢貞昌使於東武、石別輸漆分、元和二年二
月、石別壹夂、三年、石別壹夂參分、四年、石別貳夂、五年、石別壹夂伍分、七年九月、石別壹夂四分（石價
十二夂、以米則一斗一升七合）云之類、莫歲不輸、因事多少、輸亦隨異、但殿役高必蠲不輸、多見古書、謂之出
物、或曰出米、皆算斛斗言之也、寬永十七年、寬陽公使平田淸右衞門純昌、還自江戶、令於
封內、本年石別輸米捌升眞赤半分、限明年正月、送於官倉、眞米過半、宜亦輸之、若或逋闕以
造二月、則輸利子、且至如其製俵舂穀法、亦宜加精密、乃九月朔日、國老川上久國・鎌田政統・
三原重庸、申令於藩、又萬治二年、丈量三州、令石別出米伍合、以償其費云、所謂製俵舂穀之

令、則爾後連年荐令於藩、遍皆加精密、多爲常焉、而元祿中、穆佐・郷上・倉永村橋口門農丁源右衛門等兄第三人、生平謹厚、竭力農業、尤謹年貢、特善製俵、又善舂穀、隣里農人、咸以其輸物莫不法焉、十七年二月、地頭市來勘左衛門家貫以聞于宮、乃三月二日、大玄公命有司、賜廩米三拾苞、以褒顯之、而出米則雖年有、令以定多寡、至寶永六年、遂定石別出米捌升壹合、（一說爲延享三年所令、而自其以前石別出米伍升壹合、亦久焉云）故今謂之定式出米、但於其中、割壹合爲苦勞米、凡諸士抵役他邦者、因官尊卑、給之月俸廩米、各有差、皆取諸其出米捌升、又役藩鄙（イナカ）者、取諸其苦勞米壹合云、式有之、諸使食、則官人日米二升、鹽二勺、酒一升云、亦應此類也

檢損第三十五

本藩常租既定、則縱令豐稔、而於農戶、或其所穫倍蓰常租、無亦督責、然而若或値水旱蟲霜、有常租損、則鄉吏檢實、於其田畑、精撰所損、（不損常租）具錄申官、而如私田（此云給地）告其領主、領主私優、聽除常租十分之一二、謂之分下、所謂壹分、石別常租、曰除壹升、他可推知、若或領主不欲私聽、乃報鄉吏、令以聞官、乃遣郡奉行、莅復檢之、謂之上見、而郡奉行授所定券、如公田授之代官、謂之代成證文、（或曰御檢者代、見元祿中）曰、幾斗幾升、代別副口米、（斗別貳合且益壹分半、疑今參合米也）而如諸役米、不與常異、假令石別代成壹斗伍升、則口米參合、增米壹升五合、役米貳升、代米壹升、賦米壹升壹合、通計貳斗捌合、則知當其所定租也、而令以其所減壹斗玖升、補助農人

云、餘可準知、但夫增米雖亦租外、因請上見、別令增收以塡所莅巡檢諸官吏食料、而如私田給領主云、按寬永十九年、（秋九月）官遣三原舍人佐・小川喜兵衞等、爲物成定、往檢山野、今觀其簿、（兒玉氏藏）堅禁飮酒、而既有上見或代廻字、則可亦知其非近制也、稽之式法、凡其檢損、若不堪佃田、賑給疾死等使、則隨遠近定其程限、所謂日向・大隅・薩摩等、損田八十日、不堪佃田六十日、賑給疾死、準不堪佃田云、今所謂上見、則可謂檢損使之遺法矣、又按享檢制、新量水田、上地日三町、中地日二町五段、下地日壹町伍段、陸田上地日四町、中地日三町、下地日二町、是爲直等程限、又水陸表法、日五町爲定法、又水田土例二十分一、陸田土例四十分一云、亦應舊式也

食法第三十六

凡檢損使等食法、按延喜式、則曰、官人日米二升、鹽二勺、酒一升、番上日米二升、鹽二勺、酒八合、傔從日米一升五合、鹽一勺五撮、如其程限、既載前篇、又慶長三年、（五月十二日）貫明公及石田三成、令於代官定此法、曰、凡算席食一汁一菜、酒限一獻、十五年、十六年、丈量琉球條令（正月十六日本田伊賀守所議也）曰、凡度地人別日白米漆合伍勺、附衆減參合、私從減貳合、菜薪隨口、肴亦隨得、而人別令其縣出酒三盃、其不丈量日、及留守舍者、人別日黑米五合、如醬及米、石別出價九匁、宜取諸民、油亦取民、無油用松、船長精梁日一升、水手日漆合伍勺云、自延喜時迄慶長年六百餘歲、給官吏酒亦可以知其爲古法也、至寬永季禁吏飮酒、蓋戒其流乎酒失、或枉法

也、後至二享保一、預二檢地事一、郡奉行（四人月俸）日米四升三合、（特加二一升二合一）檢二宅地一代官、及御勘定所吟味役日米三升七合、（亦加二六合一）別加二一丁一、郡座筆者日米三升一合、（亦加二六合一）本府郡見廻日米二升伍合、（不レ論二行旅遠近一）其所竿嗳（今郷士年寄）日米三升一合、（加二貟赤各六合一）蒔見・筆算・竿取各日米貳升五合、同上郡見廻日米壹升玖合、（加二赤六合一）莊屋日米一升二合伍勺、（加二貟五合一）功才（合レ改二名主一）日赤米一升、（加二五合一）凡其量レ地、每レ隊所レ從嗳一名、蒔見二名、筆算三名、竿取二名、郡見廻庄屋各一名、功才二名、其給レ之各々有二程限一、淸算淨寫、每二一人一日紙二十丁筆墨料日銀一分漆釐、（墨半月一挺、筆日一本也）中取用紙、（藏方用紙或百田紙）每二百丁一加二百丁一、凡千斛地、配二其程限一爲二二十日一、筆墨料日銀六分貳厘（亦墨半月一挺筆日二對）淨寫用紙（上下紙）每二百丁一加二五十丁一、（裱裝三色、薩澁、鷄黃、日桃）又配レ人錄二牛馬一等用紙二帖、嗳・郡見廻・莊屋各一員、筆算・功才各二員、其程限爲二九日一、若無二俵汰一爲二五日一、用紙同レ上、損高汰足、三石至二一石一、一日爲レ期、三石以上可二準知一焉、又遣二種子・屋久・永良部等一、奉行二隊食法、（一人月米一斗五升、故實銀三匁五分爲レ常云）亦與レ此同、特加二一員月銀三匁伍分一、又遣二大島二隊、喜界・德・沖永良部各一隊一、（大喜與レ事既記者、助レ末レ記）郡奉行一員歲米貳拾貳斛伍斗、（自二馬廻一行者五人月俸、他四人月俸）筆者（三人月俸）歲米拾石、（加二給六合一）外城、（今改二諸鄕一）筆算・蒔見・竿取（竝二人俸）亦歲米拾石、（在島加二給八石一）午冬渡海、申夏歸船、自二至レ島日一、至二乘レ船日一、皆各給レ之、且其歸船人別積間、上給二拾石一、下給二伍石一、如二島吏一亦預レ事、與人日米一升、横目（若爲二目指一）日米漆合伍勺、功才日米伍合云、此所レ謂享保竿食法也

京判第三十七

京制所レ頒升、尙謂ニ京判一、而內矩濶方四寸九分、深二寸七分、慶長十九年、九月十九日 國老樺山久高・町田久幸・比志島國貞・伊勢貞昌、令ニ於琉球一、亦用ニ此京判一、禁レ用ニ他升一、則今曰ニ改枡或金盤升一者此云、文祿前升謂ニ之故升一、諸州異同、未レ能ニ一概一、而上方故升、減ニ於今升一、所レ謂武佐升、應ニ必是一也、內矩濶四寸六分五厘、深貳寸三分、我藩故升、比ニ之京判一、增受ニ肆合一、或謂ニ之本判一云、內矩濶六寸、深貳寸捌分半、見ニ大口大工主取馬門傳兵衞藏書一 又有下故升曰ニ內矩濶伍寸、深二寸伍分一者上、又今所レ謂斗升內矩濶一尺五寸、深陸寸陸分、受ニ米一斗一升二合二勺肆撮一、以三量爲ニ參斗參升陸合柒勺二撮一、則其柒勺貳撮多ニ於先量一、未レ知ニ其詳一、又島原役、姶良士人森田山助之戍ニ龜川一 天草地 也、造レ合便レ陣、今傳ニ其後一、則濶三寸五分、深二寸云、今因レ言レ升、亦附ニ于此一爾

起先第三十八

自レ古我藩有ニ起先法一、其量レ之之術也、按ニ寬政七年五月二十日 帖佐與御代官 有馬覺右衞門純□・川上八次郎親持・馬場傳兵衞 上疏等一云、大抵公私收必取レ起、廩米所レ謂三斗二升此也、而出レ之以レ先、則三斗三升陸合是也、謂ニ之五先一、凡只曰ニ一斗一、即先搔也、官倉五先起增ニ伍合一、諸士私收起增ニ一升一、謂ニ之斗起一、又如ニ流米一則爲ニ六先一、起增ニ六合一、稽ニ之上使對條一、新租不レ餘、積稅易レ耗、故備ニ久儲一、莫レ知ニ其制肇ニ乎何時一云、然今季安據ニ川島氏說一、以參ニ考之一、則所レ謂五先、首下於文祿京制、石別三分二一、收ニ柒斗代一之法上者明矣、語在ニ京制篇一、爾後慶寬制レ租、亦皆因循以少革レ之、可ニ併觀一焉、於レ是乎、寬永十五年正月、

余六世祖木工右衛門重政（上註云民部少輔、此）之師于島原也、以家衆（三十四人）及加久藤衆（士五十人其徒四十二人別私行士二十一人）百四五十人、十六日發加久藤、（地頭所）十七日至出水米津、乃乞之粮時、村田鄕左衛門經乘・猪俣爲右衛門則康爲賦方焉、乃此晩給士衆九十二人各二旬粮、十八日又給家衆三拾一人二旬糧參斛壹斗、（一日一人糙米五合）二十一日出船米津、二十二日倶至甲根、（蓋天草地）二十六日移陣上津浦、（亦天草地）二月進至有馬、時大將島津久賀等、憂齎糧乏而衆將飢、故重政所將、亦令屢發還、於是十一日、則給家衆十五日粮玖斗貳升伍合、二十七日與攻原城、二十八日自麾衆登陣、鬪戰擊賊、重政及所將士、獲首二十餘級、既而引兵、三月八日飯鹿府、此役重政使隸士小原織部佐（今附鄕士宗次郎祖）等、掌出納錢穀事、凡五十三日、算諸一口、家衆一千三百四十二人、邑衆四千五百十二人、通計伍仟捌佰伍拾參人、而所自齎糧肆斛漆斗肆升大豆貳斗、錢參貫伍佰文、銀捌匁壹分、（當時銀錢貴可知也）又所時給糧伍斛陸斗玖升伍合、（於出水天草有馬所給也）併之私糧爲拾斛肆斗參升捌合云、日所錄簿、今尚家藏、則於其中書伍石陸斗玖升伍合下曰先播、又書肆石漆斗肆升參合下曰前播、或以國字書於古之、或書先加幾、亦有之、又此役自阿久根等、多水手赴役者、而給其妻百十二人粱參拾肆斛陸斗陸升、以爲八千三百五十二日之粮、今觀其契券、（此年三月四日）亦書先加幾、可以知其自古行非近制也、但據其割拾斛肆斗參升零、一曰先播、一曰前播、則所謂前播似言今起、就其字訓、求之意義、播首之播、而起字有立堪義、凡量米則盛於斗斛、平之以槩、而其摩之、或播之先、或播之前、共播之先、蓋得取平、而

播之前、前面米滯、尙盛擧斛、故得起名乎、近季安訪諸倉吏、亦曰、官遣代官、莅取其平、謂之俵例、皆播之先、而其常收、尙播之前、可以知其既久、傳自寛永之古法也矣、匪啻西藩、諸州亦有此類、謂之出目米、關東謂之廻米、或謂斗立、皆我藩斗起之意也、詳載三役篇、可併知焉

享檢第三十九

自萬治後、降至享保、餘六十歲、班田稍紊、富愈掠肥、貧愈苦磽、田餘夫少、夫餘田少、年貢動闕、今而不正、國民益就凋衰、豈可徒觀焉乎、於是七年九月、國老種子島彈正久甚、奉宥邦公諭、命郡奉行等、遍正經界、班田均齊、肥磽互換、須使農民皆各安堵、盡力稼穡、莫年怠貢、上下得宜、其所要在賦稅善應田品、而非所以必求重斂也、構署於松間及芍藥間、大御目附菱刈藤馬□□・御勘定奉行堀甚左衛門與□・御用人鎌田太郎右衛門政直・谷山角太夫純房等掌其事、二十一日預事、郡奉行亦構局於城內、是日久甚布令於藩、十月二十日、使郡奉行帥(ヒキヰテ)正蒔見十三名、預事蒔見二十名、丈量武村、議酌其宜、以建準則、謂之例竿、預事官長亦皆臨焉、既而分遣郡奉行等、各將隊下、(詳食法篇)莅正經界於薩隅日三州、及琉道島、十年八月、因丈稍訖、命郡奉行津留伊兵衛・仁禮孫左衛門・(明年十月往正管界)代官榎本新兵衛・御勘定所吟味役(列御勘定方小頭次、今無此官)木場次郎兵衛・及正筆者中村木工左衛門・西川次郎左衛門・竹內宇左衛門・權筆者二十名、帳役兩員手代兩員、構局于客屋、行班田事、後

如筆者、稍增其員、或五六十、或八九十、其最衆多至百四十名、手代四名、迄十二年十一月功訖、凡薩州田籍（御前帳）壹千參佰漆拾肆册、凡田畑宅地總計參萬參仟伍佰貳拾陸町漆段貳畝貳拾肆歩半、厥糓大豆捌拾肆萬肆仟陸佰漆拾陸俵三斗九合四勺六撮、税額總計三拾萬捌仟漆佰陸拾貳斛陸斗玖升漆合參勺伍撮、隅州田籍仟肆拾漆册、凡田畑宅地總計貳萬玖仟肆佰陸拾肆町參段貳畝拾捌歩、厥糓大豆漆拾一萬四百六拾參俵貳升壹合參勺伍撮、厥税額則貳拾伍萬玖仟參佰肆拾伍斛肆斗肆升貳合貳勺捌撮、日州田籍伍佰伍拾貳册、凡田畑宅地總計壹萬漆仟玖佰肆拾貳町玖段捌畝伍歩半、厥糓大豆肆拾壹萬玖仟肆佰漆拾俵參斗參合漆勺肆撮、厥税額則拾伍萬貳仟玖佰參拾貳石捌升漆合參勺貳撮、三州通計田畑宅地捌萬玖佰參拾肆町參畝拾捌歩、（就中三萬四千肆佰伍拾捌町柒段貳拾柒歩爲田門附、參萬參仟壹町參段玖畝五歩半爲畑門附、伍仟柒百三拾二町捌段一畝拾三歩爲田畑宅地持留、柒佰拾參町二段捌畝二十一步爲山野円畠、佰柒町二段玖畝貳拾柒歩爲諸邑城内田畑宅地、貳拾捌町壹段陸畝貳拾貳歩爲官宅地、貳仟貳拾伍町陸畝拾肆歩半爲諸宅地、佰拾肆町參段壹畝貳拾陸歩爲別莊地、貳佰肆拾貳町壹段陸畝貳拾參歩爲諸浦水手宅地）厥糓大豆佰玖拾漆萬肆仟陸佰拾俵貳斗捌升肆合伍勺伍撮、厥税額則漆拾壹萬玖仟玖佰肆斛伍斗伍升肆合漆勺參撮、鹽濱總計佰拾一町肆段伍畝拾玖歩、厥租米參佰玖拾參斛參升參合、厥税額則仟佰貳拾貳斛玖斗伍升壹合肆勺壹撮、通計税額漆拾貳萬仟肆拾斛貳斗貳升陸合玖勺肆撮、（仟或作貳仟、一說、總計柒拾貳萬伍仟捌佰伍拾柒斛柒斗陸升貳合肆勺伍撮）於其中拾壹萬仟陸佰陸拾壹斛壹斗玖升玖合肆勺肆撮、自萬治後所益殖焉、厥男女總員三十一萬陸仟伍佰肆拾肆人、（男拾柒萬捌仟貳佰拾玖人、女參萬捌仟參佰貳拾伍人）就中貳拾伍萬漆仟陸拾貳口爲農賈、（以下男女）玖仟捌佰陸拾肆口爲野市、肆萬貳仟捌佰伍拾肆口爲浦漁及鹽戶、參佰參拾陸口爲寺僕、陸仟肆佰捌口爲上下市、厥牛馬總

計玖萬肆仟伍佰漆拾匹、（牛柒仟伍疋、馬捌萬柒仟伍百陸拾伍匹）厥船總計參仟陸佰參艘、（就中佰貳拾肆艘自佰石積至六百玖拾石積、貳仟參佰十八艘自壹石積至玖拾伍石積、仟佰陸拾壹艘丸木以下至刳舟等）厥網罟仟肆佰漆拾伍帖、而校萬治高、則薩所增參萬漆仟玖佰玖拾參斛參斗伍升壹合漆勺陸撮、隅所增伍萬參仟伍拾肆斛捌斗伍合參勺肆撮、日所增貳萬陸佰拾參斛肆升貳合參勺肆撮、別道島所增肆仟捌佰拾漆石伍斗參升貳合陸勺伍撮、琉球所賦增參仟參佰肆拾陸斛漆斗玖升玖合陸勺漆撮、通計所增拾壹萬玖仟捌佰貳拾伍斛伍斗參升壹合漆勺陸撮、於是三州及琉球等通計稅額捌拾陸萬漆仟貳拾漆斛伍斗陸升漆合玖勺捌撮、厥田畝鹽濱除琉球、而所量凡捌萬玖仟參佰貳拾肆町陸段肆畝貳拾貳步、就中肆萬捌佰拾參町伍段拾漆步爲水田、肆萬捌仟參佰玖拾玖町壹段壹畦拾捌步爲陸田、佰拾貳町貳畦拾漆步爲鹽濱、厥稅額亦陸拾參萬仟貳佰陸拾漆石貳斗壹升壹合陸勺參撮爲水田租、拾參萬捌仟捌佰貳拾漆石陸斗伍合伍勺漆撮爲陸田租、仟伍佰陸拾伍石參斗玖升貳合貳勺貳撮爲上木稅、仟佰貳拾玖斛伍斗漆升肆合貳勺玖撮爲鹽濱稅、玖萬肆仟貳佰參拾斛漆斗玖勺肆撮爲本琉球租、（併先島言）但不新墾、莫詳水陸、而率三年、凡所稅銀仟肆佰捌拾陸貫陸佰玖拾錢、（就中御船手輸玖拾參貫參佰卌三匁四分、山奉行輸貳百四拾四貫七百四拾七匁四分、牛馬改輸伍拾四貫佰九拾目七分、町奉行輸貳貫貳佰四拾九匁、牧駒價拾四貫佰貳拾八匁、代官輸貳拾伍貫陸佰四拾三匁九分、鮪川請輸玖佰參拾貳匁、生蠟價仟四拾貫百八拾四匁貳分、屋久島輸拾壹貫參佰貳拾壹匁四分）謂之諸浮得、又分其州、則薩州高參拾萬捌仟貳佰玖拾貳斛玖斗捌升壹合、而於其中貳拾五萬佰參拾玖斛玖斗漆升壹合捌撮爲水田高、伍萬陸仟玖佰捌拾玖斛貳斗玖升壹合漆勺捌撮爲陸田高、參佰伍拾陸斛壹斗參升肆合捌勺爲上木稅、捌佰斛伍斗壹撮爲鹽濱稅、漆斛捌升參合參勺三撮爲山野稅、而三年率、別

貢總計一年所レ輸銀陸佰漆拾貫佰玖拾漆匁伍分、隅州高貳拾伍萬伍仟捌拾伍斛肆斗漆升玖合漆勺捌撮、而於二其中一貳拾萬陸仟伍佰捌石玖斗貳升肆合壹勺肆撮爲二水田高一、肆萬捌仟貳拾伍斛陸升伍合玖勺貳撮爲二陸田高一、貳佰貳拾玖斛參升捌合參勺爲二上木高一、參佰貳拾貳斛肆斗伍升壹合肆勺貳撮爲二鹽濱税一、而三年率、別貢一年所レ輸銀陸佰捌拾貫捌拾貳匁漆分、日州諸縣一郡高拾伍萬漆仟陸佰陸拾壹斛漆斗陸升陸合壹勺漆撮、而於二其中一拾參萬肆佰貳拾肆斛玖斗肆升肆合玖勺貳撮爲二水田高一、貳萬陸仟捌佰參拾陸斛漆斗伍升壹合陸勺漆撮爲二陸田高一、肆佰石陸升玖合伍勺捌撮爲二上木高一、而三年率、別貢一年輸銀參拾陸貫肆佰玖匁捌分、其他道島・伍島・琉球・十島詳二琉租篇一、而於二共薩・隅・日・琉、及道島一通計捌拾陸萬漆仟貳拾捌斛陸斗漆升參合貳勺捌撮之中、分而言則、拾貳萬參佰漆拾壹斛玖斗肆合漆撮就レ中陸萬仟柒佰陸拾參石壹升五合三勺捌撮爲二薩州一三萬貳仟參佰漆拾肆石捌升玖合貳勺陸撮爲二隅州一、貳萬陸仟貳佰三十四石漆斗玖升玖合肆勺參撮爲二日州一爲二拾貳萬斛廩入一、仟伍佰陸拾玖斛陸升捌合漆勺伍撮爲二屋久島口永良部島廩入一、伍萬貳仟貳佰玖拾斛玖斗漆升貳合壹撮就レ中貳萬參仟拾石漆斗五升肆撮爲二薩州一、貳萬貳仟柒佰拾肆石壹斗漆升陸合捌撮爲二隅州一、陸仟伍佰陸拾石肆升伍合捌勺玖撮爲二日州一爲二帖佐與廩入一、伍萬貳千陸佰壹斛肆斗捌升壹合漆勺就レ中貳萬玖佰肆拾伍斛漆斗漆升捌合玖勺肆撮爲二薩州一、貳萬肆佰陸拾壹石陸斗捌升壹勺貳撮爲二隅州一、壹萬仟佰玖拾肆石貳升貳合陸勺肆撮爲二日州一爲二伍萬斛廩入一、壹萬陸仟貳佰拾貳斛參斗伍升捌勺參撮就レ中捌仟陸佰捌拾貳石貳斗玖升參合捌勺玖撮爲二薩州一、伍仟肆佰伍拾參石捌斗捌升肆合壹勺陸撮爲二隅州一、貳仟柒拾陸石壹斗柒升貳合柒勺捌撮爲二日州一爲二新田廩入一、參拾參斛捌斗捌升貳合壹勺陸撮爲二宮内・原新田廩入一、捌仟漆佰貳拾伍斛壹斗玖升陸合參勺捌撮就レ中玖佰貳拾貳斛肆斗參升貳合柒勺壹撮爲二薩州一、陸仟伍佰貳拾玖斛柒升柒勺伍撮爲二隅州一、仟貳佰漆拾參石陸斗玖升貳合玖勺貳撮爲二日州一爲二國分與廩入一、漆仟玖佰捌拾漆斛捌斗壹升陸合參勺漆撮爲二磯附廩入一、仟參佰參拾參斛漆斗捌升貳合陸勺捌撮爲二信證夫人所

レ買廩入一、伍佰陸拾肆斛陸斗貳升貳合玖勺貳撮爲二於須磨君所一レ買廩入一、參佰肆石貳斗貳升玖合貳勺參撮爲二寺院所一レ買廩入一、伍佰拾參斛伍斗捌升伍合玖勺肆撮爲二內用廩入一、玖佰參拾參石肆斗壹升壹合貳勺肆撮爲二七島及諸島廩入一、參佰拾伍石壹斗肆升玖合陸勺玖撮爲二助用高廩入一、貳仟伍佰伍拾玖石捌斗壹升伍合漆勺漆撮爲二金山附廩入一、佰漆拾參石捌斗漆升陸合漆勺肆撮爲二新所一レ買廩入一、參仟石爲二渡方料廩入一、壹萬壹斛陸升陸合貳勺漆撮爲二御隱居方廩入一、參佰石爲二御影堂附一、貳佰漆拾漆斛貳斗陸升伍合漆勺爲二護摩所附一、參佰貳拾玖石貳斗壹合肆撮爲二佛餉料一、參拾石貳合捌撮爲二仁王門附一、（在二大乘院一）拾玖斛爲二磯天神領一、參拾壹萬漆仟肆佰漆拾陸石壹斗參升五合貳撮（就レ中拾二萬九千二百五拾捌石肆斗壹升參合五勺肆撮爲二薩州一、拾壹萬陸仟參佰拾玖石參斗玖升陸勺參撮爲二隅州一、漆萬仟捌佰玖拾捌石參斗參升捌勺伍撮爲二日州一）爲二府下給地一、壹萬陸仟漆佰漆拾伍石漆斗參升伍合壹撮（就レ中陸仟肆佰捌拾漆石壹合貳勺玖撮爲二薩州一、漆仟佰陸石貳斗陸升捌合捌勺肆撮爲二隅州一參仟佰捌拾貳石肆斗陸升肆合捌勺捌撮爲二日州一）爲二御役料一、玖萬伍仟捌佰參拾玖斛漆斗玖升肆勺玖撮（參萬玖仟伍佰捌拾貳石伍升伍合漆勺壹撮爲二薩州一、貳萬伍仟陸佰伍拾貳石漆斗肆合伍勺捌撮爲二隅州一、參萬陸佰伍石陸斗陸升貳勺爲二日州一）爲二外城給地一、貳千五百拾漆斛參斗肆升漆勺爲二神領一、陸仟參佰肆拾斛貳斗壹升伍合壹勺捌撮爲二免地一、佰玖拾肆石玖斗伍合貳勺玖撮爲二用地一、仟貳佰陸拾玖石參斗捌升壹合玖勺參撮爲二士及座附宅地一、伍拾參石捌斗陸合伍勺爲二上町宅地一、捌拾陸石參斗肆升壹合壹勺伍撮爲二下町宅地一、伍萬仟漆佰拾陸石陸斗肆升玖撮爲二道島廩入一、玖萬肆仟貳佰參拾石漆斗玖勺玖撮爲二中山王領一、而琉球及道島所レ謂壹斛、雖下以二糙壹斛伍升一、計レ之如中慶長制上、三州所レ謂壹石、則以二糙玖斗陸升一準二高壹斛一、猶二萬治例一、厥男女通計肆拾伍萬仟捌佰肆拾玖人、（男貳拾參萬伍仟貳佰拾壹人、女貳拾壹萬陸阡陸佰參拾捌人）而於二其中一、拾玖萬

參仟玖佰拾肆口（男拾萬四千貳百漆拾口、就レ中參萬千捌拾陸人爲ニ道島一、女捌萬玖千參百肆拾肆口、就レ中參萬千貳百拾捌人亦爲ニ道島一）爲ニ諸廩入一、拾貳萬捌仟貳佰玖拾參口（男漆萬貳仟玖佰伍拾陸口、女伍萬伍仟參百參拾漆口）爲ニ諸給地一、拾貳萬玖仟陸佰玖拾貳口（男女詳ニ琉租篇一）爲ニ中山王領一、厥牛馬通計貳萬貳仟玖佰捌拾肆疋、（馬玖萬肆佰貳拾陸疋、牛貳萬捌仟玖佰伍拾捌疋）而於ニ其中一、肆萬捌千漆佰捌疋（馬肆萬伍仟伍疋、牛參仟佰參疋）爲ニ諸給地一、伍萬參仟陸佰壹疋（馬肆萬陸佰漆拾參疋、牛壹萬貳仟玖百二十八疋）爲ニ諸廩入一、貳萬陸佰漆拾伍疋（牛馬詳ニ琉租篇一）爲ニ中山王領一、別町濱寺僕通計男女伍萬陸仟肆佰漆拾肆人、（男參萬仟伍佰玖拾參口、女貳萬肆仟捌佰捌拾壹口）厥牛馬肆仟漆佰參拾漆疋、（馬肆仟伍佰貳拾玖疋、牛貳佰捌疋）寓宿五人、又諸邑士三州通計壹萬伍仟參佰貳拾壹口、厥宅地捌佰參拾漆町肆段伍畦貳拾壹步、座附及苗代川役人等參佰玖拾肆人、厥宅地貳拾壹町陸畦貳拾漆步、通計仟肆佰肆拾肆町肆段漆畦貳拾陸步、而於レ薩則陸佰陸拾漆町肆畦拾五步、於ニ其中一參佰伍拾肆町伍段肆畝拾伍步爲ニ邑士宅地一、厥士員陸仟伍佰陸拾捌戸、貳段伍畝爲ニ料理役宅地一、厥員伍戸、拾貳町參段捌畝貳拾捌步爲ニ諸座附宅地一、厥員貳佰拾捌戸、其他別館・番鎭・倉院・官宅等不ニ悉書一焉、於ニ隅州一則肆佰參拾貳町貳段肆步、於ニ其中一貳佰漆拾陸町陸段捌畦伍步爲ニ邑士宅地一、厥士員肆仟玖佰捌拾肆戸、壹段伍畦在ニ山田一、爲ニ寓士宅地一、厥員參戸、捌町玖段陸畦貳拾玖步爲ニ座附宅地一、厥員佰漆拾壹戸、於ニ日州一則參佰肆拾伍町貳段參畦漆步、於ニ其中一貳佰伍町貳段參畦壹步爲ニ邑士宅地一、厥士員參仟漆佰陸拾壹戸、漆畦爲ニ座附壹戸宅地一、凡厥廣輸皆仍ニ萬治舊一、但萬治後所開宅地悉限ニ伍畦一、收ニ其餘地一混ニ邑士高一、至レ如ニ曖職一、給ニ官地一各壹段、而其他別館・番鎭・倉院等不ニ悉識別一、皆如ニ薩例一、諸帳通計參仟玖佰伍拾肆冊、（就レ中參仟參佰肆拾陸冊加ニ裱裝一、陸佰捌冊否）別所ニ班授一名寄帳漆仟漆佰參

拾肆冊、及目錄仟貳佰捌拾參通、總計玖仟拾貳、抑此舉費、則混合廩入給地所輸出米、皆取諸其模合米、起寅季秋、訖未仲冬、凡六年成、厥所費銀捌佰陸拾捌貫佰錢零、而自卯租迄酉七秋、以其所增租稅償其費、則所餘銀貳佰捌拾錢、迨至戌年、則歲所餘凡捌拾貫錢云、是所謂享保大御支配、而載大概爾、（據復元氏著次第帳）又一本云、三州通計捌拾漆萬仟捌佰肆拾伍斛壹斗參合肆勺玖撮、就中拾壹萬玖仟捌佰貳拾伍石伍斗參升壹合漆勺陸撮、萬治以後、迄享保九年所增益焉、肆仟捌佰拾漆斛伍斗參升伍合伍勺壹撮、十年以後、迄元文元年所亦益也、二年以後別所益、亦玖仟陸拾伍斛玖斗伍升壹勺貳撮云、然未詳其所算乎何歲而已、據此總計捌拾捌萬玖佰參拾壹石伍升參合陸勺壹撮、而按實曆中對上使書、其御判物高則曰、漆拾貳萬玖仟伍佰陸拾參斛陸斗參升壹合、於其中官倉所入則曰、貳拾參萬肆仟斛零、諸士所食、及寺社田則曰、肆拾玖萬伍仟伍佰石零、歲有水旱、日有損益、雖租稅亦難以常定、粗錄所視、亦示大概焉、於日域稱大藩、不亦宜乎、自享檢訖至於今年、（天保丁酉）既餘百拾歲、則今稅額租入、無得而識焉已

兵備第四十

夫田祿者、雖一撮土、莫非公封國、而公封國、本莫非王土也、故我皇朝之爲政也、遣吉備公等、爲節度使於西海道、專令簡練士馬、精銳甲兵、示威諸蕃、莫以不常備不虞焉、於是大化二年、詔兵者、（天平十八年、書諸國兵士）人別輸刀甲弓矢幡鼓、又天平寶字五年、（七月甲申）令日向等國造備甲刀弓

箭一各有レ數、每年送中之太宰府上、十一月、吉備公檢ニ定日向・大隅・薩摩等八國、船一百二十一隻、兵士一萬二千五百人、子弟六十二人、水手四千九百二十人一、皆免ニ三年田租一、悉赴ニ弓馬一、兼習ニ五行之陣一、其兵士便造ニ兵器一焉、又十一年、（八月庚戌）勅鐵甲易レ爛、爾後諸國所レ造年料甲冑宜ニ皆用レ革、即依ニ前例一云、或延喜式日向器仗、則每年造ニ甲二領、横刀六口、弓十五張、征箭二十五具、胡籙二十五具一、以送ニ太宰府一、府官具錄、附ニ朝集使一、申ニ兵部省一云之類、多見ニ歷史一、可ニ併観一也、中葉以還、廷臣專レ政、乾綱解レ紐、遂至レ使下覇朝歷世擅執中國命上、於レ是乎使下我君侯世襲ニ封爵一、以鎮中西藩上、要レ之、亦惟無レ侘矣、爲下其或臨ニ緩急一、能出ニ兵賦一、以拒ニ外寇一、永守中護本邦於千歲無窮上之故也、是以昔時有レ祿者、一陣不レ役、則奪ニ給役者一、爲ニ邦典一焉、則慶長三年、（卯月二日）松齡公賜ニ國老上井里兼長壽軒書一、以布ニ嚴令一、亦是而已矣、所レ謂千乘之國、以三兵車出ニ千乘一也、其一乘則甲士三人、步卒七十二人、牛馬兵甲芻糧具焉、我藩古之正ニ經界一、亦自ニ文祿一後、慶・寬丈量、皆莫四以不三起乎修ニ其兵賦一也、按ニ寬永九年制一、凡佰斛出ニ三人一、其賦則錢陸拾貫文、一人別當ニ貳拾貫文一、參佰斛至ニ伍佰斛一、或出ニ一騎一、或出ニ二騎一、一騎十五人、其錢爲ニ參佰貫一、一騎八人、其錢爲ニ佰陸拾貫一、而其或伍佰石至ニ陸漆佰石一者、以ニ其餘佰石一、補下其以下佰斛至ニ佰伍拾斛一者上、使三以亦出ニ之一騎一、一騎六人、其所レ率則鎗持壹人、甲及草履持壹人、小旗持、私卒壹人、皂隷壹人、役丁壹人、與レ主六人、其錢爲ニ佰貳拾貫一、或以ニ其餘伍拾石一、補下其陸佰陸拾石至ニ貳佰石一者上、使三以亦出ニ之一騎一、一騎八人、私卒壹人、鎗持壹人、

甲及草履持壹人、小旗持壹人、皂隷壹人、役丁貳人、與レ主八人、其錢爲二佰陸拾貫一、又大家令曰、仟斛出二二騎、鐵砲壹挺、弓壹張、鎗貳本、通計貳拾肆人一、其錢爲二肆佰捌貫一、其出レ師也、可レ謂二一日千金一矣、抑士之有レ祿、必行二節儉一、要在二常具一焉、然昇平久、天下忘レ亂、方今士庶生二長逸樂一、徒貪二官祿一、競誇二奢侈一、以傷二民財一、可レ謂レ忘レ本矣也

等級第四十一

抑古之屨正二其經界一、蓋皆所レ禁レ使下豪強恣掠二貧弱一、以估中一家上也、縱令一家富比二列侯一、不三亦如二趙趙武夫、食足兵足、以爲二扞城一矣、故元文元年、二月先公之令二於封內一、亦定二之等級一、其有レ錢貫レ之亦許、大身分限二玖仟二三佰石一、一所持限二漆仟斛一、一所持捴限二伍仟斛一、寄合限二參仟石一、寄合并限二貳仟石一、非下寄合并若躬居二番頭以上一者上、不下輕許上レ登二於仟石一、又非下府士曾若祖、世仕陛二顯職一、或拜二地頭一、世襲二小番一者上、不三亦許二伍佰石一、非三御小姓與、世進二俸資一、不三亦許二參佰石一、若或士門嗣二鄉士子一、不レ歷二四世一者、不レ許二百石一、況躬冒襲、或新擢者、不レ許二伍拾斛一、與力不レ許二參拾斛一云之類、蓋是祖百令所レ謂門地尊卑、因二祿厚薄一云之遺意、而苟使二豪富者恣躐一レ等、匪三啻農貫凋二落於野一、士子食レ祿、亦不レ均二於朝一、若其然則必害三乎其出二兵賦一矣、故古者屨正二經界一、以均二穀祿一、亦有レ謂焉乎

義倉第四十二

竊惟今也豪富、估レ田躐レ等、亦追レ年夥、自然之勢、則欲二遽奪一、恐難二亦制一、然恣使レ估、其所二餘裕一、

徒極奢侈、以紊風俗、未聞兵備應其租賦、多傷民財、國家費莫大焉、孔子不云乎、有國有家者、不患寡而患不均、(各得其分)不患貧而患不安、(上下相安)於是乎和銅中、本邦亦既制義倉法、而其輸穀法、粗見延喜式、曰、一位(正八十町從七十四町)伍斛、二位(正六十町從五十四町)四斛、三位(正四十町從卌四町)三斛、四位(正卅四町從二十町)二斛、内五位(正十二町)壹斛、外五位(從八町)伍斗、上上戸貳斛、上中戸壹斛六斗・上下戸壹斛貳斗、中上戸壹斛、中中戸捌斗、造帳二通、一通申省、一通留寮、若損去年、返却其帳、而應賑給者、國司熟量貧乏、人別班給壹石以下壹斗以上、其所給用、不得過一年所輸數、若過其數、即告聽裁云、據物氏說、位田不輸租、則一位八十町收二千石、而於其中輸五石於義倉、充救貧弱、餘可例知也、寛永賦以富所餘、補貧不足、出騎士之類、似本乎此、抑救貧弱、令以精練、則愚竊意、莫如且因此權道、精選富品第及躐等者、酌宜於今、各輸有差、以行賑救焉、而其班給之、須撰其專勵文武、篤志忠孝、不能自給者、以褒給之、亦有差也、且其輸者、論年所積、免課顯功、亦宜有議焉、雖似危言、因言班田事、聊述愚意爾、勿漫示人可也

制用第四十三

若夫制國用、必於歲杪五穀皆入、視年之豐耗、以三十年之通、量入以爲出、因地大小、以制國用、豐年不奢、凶年不儉、常行禮典、而無三年之蓄、曰國非其國也、三年之耕、必有一年之食、九年耕、必有三年之食、以三十年之通、雖有旱乾水溢、民無菜色云、式所設救急料、

今所レ謂御圍米之類、庶二幾乎斯一、抑反レ本說、既述二卷首一、故不レ贅焉、愚迂二時事一、恆耽二古編一、我藩所レ入、莫レ多二於田租一、而其爲レ出、雖二與レ時異一、本邦惟武以威二海外一、邦之大事莫レ重二於兵賦一、然於二今日一、未下亦有中其實如レ無レ用二於兵賦一者上也、故皆易レ懈、況昇平久、去レ古愈遠、世人優游、徒競二奢侈一、殆至レ忘レ本、可レ不レ戒哉

右四十三篇、余雖二至愚一、欲下使二蒙息等學一干上レ祿、以保中殘軀上、然生二斯國一、而懵二斯理一、猶二牆レ面而立一、安得二從事一、故思レ貽レ惠、恨短二算術一、惑二乎折衷一、故敍レ所レ攷、姑備二遺忘一、以竢三算士有二正而教一焉爾

天保八年丁酉正月穀旦

麑府　伊地知季安子靜稿

西藩田租考卷下終

眞壁義倉條約

畠山立著

叙

古君子之于民也、惠之必有道也、養之必有法也、一梁之渡人、惠之至微者也、而賢者取焉、得其道也、一菲之濟物、養之至薄者也、而聖人取焉、得其法也、子產以其乘輿濟人於溱洧、其爲力固勤矣、而孟子笑之、失其道也、冉子爲公西赤請粟、其心固周矣、而孔子非之、非其法也、所謂道者、不在乎豐、在乎不費云爾、所謂法者、不在乎大、在乎不窮云爾、夫豐而多費、知愛於彼、而不知愛於此、大而易窮、知愛於今、而不知愛於後、則一時之務、一切之事耳、惟其不費不窮、則其初雖至微至薄、而其後之所及其遠且大、豈可量也哉、予嘗讀周禮、至遺人之職、得委積之法（周禮[illegible]注曰、委積者、廩人倉人計九穀之數足國用、以其餘共之、所謂餘共其用也、少曰委多曰積）而歎其濟物之遠大也、然此非身宰于天下、相于邦國者、不能作焉、及閱通史通典書、而又得義倉社倉之法、乃悅曰、詳考之於古、能計之於今、以行之、則其惠而不費、養而不窮、此亦庶幾於委積乎哉、其後天下凶饑六七年、餓莩相枕于道路、其痛呼哀號之聲、常不去耳邊、當是之時、在上之人、誰能養之而不窮、世之富戶、素封有力者、孰能惠之而不費、予彌益嘆二倉之不興也、天保某年、予從下毛返、路經眞壁、邑人塚本某、嘗橫徑從予、其爲人明敏而善談、不見三四年、見予之過、喜而出迎、扣馬而留曰、邑有義

倉之擧一、欲レ乞二先生之一言一久矣、因爲レ予道二其事一、辭旨滾々、意氣動レ人、予不レ覺下レ馬、入二其門一、升二其堂一、須臾有三一人來拜二堂下一、其人眉目爽豁、予一見知三其非二庸人一、塚本某指曰、此卽義倉首謀逸物某是也、予心悅二其得一レ人、因進レ之問曰、同盟者幾何、曰、有二釋氏九人一而已、予笑乃諾二其請一、遂三人聚レ首、劇談快話、及レ曉而散、後一年餘、予猶懶未レ果レ所レ請、今茲夏、將レ遊二江戶一、路又出二眞壁一、二人復喜相迎、其請益勤、予乃然作二義倉條約七編一與レ之、嗚呼大夫之處レ世、誰無二經濟之志一、然非二其職一無二其勢一、則袖レ手而熟二視其窮困一焉、則分之所レ不レ得レ已也、而或居レ職得レ勢者、反汎然若レ不二目視耳聞一、或幸偶逢レ有二賑濟之心一、而不レ知二其道一、其所レ爲止二一時之務一、一切之事一者、是亦可レ慨也、塚本逸物諸人、固非レ有二其職勢一、然義氣相感、以有二此盛擧一焉、此豈可レ不二大賞稱一乎哉、所レ謂七章者、曰知義第一、曰相睦第二、曰相恤第三、曰邑中賑給第四、曰五十年大因第五、曰立盟主第六、曰有終第七、夫二子、予旣悉二其爲一レ人矣、今又以二二子一而槩レ之、則其餘諸子、予雖レ未二盡識一、然必亦非二庸人一矣

天保十年歲次己亥夏五月十七日　水戶湖南山樵書二於眞壁小松崎氏大觀樓一

眞壁義倉條約

水戸　日本史檢討官　畠山立　撰

知義　第一

義倉始見二隋書一、隋文帝開皇五年、工部尙書長孫平奏、請令三諸州百姓、及軍人勸二課當社一、共立二義倉一、收穫之日、隨二其所一レ得勸課、出二粟及麥於當社一、造二倉窖一貯レ之、即委二社司一、執レ帳檢校、每年收積、勿レ使二損敗一、若時或不レ熟、當社有二饑饉者一、即以レ穀賑給 均是倉也、今乃名曰二義倉一何也、蓋倉以レ義而成、有レ義然後有レ倉焉、無レ義則無レ倉矣、凡吾同盟之人、其有レ不レ知レ義乎

義亦美名也、荀子曰、水火有レ氣而無レ生、草木有レ生而無レ知、禽獸有レ知而無レ義、人有レ氣有レ生有レ知、亦且有レ義、故最爲二天下貴一也 人愛二此君一也、謚曰二義公一、人愛二此臣一也、呼曰二義士一、今乃造二一倉一、而自名曰二義倉一、豈不レ近二於誇張一乎、然夫四達之地、浩穰之都、巨倉大庫亦多矣、其將以レ何名レ之

古曰、義者宜也、中庸曰、仁者人也、親レ々爲レ大、義者宜也、尊レ賢爲レ大、孟子曰、親レ々仁也、敬レ長義也 又曰、廉而不レ劌、義也 聘義、孟子曰、人皆有レ所レ不レ爲、達二之於其所一レ爲、義也、又曰、人能充二無レ穿踰之心一、而義不レ可二勝用一也、按其義相發 又曰、義者、天下之制也、表記曰、仁者、天下之表也、義者、天下之制也 義之名義明矣

世之造レ倉、利二於己一也、今之建レ倉、義二於人一也、然人唯其好レ義之心、不レ能レ勝二其欲レ利之心一也、荀子曰、義與レ利、人之所二兩有一也、雖二堯舜一不レ能レ去二民之欲利一、然而能使下其欲レ利、不上レ克二其好一レ義也、雖二桀紂一亦不レ能レ去二民之好一レ義、然而能使下其好レ義不上レ勝二其欲利一也、故義勝レ利者爲二治世一、利克レ義者爲二亂世一 始レ義而終レ利者有

レ之、外レ義而內レ利者有レ之、遂因レ之而致二禍咎一、如下西國人所上レ爲、最須二各自警戒一、無レ他、義利之分不レ明也西國人有二義倉之擧一、既各利二其息一、相爭而不レ止、遂共訴二於官一、々毀二其倉一、沒入二其積一

又有二凶歲穀躍貴一、猶待レ買而不レ沽者、衆怨怒、將レ有二不測一焉　官鬪罪二其人一、且爲興發、其變賴以得レ不レ發

相睦第二

睦者、六行之一、周禮大司徒之職、六行曰二孝弟睦婣任恤一 人固不レ可二一日而忘一、然氣習之殊、意尙之異、其平居少有レ所レ違焉、則一日臨二有事一、利害交接、遂反眼相爭、變爲二仇讐一、往々而有、凡此同盟之人、其氣習如何、其意尙如何、其當二平生婆娑徵逐一、各宜須二披レ心示一レ誠、無レ所二蔕芥一也

願二相美一、不レ樂二相刺一、亦人之至情也、然人心如レ面、其一是一非、雖二君之於レ臣、父之於一レ子、不レ能下强使上レ同二於己一、或者不レ察也、同二於己一則悅、異二於己一則怨、遂至二比和立一レ黨、以相中傷一、不二亦惑一乎、善哉古人之言、曰、大夫以レ氣相許、小嫌不レ足レ置二胸中一、見二唐書一 凡此同盟之人、宜レ有二斯氣象一

古曰、蓬生二麻中一、不レ扶而直、荀子 人固有三其外若二柔順縛紲一、而其內却有レ所レ執、以腹誹心謗者、此所レ謂長體婦人之類、三國志鄭渾傳表本初之言 今之同盟中、豈有二斯人一邪、若或有レ之、宜下鼓二其氣一輔中其志上、左提右挈、以使レ有レ所レ立焉、是亦麻中之蓬也

五人爲レ伍尙矣、後世有二保甲者一 王安石之法 有二十家牌者一、王文成之法 使二百姓相親睦一之法、此莫レ爲レ良焉、蓋衆

則難レ治、其勢固然也、〔朱文公社倉法亦云、其法以二十家一爲レ甲〕故未レ有下踰二于十家一者上、今此同盟之人、既適有二其數一、後來若更有二請レ盟焉者一、宜レ勿レ許、與レ人相親狎之道、考二之於古一、最宜三於忠信忠恕而盡レ力、曰、忠則和二於衆一、信則人任レ之、〔家語〕中以應レ實、曰知レ恕〔大戴禮〕又曰、强恕而行、求レ仁莫レ近焉〔孟子〕

相恤　第三

同レ憂者相親、同レ欲者相憎、凡此同盟之人、固不レ同二其欲一、而其所レ憂則同、憂二我之家一也、憂二人之家一也、憂二我之子孫一也、憂二人之子孫一也、既已相憂、則相恤之法、其可レ不レ講乎哉

語曰、富貴在レ天、推レ之不レ可レ去、求レ之不レ可レ得、命之定也、夫殷富者、服二綺縠一、餘二粱肉一、而貧窶者、短褐不レ全、菲食不レ贍、其勢實相懸絶矣、人但見二其懸絶一也、以爲吾富可レ常矣、乃每有下驕二於人一之色上、嗚呼是亦惑矣哉、夫一盛一衰、固亦天之所レ爲、一旦及二門戶殄悴、事勢窮蹙一、不レ能二自支一、然後始自悔二悟曩之過一、亦已晚矣、唯明者既知二貧富之不下可以二人力一而去取上、又知二盛衰之常相因一焉、是以人之窶且窮也、乃代爲レ之憂、以爲我之後來、我之子孫、安能知二其不レ至レ如レ此貧且窮一乎、此所下以其能周二恤於人一、而不中自慳惜上、蓋知レ有二天命一也

同盟相恤、非二獨於二凶年饑歲一、其在二平生一、或火災盜難、積貨爲レ之蕩盡、或疾痾連歲、湯藥之不レ能レ給、或父死子幼、單子孤立、無レ所二寄託一、類皆夭殃、其在二他人一、猶當三爲二憐哀一、況同盟者、嘗兄事弟畜乎、

周禮遺人之職曰、鄕里之委積、以恤二民之艱阨一、門闈之委積以養二老孤一

凡有當周恤者、衆共會議、而盟首裁決之、勿以私害公

周恤之法、宜徐々、宜小々

邑中賑救　第四

盟中周恤、內也、邑中賑救、外也、外則關係廣、事體重、恐或有嫌疑焉、宜須先告官司、而後行之爲是

邑中給恤、亦有凶歲、與平年之異、凶歲大賑給、則待官司之令而後行之、若其平居有一人一家、甚可憫哀者、則不必煩官司

年穀有上熟中熟下熟、（李悝曰、善平糴者、必謹觀歲有上中下熟）故分大饑中饑小饑、（又曰、小饑則收百石、中饑七十石、大饑三十石）此古者糶糴之法、所以爲精也、（馬端臨曰、按古今言糶糴斂散之法、始於齊管仲魏李悝、然管仲之意、兼主於富國、李悝之意專主於濟民）今此邑中救恤之法、如其大饑之大賑給、仰官之裁制、則不必論、至小中二饑、則宜須預爲之備

古人有夏散冬斂之法、此亦可行、（朱文公社倉法曰、夏受粟于倉、冬則加息、計米以償、五夫社倉法曰、歲一斂散以紓民之急）唯其收息、有每石收三升者、又平歲出什一、小饑則弛半息、大侵則盡蠲之者、此亦宜須預講焉

五十年大饑　第五

事有必至、理有固然、明者知之、不肖者疑之、夫五十年而有大凶饑、亦事理之必至者、（鈴木氏農論、亦有此論）然天下明者恆寡、不肖者常多、則雖爲之反覆譬說、而終不信、非獨不之信、或却疑之、以爲造言

生レ事之徒、嗚呼亦惑矣哉、今此同盟者、既已明知二此理一、又親見二其事一矣、亦何待二呶々一焉、唯竊恐後世子孫、未二必皆明者一、而又不レ親二見之一、其或有下疑二五十年之說一者上、（三輪氏社倉略法有二三十年之說一）此於二其親一即不孝、於二其邑一則不仁、而其於レ爲レ人、則可レ謂二大不肖者一矣

天之將レ降二大饑饉一、必有レ漸也、必寒暑乖レ候、盲風怪雨、發作不レ常、如レ此者、若七八年、若十餘年、然後有二一大凶災一矣、非下一年一時之不熟、而遂乃至中于此上也、今試以二近者一言レ之、天明之凶、其大不熟、在二卯與一午、天保之饉、在二巳與一申、而其間氣候每不レ順也、若偶逢二一不熟一、而倒レ囊賑救焉、豈明者之爲哉

盟主　第六

有二此匠一則有二此君一、下至二閭伍之微一、皆無レ不レ有二之長一、蓋綱紀有レ所二總攝一、則事易二一定一、其勢之然也、古人之法、有二甲首者一、有二社首者一、（朱文公社倉法曰、以二十家一爲レ甲、々推二一人一爲レ首、又云、五十家、則推二一人通曉者一爲二社首一）今宜下擇二一人一、推爲中盟首上、凡有レ事、則可レ取二之裁決一、（三輪氏社倉大意、引二司馬溫公陟椽山之言一、亦論二此事一）

凡有二出納一、盟主掌二其封鐍一

凡擇二盟主一、必取二衆之所二共服一、不三必其才華超絕、風流讀レ書者一、謝混有レ言、曰、微子異不レ傷レ物、同不レ害レ正、（宋書謝弘微傳）盟主與二諸君子一會議之際、宜レ勿レ忘二此語一

劉向歆之議、萸椒之愆、盟主之所二自省一

有終　第七

書曰、亦罔レ不下能二厥初一、惟中其終上、詩曰、靡レ不レ有レ初、鮮二克有一レ終、老子曰、民之從レ事、常於二幾成一而敗レ之、樂毅曰、善作者不二必善成一、善始者不二必善終一、此皆古人丁寧警喩之言、凡此同盟之人、吾願三各實二之於耳一

凡事其要三終在二其身一、此擧非二獨其身一、又在二其子孫一、故宜須下毎以二前所レ提諸確言一、反覆告中喩之上

各家貯二鈴木氏農喩一卷一、時出讀レ之、亦不レ忘二凶荒一之一助也

倉之起、以二漢常平一爲レ始、漢五鳳中、大司農丞耿壽昌奏請所レ建 北齊有二富人倉一、北齊書曰、河淸中令二諸州郡一皆別置二富人倉一 後周有二官司倉一、周書曰、後周文帝、創置二六官司倉一 宋有二惠民倉一、文獻通考曰、宋太宗淳化五年令二諸州一置二惠民倉一、如穀稍貴、即減レ價糶與二貧民一不レ過二一斛一 明有二預備倉一、[illegible]維璉義倉議曰、我朝郡縣預備倉、即昉二漢常平倉一 似レ未レ及二義倉之雅訓一

義倉之義、與二北齊之義租一、北齊書曰歲每人出粟二石、義租五斗、墾租送臺、義租納郡、以備二水旱一 北宋之義田 錢君倚義田記曰、置二負郭常稔之田千畝一、號曰二義田一、以養二濟群族之人一、日有レ食、歲有レ衣、嫁娶婚葬皆有レ贍 義學、莫如忠陸氏義學記曰、先哲范文正公、實創爲レ之、遞二數百年一、而再覩者、今陸氏也 明之義莊、殷氏大倉義莊記曰、莊之約曰、人藏予二米升一加日之數疏者三二、娶者、嫁者、病者、葬者、火盜者若干、無レ夫未レ嫁者倍レ之行レ之四十年矣 一般

眞壁義倉條約　終

經濟五策

大塚昌伯著

經濟五策

大塚昌伯著

伏惟、近年來の政事克行屆候て、御國風漸々相改り、上下富饒に相趣候樣子奉㆑窺候、乍㆑恐此時に乘じ、仁政善教聖人の治化專に御施し被㆑遊候はゞ、國家益繁榮可㆑仕候、拙者年來の寒儒、處々漂泊仕、世上國益の說共多見聞仕候、總て下を虐し上を益し、或は若一人を富し、大切成御手當金抔は不㆑貯、畢竟君を驕奢に導のみにて、國の安危を不㆑計、萬一非常の事に値候へば、如何して禦ぎ可㆑申哉、是可㆑畏の第一と奉㆑存候て、經濟學を唱へ、善教安富の義專に相說候事に御座候、今經子に載る所の旨趣を以て、經濟五策を錄し奉㆑呈㆓尊覽㆒候、萬一御取用に相成候はゞ、吾輩素餐の罪を免れ候事難㆑有仕合奉㆑存候、孟子曰、居㆓是國㆒也、其君用㆑之、則安富尊榮、其子弟從㆑之、則孝弟忠信、素餐せざる孰れか是より大ならん、愚臣固より敢て當らずといへども、其理においては可㆑然奉㆑存候、麁書敢て文筆に任せ相記し、御國の忌諱に相觸候事も可㆑有㆓御座㆒候、乍㆑恐其罪を免じ、趣意所存御酌取被㆑下度偏に希上候

仁政策

先御御國内一統に鰥寡孤獨三極之者可二申出一旨御觸有レ之、一々貧富行狀取糺之上、相當の御救被レ爲レ在度候、三極と云は六極の内三ツを申にて候、又八十以上の者は實に天下の達尊に候へば、貧富を擇まず御扶持被レ下、養老の禮を御示し被レ遊度事に御座候、仕方口訣是等は間々聖人の御制法にて、國家第一の事に御座候、次に罪を宥うし、囚罪の疑はしきは輕くし、其不辜を殺んよりは、寧不經に失せよと臯陶も被レ申候、兎角獄中空虚に相成候事願しく奉レ存候、刑措て用ざる事四十餘年、武王の德可レ仰事に御座候、貧人を救候事は、大抵何れの國にも其手當有レ之候得ども、實は名のみにて、指たる爲に相成候程の事もなく、下からは上を欺、施を得んと計、上は下を疑ゆへ、形は仁政に似て、心は左にあらず、余所レ願は極窮詮索の上、可成に取續の出來候樣に成し遣し度ものと存候、年々施し候には不レ及事と奉レ存候

善敎策

篤實にして有二學事一者一人を選み、敎諭使と號し村々在々を巡行し、御上の御趣意を以孝悌忠信の道を可レ申候、元來下々の者どもは、無學にして人道を不レ辨もの其分に御座候故、較もすれば法を侵し、本願罪を犯し、放辟邪侈せざる所なし、敎なくては不レ叶ものなり、故に聖人庠序の敎を設給へり、今日莫大の恩德を蒙り候寺などは此道理を能考、寺々にて日夜敎導仕候故、愚夫愚婦とも敎に靡き、御上よりも、却て難レ有心得申候族も有レ之候、畢竟敎のあると無とによる事なり、民の罪にはあらず

候、只親く懷けて、御上の御仁德の難有旨を說聞せ、勸善懲惡、敬老慈幼、家業怠らず家內睦敷、喧嘩口論、公事訴訟抔不レ致樣に諭し可レ申候、此事は尾州の紀德民と申先生は行候由承及候、別に耳目官一員時々巡行して、其所々の風俗・人氣・貧富・驕儉・出精・不出精・無法者・奇特者等一々可ニ申出一候、尤農事多忙の節は相休候て、聊も下々の妨に相成不レ申樣に可レ仕候、宿料飯料自拂に致し、猥に人足取事を許さず、如レ此時々教導仕候て人道をさとし、其上窮を救ひ、或は下利の金錢貸與候へば、君上を仰ぐ事は父母の如く、如何樣の嚴命にても、いなみそむく事決て無レ之候

厚性策

年限を定めて節儉法を立可レ申、節字最肝要なり、儉度を過れば吝嗇に相成候、吝嗇は聖人の惡處に御座候、此法上下共に可レ行事に御座候、(有ニ口訣一)次に御領內の民家一軒にて、桐苗一本或は二三本ヅツ、御上より御預けに相成、屋敷の隅に植置候へば、十年の內には大抵十匁程にも相成候、乍レ然寒氣强き所は此例にあらず、若また地に合不レ申候はゞ、棗・山梔子・蠟實・漆葉何にても宜候、益々御仁政を承候下々故、大切に培育仕候事必定なり、其外空地・荒地・山際・水邊・寒暖を計、果類・藥品・紙木・柑子の類植付候得ば、年々多分の利益、是則地方を盡すの法に御座候、貨殖傳に、千畝千樹皆千戶侯に比すと見へ申候、是等の儀は下々の助勢とも相成、御上大利益是に及ものは無ニ御座一候、然し民の力を奪、民の暇を掠候時は、下々の大害と相成候故、其掛りの役人へ得と申付、御威光を振ひ不レ申樣嚴

重に被二仰渡一度奉レ存候、又古義倉の事史類にも見へ申候、義字尤肝要なり、是は米穀を蓄候て、凶年饑歳の手當に仕候事に御座候、只今にて何方も金銀貸付の名目の如く相成、肝心の米は無レ之、可レ恨事に御座候、凶年は何時と申定なきものに候故、急々に可レ計事と奉レ存候、此法上中下の分御座候得共、高に應じ十ヶ年相積候て、十一年目より出崩し、廿年一周利米相添相渡可レ申候、貯米の內にて、又利米幾許義倉納として、其餘は非常の用金に相儲可レ申候、被レ下米萬一遲滯候へば、御年貢にて引落可レ申旨、兼て申達し置候はゞ下々安堵仕、追々多分加入仕候樣に相成可レ申候、乍レ然此法用難候はば、世上普通の賴母子講の法にて、幾口も取結候ても可レ然奉レ存候、是等の事仁政善敎行はれ候後ならでは、難レ調候、能々御考可レ被レ遊候

利用策

五萬兩の金を積、引替の備とし、新作五萬兩の金札を以貸付の法を行ふ、積金借入、并金札有二口訣一此窮を救の第一とす、中分以上の者は家督田地等有レ之候故、金子借入も心安相調可レ申、下等の者・棒手振・日雇人抔元來無二家財一故、纔に二三步の金といへども借得がたく、譬ば二步の金有レ之候へば、壹步の益ありといへども、如何共難レ致候、貸人なければ商賣も出來ず、難澁困窮日々に加はり、終には離散し、又乞食に成下り候者も間々有レ之、嘆かはしき事に御座候、ヶ樣のもの如レ此相ならざる前に、其性を見其態を察し、見込を以借付候へば、可二取立一樣も可レ有レ之候、貧窮者家具見込にて貸付候事故、損失無レ之

樣相計可レ申候、或は商賣取組、開店開業筋立候儀、役判を以貸付、質物に不レ及、十年成功の上可レ奉レ借、蓄金より別々質屋・古衣屋・古道具屋・上中下三段の株金を定、板札を渡し可レ申候、左すれば彼等も勝手に相成申候、株札所持のもの商賣相止候せつは、他人へ相讓可レ申候得ば、元銀に可二相成一候、當時は類商賣甚多く、聊金貯候者は質屋を始め、目利自慢のもの道具屋を兼、本商賣の妨に相成申候、且又盜賊失物抔は此三商賣の內へ持行候故、御吟味も出來易、即事に相分可レ申候、金十ヶ年の間利用方へ預り、引替手當金の利足に相成可レ申と、箇樣の仕方立候得ば、下々隅々まで難澁者は無之樣に相成、落たるを拾はざる御代と相悅可レ申候

安富策

右各々策嚴重に被二仰渡一、堅固に相守候得ば、安富疑なく候、萬一奸吏等有レ之候得ば、御上の御仁政を傷るのみならず、安富の策相立不レ申、可レ恐事に御座候、猶奸計不レ行仕方愚考仕置候、善教利用の二策最緊要に御座候、萬福此中より生じ申候

一　御領內兩三家の豪家は拔群の由承及候、此者ども他國用達抔聞へ、莫大の出銀仕候風聞に御座候、是等の者御取用に相成候へば、一廉の御助勢にも可二相成一と奉レ存候、最御役威を以被二仰付一候はゞ、恐入候て膽力を縮め可レ申候、何か懇意の者取遣候て、漸々に御國恩の難レ有旨を說聞せ、御仁政の御手傳爲レ致度ものに御座候、此嚢成功の上御賞譽有レ之候はゞ、萬歲安富の根本たるべく事と奉レ存候

天保十三年壬寅春

水游書院所藏

經濟五策 終

濟厥略記

佐藤一齋著

濟厥略記

佐藤一齋著

民は邦の本として、食は民の天なり、是故に先王の政食を足して、民を養ふを以て本とす、漢土の古にありては、三年耕して一年の食を餘し、十年耕して三年の食を餘し、三十年にして十年の食を儲ふ旱乾水溢の變ありといへども、民菜食の患なきは、この備あるを以てなり、春秋戰國の時王政衰微すといへども、列國猶倉廩の豫備ありて、飢歉の時其民を賑恤し、不足を補ひ不給を助け、また隣國糴糴の事往々見へたり、これみな國君の豫備にして、民間に令したくはへしむるにあらず、三代封建の世は盛衰ありといへども、みな上のものを以て下を救ふの意は同じきなり、秦以後天下一君郡縣の世と變ぜしより、民政のおもむき大に變じ、士民雜糅し、才智あるものは下民より起りて將相にも至り、又致仕すればもとの田畝に歸る、是を以て農民の數前古に十倍せり、朝廷の官人多しといへども、世祿のもの迚もなく、五等の諸侯無ければ、其國々の臣僚なく、耕さずして食ふもの、數、おのづから多らざるなり、故に郡縣の世にては、民間に穀を儲へしむるも、其勢ひなし易き事なり、漢已後隋・唐・宋・元に至るまで、常に義倉・社倉・平糴・折中・廣惠・豫備等の倉法陸續と起れり、これ封建郡縣の異同

にしたがふて然るなり、今我邦においては、縣郡の古制頗る變り、其名を存るのみにして、群后百辟封建の實をなせり、然らば儲畜養民の政よろしく、これを三代封建の遺意に本づくべくして、全く漢土郡縣の制に倣ひ難きなり、然るを儒者往々義倉・社倉など、うへもなき良法と心得て、人主に勸むるものあれども、其法もと三代の時、上より下を養ふの法にあらざれば、民情においてすゝまざる所あるべきなり、抑我邦は沃土多して、五穀善く生ずれば、今においてなんの不足の事なしといへども、漢土の中古以後に比すれば、耕さずして食ふもの、たゞ十倍のみならず、天朝・幕朝の百官の外、大小列國おの／＼許多の臣僚あり、又寺社の數幾十萬なるを知らず、これみな耕さずして食ふ者、其食ふ所は皆農民の手にて養なり、然るにそのうへにも、民間にて穀をたくはへしめんとするは、是を三代の意と云べけんや、然れば今の人主よろしくみづから儉約をつゝしみ、華奢の用を省き、是を以て漸く豫備の倉米置しめ、臣僚たるものも亦よろしく人主の意を體し、みづから其衣食を減じ、斗升の微をつみて人主を助け、平日民に養はるゝ恩を凶飢の時に報ゆべきなり、是上のものにて民を救ふ本意なり、王政の盛なるに及ばずといへども、なほ其遺意をなすと云ふべし、此趣意を篤と會得ありて、其本立たるうへにては、其法を設るに至りては、當今の宜を斟酌し、かの社倉の意味をも參へ用ゆる事有べきなり、王制に三十年の通を以てとありて、三十年を限りと立るは何ぞや、世の字は三十にして尾を曳といふて、三十年を一世とす、人世一變の期なればなり、また三十年を二ッ合せて六十年な

れば、是を甲子一周天道一變の期とす、故に三十年前後などに凶歉あり、六十年前後など大凶歉あるは天運の消長なり、まゝ丙午丁未の前後など、古來往々變事あるもの、漢土にても丙丁龜鑑といふ書ありて、丙午・丁未の災を集め置しなり、我邦にても近くは天明六七の丙午、丁未大飢饉あり、享保十七年の飢荒は丙丁に後るゝ事五年なれども、其時より天明まで凡そ五十五年なり、大略此前後に過ず、近年打續き豐穰にして、飢饉の有様を知るものも少し、此間上下治安に狎れ、華奢美麗の俗をなし、外面は繁榮の姿なれども、多くは浮華の習にして、內實は虛乏なるべし、一旦凶荒の年に逢ば、家國の責あるものこれを救ふの術ありや、覺束なく覺ゆるなり、然れば其時に及んで、般□怠敖すべからず、第一に浮華の習を戒め、質素の風を興し、其思たちし日よりして、速に飢荒の備を工夫あるべし、七年の病に三年の艾とは、此類の喩となすべきなり、扨其事理は尤に聞ゆれども、是までとても國用十分を過て、或は不足にても有べければ、何の餘財ありて其儲を得んや、今俄に其儲をなさんとするとも、行はれざるの實あるべし、然れば其事を成就するには、多少の周旋を用ひざるを得ず、こゝにおいて人君民の爲にするの誠意專一なるを□頭となし、かならず凶飢の苦しみ無からしめんとの遠慮より、第一に衣食を減じ用度を省き、僅たりとも年々にたえず民食をつむべし、これ誠をつむなり、凡士たるものは恆の心ありて、義理も分明なるべければ、人君の其通りにあるを徒に視るべき理なければ、其風に興起して、分限に應じ贏餘を存し、これを以て其君の及ばざるを助け、平日民功より養ひを

うくるの恩を報んとの志あるべきなり、その通り君臣□合て積み儲ふれば、數年の間には餘程の數に至るべけれども、とても過分の事なし、其內には飢歉いたるまじきにもあらず、しかれども年貢定數の外、民間一統にたくはへしむるは、厚斂に類して上たるものゝ本意にあらざれば、上にて積たる米を民間より借りたき願ひあるものへ、貸渡して融通すべし、常年の時にはいさゝかの添米をして返納せしむ、元より合點の事なれば、兩便ともいふべし、その添米を積置は、又凶飢の備へとなるべきなり、既に君臣において艱苦して積み置事なれば、諸民もその誠意に感ぜざるを得ず、わづかのそへ米あるとも、利を取らるゝとは思ふまじき也、このところ社倉に類すれども、畢竟止事を得ざるより起れば、謂はゆる佚道を以て民を使へば、勞すといへども怨みずの意にちかゝらんか

一　濟廠糴置の法、五年を以て基本をなし、十年を以て小成し、二十年を以て大成す、三十年に至ればー變する事もあるべし、是其大數なり、その割り方、一萬石を二百分の二にわりて五十石となる、其君の高により大小に隨ひ、萬石につき年に五十石を除け置くべし、これ儲備の本なり、また銘々二百分一を出し君を助べし、萬石につき君臣合して大凡百石程と定め、これを一年の儲備となす、五年をつみて五百石あり、十萬石の高にてつめば五千石、三十萬石なれば一萬五千石、五十萬石なれば二萬五千石なり、この米をかりたくと願ふ村々へは、初年よりかしあたふべし、尤夏の頃夫食乏しき時にかし、秋成に至りて返納せしむ、其添へ米のわり一石につき五合づつをさめしむ、糴にても麥にて

も、麥ならば其數を倍す、かくのごとくする事五年にして基本となすべし、基本既に立たる後は、非常の備を重となし、儲米の三分一の過米數までは借すべし、殘らずかすべからず、尤これは常年の定めにして、凶飢の時は元より其數に拘はらず、小歉なれば添米を取らず、大歉なれば全く與ふべし、これらの時の備なればなり、扨五年の間飢歉の年なくして、六年に至れば家中惣高よりの加入を免ずべし、これより後は人の儲米と、民のそへ米とにて積むべけれども、民の方をかならずとすべからず、かくのごとくして五年を經て、都合十年に至れば、餘程の儲米となり、大抵の凶飢は救ふべし、これを小成となすなり、又十年を經れば過分の儲米崇みて、いかなる凶飢にても、決して一人の餓莩するものあるまじきなれば、二十年を以て大成といふべきなり、二十年後三十年の内外にて、萬一凶荒に逢たる時は、年來の倉廩を傾けて好賑し、餘す所あるべからず、これ人君本意のあるところなればなり、其後に及びては、再び初發の法をあげ行ふべし、幸ひに凶飢もなき時は、もとの姿にて增益するのみ、もし又年數を待ずして凶飢あらば、その儲へたる丈けを以て救ひ與へ、其翌年より初度の法に返すべきなり

一　此法をあげ行はんとするには、先づ親民の官吏を鈔選すべし、能く人君の仁意を盆得して取扱ふ事肝要なり、前にいふ所夏分に民へ貸し、秋成に至りて納るの法、朱子の社倉もかくのごとくにして王安石の青苗法と異ならず、苟も慘憺忠利の心を以てこれを行はゞ、仁惠の政と成るべけれども、聚

歛亟疾の意を以てすれば、民を養ゆゑんの法を以て民を害するに至る、則青苗の法よくこれを一邑に行なへども、これを天下に行ふあたはざるとひとしきなり、凡そ民は一時の便を謀りて、後の慮りなきものなれば、夏かしの便を喜びて、秋の返濟に苦しむを訴へ間敷にもあらず、有司たるもの撫□心勞催科政拙の心を存し、深く其情實を考へ、强て取立べからず、これ法外の深意なり、又五年の後基本立たるうへ、なほも添へ米の法を存するは、其間に姦民の私あらん事をはかりてなり、官穀を貴くひさぎて私利を謀る弊を生ずれば、風俗を傷るのもとゐなり、因て此法を存すれども、其實は究民へかしあたふるには、そへ米なくてよき事なり、今姑くこれを存するは法中の深意なり、ゆゑに借米を願ふものあらば、よく／＼其情實を吟味して借すべきなり、また或は借米を願ふもの無レ理時は、有司たるもの時にとりての取扱ひ方もあるべきなり、兎角其人を得るを緊要となすのみ

濟廠の場所、代官役所構の內へ建べきなり、其出納を嚴にし、非常を戒しむべし、もし村々へ建置時は、常年は害あるまじくなれども、凶飢の年に至りて、他領の民など刧掠のものあるまじきにもあらざれば、役所近邊へ嚴重に建置べき事也

一　濟廠栗米の外、何にても夫食にあつべき物多少にかぎらず、民に令して儲へしむべきなり、雜穀は勿論、其外木の實、草の實、濱手にては海草・干物・鹽物の類なり、濟廠の近邊別に物置を建て、其品を納めおかしむるも可なり

右に記するところ濟廠建置の大略なり、國に從ひ俗に因り、一樣に成るべからず、たゞ此大意に本づきて增損斟酌する事は、其君と有司とにあるのみ

天保二年辛卯十一月

濟厥略記終

井田說

東條一堂著

井田說

東條一堂著

夏后氏一夫田五十畝、五十畝中、計五畝之入以爲貢、是十分之一也、豐年饑歲、通爲常數、飢歲則民糞其田、而尚不足以給其食、上稱貸之、足其所不足、而至豐年而出息償之、此法不便於民、若龍子之所言也、商人始爲井田之制、以六百三十畝之地、畫爲九區、區七十畝、中一區爲公田、外八區爲私田、八家各私其一區、而相與耕公田、是九分之一也、此比於貢法、每年多其一分也、若飢歲則上給粟、以補助其不足、故曰助、夏諺曰、吾王不豫、否何以助、孟子釋之曰、春省耕而補不足、秋省斂而助不給、此則上有恩惠、以助民也、孟子又曰、出入相友、守望相助、此則八家相助也、田之名助、蓋在此二者之間也、周人一夫田百畝、其法雖經無明文、然據雖周亦助也之文考之、則亦與井田同、九分之一也、蓋出入相友、望守相助、八家通徹、相與扶持、故曰徹也、助與徹、皆九分之一、而曰其實皆什一者、每歲皆九分之一取之、是比於貢法、則多取之也、然而凶年、則寡取之、或給粟以助其不足、而以此爲率、其實皆爲十一也、何以知之、孟子曰、文王之治岐、耕者九一、此而周之徹法、孟子又曰、雖周亦助也、其意蓋謂據詩雨我公田之

文ヒ觀レ之、雖レ周亦是井田九一之法、名雖レ曰レ徹、其實與レ助同也、唯其制有下百畝與二七十畝一之別上、而異二其名一耳、孟子之時、徹法既廢、典籍不レ存、惟以レ有二此詩一、知下其與二助法一同上而已、孟子曰、方里而井、井九百畝、其中爲二公田一、八家皆私二百畝一、同養二公田一、公事畢、然後敢治二私事一、是孟子以二其意一擬二作周之徹法一也、蓋毎鄕設二兩三井一、以爲二九一之模範一、其餘之田、則長短大小、從二其所一固在一、而不三必改爲二九區一、唯計二其畝數一、而出二租稅一、以レ此爲レ準也、不レ然則天下之田、豈得下悉畫爲二九區一、齊整如中碁局上乎

受トハ上ヨリ受ルナリ、天下ノ民盡ク上ヨリ田ヲ受ルノ理ナシ、各ノ祖先ヨリ持來リノ田ナリ、タヾ五十畝ノ中ヨリ五畝ノ貢ヲ出スマデノ事ナリ、且五十畝ニ五畝ハ、貢ノワリ合ノ一人五畝ニ限ニ非ズ、百畝二百畝ヲ所持スルモ、其ワリニテ貢ヲ出スマデノ事ニテ、富人ハ三百九百モ各々其分ニ從テ田ヲ有ツ、タヾ貢ハ五畝ヅヽノワリ也

史記云、商鞅開二阡陌一

畝之界長百步、十レ之則爲レ千、百レ之爲レ萬、橫百則亥爲レ千、曰レ開二阡陌一者、撿二民之私蓄之田一正レ之、出二十畝之稅一地、其實有二二十畝一、乃改使レ出二二十畝之稅一也、今所レ謂入繩此也、爲二殷井田一者誤

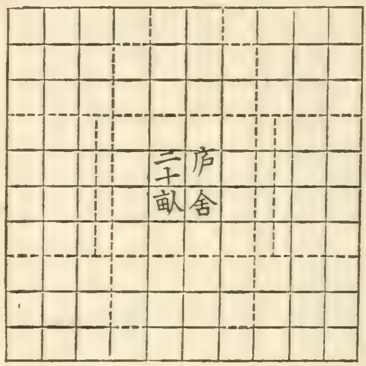
九百畝之地面ヲ九區ト爲テ、中ノ一區ハ公田、百畝ノ中ヲ二十畝廬舍トス

注、公田實計十畝出、公田百畝ノ中ヲ、廬舍ブン二十畝引、其餘八十畝ヲ八人ニ割ト、一人分十畝ヅ

ツナリ、私田トモニ百十畝トナル

私田百畝

周制注意

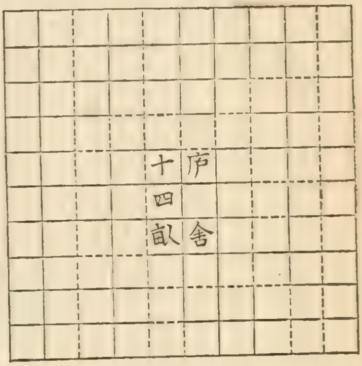


公田十畝ヲ三百十
畝一人分ノ耕方

詩信南山中、田有レ廬、後世廬舍之說由レ此起

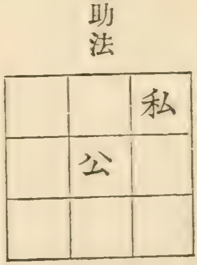
六百三十畝ノ地面ヲ九區ト爲テ、中ノ一區ハ公田、七十畝ノ中ヲ廬舍十四畝トス

殷制注意



私田七十畝、公田七畝ヲ參、都合一人ノ分七十七畝耕方

殷制助法



一區七十畝、合六百三十畝、周制徹法者亦與レ是同、唯有ニ一區百畝一、合九百畝之異耳貢無ニ八人連部之法一

十分一之年貢、所レ謂常面者、豐凶所レ取同、非ニ大禹之時之制一

當時常面、豐凶所レ取同、見取因ニ豐凶一所レ取不レ同

助九分之一

注、爲レ助ニ耕公田一誤、凶年則與發而救ニ助百姓一、故曰レ助、又曰、八人爲ニ一部一、互相助、故曰レ助

徹フキヌケルトヲル九分之一、田地之名通也蓋周公之時制也

徹者徹也

莊子天運篇、正者正也

孟子釋徹、爲今之徹之義

籍

助徹之法皆九一、凶年與發、則其實當十分之一

五十畝

謂農夫一人之活計凡如此、必非一夫授五十畝

一夫受田五十畝

授一區

授字義誤、授自上授下也

注意、君不親耕、故八人助耕誤、助者自上助下也

以助耕公田

王城

周禮一萬二千五百家、距城百里曰六鄕、二百里曰六遂

古之城者、其制與今異矣、無疊石睥睨、但有繞堤防設門耳、士大夫居住其中、有隍池者甚稀、其外有郭、商賈居之、城內郭外、合皆曰鄕、鄕中之小名曰黨、郭外者鄙也、農民居之、

故蘇秦傳、謂鄙爲二負郭一、背郭之意、鄕者賤人農夫所レ居、卽郭內也、郭外總曰レ野、庶民所レ居、廣曰レ鄕、狹曰レ黨、彼邦郭外、必有二大池溝一、非二我如レ堀者一、甚廣大矣、黨內有レ里、里如二今之市井一、所レ謂町家也

盧舍

穀梁傳宣十五年、古公田爲レ居、詩中田有レ廬、班固依二此二書一、食貨志始有二廬舍之說一、後世由レ此誤來、詩中田卽田中也、如二中林中露一倒字耳、無二別義一、穀梁漢初儒者之作也

都

繁華之地總曰レ都、家烟稀少之地曰レ鄙、諸侯之城下、又小侯縣令居住之地、皆當レ曰レ都、三都・甲府・駿府、此其尤者

通二私田百畝一イッショニスル

籍借也

朱意爲レ借、君借二民之力一也、誤二部伍互相助一也、無二自レ上借レ下之辭一、自レ上曰レ取也

校タクラベル二數歲之中ウチ一ナカ誤

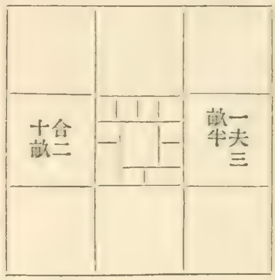
比二校五六年七八年之中一、通二豐凶一考二撿之一也

爲レ常キメ キマリ

所レ謂常免

雖レ周亦助也

朱注、周爲レ用ニ助法一非也、徹即助也、故云



八人結ニ部伍一互通レ力、故曰レ徹、徹通也、非ニ公田一助ニ耕公田一者、一村中有ニ一二所一而已

井田　井地

本不レ同、井地者、謂ニ地之方界一

井田之法、本設ニ作其形一、而皆以ニ此法一、使レ出ニ租稅一也、非四悉使三天下之地、畫然如ニ碁局一也、如ニ注意一迂尤甚、前說辨レ之詳矣

一夫有ニ千畝之田一、乃出ニ十夫之租稅一、非ニ止一夫百畝賦一（年貢ノヿニ用ユ、誤軍役是也）

五十貢者、夏末之政、觀二禹貢一、可レ見レ貢者、謂レ貢二土產物一、非二租稅上下一、田有二大小輕重一

五十七十地、漸々開闢、遂至二五七百多一、非二丈尺之異一

助法

五十七十、皆農民一人所レ耕之摸判也、以二八人一爲二一部一、則雖レ有二災患疾病一、不レ到レ廢二耕耘一、又無二饑餓流亡之患一、立レ法如レ斯、則無二々田之民一、不レ能二一人兼并而專一レ利、助徹兩法、唯五十與二七十一異耳

徹

九百畝之田、八人通レ力耕レ之、各限不レ以二百畝一

野九一而助

租稅九分一、八人爲二一部一相助

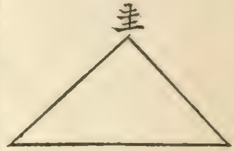
國中（城下・ミヤコチウ）什一使二自賦一

各自結二部伍一與レ野異二什一一、商賈無二軍役一、使レ出二軍賦一償レ之、注誤爲二田租一

郊

以二江都一言レ之、千住・板橋・大森・戶田皆郊也、所レ謂郭外曰レ郊

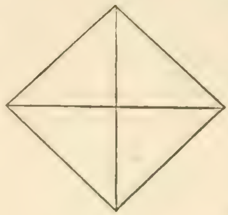
圭田

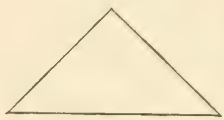


其形如ニ將棊之子ノ玉圭其形同、注因ニ趙注ニ誤

餘夫二十五畝（アマリノコドモ先祖ヲ祭ルニ及バズ）

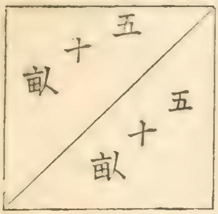
夫下省ニ圭田ノ、莊子有ニ圃圭之字ノ、餘夫謂ニ二男三男ニ





日本デイフ二合半

四半分也



圭田之圖



夏ノハタケ二合半

方里

一里四方

百畝凡當我百石、於彼邦有百石、足養妻子矣、彼邦多旱田、我水田、地又膏腴、故有十石則足矣、蓋七十畝當我十三石、百畝當我十五石

別野人

分八人之部伍、以別戸口也、注、別君子與野人誤、本文無君子之字

孟子云、助法放周之徹法、自作爲之、故用百畝

朱注、貢助徹混亂、可謂謬

注田一方

千歩四方曰一方、見文献通考

本農末工商

文久紀元元酉八月

井田説

食貨辨

食貨辨

凡天子ヨリ以下庶人ニ至ルマデ、生産ノ道ヲ知ラズバアルベカラズ、禮記ノ王制ニ、「量レ入以爲レ出」トイヘル一句、是生計ノ要文ナリ、千言萬語此一句ニ約マル、庶人ハ士大夫ヨリモ生産ニ賢キ者ナレバ、茲ニ論ゼズ、且諸侯ノ生計ヲイフニ、量レ入トハ、一歳ノ内知行ヨリ收マル所ヲ入トイフ、一歳ニ知行ヨリ收マルトコロ、米穀以下山海ノ諸運上マデヲ數ヘテ、幾ホド收マルゾトイフコトヲ總勘定ヲナスヲ、量レ入トイフ、出ストハ出シテ使フナリ、凡人ノ心ニ願ヒ望ムコトモ、耽リ樂ムコトモ限ナキ者ナレバ、米穀貨財ヲ出シテ費シ用ルコトハ、幾ホド使ヒテモ是ニテ滿足シツト思フコトハ無キ者ナリ、然レバ身ノ分限ニ應ジテ、好キホドヲ量ルベキコト勿論ナリ、サレドモ好キホドヽイフモ、其位見ヘガタシ、只入ルヲ量リテ出スコトヲナストイフ、是第一ノ用心ナリ、大小ソレ〲ノ分限ニ隨テ、先其知行ノ收マリヲ勘定シテ總數ヲ知リ、サテ毎歳定マリテ出ス所、米穀金銀ノ總數ヲ勘定シテ、入ト出トヲ對算シテ、其多少ヲ視ルベシ、入ル方多ク、出ル方少キハ好シ、若出ル方入ルヨリ多ケレバ、是其多キ分不足ナリ、僅ニモ不足ノ處見エバ、出ス方ノ中ニテ何レヲカ減省スベキト思量シテ、省テ好キコトヲ省クベシ、究竟スルトコロ、入ル方ヨリモ出ル方ヲ少クスル、是儉ノ道ナリ、儉トイフハ、

諸事ヲウチバニスルコトナリ、孔子ノ言ニ、節レ用トノタマヒ、墨子ガ道ニハ節用ヲ殊ニ肝要トセリ、竹ノ節ノ限アル者ナリ、用度ノ限ヲ思惟シテ竹ノ節ノ如ク、是ヨリ外ニハ出ヌコトト堅ク分量ヲナシテ、其節度ヲ過ザルヲイフナリ、王制ニ、「量レ入以爲レ出」トイヘルハ、スナハチ節用ノ道ナリ、「量レ入爲レ出」トイフニツキテ、出ヲ入ヨリ少クスベシトイフハ、凡天下國家ニ經費トイフコト有リ、經ハ常ナリ、經費トハ常ノイリメトイフ義ナリ、毎歳公私ノコトニ出ル米穀金銀等ノ定マレルイリメヲ經費トイフ、毎歳ニアラザレドモ、二年・三年・四五年ニ一度ニテモ定マリテ有ルコトノモノイリハ是モ經費ナリ、經費ハ明年ノ事ヲ今年ヨリツモリテ、其用意ヲナシオキ、其期ニ至テユキツカヘヌ樣ニスベシ、此經費ハスナハチ出入ノ出ナリ、入ト出ト同ジホドナラバ好カルベシト、常ノ人ハ思フ故ニ、有餘不足ナリ、一パイニ生産ヲ治ムルヲ今ノ世ニハ上計トス、然ルニ天下國家ニハ不虞トイフコト有リ、不虞ハハカラズトイフ義ニテ、オモヒガケヌ事ナリ、國ニ水旱大風ノ災アレバ、年穀不熟シテ邑入不足スル、是第一ノ不虞ナリ、次ニ水火ノ二ツハ天災ナリ、盜賊ハ人禍ナリ、又軍旅行役ハ國家ノ大事ナリ、軍旅ハ治世ニハ無キ事ナレドモ、武備ヲ忘レヌハ國ヲ守ル道ナレバ、治世ニモ軍旅ヲバ常ニ心ニカクベキナリ、行役ハ今ノ世ニ京都・大阪ナドヲ戍ル在番ノ類ナリ、凡軍役ノ旅行ヲ行役トイフ、行役ハ治世ニモ必有ル事ナリ、此等ハ外來ノ不虞ナリ、家ニ病人死人アルハ内ノ不虞ナリ、カクノ如ク内外ノ不虞何レカハ知ラズ、時々ニ出來リテ米穀貨財ヲ費スコトアリ、天子諸侯ヨリ庶民ニ至ルマ

デ、逃ルコト能ハズ、又吉事・嘉事ノ類ニ、祭祀ハ神ヲ祭リ、先祖ヲ祭ル、今ノ俗ニ年忌佛事ヲ修スル類ハ吉事ナリ、誕生・元服・婚嫁ノ類ハ皆嘉事ナリ、此等ハ毎歳ニ定マリタルコトニハアラネドモ、國家ニハ必有ル事ニテ、米穀金銀ノ費ルコトナレバ、經費ニ非ズシテ經費ノ如クナル者ナリ、又自國自家ニハ何事モ無ケレドモ、親族或ハ他人ノ方ニ不虞ノ患難アルヲ濟ハズシテ叶ハザルコトアリ、凡テ不虞トイフコトハ、天下國家ヨリ吾人ノ家マデモ必有ルコトナレバ、此備ヲ豫ナサズシテハ叶ハズ、備トハ其心アテヲナシオクナリ、サレバ常ニ入ト出トヲ同ジホドニシテハ、不虞ノ備ヲナスベキ様ナシ、不虞ノ備ヲナサズシテ不虞ニ遇ヘバ、用度不足スル故ニ、人ニ借ルコト是ヨリ始マル、米穀金銀ヲ人ニ借レバ、利息ヲ加ヘテ還ス、故ニ鼠ノ子ヲ生ム如ク、債イヤマシニ多クナリテ、初ニ復スルコトナリガタキ者ナリ、是ニ因テ古ノ君子ハ必不虞ノ戒ヲナセリ、戒トハ用心ナリ、季文子ガ言ニ、「備ニ豫不虞一、古之善教也」トイヘリ、サテ出ヲ入ヨリ少クシテ不虞ノ備ヲナサンニハ、如何センヤトイフニ、王制ニ、「三年耕必有ニ一年之食一」トイヘル、是聖人ノ法ナリ、此法ハ三年耕作スレバ、必一年ノ食ホドノ餘分ナルトイフニハ非ズ、一年ノ收納ヲ四ツニ分テ、三分ヲ以テ其一年ヲ養テ一分ヲ餘シテ蓄トスルナリ、タトヘバ當代ノ諸侯ノ萬石ノ祿ナラバ、七千五百石ニテ一年ヲ養ヒ、公私ノ諸用ヲ辨ジ、二千五百石ヲ餘シテ蓄トス、三年ナレバ此餘分又積リテ七千五百石トナル、是スナハチ一年ノ食ナリ、カクノ如ク毎年四分ノ一ヲ餘ス故ニ、九年無事ナレバ三年ヲ養フホドノ蓄アリ、三十年無事ナレバ十

年ノ蓄アリ、然ル上ニハ如何ナル凶年•饑饉•不虞ノ災患アリテモ、國用ノ不足スルコト無キナリ、今ノ人ノ心ニテハ、毎年四分ノ一ヲ餘スヲバ太多キコトヽイフ、是會計ニ拙キナリ、今ノ諸侯其國ニテ火災アリテ城ナド焚レバ、再築ニ數年ノ邑入ヲ盡ス、東都ノ火災ニ邸第焚レバ、二三年ノ邑入ヲ出ス、或ハ國家ニ土木興作ノコトアリテ人夫ヲ出シ、或ハ軍旅行役ノコトアリテモ、亦二三年ノ邑入ヲ出ス、此等ノ外ニ少々ノ不虞アリテモ、半年一年ノ邑入ヲ費スコトハ數ナリ、此等ヲ細ニ會計セバ、毎年四分ノ一ヲ餘シテモ猶不足ナルベシ、王制ノ古法ヲ知ラズ、三年ノ內ヨリ一年ノ食ヲ出スコトナキ故ニ、右ニ云ル如クノ不虞ノコトアレバ、商賈ニ借リテ急用ニハ辨ズレドモ、其不足ヲ補フベキ計ナキニ因テ、年々ニ國用窘迫シテ、後ハ家人ヲ畜フベキ樣モ無ク、借リタル物ヲモ還サズ、信ヲ失ヒ義ヲ虧ギ、人道ニ背クコト多端ナリ、然レバ三年內ヨリ必一年ノ食ヲ餘ストイフハ、古聖人ノ敎ニテ善クツモリタル法ニ非ズヤ、凡人ノ生計ハ、大モ小モ當年ノ入ヲ來年ニ迻テ使フベキナリ、當年ノ入ヲ當年ニ用ル樣ナレバ甚急迫ナリ、今ノ諸侯以下ハ明年明後年ノ入ヲモ前年ニ取リコレヲ用レバ、困窮スマジキ樣ナシ、誠ニ不學無術ノ致ストコロ、歎クニ餘リ有ルコトナリ

○異國ニ義倉トイフコトアリ、隋ノ文帝ノ時ニ長孫平トイフ者、度支尙書ノ官ナリ、度支尙書トイフハ、國家ノ諸事ノ費用錢穀ノ出納ヲ掌ル官ナリ、開皇年中ニ長孫平言上シテ、在々處々ニ義倉ヲ立ッ、民ノ家々ヨリ其貧富ニ隨テ、毎歲粟麥一石以下ヲ出サシメ、是ヲ聚テ其在處ノ倉ニ藏メ、其里ノ父老コ

レヲ主ドリ、常ニ蓄置テ凶年饑饉ノ時ニ、コレヲ出シテ其難ヲ濟ハシム、是ヲ義倉トイフ、民間ニテ互ニ相恤テ急難ヲ濟フガ故ニ、義ト名ヅケタリ、此コト日本ニテモ文武天皇ノ世ニ有シ事ニテ、今ノ世ニモ行ハル、コトナリ、在々所々ノ民間ハイフニ及バズ、諸侯ノ國ニテ士大夫ノ中ニ是ヲ行ハヾ補フトコロ多カルベシ、今其法ヲ擬スルニ、且萬石以上ノ諸侯ナラバ、諸臣ノ祿俸ノ内ヨリ二十分ノ一ヲ出シメ義倉ニ入ルベシ、二十分ノ一ハ米百苞ノ内ヨリ五苞ヲモ出スナリ、百苞以上ハ勿論ナリ、百苞ヨリ下ノ微俸小給ノ者マデ悉二十分ノ一ヲ出サシムベシ、主君モ二十分ノ一ヲ出スベシ、一萬石ナラバ五百苞ナリ、此二十分ノ一ヲ、上モ下モ毎歲出シテ義倉ニ入レ、穀ニテ蓄フベキホドヲバ、粟ニテモ米ニテモ蓄置テ、其餘ヲバ價ノ貴キヲ待テ、糶テ金トナシテ蓄フベシ、諸士ノ中ニテ算數ニ達シ、清白ナル者ヲ擇テ義倉ヲ主ドラシメ、下ニ吏卒ヲ附テ倉ヲ守ラシメ、出納ノトキニ使フベシ、サテ凶年飢歲アリテ祿食不足セバ、是ヲ出シテ其不足ヲ補フベシ、若其國邑ニテモ、又ハ東都ノ邸ニテモ、火災アリテ其難ニ遭ンニハ、其災ヲ被レル輩ニ是ヲ出シテ、或ハ與ヘ或ハ貸スベシ、此等ハ皆諸人一同ノ危難ナリ、又一士ノ家ニモ疾病死喪アリテ、不時ニ窘迫スルコト有リ、又不時ナラネドモ、婦ヲ娶リ女ヲ嫁スル類ニ費用多キコトアリ、左樣ノ時ハ願フニ隨テ、穀ニテモ金ニテモ出シテ貸スベシ、其多少ニ隨テ當年ニ還シ、或ハ二年三年ニ還シ、或ハ四五年ニモ還スベシ、是ニ利息ヲ出サシムベシ、息ハ米一石ニ一月ニ一斤ホドヲ定トスベシ、金銀ノ息モ是ニ准ズベシ、此義倉ニ還ス所ノ本利

ハ、皆毎年ノ祿俸ノ內ニテ引取ルベシ、凡士人ノ家ニ不虞ノコトアリテ用度不足スレバ外ヨリ借用スルニ許多ノ利息ヲ出シ、或ハ其金ヲ急ニ責ラレテ困窮シ、其上ニ猶窘迫スレバ、武具馬具ヨリ始テ累代ノ重寶ヲモ斥賣シ、平日ノ衣服マデモ典當シテ、奉公ノ務モナリガタキニ至ル者多シ、今ノ士人ノ廉耻ヲ虧ギ節義ヲ失フ、皆是ヨリ起ルナリ、義倉ノ金穀ヲ貸シテ是ニ利息ヲ出サシムルハ、如何ト思フ人モ有ルベキカ、典舖モ子錢家モ皆厚利ヲ取テ借ス者ナリ、外ニ向テ厚利ヲ出サンヨリ、義倉ニ入ルヽハ己ガ府庫ニ入ルヽガ如シ、人ヲ憑ミ奔走スル勞モ無ク、時々ニ責ラルヽ患モ無ケレバ、義倉ヨリ貸ルハ士人ノ爲ニ甚便利ナリ、既ニカクノ如クノ法ヲ立ル上ハ外ニテ借リ、又ハ武器衣服等ヲ典當スルコトヲ嚴禁シ、凡何ニテモ債ヲ負ハザルベシトノ令ヲ出シ、士人各其身ノ分ヲ知テ儉約ヲ宗トシ、奢侈ヲ好マザル樣ニ政ヲ行フベシ、其國若幸ニシテ久シク無事ナラバ、義倉ノ金穀年ヲ逐テ豐饒ナルベシ、若不幸ニシテ凶變アランカ、又ハ軍旅行役ノ事ナド起ッテ、國用軍用不足スルコト有ラバ、主君モ臣下モ義倉ノ金穀ヲ借用シテ其急ヲ濟ヒ、無事ノ日ニ至テ、數年ノ內ニ必コレヲ償フベシ、若諸士ノ中ニ死亡シテ、子孫ナク後トナルベキ親族モ無クテ、其家絕スル者アランニ、寡婦或孤女アラバ、其士ノ父祖以來義倉ニ入タル穀ヲ計算シテ、其寡婦孤女ニ賜フベシ、是又仁政ノ一ツナリ、義倉ノ術大略カクノ如シ、凡人ハ平生無事ノ日ニ、侈ヲ戒メ用ヲ節シテ、少ヅツモ貨財ヲ餘シテ、儲蓄シテ不虞ニ備フベキ義ナレドモ、遠慮アル人ハ罕ニテ、目前ノコトノミヲ營ム者多ケレバ、縱上ヨリ號令

ヲ出シテモ、私家ニ不虞ノ備ヲナス者ハ、百人ニ一人ナリ、ソレモ私家ノ物ナレバ、一タビ不虞ノコトアリテ用度窘迫スレバ、數年ノ儲蓄ヲモ一時用ヒ盡シテ空囊ヲ抱キ、ソレヨリ遂ニ貧窮スル者世ニ多シ、義倉ハ國儲ニテ一人ノ蓄ニ非ズ、納ムルモ法アリ、出スニ制アリテ自由ナラズ、毎年祿俸ノ内ニテ少許ノ釆ヲ引取ラルヽハ、定マレルコトナレバ、私家ヨリ新ニ出ス如クニハアラデ、サノミ苦ムコトモ無シ、凡士民ハ千萬人ノ心不同ニテ、政ノ利害ヲ受ル所モ一樣ナラネドモ、不虞ノコトアルニ及ビテ、財用ノ足ラザルヲ苦ムコトハ衆人同然ナリ、サレバ君上ノ下ヲ統御スルハ、少々ノ利害ニ拘ラズ、不虞ノ急難ヲ濟フベキ方術ヲ常ニ思惟シテ、無事ノ日ニ其備ヲナス、是ヲ善政トイフ、今云フ所ノ義倉ノ如クナルコトハ、何レノ世何レノ國ニテモ行ハルヽ術ナリ、今モ奥州ノ三春ニハ、秋田氏ノ政ニテ義倉ニ似タルコトアリト聞ケリ、他ノ侯國ニモ是ヲ行ハマホシキ者ナリ、然レドモ箇樣ノ政ハ常ニ其國邑ヲ善ク治メ、上モ下モ祿食用度不足ナキ中ヨリ行フベシ、今ノ諸侯ハ皆貧窮ニテ、臣下ノ祿俸ヲ抑留シテ、定數ノ如ク給セズ、舊債ヲ償ハントスルニ、數歲ノ入ヲ盡シテモ及ビガタキホドナレバ、義倉ヲ立ルコト叶ヒガタカルベシ、苟モ經濟ノ志アラン人ハ、痛哭スベキ事ナリ

食貨辨 終

宮崎幸麿

小西武治

校

大正五年七月二十一日印刷
大正五年七月二十四日發行

日本經濟叢書 卷二十六

非賣品

編者 瀧本誠一

發行者 佐藤卯兵衛
東京市神田區駿河臺鈴木町拾六番地

印刷者 中田福三郎
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社秀英舍第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所 東京神田區駿河臺鈴木町拾六番地
日本經濟叢書刊行會
電話本局三一八五番
振替口座東京二六八一〇番

理事 高木範之丞
佐藤卯兵衛

CONTENTS

of the twenty-sixth volume

BIBLIOTHECA
JAPONICA
ŒCONOMIÆ POLITICÆ

VOL. XXVI

TŌKIŌ
NIHON KEIZAI SŌSHO
KANKŌKWAI
1916.